

日本語表現A 1

久保朝孝

【授業の概要】

〈ライティング〉

「日本語表現T1」及び「日本語表現T2」(2008年度以前入学者は「実践日本語表現法a」及び「実践日本語表現法b」)の学修を踏まえ、より高度で実践的な学術的分野における日本語運用スキル(アカデミックジャパニーズ)を学ぶ。本科目では特に「書くこと」に力点を置く。指定されたテーマについて、自分の意見を論理的に展開する学術レポートや論文の書き方を実践的に習得する。

【授業の目標】

複数の資料やデータを比較分析した結果を踏まえて自分の意見を述べる論述型のレポートを書く力を身につける。

【授業計画】

第一回	オリエンテーション
第二回	論文批判①
第三回	論文批判②
第四回	論文批判③
第五回	論文執筆①
第六回	論文推敲①
第七回	論文執筆②
第八回	論文推敲②
第九回	論文執筆③
第十回	論文推敲③
第十一回	論文共同執筆①
第十二回	論文共同執筆②
第十三回	論文共同執筆③
第十四回	期末レポート執筆
第十五回	期末レポート推敲

【評価方法】

出席状況、課題論文、授業中の発言および期末レポートを総合して評価する。詳細は第一回授業時に説明する。

【テキスト】

レポート・論文の書き方入門 第3版(河野哲也著 慶應義塾大学出版会 1,000円 税別)

【参考文献・資料】

論文の書き方(澤田昭夫 講談社学術文庫)
レポートの組み立て方(木下是雄 ちくま学芸文庫)

日本語表現A 2

榎原千鶴

【授業の概要】

〈スピーキング〉

「日本語表現T1」及び「日本語表現T2」(2008年度以前入学者は「実践日本語表現法a」及び「実践日本語表現法b」)の学修を踏まえ、より高度で実践的な学術的分野における日本語運用スキル(アカデミックジャパニーズ)を学ぶ。本科目では特に「話すこと・聞くこと」に力点を置く。ディスカッションやディベートを通して、論理展開を理解したり検証したりする方法を学び、論理的かつ効果的に議論を展開する技術を、オーラル・コミュニケーションを通じて実践的に習得する。

【授業の目標】

決められた条件に従って、能率よく話をすすめたり、論理的な議論を展開したりする力を身につける。

【授業計画】

第1回	プレゼンテーションとは	—コミュニケーションとしてのプレゼン—
第2回	プレゼンの内容を考える	—発想法としてのマインドマップ—
第3回	プレゼンの内容を考える	—マインドマップを使ってまとめてみる—
第4回	プレゼンの内容を考える	—ブレインストーミング—
第5回	プレゼンテーションをする	—話し手の役割・聞き手の役割—
第6回	プレゼンテーションをする	—フィードバック—
第7回	視聴覚補助機器を使ったプレゼン	—テーマを決める—
第8回	視聴覚補助機器を使ったプレゼン	—資料を作る—
第9回	視聴覚補助機器を使ったプレゼン	—原稿を執筆する—
第10回	視聴覚補助機器を使ってプレゼンをする	—客観的に自分を見る—
第11回	視聴覚補助機器を使ってプレゼンをする	—フィードバック—
第12回	ディベートとは	—全体の流れとルール—
第13回	ディベートの3要素	—ロゴス・パトス・エトス—
第14回	ミニ・ディベートを体験する	—基調スピーチを作ってみる—
第15回	ディベートで対人力を磨く	

【評価方法】

出席、授業中の討論・質疑応答・実践80%、提出物20%

日本語表現A 3

小倉 斉

【授業の概要】

〈リーディング〉

「日本語表現T1」及び「日本語表現T2」(2008年度以前入学者は「実践日本語表現法a」及び「実践日本語表現法b」)の学修を踏まえ、より高度で実践的な学術的分野における日本語運用スキル(アカデミックジャパニーズ)を学ぶ。本科目では特に「読むこと」に力点を置く。様々な分野の学術的文章(論文)を取り上げ、「正確に読むこと」と「批判的に読むこと」を重視し、読解方法を実践的に習得する。

【授業の目標】

学術的な文章を読むことに慣れ、批判的読解(クリティカルリーディング)によって多角的な視点や問題提起力を養い、その成果を口頭及び文章で論理的に説明する力を身につける。

【授業計画】

〈知の技法を学ぶ〉

第1回	学問という行為—誰のための真理か
第2回	認識の技術—アクチュアリティと多様なアプローチ
第3回	言語の論理—翻訳
第4回	言語の論理—解釈
第5回	言語の論理—検索
第6回	言語の論理—構造
第7回	イメージと情報—レトリック・統計
第8回	イメージと情報—モデル・比較
第9回	表現の技術—表現するに足る議論
第10回	表現の技術—論文を書くという行為
第11回	表現の技術—論文の作法
第12回	表現の技術—口頭発表の作法と技法
第13回	表現の技術—テクノロジーの利用
第14回	表現の技術—調査の方法
第15回	批判的に読む

【評価方法】

レポート、授業への参加状況、レジュメの内容、発表の様子などを総合して評価する。

【テキスト】

知の技法(小林康夫・船尾建夫編、東京大学出版会)

【参考文献・資料】

引用の想像力(宇波彰著、冬樹社)

日本語表現B 1

高宮貴代美

【授業の概要】

〈ライティング〉

「日本語表現T1」及び「日本語表現T2」(2008年度以前入学者は「実践日本語表現法a」及び「実践日本語表現法b」)の学修を踏まえ、より高度で実践的な実務的分野における日本語運用スキル(ビジネスジャパニーズ)を学ぶ。本科目では特に「書くこと」に力点を置く。ビジネスに不可欠な手紙文・E-mailの書き方やマナー、敬語表現などの適切な言葉の使い方、基本的な社内文書・社外文書の作成方法などについて、知識及び技能の全般を実践的に習得する。

【授業の目標】

ビジネス文書の書式や言葉づかいを理解し、状況に応じた適切な文書を作成する力を身につける。

【授業計画】

第1回	はじめに/文書の役割と種類
第2回	文書作成の基本-表記のしかた・良い文書の条件
第3回	社内文書の書式と構成要素
第4回	社内文書の作成(通知文・案内文)
第5回	敬語表現と手紙用語
第6回	社外文書の書式と構成要素
第7回	社外文書の作成-取引文書(案内状・依頼状)
第8回	社外文書の作成-社交文書(祝賀状)
第9回	一般の文書-縦書き文書(礼状)
第10回	はがき、封筒の書き方
第11回	履歴書、エントリーシート、送付状の書き方
第12回	電子メールの作成とマナー
第13回	単位認定試験

【評価方法】

単位認定試験の成績、提出課題、出席状況によって総合的に評価する。

【テキスト】

事例に学ぶ事務・文書(佐々木怜子監修 東京法令出版)

日本語表現B 2

樋口貴子

【授業の概要】

〈スピーキング〉

「日本語表現T1」及び「日本語表現T2」(2008年度以前入学者は「実践日本語表現法a」及び「実践日本語表現法b」)の学修を踏まえ、より高度で実践的な実務的分野における日本語運用スキル(ビジネスジャパニーズ)を学ぶ。本科目では特に「話すこと・聞くこと」に力点を置く。伝達や報告の仕方、電話のかけ方やメモの取り方など、ビジネスに不可欠な言語表現を、オーラル・コミュニケーションを通して実践的に習得する。

【授業の目標】

敬語を含めた適切な言葉づかい、状況に応じた正確で効率のよい話し方など、ビジネス分野に不可欠な口頭表現を工夫する力を身につける。

【授業計画】

1. 話しことばについて
2. 話す力、話し上手になるためには
3. 聞く力、話の聞き方と返事の仕方
4. 言葉の選び方と表現の仕方
5. 話しことばの基本①「敬語」
6. 話しことばの基本②「音声」
7. 話しことばの基本③「態度、マナー」
8. 話しことばの展開①「あいさつ、自己紹介」
9. 話しことばの展開②「電話応対」
10. ビジネスの実際①「報告、連絡、相談」
11. ビジネスの実際②「説明、説得、交渉」
12. ビジネスの実際③「自己PR、プレゼンテーション」
13. ビジネスの実際④「ディスカッション、ディベート」
14. ビジネスの実際⑤「レポート、インタビュー」
15. ビジネスの実際⑥「司会(議事進行)、スピーチ」

【評価方法】

出席状況と期末試験

【テキスト】

授業の中で適宜、紹介します

【参考文献・資料】

授業の中で適宜、紹介します

日本語表現C 2

三久保角男

【授業の概要】

〈スピーキング〉

「日本語表現T1」及び「日本語表現T2」(2008年度以前入学者は「実践日本語表現法a」及び「実践日本語表現法b」)の学修を踏まえ、より高度で実践的な創造的分野における日本語運用スキル(クリエイティブジャパニーズ)を学ぶ。本科目では特に「話すこと・聞くこと」に力点を置く。日本語の発声や発音のメカニズムを学んだ上で、朗読などを通して創造的な音声言語表現を工夫したり、レポートなどを通して事実を正確に伝えたりする力を実践的に習得する。

【授業の目標】

日本語の発声や発音のメカニズムの特質を理解し、聞き手の心に響く豊かで創造的な口頭表現ができる力を身につける。

【授業計画】

授業は実践が中心となる。授業に積極的に参加し、発話することの楽しさ学んで欲しい。

アナウンスの基礎から応用まで学ぶことを通して、音声の豊かな表現者を目指す。

具体的な授業計画

- (1)日本語の発声と発音の基礎
- (2)話しことばを効果的に伝える表現技術
- (3)読みの基礎技術
- (4)事実を伝える文章の読み
- (5)文芸作品などの朗読の技術
- (6)話しを聞きだす、報告する技法

【評価方法】

評価は、出席状況、授業態度、随時の提出物、収録した朗読作品を通して総合的に判断する。

【テキスト】

テキストは使用しない。毎回、レジュメ・資料などを用意する。

日本語表現C 1

服部左右一

【授業の概要】

〈ライティング〉

「日本語表現T1」及び「日本語表現T2」(2008年度以前入学者は「実践日本語表現法a」及び「実践日本語表現法b」)の学修を踏まえ、より高度で実践的な創造的分野における日本語運用スキル(クリエイティブジャパニーズ)を学ぶ。本科目では特に「書くこと」に力点を置く。複数のジャンルの作品を読んで、文章表現における創造性や独創性及び表現技法を学び、エッセイやショートストーリーなどの創作に活かすための方法を実践的に習得する。

【授業の目標】

文章作品の創造性や独創性及び表現技法について理解し、読み手の心に響く豊かで創造的な文章を書く力を身につける。

【授業計画】

以下のテーマについて、実作(実習)、理論化のための講義、作品鑑賞(相互批評を含む)の三つを繰り返しながらすすめる。

1. ことばで遊ぶ
2. 最初の記憶
3. 水の入ったコップ
4. 私の出会った人物
5. グループ制作
6. 学園の断片
7. もう一人の自分

【評価方法】

授業の中で制作する作品群、および期末試験によって行う。

【テキスト】

文章表現・400字からのレッスン(梅田卓夫著 ちくま学芸文庫)950円+税
 高校生のための批評入門(梅田卓夫他編 筑摩書房)1000円+税

【参考文献・資料】

特になし

日本語表現 T 1

外山敦子

【授業の概要】

日本語による基礎的な表現技術（文章表現力）について、その知識の確実な定着と応用力の養成とを目的とする。特に、大学における学修に欠かせない2つの文章力（①事実を正確にかつ分かりやすく説明する力、②論理的に自分の意見を述べる力）を身につけることに重点を置く。その実践としての小論文作成（計3回）については、1回ごとに目標を設定し、段階を踏んでより高度な課題に取り組む。その際、自己修正力（推敲）の過程を重視し、他者意識を伴った説得力ある文章を書く力を身につける。

なお、各学部学科（専攻）の特質に応じて、内容・方法の調整を行うことがある。

【授業の目標】

1. 高等学校までに学習した漢字やことばを確実に使いこなし、適切な表現を用いた正しく分かりやすい文章を書く力を身につける。
2. 事実と意見、他人の意見と自分の意見とを区別し、論理的な文章を書く力を身につける。

【授業計画】

1. オリエンテーション
2. 大学図書館を使いこなす
3. 伝わる文章を書く
4. 論理的な文章を書く
5. 順序を考えて書く
6. 課題①事実を正確にかつ分かりやすく伝える文章を書く
7. 課題①を推敲する
8. 目的に応じて文章を構成する
9. 事実と意見とを区別する
10. 課題②事実と意見とを区別して論理的な文章を書く
11. 課題②を推敲する
12. 要約と引用の方法
13. 課題③他人の意見やデータを引用して文章を書く
14. 課題③を推敲する
15. 授業のまとめ

※漢字やことばの使い方に関する小テストを計10回実施する。

【評価方法】

出席状況、小テスト、課題などにより総合的に評価する。

【テキスト】

愛知淑徳大学文学部国文学科編「日本語表現T1」（予定）

【参考文献・資料】

授業時に指示する。

国文学概論 a・b

岩下紀之

【授業の概要】

古代から現代までの国文学を概観する。古代においては口頭での表現がきわめて重要で、物語や和歌などすべて耳で聞くことによって享受されてきたものである。現代においても、演説によって人々の心を動かすことができ、その例をいくつもあげることができる。技術の進歩によって音声映像の資料を保存できるようになった。これらを通して考えてみたい。後期は和歌と連歌に焦点をあわせて講ずる。

【授業の目標】

音声による表現ということを入り口として、外国にも視野を拡げたい。

【授業計画】

映像資料の活用を試みたい。

【評価方法】

試験による。

【テキスト】

前期 種々用意する。
後期 近代秀歌 武蔵野書院刊
筑波問答 和泉書院刊

両著とも影印本につき、そのむね承知しておくこと。
写本解説が初めての学生は変体仮名の手引き書を準備しておくこと。

日本語表現 T 2

外山敦子

【授業の概要】

「日本語表現T1」の学修を踏まえ、大学における学修に不可欠な日本語の「読む・書く・話す・聞く」技術を総合的に身につけるため、レポートの書き方と口頭発表の仕方の基礎を学ぶ。具体的には、①テーマ設定、②資料収集と分析、③発表資料の作成、④グループ発表（15分間）、⑤レポート作成、というそれぞれの作業を決められた手順に従って実践的に取り組むことによって、論文や資料を集めて読む力、形式やルールにしたがってレポートを書く力、聞き手を意識した発表をする力、発表を聞いて要点をつかむ力をつける。

なお、各学部学科（専攻）の特質に応じて、内容・方法の調整を行うことがある。

【授業の目標】

1. 大学で求められるレポートや口頭発表のルール及び準備の手順を身につける。
2. 事実や主張を、口頭及び文章で論理的にかつ分かりやすく伝える力を身につける。
3. 複数の資料を収集し比較分析した結果を報告するレポートを書く力を身につける。

【授業計画】

1. オリエンテーション
 2. 資料を収集する
 3. データを分析してまとめる
 - 4～5. 発表の構想を報告する（中間発表）
 6. 発表資料を作る
 7. 話し方や補助ツールの使い方を工夫する
 - 8～11. 調査分析の成果を報告する（グループ発表）
 12. レポートの形式やルールを学ぶ
 13. 論理的なレポートの書き方を学ぶ
 14. レポートの提出
 15. 授業のまとめ
- ※漢字やことばの使い方に関する小テストを計10回実施する。

【評価方法】

出席状況、小テスト、発表、課題提出などにより総合的に評価する。

【テキスト】

愛知淑徳大学文学部国文学科編「日本語表現T2」（予定）

【参考文献・資料】

授業時に指示する。

国文学史（1） a・b

日比野浩信

【授業の概要】

a 日本の古典文学を概観する。上代から中古・中世そして近世に区分し、それぞれの時代において重要視されるべき著名な作品・作家を中心に、その背景となった文化についても考えたい。ただし、時間数の都合で、中古・中世を中心に上げることとなる。

b 主だった日本の古典文学作品について、その研究史・享受史を概観する。

【授業の目標】

- a 単なる作品解説や作品の列挙ではなく、文学史的観点を導入することに主眼を置き、各自が自らの選んだ作品を文学史的に位置付けることを主たる目的とする。
- b 各自が自ら選出した作品の研究史・享受史を把握することを目的とする。

【授業計画】

- a 1 上代の文学
 - 2 中古の文学
 - 3 中世の文学
- 以下、時間に応じて略述する。
- a 4 近世の文学
 - b 1 和歌の研究と享受
万葉集
古今和歌集
歌学
 - 2 物語の研究と享受
伊勢物語
源氏物語
 - 3 その他

【評価方法】

授業への参加状況・態度による平常点および、学期末の試験、もしくはレポートによって評価する。試験かレポートかは、受講人数や授業進度などを考慮して決定する。

講義中は厳しい態度で臨む。私語・居眠り・飲食・他事を当然のように考えている者は、かなり窮屈な思いをすることになる。

【テキスト】

日本古典文学史（乾安代他著 双文社出版）

【参考文献・資料】

平安文学研究ハンドブック（田中登・山本登朗編 和泉書院）

国文学史 (2) a

小倉 斉

【授業の概要】

〈近代文学の諸相〉：日本の近代文学の諸相を、いくつかのテーマを設定しながら、かなめとなる作家・作品・思潮を検討することによって理解し、あわせて日本文学における「近代」とは何かを考える。

【授業の目標】

日本近代文学の諸相について理解を深めるとともに、日本文学における「近代」の実態について把握する。

【授業計画】

以下の各テーマにしたがって講義をおこなう。

- 1 〈書く〉ことと〈語る〉こと：三遊亭圓朝『怪談牡丹燈籠』
- 2 〈模写〉の意味①：坪内逍遙『小説神髓』
- 3 〈模写〉の意味②：坪内逍遙『当世書生氣質』・二葉亭四迷『浮雲』
- 4 〈わたくし〉の発見：森鷗外『舞姫』
- 5 〈自然〉の発見と人間の内面：島崎藤村『破戒』
- 6 〈新しい女〉と戯画化された主人公：田山花袋『蒲団』
- 7 〈自然の愛〉と〈社会の掟〉：夏目漱石『それから』
- 8 一つの〈語りの場〉をめぐる三つの物語：谷崎潤一郎『髑髏』・森鷗外『百物語』・芥川龍之介『ひよつこ』

【評価方法】

授業への出席・参加状況（授業後提出の質問・感想カードの内容）、学期末の試験（自筆ノート持ち込み可・論述問題中心）によって評価する。

【テキスト】

- 怪談牡丹燈籠（三遊亭圓朝 岩波文庫）
舞姫・うたかたの記（森鷗外 岩波文庫）
破戒（島崎藤村 新潮文庫）
蒲団・一兵卒（田山花袋 岩波文庫）
それから（夏目漱石 岩波文庫）
近代文学年表（年表の会 双文社出版）

【参考文献・資料】

- 明治文学史（亀井秀雄 岩波書店）
言語にとって美とはなにかⅠ・Ⅱ（吉本隆明 角川文庫）

国文学史 (2) b

細谷 博

【授業の概要】

文学における「近代」とは何か、「現代」とは何か。われわれ自身の〈読むこと〉の問題として考える。
大正後期から昭和期に至る文学の諸相を、要点となる作家・作品を端的におさえることによってたどりなおし、作品の各部をたしかに味わいつく考える文学史をめざす。

【授業の目標】

時代の動きの中で現れた近代・現代文学のすぐれた作家や作品、文芸思潮を再発見し、その意義や意外な面白さを理解することで、読む力とともに評価する力を養う。どのような感想や意見でも尊重される授業の中で、自分の意見を大切にしつつ他者の意見にも耳を傾け、さらにしっかりとした見解に発展させることを目標とする。

【授業計画】

- 第1回 概論、導入
- 第2回 志賀直哉・島木健作 〈自由に意見を出し合う〉
- 第3回 志賀直哉・芥川龍之介・村上春樹
- 第4回 志賀直哉・谷崎潤一郎・芥川龍之介
- 第5回 関東大震災、同人誌、円本ブーム、芥川の死、
- 第6回 菊池寛・横光利一・川端康成
- 第7回 堀辰雄・中野重治
- 第8回 葉山善樹・小林多喜二・佐多稲子
- 第9回 梶井基次郎・林芙美子
- 第10回 井伏鱒二・シチェドリン・チェーホフ 〈自由に意見を出し合う〉
- 第11回 太宰治・宮沢賢治 〈ビデオを鑑賞する〉
- 第12回 大岡昇平・中原中也・三島由紀夫
- 第13回 大江健三郎・中上健次
- 第14回 村上龍・村上春樹・よしもとばなな、詩〈自由に意見を出し合う〉
- 第15回 試験（対象を自由に選んで書く試験、持ち込みは全て可）

【評価方法】

試験の成績によって評価する。

【テキスト】

プリント配布

【参考文献・資料】

太宰治（細谷博著 岩波新書）

国語概説 a・b（音声言語及び文章表現を含む）

増井典夫

【授業の概要】

前期中心テーマ-日本語の音声・音韻・アクセント
後期の中心テーマ-方言と共通語
〈前期〉
日本で使われている言語としてアイヌ語や沖縄の言葉について触れたあと、音声言語という面から、世界の中での日本語の位置を考え、さらには日本語の音韻・アクセント等を考察していく。

〈後期〉

日本語方言学の研究法・調査法をみながら愛知県方言の位置付け、方言と共通語の使い分け、「新方言」といわれる新しい日本語表現等を考えていく。

【授業の目標】

日本語について、客観的に分析できるだけの知識を獲得し、また分析できる目を持つようになる。

【授業計画】

講義を行なっていく。

【評価方法】

記述式テスト（定期試験）。

【テキスト】

国語概説（佐伯・山内編 和泉書院）

【参考文献・資料】

授業時に指示する。

国文学講義 (1) 上代 a

中野謙一

【授業の概要】

〈古事記〉
『古事記』の概説および中巻の講読。登場人物の系譜における位置と説話中に描かれた人物像との関係に注意しながら、『古事記』独自の論理に貫かれた歴史叙述を読み解いていく。

【授業の目標】

最古の書物として知られる『古事記』を読み、『古事記』や『日本書紀』といった文献に対する興味・関心を深める。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション-上代文学の魅力-
- 第2回 序文を読む(前)-『古事記』とは?-
- 第3回 序文を読む(後)-『古事記』の背景-
- 第4回 上巻の概容-起源としての神々の時代-
- 第5回 国生み神話-『日本書紀』との比較①-
- 第6回 三貴子誕生-『日本書紀』との比較②-
- 第7回 中巻の概容-天皇の世界の拡大と確定-
- 第8回 皇統譜と物語-中巻・下巻の記述様式-
- 第9回 天皇を殺そうとした后(前)-垂仁記-
- 第10回 天皇を殺そうとした后(後)-垂仁記-
- 第11回 ヤマトタケルの物語-景行記・景行紀-
- 第12回 『古事記』最後の物語-下巻・顕宗記-
- 第13回 (予備日)
- 第14回 学期末試験
- 第15回 解答と解説

【評価方法】

出席状況および授業への貢献度(30%)、学期末試験(70%)によって評価する。

【テキスト】

新訂 古事記(武田祐吉訳注 角川ソフィア文庫)

【参考文献・資料】

授業中に紹介する。

国文学講義（1）上代 b

中野謙一

【授業の概要】

〈萬葉集〉
『萬葉集』の概説。高校の教科書にみられるような、一首あるいは数首の「秀歌」を選んで鑑賞するというかたちではなく、『萬葉集』全体をとらえたうえで、個々の歌の表現をどこまで読み解くことができるのか考えていく。

【授業の目標】

『萬葉集』の基礎知識を習得するとともに、そこから引き出されるさまざまな情報をもとに上代の言語表現について探究する。

【授業計画】

第1回	オリエンテーション
第2回	萬葉歌の思想的背景
第3回	萬葉歌を用いた物語
第4回	上代特殊仮名遣とは
第5回	『萬葉集』の表記法
第6回	一番歌を読む（前）
第7回	一番歌を読む（後）
第8回	磐姫皇后の歌（前）
第9回	磐姫皇后の歌（後）
第10回	柿本人麻呂の諸問題
第11回	大伴旅人とその周辺
第12回	大伴家持とその周辺
第13回	（予備日）
第14回	学期末試験
第15回	解答と解説

【評価方法】

出席状況および授業への貢献度（30%）、学期末試験（70%）によって評価する。

【テキスト】

万葉集 全訳注原文付（一）（中西進校注 講談社文庫）

【参考文献・資料】

万葉歌を解説する（佐佐木隆 NHKブックス）
その他、授業中に紹介する。

国文学講義（3）中世 a・b

岩下紀之

【授業の概要】

古典文学は元来写本・版本のかたちで享受されてきた。過去の人々と同じかたちで読書することなしに、古典を解釈・鑑賞することはできない。自分の国の作品では、このような原則的な立場での研究が可能なので、この特権を生かしてほしい。変体仮名の入門を4、5月中に集中しておこなうので、後期からの受講は困難であろう。

散文と韻文に触れてみるべく、前期は、御所本宇治拾遺物語（下）、後期は、御所本百人一首抄を講読する。

【授業の目標】

日本の古典的文章の読解力をつけること。つまり初めて見た文章を辞書をもたずに読解できるようにすること。

【授業計画】

一方的に教授することをさげ、学生にしばしば読ませることにしている。

【評価方法】

学期末の試験をもって評価する。

【テキスト】

御所本うち拾遺物語<下>（笠間書院）
御所本百人一首抄（笠間書院）
仮名変体集（新典社）

国文学講義（2）中古 a・b

久保朝孝

【授業の概要】

前期 a は、物語文学の一方の始発とされる『伊勢物語』を講読する。
後期 b は、「王朝女流日記」諸作品を講読しながら、その特質について考察する。

【授業の目標】

中古文学作品に対する基本的姿勢と読解の基本的方法とを身につける。特に本文解釈の多様性の所以と可能性について実践的に理解する。

【授業計画】

＜前期＞ a：伊勢物語	
1 導入	8 伊勢物語各章段の精読
2 伊勢物語初段の考察	13 伊勢物語各章段の精読
7 伊勢物語初段の考察	14 予備
＜後期＞ b：王朝女流日記	
1 導入	7、8 和泉式部日記
2、3 土佐日記	9、10、11 紫式部日記
4、5 蜻蛉日記	12、13 更級日記
6 枕草子	14 予備

【評価方法】

出席状況、課題レポート、期末レポート及び学外の自主的学習を総合して評価する。配分については授業時に説明する。

【テキスト】

通年：端役で光る源氏物語（久保朝孝・外山敦子編 世界思想社 2,300円 税別）
前期 a：伊勢物語（校注古典叢書 片桐洋一校注 明治書院 1,400円 税別）
後期 b：王朝女流日記を学ぶ人のために（久保朝孝編 世界思想社 2,300円 税込）

【参考文献・資料】

別途資料を毎授業時に配布する。

国文学講義（4）近世 a・b

阿部一彦

【授業の概要】

井原西鶴の浮世草子と近松門左衛門の世話浄瑠璃を読み、近世文学の魅力や面白さを発見し確認していく。

同一事件を題材とした、西鶴の『好色五人女』巻一「娑姫路清十郎物語」・巻三「中段に見る暦屋物語」と近松の『五十年忌歌念仏』・『大経師昔暦』を読み解き、鑑賞する。両作品の比較検討を通して、それぞれの作品・作者の特色を確認するとともに、浮世草子、世話浄瑠璃という近世文学独自のジャンルの創作方法や成立基盤をも考察していく。

＜前期＞

西鶴の『好色五人女』巻一「娑姫路清十郎物語」と近松の『五十年忌歌念仏』を読んでいく。

最初に「近世」の社会的・文化的特徴と文学史を概説する。つづいて、西鶴の文学活動をごくおおまかに概説してから、「娑姫路清十郎物語」を精読する。『五十年忌歌念仏』は受講者それぞれが、西鶴の作品と比較しつつ読んでいくこととなる。この成果を前期試験の課題とする。

＜後期＞

西鶴の『好色五人女』巻三「中段に見る暦屋物語」と近松の『大経師昔暦』を読んでいく。

最初に歌舞伎・浄瑠璃の成立史を簡単に説明する。今度は逆に、近松の『大経師昔暦』を精読する。受講者に「中段に見る暦屋物語」を読んでもらう。後期試験では、『大経師昔暦』を論じてもらう。

【授業の目標】

近世文学解読のための知識や方法を学び鑑賞の能力を高める。

【授業計画】

講義・講読形式で進めていく。

【評価方法】

前期、後期ともにレポートによる。

【テキスト】

西鶴と近松（松崎仁・白石梯三 和泉書院 1,545円）

国文学講義 (5) 近・現代 a・b

小倉 斉

【授業の概要】

〈小説を楽しく読む方法〉: 「小説を読む」とはどのような行為なのかという課題について、日本の近・現代を代表する小説の精読および方法意識の検討を通して考察し、言語表現としての小説を楽しく読む方法を追究する。

【授業の目標】

日本の近・現代を代表する小説の方法意識について理解を深めるとともに、小説の読み方の基礎を学ぶ。

【授業計画】

〈前期〉

- 1 「先生」と「私」をつなぐ「遺書」: 夏目漱石『こころ』
- 2 「物語」の範囲内と範囲外: 森鷗外『雁』
- 3 「小説の小説」という形式: 永井荷風『溷東綺譚』
- 4 「物語」の越境: 谷崎潤一郎『吉野葛』

〈後期〉

- 1 小説の「時空間」: 堀辰雄『風立ちぬ』
- 2 「リアリティ (現実性)」との遊戯: 筒井康隆『虚人たち』
- 3 90年代小説の新しさ: 川上弘美『センセイの鞆』
- 4 凝縮された「近代日本」の百年: 中島京子『FUTON』

【評価方法】

授業への出席・参加状況 (授業後提出の感想・質問カードの内容)、学期末の試験 (自筆ノート持ち込み可・論述問題中心) によって評価する。

【テキスト】

- 〈前期〉: こころ (夏目漱石 ちくま文庫)、雁 (森鷗外 新潮文庫)、溷東綺譚 (永井荷風 岩波文庫)、吉野葛・盲目物語 (谷崎潤一郎 新潮文庫)
- 〈後期〉: 風立ちぬ・美しい村 (堀辰雄 新潮文庫)、虚人たち (筒井康隆 新潮文庫)、センセイの鞆 (川上弘美 新潮文庫)、FUTON (中島京子 講談社文庫)

【参考文献・資料】

初心者のための「文学」(大塚英志 角川書店)
小説の技法-視点・物語・文体 (レオン・サーメリアン 旺史社)
引用の想像力 (宇波彰 冬樹社)

国語学講義 a

村井宏栄

【授業の概要】

言語は情報伝達の道具として中心的な位置を占めている。本講義では日本語を対象として様々な面から共時論的、通時論的に観察し、考えていく。

【授業の目標】

どんな言語にも歴史があるように、日本語にも歴史が存在する。ふだん我々が話していることばは、高校までの国語教育で学んできた「古文」とどこが異なり、どこが共通するのか。本講義では日本語文法史の基礎を学ぶとともに、ことばの歴史を考える上での基本的な概念・方法を理解することを目標とする。

本講義を通じて、普段何気なく話している「ことばのシステム」に気づき、変化の意味を考えることを心がけてほしい。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション/文法を学ぶということ
- 第2回 ことばの変化を考える
- 第3回 古典文法とは何か①
- 第4回 古典文法とは何か②
- 第5回 奈良時代の文法①
- 第6回 奈良時代の文法②
- 第7回 平安時代の文法①
- 第8回 平安時代の文法②
- 第9回 鎌倉時代の文法
- 第10回 室町時代の文法
- 第11回 江戸時代の文法
- 第12回 明治・大正時代の文法
- 第13回 日本語のこれから
…等。

【評価方法】

平常点・レポートによる。

【テキスト】

授業時にプリントを配布する。

【参考文献・資料】

小田勝『古代日本語文法』(おうふう、2007)
近藤泰弘『日本語記述文法の理論』(ひつじ書房、2000)

国語学講義 b

増井典夫

【授業の概要】

近現代の日本語を対象として、主に「語彙」の面に注目して考えていく。まず「和語」「漢語」「外来語」という枠組みから「語彙」を考え、それぞれの特徴をとらえ、考察していく。

【授業の目標】

近現代日本語の特徴を理解し、分析できるだけの知識を獲得することを目指す。

【授業計画】

講義を行なう。

【評価方法】

記述式テスト (定期試験)。

【テキスト】

概説現代日本のことば (佐藤武義編 朝倉書店)

【参考文献・資料】

国語概説 (佐伯・山内編 和泉書院)

中国文学講義 (1) a・b

寺尾 剛

【授業の概要】

〈先秦漢魏晋南北朝の文学〉
唐に至るまでの中国の文学の歴史を各時代の代表作を挙げながら概説していく。

〈前期〉

- ・中国文化の特色-中国人の発想法
- ・『詩経』
- ・『楚辞』
- ・『論語』
- ・秦の統一までの文学史

〈後期〉

- ・『古詩十九首』
- ・建安文学-曹操・曹植
- ・『出師表』
- ・『蘭亭序』
- ・陶淵明
- ・謝朓
- ・漢代から六朝までの文学史

【授業の目標】

唐に至るまでの中国の文学史を理解するとともに漢文の基礎 (文法や文化的背景等) を身につける。(詳細は授業にて解説する)

【授業計画】

中国の文学の流れを具体的に作品を読みながら理解していく。時間的に余裕があれば輪読する。

学外教育活動として中国研修旅行も企画するつもりである (自由参加。費用は20万円前後。時期は2月下旬~3月上旬)。

【評価方法】

出席、平常点 (20%) と試験 (80%)。

【テキスト】

中国詩文 (中国詩文研究会編 1,700円)
及びプリント

【参考文献・資料】

授業にて紹介する。

中国文学講義 (2)

寺尾 剛

【授業の概要】

＜唐代の文学＞
唐詩と唐代伝奇小説を読むことを通じ、中国文学研究の方法を理解してゆく。
・唐代文学史
・『長恨歌』
・『杜子春伝』
・その他

【授業の目標】

唐王朝の歴史的背景を踏まえつつ、この時代の詩や小説を理解する。(詳しくは授業にて解説する。)

【授業計画】

時間的に余裕があれば輪読していく。
学外教育活動として中国研修旅行も企画するつもりである(自由参加。費用は20万円前後。時期は2月下旬～3月上旬)。

【評価方法】

出席、平常点(20%)及び試験(80%)。

【テキスト】

中国詩文(中国詩文研究会編)
及びプリント

【参考文献・資料】

授業中に指示する。

国文学演習 I (2) a・b

久保朝孝

【授業の概要】

元来自撰であったと見られる『紫式部集』を読み解きながら、物語作家の生涯を追跡するとともに、その感性や精神構造の実質を探る。
演習であるから、担当者の発表のみで終わることなく、それに対する質疑・批判、そして回答・反論等が、全員によって躍動的に展開されることを期待する。
なお、夏季休業中に2泊3日の京都・奈良ゼミ旅行(約33,000円)を行う。

【授業の目標】

中古文学作品の読解と研究との基礎的方法を、実践的に身につける。
特に作品論の基礎となるべき本文の「読み」(解釈)を、辞書・注釈書等を参照・批判・整理しつつ、自らの力によって築き上げる過程を重視したい。

【授業計画】

- 一、複数のグループを編成する。
- 二、準備学習。
- 三、担当範囲を決定する。
毎回2～3首。
- 四、研究報告→質疑→回答→討論→助言(毎回の授業)
- 五、学修の成果をレポートにまとめる(期末)。

【評価方法】

出席状況、担当範囲についての研究発表(半期に3回程度)、授業中の発言(質問・批判等)、そしてレポート等を総合して評価する。配分については授業時に説明する。

【テキスト】

紫式部日記 紫式部集(新潮日本古典集成 山本利達校注 新潮社 2,700円 税別)

国文学演習 I (1) a・b

中野謙一

【授業の概要】

『古事記』下巻)
主に学生の発表により、『古事記』下巻を冒頭から読み進めていく。本文および訓の検討、語釈、『日本書紀』との比較、個々の記述と『古事記』全体との関係の考察などが中心になる。担当範囲は受講生の人数等によって決める。

【授業の目標】

『古事記』下巻の内容は皇位継承の＜歴史＞が中心であるが、その叙述はどのような論理によって貫かれているのか。また文章の面では、どのように漢字を使った表現がなされているのか、といったことが当面の考察の対象となる。さらに、さまざまな角度から『古事記』の書かれた時代に迫りたい。

【授業計画】

〈前期〉 a
第1回～第2回 『古事記』下巻の概説・発表例
第3回～第14回 学生の発表とそれに関する討議
〈後期〉 b
第1回～第13回 学生の発表とそれに関する討議
第14回 総括
なお、夏季休暇中にゼミ旅行を行う予定である。

【評価方法】

出席状況および授業中の発表・発言(50%)、発表後のレポート(50%)によって評価する。

【テキスト】

〈前期・後期〉
古事記(倉野憲司校注 ワイド版岩波文庫) ※通常版も可。

【参考文献・資料】

授業中に紹介する。

国文学演習 I (3) a・b

岩下紀之

【授業の概要】

和歌のうち、当時の社会や、歌をよむにあたっての慣例を知らないと解釈が困難な、恋の歌を教材とする。
〈前期〉
今年は千載集をとりあげる。新しい歌風を示すこの集はいろいろな意味で興味深い。古今、新古今には注釈が多いが、その中間に成立した諸集の研究は、まだこれからと感ぜられることが多い。
そういう条件から、本集にとりくむのはやりがいのあることと思われる。

〈後期〉

前期の教材を継続する予定である。

【授業の目標】

古典的な和歌の読解力をつけること。すなわち、初めて見る和歌を辞書をたよりに読解できるようにすること。

【授業計画】

はじめ二回ほど概説と作業を教員が行ない、以後学生に発表させる。

【評価方法】

レポートを課する。

【テキスト】

新日本古典文学大系 千載和歌集(岩波書店 3,600円)

国文学演習 I (4) a・b

阿部一彦

【授業の概要】

近松門左衛門の〈世話浄瑠璃〉の典型的な作品である『冥途の飛脚』を影印本を使って解説・鑑賞していく。

金銭と恋愛そして封建制度、そこにおける町人の生きざま（義理と人情）がどのように描かれているかを検証してみたい。『曾根崎心中』・『心中天の網鳥』をも視野に入れ、現代的視点からも問題にしていこうと思っている。

＜前期＞

最初に近松の生涯についての論文を受講者全員で輪読していく。次に『曾根崎心中』を読み、内容を把握する。作品の要点を指摘するとともに、「世話浄瑠璃」の第一作としてのこの作品の日本の戯曲・文学史上における意義を明確にしておく。文案の上演をビデオで鑑賞する。

『冥途の飛脚』（影印本）を、受講者が、分担して解説、調査、研究、発表をおこなう。およそ「上の巻」を終えることができるであろう

＜後期＞

引き続き「中・下の巻」に進んでいく。最後に、受講者を三グループに分け、〈人物論〉・〈悲劇論〉・〈義理と人情〉の観点から問題を提起し、全員で討論し、検討していく。外国人向けのビデオを見て総括とする。なお、機会をみて大阪の国立文楽劇場に足を運びたいと思っている。

なお、2月か3月に京都のゼミ旅行を行う。

【授業の目標】

近世文学解読のための知識や方法を自らの調査・研究・発表によって学ぶとともに鑑賞の能力をより高める。

【授業計画】

受講者の分担による解説・調査・研究を発表する。

【評価方法】

自らの分担の発表が評価の対象となる。そのうえ、前・後期ともにレポートを課す。

【テキスト】

曾根崎心中・冥途の飛脚（岩波文庫）

国文学演習 I (6) a・b

都築久義

【授業の概要】

近代の著名な作家を学生の希望に応じてとりあげ、グループ研究する。

＜前期＞

3人（学生の希望でとりあげる作家を決める）

＜後期＞

3人（学生の希望でとりあげる作家を決める）

【授業の目標】

近代文学と作家への関心を高め、卒業論文の執筆の動機づけと意欲を持たせる。

【授業計画】

グループ（4～5人）を編成して、グループ単位で発表。発表を中心に全員で討議する。

【評価方法】

平素の学習態度および出席状況。

【テキスト】

なし。

国文学演習 I (5) a・b

小倉 斉

【授業の概要】

〈近・現代小説の方法—いかに読み、いかに論ずるか〉：日本の近・現代を代表する小説の精読を通して、「小説を読む」という行為を意識化し、多様な読みを生み出す分析方法や文学研究の方法を実践的に習得する。テキストについて読み、話し合い、調べ、分析してきたことをレジュメにより報告する。自分の〈読み〉と〈考え〉とを大切にしつつ、それを対象化するために、すぐれた論を読み、質疑応答にも積極的に参加することが望まれる。

【授業の目標】

テキストの丹念な調査や読解、演習授業における活発な討論を通して、多様な読みを生み出す分析方法や文学研究の方法を実践的に習得するとともに、情報発信力やプレゼンテーション能力を高める。

【授業計画】

（前期）

- 1 〈読む〉という行為および〈読み〉の実例：『追儺』（2回）
- 2 『フランケンシュタイン』（メアリ・シェリー）（3回）
- 3 『一読三嘆当世書生気質』（坪内逍遙）（4回）
- 4 『明暗』（夏目漱石）（4回）
- 5 『痴人の愛』（谷崎潤一郎）（2回）

（後期）

- 1 『野火』（大岡昇平）（3回）
- 2 『枯木灘』（中上健次）（3回）
- 3 『敵』（筒井康隆）（3回）
- 4 『取り替え子』（大江健三郎）（3回）
- 5 『吾輩は猫である』殺人事件（奥泉光）（2回）

【評価方法】

学期末のレポートを中心に、授業への参加状況、レジュメの内容、発表・質疑応答の様子、発表後の小レポートなどから総合的に評価する。

【テキスト】

- （前期）：フランケンシュタイン（メアリ・シェリー 創元推理文庫）、批評理論入門（廣野由美子 中公新書）、一読三嘆当世書生気質（坪内逍遙 岩波文庫）、明暗（夏目漱石 新潮文庫）、痴人の愛（谷崎潤一郎 新潮文庫）
- （後期）：野火（大岡昇平 新潮文庫）、枯木灘（中上健次 河出文庫）、敵（筒井康隆 新潮文庫）、取り替え子（大江健三郎 講談社文庫）、『吾輩は猫である』殺人事件（奥泉光 新潮文庫）

【参考文献・資料】

小説の技法—視点・物語・文体（レオン・サーメリアン 旺史社）
小説の技巧（デイヴィッド・ロッジ 白水社）
引用の想像力（宇波彰 冬樹社）

国文学演習 I (7) a・b

酒井晶代

【授業の概要】

＜日本児童文学の近代＞

皆さんが子どもの頃に親しんだ「児童文学」は、どのような起源を持つのだろうか。本演習では、テキストの読解を中心として、明治期から昭和戦前期までの児童文学とその変容を考察する。児童文学は近代以降、一方では教育と、他方では文学と密接な関わりを持ちながら推移してきた。教育史や文学史を中心に、広く社会史・文化史の視座からテキストを精読する試みを通して、児童文学の特質を探り、さらにはジャンルの捉え直しができたらと考えている。

【授業の目標】

文献調査やテキスト読解を通して、明治から昭和戦前期までの児童文学史を把握すると同時に、個々の作品に表れた〈子ども—大人〉の関係を理解・考察する。

【授業計画】

最初の数回は通史を読む。その後、時代順に作品を読み進めていく。いずれも、グループによる調査・分析の報告と、参加者間の質疑応答が授業の中心になる。

＜前期＞

- 第1～4回 日本児童文学史概観（明治～大正前期）
- 第5回～ 『日本児童文学名作集（上）』の作品精読

＜後期＞

- 第1～4回 日本児童文学史概観（大正後期～昭和戦前期）
- 第5～12回 『日本児童文学名作集（下）』の作品精読
- 第13回～ 全体のまとめ

【評価方法】

出席状況、発表内容や質疑応答の様子、各学期末のレポート等により総合的に行う。

【テキスト】

日本児童文学名作集〈上・下〉（桑原三郎・千葉俊二編 岩波文庫）
はじめて学ぶ日本児童文学史（鳥越信編 ミネルヴァ書房）

【参考文献・資料】

授業時に適宜紹介する。

国語学演習 Ia・b

増井典夫

【授業の概要】

方言と共通語。日本語の変遷。
日本語の歴史を考えながら、自分たちの母語（生まれ持っている言葉）である方言の持つ意味を考え、新しい日本語表現の問題やその研究の可能性を考えていく。なお、後期のレポートの一部として、「言葉に関するアンケート調査の実施とその報告」を課す。

【授業の目標】

自分なりの研究の目標を見つけ、進められるようにする。

【授業計画】

テキストの担当範囲を割り当て、順に何回かの発表をしてもらう。
その他、ビデオを見ての感想提出や、プリント配布による講読なども行う。

【評価方法】

レポート等によって評価する。
なお、毎時点呼によって出席を調査する。

【テキスト】

日本語ウォッチング（井上史雄 岩波新書）
展望現代の方言（真田信治編 白帝社）

【参考文献・資料】

授業にて紹介する。

中国文学演習 Ia・b

寺尾剛

【授業の概要】

＜『三国志』の世界＞
中国は歴史を重視するというお国柄もあって、文学と歴史とは不可分の関係にある。本年度は中国の後漢から三国の時代にかけての、いわゆる『三国志』の時代に焦点を当てて研究を進めることにしたい。
基本的には正史『三国志』と小説『三国志演義』との比較研究に重点を置く。また韻文との関係も重視する。李白・杜甫などの詩人がどのように『三国志』を描いているかについても検討する予定。

【授業の目標】

資料調査能力、資料読解能力の育成を最大の目標とする。

【授業計画】

2～3人ずつの班に分かれ、毎回班ごとに事前に調査し、まとめた資料を提出し、それに基づき発表する。
本年は劉備・諸葛亮を研究対象とする予定。
学外教育活動として中国研修旅行も企画するつもりである（自由参加。費用は20万円前後。時期は2月下旬～3月上旬）。

【評価方法】

少なくとも前後期各1回のレポート提出を求めるが、演習時の発表や発言も考慮して成績評価を行う。レポート（40%）、発表（40%）、出席（20%）を目安として欲しい。

【テキスト】

- ・プリント。
- ・漢文研究の手びき（中国詩文研究会 750円）
- ・『正史三国志』第5巻（ちくま文庫 1500円）
- ・『詩歌三国志』（松浦友久著、新潮選書 1260円）

【参考文献・資料】

授業にて紹介する。

国文学演習 II（1）a・b

中野謙一

【授業の概要】

＜『古事記』上巻＞
主に学生の発表により、『古事記』上巻を冒頭から読み進めていく。本文および訓の検討、語釈、『日本書紀』との比較、個々の記述と『古事記』全体との関係の考察などが中心になる。

【授業の目標】

『古事記』上巻の内容は天皇家の先祖とされる神々の物語であるが、その叙述はどのような論理によって貫かれているのか。また文章の面では、どのように漢字を使った表現がなされているのか、といったことが当面の考察の対象となる。さらに、さまざまな角度から見出される問題点を解決していきたい。

【授業計画】

〈前期〉a
第1回～第2回 『古事記』上巻の概説・発表例
第3回～第14回 学生の発表とそれに関する討議
〈後期〉b
第1回～第13回 学生の発表とそれに関する討議
第14回 総括
なお、夏季休暇中にゼミ旅行を行う予定である。

【評価方法】

出席状況および授業中の発表・発言（50%）、発表後のレポート（50%）によって評価する。

【テキスト】

〈前期・後期〉
古事記（倉野憲司校注 ワイド版岩波文庫）※通常版も可。

【参考文献・資料】

授業中に紹介する。

国文学演習 II（2）a・b

久保朝孝

【授業の概要】

『紫式部日記』を輪読する。
『紫式部日記』は寛弘五年（1008）秋から同七年正月までを範囲として、紫式部が仕える彰子中宮の二度にわたる出産前後の行事や宮廷での見聞等を、女房の立場から克明に記述する。そこに見られる現実凝視の行きつく先はどこか。

作品を読み解きながら、作者自身の内省的記述と客観的描写とが交錯する形で展開する作品構造の意味、あるいは消息（手紙）混入の問題など、この日記が抱えるさまざまな問題について考察する。
なお、夏季休業中に2泊3日の京都・奈良ゼミ旅行（約33,000円）を、また、必要に応じて卒業論文指導を含めたゼミ合宿を行う。

【授業の目標】

中古文学作品の読解と研究との応用的方法を、実践的に身につける。

【授業計画】

- 一、複数のグループを編成する。
- 二、準備学習。
- 三、担当範囲を決定する（毎回2頁前後）。
- 四、研究報告→質疑→回答→討論→助言（毎回）
- 五、学修の成果をレポートにまとめる。

【評価方法】

出席状況、担当範囲についての研究発表（半期に3回程度）、授業中の発言（質問・批判等）、そしてレポート等を総合して評価する。配分については授業時に説明する。

【テキスト】

紫式部日記 紫式部集（新潮日本古典集成 山本利達校注 新潮社 2,700円 税別）

国文学演習 II (3) a・b

岩下紀之

【授業の概要】

『とはずがたり』を読み、中世後宮の女流文学を考える。
 本年は巻二から読む。

<前期>

宮内庁書陵部本の影印本を使用する。この作品の唯一の伝本で江戸期の書写であり、発見されたのが昭和になってからということで、解釈上問題が多い。諸注にも大きなひらきがあり、学生諸君にも新見を提出する可能性がひらけている。

<後期>

前期から継続する。

【授業の目標】

古写本によって昔の人々が読んだそのままの形で、文章を解説できるようにすること。

【授業計画】

はじめに概説と具体的な指示を行なう。

【評価方法】

レポートを課する。

【テキスト】

とはずがたり 二 (笠間書院)

国文学演習 II (4) a・b

阿部一彦

【授業の概要】

井原西鶴の町人物の傑作、『日本永代蔵』を解説し、考察する。「立身出世談や破滅談を通して金銀万能の町人社会の諸相を鋭く抉りだした」(『近世文学研究事典』)といわれる『日本永代蔵』のなかから十編ほどの短編小説を選び、さまざまな方面から考察を加えていく。

<前期>

各短編を受講者が分担して、本文の解説、語釈、口語訳、問題点の指摘と研究、構成と概要、小説としての達成等々の作品研究をおこない、発表する。

<後期>

前期に引き続いて作品の研究をする。
 それとともに、この作品は<成立論>がとくに問題にされてきているので、その代表的な論文を取り上げて検討していきたい。そのことによって、近世文学「研究」の初歩的な方法の修得の一助としたい。

また卒論執筆に必要な文献・論文の扱い方についても学んでいくことになるであろう。

なお、9月に淑友館でゼミ合宿を行う。

【授業の目標】

演習Iを基本とし、卒業論文への橋渡しをして行く。

【授業計画】

上記のごとき演習形式で進めていく。

【評価方法】

レポートによる。

【テキスト】

未定。

国文学演習 II (5) a・b

小倉 斉

【授業の概要】

(小説の方法—テキストをどう読み、どう論ずるか—)
 日本の近・現代を代表する小説の精読を通して、「小説を読む」という行為を意識化し、多様な読みを生み出す分析方法や文学研究の方法を実践的に習得する。

【授業の目標】

テキストの精読や丹念な調査、演習における活発な討論を通して、多様な読みを生み出す分析方法・文学研究の方法を実践的に習得し、卒業論文作成に活かす。

【授業計画】

(前期)

- 1 『化粧』(中上健次)
- 2 『行人』(夏目漱石)
- 3 『東京異聞』(小野不由美)
- 4 『風立ちぬ』(堀辰雄)
- 5 『沈黙』(遠藤周作)
- 6 『津軽』(太宰治)
- 7 『桜島・日の果て』(梅崎春生)

(後期)

- 1 『文章教室』(金井美恵子)
- 2 『吹雪物語』(坂口安吾)
- 3 『仮面の告白』(三島由紀夫)
- 4 『夢の木坂分岐点』(筒井康隆)
- 5 『ノルウェイの森』(村上春樹)

【評価方法】

学期末のレポートを中心に、レジュメの内容、発表・質疑応答の様子、発表後の小レポートなどから総合的に評価する。

【テキスト】

- (前期) : 化粧 (中上健次 講談社文芸文庫)、行人 (夏目漱石 新潮文庫)、東京異聞 (小野不由美 新潮文庫)、風立ちぬ・美しい村 (堀辰雄 新潮文庫)、沈黙 (遠藤周作 新潮文庫)、津軽 (太宰治 新潮文庫)、桜島・日の果て (梅崎春生 新潮文庫)
- (後期) : 文章教室 (金井美恵子 河出文庫)、吹雪物語 (坂口安吾 講談社文芸文庫)、仮面の告白 (三島由紀夫 新潮文庫)、夢の木坂分岐点 (筒井康隆 新潮文庫)、ノルウェイの森 (村上春樹 講談社文庫)

【参考文献・資料】

- 批評理論入門 (廣野由美子 中公新書)
 小説の技巧 (デイヴィッド・ロッジ 白水社)
 小説の技法—視点・物語・文体 (レオン・サーメリアン 旺史社)
 引用の想像力 (宇波彰 冬樹社)

国文学演習 II (6) a・b

都築久義

【授業の概要】

卒業論文テーマの作家を中心に演習する。
 卒業論文の進行状況を考慮して進行する。

【授業の目標】

卒業論文が立派に書けるように、調査方法、テーマの設定などを学ぶ。

【授業計画】

個人発表。発表内容を中心討論する。

【評価方法】

平素の学習態度および出席状況。

【テキスト】

特になし。

国文学演習 II (7) a・b

酒井晶代

【授業の概要】

＜賢治・南吉を読み解く＞
近代日本児童文学が生み出した作家のなかで、今なお読み継がれ、新たな読者を獲得している書き手の代表格に宮沢賢治と新美南吉がいる。「赤い鳥」の影響下で童話を書いた二人にはいくつかの共通点がある反面、相違点もまた数多い。さらに「なぜ読み継がれてきたか」という点に着目すると、賢治・南吉作品の普及史は、戦後の児童文学を考える大きな手がかりの一つにもなるだろう。テキストを丁寧に読むことから出発し、作品の成立事情や受容史、研究史へと視野を広げながら、二人の書き手を通して児童文学をめぐる諸問題を考えていきたい。

【授業の目標】

先行研究を踏まえながら、自分なりの視点や方法で賢治・南吉の作品を分析・考察する。

【授業計画】

「時代」「受容」「教育」「メディア」など、作品ごとにいくつかのキーワードを念頭に置きながらテキストを読み進めていく。グループによる調査・分析の報告と、参加者間の質疑応答が授業の中心になる。

＜前期＞

- 第1～2回 先行研究の調査、研究方法の検討
- 第3回～ 『童話集 風の又三郎』の作品精読

＜後期＞

- 第1～2回 先行研究の調査、研究方法の検討
- 第3～12回 『新美南吉童話集』の作品精読
- 第13回～ 全体のまとめ

【評価方法】

出席状況、発表内容や質疑応答の様子、各学期末のレポート等により総合的に行う。

【テキスト】

- 童話集 風の又三郎（谷川徹三編 岩波文庫）
- 新美南吉童話集（千葉俊二編 岩波文庫）

【参考文献・資料】

授業時に適宜紹介する。

中国文学演習 II a・b

寺尾 剛

【授業の概要】

＜中国古典文学研究法＞
中国の古典文学に関する研究法・調査法の養成に重点を置く。テキストは受講生との相談によって決定するつもりであるが、希望がなければ、唐代伝奇小説・『白氏文集』・『宋代詞集』を扱うことにしたい。

＜前期＞

- ・共通のテキストを用い、輪読し討論する。

＜後期＞

- ・卒論の途中経過や自分の関心を持っていることなどをテーマに発表。

【授業の目標】

資料調査能力・資料読解能力・論文作成能力の向上を目指す。

【授業計画】

前期は輪読形式、後期は発表形式で進める予定。
学外教育活動として、9月に淑友館（あるいは他の宿泊施設）にて2泊3日のゼミ合宿を行う（全員参加。費用は2万円前後）。また、中国研修旅行も企画するつもりである（自由参加。費用は20万円前後。時期は2月下旬～3月上旬）。

【評価方法】

出席（20%）、レポート（40%）及び発表（40%）の内容で決める。

【テキスト】

- ・プリント
- ・漢文研究の手びき増補版（中国詩文研究会 750円）

【参考文献・資料】

授業中に指示する。

国語学演習 II a・b

増井典夫

【授業の概要】

方言と共通語。日本語の変遷。
現代日本語の問題点や方言の問題点等を考えながら、新しい日本語研究の可能性を考えていく。

【授業の目標】

卒業論文につながる研究を求めていく。

【授業計画】

テキストの担当範囲を割り当て、順に発表をしてもらう他、提出したレポートについての発表もしてもらう。
その他、ビデオを見ての感想提出や、プリント配布による講読も行う。

【評価方法】

レポート等によって評価する。
なお、毎時点呼によって出欠席を調査する。

【テキスト】

変わる方言 動く標準語（井上史雄 ちくま新書）
応用社会言語学を学ぶ人のために（ロング・中井他編 世界思想社）

【参考文献・資料】

授業にて紹介する。

国文学文献講読演習 (1) a・b

中野謙一

【授業の概要】

＜前期＞
テキストの輪読。章節ごとに分担し、それぞれ＜要約→疑問点の整理→参考文献等を用いた補足説明＞といった流れで発表していく。

＜後期＞

広く上代の文献に関する任意の課題について発表し、全員で討議する。

【授業の目標】

研究文献の読解力を養うとともに研究方法を習得し、自ら設定した問題の解決に応用していく。

【授業計画】

- ＜前期＞ a
- 第1回～第2回 オリエンテーション・発表例
- 第3回～第14回 学生の発表とそれに関する討議
- ＜後期＞ b
- 第1回～第14回 学生の発表とそれに関する討議

【評価方法】

出席状況および授業中の発表・発言により評価する。

【テキスト】

- ＜前期＞
- 古事記の歴史意識（矢嶋泉 吉川弘文館）
- ＜後期＞
- なし

【参考文献・資料】

授業中に紹介する。

国文学文献講読演習 (2) a・b

久保朝孝

【授業の概要】

国文学一般および中古文学に関するすぐれた研究文献を精読する。

【授業の目標】

各種研究文献を批判的に精読する過程を通して、方法意識を学ぶとともに実証的かつ論理的で説得力のある研究論文を執筆する能力を身につける。

【授業計画】

前後期とも次のように授業を行う。形態は原則として演習。ただし、後期は履修者自身のレポート・論文を対象とする。

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 文献の精読と批判①
- 第3回 同②
- 第4回 同③
- 第5回 同④
- 第6回 同⑤
- 第7回 同⑥
- 第8回 同⑦
- 第9回 同⑧
- 第10回 同⑨
- 第11回 同⑩
- 第12回 総括・評価

【評価方法】

出席状況、担当課題の発表、授業中の発言および期末レポートを総合して評価する。配分等の詳細は授業時に説明する。

【テキスト】

授業時に配布する資料（複写文献）を用いる。

国文学文献講読演習 (3) a・b

岩下紀之

【授業の概要】

中世文学の研究文献や文学理論に関する文献の講読を演習形式で実施し、文章の分析方法や学術文献の読解力、批評・研究方法を実践的に身につけさせる。

【授業の目標】

文献講読の基礎能力を開発し、読解力を養成するとともに、読み取った内容についての確に文章にまとめ、口頭発表する能力を養うことを目標とする。

【授業計画】

以上の目的・趣旨に従って、諸論文を、受講者が分担して講読してゆく。

【評価方法】

分担発表、出席状況、授業態度、および学期末のレポートで総合的に評価する。

【テキスト】

そのつど資料を配布する。

国文学文献講読演習 (4) a・b

阿部一彦

【授業の概要】

近世文学の研究文献や文学理論に関する文献の講読を演習形式で実施し、文学テキストの分析方法や学術文献の読解力、批評・研究方法を実践的に身につけさせる。

【授業の目標】

文献講読の基礎能力を開発し、読解力を養成するとともに、読み取った内容についての確に文章にまとめ、口頭発表する能力を養うことを目標とする。

【授業計画】

以上の目的・趣旨に従って、以下の論文を、受講者が分担して講読してゆく。

- 1 近世文学史論
- 2 西鶴と西鶴以後
- 3 蕉風の確立と展開
- 4 浄瑠璃の完成
- 5 近世前期の学問
- 6 俳文の形式と展開
- 7 堂上の和歌と歌論
- 8 仏教と近世文学
- 9 近世の児童文学
- 10 近世文学と女性
- 11 近世文学における忠誠と私情

【評価方法】

分担発表、出席状況、授業態度、および学期末のレポートで総合的に評価する。

【テキスト】

そのつど資料を配布する。

国文学文献講読演習 (5) a・b

小倉 育

【授業の概要】

〈文学テキスト分析法〉
日本の近代文学に関する研究文献や文学理論に関する文献の講読を演習形式で実施し、文学テキストの分析方法や学術文献の読解力、批評・研究の方法を実践的に身につける。

【授業の目標】

文献講読の基礎能力を開発し、読解力を養成するとともに、読み取った内容についての確に文章にまとめ、口頭発表する（プレゼンテーション）能力を養うことを目標とする。

【授業計画】

- 〈前期〉：前田愛『文学テキスト入門』を読む
- 1 導入
- 2 「読書のユートピア」(1回)
- 3 「書くことと語ること」(3回)
- 4 「言葉と身体」(3回)
- 5 「コードとコンテスト」(4回)
- 6 「物語の構造」(2回)
- 7 「一九七〇年代の文学状況」(1回)
- 〈後期〉：研究論文を読む
- 1 中上健次『化粧』
- 2 夏目漱石『行人』
- 3 小野不由美『東京異聞』
- 4 堀辰雄『風立ちぬ』
- 5 遠藤周作『沈黙』
- 6 太宰治『津軽』
- 7 梅崎春生『板島』
- 8 金井美恵子『文章教室』
- 9 坂口安吾『吹雪物語』
- 10 三島由紀夫『仮面の告白』
- 11 筒井康隆『夢の木坂分岐点』
- 12 村上春樹『ノルウェイの森』

【評価方法】

学期末のレポートを中心に、レジユメの内容、発表・質疑応答の様子などから総合的に評価する。

【テキスト】

- 〈前期〉
文学テキスト入門（前田愛 ちくま学芸文庫）
- 〈後期〉
プリント

【参考文献・資料】

- 引用の想像力（宇波彰 冬樹社）
- 都市空間のなかの文学（前田愛 ちくま学芸文庫）
- 文学の読み方（J・ヒリス・メラー 岩波書店）
- 文学とは何か—現代批評理論への正体（T・イーグルトン 岩波書店）
- 現代批評理論のすべて（大橋洋一 新書館）
- 出来事としての読むこと（小森陽一 東京大学出版会）
- 文学の方法（川本皓嗣・小林康夫 東京大学出版会）

国文学文献講読演習 (6) a・b

都築久義

【授業の概要】

実際に発表された研究論文や一般文章をテキストとして、講読や発表、討論をする。

【授業の目標】

文献の講読を通じて、論文や一般文章の読解力、資料分析力、発表能力を高める。

【授業計画】

前期、後期を通じて、各自がテキストとなる文献を用意し、一つの文献に2コマ（講読・討論 各1コマ）ずつあて授業を進める。

【評価方法】

各自の発表内容や平常の授業態度を総合して判断する。

【テキスト】

テキストは各自が用意する文献。学期の初めに予め、予定を報告する。

国文学文献講読演習 (7) a・b

酒井晶代

【授業の概要】

児童文学およびその周辺ジャンルの研究文献や研究方法に関する文献を演習形式で講読し、作品の分析・読解や学術文献の具体例を通して、研究・批評のためのスキルを身につける。

【授業の目標】

児童文学研究の実践的な技術・方法を身につけ、テーマや目的に応じて活用できるようにする。

【授業計画】

児童文学を中心に、文学研究や批評理論に関する書物と論文を読む。論旨の理解と研究方法への着眼という複眼的な読解を通して、研究の基本的な技術・方法を知ると同時に、児童文学研究の特徴について考えていく。取りあげる論文は、研究の潮流や受講者の興味関心に応じて決定したい。

<前期>

第1～2回 児童文学研究とは何か

第3～12回 理論書の講読

第13回～ 全体のまとめ

<後期>

第1～12回 論文の講読

第13回～ 全体のまとめ

【評価方法】

出席状況、発表内容や質疑応答の様子、レポート等により総合的に行う。

【テキスト】

批評理論入門（廣野由美子著 中公新書）

その他は授業内でプリントを配布する。

【参考文献・資料】

授業時に適宜紹介する。

国語学文献講読演習 a・b

増井典夫

【授業の概要】

国語学・日本語学に関する文献の講読を演習形式で実施する。読み取った内容についての確に文章にまとめ、口頭発表を行う能力を養う。最終的には400字詰め50枚以上の卒業論文執筆につながるだけの文献を読解できるようにもっていく。

【授業の目標】

日本語研究の方法を実践的に身につけ、最終的に卒業論文を執筆、完成できるようにすることを目標とする。

【授業計画】

テキストの担当範囲を割り当て、輪読形式で順に何回かの発表をしてもらう。

【評価方法】

レポート等によって評価する。

【テキスト】

揺れ動くニホン語（田中章夫 東京堂出版）

【参考文献・資料】

授業にて紹介する。

中国文学文献講読演習 a・b

寺尾剛

【授業の概要】

中国文学研究に必要な研究文献や文学理論に関する文献の講読を演習形式で実施し、文学テキストの分析方法や学術文献の読解力、批評・研究の方法を実践的に身につける。

【授業の目標】

中国文学関係の文献講読の基礎能力を開発し、読解力を養成するとともに、読み取った内容についての確に文章にまとめ、口頭発表する能力を養う。

【授業計画】

基本的に、受講生が自分の興味を持っているテーマについて発表し、それについて他の受講生及び教員が質疑応答していく形式を取る。なお実践的に資料調査能力を高めるため、図書館や博物館等に赴いて授業を行うこともあり得る。

【評価方法】

口頭発表（50%）、レポート（50%）

【テキスト】

『漢文研究の手引き』

【参考文献・資料】

授業中、随時に指示。

卒業論文

中野謙一 久保朝孝 岩下紀之 阿部一彦 小倉 斉 都築久義
酒井晶代 増井典夫 寺尾 剛

【授業の概要】

卒業論文（4単位）の作成について指導する。

【授業の目標】

国文学科における4年間の学修の成果として、各自が自由に設定した課題又はテーマに基づき、400字詰め原稿用紙50枚相当分以上の卒業論文を執筆する。

【授業計画】

各担当教員が提示する。

【評価方法】

提出された卒業論文の学術的及び教育的価値による。口述試験を課し、合格した場合に限り、4単位の修得を認める。

【テキスト】

各担当教員が指示する。

【参考文献・資料】

各担当教員が指示する。

国文学特殊講義 古典基礎

久保朝孝

【授業の概要】

古典文学の読解と研究に必要な基礎的事項について、毎回一回完結の方式で、具体例に即しながら分かりやすくていねいに解説する。

【授業の目標】

古典文学の読解と研究に必要な基礎的事項について理解し、知識を身につける。

【授業計画】

1. 導入
2. 古典と暦
3. 古典と宗教
4. 古典と自然
5. 古典と生活空間
6. 古典と文法
7. 古典と国語学
8. 古典と書誌学
9. 古典と文献学
10. 古典と文献資料（1）歴史関係
11. 古典と文献資料（2）辞書事典
12. 古典と文献資料（3）研究書等
13. 古典文学の研究テーマ
14. 予備

【評価方法】

出席状況、課題小テスト、期末筆記試験及び学外の自主的学習を総合して評価する。配分については授業時に説明する。

【テキスト】

別冊國文學No.42『古典文学基礎知識必携』（學燈社 1,370円 税込）

【参考文献・資料】

別途資料を毎授業時に配布する。

国文学特殊講義 漢文基礎

寺尾 剛

【授業の概要】

漢文が嫌い、漢文が読めない、漢文の魅力を知りたいといった学生のために特に設けた、漢文の基礎中の基礎を教授する講座。おそらく多くの学生諸君は、高校時代から、漢文句法はただただ暗記するものとして教え込まれてきていてウンザリしていることと思う。この授業はそういった諸君に対して、「なぜ」「どうして」という疑問を徹底的に解きほぐしていくことに主眼を置く。「なぜ漢和辞典は必要なの？」「どうして再読文字なんていう面倒なものがあるの？」などといった根本的な疑問にも答えていくつもりである。そして、この講座が終る段階までには、諸君にも簡単な漢作文が作れるところまでレベルアップさせるというのが本講座の最終目標である。国文学には漢文がつきものである。漢文拒否症からいち早く脱却して、楽しく漢文が読めるようになることを切に願うものである。

【授業の目標】

基礎的な漢文読解能力を養う。特に翻訳法、訓読法の習熟を目指す。

【授業計画】

漢文法（特に助詞・助動詞・前置詞・接続詞・代名詞）を中心に行なう。折に触れて文化的背景の説明も行なう。

【評価方法】

出席、平常点（20%）及び試験（80%）。

【テキスト】

社会人のための漢詩漢文小百科（大修館書店 1,000円）

【参考文献・資料】

授業中、随時紹介してゆく。

国文学特殊講義 古典文法基礎

伊藤紫野富

【授業の概要】

古文解釈に必要な文法を基礎から学ぶ。用言の活用、助詞、助動詞、敬語法などを、講義を中心に、問題演習を交えながら行う。

【授業の目標】

正しい古典解釈の為に、文法の仕組みを正しく理解することを目標とする。

【授業計画】

- 第1回 文法概略、活用語の用法
- 第2回 用言（動詞、形容詞、形容動詞）
- 第3回 問題演習
- 第4回 助詞
- 第5回 問題演習
- 第6回 助動詞
- 第7回 助動詞
- 第8回 問題演習
- 第9回 識別
- 第10回 問題演習
- 第11回 敬語法
- 第12回 問題演習
- 第13回 単位認定試験

【評価方法】

出席状況と単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

【テキスト】

新古典文法（監修 小町谷照彦 東京書籍）
でももん 古文読解「記述式」（中経出版）

【参考文献・資料】

古典文法質問箱（大野晋 角川文庫ソフィア）

国文学特殊講義 作品講読 (古典) a・b

外山敦子

【授業の概要】

『源氏物語』の「夕顔」巻を読み進めながら、作中世界を理解するための有職故実、研究の現在及び作品読解の方法について、具体的に分かりやすく講義する。

【授業の目標】

- ・「夕顔」巻にかかわる現在までの研究状況を批判的に摂取する。
- ・平安貴族を支える社会制度や生活慣習に関する知見を蓄える。

【授業計画】

基本的にテキストにそって作品を講読しながら、各場面で重要と思われる次のことごとについて適宜説明する。

1. 病と信仰
2. 平安貴族の恋
3. 引歌表現
4. 雨夜の品定め
5. 乳母
6. 従者と女房
7. 童
8. 植物
9. 動物
10. 月
11. 史実と物語
12. 説話・伝承
13. もののけ
14. 平安貴族の死
15. 平安貴族の葬送

【評価方法】

a (前期)

出席状況、課題提出 (1回)、期末テスト、学外における自主学習の成果を総合して評価する。

b (後期)

出席状況、小テスト (1回)、期末レポート、学外における自主学習の成果を総合して評価する。

【テキスト】

校注源氏物語 夕顔 (中野幸一編 武蔵野書院)
端役で光る源氏物語 (久保朝孝・外山敦子編 世界思想社)

【参考文献・資料】

授業時に指示する。

国文学特殊講義 王朝物語 a・b

高橋 亨

【授業の概要】

平安朝物語を読む上で必要な諸問題について、『宇津保物語』後蔭の巻の講読をとおして論じていく。本文批判や注釈、解釈と文法、社会文化史的な文脈などについて講義する。

本年度は「うつほ物語 (一)」をテキストとして、物語研究の方法と具体的な個別問題について考えていく。

前期のはじめには、『宇津保物語』の全体について、必要な基礎知識を概説する。その後、テキストを詳しく読み、解釈に基づいた読みの諸問題を論じていく。物語と神話や漢文伝承との関係、和歌的な表現法と和文との関係などが中心となる。

後期は、物語の表現と構造に加えて、音楽論や漢詩文をふまえた文学史など、より広いテーマへと展開していく。

【授業の目標】

古文読解のための基礎知識と文法的な語法について習得する。使用テキストは本文校訂が基本に基づいた最低限のものであるため、文脈から考えて「かな」に漢字をあてるなど、読解の基礎作業の習得が必要となる。

たんにこれまで習得した学校文法の知識によるのではなく、テキスト文法というべきものによって解釈し、平安朝物語を読むための有職故実を含めた学力を養成することが目的である。

【授業計画】

テキストにそって読み進めるが、それぞれの部分で個別の問題を分散的に論じていく。受講者はそれを各自で整理してまとめて理解する必要がある。

- 1) 物語の発端の表現構造。
- 2) 遣唐使と平安朝の世界観。
- 3) 平安朝における学問と漢詩文。
- 4) 後蔭の異界への旅。
- 5) 阿修羅と六道輪廻。
- 6) 平安朝における琴の伝授。
- 7) 恋物語の発端。
- 8) 王朝物語と和歌。
- 9) 孝子譚の反映。
- 10) 貴族社会の物語と「北の方」
- 11) 恋愛と結婚。
- 12) 年中行事と和歌。

物語テキストの読解に沿って、以上のような話題を適時に織り込んでいく。

【評価方法】

各期末の試験またはレポートにより、出席回数を考慮して採点する。

【テキスト】

うつほ物語 (一) (野口元大・明治書院 2,400円)

【参考文献・資料】

源氏物語の詩学 (高橋亨・名古屋大学出版会 8,400円)

国文学特殊講義 作品講読 (近・現代) a・b

佐々木亜紀子

【授業の概要】

夏目漱石の小説を精読し、方法意識の検討を通して、言語芸術の分析方法を習得する。前期には『道草』を取り上げ、後期には『道草』と同時期を取材した『吾輩は猫である』をとりあげる。発表された初出のカタチを意識しつつ、1915年および1905年の風俗や社会、世界思潮との関わりを軸に読むことを目指す。

【授業の目標】

夏目漱石の『道草』と『吾輩は猫である』とを、研究史をふまえたうえで適切な分析方法によって論ずる力を育成する。

【授業計画】

a (前期) 『道草』

第1・2講 夏目漱石の生涯と『道草』の時代について

第3～12講 『道草』を10章ずつ精読

第13・14講 『道草』研究史

第15講 単位認定試験

b (後期) 『吾輩は猫である』

第1・2講 夏目漱石の小説と『吾輩は猫である』の時代について

第3～12講 『吾輩は猫である』を1章ずつ精読

第13～14講 『吾輩は猫である』研究史

第15講 単位認定試験

【評価方法】

授業への参加態度、提出物の内容、単位認定試験 (テキスト持ち込み可・論述) によって総合的に評価する。

【テキスト】

道草 (夏目漱石 新潮文庫)
吾輩は猫である (夏目漱石 新潮文庫)

【参考文献・資料】

漱石 響き合うことば (佐々木亜紀子著 双文社出版)

国文学特殊講義 源氏物語 a・b

高橋 亨

【授業の概要】

文学作品を読む上で必要な諸問題について、『源氏物語』帚木の巻の講読をとおして論じていく。本文批判や注釈、解釈と文法、社会文化史的な文脈などについて講義する。本年度は『帚木』(大島本)をテキストとして、文学研究の方法と具体的な諸問題について考えていく。

前期のはじめには、『源氏物語』の全体について、必要な基礎知識を概説する。その後、テキストを詳しく読み、解釈に基づいた研究上の問題点を論じていく。和歌と物語との関係、語りの表現法などが中心となる。

後期は、語りの表現構造に加えて、芸能論や女性論などより広いテーマに展開していく。

【授業の目標】

『源氏物語』を読むための、文法・語法をふまえた歴史社会的な習俗における基礎知識を習得するとともに、平安朝物語についての解釈の方法を身につける。文学作品の読解においては、たんに部分的な解釈をするのではなく、それが作品全体においてどのような位置にあり、どのような意義を持つのかについて考える。

【授業計画】

テキストにそって読み進めるが、それぞれの部分で個別の問題を分散的に論じていく。

受講者はそれを各自で整理してまとめて理解する必要がある。

- 1) 長雨はれなきころ。
- 2) 光源氏のもの恋文。
- 3) 三つの品の女性論。
- 4) 中の品の女性。
- 5) 意外性の魅力。
- 6) 主婦としての条件。
- 7) 芸道の比喩。
- 8) 左馬頭の体験談。
- 9) 常夏女の物語。
- 10) 博士の娘の笑い話。
- 11) 葵上と光源氏。
- 12) 方違えと空蝉。

以下、物語の展開にそって読解と解説を進める。

【評価方法】

各期末の試験またはレポートにより、出席回数を考慮して採点する。

【テキスト】

帚木 (大島本) (高橋亨編 おうふう 971円)

【参考文献・資料】

源氏物語の詩学 (名古屋大学出版会、8,400円)

国文学特殊講義 仏教文化論 a・b

渡辺信和

【授業の概要】

日本における文化の発展に多大な影響を与えた仏教は、その渡来から日本独自の仏教思想の形成まで、さまざまな様式と美術を残してきた。本講は日本文学の下地を担うものとしての様々な仏教文化を多方面から確認し、日本文学の基礎的な知識を身につけることを目指とする。

講義には具体的に建築、彫刻、絵画、装飾・模様などを取り上げその背景となる仏教思想を踏まえつつ見ていく。

【授業の目標】

日本文学の基礎知識としての仏教文化を明らかにする。インドから中国へ、中国から日本への伝播の中での変容を確認し、日本化した仏教の諸相を明らかにする。実際に寺院建築や、仏教行事を見学することを課題とし、自分の目で歴史と現代の仏教の実態とを学ぶことを目標とする。

【授業計画】

最初に仏教文化について定義を行い、前期は仏教の伝播をその造形を中心に、日本に伝来した仏教が、日本化していく過程を見る。また寺院建築についてその流れや特徴をみる。

後期は、具体的に荘厳、彫刻、絵画などをあげてその流れを見る。さらに、花祭り（灌仏会）や盆（盂蘭盆会）、などの仏教行事、絵解き、説経などの布教、葬送儀礼などにもふれてみる。

【評価方法】

前期(寺院建築)、後期(仏教行事)ともレポート。

【テキスト】

講義時に指示。

【参考文献・資料】

守屋正彦『すぐわかる日本の仏教美術』東京美術

国文学特殊講義 和歌文学 a・b

日比野浩信

【授業の概要】

日本古典文学の中核たる和歌を、主要な歌学書の講読を通じて、概観する。

a
中世の歌学者・顕昭の歌語注釈書『袖中抄』を、藤原定家が抄出した『頭秘抄』を講読する。中世の歌語注釈を通じて、施注の対象となっている『古今和歌集』をはじめ平安時代の和歌を読む。

影印本を用いることで、写本解読の一助とする。

b
和歌を書くために発達したともされる仮名の文献として、影印資料を教材とする。

鎌倉期書写の古筆切を中心に用いて、平安・鎌倉時代の和歌を講読する。

【授業の目標】

後代の日本の美的感覚の根本たる和歌を通じて、古典作品の読解力を養成することを目標とする。

【授業計画】

基本的には講義を行う。ただし、受講人数などによっては、文献学的研究方法を少々体験してもらう。

参加は気楽に、取り組みは真摯に行ってもらおう。

【評価方法】

学期末の試験、あるいはレポートをもって評価する。

【テキスト】

- a 志香須賀文庫蔵本 頭秘抄(和泉書院)
b 平成新修古筆資料集 第四集(思文閣出版)

a・bとも、写本解読がはじめての受講者は
仮名変体集(新典社)
を購入しておくこと。

【参考文献・資料】

必要に応じて指示する。

国文学特殊講義 仏教文学 a・b

渡辺信和

【授業の概要】

日本仏教文学とは、日本における仏教思想の影響下に成立した文学作品の謂である。すでに『万葉集』に沙弥満誓の詠歌を見ることが出来る如く、仏教の伝来からそう遅くない時期に文学への取り入れが始まり、爾来長く仏教文学としての文学作品が作られてきた。特に盛んであったのは、院政期から中世前半期で、多く仏教説話集として編纂された。物語や和歌、歌謡、謡曲などに見られる仏教思想も、それらを仏教文学としてとらえることを可能としている。

【授業の目標】

具体的な作品を通して、日本化した仏教思想の影響下に成立した文学の諸相を分析し、説明する。また、古典を影印で読むことによって筆で書かれた文字に習熟すること、古文の解説を逐語訳ではなく意味をきちんととった日本語にすることを目的とする。

【授業計画】

講義は影印本『大仏の御縁起』(三弥井書店)で行う。講義時に指名して本文の音読、解釈をしてもらい、その文意、背景に存する説話などについて考察する。講義時に「古語辞典」で語義、文法事項を確認し、有職故実について「国語便覧」を参照することがあるので両書を必携とする。前後期とも影印で読むため、崩し字の苦手な人は「くずし字字典」などを用意すること。

前期
第1講は仏教文学概論と「大仏の御縁起」について
第2講以下通読

後期
第1講以下通読
読み終えたら、諸本の比較や『東大寺縁起絵詞』などについて考える。

【評価方法】

前後期ともレポート提出による。講義時の音読・解釈などの発表を斟酌する。

【テキスト】

石川透編『大仏の御縁起』(室町物語影印叢刊14) 三弥井書店

【参考文献・資料】

『室町時代物語大成』
『中世小説の研究』(市古貞次 1955)
『お伽草子事典』(徳田和夫 2002)
など

国文学特殊講義 近代詩 a・b

佐藤洋一

【授業の概要】

近現代詩のレトリック・表現論

1. 子どもの詩、少年詩、近現代の詩をとりあげ、詩と詩人の固有な特質と方法を言語・構造・レトリック(言語技術)の観点や、戦後詩以降の現代詩の変遷、1950年代～90年代の歴史的社会的状況との関連等からも考察を行なう。
2. 文化研究・批評(カルチュラル・スタディーズ)の枠組みの中で、「近代」という制度・戦争と国家・メディアと詩人の表現等の視点から近現代詩の意義と位置づけについて考察する。

【授業の目標】

日本近現代詩を読み解く魅力と楽しさ、方法について考察し、現代の人間関係・コミュニケーションに生きる「言葉の力」の多層的な意義の講義。詩的言語やレトリック・構成技術にみられる詩人のメッセージ、優れたコミュニケーション技術、文化的・歴史の意味の検討、言葉による豊かな人間性の発見と想像力、それらを的確な判断力や効果的な表現力に生かす。

【授業計画】

1. 子どもの詩、少年詩、谷川俊太郎、中原中也、宮澤賢治、茨木のり子等扱う。
 2. 近代詩・戦後詩・現代詩の特質・詩的言語の構造やレトリックの考察。近現代詩研究の基礎・基本的な方法の体得と主体的な課題意識の育成が主要なねらい。
 3. 前後期とも、配付プリントやテキストによる講義を行う。
- 前期は「基礎・基本編」。詩を読む魅力と方法や多様な個性をもつ近現代詩の諸相を、子どもの詩、少年詩、谷川俊太郎の詩的言語、子ども・生の意識・世界(コスモロジー)・言葉遊びと日本語の探究等の視点から考察。後期は「展開・発展編」。中原中也等の詩人を取りあげ、近現代詩人のメッセージや「言葉の力」を文化的歴史的・思想的な状況の中で考察。

【評価方法】

出席・授業中の提出物 25%
意見と討議、質疑応答 25%
期末レポート 50%

【テキスト】

谷川俊太郎詩集(ハルキ文庫)
中原中也詩集(ハルキ文庫) 配布プリント

【参考文献・資料】

にんげんびかびか 子どもの詩(川崎洋編 中央公論社)
対談 現代詩入門(大岡信 谷川俊太郎 思潮社)
戦後代表詩選 正統(鮎川信夫 他編 思潮社)

国文学特殊講義 現代短歌 a・b

加藤孝男

【授業の概要】

俵万智さんの『サラダ記念日』が社会現象となったのは、80年代の半ばのことです。それ以降、短歌は、カタカナ書きの「タンカ」として、若い人の間でも注目を集めています。

この講義では、はじめて短歌をつくる人のために、初歩の段階からすすめていきます。創作する楽しさを味わってみてください。

【授業の目標】

創作するよろこびを味わい、感性を豊かにします。

【授業計画】

a. 春学期 表現する楽しさを知る

- 第1構 短歌とタンカとの違い
- 2～4 現代短歌の魅力(俵万智、穂村弘、佐藤真由美など)
- 5～9 携帯電話をつかったタンカのつくりかた
- 10～12 短歌の技術、いろいろ
- 13～14 新人賞に応募しよう

b. 秋学期 短歌表現の魅力

- 第1講 短歌は一行の詩である
- 2～4 現代歌人の魅力(村木道彦、河野裕子、塚本邦雄など)
- 5～9 表現の技術をつかう
- 10～12 歌合、歌会を愉しむ
- 13～14 まとめ

【評価方法】

作品によって評価します。出席・平常点も重視。

【テキスト】

第一回目の講義で指示します。

【参考文献・資料】

佐藤真由美「恋する歌音(カノン) ころろに効く恋愛短歌50」(集英社文庫)

高野公彦編「現代の短歌」(講談社学術文庫)

国文学特殊講義 批評理論 a・b

佐藤洋一

【授業の概要】

“実践的”現代・文学批評理論

ー〈批評〉〈方法〉をめぐる近現代文学入門ー

近代・現代の短編小説、児童文学、ファンタジーなどの読解と批評を通して文学批評理論について検討し、私たちを取り巻く複雑で多面的な「現代」「世界」を文学はどのように描いてきたのか、それを今、どのように読み解いていくかについて講義する。また現代人の生き方や精神の直面する諸問題や文学作品をめぐるさまざまな課題等も扱う。

【授業の目標】

文学作品は評論や論文とは異なる形式と方法による、人間と時代についての〈発見と認識〉であり、優れた描写と語りによる〈コミュニケーション技術〉のモデルである。作品に即して読み解き批評する方法を通して、現代・文学批評理論のポイントと今後の課題について理解する。

【授業計画】

1. 講義では、梨木香歩、江國香織、向田邦子、山田詠美、重松清、村上春樹等の現代小説の短編、童話やファンタジー、アニメーション等を取りあげる。
2. 毎回トピック形式でテーマを設定し作品に考察する。例えば、主題は1つか・批評的に読み解く技術、ローファンタジーの境界とメッセージ、自意識の畏と葛藤、意識の深層をどう描くか・恐怖とは、絵本・童話の方法と子ども像、恋愛という〈狂気〉と〈無垢〉、家族の〈絆〉と文学、19世紀文学と20世紀文学等。

【評価方法】

出席・授業中の提出物 25%
意見と討議、質疑応答 25%
期末レポート 50%

【テキスト】

西の魔女が死んだ(梨木香歩著、新潮文庫)、きみの友だち(重松清、新潮文庫)、配布プリント

【参考文献・資料】

現代文学理論(土田知則著 新曜社)

ブローケンガール(金原由佳著 フィルムアート社)

なぜ僕らの心は壊れてしまうのか(和田秀樹著 集英社文庫)

国文学特殊講義 現代小説 a・b

永井聖剛

【授業の概要】

〈現代小説の方法と課題-作品をどう読むか-〉

「小説を読む」とはどのような行為なのかという課題について、現代日本を代表する小説の精読および方法意識の検討を通して考察し、言語表現としての文学を研究する方法を身につける。「小説を読む」という行為を意識化し、多様な読みを生み出す分析方法を習得することが目標である。日本の現代小説を取り上げ、現代の日本社会が抱える困難な問題を小説がどのように作品化しているのかについて追求する。

【授業の目標】

現代小説にあらわれた現代性および問題意識を、類同的なモチーフを持つ過去の文学作品との比較において測定すること。小説の多様な読みを生み出す分析方法の習得。

【授業計画】

ある現代小説にあらわれた主題・方法を、時代を遡行しつつ、それと類同的なモチーフを持つ過去の文学作品と比較しながら考察する。

- 1 ガイダンス
- 2 『蒲団』(田山花袋)を読む 作品からテキストへ/語り・人称・視点/それはだれの欲望か/〈書くこと〉の所有権をめぐって
- 3 『FUTON』(中島京子)を読む 蒲団の打ち直し方/パロディという方法/記憶と物語ること
- 4 『アフターダーク』(村上春樹)を読む 都市・記号/一望監視装置/読書行為・消費/虚実の境界線/堀辰雄「水族館」
- 5 近代の都市空間を読む 谷崎潤一郎「人面疽」/江戸川乱歩「人間椅子」/「屋根裏の散歩者」
- 6 まとめ

【評価方法】

出席と期末レポートで総合的に判断する。

【テキスト】

FUTON(中島京子 講談社文庫)

アフターダーク(村上春樹 講談社文庫)

【参考文献・資料】

授業中に指示する。

国文学特殊講義 郷土文学 a・b

都築久義

【授業の概要】

郷土の作家と郷土を描いた作品を研究する。

<前期>

郷土出身の作家を10人ほどとりあげる。

<後期>

郷土を描いた作品(近代、古典)を10作品くらいとりあげる。

【授業の目標】

愛知・岐阜・三重の東海三県出身の作家や作品を学び、郷土と郷土の文学への関心を高める。

【授業計画】

作品、作家を1回ごとに変える。

【評価方法】

テストで評価する。

【テキスト】

プリントを配布。

国文学特殊講義 児童文学 a・b

堀尾幸平

【授業の概要】

1. 児童文学とは何か。その呼称、特質、形態、研究方法等、児童文学理論を研究する。
2. 児童文学が、どのように発祥、展開してきたか、わが国の文学史を把握し、その今後を展望する。
3. 児童文学をテーマにした小論文を書き、実際に童話を創作する。

【授業の目標】

1. 児童文学の定義、形態、特質等を研究し、自己の児童文学観を確立する。
2. 日本の児童文学史を把握し、将来を展望、新しい児童文学を創造する態度と方法を自己のものとする。

【授業計画】

- | | |
|----------------|-----------------|
| 〈前期 a〉 | 〈後期 b〉 |
| 1. 児童文学とは何か | 1. 昭和前期の児童文学 |
| 2. 呼称、定義、特質、研究 | 2. プロレタリア児童文学 |
| 3. 明治期の児童文学 | 3. 通俗的児童文学 |
| 4. 三輪弘忠 | 4. 佐藤紅緑、江戸川乱歩 |
| 5. 巖谷小波 | 5. 宮澤賢治 |
| 6. 翻訳児童文学 | 6. 新美南吉 |
| 7. 大正期の児童文学 | 7. 戦時下の児童文学 |
| 8. 小川未明 | 8. 昭和後期の児童文学 |
| 9. 鈴木三重吉 | 9. 芸術的児童雑誌 |
| 10. 童謡、少年詩 | 10. いぬいとみこ、神沢利子 |
| 11. 文壇作家の児童文学 | 11. 松谷みよ子、中川李枝子 |
| 12. 千葉省三、浜田廣介 | 12. 平成期の児童文学 |
| 13. 少女小説、金子みすゞ | 13. 新しい児童文学の創造 |
| 14. 児童文学研究史 | 14. 創作童話の方法 |
| 15. 試験 | 15. 試験 |

【評価方法】

定期試験、レポート、出席状況等によって総合的に評価する。

【テキスト】

新日本児童文学論（堀尾幸平著 中日文化 2,200円）

【参考文献・資料】

授業中に適宜紹介する。

国文学特殊講義 伝統芸能の世界

林 和利

【授業の概要】

日本の伝統芸能の流れを概説したうえで、能・狂言に的をしぼり、その技芸の本質について詳しく講じる。それと並行して、能の作品を読解しつつ、ビデオで鑑賞する。公演の案内や鑑賞の手ほどきも行う。

【授業の目標】

能と狂言の技芸の本質と舞台の鑑賞について知識と理解を深める。

【授業計画】

1. 授業の目的と方針を提示
 2. 日本芸能演劇史概説
 3. 能・狂言のイメージ、能ビデオ鑑賞1
 4. 最初に見るべき作品、能ビデオ鑑賞2
 5. 初舞台、能ビデオ鑑賞3
 6. 能・狂言の基礎知識、能ビデオ鑑賞4
 7. 名古屋の能・狂言、能ビデオ鑑賞5
 8. 三英傑と能・狂言、能ビデオ鑑賞6
 9. 東海地方の能、能ビデオ鑑賞7
 10. 東海地方の狂言、能ビデオ鑑賞8
 11. 狂言の流儀
 12. 和泉流の歩み
 13. 名古屋と狂言研究者
- 毎回、能の作品を少しずつ読解・鑑賞する。また、学外の舞台芸術を有料で鑑賞することもありうる。

【評価方法】

出席状況と単位認定試験により総合的に評価する。

【テキスト】

なごやと能・狂言（林和利著 風媒社）

【参考文献・資料】

世阿弥 禅竹（岩波書店）
岩波講座 能・狂言（岩波書店）

国文学特殊講義 日本演劇史

林 和利

【授業の概要】

日本の演劇史を、古代の神楽から現代の前衛劇にいたるまで、その流れを追って講じる。とくに、伝統演劇である能・狂言・歌舞伎・文楽については詳しく説く。

【授業の目標】

日本の演劇・芸能の通史について理解するとともに、主要ジャンルについての知識と演技の実態を習得する。

【授業計画】

1. 授業の目的と方針を提示
 2. 日本演劇史系統図を示して通史を概説
 3. 演劇の発生について
 4. 神楽について
 5. 伎楽について
 6. 舞楽について
 7. 散楽について
 8. 田楽について
 9. 猿楽について
 10. 能について
 11. 狂言について
 12. 歌舞伎について
 13. 文楽について
- また、学外の舞台芸術も紹介し、自己の判断で鑑賞することを促す。

【評価方法】

出席状況と単位認定試験により、総合的に評価する。
学外の舞台芸術を鑑賞した場合は、レポート提出により評価の対象とする。

【テキスト】

日本文化論序説（林和利 青山社）

【参考文献・資料】

演劇百科大事典（平凡社）
日本演劇全史（河竹繁俊 岩波書店）
なごやと能・狂言（林和利著 風媒社）

国文学特殊講義 日本映画史

小倉 史

【授業の概要】

〈プログラムピクチャーで読み解く日本映画史〉
日本映画の歴史を紐解くと、2度の黄金期（1920年代後半から1930年代と、1950年代から1960年代）がある。この時期に、日本映画史を彩る名作が生まれるとともに、それぞれの撮影所から特色あるプログラム・ピクチャー（＝娯楽・商業映画）が量産された。

本講義では、特に2度目の黄金期1950年代から1960年代にスポットを当て、映画作品の背景・受容について概観する。また、毎回授業内でエポック・メイキングとなる映画作品を実際に鑑賞し、受講生の批評や見解とともにレビューを行う予定である。

【授業の目標】

大作・名作とされる作品のみならず、それらを繋ぐプログラムピクチャーにも目を配ることで、日本の大衆文化を幅広く見渡すことのできる批評的視野を身につける。

【授業計画】

1. イントロダクション
2. 日本映画草創期を概観する
3. 五社協定という制約／日本映画と国際的評価
4. 東宝—黒澤明・怪獣映画
5. 大映—溝口健二・「母もの」
6. 松竹—小津安二郎・「人情もの」・メロドラマ
7. 日活—「太陽族」映画～新しい日本人たち～
8. 東映—時代劇から任侠映画へ
9. 映画産業の衰退と新しい風を吹き込む監督たち
10. その後の展開～現在の日本映画を考える～

【評価方法】

学期末にレポート課す。出席状況と毎回授業後に提出してもらうコメントの内容も平常点として加味する。

【テキスト】

適宜プリントを配布する。

【参考文献・資料】

「日本映画史100年」（四方田犬彦著、集英社新書）

国文学特殊講義 文学と映像表現

小倉 史

【授業の概要】

〈文学作品の映画化と「映画」化する文学作品〉
映画は、長きにわたり文学の下位に置かれ、映画を文学の副産物とする認識も未だ根強い。しかし、一方で映画が文学に影響を与えたり、映画化を前提として小説が書かれたりと、映画から文学へのアプローチも盛んに行われてきた。

授業では、「映画」という近代を象徴する新しいメディアに積極的に関わった作家、文学作品の映画化に腐心した映画監督らを取り上げ、その作品を映画・小説・シナリオ・批評の各方面から多角的に論じる。また、毎回授業のテーマに関連する映像を見る機会を設けるので、受講生にはそれぞれの関心分野と引きつけながら作品を論じてもらう。授業はできる限りそれらを反映させながら進める予定である。

【授業の目標】

草創期から隣接ジャンルとの交流を余儀なくされてきた映画を通じて、より幅広い視座から「文学」を捉え直してみたい。

【授業計画】

1. インTRODククション～読んでから見るか、見てから読むか～
2. 文学者と映画シナリオ (1) 谷崎潤一郎
3. 文学者と映画シナリオ (2) 川端康成
4. 谷崎『春琴抄』映画化検証
5. 川端『伊豆の踊子』映画化検証
6. 巨匠と小説家 (1) 小津と里見淳
7. 巨匠と小説家 (2) 黒澤と山本周五郎
8. 文芸映画監督 (1) 豊田四郎
9. 文芸映画監督 (2) 増村保造
10. 多極化するメディア～現代に「文学」と「映画」は存在するのか～

【評価方法】

学期末にレポートを課す。出席状況と毎回授業後に提出してもらうコメントの内容も平常点として加味する。

【テキスト】

適宜プリントを配布する。

【参考文献・資料】

適宜指示する。

国文学特殊講義 軍記物語 a・b

榎原千鶴

【授業の概要】

「軍記物語」は女性をいかに描いたかを、前期は主として『平家物語』、後期は『平家物語』に加えて『平治物語』『義経記』と関連する幸若舞曲の講読を通して考える。

【授業の目標】

様々な女性像にふれることで、『平家物語』をはじめとする「軍記物語」の世界に親しむとともに、それら女性像が、女性教育に与えた影響を考える契機となることを目指す。

【授業計画】

- 前期) 第1回 『平家物語』の成立と諸本
第2回 『平家物語』の世界
第3回 『平家物語』にみる女性像 一清盛の娘たち一
第4～7回 『平家物語』にみる女性像 一建礼門院一
第8～11回 『平家物語』にみる女性像 一小宰相一
第12～15回 『平家物語』にみる女性像 一袈裟御前一
- 後期) 第1回 「軍記物語」の女性たち
第2～4回 義経の物語 一『平治物語』『平家物語』『義経記』一
第5～8回 義経をめぐる女性たち 一常盤御前一
第9～12回 義経をめぐる女性たち 一静御前一
第13～15回 「軍記物語」と女性教育

【評価方法】

出席状況および授業中の応答内容 60点
課題提出 40点

【テキスト】

適宜配布する。

国文学特殊講義 俳文学 a・b

阿部一彦

【授業の概要】

松尾芭蕉の『奥の細道』を解説・鑑賞し、その特質について多様な視点から考察する。『奥の細道』は、高等学校の「国語総合」のすべての教科書に採録されており、近年、鉛筆でなぞることもさかんに行われている。まさに国民的な古典文学である。しかし、特定の部分が取り上げられることが多いので、この講義では、できるだけ全巻を通して扱い、ひとつの文学作品として鑑賞・研究してみたい。

【授業の目標】

『奥の細道』の文学的達成を、受講者が探求し、自ら実感するとともに、高校生に教えるための学習の機会とする。

【授業計画】

最初に、「国語総合」の採録の実態を確認する。つぎに『奥の細道』の基礎的知識を学び、ビデオと音読によって全巻を通読する。
前期は、教科書採録部分を扱い、後期は、全巻を見通して重要箇所を取り上げて、講義・輪読形式で授業を進めてゆく。
できたらゆかりの地である、伊賀上野、大垣を訪ねてみたい。

【評価方法】

授業への出席・参加の状況、授業での発言・発表を考慮しつつ学期末のレポートによる。

【テキスト】

『校注 おくの細道』笠間書院

【参考文献・資料】

『奥の細道』角川文庫。その他、適宜、指示する。

国語学特殊講義 ことばの認知科学 a・b

森本俊之

【授業の概要】

認知科学とは、人間の知的活動を、哲学、心理学、計算機科学、神経科学、言語学等の立場から、学際的に探求する学問である。
本講義では、人間の知的活動のうち、特に「ことば」の運用に伴う情報処理活動に着目し、「知覚、記憶、思考、発達(学習)」などの観点から検討を加える。さらに、ヒトの脳についての神経科学的知見を概観し、それを基礎とする言語理解モデルについて講究する。なお、受講者には、授業に出席するだけでなく、その中で実施される各種の実験に積極的に参加することが求められる。

【授業の目標】

人間の認知機構に即した意味解釈理論と言語運用に関するメカニズムに関する知見の習得と理解、および、われわれが日常行う言語的コミュニケーションのありようを考究することを目的とする。

【授業計画】

認知科学の基礎理論の概観からはじめ、ついで、それがわれわれの日常的な言語行動にどのように当てはまるかを事例をもって検証する。

【評価方法】

レポート(適宜課す予定)により評価

【テキスト】

プリントを配布する

【参考文献・資料】

適宜紹介する

文章表現 a・b

服部左右一

【授業の概要】

文章表現の目標を「自分にしか書けないことを、誰にも分かるように書く」ことに置き、ジャンル（詩・小説・評論…）のワクを超えたすべての言語表現に共通する基本事項について学習する。

作品実作の過程で、受講者が自らの言語観・文章観を検討しつつ、より自由で科学的な方法と理論を習得することをめざす。

【授業の目標】

1. ことばとの自由で柔軟な関係を回復するためのトレーニングを経て、ことばを操ることのたのしさを体験する。
2. 創造的な文章を目ざして、いくつかの作品（作文）を試みる。
3. 文章制作過程の、各段階ごとに制作技法をとりあげ、実作体験しながら学習する。
4. 自己の制作経験をふり返りながら、意識の働きと技法の両面において、普遍的法則をさぐりあてる。
5. その結果を、各自に文章表現法として体系化することを試みる。
6. さまざまなジャンルの多彩な文章に触れて、文章表現の可能性をひろげるようにする。

【授業計画】

実作（実習）と理論化のための講義と作品鑑賞、この三つをくり返しながらすめる。

【評価方法】

授業の中で制作する作品群、および期末試験によって行う。

【テキスト】

文章表現・400字からのレッスン（梅田卓夫著 ちくま学芸文庫 997円）
 高校生のための文章読本（梅田卓夫他編 筑摩書房 922円）

言語学 a・b

中尾比早子

【授業の概要】

言語はコミュニケーションの中心的な道具である。言語は個人と個人との関係にとどまらず、社会問題や政策にまで深くかかわりをもっている。授業では発音、形（文字）、意味の関係をそれぞれの観点からみていくつもりである。例えば、意味論ではことばの意味を考えると、辞書ではわからない情報があることを確認し、意味について考える方法を学ぶ。

日本語を対象として提示していく。まず、言語を意識し、観察することから始めたい。

【授業の目標】

言語学にはどのような分野があるか、言語の一般的特性とは何かなど、言語学の基礎を身につけることを目標とする。

日頃から気になることば、表現に耳を傾け、言語現象を分析してみたい。

【授業計画】

以下の内容を予定している。

前期a

1. 言語とは：言語とは何かについて考える
2. 音韻論：文字と音の関係について考える
3. 形態論：言語の単位とは何かについて考える
4. 統語論：文の成り立ち、仕組みについて考える

後期b

5. 意味論：言語の意味とは何かについて考える
6. 語用論：文の意味、言外の意味とは何かについて考える
7. 社会言語学：言語と社会文化の関係における言語運用的側面について考える

【評価方法】

出席状況、前期はテスト、後期はレポートによって評価する

【テキスト】

プリントを配布する

【参考文献・資料】

はじめての人の言語学（上山あゆみ著 くろしお出版）
 入門語用論研究－理論と応用－（小泉保編 研究社）
 その他、授業の中で適宜紹介する

書道（書写を中心とする） a・b

堀内千恵子

【授業の概要】

王羲之を中心の中国書道史、空海を中心とした日本書道史をベースに、臨書、鑑賞などの実技を通して、書法の習得をはかる。ある程度、心眼が高まったところで、創作活動への意欲を高め、個々の感性によった作品を創作し、今日的な書の表現はどうあるべきか、芸術としての書の在り方を考えさせる。

<前期>（中国書道史と日本書道史をいれかえる場合もある）

- 中国書道史（古典と臨書 書法と創作）
- ◇太古～秦代・篆書・書の意義と特質
- ◇漢代～六朝時代・漢隸の魅力・六朝文化の特徴
- ◇隋～唐時代・二大書師について
- ◇宋～現代まで
- ・多様化した書道・かな・ペン習字
- ・書道展の鑑賞

<後期>

- 日本書道史（臨書と創作 書法と創作）
- ◇奈良朝以前・かな・用筆法
- ◇奈良時代～平安時代
- ・遣唐使と三筆
- ・和様体と三蹟・創作（気脈貫通 遅速緩急）
- ◇鎌倉時代～現代 少字数の作品 多字数の作品・結構法・用墨法・創作方法
- ・禅林風と和様体 近代詩文の作品
- ・空海の書法と人
- ・寛永、幕末の三筆

【授業の目標】

書道史、書法を学習し、書技術の向上と、書の創作意欲を高める。

【授業計画】

理論（書道史、書論）40分程度 実技 50分程度
 必要に応じて、プリント（顔真卿・良寛・空海等）や手本を配布する。

【評価方法】

・出席日数 ・毎回提出の課題の評価（10段階） ・ペン習字 ・創作活動の評価 ・理論のテスト ・レポートなどの評価 以上の内容の総合評価

【テキスト】

書道の旅（堀内千恵 株式会社BMC）

日本語表現 T 1

森本俊之

【授業の概要】

日本語による基礎的な表現技術（文章表現力）について、その知識の確実な定着と応用力の養成とを目的とする。特に、大学における学修に欠かせない2つの文章力（①事実を正確にかつ分かりやすく説明する力、②論理的に自分の意見を述べる力）を身につけることに重点を置く。その実践としての小論文作成（計3回）については、1回ごとに目標を設定し、段階を踏んでより高度な課題に取り組む。その際、自己修正力（推敲）の過程を重視し、他者意識を伴った説得力ある文章を書く力を身につける。

なお、各学部学科（専攻）の特質に応じて、内容・方法の調整を行うことがある。

【授業の目標】

1. 高等学校までに学習した漢字やことばを確実に使いこなし、適切な表現を用いた正しく分かりやすい文章を書く力を身につける。
2. 事実と意見、他人の意見と自分の意見とを区別し、論理的な文章を書く力を身につける。

【授業計画】

- 1 オリエンテーション／2 大学図書館を使いこなす
- 3 伝わる文章を書く／4 論理的な文章を書く
- 5 順序を考えて書く
- 6 課題①事実を正確にかつ分かりやすく伝える文章を書く
- 7 課題①を推敲する
- 8 目的に応じて文章を構成する／9 事実と意見とを区別する
- 10 課題②事実と意見とを区別して論理的な文章を書く
- 11 課題②を推敲する／12 要約と引用の方法
- 13 課題③他人の意見やデータを引用して文章を書く
- 14 課題③を推敲する／15 授業のまとめ

漢字やことばの使い方に関する小テストを計10回実施する。

【評価方法】

出席状況、小テスト、課題などにより総合的に評価する。

【テキスト】

愛知淑徳大学文学部国文学科編「日本語表現T1」（予定）

【参考文献・資料】

授業時に指示する。

090101503_0030 掲載順:0030

MCode:090104509_0020 ★

日本語表現 T 2

森本俊之

【授業の概要】

「日本語表現T1」の学修を踏まえ、大学における学修に不可欠な日本語の「読む・書く・話す・聞く」技術を総合的に身につけるため、レポートの書き方と口頭発表の仕方の基礎を学ぶ。具体的には、①テーマ設定、②資料収集と分析、③発表資料の作成、④グループ発表（15分間）、⑤レポート作成、というそれぞれの作業を決められた手順に従って実践的に取り組むことによって、論文や資料を集めて読む力、形式やルールにしたがってレポートを書く力、聞き手を意識した発表をする力、発表を聞いて要点をつかむ力をつける。

なお、各学部学科（専攻）の特質に応じて、内容・方法の調整を行うことがある。

【授業の目標】

1. 大学で求められるレポートや口頭発表のルール及び準備の手順を身につける。
2. 事実や主張を、口頭及び文章で論理的にかつ分かりやすく伝える力を身につける。
3. 複数の資料を収集し比較分析した結果を報告するレポートを書く力を身につける。

【授業計画】

- 1 オリエンテーション
- 2 資料を収集する
- 3 データを分析してまとめる
- 4～5 発表の構想を報告する（中間発表）
- 6 発表資料を作る
- 7 話し方や補助ツールの使い方を工夫する
- 8～11 調査分析の成果を報告する（グループ発表）
- 12 レポートの形式やルールを学ぶ
- 13 論理的なレポートの書き方を学ぶ
- 14 レポートの提出
- 15 授業のまとめ

漢字やことばの使い方に関する小テストを計10回実施する。

【評価方法】

出席状況、小テスト、発表、課題提出などにより総合的に評価する。

【テキスト】

愛知淑徳大学文学部国文学科編「日本語表現T2」（予定）

【参考文献・資料】

授業時に指示する。

090101503_0040 掲載順:0040

MCode:090104509_0030 ★

Basic English 1

SUTHONS, Philip BROWNING, Jeremy S. HARRIS, Richard S. EDMUNDS, Robert D. MC GOLDRICK, Gemma

【授業の概要】

基本的なリスニング能力を、LL教材を用いて演習形式で身につける。

【授業の目標】

短いフレーズを中心とした英語を正確に聞き取れるようになるための基礎的な能力を身に付けることを目標とする。

【授業計画】

英語運用能力育成を目指す全学共通科目の一つとして、基礎的なリスニング力を養成することがこの授業の目標である。この目標を達成するために、音声教材、CALLシステムなどを活用し、以下の内容で授業を進める。

1. 英語のリズムとイントネーションの習得
2. 連結・脱落・同化などの聞き取り
3. ディクテーション
4. シャドーイング
5. 短文・長文の暗唱
6. ペア・プラクティス

様々な場面における対話や応答、状況説明などの聞き取りを通じて、語彙の増強と基本的な英語表現の習得も図る。

なお、担当教員や使用テキストなどにより、若干の変更が生じる場合がある。授業の計画や進度についての詳細は、1回目の授業で担当教員から説明される。

【評価方法】

出席25%、宿題25%、授業への積極的参加・授業内活動・テスト50%

【テキスト】

担当教員によってテキストは異なるので、掲示、配布物で確認すること。

Basic English 2

CAPITIN-PRINCIPE, Abigail B. HARRIS, Richard S. PUDWILL, Larry A. LEAF, David H. GREENE, Scott R.

【授業の概要】

英文の内容を早く、正確に読みとれる能力を身につけるために、さまざまなタイプの英文を多読・速読する。

【授業の目標】

英語運用能力育成を目指す全学共通科目の一つとして、英文の内容を早く、正確に読みとれるようになることがこの授業の目標である。

【授業計画】

1分あたり150語以上のスピードで英文を読み、英語を日本語に訳すのではなく、英語を英語として読み、分からない単語があっても前後の文脈から意味を推測し、パラグラフごとの要点を把握するための訓練を行う。速読の訓練には、本学に導入しているコンピュータを利用した英語学習システム ALC NetAcademy（アルクネットアカデミー）のSpeed Reading機能を自習課題とする。授業は以下の内容で進める。

1. 社会・経済、世界の情報、自然科学、文化、広告文などの実用的な英文などさまざまな分野の英文の読解
2. 語彙力の増強
3. 文法事項の整理
4. 練習問題・確認テストなど

なお、担当教員や使用テキストなどにより、若干の変更が生じる場合がある。授業の計画や進度についての詳細は、1回目の授業で担当教員から説明される。

【評価方法】

出席25%、宿題25%、授業への積極的参加・授業内活動・テスト50%

【テキスト】

担当教員によってテキストは異なるので、掲示、配布物で確認すること。

English 1 (Listening)

CAPITIN-PRINCIPE, Abigail B. PUDWILL, Larry A. HARRIS, Richard S. GREENE, Scott R. LEAF, David H.

【授業の概要】

リスニングの発展的な能力を、LL教材等を用いて演習形式で身につける。

【授業の目標】

英語をより正確に聞き取り、パラグラフや会話文の要点を把握できるようになるための発展的な能力を身に付けることを目標とする。

【授業計画】

英語運用能力育成を目指す全学共通科目の一つとして、会話文・説明文などの内容を正確に把握できるリスニング力を養成することがこの授業の目標である。

この目標を達成するために、さまざまな音声教材、CALLシステムなどを活用し、以下の内容で授業を進める。

1. 英語のリズムとイントネーションの習得
2. 連結・脱落・同化などの聞き取り
3. 数字・地名の聞き取りと、日本人英語学習者が発音・聞き取りを不得手としている音の練習
4. ディクテーション
5. シャドーイング
6. 短文・長文の暗唱
7. ペア・プラクティス

授業で取り上げた教材を、何度も繰り返し声に出して発音する練習を通じて、英語らしいリズムとイントネーションの習得とともに、語彙力と表現力も身につける。英語を頭の中で日本語に置き換えるのではなく、英語を英語として聞き理解できるようになるために、大量・高速の英語を聞く。

なお、担当教員や使用テキストなどにより、若干の変更が生じる場合がある。授業の計画や進捗についての詳細は、1回目の授業で担当教員から説明される。

【評価方法】

出席25%、宿題25%、授業への積極的参加・授業内活動・テスト50%

【テキスト】

担当教員によってテキストは異なるので、掲示、配布物で確認すること。

English 2 (Reading)

BROWNING, Jeremy S. SUTHONS, Philip EDMUNDS, Robert D. HARRIS, Richard S. MC GOLDRICK, Gemma

【授業の概要】

さまざまなタイプの英文の内容を正しく把握できるように、英文精読のトレーニングを行う。

【授業の目標】

目的に応じた英文の読み方があることを知り、ある程度のまとまった長さの英文を読みとれるようになることがこの授業の目標である。

【授業計画】

パラグラフごとの要点を把握し、異なるパラグラフが論理的にどのような関係にあるのか、筆者の主張・論点・メッセージは何かを理解する必要がある。授業は以下の内容で進める。

1. 長文の大意把握
2. 語彙力の増強
3. 文法事項の整理
4. 練習問題・確認テストなど

なお、担当教員や使用テキストなどにより、若干の変更が生じる場合がある。授業の計画や進捗についての詳細は、1回目の授業で担当教員から説明される。

【評価方法】

出席25%、宿題25%、授業への積極的参加・授業内活動・テスト50%

【テキスト】

担当教員によってテキストは異なるので、掲示、配布物で確認すること。

English 3 (TOEIC 1)

SUTHONS, Philip MC GOLDRICK, Gemma EDMUNDS, Robert D. HARRIS, Richard S. LACEY, Charles F.

【授業の概要】

就職などでも考慮されることが多い国際コミュニケーション英語能力テストTOEICに向けての基礎的な能力を身に付ける。

【授業の目標】

TOEICに向けての基本的な文法や語彙など基本事項を徹底的に身につけることを目標とする。

【授業計画】

英語運用能力育成を目指す全学共通科目の一つとして、文法や語彙などの基本事項の整理を行うのがこの授業の目標である。この目標を達成するために、この授業では、本学に導入しているコンピュータを利用した英語学習システムALC NetAcademy (アルクネットアカデミー) を活用して、文法や語彙などの基本事項を再確認し、その定着を図る。具体的には、以下のよう

1. 受講生による演習問題への解答
2. 授業担当者による問題解説
3. 演習問題を利用したディクテーション、シャドーウィング、ペア・プラクティスなど
4. Speed ListeningとSpeed Reading機能を活用した速聴・速読練習
5. 確認テストの実施

なお、担当教員や使用テキストなどにより、若干の変更が生じる場合がある。授業の計画や進捗についての詳細は、1回目の授業で担当教員から説明される。

【評価方法】

出席25%、宿題25%、授業への積極的参加・授業内活動・テスト50%

【テキスト】

担当教員によってテキストは異なるので、掲示、配布物で確認すること。

English 4 (Speaking 1)

LEWIS, Paul HARRIS, Richard S. GREENE, Scott R. PUDWILL, Larry A. LEAF, David H.

【Course description】

ネイティブ・スピーカーの教員によって、実用英会話の基礎的な力を身に付ける。

This course aims to develop students' basic English proficiency by focusing on the practical English skills that will enable them to communicate their needs, views and ideas. Topics commonly included in TOEIC tests will be used as themes for these oral encounters.

Reading, Writing and Listening tasks will be used only as preparation for oral activities. For example, dialogues and role plays may be used to set the scene for further discussion. The dialogues may be text based or student designed (i.e. homework).

【Course objectives】

This course aims to develop students' basic English proficiency by focusing on the practical English skills that will enable them to communicate their needs, views and ideas.

【Course schedule】

Topics will include such things as: Office Conversations, Travel Situations, Talking about Occupations, On the Telephone, Eating out and other TOEIC type situational conversations.

【Assessment】

25% Attendance
25% Homework
50% Class-work/Participation/Tests

【Textbooks】

To be announced

English 5 (TOEIC 2)

HARRIS, Richard S. PUDWILL, Larry A. LEAF, David H.
GREENE, Scott R. LEWIS, Paul

【授業の概要】

就職などでも考慮されることが多い国際コミュニケーション英語能力テストTOEICに向けての発展的な能力を身につけ、英語の総合力を高めることを目標とする。

【授業の目標】

リスニング力とリーディング力を総合的に向上させることが目標である。

【授業計画】

英語運用能力育成を目指す全学共通科目の一つとして、リスニング力とリーディング力を総合的に向上させることがこの授業の目標である。この目標を達成するために、この授業では、本学に導入しているコンピュータを利用した英語学習システムALC NetAcademy (アルクネットアカデミー) を自習課題として活用して、英語コミュニケーション能力の向上を目指す。具体的には、以下のように授業を進める。

1. 受講生による演習問題への解答
2. 授業担当者による問題解説
3. 演習問題を利用したディクテーション、シャドーイング、ペア・プラクティスなど
4. 確認テストの実施

なお、担当教員や使用テキストなどにより、若干の変更が生じる場合がある。授業の計画や進度についての詳細は、1回目の授業で担当教員から説明される。

【評価方法】

出席25%、宿題25%、授業への積極的参加・授業内活動・テスト50%

【テキスト】

担当教員によってテキストは異なるので、掲示、配布物で確認すること。

English 6 (Speaking 2)

LACEY, Charles F. SUTHONS, Philip HARRIS, Richard S.
EDMUNDS, Robert D. MC GOLDRICK, Gemma

【Course description】

ネイティブ・スピーカーの教員によって、実用英会話の応用的な力を身に付ける。

This pre-intermediate course aims to further develop students' English proficiency by focusing on the practical English skills that will enable them to communicate their needs, views and ideas. Topics commonly included in TOEIC tests will be used as themes for these oral encounters.

Reading, Writing and Listening tasks will be used only as preparation for oral activities. For example, dialogues and role plays may be used to set the scene for further discussion. The dialogues may be text based or student designed (i.e. homework).

【Course objectives】

This pre-intermediate course aims to further develop students' English proficiency by focusing on the practical English skills that will enable them to communicate their needs, views and ideas.

【Course schedule】

Topics will include such things as: Leisure and Recreation, The Weather, Advertising, Commuting and Transportation, Banking and Shopping.

【Assessment】

25% Attendance
25% Homework
50% Class-work/Participation/Tests

【Textbooks】

To be announced

Introduction to British History

EASLEY, Keith

【Course description】

This course deals with British History from its beginnings to the Twentieth Century, concentrating on events, people and places. The links between past and present will be stressed, and the main aim is to increase students' cultural understanding of the UK while developing language skills.

If it is necessary to limit class size, there may be a written test in the first lesson.

Teaching will be by lecture, discussion and small-group work.

【Course objectives】

1. To increase students' cultural understanding of the UK.
2. To develop students' language skills.

【Course schedule】

Topics to be considered may include:

The Romans and their mark on Britain
British races: Anglo-Saxons, Celts and others
Feudal society
Christianity
Elizabeth I: war, trade, exploration and culture
The unification of the UK
Democracy and expansion in the Eighteenth Century
Britain, Europe and North America from the Eighteenth Century
The Industrial Revolution
The development and decline of the British Empire
Victorian Britain
Britain in the Twentieth Century

Each topic will take between one and two weeks, with time given for review and consolidation.

【Assessment】

Assessment will be based on attendance, class participation, homework and examination.

【Textbooks】

An Illustrated History of Britain, (David McDowall Longman)

Introduction to American History

DOIRON, Heather

【Course description】

The following course will be based on personalities and events that have had an impact on American History. The class will be primarily a discussion, which will involve student presentation and participation.

【Course objectives】

To introduce students to America History topics.

【Course schedule】

Week 1 : Paul Revere

Week 2 : Slavery

Week 3 : Abraham Lincoln

Week 4 : The Civil War

Week 5 : New Orleans

Week 6 : World War 1

Week 7 : Louis Armstrong

Week 8 : The Kennedys

Week 9 - 12 : Student presentations

【Assessment】

10% attendance
40% participating
50% presentation

specific details will be announced at first meeting.

Introduction to Australian History

WOODMAN, Jo-Anne

【Course description】

Australian poems, songs, movies, documentaries, and magazine articles are just some of the resources that will be used to introduce the students to Australia's colourful and controversial history. Students will be exposed to famous people and incidents that have helped shape Australia.

【Course objectives】

The students will be encouraged to familiarize themselves with the people and events which have affected Australia's history.

【Course schedule】

Section 1 : The Early Years: "I am Australian" / Banjo Paterson - The Man from Snowy River/ Waltzing Matilda etc..

Section 2 : Shameful Times : Nuclear tests/ The Stolen Generation/ White Australia Policy/ Unbelievable events etc..

Section 3 : Influential people - Aboriginal artists/Famous actors/ Politicians/Women in Public life, and how they have affected Australia.

【Assessment】

Students will be required to write a number of reports about their reactions to the materials/issues discussed in class.
50% reports/ 50% Classwork

Current UK

EASLEY, Keith

【Course description】

この授業ではイギリスの現状を考察し、英語の聴解力を養成しながら、イギリスと世界でのイギリスの位置づけへの理解を深めることを目的とする。特にリーズ大学で行われる研修へとつながる内容を含み、政治・経済・社会・文化について幅広く考察する。

This course examines the UK today and aims to deepen students' understanding of Britain and its place in the world while developing language skills. A range of political, social, economic and cultural issues will be considered.

Teaching will be by lecture, discussion and small-group work.

【Course objectives】

1. To increase students' cultural understanding of the UK.
2. To develop students' language skills.

【Course schedule】

Topics to be considered may include:

Identities and multinationalism
Britain and Europe; Britain and the USA
Democracy
The making of money
Devolution: countries and regions in the UK
Men and women: changes and continuities
Families
Class
Crime and the law
Fashion

Each topic will take between one and two weeks, with time given for review and consolidation.

【Assessment】

Assessment will be based on attendance, class participation, homework and examination.

【Textbooks】

There is no class textbook.

Current USA

DOIRON, Heather

【Course description】

This course will examine people and events that have helped to shape American society. Topics will range from artistic interpretation to feminism. This is primarily a discussion course. Students will be expected to do presentations and participate in class discussions.

【Course objectives】

To introduce students to issues that are relevant to present day U.S.A.

【Course schedule】

Week 1 : Who are Americans?

Week 2 : America's Music : Jazz

Week 3 : Civil Rights : Malcolm X, Louis Armstrong, Causis Clay

Week 4 : Feminism : Georgia O'keefe, Mae West, Gloria Steinberg and Madonna

Week 5 : America and the Movie Industry

Week 6 : Vietnam War

Week 7 : American Internationalization

Week 8 : Micheal Moore and 9/11

Week 9 - 12 : Student Presentations

【Assessment】

10% attendance
40% participation
50% presentation

specific details to be announced at first meeting

Current Australia

WOODMAN, Jo-Anne

【Course description】

Australian pop music, contemporary dramas, gossip magazines, and TV news programs/documentaries will be used to introduce the students to life Down Under. Emphasis will be placed on trying to understand Aussie language and culture so that the students will feel more affinity with Australia and its people.

【Course objectives】

This course will encourage the students to become more familiar with modern-day Australia.

【Course schedule】

Section 1 : Facts and Figures - We will look at a variety of Australian facts and figures which demonstrate some unique characteristics of Australia and its people eg. Pop'n density/concentration; percentage of single mothers; the divorce rate; cost of tertiary education, etc..

Section 2 : What's happening? - popular songs, dramas, and magazine articles will provide the students with an opportunity to delve into the psyche of young Australian people.

Section 3 : What's in the news? - TV news programs/documentaries and newspaper articles will allow the students to become familiar with high profile people and events in contemporary Australia.

【Assessment】

Classwork 70% / Attendance 30%

Vocabulary I

SUTHONS, Philip

【Course description】

This is a computer-based course which will use "Powerwords", a computer software package that allows the students to work at improving their knowledge of vocabulary, at a level and pace appropriate for them. Students will have to complete 2 or 3 units per class, and they will also be encouraged to use the system in their free time. In addition, this course will explore vocabulary, through magazine and newspaper articles etc.

Special emphasis will be placed on understanding slang and idiomatic expressions in both informal and formal (business) situations. The students will be encouraged to appreciate the importance of idiomatic expressions in communicating with native English speakers.

【Course objectives】

The purpose of this course is to focus on essential vocabulary for communication and TOEIC tests.

Vocabulary can be difficult and boring, therefore we will use a variety of classroom activities including: regular lessons, games, stories, conversation and computer lessons.

By studying vocabulary, students can improve their understanding of both English and English grammar, communicate better and, hopefully, get higher scores on tests.

【Course schedule】

Every week we will complete exercises, read part of a story and play computer games.

【Assessment】

The final score will be based on 50% classroom participation (including quizzes), 25% computer lessons and a final test worth 25%.

Since there will be little homework, classroom attendance will be strictly required.

【Textbooks】

There is no textbook.

【Reference】

There is no textbook for this class.

Vocabulary II

SUTHONS, Philip

【Course description】

This course will encourage the students to continue developing their vocabulary knowledge with the "Powerwords" computer system. This computer system allows the students to choose a level and speed which is appropriate for them, so it is regarded as a very satisfying and rewarding way to work on vocabulary development. They will also engage in a variety of activities designed to stimulate their interest in learning new words and expressions.

Throughout the course particular emphasis will be placed on the importance of phrasal and idiomatic expressions, in both business conversation and general conversation settings.

【Course objectives】

The purpose of this course is to focus on essential vocabulary for communication and TOEIC tests.

Vocabulary can be difficult and boring, therefore we will use a variety of classroom activities including: regular lessons, games, stories, conversation and computer lessons.

By studying vocabulary, students can improve their understanding of both English and English grammar, communicate better and, hopefully, get higher scores on tests.

【Course schedule】

Every week we will complete 1-3 chapters in the textbook, read part of a story and play computer games

【Assessment】

The final score will be based on 50% classroom participation (including quizzes), 25% computer lessons and a final test worth 25%.

Since there will be little homework, classroom attendance will be strictly required.

【Textbooks】

There is no textbook for this class.

【Reference】

Handouts from the teacher

English Collaboration

ARNOLD, Brent C.

【Course description】

This is an introductory course for college English education. The aim of this course is to motivate students to learn to use English as a life-skill tool. This will be done through the use of various indoor and outdoors activities. This course will motivate students to learn English through action and need, with minimal use of literary English. This means that students learn English, not by writing or speaking English intentionally, but by participating in various activities. Students are expected to enrich their vocabulary through repetition of use and to become familiar with idiomatic and onomatopoeic expressions.

【Course objectives】

The main objective of this course is to show students how to function in a completely English environment. Interacting in English (speaking, listening and thinking) without the use of Japanese.

【Course schedule】

In most cases classes will begin with oral explanation followed by the activity. Classes will vary from using the Internet to craft activities, group projects and sports.

【Assessment】

Assessment will be based on attendance and participation. (Attendance 25%; Participation 75%)

【Textbooks】

None

【Reference】

None

英語音声学 I

中郷 慶

【授業の概要】

英語の発音の特徴を、日本語と比べながら明らかにする。言語音の分類、母音と子音の体系など、英語音声の基礎的事項を学ぶ。また、英語らしいリズムとイントネーションについても、その理論を学ぶとともに、実践練習を行い定着を図る。

【授業の目標】

英語のリズムとイントネーションの仕組みを、日本語との対比で理解し、英文をより英語らしく読めるようになること。

【授業計画】

英語（および日本語）音声の特徴の全体像を明らかにするように、次のような内容で授業を進める。

1. 英語のリズムとイントネーション
2. リズムの担い手と強勢パターン
3. 語強勢と文強勢
4. イントネーションと意味
5. 発音の仕組み
6. 音韻論と音声学

受講生はこれまでに、英語を何年間も学習してきてはいても、おそらく、何が英語の発音の特徴であるのか理解していないように思われるし、十分な発音指導を受けてきたこともないと思われる。英語を勉強していくうえで、一度、徹底的に英語の音声を基礎から勉強しておくことは不可欠なことであろう。この授業はヒアリング力の向上にも役立つであろう。

【評価方法】

出席状況、レポート、定期試験の成績により総合的に評価する。

【テキスト】

こうすれば英語が開ける： *Ways to be better listeners*（中郷安浩・中郷慶共著 英宝社）

【参考文献・資料】

授業中に指示する。

英語音声学 II

中郷 慶

【授業の概要】

「英語音声学I」に引き続き、英語（および日本語）の音声の特徴の全体像を、さらに明らかにすることを目標とする。特に、日本人英語学習者にとって発音と聞き取りが難しい個々の音の発音方法を学び、より英語らしく読み、話す実践的練習を、歌・映画・小説の朗読などを題材に行う。

「英語音声学I」を履修済みであることが望ましい。

【授業の目標】

日本人英語学習者にとって発音と聞き取りが難しい個々の音について学び、英語の音節構造・頭韻・脚韻などの理解を深めること。

【授業計画】

以下の内容で、講義と実践的練習を行う。

1. シャドーウイングとディクテーション
2. 日本人英語学習者が不得手な子音の発音と聞き取り
3. 日本人英語学習者が不得手な母音の発音と聞き取り
4. 英語の音変化（同化・脱落・連結・縮約など）
5. 英語の音節構造
6. 音節とモーラ

【評価方法】

出席状況、レポート、定期試験の成績により総合的に評価する。

【テキスト】

こうすれば英語が開ける：Ways to be better listeners（中郷安浩・中郷慶共著 英宝社）

【参考文献・資料】

授業中に指示する。

Writing I (Diary & Daily Life)

MOLOTSI, Prisca

【Course description】

In this course, students will be given the chance to explore the process of expository writing. In addition to learning how to various aspects of the writing process, students will also learn to generate topics from daily life; topics ranging from personal to historical, cultural, political and socio-economical ones. I Students will be expected to keep a diary and are encouraged to write in it on a daily basis. A written group project will also be assigned at the beginning of the semester. This will be collected at the end of the semester. Time to work on the project will be allotted in each class.

【Course objectives】

To help improve students' English writing skills while teaching them about a variety of topics as they pertain to our daily lives.

【Course schedule】

- Week 1: Topic Sentences
- Week 2: Supporting sentences
- Week 3: Concluding sentences
- Week 4: Paragraph writing
- Week 5: Definition paragraphs
- Week 6: Introductory paragraphs
- Week 7: Concluding paragraphs
- Week 8: Comparison and contrast paragraphs
- Week 9: Project review
- Week 10: Persuasive paragraphs 1
- Week 11: Persuasive paragraphs 2
- Week 12: Cause and effect paragraphs
- Week 13: Review

【Assessment】

Grades will be given based on attendance, homework, tests, the journal and the group project.

【Textbooks】

Will be determined after the class commences

Writing I (Diary & Daily Life)

TOFF, Mika

【Course description】

In this course students will improve their basic writing skills in English by keeping a diary and researching, discussing and writing about their daily lives.

【Course objectives】

Students will learn to observe their daily lives carefully and to describe their thoughts creatively.

【Course schedule】

Time will be spent on discussions and exchange of ideas. We will also look at a variety of published diaries and online journals.

【Assessment】

Assessment will be based on class work and writing assignments.

【Textbooks】

No textbook required.

Writing I (Diary & Daily Life)

LEWIS, Paul

【Course description】

In this course students will improve their basic writing skills in English by keeping a diary and researching, discussing and writing about their daily lives.

【Course objectives】

- By the end of this course, students should be able to:
- understand the benefits and styles of regular diary keeping
 - be able to use note form for written English
 - be able to use various forms of prewriting for planning and discussion
 - be able to discuss their diaries freely in groups and pairs in English

【Course schedule】

- Lessons 1 Note taking styles
- Lessons 2-12 Discussions of topics raised in students' real diaries and imaginary diaries

【Assessment】

Assessment will be based upon class participation, attendance and the diaries.

【Textbooks】

No textbooks will be used, but instead students will use handouts.

【Reference】

None

Writing I (Diary & Daily Life)

CURRAN, Beverley

【Course description】

In this course students will improve their basic writing skills in English by keeping a diary and researching, discussing and writing about their daily lives.

【Course objectives】

Each class, we will talk and then write about what is happening in our daily lives. The goal of the course is to teach students how to express their own life experiences as a written narrative in English, and, in the process, learn to think critically, consider the world around them with curiosity, and exchange ideas with each other in English.

【Course schedule】

- 第1回 Introduction: listening to English; writing in English
- 第2回 Writing a diary: starting with objectives
- 第3回 Thinking about time: what did you do this morning?
- 第4回 Thinking about feelings: what is today's emotional weather?
- 第5回 Choosing a register: the range of expression in personal writing
- 第6回 Likes and dislikes
- 第7回 Best and worst memories
- 第8回 Perfect partners and ideal settings for romance
- 第9回 Learning from mistakes
- 第10回 Books you have been reading; Movies you have been watching
- 第11回 Thinking about summer holidays
- 第12回 The soundtrack of your life: daily music
- 第13回 Part-time jobs and other new experiences
- 第14回 Thinking back on the first semester: how was it?
- 第15回 Looking ahead: making changes in your life

【Assessment】

Assessment will be based on effort, class participation, the quality of written work, and attendance.

【Textbooks】

No text is required

Writing I (Diary & Daily Life)

DOIRON, Heather

【Course description】

In this course students will improve their basic writing skills in English by keeping a diary and researching, discussing and writing about their daily lives.

【Course objectives】

To teach students the purpose and importance of keeping a diary.

【Course schedule】

The course is designed to help students express themselves in writing. Video, music, and readings will be used to encourage written expression. Assignments and homework will be based on class activities. Some group work will be required.

Students will be introduced to keeping a diary of daily events. Through reading other diaries, and listening to transcripts students will be exposed to a methods of recording personal thoughts and events.

- Week 1 : Examples of famous diaries and methods of record keeping.
- Week 2 : Recording personal thoughts using declarative sentences.
- Week 3 : Recording personal thoughts using declarative sentences.
- Week 4 : Interviews using the past tense
- Week 5 : Interviews using the past tense
- Week 6 : review
- Week 7 : Interviews using the future tense
- Week 8 : Interviews using the future tense
- Week 9 : Recording the News
- Week 10 : Note taking
- Week 11 : Note taking
- Week 12 : Review

【Assessment】

- 60% Assignments
- 40% final project.

Specific details will be announced at first meeting

【Textbooks】

Great Sentences for Great Paragraphs
Keith Folse, Author, April Muchmore-Vokoun, Author,

Writing II (Paragraph Writing)

MOLOTSI, Prisca

【Course description】

In this course, students will be given the chance to further develop the skills they learnt in Writing I. Emphasis on paragraph writing and essay writing skills will be made. Students will be expected to keep a diary and are encouraged to write in it on a daily basis. The Internet, videos and newspapers/magazines will be used to generate writing topics and activities.

【Course objectives】

To help improve students' English writing skills while teaching them about a variety of topics as they pertain to our daily lives.

【Course schedule】

- Week 1 : Review of basic paragraphs 1
- Week 2 : Review of basic paragraphs 2
- Week 3 : Writing and Essay outline
- Week 4 : Paragraphs describing a sequence of events (chronological order)
- Week 5 : Short essay using chronological time order
- Week 6 : Example paragraphs 1
- Week 7 : Example paragraphs 2
- Week 8 : Descriptive paragraphs
- Week 9 : Narrative paragraphs
- Week 10 : Persuasive paragraphs 1
- Week 11 : Persuasive paragraphs 2
- Week 12 : Paragraphs using similes and metaphors
- Week 13 : Review

【Assessment】

Grades will be given based on attendance, homework, tests, and the journal.

【Textbooks】

Will be determined after the class commences

Writing II (Paragraph Writing)

TOFF, Mika

【Course description】

In this course the students will learn how to write good paragraphs in English by example and practice.

【Course objectives】

Students will learn to write effective introductions and conclusions, and to support their ideas with persuasive reasons and vivid examples.

【Course schedule】

Time will be spent on developing essays through revision and discussion of organization.

【Assessment】

Assessment will be based on the content of essays written by the student, and on the amount of work a student puts into writing and improving the essays.

【Textbooks】

No textbook required.

Writing II (Paragraph Writing)

LEWIS, Paul

【Course description】

In this course the students will learn how to write good paragraphs in English by example and practice.

【Course objectives】

By the end of this course, students should be able to do the following:

- gather ideas for essay or paragraph writing
- arrange ideas into a coherent form
- write multiple drafts of a paragraph or essay, adding corrections in subsequent drafts
- use the computer for basic writing and error checking
- peer-check their partner's writing

【Course schedule】

- Week 1: Sentences
- Week 2: Topic sentences
- Week 3: Brainstorming
- Week 4: Describing
- Week 5: Peer feedback
- Week 6: Giving opinions
- Week 7: Cause/effect
- Week 8: Modals
- Week 9: Narratives
- Week 10: Comparisons
- Week 11: Introductions
- Week 12: Review

【Assessment】

Assessment will be based on class attendance, participation and student portfolios.

【Textbooks】

To be announced in the first class

【Reference】

None

Writing II (Paragraph Writing)

CURRAN, Beverley

【Course description】

In this course students will learn how to write good paragraphs in English by example and practice.

【Course objectives】

The goal of the course is to teach students to write organized and interesting paragraphs on a variety of topics. Through practice writing about their own lives; reviewing a movie; and summarizing a talk by a guest speaker, the students will gain confidence in their ability to express themselves effectively in written English.

【Course schedule】

- 第1回 Introduction
- 第2回 Understanding what paragraphs are for
- 第3回 Summer vacation: writing an introduction
- 第4回 Summer vacation: organizing contents
- 第5回 Summer vacation: writing a conclusion
- 第6回 Summer vacation: revision and editing
- 第7回 Movie review: writing a plot summary without spoilers
- 第8回 Movie review: describing a favourite scene
- 第9回 Movie review: making a recommendation
- 第10回 Movie review: revision and editing
- 第11回 Mystery guest: gathering information and taking notes
- 第12回 Mystery guest: introducing a person
- 第13回 Mystery guest: organizing information
- 第14回 Mystery guest: adding more details and further revision
- 第15回 Reflection on the course and setting new goals as a language learner

【Assessment】

Assessment will be based on effort, class participation, the quality of written work, and attendance.

【Textbooks】

No text is required

Writing II (Paragraph Writing)

DOIRON, Heather

【Course description】

In this course the students will learn how to write good paragraphs in English by example and practice.

【Course objectives】

To teach students the dynamics-involved in paragraph writing.

【Course schedule】

The course is designed to help students learn the art of writing in paragraphs. Through reading, writing, listening and speaking students will be exposed to the rules of making a proper paragraph.

- Week 1 : What is a paragraph?
- Week 2 : What is the subject of your paragraph?
- Week 3 : Listening to a paragraph
- Week 4 : Writing a paragraph
- Week 5 : Group work
- Week 6 : Review
- Week 7 : Making paragraphs connect
- Week 8 : Making paragraphs connect
- Week 9 : Group work
- Week 10 : Class assignment
- Week 11 : Class assignment
- Week 12 : Review

【Assessment】

- 60% assignments
- 40% group work

Specific details to be announced at first meeting

【Textbooks】

Great Sentences for Great Paragraphs
Keith Folse, Author, April Muchmore-Vokoun, Author,
ISBN: 0618444165 • 2nd Edition © 2005 • 288 pages

Reading I (Literature)

森本素世子

【授業の概要】

オスカー・ワイルドの童話集から代表的な作品を読む。ワイルドの童話は大人が読んでも楽しめるものであり、そこには人間の心を和ませる美しさが存在する。今日のようなどこか殺伐とした世であるからこそ、ワイルドの作品を読むことで、心温まると同時にさわやかな感動を感じてほしい。

【授業の目標】

読解力を身に付けることが主たる目標であるが、併せて、言葉のもつリズムや文体による音楽的な雰囲気など、論理的な意味だけではなく文学の楽しさとその可能性を考えてみたい。

【授業計画】

(前期) Oscar Wilde "The Happy Prince", "The Selfish Giant", "The Nightingale and the Rose"
(後期) Oscar Wilde "The Devoted Friend", "The Star-Child"

【評価方法】

定期試験の成績に、出席・予習状況、授業への参加度などを加味し、総合的に評価する。

【テキスト】

The Happy Prince and Other Tales (Oscar Wilde 英光社)

Reading I (Literature)

小久保潤子

【授業の概要】

アメリカ文学を代表する作品であるMark Twainの*The Adventures of Huckleberry Finn*をretold版で読む。物語は19世紀のアメリカ南部を舞台に繰り広げられる。アメリカの特性がよく現れたストーリーと、活き活きとした語り口を楽しみながら、当時の文化的背景を知る手がかりとしたい。Twainの短編も取り上げる予定。

【授業の目標】

アメリカ小説の特徴を知り、作家・作品や時代背景等への理解を深めることを目標とする。そのためには、テキストを丁寧に読むことで読解力を身につけることが必要となる。テキスト分析を通じて文学作品読解の可能性を探り、様々なテーマへと視野を広げることを目指したい。

【授業計画】

The Adventures of Huckleberry Finn を毎回8～10ページを目標に読む。その後、短編を取り上げる。
余裕があれば作家や作品の描かれた時代背景について調べ、それが作品にどのように反映されているのかを考察する時間ももうける。

【評価方法】

授業態度、出席・予習状況、授業への積極的参加、レポート、定期試験の成績、などを総合的に評価する。

【テキスト】

The Adventures of Huckleberry Finn (英潮社フェニックス)
他、授業中に指示する。

【参考文献・資料】

授業中に指示する。

English Grammar I

金子輝美

【授業の概要】

高校時代に学習した英文法の知識をさらに深め、英語を使用する際に生かせるように努力する。多くの英文に触れ、(理論)と(実践)の両面から、英語表現そのものに注意を向ける。

【授業の目標】

英文法の学習を通して、個別言語としての英語の特質を認識し、実際に英語を読んだり書いたりする際に、英文法の知識を活かせるようにします。
英文法の知識がないと、正しい英文を書くことはできませんし、文構造を正しく把握しないと、長い文を読むことはできません。英文法の知識をある程度習得したら、実際に英語を書いたり読んだりして、英語表現の特徴に慣れることが必要です。英語表現そのものに目を向け、相当量の英文に触れることによって、英語らしい自然な表現がどのようなものかを実感できるようにします。

【授業計画】

- | | |
|------|--------------------------------------|
| 第1回 | 英文法序論 |
| 第2回 | 仮定法(1) 身近なことを英語で表現する。 |
| 第3回 | 仮定法(2) 仮定法過去 |
| 第4回 | 仮定法(3) 仮定法過去完了 |
| 第5回 | その他注意すべき仮定法表現 |
| 第6回 | 仮定法についての総復習 |
| 第7回 | 助動詞(1) can, mayなどの用法 |
| 第8回 | 助動詞(2) must, should, had betterなどの用法 |
| 第9回 | 助動詞(3) would, needなどの用法 |
| 第10回 | 助動詞表現の総復習 |
| 第11回 | 受動態(1) 身近なことを英語で表現する。 |
| 第12回 | 受動態(2) 特殊な受動態表現 |
| 第13回 | 受動態(3) 受動態の総復習 |
| 第14回 | 前期の総復習 |
| 第15回 | 定期試験 |

【評価方法】

出席状況、課題、小テスト、定期試験、学習態度などを総合的に判断して評価します。各試験では、実力養成の立場から、学習事項に関連した応用問題が出されることがあります。

【テキスト】

「コーパス英文法」(櫻野健次・内木場務 著、開拓社)
(A Corpus-Based Grammar of English)

【参考文献・資料】

使用テキストの著者による書物の中で、比較的読みやすく参考になると思われるものを紹介します。テキストと同じ例文がいくつか使われており、それらには和訳が添えられています。

「テンスとアスペクトの語法」(櫻野健次著、開拓社)

「<こだわり>の英語語法研究」(内木場務著、開拓社)

Reading II (Linguistics)

田中智之

【授業の概要】

英文テキストを読みながら、英語の成り立ちや多様性について学ぶ。

【授業の目標】

文法や構文を意識しながら英文を精読することを通じて、英文読解力を高める。同時に、英語学・言語学の専門分野への導入となる知識を身につける。

【授業計画】

- (1) 古英語と中英語
- (2) 近代英語とアメリカ英語の誕生
- (3) 現代英語の多様性
- (4) ヨーロッパにおける英語事情
- (5) アジアにおける英語事情
- (6) イギリス英語とアメリカ英語の違い

【評価方法】

出席などの平常点(10%)、筆記試験(45%)、レポート(45%)により総合的に評価する。

【テキスト】

授業時に指示する。

【参考文献・資料】

授業時に指示する。

English Grammar II

金子輝美

【授業の概要】

高校時代に学習した英文法の知識をさらに深め、英語を使用する際に生かせるように努力する。教科書に加えて最新の英字新聞や雑誌などの補助教材を用いて、多くの英文に触れ、(理論)と(実践)の両面から、英語表現そのものを追求する。また身近なことを平易な英語で表現する練習をする。

【授業の目標】

英文法の学習を通して、個別言語としての英語の特質を明らかにし、英語を書いたり読んだりする際に英文法の知識を最大限に活用できるようにします。教材は当該教科書だけでなく、小説、評論、英字新聞、雑誌、映画シナリオ、NHKラジオ・テレビ講座テキストなどに広く求めます。

【授業計画】

- | | |
|------|------------|
| 第1回 | 英文法全般について |
| 第2回 | 関係代名詞 |
| 第3回 | 関係副詞 |
| 第4回 | 関係詞についての復習 |
| 第5回 | 不定詞 |
| 第6回 | 動名詞 |
| 第7回 | 不定詞と動名詞の復習 |
| 第8回 | 話法 |
| 第9回 | 進行形と単純形 |
| 第10回 | 現在完了形 |
| 第11回 | 過去完了形 |
| 第12回 | 完了形についての復習 |
| 第13回 | 後期の総復習 |
| 第14回 | 予備試験 |
| 第15回 | 定期試験 |

【評価方法】

出席状況、小テスト、定期試験、学習態度を総合的に考慮して評価します。各試験では、学習事項に関連した応用問題が出されることがあります。

【テキスト】

「コーパス英文法」(櫻野健次・内木場務 著、開拓社)

【参考文献・資料】

本学図書館は英語関係の蔵書は豊富です。授業の中で随時紹介します。

英米思想

SELAND, John

【授業の概要】

文学や言語を学び理解するには、それらの基盤をなすものについての知識が必要不可欠である。

欧米のアイデンティティーを性格づける中心的要素はキリスト教である。この授業では、英米におけるキリスト教的人間観や価値観を論考する。なお、授業の進め方については、極めて基本的な内容にとどめること、および、関心や理解を深めるために、具体的な例証を取り上げ解説することに留意する。

【授業の目標】

- ・キリスト教に関して知っておきたい常識を得ること。
- ・キリスト教に基づく人間観や価値観を考察すること。
- ・キリスト教が欧米の文化や人々の生き方に及ぼした影響を考察すること。

【授業計画】

以下のようなテーマで授業を行う。

- ・聖書
- ・キリスト教
- ・人間の尊厳

【評価方法】

小テスト、最終レポート

【テキスト】

プリントを配付する。その他、授業で指示する。

【参考文献・資料】

授業中に適宜配付又は指示する。

Speaking I

WOODMAN, Jo-Anne

【Course description】

This course aims to make the students more comfortable and confident in initiating and continuing a conversation in English. It will emphasize the vocabulary and other communication skills needed in normal everyday-life situations. The resources and teaching techniques employed will focus on situations relevant to Japanese students, for example: meeting foreigners in social settings; dealing with foreign customers; getting along with a host family during a home stay etc..

Cultural differences, relevant to each topic, will be introduced and discussed.

【Course objectives】

To provide ample opportunities for the students to improve their oral communication skills.

【Course schedule】

Students will talk about a wide variety of things including: their family; interests; part-time jobs etc.. They will be required to make recordings of their information / opinions as part of the on-going assessment.

Students will also be required to keep a "New Vocabulary" notebook.

【Assessment】

Active participation in all class activities will constitute the majority of marks awarded for this course. However, additional points will be awarded for the vocabulary lists.

Classwork 70% Vocabulary Notebook 30%

Speaking II

WOODMAN, Jo-Anne

【Course description】

This course aims to develop students' speaking proficiency, with particular emphasis placed on public speaking. The natural progression of speaking to a partner, then to small groups, and finally to larger groups will be the basis on which the class will be structured. Students will be encouraged to choose topics which will allow them to make such a transition relatively easily. Explaining about features of Japan and Japanese culture (in English) will be a key part of the practice sessions, and will provide the students with opportunities to appreciate the fundamentals of speaking in public.

【Course objectives】

This course will provide ample opportunities for the students to improve their oral communication skills.

【Course schedule】

The class time will be divided into three parts :

- Part A: vocabulary work
- Part B: discussion time
- Part C: student presentations

【Assessment】

Classwork (preparation and participation) 40%
Presentations 30%
Vocabulary 30%

Basic English Studies

平林美都子 太田直子 樗木勇作 久野幸子 小久保潤子
山田幹郎 若山真幸

【授業の概要】

英語圏の文学や文化そして英語を言語の習得や言語的な側面から幅広く理解するために、文学、演劇、言語研究の各領域からオムニバス方式で学ぶ。
(若山真幸) 世界に様々な言語と現代英語の特徴を考察する。
(樗木勇作) 洋楽から英語の発音や日本語との違いを訓練する。
(久野幸子) 英文学作品と書かれた時代の社会、政治、経済、思想、言葉との関係性を考察する。
(山田幹郎) シェイクスピア劇の読解からイギリス演劇への興味を喚起する。
(平林美都子) メルヘンのジェンダー構造を読み解き、隠されたジェンダーのメッセージを探る。
(太田直子) アメリカ小説のアメリカ人像や文化を解説する。
(小久保潤子) アメリカ小説に見られる文化を概観する。

【授業の目標】

英語圏世界に多様な言語・文化が存在することを学ぶ。

【授業計画】

第一回の授業時に、詳しいスケジュールについて説明をする。
・「世界の言語と英語」(若山)
・「洋楽で学ぶ英語音声学」(樗木)
・「文学(表現)とその外部」(久野)
・「シェイクスピアとイギリス演劇」(山田)
・「グリム童話におけるジェンダー表象」(平林)
・「アメリカ小説の中にもみるAmerican Dream」(太田)
・「アメリカ小説に見られる文化的キーワード」(小久保)
・(未定)

【評価方法】

第一回の授業時に説明する。

【テキスト】

授業内で適宜指示する。

【参考文献・資料】

授業内で適宜指示する。

ドイツ語 I

山尾 涼

【授業の概要】

初めはドイツ語の簡単な日常会話、挨拶から学び、毎回基礎となる文法事項を確認していきます。各授業でコラムなどを挟んでドイツと日本との文化や習慣の違いなどを紹介し、語学だけではなく総合的な学習を目指します。授業の進むペースは、参加者に合わせて進めていこうと思っていますので心配はいりません。

【授業の目標】

ドイツ語の基礎的な力を身に付けることが目標ですが文法的な知識だけではなく、とにかくドイツ語の学習を通じて、異文化そのものに興味を向けてもらうことが最も大きなねらいです。現地へ旅行した際に必ず役立つ簡単なドイツ語表現、知っておかなければならない習慣などを学びましょう。

【授業計画】

基本的にはテキストに沿って授業を進めますが、間に写真やドイツで今流行している音楽もしくは映画などを取り入れます。宿題等はないので、その分授業中に自主的な参加を求めます。積極的に声を出して学んでください。

- (1) 簡単な発音練習
- (2) 挨拶練習、数字
- (3) どこからきたの？簡単な受け答えの練習
- (4) 何をしているの？疑問詞を使った表現
- (5) これはいくらですか？買い物に役立つ表現
- (6) ～が欲しいです。買い物に役立つ表現2
- (7) コーヒーをお願いします。レストランで役立つ表現
- (8) ドイツの文化にまつわるクイズ
- (9) 学期の復習、質問に答えます
- (10) 学期末テスト

【評価方法】

学期末の試験が主ですが、積極的な授業への参加も同じく重視します。

【テキスト】

『ドイツ語インフォメーション』（秋田静男著 朝日出版社）

ドイツ語 II

山尾 涼

【授業の概要】

ドイツ語 I で学んだ基礎的な文法知識、会話力を応用し、実地に役立つ新しい表現等を学んでいきます。今回も各授業の際にコラムを通じてドイツの文化を紹介し、文化的な理解も同時に深めていきます。ドイツ語 I を受けていなくても、復習しながら学んでいきますので気軽に受講してください。授業の進むペースも参加者に合わせて進めていこうと思っていますので、心配はいりません。

【授業の目標】

ドイツ語 I と同じく、とにかくドイツ語の学習を通じて異文化そのものに興味を向けてもらうことが最も大きなねらいです。現地へ旅行した際に必ず役立つ簡単なドイツ語表現、知っておかなければならない習慣などを学びましょう。

【授業計画】

基本的にはテキストに沿って授業を進めますが、間に写真やドイツで今流行している音楽もしくは映画などを取り入れます。宿題等はないので、その分授業中に自主的な参加を求めます。積極的に声を出して学んでください。

- (1) 発音の練習
- (2) わたしはケーキを注文します。レストランで役立つ表現
- (3) 今日は寒いですね。天気表現
- (4) ～へはどのようにいけばいいですか？道を尋ねる方法
- (5) 道を尋ねる方法2
- (6) 猫は椅子の上で眠っています。場所、位置表現
- (7) 場所、位置表現2
- (8) ドイツの文化にまつわるクイズ
- (9) 学期の復習、質問に答えます
- (10) 学期末テスト

【評価方法】

学期末の試験が主ですが、積極的な授業への参加も同じく重視します。

【テキスト】

『ドイツ語インフォメーション』（秋田静男著 朝日出版社）

フランス語 I

清水ベアトリックス

【授業の概要】

フランス語をゼロから学ぶと共に、フランスの風俗、文化、習慣も味わうことのできる授業です。担当教員は受講生がフランス語の授業を通じての対仏理解を深めるための手助けをする。

日本で出版された平易なフランス語テキスト（CD付き）を使用して、受講生は、日常生活に必要なフランス語を身に付けることができます。

【授業の目標】

フランス語を日本語と英語と比較し、3カ国語の相違点と類似点を学び、国際的なコミュニケーション・スキルを築く。

【授業計画】

- 1) Unite 1 - パリの人々
- 2) Unite 1 - 動詞の活用について
- 3) Unite 2 - ホテルの部屋
- 4) Unite 2 - 名詞と形容詞について
- 5) Unite 3 - ヴォージュ広場
- 6) Unite 3 - 疑問文について - 小テスト
- 7) Unite 4 - ジュリアンと彼の写真
- 8) Unite 4 - 形容詞の位置 - 否定文について
- 9) Unite 5 - 蚤の市で - 小テスト
- 10) Unite 5 - 冠詞のまとめ
- 11) Unite 6 - ロダン美術館
- 12) Unite 6 - 指示形容詞 - 所有形容詞について - 小テスト
- 13) まとめ
- 14) まとめ
- 15) 試験

【評価方法】

定期試験を重視するが、小テスト（3回）、出席率、受講態度なども考慮に入れる。

【テキスト】

Elle est gourmande - 彼女は食いしん坊
(藤田 裕二 ・ 朝日出版社)

フランス語 II

清水ベアトリックス

【授業の概要】

前期のフランス語Iに引き続き同じテキストを使用し、より高レベルの文法・語彙を学ぶ。しかし、特にコミュニケーションに重点を置くので、「純粋なフランスの環境」の中で簡単な作文を書いたり、寸劇をしたりことにより、受講者自身の考えをフランス語で表現する能力を養成することを主目的とする。

【授業の目標】

フランス語を日本語と英語と比較し、3カ国語の相違点と類似点を学び、国際的なコミュニケーション・スキルを築く。

【授業計画】

- 1) 前期の復習
- 2) Unite 7 - 牛肉の赤ワイン煮
- 3) Unite 7 - 中性代名詞について
- 4) Unite 8 - サッカー
- 5) Unite 8 - 疑問形容詞 - 命令形 - 小テスト
- 6) Unite 9 - ボン・マルシェで
- 7) Unite 9 - 比較級 - 最上級
- 8) Unite 10 - クレールの両親の家で - 小テスト
- 9) Unite 10 - 代名動詞について
- 10) Unite 11 - ルーアンの街
- 11) Unite 11 - 複合過去について - 小テスト
- 12) Unite 12 - 空港にて
- 13) Unite 12 - 未来形
- 14) まとめ
- 15) 試験

【評価方法】

定期試験を重視するが、小テスト（3回）、出席率、受講態度なども考慮に入れる。

【テキスト】

Elle est gourmande - 彼女は食いしん坊
(藤田 裕二 ・ 朝日出版社)

ロシア語 I

水野晶子

【授業の概要】

ロシア語の基礎を学び、初歩的なロシア語の運用能力を身に付けます。授業ではロシア語の仕組み(文法)の学習と並行して、ロシアの音楽、絵画、民芸品、映画、料理など様々なロシア文化やロシアと英国との文化的関わりについても紹介します。様々なロシアの姿に触れることで、ことばの学習と同時にヨーロッパとアジアに跨る隣国ロシアへの理解を深めていきます。

【授業の目標】

キリル文字をマスターしロシア語の基本的な仕組み(文法)を理解すること、簡単な会話ができるようになること、そしてロシアについて自分なりの何か新しい見識を得ることを目標とします。

【授業計画】

毎回、プリントを配布し、プリントを中心に辞書を積極的に活用しながら授業を進めます。授業は英語の知識もロシア語学習にフル活用できるように展開していきます。一見少し風変わりなキリル文字、音楽のように美しい響きを持ったロシア語にぜひ一度、触れてみませんか。新しいことを学ぶことは、新しい世界への扉の鍵を手に入れることです。他では中々学ぶチャンスのないロシア語にチャレンジして、新たな世界を覗いてみましょう。去衛の宝庫であるロシア、「知」だけでは理解できないとされるロシア、心に響く何かとこっぴどく出会えること請け合いです！

授業では各回次のようなテーマでロシア語の仕組みについて学んでいきます。

1. キリル文字に慣れ親しむ①
2. キリル文字に慣れ親しむ②
3. ロシア語のいろいろな挨拶表現
4. 辞書でいろいろ調べてみよう！
5. 自分をロシア語で紹介しよう
6. ロシア語で尋ねてみよう
7. いろいろな形容詞を使ってみよう
8. 天気表現
9. 曜日の表現
10. いろいろな行為をロシア語にしてみよう
11. ～がほしい/～がしたい
12. 映画鑑賞
13. 気持ちをロシア語で伝えよう
14. 総復習
15. 試験

この他、ロシア語の仕組みの学習と並行しながら、受講生の希望に応じて初歩の段階からロシア語の作品を読むことに挑戦することも可能です。(参考：昨年度、挑戦した作品 民話「大きなかぶ」)

【評価方法】

①プリントの課題、②授業への参加度、③期末試験の三つの総合点で評価します。

【テキスト】

安藤厚 他 著『ロシア語ミニ辞典』白水社

Writing III (E-mail and Business letters)

CURRAN, Beverley

【Course description】

Living in an I.T. world means that students need to be familiar and comfortable with modern technologies such as e-mail. The aim of this course will be to ensure that students are able to write a variety of e-mails (for personal communication, business-letters, information enquiries, etc) in English. Students will be encouraged to incorporate a wide range of applications in their correspondence eg. Photo attachments, spreadsheet documents, etc.

【Course objectives】

The broad objectives of this course are to give students practice and develop their confidence in expressing themselves effectively in written English. More specifically, the goal is to prepare students to communicate in clear and concise English when writing email and other business correspondence. The course will begin with a survey of some of the computer skills required in business writing, including using the keyboard and word processing. The initial emphasis will be on composing short, focused and effective email and answering English email promptly. Expressions commonly used in a variety of e-mail messages will be introduced and practised, and there will also be a discussion of the varying registers that are appropriate for business. Students will learn the difference between a friendly and a more formal email message; how to organize an email message effectively; how to prepare a résumé written in English; how to write a cover letter for email and as a business letter; how to attach files to email; how to send an inquiry; how to respond to edited essays; and how to edit for accuracy.

【Course schedule】

- 第1回 Introduction
- 第2回 Writing and replying to a friendly email in English: speed and brevity
- 第3回 A closer look: the format and language of a friendly email in English
- 第4回 Comparing a friendly email and a business email
- 第5回 Writing for information: business email practice
- 第6回 Replying to a business email: standard expressions
- 第7回 Preparing an English résumé
- 第8回 Sending a cover letter and attached file
- 第9回 Writing a business letter (introduction to model format)
- 第10回 Writing a business letter (practice writing a draft)
- 第11回 Editing a document (editing and adding comments)
- 第12回 Electronic submissions and sending a business letter
- 第13回 Project introduction
- 第14回 Project preparation
- 第15回 Project submission (electronic and hard copy)

【Assessment】

Evaluation is based on effort, participation, and the quality, development, and timely submission of assignments.

【Textbooks】

No text is required.

ロシア語 II

水野晶子

【授業の概要】

ロシア語Iに引き続き、ロシア語の基礎を学び、ロシア語の初歩的な運用能力をステップアップさせていきます。ロシア語IIでは、ロシア語の仕組み(文法)についての知識をより深めていきますが、各回で取り上げる学習項目に関連させる形でロシアの文化についても適宜触れ、ロシアについての理解も深めていきます。

【授業の目標】

ロシア語の基本的な仕組み(文法)をロシア語Iから更に一歩進んだ形で理解すること、自分で簡単な文が作れるようになること、そしてロシアについて自分なりの何か新しい見識を得ることを目標とします。

【授業計画】

ロシア語Iと同様、毎回、プリントを配布し、プリントを中心に辞書を積極的に活用しながら授業を進めます。授業は英語の知識もロシア語学習にフル活用できるように展開していきます。

ロシア語IIの授業では各回次のようなテーマでロシア語の仕組みについて学んでいきます。

1. ロシア語のフォームアップ
2. 造格の作り方と使い方ー「～と一緒に」
3. 与格の作り方と使い方ー「ありがとう」の気持ちを伝えよう
4. ロシア語のお祝いメッセージと格の復習
5. 「～が欲しい!」「～がしたい!」表現
6. 形容詞の格変化
7. 与格の使い方①ーロシア語の年齢表現
8. 与格の使い方②ー「私は寒い!」「私には面白い!」
9. 与格の使い方③ー可能、禁止、必要性の表現
10. 所有表現「u + 生格」ー「私にはあなたがいるから…」
11. 動詞の体 (完了体・完了完了体)
12. 映画鑑賞
13. 未来の表現
14. 総復習
15. 試験

この他、ロシア語の仕組みの学習と並行しながら、受講生の希望に応じて初歩の段階からロシア語の作品を読むことに挑戦することも可能です。(参考：昨年度、挑戦した作品 民話「おだんごばん」)

【評価方法】

①プリントの課題、②授業への参加度、③期末試験の三つの総合点で評価します。

【テキスト】

安藤厚 他 著『ロシア語ミニ辞典』白水社

Writing III (E-mail and Business letters)

DOIRON, Heather

【Course description】

Living in an I.T. world means that students need to be familiar and comfortable with modern technologies such as e-mail. The aim of this course will be to ensure that students are able to write a variety of e-mails (for personal communication, business-letters, information enquiries, etc) in English. Students will be encouraged to incorporate a wide range of applications in their correspondence eg. Photo attachments, spreadsheet documents, etc.

【Course objectives】

To teach students to write e-mail and business letters in English.

【Course schedule】

The following course is designed to explore the process of writing different business letters. Several course assignments must be submitted by email.

- Week 1 : Types of business letters
- Week 2 : Writing an order letter
- Week 3 : Writing an inquiry letter
- Week 4 : Writing a complaint letter
- Week 5 : Class assignment
- Week 6 : Review
- Week 7 : Writing a response letter
- Week 8 : Writing an acknowledgment letter
- Week 9 : Writing an adjustment letter
- Week 10 : Writing a resume cover letter
- Week 11 : Class assignment
- Week 12 : Review

【Assessment】

70% Assignments and class work
30% Homework

Specific details to be announced at first meeting

【Textbooks】

Great Paragraphs
Keith Folse, Author, April Muchmore-Vokoun, Author, Elena Vestri Solomon, Author,
ISBN: 0618271929 • 2nd Edition © 2004

Writing III (E-mail and Business letters)

ABE, David

【Course description】

Living in an IT world means that students need to be familiar and comfortable with modern technologies such as e-mail. The aim of this course will be to ensure that students are able to write a variety of e-mails (for personal communication, business-letters, information enquiries, etc) in English. Students will be encouraged to incorporate a wide range of applications in their correspondence eg. Photo attachments, spreadsheet documents, etc.

【Course objectives】

- To understand the purpose of the internet
- To understand the difference between spoken and written discourse.
- To understand the way in which knowledge of generic structure of different text types improve writing.

【Course schedule】

The course will begin with:

- Explain how communicating with others can be a productive learning experience for students.
- List several forms of communication possible on the Web.
- Identify the most common use of the Internet.
- Register for a free e-mail account on the Web.
- Generate, send, retrieve, save, and organize electronic messages.
- Send electronic messages to several persons simultaneously.
- Send and receive electronic messages that include attachments.
- Create folders to store electronic messages.
- Employ proper etiquette in all forms of communication.
- Establish access to experts available on the Web to serve as primary sources in the classroom.
- Describe how to manage collaborative student projects that involve other classrooms around the world.
- Describe how chat sessions can be used by students for productive learning experiences.

【Assessment】

Assessment will be based on the following:

- Attendance 20%
 - Homework and assignments 20%
 - Midterm and final tests 60%
- More detailed information will be given in the first class.
Turn off all mobile phones.

【Textbooks】

TBA

Writing IV (Research Papers)

DOIRON, Heather

【Course description】

This course aims to develop students' skills in writing an essay in English. Specifically, it will require the students to choose a contemporary issue (about which they can conduct extensive research) and then write a preliminary essay plan, followed by a fully-fledged essay. The final essay will be expected to emulate the style of college essays in most western universities, complete with quotations, footnotes and references.

Inherent in the course will be the study of paragraph organization, as well as instruction regarding the effective presentation and support of ideas in written English.

【Course objectives】

To teach students the necessary skills required to write a research paper.

【Course schedule】

This course is designed to help students present results of the investigation on a selected topic. Students will have the opportunity to gather, interpret, and document information. Emphasis will also be on organizing and communicating ideas in a proper and legit format.

- Week 1 : Choosing a topic
- Week 2 : Taking notes
- Week 3 : Using Outlines
- Week 4 : Paper format
- Week 5 : Citing Sources
- Week 6 : Citing Sources
- Week 7 : Work cited page
- Week 8 : Principles of Composition
- Week 9 : Works cited
- Week 10 : Class assignment
- Week 11 : Class assignment
- Week 12 : Final project Due

【Assessment】

- 50% homework and assignments
- 40% final project
- 10% attitude

Specific details to be announced at first meeting

【Textbooks】

Great Paragraphs
Keith Folse, Author, April Muchmore-Vokoun, Author, Elena Vestri Solomon, Author,
ISBN: 0618271929 • 2nd Edition © 2004

Writing IV (Research Papers)

CURRAN, Beverley

【Course description】

This course aims to develop students' skills in writing an essay in English. Specifically, it will require the students to choose a contemporary issue (about which they can conduct extensive research) and then write a preliminary essay plan, followed by a fully-fledged essay. The final essay will be expected to emulate the style of college essays in most western universities, complete with quotations, footnotes and references.

Inherent in the course will be the study of paragraph organization, as well as instruction regarding the effective presentation and support of ideas in written English.

【Course objectives】

The goal of this course is to guide each student through the preparation of a research paper in English, from the selection of a research topic through to the final edit and timely submission of the paper. The emphasis is on students viewing the process of preparing a research paper in three stages – research (gathering content and listing references), writing (organization and expression) and editing (accuracy) – that each require attention.

【Course schedule】

- 第1回 Introduction
- 第2回 Preparing to write a research paper: understanding your goals
- 第3回 Selecting a suitable topic: realistic time management
- 第4回 Writing an introduction to outline your research plans
- 第5回 Gathering materials and how to record electronic and print references
- 第6回 Using research materials: how to avoid plagiarism and use quotations
- 第7回 How and when to make a footnote
- 第8回 Re-reading an essay and writing a conclusion
- 第9回 Formatting list of references
- 第10回 Completion and submission of the first draft
- 第11回 Revising to improve the contents and organization of the essay
- 第12回 Editing and writing an abstract
- 第13回 Oral presentation on research paper
- 第14回 Completion and submission of final draft
- 第15回 Reflection on process and setting new goals

【Assessment】

Evaluation is based on effort and time management, as well as the quality of the research paper.

【Textbooks】

No text is required.

【Reference】

TBA

Writing IV (Research Papers)

ABE, David

【Course description】

This course aims to develop students' skills in writing an essay in English. Specifically, it will require the students to choose a contemporary issue (about which they can conduct extensive research) and then write a preliminary essay plan, followed by a fully-fledged essay. The final essay will be expected to emulate the style of college essays in most western universities, complete with quotations, footnotes and references.

Inherent in the course will be the study of paragraph organization, as well as instruction regarding the effective presentation and support of ideas in written English.

【Course objectives】

- To learn to write a research paper in both MLA and APA standard form.
- To conduct academic research skills, through accessing online search engines.
- To develop reference skills.

【Course schedule】

The research paper, students must do the following:

- Conduct library research and demonstrate proficiency in the use of research technology, including on-line catalog, CD Rom, and other available computerized assists.
- Demonstrate proficiency in using standardized indices and reference works, books, periodicals, various electronic source material, and other appropriate resource.
- Utilize the following research components: bibliography cards, note cards, outlines, and drafts.
- Demonstrate skills in using the MLA and APA style of documentation along with an awareness of the existence of other documentation styles.
- Receive instruction through class discussion of plagiarism and its consequences. The research paper, students must do the following:
 - Conduct library research and demonstrate proficiency in the use of research technology, including on-line catalog, CD Rom, and other available computerized assists.
 - Demonstrate proficiency in using standardized indices and reference works, books, periodicals, various electronic source material, and other appropriate resource.
 - Utilize the following research components: bibliography cards, note cards, outlines, and drafts.
 - Demonstrate skills in using the MLA and APA style of documentation along with an awareness of the existence of other documentation styles.
 - Receive instruction through class discussion of plagiarism and its consequences.

【Assessment】

Assessment will be based on the following:

- Attendance 20%
 - Homework and assignments 20%
 - Midterm and final tests 60%
- More detailed information will be given in the first class.

【Textbooks】

TBA

Presentation I

WRINGER, Paul

[Course description]

This course will help to develop the students' ability and confidence in giving presentations in English. Students will be required to learn about various strategies, as well as how to use a variety of aids (including PowerPoint software), and to incorporate them into their presentations. Students will be encouraged to choose topics or themes which will facilitate visually exciting and effective presentations.

Preparation is the key to a good presentation, so considerable time will be allocated to preparing for the presentation, in consultation with the teacher.

[Course objectives]

- To provide students with an opportunity to express their ideas and opinions about a variety of current everyday issues.
- To develop presentation preparation skills, understand the importance of delivery, and to become familiar with a variety of visual aids (including PowerPoint) .

[Course schedule]

Topics for discussion will be organized into five categories or themes: People; Relationships; Workplace; Family; and Society. Each category has topics that explore important values in our lives and will give the students an opportunity to exchange and express their own values, ideas and opinions in pairs, small groups and eventually in a Presentation format.

A substantial part of this course is designed to introduce students to the basic use of PowerPoint, which is the most widely used presentation computer software. The goals of this introduction are as follows:

- Introduction to presentation software
- Basic design skills in presentation
- Integration of text, graphics and images
- Basic drawing skills
- Saving presentations

- Week 1 - 5: oral communication activities
- Week 6 - 10: oral communication activities and basic introduction to PowerPoint
- Week 11 - 15: Development and practice of simple PowerPoint presentation

[Assessment]

ASSESSMENT will be continual and include the following:

- * ATTENDANCE
- * CLASS PARTICIPATION/EFFORT
- * HOMEWORK
- * PRESENTATION

[Textbooks]

A decision about a suitable textbook will be made after the first week of classes.

Presentation I

DAVIES, Alun

[Course description]

This course will help to develop the students' ability and confidence in giving presentations in English. Students will be required to learn about various strategies, as well as how to use a variety of aids (including PowerPoint software), and to incorporate them into their presentations. Students will be encouraged to choose topics or themes which will facilitate visually exciting and effective presentations.

Preparation is the key to a good presentation, so considerable time will be allocated to preparing for the presentation, in consultation with the teacher.

[Course objectives]

1. Students will practise selecting and narrowing down suitable topics for communication and for later presentations.
2. Students will develop basic research skills connected to their topic of communication.
3. Students will develop and practise basic organizational skills for presentations.
4. Students will learn to use effectively Powerpoint presentation software.

[Course schedule]

Part of this course is designed to introduce students to the basic use of PowerPoint, which is the most widely used presentation computer software.

- Week 1 - 5 : oral communication activities
- Week 6 - 10 : oral communication activities and basic introduction to PowerPoint
- Week11 - 15 : Development and practice of simple PowerPoint presentation

[Assessment]

ASSESSMENT will be continual and include the following:

- * CLASS PARTICIPATION
- * HOMEWORK
- * PRESENTATIONS

[Textbooks]

A decision about a suitable textbook will be made after the first week of classes.

Presentation I

ABE, David

[Course description]

This course will help to develop the students' ability and confidence in giving presentations in English. Students will be required to learn about various strategies, as well as how to use a variety of aids (including PowerPoint software), and to incorporate them into their presentations. Students will be encouraged to choose topics or themes which will facilitate visually exciting and effective presentations.

Preparation is the key to a good presentation, so considerable time will be allocated to preparing for the presentation, in consultation with the teacher.

[Course objectives]

The course is design to develop various strategies for organizing and presenting. The course will also utilize MS PowerPoint, and out of classroom research from the internet.

The course will also investigate some of the factors that determine the difficulty of public speaking.

[Course schedule]

This Course will attempt to cover three presentations and a final major project.

[Assessment]

Assessment will be based on the following:

- Attendance 20%
- Class participation 20%
- Assignments 60%

More detailed information will be given in the first class.

Presentation II

ARNOLD, Brent C.

[Course description]

This course will further enhance the students' ability and confidence in giving presentations in English. Students will be required to refine and improve their presentation skills and strategies (in particular, their prowess with PowerPoint), whilst also demonstrating an improvement in their ability to prepare and deliver an effective presentation. Constructive advice and feedback from other participants will be encouraged.

[Course objectives]

The main objective for this course is to familiarise students with the capabilities of PowerPoint presentation software. To appreciate and use the software to facilitate more visual and verbal contact with listeners in an English environment.

[Course schedule]

Students will first be familiarised with teaching aids and how to use them. Short presentations will be given using teaching aids such as Video, voice recordings and OHC (Over Head Camera) . Main area of study will be the use of Microsoft PowerPoint and using it as a tool for presentations.

[Assessment]

Assessment will be based on attendance, research and presentations. (Attendance 25%, Presentations 75%)

[Textbooks]

No text, as necessary, however a memory device in the form of a USB memory stick will be required (min 128meg)

Reading III (Newspaper)

DYCUS, David C.

[Course description]

The purpose of this course is to improve students' ability to read and comprehend the types of texts commonly found in newspapers, with a focus on straight news articles. There will be a focus on developing knowledge of grammatical patterns and organizational patterns commonly associated with newspaper texts, and there will be an emphasis on topic-specific as well as general vocabulary development. In addition to serving as reading and study material, newspaper texts will also provide topics for discussion and other learning activities.

[Course objectives]

1. To improve students' ability to recognize common aspects of newspaper article organization and presentation of information.
2. To improve students' knowledge of vocabulary and grammatical patterns common to newspaper articles in general as well as specific content areas.
3. To improve students' ability to "read between the lines" and grasp a writer's intent.

[Course schedule]

The course will involve reading pre-selected newspaper articles and completing exercises on them. There will be a strong focus on the types of news commonly encountered in newspapers, namely accidents and disasters, crime, legal affairs, and national and international politics. The mastering vocabulary of the various types of news (domain vocabulary) as well as understanding the organization of news stories, which often differs from other types of expository writing, will also be emphasized. Articles may occasionally be selected depending on the news events of the day.

[Assessment]

Assessment will be ongoing. 40% of the grade will be based on attendance and active participation in class activities, and 60% will be based on an ongoing series of vocabulary/structure quizzes related to the weekly reading material and from review quizzes.

[Textbooks]

None

Reading III (Newspaper)

DOIRON, Heather

[Course description]

This course will concentrate on developing reading skills, expanding vocabulary, and increasing understanding of newspaper articles written in English. Focus will be on topical as well as practical applications of both common occurring terms and trends.

[Course objectives]

To encourage students to be more familiar with the contents and topics covered in English newspapers.

[Course schedule]

Topics that will be considered include:

World news
Health and related vocabulary
Headlines, reading and understanding
Sports, entertainment news
Business articles and vocabulary

[Assessment]

Assessment will be based on attendance, class participation, homework, and various reading and vocabulary quizzes throughout the course.

[Textbooks]

To be decided on at a later date.

Reading III (Newspaper)

MOLOTSI, Prisca

[Course description]

This course will focus on developing knowledge of common grammatical patterns and organizational patterns commonly associated with newspaper texts, and there will be an emphasis on topic-specific as well as general vocabulary development. In addition to serving as reading and study material, newspaper texts will also provide topics for discussion and other learning activities.

[Course objectives]

The purpose of this course is to improve students' ability to read and comprehend the types of texts commonly found in newspapers, with a focus on straight news articles, special columns, and editorials.

[Course schedule]

The course will combine a textbook of pre-selected newspaper articles and exercises with current newspaper texts selected weekly from major newspapers with comprehension questions and various exercises added. The combination of texts will provide reading and discussion material, and will also be the basis for regular vocabulary quizzes. Topics will depend on the news events of the day, selected either according to student interests or teaching needs.

[Assessment]

Assessment will be ongoing. One-third of the grade will be based on attendance and active participation in class activities, one-third will be based on vocabulary/structure quizzes related to the weekly reading material, and one-third will come from tests.

[Textbooks]

To be announced

Reading IV (Internet)

WRINGER, Paul

[Course description]

This course is aimed at lower to upper intermediate students of English. An integrated approach will be presented where there will be not only a focus on developing reading and listening skills, but also an inclusion of activities designed to develop the student's speaking and writing abilities. The thematically organized selections of reading material selected from various sources, including the internet, provides a balanced point of view while helping to nurture a range of analytical and critical thinking skills.

Also included are effective vocabulary skills exercises that are designed to increase student's vocabulary while helping them to cope with new words.

[Course objectives]

- To give students opportunities to read aloud and in private to get the gist of the reading material and to practice establishing meaning through contextual clues.
- To help students develop reading skills they will use throughout their reading careers—skills such as scanning, summarizing, identifying the main idea, and recognizing connectors and other devices.

[Course schedule]

Each topic will be covered over a two to three week period and will include some of the following themes:

- PEOPLE
- RELATIONSHIPS
- THE WORKPLACE
- FAMILY
- SOCIETY

[Assessment]

Assessment will be continuous and is based on the following criteria:
Attendance
Class participation
Homework and assignments
End of semester report

[Textbooks]

To be decided during the first week of classes

Reading IV (Internet)

ABE, David

【Course description】

Living in an I.T. world means that students need to be familiar and comfortable with modern technologies such as academic research on the web. The aim of this course will be to ensure that students are able to implement internet as tool for research in English. Students will be encouraged to incorporate a wide range of applications in their correspondence eg. Reading CNN global news, and exploring informative web site.

【Course objectives】

To conduct academic research skills, through accessing online search engines.

【Course schedule】

The first half of the course will focus on academic research methods. The second half of the course will implement these research methods into two research projects.

【Assessment】

Assessment will be based on the following:

attendance 20%
class participation 20%
assignments 60%

More detailed information will be given in the first class.

【Textbooks】

TBA

Reading IV (Internet)

DAVIES, Alun

【Course description】

An integrated approach to English with focus on developing reading and listening skills, but also an inclusion of activities designed to develop the student's speaking and writing abilities. The thematically organized selections of reading material selected from various sources, including the internet, provides a balanced point of view while helping to nurture a range of analytical and critical thinking skills.

Also included are effective vocabulary skills exercises that are designed to increase students' vocabulary while helping them to cope with new words.

【Course objectives】

1. Students will develop some appreciation of the structure of English writing and develop techniques for effective reading. The connection between reading and writing texts will be emphasised.
2. Students will learn how to develop and channel reading material into discussion work.
3. Students will develop some understanding of types of vocabulary, particularly lexical chunks.

【Course schedule】

A variety of topics will be covered over a two to three week period.

【Assessment】

Assessment will be continuous and is based on the following criteria:

Class participation
Homework and assignments

【Textbooks】

No textbook is required. Teacher handouts will be used

Academic Writing I

太田直子 樗木勇作 平林美都子 小久保潤子 若山真幸

【授業の概要】

この授業では、英文学科の必修科目である「課題実践（卒業論文）」作成に向けて、レポートや論文執筆のための基本的知識を体得した上で、実際にレポート執筆や論文作成の演習を行い添削指導を受け、同時にインターネットによる文献探索方法を含めた、研究手段・方法の基礎を固めることを目的とする。

【授業の目標】

「読む」とはどういうことか、レポート・論文とは何かを具体的に理解し、テキストの要約の作り方や批判的読解の方法について学んだことを実践できるようにする。また、レポート・論文の作成方法・構成・問題設定方法・注や参考文献の書き方についても学んだことを実践できるようにすることを目標とする。

【授業計画】

- 1 「読む」とはどういうことか
- 2 学術的な読書をする
- 3 要約をする
- 4 テキスト分析の具体例
- 5 レポート・論文とは何か
- 6 レポート・論文を書く準備
- 7 レポート・論文をまとめる
- 8 注、引用・参考文献表の書きかた
- 9 デイバートとは何か
- 10 デイバートの仕方
- 11 デイバートをする
- 12 プレゼンテーションとは何か
- 13 文献探索方法実習

* 授業計画の順番は授業担当者や実習の都合により前後することがある。

【評価方法】

出席・授業態度・授業内演習の態度・課題などを総合的に判断して評価する

【テキスト】

「読む・書く・プレゼン・デイバート」の方法（松本茂／河野哲也 玉川大学出版部 2007）

【参考文献・資料】

レポート・論文の書き方入門（河野哲也 慶應義塾大学出版会）

Academic Writing II

DYCUS, David C.

【Course description】

In this course students will work on producing texts with the style and logical organization associated with academic writing. Participants in this class will compare and contrast short academic texts with other types of texts as a way of seeing the differences in styles. These texts will also provide topics for the students to discuss and write about. Students will also study the common generic structure and organizational patterns of academic essays and reports. Summarizing skills and the proper use of citations, quotations, and paraphrases will also be addressed. Students will be expected to demonstrate mastery of these various points in academic essays and reports of their own on both assigned and self-selected topics.

【Course objectives】

The objective of this course is to improve students' ability to produce texts that meet commonly accepted standards for logical organization and clarity in texts in the academic genre.

【Course schedule】

The extent and rate of information covered in the course will depend in part on the ability of the students. The following are examples of what will definitely be covered in the course.

1. Differences and similarities between academic writing and other types of writing.
2. The generic structure of academic English essays and reports and related grammatical aspects and vocabulary.
3. Common text types in academic writing, especially comparison-contrast, cause-effect, analysis, and definition.
4. Useful strategies for writing introductions and conclusions in academic style.
5. Logical development and presentation of ones arguments.
6. Summarizing and paraphrasing other people's arguments, ideas, and research.

【Assessment】

Assessment will be ongoing. One third of the grade will be based on attendance and active participation in class, one third will be based on short homework assignments and quizzes, and one third will be based on a final research paper in which students will demonstrate how well they have mastered the skills taught in the course.

【Textbooks】

To be announced

Academic Writing II

DOIRON, Heather

[Course description]

This course will concentrate on developing writing skills aimed at non-personal and academic writing. Additionally, writing will be taught as process with emphasis on creating a body of writing, developing, structuring, and editing.

[Course objectives]

To encourage students to develop both practical and proper English writing skills.

[Course schedule]

Topics that will be considered include:

- Idea creation
- Developing topics
- Focusing topics
- Understanding the writing process
- Outlining
- Peer review
- Supplying supporting details
- Brainstorming
- Developing language skills through writing

[Assessment]

Assessment will be based on attendance, class participation, homework, and various writing exercises and vocabulary quizzes throughout the course.

[Textbooks]

Great Gatsby (F. Scott Fitzgerald)

British Culture

EASLEY, Keith

[Course description]

英語によるイギリス文化理解のための特別講座
イギリスの文化全般について、特にリーズ大学で行われる研修へとつながる内容を含みながら、英語聴解・発表力を養成すべく、指導するものである。併せて日本文化を相対化する視点・獲得も意図する。

The course will last for approximately twelve weeks, one period a week.

Many of the following subject areas will be considered :

- Britain's Contribution to World Culture
- Money and Work
- Language & History
- Education
- Food & Drink
- Traditions, Manners, and Attitudes
- Art, Film and Music
- Britain's Class System.
- Britain & Japan
- Everyday Living

These subjects are not exclusive of one another, & their interconnectedness will be emphasised. Throughout the course, the aim will be to show Britain's place in the World, historically & now. Class size may be limited and there may be a test in the first lesson.

[Course objectives]

1. To increase students' cultural understanding of the UK.
2. To develop students' language skills.

[Course schedule]

The course will be taught entirely in English. Each week there will be a lecture on one of the topics.

[Assessment]

Assessment will be by class participation, a test at the end of the semester, and homework essays.

[Textbooks]

None

Academic Writing II

MOLOTSI, Prisca

[Course description]

In this course students will work on producing texts with the style and logical organization associated with academic writing. Participants in this class will compare and contrast short academic texts with other types of texts as a way of seeing the differences in styles. These texts will also provide topics for the students to discuss and write about. Students will also study the common generic structure and organizational patterns of academic essays and reports. Summarizing skills and the proper use of citations, quotations, and paraphrases will also be addressed. Students will be expected to demonstrate mastery of these various points in academic essays and reports of their own on both assigned and self-selected topics.

[Course objectives]

The goal of Academic Writing II is to enable students to read and respond to academic texts written in English. Students are asked to read, evaluate, and respond to various texts. Throughout the semester, students should become familiar with the wide range of rhetorical options available—narration, classification, and argument. Students are also expected to learn how to argue a point of view in their papers, while taking into consideration the views of others. In doing this, students will need to know how to use the conventions of quotation, citation, and paraphrasing.

[Course schedule]

The extent and rate of information covered in the course will depend in part on the ability of the students. The following are examples of what will definitely be covered in the course.

1. Differences and similarities between academic writing and other types of writing.
2. The generic structure of academic English essays and reports and related grammatical aspects and vocabulary.
3. Common text types in academic writing, especially comparison-contrast, cause-effect, analysis, and definition.
4. Useful strategies for writing introductions and conclusions in academic style.
5. Logical development and presentation of ones arguments, as well as producing effective counter arguments.
6. Summarizing and paraphrasing other people's arguments, ideas, and research.

[Assessment]

Assessment will be ongoing. One third of the grade will be based on attendance and active participation in class, one third will be based on short homework assignments and quizzes, and one third will be based on longer pieces of writing such as student essays and reports.

[Textbooks]

To be announced

American Culture

DYCUS, David C.

[Course description]

This course will be a general introduction to the culture, customs, common practices, and common values of the people of the United States of America, and the historical background behind them. The goal of the course is to familiarize class participants with what are commonly termed "mainstream" values and practices (essentially those of the dominant white middle-class) as well as those of the major minority groups which form an increasingly large percentage of the population of the country. A solid understanding of any culture requires a general understanding of major social institutions such as religion, education, and the family, so these topics will also be covered.

[Course objectives]

The objective of this course is to provide students with a wide ranging introduction to the general aspects of American culture through the general framework of the values approach to cultural analysis.

[Course schedule]

The list below presents the topics which will be discussed in the class but not necessarily the order in which they will be presented.

1. Common American values and attitudes and how they shape the American world view
2. Living history: an overview of certain major events and figures in American history up the present and which influence modern American culture.
3. Religion and its place in modern American culture
4. Immigration in the past and ethnic relations today
5. The American Indians, past and present
6. The influence of "the West" on American thought
7. Marriage and family relations
8. Schooling
9. Holidays and ceremonial events
10. Communication preferences and style

[Assessment]

Assessment will be based on 1) attendance and participation (25%), 2) a presentation (25%), and a final test (50%).

[Textbooks]

To be announced

Irish Culture

CULLEN, Brian

【Course description】

The course will be centered around Irish history, moving from early history up to the formation of the Irish Republic. The culture, traditions and literature of Ireland will also be presented through short readings, videos, puzzles and activities. Most of the factual information will be presented in a source book. Depending on time, some of this material will not be covered in class. Students are encouraged to read further into their areas of interest in the source book or in the other reference materials which are suggested.

The literature of Ireland shall also be introduced through short pieces from famous Irish writers. There will be a mixture of new and old, including Yeats, Patrick Kavanagh, Oscar Wilde, Roddy Doyle and George Bernard Shaw. The songs of Ireland will also be well-represented in the course, linking into the various topics as much as possible.

【Course objectives】

This course will increase students' understanding of Irish culture.

【Course schedule】

Method: Students will be required to participate actively in class discussions and activities.

【Assessment】

Assessment: Grades will be based on participation, homework and a test.

【Textbooks】

Land of Song and Story : An Introduction to Ireland

【Reference】

You can download the audio files for the course (songs, poems, and stories) from:
www.perceptiapress.com/lss

英語学概論

大室剛志

【授業の概要】

英語学の全体像、研究領域の概要、研究課題などについて論じる。英語研究の現状をなるべく平明に紹介し、英語研究への動機を与え基盤を築くことを目標とする。また英語学の論文やレポートの書き方などにも言及する。

【授業の目標】

言語学における英語研究という立場から、英語を対象とする言語研究の分野や英語学で扱う事象を幅広く理解することを目標とする。

【授業計画】

説明 → 練習問題 → 解説

1. 英語学とは
2. 統語論 (1) 文の組み立て 文の構造、句の構造、X-bar理論
3. 統語論 (2) 文の組み立て 節の構造、複文の構造
4. 統語論 (3) 文法の操作 抽象的な構造、文法操作の性質
5. 統語論 (4) 文法の操作 島の制約、助動詞の振る舞い
6. 形態論 (1) 語の構成要素
7. 形態論 (2) 派生、複合
8. 音韻論 (1) 英語の音、音素
9. 音韻論 (2) 同化と異化、語の強勢
10. 意味論 (1) 意味の成分分析、動詞の成分分析
11. 意味論 (2) 成分分析の不足を補う、意味役割
12. 意味論 (3) 照応形の意味解釈
13. 語用論
14. 文法研究と心の研究
15. 総括

【評価方法】

1. 小テスト・試験 (50%)
2. 出席 (30%)
3. 授業への積極的参加 (20%)

授業への積極的参加とは、問題演習に取り組む姿勢、説明を聞く態度などを含む。

教科書と辞書は必ず各自で所有し、授業に持参すること。

【テキスト】

ファンダメンタル英語学 (中島平三著 ひつじ書房)

【参考文献・資料】

プリント等配布

比較文化

松本青也

【授業の概要】

何気なく喋ったり、行動したりしているつもりでも、私たちは常に自国文化の影響を受けています。「文化」を、集団が共有する価値観や規範の体系としてとらえ、日本人とアメリカ人の考え方や生き方を豊富な事例をもとに比較対照しながら、それぞれの文化の特質を浮き彫りにします。アメリカのテレビ番組や新聞雑誌の分析を加えながら講義と意見交換で進行するこの授業は、いわば自国文化に縛られた自分の姿を映し出す鏡。覗いてみると、もっと自由に伸びやかな生き方が目の前に広がります。

【授業の目標】

日米の文化を比較することで、それぞれの文化の特質を認識して異文化理解を深め、普遍的価値とは何かを考察する。

【授業計画】

1. 文化論
- 2～9. 文化変形規則 (CTR)
10. システムとしての CTR
11. 研究対象としての CTR
12. 日英語の衝突と CTR
13. CTRと学校英語教育
14. これからの日米文化
15. まとめ

【評価方法】

毎回の感想、最終レポート、出席状況による総合評価。

【テキスト】

日米文化の特質 (松本青也著 研究社)

英米文学概論

山田幹郎

【授業の概要】

英米の文学作品を分析するためには、文学技法の基礎を学習することが不可欠である。英米文学に対応鑑賞する基本的な態度と知識を論じていく。詩歌、劇作、小説の性質、諸要素が、実際の作品の中でどのように表現されているのかを分析、研究する。また文学の論文やレポートの書き方などにも言及する。

【授業の目標】

英文学の基礎的な知識を修得すること。

【授業計画】

テキストに即し原則として1週に1章ずつ探索し、必須の事項についてまとめ報告してもらう。

【評価方法】

レポート、小テスト、発表、出席による総合評価

【テキスト】

イギリス文学史 (川崎寿彦 成美堂)

【参考文献・資料】

随時紹介します。

英米文学概論

久野幸子

【授業の概要】

英米の文学作品を分析するためには、文学技法の基礎を学習することが不可欠である。英米文学に対応鑑賞する基本的な態度と知識を論じていく。詩歌、劇作、小説の性質、諸要素が、実際の作品の中でどのように表現されているのかを分析、研究する。また文学の論文やレポートの書き方などにも言及する。

【授業の目標】

- (1) 英米文学を読む、あるいは映像化された作品（映画やアニメなど）を観る愉しさを実感する。
- (2) 作品（の抜粋）を読みながら、文学技法の基礎を学ぶ。
- (3) 文学研究とは何かということをもとに文学の論文を読んで考える。

【授業計画】

7、8世紀ごろに始まったとされるイギリス文学の流れにほぼ従って、『ベオウルフ』から20世紀までの英文学について考察する。その過程で、(1) 叙事詩について (2) チョーサーと物語文学 (3) シェークスピアとその時代 (4) ジャーナリズムの誕生 (5) 小説の世紀 (6) 現代社会とユートピア文学などについて詳しく考察する。

【評価方法】

平常点（出席、受講態度など）と小テスト、期末テストで総合的に評価する。

【テキスト】

イギリス文学史（川崎寿彦 成美堂）

【参考文献・資料】

随時紹介する。

Practicum in English Linguistics I

若山真幸

【授業の概要】

英語音韻論・音声学の基礎知識、発展的研究内容を学習した上で、音韻論・音声学の知識を、実際の英語運用に活かせるようにさまざまなトレーニングを行う。

【授業の目標】

- ・音声学や音韻論の内容をベースに、それらが他の英語学分野とどのように関連するか学習する
- ・日英語で使用される音声を学び、日本語との違いを理解する
- ・音やリズムのしくみを知り、実際の英語運用能力向上につなげる

【授業計画】

- ・ Sounds and Symbols
- ・ Vowels and Consonants
- ・ Syllable Structure
- ・ Phonotactics & phonological rules
- ・ Intonation patterns
- ・ Rhythm and Assimilation
- ・ Phonological Phenomena in Literature

これらのテーマに関する文献や資料、あるいは様々な音声・映像サンプルを使って講義を進める。

【評価方法】

出席状況、課題レポート、学期末試験

【テキスト】

適時、プリントを配布する

【参考文献・資料】

授業中に紹介する

Practicum in English Linguistics I

樗木勇作

【授業の概要】

英語音韻論・音声学の基礎知識、発展的研究内容を学習した上で、音韻論・音声学の知識を、実際の英語運用に活かせるようにさまざまなトレーニングを行う。

【授業の目標】

英語音声学を英語形態論と統合的に扱い、英語の音声のルールや単語の成り立ちについて基礎的理解を得ることを目標とする。

【授業計画】

1. Spelling and Sounds in English
2. Phonemes
3. The Consonants of English
4. The Vowels of English
5. Phonemes and allophones
6. The Systematicity of Phonology
7. Environment and Contrast
8. Phonological rules
9. Vowel Nasalization in English
10. Vowel Lengthening in English
11. Aspiration in English
12. Flapping in American English
13. English Phonotactics
14. Syllable Stress in English

【評価方法】

未定（最初の授業等で説明する）

【テキスト】

未定（最初の授業等で説明する）

【参考文献・資料】

未定（最初の授業等で説明する）

Practicum in English Linguistics II

樗木勇作

【授業の概要】

英語形態論・統語論の基礎知識、発展的研究内容を学習した上で、形態論・統語論の知識を、実際の英語運用に活かせるようにさまざまなトレーニングを行う。

【授業の目標】

英語形態論・統語論を中心に音声学や音韻論とも統合的に扱うことで、英語の単語構造や文構造について基礎的理解を得ることを目標とする。

【授業計画】

単語がどのように作られ、その単語が組み合わせられてどのように「文」になるのかを考察する。学問的には、morphologyは形態論、syntaxは統語論と呼ばれるが、そのような難しい用語は気にせず、身近な日本語の例と比較しながら、語形成や文形成をどのように処理しているか一緒に見つけていきたい。

- ・ ことばを構成する要素にはどんなものがあるか？
- ・ 単語の構成 - 形態素
- ・ 様々な語形成
- ・ 語形成に関する様々な制約
- ・ 文の形成
- ・ 文の基本語順とは？
- ・ 英語と日本語の基本語順の違い？
- ・ 文の曖昧性はどのように生じるのか？
- ・ 基本語順とは違う語順の文 - 疑問文や受動文
- ・ その他様々な構文を考察する

【評価方法】

授業への積極的参加・演習態度 (40%) + レポート (30%) + 出席 (30%)

【テキスト】

未定

【参考文献・資料】

授業中に随時紹介する

Practicum in English Linguistics II

若山真幸

【授業の概要】

英語形態論・統語論の基礎知識、発展的研究内容を学習した上で、形態論・統語論の知識を、実際の英語運用に活かせるようにさまざまなトレーニングを行う。

【授業の目標】

- ・音から語、語から句、句から文へのつながりについて学習する
- ・音韻論・形態論・統語論がいかに密接に結びついているか学習する
- ・日英語の違い等を知る

【授業計画】

単語がどのように作られ、その単語が組み合わさって、どのように文になるのかを考察する。学問的には、morphologyは形態論、syntaxは統語論と呼ばれるが、そのような難しい用語は気にせず、テレビCMのキャッチコピー、ネーミング、歌、言葉遊びなどに含まれる現象を取り上げながら授業を進める。

- ・ことばを構成する要素にはどんなものがあるか？
- ・単語の構成－形態素
- ・様々な語形成
- ・語形成に関する様々な制約
- ・文の形成
- ・文の基本語順とは？
- ・英語と日本語の基本語順の違い？
- ・文の曖昧性はどのように生じるのか？
- ・その他様々な構文を考察する

【評価方法】

出席状況、課題レポート、学期末試験

【テキスト】

適時プリントを配付する

【参考文献・資料】

授業中に随時紹介する

Practicum in English Linguistics III

若山真幸

【授業の概要】

英語意味論・語用論の基礎知識、発展的研究内容を学習した上で、意味論・語用論の知識を、実際の英語運用に活かせるようにさまざまなトレーニングを行う。

【授業の目標】

言葉の意味や情報構造の概略を学び、英語及び言語コミュニケーションの一層の理解を深める。意味論・語用論の内容をもとに、発話した文を日常生活でどうやって運用しているかに焦点をあてる

- ・言葉や文が持つ意味とは？
- ・コロケーションなどの語と語の意味的な結びつき
- ・皮肉や比喩を言語学的に分析する
- ・発話行為、情報構造（語順の絡みで統語論と重なる）などを学習する

【授業計画】

意味論に関して

- ・Homophony and polysemy（同音異義と多義）
- ・Semantic Feature（意味素性）
- ・Metaphor（比喩）
- ・Collocation and grammaticality（コロケーション）

を取り上げ、我々が頭の中の考え（コンセプト）を言葉にかえるメカニズム、また、語と語の結びつきの法則について考察する。

語用論に関して

- ・Information Structures（情報構造）
- ・Conversational Implicature（会話の含意）
- ・Cooperative Principle（協調の原則）

を取り上げ、言葉はどうやって運用しながら、相手に本当の意味を伝えるのかを考察する。

【評価方法】

出席状況、課題レポート、学期末試験

【テキスト】

授業用資料を配布する

【参考文献・資料】

未定（最初の授業等で説明する）

Practicum in English Linguistics III

樗木勇作

【授業の概要】

英語意味論・語用論の基礎知識、発展的研究内容を学習した上で、意味論・語用論の知識を、実際の英語運用に活かせるようにさまざまなトレーニングを行う。

【授業の目標】

英語意味論・語用論を中心に、音声学・形態論・統語論とも統合して、言語の意味の仕組みやコンテキスト・話し手・聞き手のダイナミズムで決定される語用論の中心概念について基礎的理解を得ることを目標とする。意味論・語用論にとどまらず、イギリス英語とアメリカ英語の違い等にも一定の理解を得ることを目指す。

【授業計画】

1. Compositional and Noncompositional meaning
2. Ambiguous words
3. Ambiguous sentences
4. Homophony and polysemy
5. Evaluative and Emotive meaning
6. Idioms and Pronouns
7. Identifying the Message
8. Communication Breakdown
9. Literal/Nonliteral Use
10. Indirectness
11. Performative Verbs versus Perlocutionary Verbs
12. Pronoun/Antecedent Agreement: English

【評価方法】

未定（最初の授業等で説明する）

【テキスト】

未定（最初の授業等で説明する）

【参考文献・資料】

未定（最初の授業等で説明する）

Practicum in English Linguistics III

大室剛志

【授業の概要】

英語意味論・語用論の基礎知識、発展的研究内容を学習した上で、意味論・語用論の知識を、実際の英語運用に活かせるようにさまざまなトレーニングを行う。

【授業の目標】

英語意味論・語用論を中心に、音声学・形態論・統語論とも統合して、言語の意味の仕組みやコンテキスト・話し手・聞き手のダイナミズムで決定される実際の言語運用を理解しながら、自らの言語運用を高める訓練も行う。また、ビデオを利用し、言語運用の背景となるアメリカの文化と社会についても学ぶ。

【授業計画】

1. Dictation and Linguistic Explanation and Way of Shopping
2. Dictation and Linguistic Explanation and Important Things in Life
3. Dictation and Linguistic Explanation and Volunteer Activity
4. Dictation and Linguistic Explanation and Space Station
5. Dictation and Linguistic Explanation and Jeans
6. Dictation and Linguistic Explanation and Suing
7. Dictation and Linguistic Explanation and Thanks Giving Day
8. Dictation and Linguistic Explanation and Parental Abduction
9. Dictation and Linguistic Explanation and Christmas Tree
10. Dictation and Linguistic Explanation and Seeking a Better Life
11. Dictation and Linguistic Explanation and Designer Vegetables
12. Dictation and Linguistic Explanation and Lobsterman

【評価方法】

出席、授業での活動、毎回授業時に行われ小テストの総合点で評価する。

【テキスト】

プリント配布、最初の授業時に音声教材へのアクセス方法について説明する。

【参考文献・資料】

プリント配布

The Best British/American series

太田直子

【授業の概要】

最新の雑誌や、現在活躍する作家のエッセーや短編などをはじめとして、様々なジャンルについて書かれたものを読む。今のアメリカ文学はどんな作品が読まれているのかを知ると共に、政治経済等の関わりをも考察しながら現在のアメリカを読む。

【授業の目標】

「アメリカを知る」を目標に、今のアメリカを出版物を通してみる。アメリカの今を知るために、英字新聞、雑誌の記事を読むと同時に、アメリカの歴史・過去を大統領をはじめとしたアメリカを代表する人々のスピーチを読んで探求する。アメリカ流の主張、思想を知ることも試みる授業であるので、翻訳することが目標ではない。

【授業計画】

The Best American Seriesの中から、短編小説、エッセーを読むことはもちろん、最新の雑誌、そしてスピーチ集から、アメリカらしい文章をよむ。輪読で与えられた教材を読み、さらにそれについてディスカッションする。

【評価方法】

学期末レポート50%、授業内での発表・発言50%

【テキスト】

プリントを配布

【参考文献・資料】

授業中に説明する

Introduction to English Reading I (novel)

小久保潤子

【授業の概要】

翻訳のためには、まずテキストを精読することが不可欠である。英文読解力を深めるとともに、作品を理解するために、作者の思想、作品が書かれた時代背景、叙述技法など様々な視点から総合的に作品を理解する。文化的背景を考慮しながら作品の意図を読みとり、翻訳の基礎を学習する。

【授業の目標】

アメリカ文学を代表する作家の短編を採り上げて精読し、確実な読解力・翻訳力を身につけることを目標とする。文体を楽しみながら作家・作品や時代背景等への理解を深め、アメリカ小説の特徴を学んでもらいたい。また、テキスト分析を通じて文学作品読解の可能性を探り、様々なテーマへと視野を広げることを目指したい。

【授業計画】

アメリカの代表的な短編を取り上げ、丁寧に読み進めていく。半期で3～4作品を読む予定。

- ・O. Henry
"Afer Seven Years"
- ・E. Hemmingway
"The Indiann Camp"
他

各授業には和訳する作業が含まれる。加えて、担当者を決め、担当箇所の内容に関して発表してもらい、その後クラス全体でディスカッションしながら進めていく。

【評価方法】

授業態度、出席・予習状況、授業への積極的参加、レポート、定期試験の成績、などを総合的に評価する。

【テキスト】

未定
(テキストとプリント使用する。)

【参考文献・資料】

授業中に指示する。

Introduction to English Reading I (novel)

久野幸子

【授業の概要】

翻訳のためには、まずテキストを精読することが不可欠である。英文読解力を深めるとともに、作品を理解するために、作者の思想、作品が書かれた時代背景、叙述技法など様々な視点から総合的に作品を理解する。19世紀、20世紀の英米の短編小説をとりあげ、作品の意図を読み取り、翻訳の基礎を学習する。

【授業の目標】

- (1) まず、英文を正確に読みとる力を養成する。
- (2) 作品が書かれた時代について学ぶ。
- (3) 作品の叙述技法などについて学ぶ。

【授業計画】

18,19世紀のイギリス作家の短篇や小説(抜粋)を素材に、作品の特質とそれらを生み出した社会との関係を考察する。今年度は児童文学、ファンタジー文学も考察の対象としたいと考えている。

【評価方法】

平常点(出席、受講・発表態度など)と期末テストで総合的に評価する。

【テキスト】

未定

【参考文献・資料】

授業中に指示するほか、プリント配布。

Introduction to English Reading I (novel)

平林美都子

【授業の概要】

翻訳のためには、まずテキストを精読することが不可欠である。英文読解力を深めるとともに、作品を理解するために、作者の思想、作品が書かれた時代背景、叙述技法など様々な視点から総合的に作品を理解する。19世紀、20世紀の英米の短編小説をとりあげ、作品の意図を読み取り、翻訳の基礎を学習する。

【授業の目標】

- (1) 英文を正確に読みとる力を養成する。
- (2) 語り手の語り方(叙述技法)を学び、心理的描写を読みとる力を養成する。
- (3) 英語の音読がきちんとできるようにする。

【授業計画】

現代カナダの女性作家Margaret Atwoodの短編小説を読む。毎回、英文の音読をする。

- ・"The War in the Bathroom"
- ・"The Resplendent Quetzal"
- ・"A Travel Piece"

【評価方法】

平常点(出席、受講・発表態度など)と期末テストで総合的に評価する。

【テキスト】

授業で配付する予定。

【参考文献・資料】

授業中に指示するほか、プリント配布。

Introduction to English Reading I (novel)

太田直子

【授業の概要】

翻訳のためには、まずテキストを精読することが不可欠である。英文読解力を深めるとともに、作品を理解するために、作者の思想、作品が書かれた時代背景、叙述技法など様々な視点から総合的に作品を理解する。19世紀、20世紀の英米の短編小説をとりあげ、作品の意図を読み取り、翻訳の基礎を学習する。

【授業の目標】

アメリカの1920年、30年代を代表する作家の短編を読む。一つ一つの単語を大切に丁寧に意味をとり訳すことはもちろん、作品が描かれた時代背景も考察する。

【授業計画】

次の作品を読む

Sherwood Anderson "Death in the Woods"

John Steinbeck "Shark"

Ernest Hemingway "The Capital of the World"

作家、時代背景については解説をし、授業では、指名された学生が音読し訳す作業を行う。

【評価方法】

学期末のテスト+提出物
出席による加点はないが、授業を1/3の以上欠席した場合は、履修意欲がないと見なし、その事実を評価の対象とする。
詳しくは授業内で説明する。

【テキスト】

「Best American Short Stories (I)」編注者 寺門泰彦 (太陽社) 1,600円

【参考文献・資料】

授業の際に説明する

Introduction to English Reading II (poetry & drama)

山田幹郎

【授業の概要】

英米の詩、演劇の形式をまず理解するところから学習する。詩は、各語、各行にこめられた作者の意図を理解し、いかにそれを日本語で表現するのかを研究する。本来、劇として上演されるべき台本を、文学作品として読み取っていく。ト書をはじめとして、演劇の独特な技法がどのように作品に反映されているかを研究しながら、作品を理解し、翻訳していく。

【授業の目標】

英詩の読解力を涵養すること。

【授業計画】

イギリスの珠玉の詩編の形式と内容を具体的に丹念に分析・解釈し、翻訳していく。

【評価方法】

レポート、ショートテスト、朗読、出席回数によります。

【テキスト】

イギリス名詩選 (平井正徳編 岩波文庫)

【参考文献・資料】

随時紹介します。

Introduction to English Reading II (poetry & drama)

三原 穂

【授業の概要】

英米の詩、演劇の形式をまず理解するところから学習する。詩は、各語、各行にこめられた作者の意図を理解し、いかにそれを日本語で表現するのかを研究する。本来、劇として上演されるべき台本を、文学作品として読み取っていく。ト書をはじめとして、演劇の独特な技法がどのように作品に反映されているかを研究しながら、作品を理解し、翻訳していく。

【授業の目標】

英米の詩を、その内容を十分に理解したうえで、日本語に正確にかつうまく訳す方法を考える。このように、翻訳の基礎力を養うと同時に、英詩における韻律の重要性を認識したい。

【授業計画】

ワーズワスやポーなどの比較的簡単に短い英詩を取りあげて、英詩の読み方の基本を学ぶ。さらに、三週間に一回の割合で発表の機会をつくり、一回ないし二回発表を行ってもらう。

【評価方法】

出席状況(20%)、授業態度(10%)、発表への取り組み具合(30%)、発言などによる授業への貢献度(10%)、レポート(30%)など、総合的に評価したい。

【テキスト】

ハンドアウトを配布する。

【参考文献・資料】

随時紹介したい。

【参考文献・資料】

随時紹介します。

Introduction to English Reading II (poetry & drama)

山田久美子

【授業の概要】

英米の詩、演劇の形式をまず理解するところから学習する。詩は、各語、各行にこめられた作者の意図を理解し、いかにそれを日本語で表現するのかを研究する。劇は本来上演されるべき台本を、文学作品として読み取っていく。ト書をはじめとして、演劇の独特な技法がどのように作品に反映されているかを研究しながら、作品を理解し、翻訳していく。

【授業の目標】

詩の形式を理解し、朗読することを意識しながら翻訳する。また、演劇については、台詞を深く理解し、登場人物の気持ちを分析しながら翻訳する。

【授業計画】

1. いくつかのイギリス・アイルランドの詩を解釈しながら読み、翻訳する。また、CDやDVDなどで、詩の朗読鑑賞も行う。
2. 演劇とはどういうものかという基礎的なことを学び、作品を読みながら、舞台上演を意識した日本語にしていく。

【評価方法】

出席や受講態度などの平常点、レポート、定期試験により、総合的に評価する。

【テキスト】

Old Possum's Book of Practical Cats (T.S Eliot著 古川弘之編注 音羽書房鶴見書店)

【参考文献・資料】

講義時に指示する。

English Reading I (novel)

平林美都子

【授業の概要】

Introduction to English Reading I (novel) で学んだ基礎知識と英文読解力をもとに、英米文学を精読し、翻訳を試みる。現代の英米文学ばかりでなく、広くにイギリス、アメリカ文学全般の小説を研究対象とする。

【授業の目標】

英語小説を1冊読破するには、英語力と忍耐力が必要である。逐語訳をすることなく英文を速読し、小説を読み通す力を身につける。

【授業計画】

アメリカのヤング・アダルト向けの小説家Cynthia Voigtの *Homecoming* を読む。

【評価方法】

毎回の授業準備とその発表、及び期末テストによる評価。

【テキスト】

Homecoming (Cynthia Voigt, Simon Pulse, 2002)

【参考文献・資料】

授業内で説明する

English Reading I (novel)

太田直子

【授業の概要】

Introduction to English Reading I (novel) で学んだ基礎知識と英文読解力をもとに、英米文学を精読し、翻訳を試みる。現代の英米文学ばかりでなく、広くにイギリス、アメリカ文学全般の小説を研究対象とする。

【授業の目標】

前期に開講された、「Introduction to English Reading I (novel)」に引き続き、1920年・30年代に活躍した作家の短編小説を取り上げる。書かれた時代背景、作者の意図を読み取ることができるよう、単語の一つ一つにも注意を払って読み、訳せるようになることを目標とする。

アメリカの独特の文化を、文学作品を通して理解し、実感してほしい。

【授業計画】

次の作品を読む。

William Faulkner, "A Rose for Emily"

F. Scott Fitzgerald, "The Ice Palace"

作家や作品の描かれた時代背景について調べ、それが作品にどのように反映されているのかを考察する時間ももうける。

【評価方法】

学期末テストと提出物、発表による評価

【テキスト】

「Best American Short Stories (I)」編注者 寺門泰彦 (太陽社) 1,600円

【参考文献・資料】

授業内で説明する

English Reading I (novel)

小久保潤子

【授業の概要】

Introduction to English Reading I (novel) で学んだ基礎知識と英文読解力をもとに、英米文学を精読し、翻訳を試みる。現代の英米文学ばかりでなく、広くにイギリス、アメリカ文学全般の小説を研究対象とする。

【授業の目標】

前期に引き続き、アメリカ文学を代表する作家の短編を探り上げて精読し、さらなる読解力・翻訳力を養うことを目標とする。文体を楽しみながら作家・作品や時代背景等への理解を深め、アメリカ小説の特徴を学んでもらいたい。また、テキスト分析を通じて文学作品読解の可能性を探り、様々なテーマへと視野を広げることを目指したい。

【授業計画】

アメリカの代表的な短編を取り上げ、丁寧に読み進めていく。
半期で3～4作品を読む予定。

- ・E. Caldwell
"The Strawberry Season"
- ・S. Anderson
"The Egg"
- 他

各授業には和訳する作業が含まれる。加えて、担当者を決め、担当箇所の内アメリカの代表的な短編を取り上げ、丁寧に読み進めていく。

【評価方法】

授業態度、出席・予習状況、授業への積極的参加、レポート、定期試験の成績、などを総合的に評価する。

【テキスト】

未定
(テキストとプリントを使用する。)

【参考文献・資料】

授業中に指示する。

English Reading II (poetry & drama)

山田幹郎

【授業の概要】

Introduction to English Reading II (poetry & drama) で学んだ基礎知識をもとにして、英米の詩・演劇を翻訳する。詩については、その絵画性、音楽性などを多角的に探求して、思想、情緒を研究する。演劇は、原作または翻訳作を実際に演じることを試みる。

【授業の目標】

シェイクスピア喜劇の読解力を涵養すること。

【授業計画】

シェイクスピアの代表的な喜劇1編の主な箇所を精読し、翻訳する。

【評価方法】

レポート、ショートテスト、朗読、翻訳による総合評価によります。

【テキスト】

Twelfth Night (安西徹雄 編注 大修館)

【参考文献・資料】

随時紹介します。

English Reading II (poetry & drama)

山田久美子

【授業の概要】

Introduction to English Reading II (poetry & drama) で学んだ基礎知識をもとにして、英米の詩・演劇を翻訳する。詩については、その絵画的性、音楽性などを多角的に探求して、思想、情緒を研究する。演劇は、原作または翻訳作を実際に演じることを試みる。

【授業の目標】

いくつかの詩と演劇作品を解釈しながら、翻訳することを目標とする。特に、詩の翻訳は、朗読することを意識しながら、美しい日本語で表現する。演劇は、登場人物の性格や気持ちを理解し、演じることを意識しながら、翻訳する。

【授業計画】

アイルランドの詩と現代イギリス演劇を取り上げ、文化的背景、作家などについて学びながら、翻訳をする。

1. 詩については、朗読し、日本語として自然であるかどうかを確認する。
2. 演劇が総合芸術であることを意識し、演劇の台詞を日本語にする。
英語と日本語の両方で、リーディングをしたり演じたりする。
また、映像などで作品についての理解を深める。

【評価方法】

出席や受講態度などの平常点、レポート、定期試験により、総合的に評価する。

【テキスト】

プリント

【参考文献・資料】

講義時に指示する。

English Reading II (poetry & drama)

三原 穂

【授業の概要】

英米の詩、演劇の形式をまず理解するところから学習する。詩は、各語、各行にこめられた作者の意図を理解し、いかにそれを日本語で表現するのかを研究する。本来、劇として上演されるべき台本を、文学作品として読み取っていく。ト書をはじめとして、演劇の独特な技法がどのように作品に反映されているかを研究しながら、作品を理解し、翻訳していく。

【授業の目標】

前期で築いた翻訳の基礎力を土台にして、比較的難しく長い英詩の解釈を試みる。できれば、邦訳されていない作品を翻訳することを目指したい。

【授業計画】

授業内で、バラッド詩などを翻訳する訓練を行う。さらに、三週間に一回の割合で発表する機会をつくり、各自が関心をもつ英詩について、一人一回ないし二回のプレゼンテーションを行ってもらう。

【評価方法】

出席状況(20%)、授業態度(10%)、発表への取り組み具合(30%)、発言などによる授業への貢献度(10%)、最後に提出されるレポート(30%)など、総合的に評価する。

【テキスト】

ハンドアウトを配布する。

【参考文献・資料】

随時紹介したい。

社会言語学 I

DONAHUE, Ray T.

【Course description】

An entrance into the interface of language, communication and community. A major goal is to develop an understanding of concepts and principles by which to make informed decisions about sociocultural matters, such as the relation between language, dialects, and accents; bilingualism and society; ethnicity and communication style; gender and language; language and equality, and so on.

【Course objectives】

- 1 to learn basic concepts and principles of sociolinguistics and intercultural communication
- 2 to increase perceptual skill and cultural awareness
- 3 to learn basic discourse analysis
- 4 to improve English comprehension skills through an academic content study

【Course schedule】

Tentatively, the course schedule follows but the instructor reserves the right to make changes where appropriate.

- 1 Course Introduction
- 2 Sociolinguistics as a Field of Study
- 3 Concepts of Society and Culture
- 4 Language, Society, and Identity (1)
- 5 "
- 6 Language, Society, and Identity (2)
- 7 "
- 8 Language, Society, and Ethnicity
- 9 "
- 10 Language, Society, and Gender
- 11 "
- 12 Language, Society, and Culture
- 13 "
- 14 Cross-Cultural Applications

【Assessment】

Class participation and assignments 25%; tests 75%

【Textbooks】

To be announced in class.

社会言語学 II

DONAHUE, Ray T.

【Course description】

A further entrance into the interface of language, communication and community. This course is a continuation of 社会言語学 I, by which to make informed decisions about sociocultural matters, such as the relation between language, dialects, and accents; bilingualism and society; ethnicity and communication style; gender and language; language and equality, and so on. Study focuses on the HOW (process), as compared to the WHAT (content), of observation and interpretation of sociolinguistic matters.

【Course objectives】

- 1 to learn basic concepts and principles of sociolinguistics and intercultural communication
- 2 to increase perceptual skill and cultural awareness
- 3 to learn basic discourse analysis
- 4 to improve English comprehension skills through an academic content study

【Course schedule】

Tentatively, the course schedule follows but the instructor reserves the right to make changes where appropriate.

- 1 Introduction
- 2 Discourse, Communication and Culture
- 3 "
- 4 Sociological Concepts and Principles
- 5 "
- 6 Sociocultural Factors and Perception
- 7 "
- 8 Application: Comparative Views of Culture and Beauty
- 9 "
- 10 Contrastive Discourse Analysis (CDA)
- 11 Contrastive Rhetoric
- 12 "
- 13 Further Applications of CDA
- 14 "

【Assessment】

Class participation and assignments 25%; tests 75%

【Textbooks】

To be announced in class.

History of British & American Literature I・II

久野幸子

【授業の概要】

8世紀から19世紀までのイギリス文学の概略を学ぶ。どのような時代背景のなかでどのようなジャンルのどのような作品が生まれるのかを追求し、さらに文学そのものの大きな流れを読み取る。

【授業の目標】

イギリス文学の歴史を、イギリス、ヨーロッパあるいは世界の歴史との関連のなかで、考察する。かつては大英帝国として、世界に君臨した英国だが、現在はヨーロッパの主要国のひとつでしかない。しかし、英語が世界語となりつつある現在、イギリス文学の歴史を学ぶ意義は大きいと思われる。小説だけではなく、詩や戯曲も時間の許す限り、扱いたい。

【授業計画】

前期:

16世紀ごろから18世紀まで

後期:

19世紀から現代まで

【評価方法】

小テストと学期末テスト（またはレポート）

【テキスト】

未定

【参考文献・資料】

取り上げる時代や作家によって異なるので、授業中に説明する

映像メディア英語 I

若山真幸

【授業の概要】

本授業では、音声・映像メディアを通して、「実際の英語」に触れる機会を増やして英語のリスニング力や活きた表現を習得する。

【授業の目標】

- 英語学の知識（音声・音韻・形態・談話）を使って、英語のリスニング力を高めるコツを理解する。
- 映像メディアを使って、これまで学習した英語表現・文法事項を再確認したり、基本的な文法項目を再確認する。
- テレビ放送やインターネットなどの身近な「メディア」の英語学習に有効な利用方法を考える。

【授業計画】

- ビデオ・音楽教材を使った英語のリスニング・ディクテーション
- 映像教材の中に隠された英語やことばのしくみを見つけ出す
- メディア教材などの収集の方法・実演

【評価方法】

出席状況、3つのレポート等の課題などで評価する

【テキスト】

適時メディアマテリアルを提示したり、補助のプリントを配付する

【参考文献・資料】

何かあれば授業中に随時紹介する

History of British & American Literature I・II

太田直子

【授業の概要】

20世紀までのアメリカ文学の概略を学習する。イギリス、フランスの植民地から、現代のアメリカ合衆国に発展した新しい国の軌跡を追い、その政治、文化社会からどのように文学作品が生まれてきたのかを理解する。

【授業の目標】

アメリカという国が、どのような過程で現在の大国になったのか、そして、その中で文学がどんな役割を果たしてきたのかを理解できるように、アメリカの歴史とともに、文学の歴史を理解する。

アメリカ文学の魅力を発見して、一冊でも多くの作品を読む機会になることを願う。

【授業計画】

前期:

植民地時代からロマン主義時代（～1865）

- 植民地時代から19世紀初期まで
移住記録から政治文書まで
詩
小説
- ジャクソニアン・デモクラシーの時代から南北戦争まで
詩、随筆、評論
超絶主義者たち、その他

後期:

リアリズム時代の文学から現在まで

- 南北戦争から第一次世界大戦まで
小説、詩
- 二つの世界大戦の間
小説、詩演劇
- 第二次世界大戦以降
小説（南部・黒人・ユダヤ人作家）、詩、演劇、批評

【評価方法】

学期末テスト（またはレポート）

【テキスト】

「アメリカ文学史」（中村、加藤、唐澤、福田、丹羽著 英宝社）2,600円

【参考文献・資料】

取り上げる時代や作家によって異なるので、授業中に説明する

映像メディア英語 II

若山真幸

【授業の概要】

- 英語学の知識（音声・音韻・形態・談話）を使って、英語のリスニング力を高める。
- 映像メディアの中から、これまで学習した英語表現・文法事項を再確認したり、英語学の新たな知識を習得する。
- 自分たちで「マテリアル」を収集・作成して、最終的には一つの作品としてプレゼンテーションする能力を磨く。

【授業の目標】

- 英語力の知識（音声・音韻・形態・談話）を使って、英語のリスニング力を高めるコツを理解する。
- 映像メディアを使って、これまで学習した英語表現・文法事項を再確認したり、基本的な文法項目を再確認する。
- テレビ放送やインターネットなどの身近な「メディア」の英語学習に有効な利用方法を考える。

【授業計画】

- ビデオ・音楽教材を使った英語のリスニング・ディクテーション
- 映像教材の中に隠された英語やことばのしくみを見つけ出す
- コンピュータを使ったビデオ・音楽メディア作成

【評価方法】

出席状況、3つのレポート等の課題などで評価する

【テキスト】

適時メディアマテリアルを提示したり、補助のプリントを配付する

【参考文献・資料】

何かあれば授業中に随時紹介する

映画で読むイギリス文化 I

EASLEY, Keith

【Course description】

British Culture in Films

This course uses films to consider aspects of British culture and to deepen students' understanding of the UK. Since it is partly literature-related, it also aims to explore the links between film and literature, and to encourage students to develop their interest in reading British literature.

【Course objectives】

1. To provide cultural understanding of the UK.
2. To develop students' language skills.

【Course schedule】

There will be four blocks or sections, each centred on the showing of at least parts of a particular film. Key themes will be discussed at the beginning and end of each section, along with explanation and classwork on the cultural aspects of the films. There will be regular reviews for revision purposes and to bring out cultural links between the sections.

【Assessment】

Assessment will be based on attendance, participation, coursework and a final examination.

【Textbooks】

No textbook.

The film/video list will be announced at the beginning of the course.

映画で読むイギリス文化 II

平林美都子

【授業の概要】

異なる時代背景のいくつかの映画を通して、イギリスの文化の諸相を学ぶ。民族性、階級、ジェンダー、宗教、王室などのトピックを選び、そこからイギリスの文化、社会を理解する。

【授業の目標】

- (1) イギリスの文化の諸相を理解する。
- (2) 時代や地域によって「イギリス文化」と称されるものがどのように異なるのかという、文化の多様性を理解する。

【授業計画】

1. アメリカを失った18世紀後半のイギリス
『英国万歳』
2. 19世紀初頭のロンドンの下町社会と上流社会
『マイ・フェア・レディ』
3. 戦前のイギリスの愛国心と宗教
『炎のランナー』
4. サッチャー政権と20世紀末の炭鉱労働者
『プラス!』

【評価方法】

授業の出席、発表およびレポートにより、総合的に評価。

【テキスト】

未定。

【参考文献・資料】

授業内で配付。

映画で読むアメリカ文化 I

中村栄造

【授業の概要】

この授業の目的は、主に映画、その他の映像メディアを通じてアメリカの文化や歴史に対する認識を深めることにある。特に文学作品が原作となっている映画をおもに鑑賞し、歴史的、文化的意義を考察する。

【授業の目標】

表象芸術の一形態である映画が、文化理解のうえで非常に有効なツールであることを理解する。

【授業計画】

1. 『クルーシブル』、『緋文字』に見るピューリタン文化の陥穽
2. 『モヒカン族の最後』とアメリカン・ヒーローの生成
3. 『リップ・ヴァン・ウインクル』、『スリーピー・ホロウの伝説』とフランクリン的価値
4. 『ウォルデン』と超越主義
5. ポーの作品とアメリカ・ロマン主義のダーク・サイド
6. 『白鯨』と近代文明の限界

【評価方法】

レポート

【テキスト】

プリント教材配布

【参考文献・資料】

巽孝之、『アメリカ文学史 — 駆動する物語の時空間』(慶應義塾大学出版会)

映画で読むアメリカ文化 II

中村栄造

【授業の概要】

この授業の目的は、主に映画、その他の映像メディアを通じてアメリカの文化や歴史に対する認識を深めることにある。特に文学作品が原作となっている映画等を鑑賞し、その歴史的、文化的意義を考察する。前期の授業内容を受けてさらに発展的な知識の獲得を目指す。

【授業の目標】

表象芸術の一形態である映画が、文化理解のうえで非常に有効なツールであることを理解する。

【授業計画】

1. 『ハックルベリー・フィンの冒険』にみる「アメリカ社会の成長」の辛辣な寓話
2. 『華麗なるギャツビー』とアメリカの夢と挫折
3. 『回転』に見る人間の深層心理
4. 『怒りの葡萄』とプロレタリアートの悲劇
5. 『老人と海』にみる男のロマン(とその虚構性)について
6. 『ブライト・ライツ、ビッグ・シティー』にみる<ダメ男>の現実
7. ジェンダーの視点から見る『エイリアン』

【評価方法】

レポート

【テキスト】

プリント配布

【参考文献・資料】

巽孝之、『アメリカ文学史 — 駆動する物語の時空間』(慶應義塾大学出版会)

Advanced Literature I (British)

CURRAN, Beverley

【Course description】

19、20世紀のイギリス文学を研究する。イギリス文学の伝統と新しい文学がどのように融合していったのか、19、20世紀の作品を通して探っていく。

【Course objectives】

This goal of this course is to watch or read together and talk about contemporary cultural productions in Britain, and, in the process, improve listening and the expression of ideas in spoken and written English.

【Course schedule】

- 第1回 Introduction: Culture in Transit
- 第2回 A.A. Milne: When We Were Very Young/Now We are Six
- 第3回 Comparing culture: Milne's Winnie-the-Pooh and Disney's version
- 第4回 British music: poetry and performance
- 第5回 British music: introducing a British band (student presentation)
- 第6回 Shakespeare on film: Othello 1 (historical context)
- 第7回 Shakespeare on film: Othello 2 (class discussion)
- 第8回 Othello: Comparing play and film versions
- 第9回 Reading Othello
- 第10回 Canadian versions of Othello
- 第11回 Contemporary British culture: introduction to student project
- 第12回 Contemporary British culture: model presentation and preparation
- 第13回 Student presentations on Contemporary British culture
- 第14回 British Culture in Japan: a discussion
- 第15回 Review and submission of written report

【Assessment】

Assessment will be based on effort, willingness to discuss ideas and express them in written assignments, and quality of work, as well as attendance.

【Textbooks】

no text

【Reference】

TBA

English Linguistics I

中野弘三

【授業の概要】

英語学の特定の研究課題に焦点をあて、掘り下げて幅広い視点から考察する。集められたデータをもとに、整合性のある理論構築へ向けて探求する手法を学ぶ。

【授業の目標】

英語意味論をテーマとして、英語表現の意味分析法の理解を目指す。意味論の基本問題（意味の本質、意味の種類、意味と指示など）を解説したのち、このクラスでは英語の動詞の意味分析の仕方を考察する。

【授業計画】

- 1) 言語の意味の本質
- 2) 意味の種類
- 3) 意味と指示(1)
- 4) 意味と指示(2)
- 5) 動詞の種類
- 6) 動詞の種類と完了形(1)
- 7) 動詞の種類と完了形(2)
- 8) 動詞の種類と進行形(1)
- 9) 動詞の種類と進行形(2)
- 10) 項の意味役割(1)
- 11) 項の意味役割(2)
- 12) 様々な動詞構文(1)
- 13) 様々な動詞構文(2)
- 14) 動詞の意味と統語構造
- 15) 期末試験

【評価方法】

主として期末試験により評価する。

【テキスト】

プリントを使用する。

【参考文献・資料】

Meaning and the English Verb (2nd Edition) (1987) (G.N. Leech ひつじ書房)
The English Verb (2nd Edition) (1987) (F.R. Palmer Longman)
 語の意味と意味役割 (2001) (米山三明・加賀信宏著 研究社)

Advanced Literature II (American)

CURRAN, Beverley

【Course description】

20世紀アメリカ文学を研究する。文化・文学の後進国であったアメリカが、どのような作家と作品によって世界に認められる文学を作り上げていったのか、その歴史を追いながらアメリカ20世紀文学の特徴を考察する。

【Course objectives】

This goal of this course is to read together and talk about contemporary English literature and other cultural productions in the Americas and, in the process, improve listening and the expression of ideas in spoken and written English.

【Course schedule】

- 第1回 Introduction
- 第2回 The Polar Express: American Children's Literature
- 第3回 The Polar Express: Inventing Santa Claus
- 第4回 The Polar Express: Comparing the story and film
- 第5回 Zoom Goes to Sea: Canadian Children's Literature
- 第6回 Zoom Goes to Sea: Sexual Discovery
- 第7回 Romeo and Juliet as an American story: West Side Story
- 第8回 West Side Story as a story of immigration
- 第9回 African-American Romeo and Juliet: Mississippi Masala
- 第10回 African Americans and Africa: Mississippi Masala
- 第11回 American music: poetry as performance
- 第12回 Introduction to student presentations on American culture: a model
- 第13回 Preparation of student presentations
- 第14回 Student presentations and discussion
- 第15回 Review and submission of written report on presentation topic

【Assessment】

Evaluation will be based on extent of engagement and effort made in class discussion and written assignments.

【Textbooks】

No textbook required.

English Linguistics II

中野弘三

【授業の概要】

英語学の特定の研究課題に焦点をあて、掘り下げて幅広い視点から考察する。理論構築のみではなく、コーパス等を駆使し英語のデータをなるべく多く集め、丁寧に分析していく手法を学ぶ。

【授業の目標】

English Linguistics Iに続いて、英語意味論をテーマとして、英語表現の意味分析法の理解を目指す。このクラスでは文の意味の分析方法を紹介し、文の意味分析の有用性や問題点を知ってもらう。

【授業計画】

- 1) 発話の場における文の意味(1)
- 2) 発話の場における文の意味(2)
- 3) 命題の種類
- 4) 命題の種類と補文の関係(1)
- 5) 命題の種類と補文の関係(2)
- 6) 発話行為(1)
- 7) 発話行為(2)
- 8) 文の発話の意味構造(1)
- 9) 文の発話の意味構造(2)
- 10) 法性
- 11) 法助動詞の意味(1)
- 12) 法助動詞の意味(2)
- 13) 接続詞の分析(1)
- 14) 接続詞の分析(2)
- 15) 期末試験

【評価方法】

主として期末試験により評価する。

【テキスト】

プリントを使用する。

【参考文献・資料】

Meaning and the English Verb (2nd Edition) (1987) (G.N. Leech ひつじ書房)
Modality and the English Modals (2nd Edition) (1990) (F.R. Palmer Longman)

British & American Literature I

小久保潤子

【授業の概要】

作家・作品について解説した文章を手がかりに、映画化された、いわゆる「古典」とされているアメリカ文学作品を取り上げ、視覚的側面からも文化的背景への理解を深めていく。

【授業の目標】

時代背景を考慮しながら、英米の文学作品についての幅広い知識を得ることを目標とする。また、原作と映画を比較することで、映画化される際に行われた変更の意味を考え、英語圏の文化への理解を深めたい。

【授業計画】

- ・ Introduction
- ・ Louisa May Alcott *The Little Women*
- ・ Herman Melville: *Moby Dick*
- ・ Nathaniel Hawthorne: *The Scarlet Letter*

他
翻訳でよいので、事前に作品世界に触れておくこと。必要箇所では原文を検討する。

加えて、各授業ごとに担当者を決めて、作家・作品について調べ、発表してもらう予定である。その後、クラス全体でディスカッションの上、作品について考えてみたい。

【評価方法】

授業態度、出席、参加、口頭発表、レポート、学期末テスト等から総合的に評価する。

【テキスト】

未定。
他、授業中に指示する。

【参考文献・資料】

授業中に指示する。

British & American Literature II

小久保潤子

【授業の概要】

前期に引き続き、映画化された英米文学作品を取り上げる。作家・作品について解説した文章を参照しながら、テキスト表象と映画表象の比較対照を試みたい。文字テキストを視覚的側面からも考えることで、作品世界の文化的背景についての理解を深めていく。余裕があればアメリカ文学とイギリス文学の比較も試みたい。

【授業の目標】

時代背景を考慮しながら、英米の文学作品についての幅広い知識を得ることを目標とする。また、原作と映画を比較することで、映画化される際に行われた変更の意味を考え、英語圏の文化への理解を深めたい。テキスト表象と映画表象の差異を検討することで、批評眼を養うことも目標とする。

【授業計画】

- ・ Emily Bronte: *Wuthering Heights*
- ・ Edith Wharton: *The Age of Innocence*

他
翻訳でよいので、事前に作品世界に触れておくこと。必要箇所では原文を検討する。

加えて、各授業ごとに担当者を決めて、作家・作品について調べ、発表してもらう予定である。その後、クラス全体でディスカッションの上、作品について考えてみたい。

【評価方法】

授業態度、出席、参加、口頭発表、レポート、学期末テスト等から総合的に評価する。

【テキスト】

未定。
授業中に指示する。

【参考文献・資料】

授業中に指示する。

Interlingual Communication I

WOODMAN, Jo-Anne

【Course description】

This course aims to engage the students in discussions about contemporary Japanese culture, whilst also providing them with some opportunities to compare and contrast their own environment with that of people in other countries.

Students will have to talk about (and explain) aspects of Japanese culture and lifestyle in English, so the participants will be required to display self-confidence in discussions, and demonstrate a learned interest in Japanese culture and cultural differences.

Students who have already travelled overseas, or who have a keen interest in communicating with foreigners, will benefit the most from this course.

【Course objectives】

The students will be encouraged to familiarize themselves with the way foreigners see Japanese culture.

【Course schedule】

Each lesson will be divided into three sections:
Section 1: What's in the news? Discussion
Section 2: Cultural conundrums - Discussion
Section 3: Show and Tell - Student presentations

【Assessment】

Presentations 40%
Participation 35%
Attendance 25%

Interlingual Communication I

HARRIS, Richard S.

【Course description】

This course aims to engage students in discussions about contemporary Japanese culture, it provides opportunities for comparisons and contrast Japanese lifestyles with that of people in other countries. In English. Participants will be required to display self-confidence in discussions, and demonstrate a learned interest in Japanese culture and cross cultural differences. Students who have already traveled overseas, or who have a keen interest in communicating with foreigners, will benefit the most from this course.

【Course objectives】

Students will be encouraged to familiarize themselves with the way foreigners view Japanese culture.

【Course schedule】

Each lesson will be divided into three sections:
Section 1: What's in the news? Discussion
Section 2: Cultural conundrums - Discussion
Section 3: Show and Tell - Student presentations

【Assessment】

Presentations 40%
Participation 35%
Attendance 25%

【Textbooks】

optional

【Reference】

optional

Interlingual Communication II

WOODMAN, Jo-Anne

【Course description】

Interlingual Communication I should be regarded as a kind of prerequisite for this course because the students will build on the ideas and theories developed in the earlier course. Furthermore, students will endeavor to discover the key to "good" communication by analyzing problems in cross-cultural communication. Areas of study will include such things as: misunderstandings caused by Japanese English words and expressions; misinterpretation of gestures; and other cultural conundrums.

【Course objectives】

The students will be encouraged to develop mutual empathy with foreigners, so as to facilitate better interaction.

【Course schedule】

Each lesson will be divided into three parts:
Part A: Student presentations
Part B: Cultural conundrums - discussion
Part C: Issues in contemporary Japan - student opinions (recorded on IC recorders)

【Assessment】

Presentations 40%
Participation 35%
Attendance 25%

Interlingual Communication II

HARRIS, Richard S.

【Course description】

Inter-lingual Communication I is a recommended prerequisite for this course because the students will build on the ideas and theories developed in the earlier course. Furthermore, students will expand key skills for "Better English Communications" by analyzing difficulties of cross-cultural communication. Areas of study will include such things as: misunderstandings caused by Japanese English words and expressions; misinterpretation of gestures; and other cultural conundrums.

【Course objectives】

The students will be encouraged to develop mutual empathy with foreigners, so as to facilitate better interaction.

【Course schedule】

Each lesson will be divided into three parts:
Part A: Student presentations
Part B: Cultural conundrums - discussion
Part C: Current Issues in contemporary Japan

【Assessment】

Presentations 40%
Participation 35%
Attendance 25%

【Textbooks】

Optional

【Reference】

Optional

Creative Writing I

EASLEY, Keith

【Course description】

The aim of this course is to develop students' abilities to produce original imaginative writing in English. Models of prose, poetic and dramatic forms will be studied, with a view to students producing their own work in these forms. The course will, therefore, involve some reading and critical discussion, but the emphasis throughout will be on the students' own writing.

The course may be limited in number. Prospective students are advised to bring an example of their own writing to the first class: this may be any form of original, imaginative writing.

【Course objectives】

To help students improve their writing through the use of imagination.

【Course schedule】

In the first semester we will focus on descriptive writing, poetry, and narrative. In the second semester we will also concentrate on dialogue, situation and viewpoint expressed in a number of forms.

【Assessment】

The course involves regular written homework. Assessment will be continuous.

There will be no final test.

【Textbooks】

NONE.

Creative Writing II

EASLEY, Keith

【Course description】

The aim of this course is to develop students' abilities to produce original imaginative writing in English. Models of prose, poetic and dramatic forms will be studied, with a view to students producing their own work in these forms. The course will, therefore, involve some reading and critical discussion, but the emphasis throughout will be on the students' own writing.

The course may be limited in number. Prospective students are advised to bring an example of their own writing to the first class: this may be any form of original, imaginative writing.

【Course objectives】

To help students improve their writing through the use of imagination.

【Course schedule】

In the first semester we will focus on descriptive writing, poetry, and narrative. In the second semester we will also concentrate on dialogue, situation and viewpoint expressed in a number of forms.

【Assessment】

The course involves regular written homework. Assessment will be continuous.

There will be no final test.

【Textbooks】

NONE.

日英対照言語学 I

大室剛志

【授業の概要】

日本語と英語の共通点・相違点等について、通言語的観点から学ぶ。学習者は表層上の違いの奥に潜む、自然言語としての共通点を学び、両言語の特徴を客観的視点から捉えなおすことが期待される。

【授業の目標】

一定の一般言語理論を枠組みとして仮定した上で、日本語と英語の共通点・相違点等について学ぶ。その際、両言語の表面的な相違の背後に潜む、自然言語としての共通点に注意を向けることにする。微妙な言語直感を働かすことができる日本語を頼りにしながら、英語の輪郭を掴むことを目指す。

【授業計画】

1. 形態論とレキシコン
2. 形態論とレキシコン
3. 形態論とレキシコン
4. 統語論 生成文法
5. 統語論 生成文法
6. 統語論 生成文法
7. 統語論 機能主義
8. 統語論 機能主義
9. 統語論 機能主義
10. 意味論
11. 意味論
12. 意味論
13. 総括

【評価方法】

出席、授業への参加度、学期末試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

日英語対照による英語学概論（西光義弘編集 くろしお出版）

【参考文献・資料】

授業時に随時紹介する。

日英対照言語学 II

大室剛志

【授業の概要】

日本語と英語の共通点・相違点等について、通言語的観点から学ぶ。学習者は自然言語としての共通点をもちに、相違点はどこから生ずるのか、一定の説得力のある説明原理からのアプローチを行う。両言語の特徴を客観的視点から捉えなおすことが期待される。

【授業の目標】

一定の一般言語理論を枠組みとして仮定した上で、日本語と英語の共通点・相違点等について学ぶ。その際、両言語の表面的な相違の背後に潜む、自然言語としての共通点に注意を向けることにする。微妙な言語直感を働かすことができる日本語を頼りにしながら、英語の輪郭を掴むことを目指す。

【授業計画】

1. 音声学
2. 音声学
3. 音声学
4. 音韻論
5. 音韻論
6. 音韻論
7. 語用論
8. 語用論
9. 語用論
10. 英語史
11. 英語史
12. 日本語史
13. 総括

【評価方法】

出席、授業への参加度、学期末試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

日英語対照による英語学概論（西光義弘編集 くろしお出版）

【参考文献・資料】

授業時に随時紹介する。

比較文学 I

森本素世子

【授業の概要】

比較文学はヨーロッパで19世紀に、日本では20世紀になって登場した比較的新しい学問分野である。しかしながら、その進歩はめざましく、今日では、文学のみならず、より広く文化をも含めた興味深い比較研究がなされるようになってきている。本講では、英米以外の英語の作品を精読することで、異文化の特徴を浮き彫りにすると同時に、そこから逆に日本および日本人の特徴をも探っていく。

【授業の目標】

実際に何本かの作品を読み、その内容を把握したうえで、各自の視点から比較考察ができるようにする。

【授業計画】

前期は、インドの作家R.K.Narayanの短編を中心に読む。

【評価方法】

定期試験に、出席・予習状況および授業への参加度を加味し、総合的に評価する。

【テキスト】

適宜プリントを配布する。

【参考文献・資料】

適宜指示する。

比較文学 II

森本素世子

【授業の概要】

比較文学はヨーロッパで19世紀に、日本では20世紀になって登場した比較的新しい学問分野である。しかしながら、その進歩はめざましく、今日では、文学のみならず、広く文化をも含めた興味深い比較研究がなされるようになってきている。本講では、日本および日本人について書かれた英語の作品を通して書く側の特徴を浮き彫りにすると同時に、そこから逆に私たちの気づかない日本や日本人の特徴をも探ってみる。

【授業の目標】

実際に何本かの作品を読み、その内容を把握し味わうこと、そして各自の視点から比較考察ができるようにする。

【授業計画】

ラフカディオ・ハーン of の作品を読む。

【評価方法】

定期試験に、出席・予習状況および授業への参加度を加味し、総合的に評価する。

【テキスト】

Lafcadio Hearn “Japanese Smile” (Lafcadio Hearn 北星堂書店)

【参考文献・資料】

適宜指示する。

専門演習 I

太田直子

【授業の概要】

アメリカを代表する作家の作品を数多く読む。作品の分析だけでなく、作品の描かれた時代背景、そして作家研究をすることにより、さらに深い理解を試みる。

【授業の目標】

数多くの作品を読むことで、アメリカ文学の流れを理解することはもちろん、時代や土地によって異なるアメリカ小説の魅了感じてほしい。

作品は何を訴え、そして、何を表していたのか。作品を通して、アメリカの姿、人間の本性を読み取ることを目標とする。

【授業計画】

- 1) Introduction
- 2) Nathaniel Hawthorne, "Young Goodman Brown"
- 3) Mark Twain, "The Celebrated Jumping Frog of Calaveras County"
- 4) Henry James, "The Real Thing"
- 5) Stephen Crane, "The Upturned Face"
- 6) Theodore Dreiser, "The Lost Phoebe"
- 7) Sherwood Anderson, "The Egg"
- 8) Katherine Anne Porter, "Flowering Judas"

【評価方法】

発表とレポート

【テキスト】

「Anthology of American Short Stories」(Naoko Ueno, 南雲堂, 1,942円)

【参考文献・資料】

授業内で説明する

専門演習 I

久野幸子

【授業の概要】

- (1) イギリス文学作品から数編を選び、原作を読み解くと同時にそれらが書かれた時代との関係を、歴史的、社会的、経済的視点から考察する。
- (2) イギリス文化とイギリス文学との関係を考察する。童話、児童文学、探偵小説など、さまざまなジャンルの作品についても考察する。
- (3) イギリス文学は映像化されている場合が多いので、視聴覚教材を多用する。

【授業の目標】

- (1) イギリス文化についての基礎知識の修得(1)
 - (2) イギリス文学についての基礎知識の修得(1)
 - (3) 各ジャンルについての基礎知識の修得
- 上記3項目について、視聴覚教材も用いて、随時、実践してもらう予定だが、とにかくどのようなジャンルの作品であれ、原作を読む楽しさを実感してもらいたいと願っている。

【授業計画】

<イギリス文学と社会(1)>をテーマに、イギリス文学から作品を選ぶ。作品としては、古典といわれているものだけでなく、探偵小説やファンタジー小説など一般に親しまれている作品も加え、イギリス文学により多く親しんでもらう予定である。

【評価方法】

平常点(出席、受講・発表態度、教室での発言など)と筆記テストで総合的に評価する。

【テキスト】

未定

【参考文献・資料】

授業中に指示するほか、プリント配布。

専門演習 I

樗木勇作

【授業の概要】

現代英語学

英語を言語学的な点から研究できるようになるための入門コース。まずは学校で習ってきた英文法を復習し、言語学の見方でとらえ直すことで英文読解力の向上に結びつける。同時に英語の音声におけるルールを復習し、英語音声学や音韻論の視点で見つめる方法を学びながらリスニング力の向上に結びつける。子供の言語データベースに触れ、英語を母語とする子供の言語発達に関して、具体的なデータをもとに概観する。

【授業の目標】

- 1) 学校英文法を復習しながら正確な英文読解力の向上を目指す。さらには英文の構造について、言語学の視点からの考察ができるようになることを目標とする。
- 2) 英語の音声におけるルールを復習しながら正確なリスニング力の養成を目指す。さらには、英音法(英語の音声におけるルール)を音声学・音韻論等の言語学の視点からの考察へ結びつけることができるようになることを目指す。
- 3) 子供の言語獲得を対象としたデータベースの基本概念を理解し、簡単な検索における操作方法を身につける。

【授業計画】

1. 文の基本要素と品詞：英語のリズム
2. 5文型：英語のリズムと強形・弱形
3. 時制：英語のイントネーション
4. 完了形：英語の子音
5. 法助動詞：英語の母音
6. to不定詞：英語の音連結
7. 分詞：英語の音の同化と脱落
8. 関係詞：地名・数字・アナウンスの聞き取り
9. that節・whether節・wh節とその聞き取り
10. to不定詞の名詞用法とその聞き取り
11. 動名詞とその聞き取り
12. 従属節とその聞き取り
13. 仮定法とその聞き取り
14. CHILDES(子供の言語データベース) 入門1
15. CHILDES(子供の言語データベース) 入門2

*CHILDES入門は毎回の授業でも適宜取り扱う。

【評価方法】

実習態度・授業への積極的参加(40%) + レポート(40%) + 出席(20%)

【テキスト】

中郷 慶 他(2008) 『読める英文法・聞ける英音法』 英宝社

【参考文献・資料】

授業にて明示する。

専門演習 I

小泉 直

【授業の概要】

日本人が共通して間違える文法のポイントと同意語を学習する。
また、日本人が苦手とする文法事項の中から時制、相および未来を表す表現を取り上げ、中学・高校時代に習った文法とは異なる観点からその用法を考察する。

【授業の目標】

英文法および英語の語彙についての知識を深めることを目指す。

【授業計画】

学生が輪番で割り当てられたセクションをレポートし、その後必要に応じて補足説明を加えていく。

取り上げる予定の文法事項

- 1 現在時制
- 2 過去時制
- 3 進行相
- 4 完了相
- 5 未来時を表す表現

【評価方法】

平常点(出席状況や授業での発表)とレポートにより総合的に評価する。

【テキスト】

1回目の授業で指示する。また、必要に応じてプリントも配布する。

【参考文献・資料】

授業中に適宜紹介する。

専門演習 I

小久保潤子

【授業の概要】

19世紀から現代にかけてのアメリカの小説(主に短編)を取り上げ、作品が書かれた時代の文化的、社会的背景を視野に入れながら分析を試みる。またテキストに現れるイメージや象徴など視覚表象を参照することによって、作品世界への理解を深めていく。

【授業の目標】

授業では、小説技法についての考察や文学批評の方法の紹介を行う。物語を楽しむだけでなく、ジェンダー批評や精神分析批評、文化批評、言語論など「批評理論」というストラテジーを踏まえた上で文学テキストを読むことで、世界の捉え方が多様化することを実感し、文学研究の面白さを味わってもらいたい。

【授業計画】

授業は発表形式で進めていく。
毎回担当箇所のレジュメを作って、内容に関連することを調べて発表してもらう。発表に関してクラスでディスカッションを行う。

取り上げる予定の作家:

Truman Capote, Ernest Hemmingway, John Steinbeck, Nathaniel Hawthorne, Bernard Malamud, Kate Chopin, Edgar Allan Poe, Sherwood Anderson, William Faulkner, Raymond Carver, 他

【評価方法】

授業態度、出席・予習状況、授業への積極的参加、レポート、などを総合的に評価する。

授業は発表形式で進めていくので、必ず予習すること。また、発表後、クラスで行うディスカッションにも積極的に参加すること。

【テキスト】

テキスト使用。
他、授業中にプリントを配布する。

【参考文献・資料】

授業中に指示する。

専門演習 I

丹羽都美

【授業の概要】

日本語と比較しながら、英語の構造・意味の構成のあり方、実際に使う場面で働く心理的な事柄、その背景にある文化などの要因等を理解することによって英語の理解を深め、実用の場面に活かせるよう一歩踏み込んだ研究をする。その基礎編となる。

【授業の目標】

日本語と比較しながら、英語の構造・英語圏の文化に関する知識を深めると共に、実際の場面で英語が使用される場合何が起きているのかなどを考えながら、実用の場面でその知識が活かされるようにするための基礎の確認を行う。その過程で自分の研究内容の精選をする。

【授業計画】

第1回 Introduction (ゼミの進め方・自己紹介等)
第2回 ゼミでの研究と進路 (専門ゼミ I~IVの概略・今後1年間の展望)
第3回 英語学の諸分野①
第4回 英語学の諸分野②
第5回 論文の書き方
第6回 研究テーマ発表 (各自のテーマを発表する)
第7回 研究テーマに沿って①
第8回 研究テーマに沿って②
第9回 研究テーマに沿って③
第10回 研究テーマに沿って④
第11回 研究中間発表のためのレポートの書き方
第12回 研究中間発表①
第13回 研究中間発表②
第14回 研究中間発表③
第15回 専門演習 II への取り組みについて

【評価方法】

授業への取り組み 30% 研究発表・レポート 50% 討論・質疑応答 20%

【テキスト】

必要に応じて配布または指示する。

【参考文献・資料】

論文の教室レポートから卒論まで (戸田山 和久著 日本放送出版協会)

専門演習 I

五島幸一

【授業の概要】

文化がどのように私たちの日常的な行動に影響を与えているかという事象について、コミュニケーションの視点から考えていく。とくに、英語圏との文化の違いについて、人の言語行動や非言語行動を通して考察する。ありふれた日常の行動を通して、文化をどのように理解したらいいのかを考える。

【授業の目標】

文化とコミュニケーションは不即不離の関係であり、私たちの日常の言語行動または非言語行動がどのように文化として捉えることができるかを理解できるようにする。

【授業計画】

コミュニケーション論の基礎的な事柄を学び、その後、文化という視点を組み入れ、具体的な事象を考察する。

具体的には、コミュニケーション研究の領域、言語と非言語、対人コミュニケーション、グループコミュニケーションの、レトリック批評などについて学ぶ。その際に、文化、とくに日本とアメリカ(英語圏)との文化の相違についても考察する。

【評価方法】

授業では学生の発表やディスカッションもありますので、積極的に授業に参加すること。

授業への参加度、レポート、発表などを考慮します。

【テキスト】

異文化コミュニケーション (古田監修 石井・岡部・久米著 有斐閣選書)

【参考文献・資料】

「異文化を読む」(岡部朗一 南雲堂)

専門演習 I

平林美都子

【授業の概要】

英語文学におけるジェンダー表象

英語圏の文学作品や映画を丁寧に読み、その中のジェンダー表象を分析していく。

【授業の目標】

ジェンダーと表象文化について理解する。19世紀英国でどのようにジェンダーが形成されたのかを理解する。

【授業計画】

テーマ: 19世紀の女性の表象

1. イントロダクション
2. おとぎ話におけるジェンダー表象
3. 児童文学におけるジェンダー表象
4. 19世紀英国における女性観
5. Mary Wollstonecraft, *A Vindication of the Rights of Woman*
6. Florence Nightingale, *Cassandra*
7. John Ruskin, "Of Queen's Gardens"
8. Alfred Tennyson, "Mariana" "The Lady of Shalott"
9. Christina Rossetti, *Goblin Market*

【評価方法】

出席状況と授業内のプレゼンテーション、ディスカッションへの参加、レポートなどにより総合的に評価する。

【テキスト】

授業内に指示する。

【参考文献・資料】

授業内に指示する。

専門演習 I

山田久美子

【授業の概要】

19世紀末から20世紀初頭に起こったアイルランド文芸復興期から現代までの演劇、詩、短編小説、民話の代表的な作品を読み、アイルランド文学を概観する。

【授業の目標】

アイルランド独自の伝統を理解しながら、作品を読み、文学解釈の基礎を習得することを目標とする。また、映像メディアを通して、アイルランド社会や文化全般の知識を深める。

【授業計画】

アイルランドの作家の作品を多読する。また、映画を見ることにより、アイルランド文化の理解を深めていく。

1. W.B.Yeats, Seamus Heaneyの詩
2. Oscar Wildeの短編小説
3. 妖精物語
4. W.B.Yeatsの戯曲
5. アイルランド映画 「白馬の伝説」

【評価方法】

出席状況、発表、レポートなどによって、総合的に評価する。

【テキスト】

講義時に指示する。

【参考文献・資料】

講義時に随時紹介する。

専門演習 I

山田幹郎

【授業の概要】

英国ルネサンス演劇研究 I
英国における初期演劇の展開を概観するなかで、主として16世紀の劇作家たちの作品を読みます。

【授業の目標】

英国初期演劇の読解力を涵養すること。

【授業計画】

大学才人たちの喜劇を丹念に読み解き、時代背景を踏まえて人物達の劇的社会的な意味合いを考察していきます。

【評価方法】

平常点とレポートにより総合評価します。

【テキスト】

プリントによります。

【参考文献・資料】

授業時に指示します。

専門演習 I

若山真幸

【授業の概要】

英語学・言語学の観点から、日英語における文法的・表現的差異を考察する。日本人話者による英語の間違いにどんなものがあり、それらがどうして起きるのかを英語学や言語学の専門的な知識を使って説明する。そうした間違いがどのようなコミュニケーションギャップを引き起こすのかも考察したい。

【授業の目標】

英語学や言語学の観点から、英語をより幅広い観点から眺め、高度な専門的知識を得る。日常生活にあふれた英語を取り上げて、理論的知識の再確認をする。

【授業計画】

専門演習Iでは、「活きた英語」を学習する。そのために以下のことを授業で行う。

- ・ 英語から日本語、日本語から英語への直訳からの脱皮の必要性の説明
- ・ 英語で書かれた辞書や文法書を見ながら、語彙や英語表現の詳細を学ぶ
- ・ 専門的な文献を講読し、英語学の知識だけでなく、論理的な議論を身につける
- ・ コーパスを使って、英語母語話者の英語を調査する
- ・ プレゼンテーションをして自分の調査結果や考えを的確にまとめる

【評価方法】

出席状況及び学期末のレポート

【テキスト】

こちらで準備した資料を配布する

【参考文献・資料】

授業中に随時紹介する

専門演習 I

EASLEY, Keith

【Course description】

This seminar will introduce students to selected works of Victorian fantasy, in the broad context of nineteenth-century British culture.

We shall explore the changing relations between men and women, and between adults and children involved in the writing and reading of fantasy literature. This should reflect on other important concerns of the time: whether art should be moral, entertaining, or both; the rights and wrongs of using literature to escape from one's real life; and the importance of secrecy in Victorian society, of both hiding and expressing thoughts and feelings.

【Course objectives】

To assist students in developing their understanding of Victorian writing and culture, and to help make them critically aware of their responses.

Also, to learn about the Victorian creation of fantasy worlds that have powerfully influenced Western ideas about imagination and its relation to the real world.

【Course schedule】

In the first semester we will focus on writing aimed primarily at children. Selections will be made from the work of Charles Dickens, Lewis Carroll ("Alice in Wonderland" and "Through the Looking-Glass"), Andrew Lang ("The Blue Fairy Book"), and George MacDonald.

【Assessment】

Assessment will be continuous, with class participation, exercises, oral reports, presentations and essays used to evaluate students' progress.

【Textbooks】

To be decided.

【Reference】

To be advised.

専門演習 I

SELAND, John

【Course description】

American Literature: O Pioneers! by Willa Cather

When she was a young girl, Willa Cather met many of the immigrants who came from Europe and settled in Nebraska. Later, having become a skillful writer, she decided to publish this novel so that everyone would be able to learn more about the heroism of these people who struggled to survive in the harsh prairie land. We would like to learn more about the problems that the pioneers experienced, and how they overcame them as we read this particular novel.

【Course objectives】

To learn about the values that sustained the pioneers and enabled them to deal with hardships, and to relate this to American history and society.

【Course schedule】

In each class we will read several chapters of the novel and students will write a short report about the chapters.

【Assessment】

Assessment will be based on the grades for the weekly reports, class attendance, and the final report.

【Textbooks】

O Pioneers! Penguin

専門演習 II

太田直子

【授業の概要】

20世紀を代表するアメリカの作家の作品を数多く読む。作品の分析だけでなく、作品の描かれた時代背景、そして作家研究をすることにより、さらに深い理解を試みる。

【授業の目標】

数多くの作品を読むことで、アメリカ文学の流れを理解することはもちろん、時代や土地によって異なるアメリカ小説の魅了感じてほしい。

作品は何を訴え、そして、何を表していたのか。作品を通して、アメリカの姿、人間の本性を読み取ることを目標とする。

【授業計画】

取り扱う作家・作品：

William Faulkner, "A Rose for Emily"
Ernest Hemingway, "The Killers"
Robert Penn Warren, "A Christian Education"
Richard Wright, "The Ethics of Living Jim Crow"
John Updike, "The Alligators"

【評価方法】

発表・レポート

【テキスト】

「Anthology of American Short Stories」(Naozo Ueno, 南雲堂、1,942円)

【参考文献・資料】

授業内で説明する

専門演習 II

樽木勇作

【授業の概要】

現代英語学II

前期の現代英語学Iで得た知見をもとに、最近の英語学の研究動向を知ること、研究テーマを見い出すこと、英語力を向上させることを目標とする。英語を言語学的な点から研究している論考・論文を雑誌や論集から選び、ディスカッションの材料とする。同時に、英字新聞やテレビの英語ニュース等を教材にして、英語運用能力の向上も目指す。

【授業の目標】

授業にて明示する。

【授業計画】

1. 英字新聞 (Reading & Discussion)
2. リスニング練習
3. テキストの解説
4. 英語プレゼンテーション
5. 英語発音トレーニング
6. コーパスを使用した言語研究入門

【評価方法】

授業への積極的参加 (40%) + レポート (40%) + 出席 (20%)

【テキスト】

Linguistics An Introduction to Language and communication FIFTH EDITION (Adrian Akmajian, Richard A. Demers, Ann K. Farmer, and Robert M. Harnish (2001), MIT Press \$35.00 (paper))

【参考文献・資料】

授業にて明示する。

専門演習 II

久野幸子

【授業の概要】

イギリス小説から古典といわれる作品を選び、それを精読することに加え、受講者各自に「専門演習 I」で学んだ作品の中から作品を選んでもらい、それについて発表する機会を用意する。その際、原作を読み解くと同時にそれらが書かれた時代との関係を、歴史的、社会的、文化的視点から考察する。英文学作品は映像化されている場合が多いので、視聴覚教材を多用する。

【授業の目標】

- (1) イギリス文学についての基礎知識の修得 (2)
 - (2) イギリス文化についての基礎知識の修得 (2)
 - (3) 小説というジャンルについての考察
- 上記3項目についても随時、実践してもらおう予定である。

【授業計画】

<イギリス文学と社会(2)>をテーマに、19世紀から現代までのイギリス小説から作品を選ぶ。今回は原作を読むことに加え、文献リサーチ法も学び、どのようにして研究レポートにまとめるのかも各自体験してもらおう。個別発表やクラス討議などの場をできるだけ多く用意する予定である。

【評価方法】

平常点(出席、受講・発表態度など)と期末の小テスト、レポートで総合的に評価する。

【テキスト】

未定

【参考文献・資料】

授業中に指示するほか、プリント配布。

専門演習 II

小泉 直

【授業の概要】

専門演習 I に引き続き、日本人が共通して間違える文法のポイントと同意語を学習する。

日常的によく使われる英語の語彙の語源を探ることにより、英語の成り立ちとその文化的背景を考察する。

【授業の目標】

英語の語彙の用法およびその文化史的語源（由来と使用の動機）に関する知識を深めることを目指す。

【授業計画】

学生が輪番で割り当てられたセクションをレポートし、その後必要に応じて補足説明を加えていく。

取り上げる予定の項目

- 1 月名・曜日名の由来
- 2 祭日・記念日の由来
- 3 人名の由来
- 4 衣・食・住に関することばの由来

【評価方法】

平常点（出席や授業での発表）とレポートにより総合的に評価する。

【テキスト】

1 回目の授業で指示する。また、必要に応じてプリントも配布する。

【参考文献・資料】

授業中に適宜紹介する。

専門演習 II

五島幸一

【授業の概要】

文化がどのように私たちの日常的な行動に影響を与えているかという事象について、コミュニケーションの視点から考えていく。とくに、英語圏との文化の違いについて、人の言語行動や非言語行動を通して考察する。ありふれた日常の行動を通して、文化をどのように理解したらいいのかを考える。

【授業の目標】

文化とコミュニケーションは不即不離の関係であり、私たちの日常の言語行動または非言語行動がどのように文化として捉えることができるかを理解できるようにする。

【授業計画】

コミュニケーション論の基礎的な事柄を学び、その後、文化という視点を組み入れ、具体的な事象を考察する。

具体的には、コミュニケーション研究の領域、言語と非言語、対人コミュニケーション、グループコミュニケーションの、レトリック批評などについて学ぶ。その際に、文化、とくに日本とアメリカ（英語圏）との文化の相違についても考察する。

【評価方法】

授業では学生の発表やディスカッションもありますので、積極的に授業に参加すること。

授業への参加度、レポート、発表などを考慮します。

【テキスト】

異文化コミュニケーション（古田監修 石井・岡部・久米著 有斐閣選書）

【参考文献・資料】

「異文化を読む」（岡部朗一 南雲堂）

専門演習 II

小久保潤子

【授業の概要】

前期に引き続き、19世紀から現代にかけてのアメリカの小説(主に短編)を取り上げ、作品が書かれた時代の文化的、社会的背景を視野に入れながら分析を試みる。またテキストに現れるイメージや象徴など視覚表象を参照することによって、作品世界への理解をさらに深めていく。

【授業の目標】

授業では、小説技法についての考察や文学批評の方法の紹介を行う。物語を楽しむだけでなく、ジェンダー批評や精神分析批評、文化批評、言語論など「批評理論」というストラテジーを踏まえた上で文学テクストを読むことで、世界の捉え方が多様化することを実感し、文学研究の面白さを味わってほしい。

【授業計画】

授業は発表形式で進めていく。

毎回担当箇所のレジメを作って、内容に関連することを調べて発表してもらう。発表に関してクラスでディスカッションを行う。

取り上げる予定の作家:

Truman Copote, Ernest Hemmingway, John Steinbeck, Nathaniel Hawthorne, Bernard Malamud, Kate Chopin, Edgar Allan Poe, Sherwood Anderson, William Faulkner, Raymond Carver, 他

【評価方法】

授業態度、出席・予習状況、授業への積極的参加、レポート、などを総合的に評価する。

授業は発表形式で進めていくので、必ず予習の上、発表後、クラスで行うディスカッションにも積極的に参加すること。

【テキスト】

テキスト使用。

他、授業中にプリントを配布する。

【参考文献・資料】

授業中に指示する。

専門演習 II

丹羽都美

【授業の概要】

日本語と比較しながら、英語の構造・意味の構成のあり方、実際に使う場面で働く心理的な事柄などを理解することによってさら英語を理解しその実用の場面に活かせるよう一歩踏み込んだ研究をする。

自分の選んだ研究内容についてさらなる考察を行い、また、研究発表を通じて互いにアドバイスを与えながら研究を進めていく。

【授業の目標】

英語の統語論・意味論・語用論の中から自分の研究内容をさらに深めていく。

【授業計画】

第1回 Intorduction（今期のゼミの進め方）

第2回 各自の研究分野について

第3回 文献研究①

第4回 文献研究②

第5回 文献研究③

第6回 文献研究④

第7回 後期研究中間発表①

第8回 後期研究中間発表②

第9回 後期研究中間発表③

第10回 後期研究中間発表④

第11回 後期研究中間発表⑤

第12回 後期研究中間発表⑥

第13回 中間発表をもとに文献研究①

第14回 中間発表をもとに文献研究①

第15回 専門演習Ⅲへの取り組みについて

【評価方法】

授業への取り組み 30% 研究発表・レポート 50% 討論・質疑応答 20%

【テキスト】

必要に応じて配布または指示する。

【参考文献・資料】

論文の教室—レポートから卒論まで（戸田山 和久著 日本放送出版協会）

専門演習 II

平林美都子

【授業の概要】

英語文学におけるジェンダー表象
専門演習 I に続いて、英語圏の文学作品や映画を丁寧に読み、その中のジェンダー表象を分析していく。

【授業の目標】

なるべく多くの文学作品を読み、そこに描かれる男女のジェンダー表象を理解し、分析する力をつける。内容把握には翻訳が中心となるが、部分的に英語の原文を読む。

【授業計画】

- テーマ：孤児の物語
1. J.K.ローリング「ハリー・ポッター」シリーズ
 2. フランシス・バーネット『小公女』
 3. チャールズ・ディケンズ『オリヴァー・トウィスト』
 4. ジーン・ウェブスター『あしながおじさん』
 5. ルーシー・モンゴメリ『赤毛のアン』
 6. スーザン・ウォーナー『広い広い世界』
 7. マーク・トウェイン『トム・ソーヤーの冒険』

【評価方法】

出席状況、授業内のプレゼンテーション、ディスカッションへの参加、レポートにより総合的に評価する。

【テキスト】

未定。

【参考文献・資料】

授業中に随時指示する。

専門演習 II

山田久美子

【授業の概要】

アイルランド出身の劇作家の作品を読み、時代背景やアイルランドの歴史を学びながら、戯曲を分析をする。映像を通して、アイルランド社会や文化全般の知識を深める。

【授業の目標】

演劇とはどのようなものかを理解した上で、作品のテーマ、歴史、文化を考察する。また、文献リサーチ法を学ぶ。

【授業計画】

J.M.Synge, Oscar Wilde, G.B.Shawの演劇作品を取り上げ、作品のテーマを理解すると共に、作品における女性像の探究をしていく。
ディスカッションを通して、作品の解釈、鑑賞力を高める。また、選択した作品について、グループごとに発表を行う。

【評価方法】

出席状況、発表、レポートによって、総合的に評価する。

【テキスト】

講義時に指示する。

【参考文献・資料】

講義時に随時紹介する。

専門演習 II

山田幹郎

【授業の概要】

英国ルネサンス演劇研究 I
専門演習 I の継続。英国における初期演劇の展開を概観するなかで、主として16世紀の劇作家たちの作品を読みます。

【授業の目標】

英国初期演劇の読解力を涵養すること。

【授業計画】

大学才人たちの喜劇を丹念に読み解き、時代背景を踏まえて人物達の劇的社会的な意味合いを考察していきます。

【評価方法】

平常点とレポートにより総合評価します。

【テキスト】

プリントによります。

【参考文献・資料】

随時紹介します。

専門演習 II

若山真幸

【授業の概要】

英語学・言語学の観点から、日英語における文法的・表現的差異を考察する。日本人話者による英語の間違いにどんなものがあり、それらがどうして起きるのかを英語学や言語学の専門的な知識を使って説明する。そうした間違いがどのようなコミュニケーションギャップを引き起こすのかも考察したい。

【授業の目標】

専門的な知識を使って、英語をより幅広い観点から眺め、高度な専門的知識を得る。
日常生活にあふれた英語の例を集め、理論的知識の再確認をする。

【授業計画】

人間の言葉に存在するであろう法則性を使って、英語の現象を深く考察したり、日本語と比較対照することによって、日本語母語話者がしやすい英語の間違いのメカニズムを文献講読しながら解明する。また、授業で取り上げるトピックを使って討論なども行う。

【評価方法】

出席状況及び学期末のレポート

【テキスト】

こちらで準備した資料を配布する

【参考文献・資料】

授業中に随時紹介する

専門演習 II

EASLEY, Keith

【Course description】

This seminar will introduce students to selected works of Victorian fantasy, in the broad context of nineteenth-century British culture.

We shall explore the changing relations between men and women, and between adults and children involved in the writing and reading of fantasy literature. This should reflect on other important concerns of the time: whether art should be moral, entertaining, or both; the rights and wrongs of using literature to escape from one's real life; and the importance of secrecy in Victorian society, of both hiding and expressing thoughts and feelings.

【Course objectives】

To assist students in developing their understanding of Victorian writing and culture, and to help make them critically aware of their responses.

Also, to learn about the Victorian creation of fantasy worlds that have powerfully influenced Western ideas about imagination and its relation to the real world.

【Course schedule】

In the second semester we will continue to consider children's literature, but gradually the emphasis will be put on writing aimed at adults. Later selections may be made from Alfred Tennyson ("Idylls of the King"), Christina Rossetti ("Goblin Market"), Robert Browning ("Childe Roland to the Dark Tower Came"), Oscar Wilde, Sheridan Le Fanu, Bram Stoker, and Saki.

【Assessment】

Assessment will be continuous, with class participation, exercises, oral reports, presentations and essays used to evaluate students' progress.

【Textbooks】

To be decided.

【Reference】

To be advised.

専門演習 II

SELAND, John

【Course description】

American Literature: My Antonia, by Willa Cather

We will continue to study Willa Cather's works, this time reading My Antonia. Here Cather expands on her earlier themes, giving further insights about the life of the pioneers, and how they contributed to the development of American society. We will also study such themes as the relation between city and farm life; the close connection between man and the soil; and genre issues, for instance, the role of women in society.

【Course objectives】

Besides learning about the content of the novel, we hope to relate it to larger concerns that affected American society, such as the pioneers' love for the land, the enthusiasm with which the early Americans developed their homesteads, and how later generations responded to other kinds of challenges.

【Course schedule】

We will read and discuss several chapters of My Antonia each week. The discussion will focus on the content of these chapters (that is, what is important) and the short reports that students write.

【Assessment】

Assessment will be based on the grades for the weekly reports, class attendance, and the final report.

【Textbooks】

My Antonia, Penguin

Advanced English I

DYCUS, David C.

【Course description】

The objective of this course is to engage the students in intermediate level discussions / activities which will provide them with opportunities to use the English which they have previously learnt, whilst also providing ample opportunity for them to further develop and improve their English skills. Students will be expected to demonstrate a marked improvement in their vocabulary skills, especially in their use and knowledge of idiomatic expressions.

Topics of study may include such areas as: social issues; cultural conundrums; environmental dilemmas; political affairs etc..

【Course objectives】

The course will have multiple but complimentary objectives. The first will be to engage students in discussions of general-interest topics presented in the textbook and current events presented in newspaper articles. The second will be to provide opportunities for students to expand their knowledge of phrasal verbs and idiomatic expressions commonly encountered in everyday English conversation and writing.

【Course schedule】

Each lesson will involve discussion based on topic/problem-based reading materials as well as vocabulary/structure mastery activities and exercises.

【Assessment】

Assessment will be based on attendance and participation (50%) and a final test of idiomatic expressions, vocabulary, and structures studied over the semester.

【Textbooks】

To be announced

Advanced English I

ARNOLD, Brent C.

【Course description】

The objective of this course is to engage the students in intermediate level discussions / activities which will provide them with opportunities to use the English which they have previously learnt, whilst also providing ample opportunity for them to further develop and improve their English skills. Students will be expected to demonstrate a marked improvement in their vocabulary skills, especially in their use and knowledge of idiomatic expressions.

Topics of study may include such areas as: social issues; cultural conundrums; environmental dilemmas; political affairs etc..

【Course objectives】

To assist the students development of vocabulary and understanding of contemporary English through the study of current global and social issues, film, television, animation, advertising and music.

【Course schedule】

Each lesson will be based on a discussion topic or analysis and deconstruction of a film, television program, animation/cartoon, advertising campaign or song.

【Assessment】

Assessment will be ongoing with an emphasis upon attendance and class participation (70%). There will also be required set tasks to be completed in class throughout the semester (30%).

【Textbooks】

No Text Required

Advanced English II

DYCUS, David C.

【Course description】

The objective of this course is to have the students engage in intermediate-level discussions / activities (such as debates), which will provide them with opportunities to use their existing knowledge of English ,whilst also providing opportunities to further develop and hone their English skills. Students will be expected to demonstrate a marked improvement in their vocabulary skills, especially in their use and knowledge of idiomatic expressions.

Topics of study may include such areas as: social issues; cultural conundrums; environmental dilemmas; political affairs etc..

【Course objectives】

The course will continue with the objectives of the first semester: to engage students in discussions of general-interest topics from the textbook (Units 16-30) or from newspaper articles, and to expand students' knowledge of common phrasal verbs and idiomatic expressions.

【Course schedule】

Each lesson will involve discussion based on topic/problem-based reading materials as well as vocabulary/structure mastery activities and exercises.

【Assessment】

The class is for motivated students. Therefore, active participation in class is the single most important aspect regarding grading. Therefore, 60% of the grade will be based on attendance/participation. 40% will come from regular quizzes of advanced vocabulary, structure, and idiomatic phrases that will be studied in class.

【Textbooks】

To be announced

Advanced English II

ARNOLD, Brent C.

【Course description】

The objective of this course is to have the students engage in intermediate-level discussions / activities (such as debates), which will provide them with opportunities to use their existing knowledge of English ,whilst also providing opportunities to further develop and hone their English skills. Students will be expected to demonstrate a marked improvement in their vocabulary skills, especially in their use and knowledge of idiomatic expressions.

Topics of study may include such areas as: social issues; cultural conundrums; environmental dilemmas; political affairs etc..

【Course objectives】

The course in the second semester will continue to assist the students development of vocabulary and understanding of contemporary English through the study of current global and social issues, film, television, animation, advertising and music. There will also be a further focus on contemporary expectations of political correctness (PC language) and the removal of gender bias from verbal and written communications.

【Course schedule】

Each lesson will be based on a discussion topic or analysis and deconstruction of a film, television program, animation/cartoon, advertising campaign or song.

【Assessment】

Assessment will be ongoing with an emphasis upon attendance and class participation (70%). There will also be required set tasks to be completed in class throughout the semester (30%).

【Textbooks】

No Text Required

Correcting Research Papers I

SELAND, John

【Course description】

The aim of this course is to assist students in presenting their research papers in the forms of academic English that are appropriate for the subjects that they have chosen. This assistance will extend to include the correct procedures for format, annotation and preparation of bibliographies.

【Course objectives】

To support students to develop an understanding of the procedures for writing academic English and preparing it for professional presentation.

【Course schedule】

In the first semester the class will convene and a programme for the effective management of the students' work will be devised. This programme will be implemented in accordance with the schedule that has been announced for the submission of the research papers.

【Assessment】

Assessment will be continuous, with the main emphasis being placed upon punctual submission and regular correction of submitted work, with the aim of making constant improvement in order to submit the finished research paper in accordance with the schedule for doing so.

【Textbooks】

To be decided.

【Reference】

To be decided.

Correcting Research Papers I

LEWIS, Paul

【Course description】

The aim of this course is to assist students in presenting their research papers in the forms of academic English that are appropriate for the subjects that they have chosen. This assistance will extend to include the correct procedures for format, annotation and preparation of bibliographies.

【Course objectives】

To support students to develop an understanding of the procedures for writing academic English and preparing it for professional presentation.

【Course schedule】

In the first semester the class will convene and a programme for the effective management of the students' work will be devised. This programme will be implemented in accordance with the schedule that has been announced for the submission of the research papers.

【Assessment】

Assessment will be continuous, with the main emphasis being placed upon punctual submission and regular correction of submitted work, with the aim of making constant improvement in order to submit the finished research paper in accordance with the schedule for doing so.

【Textbooks】

To be decided.

【Reference】

To be decided.

Correcting Research Papers II

SELAND, John

【Course description】

The aim of this course is to assist students in presenting their research papers in the forms of academic English that are appropriate for the subjects that they have chosen. This assistance will extend to include the correct procedures for format, annotation and preparation of bibliographies.

【Course objectives】

To support students to develop an understanding of the procedures for writing academic English and preparing it for professional presentation.

【Course schedule】

In the second semester the class will convene and a programme for the effective management of the students' work will be devised, based on the progress that has been made to date. This programme will be implemented in accordance with the schedule that has been announced for the submission of the research papers.

【Assessment】

Assessment will be continuous, with the main emphasis being placed upon punctual submission and regular correction of submitted work, with the aim of making constant improvement in order to submit the finished research paper in accordance with the schedule for doing so.

【Textbooks】

To be decided.

【Reference】

To be decided.

Correcting Research Papers II

LEWIS, Paul

【Course description】

The aim of this course is to assist students in presenting their research papers in the forms of academic English that are appropriate for the subjects that they have chosen. This assistance will extend to include the correct procedures for format, annotation and preparation of bibliographies.

【Course objectives】

To support students to develop an understanding of the procedures for writing academic English and preparing it for professional presentation.

【Course schedule】

In the second semester the class will convene and a programme for the effective management of the students' work will be devised, based on the progress that has been made to date. This programme will be implemented in accordance with the schedule that has been announced for the submission of the research papers.

【Assessment】

Assessment will be continuous, with the main emphasis being placed upon punctual submission and regular correction of submitted work, with the aim of making constant improvement in order to submit the finished research paper in accordance with the schedule for doing so.

【Textbooks】

To be decided.

【Reference】

To be decided.

専門演習 III

太田直子

【授業の概要】

William Faulknerの「Light in August」を読む。

Lena Groveの話を中心に物語の粗筋を理解するのももちろんだが、アメリカ南部の特殊な世界の理解する。作品構造に注目し、批評も読む。

【授業の目標】

丁寧に読み続けるとがまず第一の目標である。Faulknerの作品は、登場人物の心理的な描写をよみとることが非常に困難であるが、描かれた世界を丁寧に分析し読み取っていく。批評を読むことで理解を深めることができるので、批評を読むことはもちろん、作品についての批評を図書館で見つける作業を取得することも大切である。

【授業計画】

- 1) William Faulknerについて
- 2) アメリカ南部の位置づけについて
- 3) Light in Augustの描かれた時代背景、または作品の中における文化的背景
- 4) Light in August : Lena Groveの話を中心に精読
- 5) 批評

【評価方法】

レポート・発表

【テキスト】

Light in August (William Faulkner)

【参考文献・資料】

授業中に説明する

専門演習 III

樗木勇作

【授業の概要】

現代英語学III

現代英語学I, IIで得た知見をもとに、英語を言語学的な視点から研究している論考・論文を雑誌や論集から選び、ディスカッションの材料とする。同時に、英字新聞やインターネットの英語ニュース等を教材にして、英語運用能力の向上を目指す。

【授業の目標】

最近の英語学の研究動向を知ること、研究テーマを見つけ出すこと、英語力を向上させることを目標とする。

【授業計画】

1. 英字新聞 (Reading & Discussion)
2. リスニング練習
3. テキストの解説
4. 英語プレゼンテーション
5. 英語発音トレーニング
6. コーパスを使用した言語研究入門

【評価方法】

授業への積極的参加 (40%) + レポート (40%) + 出席 (20%)

【テキスト】

Linguistics An Introduction to Language and Communication FIFTH EDITION (Adrian Akmajian, Richard A. Demers, Ann K. Farmer, and Robert M. Harnish (2001), MIT Press \$35.00 (paper))

【参考文献・資料】

授業にて明示する。

専門演習 III

久野幸子

【授業の概要】

イギリス小説とそれらが書かれた時代との関係を、社会の諸制度、政治、経済、文化、宗教、生活習慣などさまざまな視点から検討・考察する。視聴覚教材も多用する予定である。

【授業の目標】

精読した小説について、どのような分析をおこなえば、さらに深い理解が得られるのか、小説研究法を各自に体験してもらうことを目指す。

【授業計画】

講義と受講生の個別あるいはグループプレゼンテーションを交互に行なう予定である。

【評価方法】

平常点（出席、受講・発表態度など）と期末の筆記試験で総合的に評価する。

【テキスト】

未定

【参考文献・資料】

授業中に指示する。

専門演習 III

小泉直

【授業の概要】

専門演習Ⅱに引き続き、日本人が共通して間違える文法のポイントと同意語を学習する。

また、英文で書かれた文法書を、特に日本人が苦手とする文法事項を中心に精読する。使用する文法書は最近の文法研究の成果を取り入れているだけでなく、旧来の規範的な立場を排し、徹底的な事実中心主義の立場から解説しているので、新しい文法観の形成にも役立つものと思われる。

【授業の目標】

英文法および英語の語彙に関する知識を深めることを目指す。

【授業計画】

学生が輪番で割り当てられたセクションをレポートし、その後必要に応じて補足説明を加えていく。

取上げる予定の文法事項

- 1 冠詞 (articles)
- 2 時制と相 (tense and aspect)
- 3 法助動詞 (modals)
- 4 条件文 (conditionals)

【評価方法】

平常点（出席や授業での発表）と章ごとに課す課題とにより総合的に評価する。

【テキスト】

1 回目の授業で指示する。また、必要に応じてプリントも配布する。

【参考文献・資料】

授業中に適宜紹介する。

専門演習 III

五島幸一

【Course description】

専門演習Ⅰ・Ⅱを発展させて、私たちの日常生活にどのように文化が影響しているのかを考察する。コミュニケーションという視点から日常の言語行動および非言語行動を考え、とくに英語圏とのコミュニケーションの相違に焦点を当てて、そこに横たわる文化について検証する。

【Course objectives】

まず、文化とコミュニケーションが切り離せない関係であることを理解して、私たちの日常の行動にどう文化が関わっているのか、そして、異なった文化からの視点ではどのような行動が生じるのかを考える。

【Course schedule】

まず、コミュニケーションの観点から、言語活動がどのように私たちの行動に影響を与えるのかを学ぶ。そして、文化がどう関わっているのかについても考察する。具体的には、広告、ニュース報道などの例を挙げる。

一般的な理論を学び、同時に具体的な例を挙げながら考えていく。その過程では、学生に具体例を発表することを課す。

【Assessment】

授業では学生の発表やディスカッションもありますので、積極的に授業に参加すること。

授業への参加度、レポート、発表などを考慮します。

【Textbooks】

「異文化コミュニケーション」(古田監修、石井・岡部・久米著 南雲堂)

【Reference】

「異文化を読む」(岡部朗一 南雲堂)

専門演習 III

SELAND, John

【Course description】

The Adventures of Huckleberry Finn (1884)

We will study this classical novel, by Mark Twain, trying to understand such important themes as slavery, the westward expansion of America during the 19th century, the myth of the frontier, American religious and family values, and American humor.

【Course objectives】

Besides learning about some of Twain's basic ideas, we hope to come to an understanding of American society at the end of the 19th and beginning of the 20th centuries. At the same time, we want to discover what, precisely, Twain liked, and what he was critical of.

【Course schedule】

Each week we will read and discuss several chapters of the novel. Students will write a short report about the chapters, which we will use as a basis for discussion.

【Assessment】

Grades will be given according to the ability of the students to write good weekly reports, a good final essay, and class attendance.

【Textbooks】

The Adventures of Huckleberry Finn (The edition of the novel will be decided later.)

専門演習 III

丹羽都美

【授業の概要】

専門演習 I・II で研究した内容をさらに探求していく。各自の研究対象についての調査・研究を進める中で自分の研究内容についての知識を深めるとともに、英語だけでなく日本語やその他の言語のもつ様々な側面について眺めながら言語というものについての理解を深めていく。

【授業の目標】

英語の構造・意味等の側面から、これまでより一步踏み込んだ分析をすることにより、英語という言語自体だけでなく、英語と関連のある社会・文化などについての理解も深めていく。それと同時に自分たちの言語・社会・文化というものに対して新たな理解ができるようになる。この過程から、言語は意思疎通の「道具」であると同時にそれ以上の大きな影響力を持つものとして、言語を使いこなせるよう自身を豊かにしていくこと。

【授業計画】

第1回 Introduction (ゼミの進め方・今期の展望)
 第2回 研究発表の手順
 第3回 文献研究①
 第4回 文献研究②
 第5回 文献研究③
 第6回 文献研究④
 第7回 文献研究⑤
 第8回 研究中間発表①
 第9回 研究中間発表②
 第10回 研究中間発表③
 第11回 研究中間発表④
 第12回 中間発表に基づく発展研究①
 第13回 中間発表に基づく発展研究②
 第14回 中間発表に基づく発展研究③
 第15回 専門ゼミⅣへの取り組みについて

【評価方法】

授業への取り組みなど 30% 研究発表・レポート等 50% 討論・質疑応答 20%

【テキスト】

必要に応じて配布または指示する。

【参考文献・資料】

論文の教室—レポートから卒論まで (戸田山 和久著 日本放送出版協会)

専門演習 III

平林美都子

【授業の概要】

英語圏文学作品を丁寧に読み、その中の語りの方法とジェンダー表象を分析していく。

【授業の目標】

英語圏文学作品の作られた歴史的・文化的状況を理解しながら読み、語りの叙述法が作品内容にどのように影響しあっているのかを学ぶ。

【授業計画】

Kazuo Ishiguroの以下の作品を読む。
Never Let Me Go

【評価方法】

平常点とレポートの総合評価。

【テキスト】

Never Let Me Go (Faber,2005)

【参考文献・資料】

授業内に指示する。

専門演習 III

山田幹郎

【授業の概要】

シェイクスピアの作品研究を進める。

【授業の目標】

シェイクスピアの基礎的な読解力と分析解釈能力を涵養する。

【授業計画】

Romeo and Juliet を精読する。

【評価方法】

平常点とレポートにより総合評価する。

【テキスト】

Romeo and Juliet (岩崎宗治編注 大修館書店)

【参考文献・資料】

授業時に指示する。

専門演習 III

若山真幸

【授業の概要】

英語学・言語学の観点から、日英語における文法的・表現的差異を考察する。日本人話者による英語の間違いにどんなものがあり、それらがどうして起きるのかを英語学や言語学の専門的な知識を使って説明する。そうした間違いがどのようなコミュニケーションギャップを引き起こすのかも考察したい。

【授業の目標】

専門的な知識を使って、英語をより幅広い観点から眺め、高度な英語運用能力を得る。日常生活にあふれた英語の例を集め、理論的知識の再確認をする。

【授業計画】

各自の卒業論文のテーマにあわせた文献を取り上げ、どのように英語学・言語学の観点から説明できるか考察する。また、簡単な言語テスト・実験・統計を取り入れたりしながら、主観ではなく、客観的に分析できるよう訓練する。

【評価方法】

出席状況及び学期末のレポート

【テキスト】

こちらで準備した資料を配布する

【参考文献・資料】

授業中に随時紹介する

専門演習 IV

太田直子

【授業の概要】

前期に引き続き、William FaulknerのLight in Augustを読む。
Joe Christmasの物語を中心に精読し、さらにアメリカ社会が抱える人種問題を考察する。

【授業の目標】

自分が何者なのかを追い求めて死を迎えるJoe Christmasの生き様、彼の生き方を通してアメリカの人種問題を考察する。
作品を精読し、さらに批評を読む。

【授業計画】

- 1) Light in Augustの作品構成について
- 2) Joe Christmasの物語を精読
- 3) Joe Christmas/Lena Groveの物語について、その構成・意味を考察
- 4) 批評
- 5) ゼミ論の作成

【評価方法】

学期末のレポート（ゼミ論）・授業での発言・出席等

【テキスト】

Light in August (William Faulkner)

【参考文献・資料】

授業内で説明する

専門演習 IV

樗木勇作

【授業の概要】

現代英語学IV
現代英語学I-IIIで得た知見をもとに、英語を言語学的な点から研究している論考・論文を雑誌や論集から選び、ディスカッションの材料とする。同時に、英字新聞やインターネットの英語音声ニュース等を教材にして、英語運用能力の向上も目指す。

【授業の目標】

最近の英語学の研究動向を知ること、研究テーマを見つけ出すこと、英語力を向上させることを目標とする。

【授業計画】

1. 英字新聞 (Reading & Discussion)
2. リスニング練習
3. テキストの解説
4. 英語プレゼンテーション
5. 英語発音トレーニング
6. コーパスを使用した言語研究入門

【評価方法】

授業への積極的参加 (40%) + レポート (40%) + 出席 (20%)

【テキスト】

Linguistics An Introduction to Language and Communication FIFTH EDITION (Adrian Akmajian, Richard A. Demers, Ann K. Farmer, and Robert M. Harnish (2001), MIT Press \$ 35.00 (paper))

【参考文献・資料】

授業にて明示する。

専門演習 IV

久野幸子

【授業の概要】

イギリス小説とそれらが書かれた時代との関係を、社会の諸制度、政治、経済、文化、宗教、生活習慣などさまざまな視点から検討・考察する。視聴覚教材も多用する予定である。

【授業の目標】

英文学について、イギリス小説についての幅広い知識の修得に努めるとともに、自ら選んだ小説について、資料を集め、さまざまな視点から考察、検討した内容を自らの言葉で表現する方法を学ぶ。

【授業計画】

「専門演習 III」に引き続いて、各自のテーマにそって、調査検討・考察したものをまとめて、プレゼンテーションしてもらう。最後にプレゼンテーションしたものをともに、全員に執筆してもらい、「2009年ゼミレポート」(仮題)を編集・出版する。

【評価方法】

平常点（出席、受講・発表態度など）と小テスト、レポートで総合的に評価する。

【テキスト】

未定。

【参考文献・資料】

授業中に指示する。

専門演習 IV

小泉直

【授業の概要】

専門演習IIIに引き続き、日本人が共通して間違ええる文法のポイントと同意語を学習する。
また、英文で書かれた文法書を、日本人が苦手とする文法事項を中心に精読する。

【授業の目標】

英文法および英語の語彙に関する知識を深めることを目指す。

【授業計画】

学生が輪番で割り当てられたセクションをレポートし、その後必要に応じて補足説明を加えていく。

- 取上げる予定の文法事項
- 1 前置詞と不変化詞 (prepositions and particles)
 - 2 間接目的語 (indirect objects)
 - 3 不定詞と動名詞 (infinitives and gerunds)
 - 4 直接話法と間接話法 (direct and indirect speech)

【評価方法】

平常点（出席や授業での発表）と章ごとに課す課題とにより総合的に評価する。

【テキスト】

1 回目の授業で指示する。また、必要に応じてプリントも配布する。

【参考文献・資料】

授業中に適宜紹介する。

専門演習 IV

五島幸一

【Course description】

専門演習Ⅲに引き続き、私たちの日常生活にどのように文化が影響しているのかを考察する。コミュニケーションという視点から日常の言語行動および非言語行動を考え、とくに英語圏とのコミュニケーションの相違に焦点を当て、そこに横たわる文化について検証する。

【Course objectives】

コミュニケーションと文化について学び、私たちの日常の言語行動や非言語行動がどのように文化と関わっているのを考察できるようにする。

【Course schedule】

文化とコミュニケーションに関する文献を読むとともに、具体的な事象を検証する。英語圏との比較を前提としますので、学生は英語とともに英語圏の社会および文化について学ぶ。

クラスでは講義のほか、学生による発表を課す。

【Assessment】

授業では学生の発表やディスカッションもありますので、積極的に授業に参加すること。

授業への参加度、レポート、発表などを考慮します。

【Textbooks】

「異文化コミュニケーション」(古田監修、石井・岡部・久米著 南雲堂)

【Reference】

「異文化を読む」(岡部朗一 南雲堂)

専門演習 IV

SELAND, John

【Course description】

The Scarlet Letter (1850), by Nathanael Hawthorne

In this semester we will read the novel, The Scarlet Letter. Some of Hawthorne's ancestors, it seems, were Puritans who persecuted elderly woman in the Salem witch trials of 1692. Troubled by this, Hawthorne wrote the novel as a way to learn more about the strict Puritan ethic at the time and the New England conscience. We will study these themes as we read this fascinating novel by a famous American novelist.

【Course objectives】

Besides learning about some of Hawthorne's basic themes, as well as his style of writing, we hope to deepen our understanding of the social and religious situation in New England at the time he published the novel, that is, a few years before the American Civil War (1861-1865).

【Course schedule】

We will analyze and discuss several chapters of the novel each week. Students will write short reports which we will use as a basis for our discussions.

【Assessment】

Grades will depend on the quality of the weekly assignments, class attendance, and a good final essay.

【Textbooks】

The Scarlet Letter. (The edition will be decided later.)

専門演習 IV

丹羽都美

【授業の概要】

専門演習Ⅰ～Ⅳでの研究の集大成として、2年間通して研究した内容についての完成期となる。

【授業の目標】

これまで様々な資料などをもとに考察を深めてきた言語についての研究についてのまとめを行うとともに、言語についてのさらなる知識を深める。

【授業計画】

- 第1回 Introduction (ゼミの進め方・今期の展望)
- 第2回 論文の構成
- 第3回 初校をもとに①
- 第4回 初校をもとに②
- 第5回 初校をもとに③
- 第6回 文献研究①
- 第7回 文献研究②
- 第8回 文献研究③
- 第9回 研究発表①
- 第10回 研究発表②
- 第11回 研究発表③
- 第12回 文献研究①
- 第13回 文献研究②
- 第14回 卒論をもとに
- 第15回 専門ゼミのまとめ

【評価方法】

授業への取り組み 30% 研究発表・レポート等 50% 討論・質疑応答 20%

【テキスト】

必要に応じて配布または指示する。

【参考文献・資料】

論文の教室レポートから卒論まで (戸田山 和久著 日本放送出版協会)

専門演習 IV

平林美都子

【授業の概要】

英語圏文学作品を丁寧に読み、その中の語りの方法とジェンダー表象を分析していく。

【授業の目標】

英語文学の語りの方法とジェンダー表象分析の仕方を学ぶ。

【授業計画】

Kazuo Ishiguroの*When We Were Orphans*を読む。

【評価方法】

平常点とレポートにより、総合的に評価する。

【テキスト】

When We Were Orphans(Kazuo Ishiguro,Faber,2000)

【参考文献・資料】

授業内に指示する。

専門演習 IV

山田幹郎

【授業の概要】

シェイクスピアの作品研究を前期に引き続いて進める。

【授業の目標】

シェイクスピアの分析解釈能力をさらに涵養する。

【授業計画】

Romeo and Juliet (岩崎宗治編注 大修館書店) の批評史を概観しながら作品批評のあり方を探求する。

【評価方法】

平常点とレポートにより総合評価する。

【テキスト】

Romeo and Juliet (岩崎宗治編注 大修館書店) 及びプリント。

【参考文献・資料】

授業時に指示する。

専門演習 IV

若山真幸

【授業の概要】

英語学・言語学の観点から、日英語における文法的・表現的差異を考察する。日本人話者による英語の間違いにどんなものがあり、それらがどうして起きるのかを英語学や言語学の専門的な知識を使って説明する。そうした間違いがどのようなコミュニケーションギャップを引き起こすのかも考察したい。

【授業の目標】

専門的な知識を使って、英語をより幅広い観点から眺め、高度な英語運用能力を得る。

日常生活にあふれた英語の例を集め、理論的知識の再確認をする。

【授業計画】

引き続き、各自の卒業論文のテーマにあわせた文献を取り上げ、どのように英語学・言語学の観点から説明できるか考察する。また、2年間の集大成として、より広い観点から、英語や日本語を見つめ、人間が備えている言語能力について考察する。

【評価方法】

出席状況及び学期末のレポート

【テキスト】

こちらで準備した資料を配布する

【参考文献・資料】

授業中に随時紹介する

課題実践

太田直子 樗木勇作 久野幸子 小泉直 五島幸一
SELAND, John 丹羽都美 平林美都子 山田幹郎 若山真幸

【授業の概要】

各自が選定したテーマに関して、「課題実践」担当教員（専門演習担当教員）の指導のもとに卒業論文を完成させる。なお、卒業論文は英語で書き、ワープロを使用するのが望ましい。

【授業の目標】

授業にて明示する

【授業計画】

「卒業論文」担当者の指示に従い、「卒業論文」を受講する。さらに、次の各締切日は厳守しなくてはならない。

5月13日(水)	午後4時	提出締切
	論文骨子(2~3ページ)	
7月8日(水)	午後4時	提出締切
	論文梗概(5~6ページ)	
10月14日(水)	午後4時	提出締切
	論文初稿(約30ページ)	
12月11日(金)	午後4時	*提出締切
	論文提出	

*12月11日(金)の提出については、11月中旬に掲示で確認すること

【評価方法】

「課題実践」担当者を中心に、題目の選定、論旨の展開、文章表現法、注のつけ方等に目し、総合的に評価する。

【テキスト】

各担当教員の指示に従うこと。
論文の書き方の一般的な説明については、以下の図書を参考にするとうい。

英文科学生必携ハンドブック(研究社)
MLA新英語論文の手引(北星堂)
卒論を書こう(棚木伸明 三修社)

海外セミナー I

小久保潤子 ARNOLD, Brent C. WOODMAN, Jo-Anne
山田幸代

【授業の概要】

Students will be in an English Emersion course with University of Canberra (=UC). Students will study Australian English and culture in class, have many English activities out of class and weekly excursions to places of interest around Canberra. UC will organise home-stay for the entire period in Canberra.

*一般的な英語集中コースに加えて、オーストラリアの文化・歴史・書籍・テレビ番組・映画・言語等に触れる授業も予定している。この研修参加には、英文学科の「Current Australia」, 「Introduction to Australian History」を単位取得済みか受講中であることが条件となる。

【授業の目標】

授業にて明示する。

【授業計画】

After welcome and introductions on the first day. Daily schedules will include morning classes with afternoon activities. Wednesday afternoons will be set aside for excursions to places of interest such as a farm, the National gallery and Questacon.

The course will conclude with a 3 day excursion to Sydney, including sight seeing and 2 day stopover in Cairns where students will be able to touch Australian animals including a Koala and be able to snorkel on the Great Barrier Reef.

【評価方法】

Assessment will be based on UC's standards. These standards are based on ability to use English, willingness to try to use English and improvement in English ability.

【テキスト】

No text, as necessary worksheets will be given.
You will need a passport!

【参考文献・資料】

事前研修・説明会等で明示する。

長期海外セミナー I～VI

山田幸代 MC GOLDRICK, Gemma EASLEY, Keith
小久保潤子

【授業の概要】

愛知淑徳大学の長期海外履修制度に認定されたプログラムとして、海外提携校の一つである英国リーズ大学 (University of Leeds) で本学英文学科のカリキュラムに対応した科目を履修する。具体的には、以下の対応関係がある。

長期海外セミナー I : Academic Writing II
 長期海外セミナー II : Reading IV (Internet)
 長期海外セミナー III : 映画で読むイギリス文化 II
 長期海外セミナー IV : 専門演習 II
 長期海外セミナー V : Interlingual Communication II
 長期海外セミナー VI : Creative Writing II

*この長期研修に参加するには、本学英文学科の「British Culture」と「Current UK」の2科目を履修して単位を修得済みであるか履修中で単位修得見込みであることが条件となる。

*愛知淑徳大学の長期海外履修制度に認定されたプログラムであるため、この長期研修に参加するには、一定基準のGPAのレベルを満たす必要がある。

【授業の目標】

- 1) 交換留学に次ぐ語学スキルのレベルをさらに向上させ、交換留学の基準に到達することを目標とする。
- 2) 英国文化をはじめ、英国の政治・経済・法律・社会について世界の中での位置づけを意識した上で理解を深める。
- 3) Academic Reading, Academic Writingなどを通じクリティカルな思考を身につけ、英語での大学教育を受講するための基本スキルを充実させる。

【授業計画】

リーズ滞在中の12週間は、ホームステイで、現地の人々の生活を体験する。語学授業(会話・リスニング・読解)を中心に行い、イギリス文化についても授業や体験を通して学ぶ。具体的には、海外提携校との綿密な連携のもと、以下の手順で長期海外セミナーを行う。

- 1) 研修参加者の決定
- 2) 研修事前指導
- 3) 研修指導
- 4) 研修事後指導
- 5) 研修報告書の提出
- 6) 研修成果報告会の参加

【評価方法】

研修報告書+研修成果報告会=(20%)
 研修事前指導+研修指導+研修事後指導=(40%)
 研修実施校からのフィードバック=(40%)

【テキスト】

適宜指示する。

【参考文献・資料】

適宜指示する。

日本語表現 T 1

森本俊之

【授業の概要】

日本語による基礎的な表現技術（文章表現力）について、その知識の確実な定着と応用力の養成を目的とする。特に、大学における学修に欠かせない2つの文章力（①事実を正確にかつ分かりやすく説明する力、②論理的に自分の意見を述べる力）を身につけることに重点を置く。その実践としての小論文作成（計3回）については、1回ごとに目標を設定し、段階を踏んでより高度な課題に取り組む。その際、自己修正力（推敲）の過程を重視し、他者意識を伴った説得力ある文章を書く力を身につける。

なお、各学部学科（専攻）の特質に応じて、内容・方法の調整を行うことがある。

【授業の目標】

1. 高等学校までに学習した漢字やことばを確実に使いこなす、適切な表現を用いた正しく分かりやすい文章を書く力を身につける。
2. 事実と意見、他人の意見と自分の意見とを区別し、論理的な文章を書く力を身につける。

【授業計画】

- 1 オリエンテーション／2 大学図書館を使いこなす
- 3 伝える文章を書く／4 論理的な文章を書く
- 5 順序を考えて書く
- 6 課題①事実を正確にかつ分かりやすく伝える文章を書く
- 7 課題①を推敲する
- 8 目的に応じて文章を構成する／9 事実と意見とを区別する
- 10 課題②事実と意見とを区別して論理的な文章を書く
- 11 課題②を推敲する／12 要約と引用の方法
- 13 課題③他人の意見やデータを引用して文章を書く
- 14 課題③を推敲する／15 授業のまとめ

漢字やことばの使い方に関する小テストを計10回実施する。

【評価方法】

出席状況、小テスト、課題などにより総合的に評価する。

【テキスト】

愛知淑徳大学文学部国文学科編「日本語表現T1」（予定）

【参考文献・資料】

授業時に指示する。

日本語表現 T 2

森本俊之

【授業の概要】

「日本語表現T1」の学修を踏まえ、大学における学修に不可欠な日本語の「読む・書く・話す・聞く」技術を総合的に身につけるため、レポートの書き方と口頭発表の仕方の基礎を学ぶ。具体的には、①テーマ設定、②資料収集と分析、③発表資料の作成、④グループ発表（15分間）、⑤レポート作成、というそれぞれの作業を決められた手順に従って実践的に取り組むことによって、論文や資料を集めて読む力、形式やルールにしたがってレポートを書く力、聞き手を意識した発表をする力、発表を聞いて要点をつかむ力をつける。

なお、各学部学科（専攻）の特質に応じて、内容・方法の調整を行うことがある。

【授業の目標】

1. 大学で求められるレポートや口頭発表のルール及び準備の手順を身につける。
2. 事実や主張を、口頭及び文章で論理的にかつ分かりやすく伝える力を身につける。
3. 複数の資料を収集し比較分析した結果を報告するレポートを書く力を身につける。

【授業計画】

- 1 オリエンテーション
- 2 資料を収集する
- 3 データを分析してまとめる
- 4～5 発表の構想を報告する（中間発表）
- 6 発表資料を作る
- 7 話し方や補助ツールの使い方を工夫する
- 8～11 調査分析の成果を報告する（グループ発表）
- 12 レポートの形式やルールを学ぶ
- 13 論理的なレポートの書き方を学ぶ
- 14 レポートの提出
- 15 授業のまとめ

漢字やことばの使い方に関する小テストを計10回実施する。

【評価方法】

出席状況、小テスト、発表、課題提出などにより総合的に評価する。

【テキスト】

愛知淑徳大学文学部国文学科編「日本語表現T2」（予定）

【参考文献・資料】

授業時に指示する。

図書館情報学概論 I

村主朋英

【授業の概要】

この科目は、図書館情報学に関する学習の基礎固めのためのものである。Iでは、図書館情報学における基本的な考え方や分野の特徴について概説する。

【授業の目標】

用語辞典を参照しながら、図書館と情報にかかわる多様な用語をできるだけ多く習得すること。それに加えて、情報伝達にはさまざまな因子が関与すること、そして情報に関して多様な考え方やアプローチが併存していることを理解してほしい。

【授業計画】

1. 情報と知識の研究と実務に関わる分野
図書館学/情報学/図書館情報学
図書館情報学を学ぶための情報源
2. 情報の概念
情報概念の歴史：定義の多様性と現象の多面性
情報の構造的な理解：認知と心/人間・人・ヒト
3. 情報検索：人間と情報の相互作用

【評価方法】

定期試験

注1)「図書館情報学概論I」の単位を修得済でない学生については、「同II」の履修を認めない。

注2)「図書館情報学概論I」の最終日に夏休みレポート課題を提示する。採点は「同II」の成績に組み込む。今年度「同II」のみ履修予定の学生は、7月初旬までに問い合わせること。

【テキスト】

図書館情報学用語辞典 第2版（丸善）

【参考文献・資料】

図書館・情報学概論 第2版（勁草書房）
情報学の理論と実際（勁草書房）
図書館情報学ハンドブック 第2版（丸善）
※その他、授業で紹介する。

図書館情報学概論 II

村主朋英

【授業の概要】

この科目は、図書館情報学に関する学習の基礎固めのためのものである。IIでは、図書館・情報サービスの実際に関して、最低限知っておくべき事項を紹介し、今後の学習への指針を提供する。

【授業の目標】

用語辞典を参照しながら、図書館と情報にかかわる多様な用語をできるだけ多く習得すること。それに加えて、情報伝達にはさまざまな因子が関与すること、そして情報に関して多様な考え方やアプローチが併存していることを理解してほしい。

【授業計画】

1. 情報システムとしての図書館
2. 館種ごとのサービスとその文脈
国立図書館/公共図書館/大学図書館/学校図書館/専門図書館
3. 情報専門職の世界
4. 図書館情報学の未来

【評価方法】

定期試験と夏休みレポート

注1)「図書館情報学概論I」の単位を修得済でない学生については、「同II」の履修を認めない。

注2)「図書館情報学概論I」の最終日に夏休みレポート課題を提示する。採点は「同II」の成績に組み込む。今年度「同II」のみ履修予定の学生は、7月初旬までに問い合わせること。

【テキスト】

図書館情報学用語辞典 第3版・第2版（丸善）

【参考文献・資料】

図書館情報学ハンドブック 第2版（丸善）
図書館ハンドブック 第6版（日本図書館協会）

卒業論文ゼミ I

伊藤真理

【授業の概要】

卒業論文執筆に向けて研究準備を行う。図書館を中心とした社会情報サービス機関での情報サービスを中心として、各自の興味のあるテーマについて関連文献の収集、分析を行い、卒業論文テーマの決定および研究方法を検討する。

【授業の目標】

自分のテーマに沿った適切な学術論文を検索・収集し、各論文の研究目的、対象範囲、調査結果、考察について批判的に読み取ることができるようになる。

研究論文の内容を把握し、それをレジュメにまとめて発表し、また他者の発表について、自分の意見を論理的に述べるができるようになる。

【授業計画】

はじめに、学術文献収集について演習をまじえながら概説する。次に、調査・研究の進め方について説明し、研究論文の読み方について学ぶ。

各履修者は研究計画を立て、各自の関心テーマに基づいて、4年次での卒業論文作成作業に必要な文献収集を行う。

文献リストに基づいて、研究論文を読み、レジュメを作成して授業内で報告する。各自の報告を履修者全員で討議、検討することにより、研究テーマ、調査方法決定の準備段階とする。

【評価方法】

平常点、レポートの総合評価。

【テキスト】

使用せず。

【参考文献・資料】

その都度指定する。

卒業論文ゼミ I

岡澤和世

【授業の概要】

情報学の誕生とその時代背景を振り返り、その軌跡を共通認識として、情報行動を中心に情報システムとの関係を論じる。

特に、社会と人間と情報を中心テーマに、人間と機械のインターフェースや人への影響などの問題点を利用者の観点から評価し、社会と人間と機械の賢明な関係を模索する。講義中心の授業よりも、自主的な参加型授業を行う。

オリエンテーション

1. 情報学の起源
 - 1) 図書館学の歴史と教育
 - 2) Meadowsの考え
 - 3) Sheraの考え
2. 情報学の研究範囲
 - 1) 情報学の基準
 - 2) B. C. Vickeryの範囲
 - 3) 情報学の主要論文
3. 情報学の基礎
 - 1) B. C. Brookes
 - 2) 社会と情報
 - 3) 情報の研究-F. Machlupら
4. 課題と展望

【授業の目標】

情報社会における社会の要求に応えるための教育と実践

【授業計画】

講義は教科書を使って共通確認を共有する。その後、各自の意見や考えを出し合い討論する。

新聞記事などを使って人間・メディア・社会についての問題を考える。

【評価方法】

レポート 卒業論文

【テキスト】

指定なし

卒業論文ゼミ I

菅野育子

【授業の概要】

図書館情報学の中心課題の一つである情報流通に関する研究を行なう。特に情報メディアから見た情報流通について検討する。情報メディアとは、情報が生産され利用される場面で媒体として機能するものを意味するが、たとえば、図書、雑誌、学術論文、新聞記事、ネットワーク情報資源などである。これらの情報メディアが情報の生産、加工、蓄積、利用の過程でどのような役割を果たしているのかについて、現状を把握するための調査や実験を行なう。また、その基礎となる文献講読を行ないながら、背景知識を得る。卒業論文の作成は、文献レビューと調査を基に研究成果を記述することである。

【授業の目標】

図書館情報学において、どのような問題が存在しているかを文献講読から理解すること。

【授業計画】

3年後期から開始されるゼミでは、3年次中に研究テーマを決定する。この間は、関連文献を探索し、主要な文献のレビューを行ない、その内容をレジュメとともに口頭で発表する。4年次（卒業論文ゼミII・III）からは、研究テーマに基づく調査や実験を行なう。既往研究も参考にしながら、調査方法を検討した上で調査を実施する。夏期休暇中にゼミ合宿を行ない、中間報告をレジュメと口頭で行なう。卒業論文を執筆した後は、最終発表会に向けてパワーポイントを用いたプレゼンテーションの準備を行なう。

【評価方法】

研究への取り組みとゼミでの発表内容から評価する。

【テキスト】

使用しない（プリント配布）。

卒業論文ゼミ I

西荒井学

【授業の概要】

情報システムの構築に必要な情報処理技術、ならびにプログラミング技術に関わる問題を扱う。この範囲内で受講者各自が設定すべき卒業論文のテーマについての指導を行っていく。

【授業の目標】

受講者全員が、4年次での卒論作成作業に問題なく移行できるように準備をする。特に、事前の情報収集と卒論テーマの決定が重要な4年次への足掛かりとなる。

【授業計画】

- 1) 卒業論文の書き方
- 2) テーマの選び方
- 3) 基本図書の調査と内容紹介
- 4) 先行研究についての調査と紹介
- 5) 卒論テーマの決定と研究方法

受講者各自が、指示された内容について、指定日時までに必要な作業を実施してくる。これら作業内容に関して、作業方法、作業結果、問題点などについて、各自が報告する。

報告された内容については、受講者全員で検討していく。なお、情報処理技術ならびにプログラミング技術における新しい専門用語などについても、折りに触れて学習していく。また、4年次での卒論中間発表は、図書館情報学特殊演習ゼミ学生と合同で実施するゼミ合宿（2泊3日）の場にて行う場合がある。

【評価方法】

提示課題についての進捗状況、提示課題の報告内容、平常の作業活動内容、課題レポートなどによって総合評価する。

【テキスト】

テキスト使用せず。

卒業論文ゼミ I

三和義秀

【授業の概要】

近年「Web 2.0」という次世代のインターネット・サービスが展開され、「ウィキペディア」、「ブログ(weblog)」、「RSSフィード」などの技術によって、インターネット上での協同作業や知識の共有が活発化している。図書館においても、自分だけの勉強部屋のようなWeb上の個人化された図書館としての「MyLibrary」や知識を共有する場としての「Library2.0」という新しい枠組みも誕生している。本授業では、Web 2.0の社会で活用される技術について、特に「集合値の利用」「パーソナライゼーション」「感性情報検索システム」に理解を深めるとともに、JavaやJSP(Java Server Pages)に関する知識と技術を学習する。

【授業の目標】

「XML」「ウィキペディア」「ブログ(weblog)」「RSSフィード」などWeb 2.0社会を支える技術の仕組みについて理解するとともに、JavaやJSPによるプログラミングの基礎スキルを身に付ける。

【授業計画】

- (1回) オリエンテーション-授業の目的と評価方法の説明
- (2回から3回) Web社会の新しい技術: XML, ウィキペディア, ブログ(weblog), RSSの仕組み
- (4回から6回) 集合値を利用する感性情報検索システムの仕組み
- (7回から14回) JavaとJSPプログラミング
- (15回) まとめ

【評価方法】

- 1) Web2.0の社会の技術をテーマとするレポート (評価割合: 50%)
- 2) Javaプログラミングの課題 (評価割合: 50%)

【テキスト】

プリントを配布する

【参考文献・資料】

授業中に指示する

卒業論文ゼミ I

山崎茂明

【授業の概要】

現代社会の発展を基礎づけている科学研究活動を対象にして、コミュニケーションと情報メディアに着目して、さまざまな視点から考察してみたいと思います。卒業論文テーマの明確化のために、関連文献の収集とレビューを行ない、調査対象の特定と方法について検討する。そして、論文発表と口頭発表のためのプレゼンテーション技法について学ぶ。

【授業の目標】

問題解決、合意形成、発表・討論のための能力とそれらのスキルを育成する。

【授業計画】

みなさんが取りあげるテーマは多岐にわたると思いますが、ゼミ学生相互の意見交換はお互いに有益なものになると考えますので、ゼミを発表と討論の場として活用してください。今ひとつテーマをしばらく切れないといった悩みも問題解決のための一歩と考えていますので、そのことに正面から向き合うよう希望します。英文論文は良いものを選んでじっくり取り組んでみてください。多様な考えや新しいアプローチなど、みなさんの世界を広げてくれるはずです。

【評価方法】

卒業論文、レポート。

【テキスト】

講義内容に関する基本文献を随時配付する。

卒業論文ゼミ I

村主朋英

【授業の概要】

卒業論文のための研究の準備を行う。
各自のテーマに関する基礎的な調査を通じて各自の問題意識を醸成する。

【授業の目標】

基礎的な調査を通じて各自の知識と問題意識とを深める。

【授業計画】

1. 仮テーマ決定
2. 用語調査と概念マップ作成
3. 事象の調査(基本的事項の把握)
4. 基本文献リスト(書誌)の作成

【評価方法】

平常点(出欠、課題の提出状況)、最終レポート

【テキスト】

使用せず。

【参考文献・資料】

情報と文献の探索 第3版(丸善)

卒業論文ゼミ II

伊藤真理

【授業の概要】

3年次に設定した各自のテーマに従って、学術論文を作成するための指導を行う。履修者全員による発表・討議を通して研究を進め、卒業論文をまとめていく。

【授業の目標】

調査などを実施し、データを分析・評価することができる。自分の意見や主張を論理的にまとめることができる。

【授業計画】

3年次から継続している先行研究のレビューのまとめと批判的考察を行う。

図書館情報学分野でのさまざまな調査方法について概説する。調査方法を把握した上で、各自のテーマに適切な調査などについて履修者全員で討議、検討する。

卒業論文の執筆に必要な論文作成方法について概説する。

【評価方法】

平常点、レポートの総合評価。

【テキスト】

使用せず。

【参考文献・資料】

その都度紹介する。

卒業論文ゼミ II

岡澤和世

【授業の概要】

現在既存の情報システムが利用者の多様な要求に応えられない理由を明らかにし、情報技術へのヒューマン・ファクターと人間工学の導入の必要性を指摘する。利用者を中心に据えた情報技術の方法と道具を考察する。ゼミの目的は変動の激しい情報環境に生きている私たち利用者が、氾濫する情報に溺れることなく、正しい情報理解能力（リテラシー）を習得し、活用する方法を考察することである。

<前期>

オリエンテーション：情報環境

1. 情報と知識を結ぶ鎖
2. 情報アクセス
3. 情報瞬間
4. 情報と文化の関係
5. 情報メディア
6. 書物の歴史
7. 図書館の役割
8. 情報と女性
9. レポートの書き方

<後期>

オリエンテーション：卒論について

1. 情報環境
2. 情報学の歴史
3. 情報過多現象
4. 人間工学
5. インターネット
6. 情報政策
7. 情報の要求と利用
8. 情報社会の展開過程
9. 将来の情報環境

【授業の目標】

情報社会における社会の要求に応えるための教育と実践

【授業計画】

前期は講義を中心に行なう。後期は各自の卒論テーマに従って解説する。

【評価方法】

レポート。卒業論文。出席回数。

【テキスト】

指定なし

卒業論文ゼミ II

西荒井学

【授業の概要】

3年次履修科目である卒業論文ゼミIIにおいて、各自が設定した卒業論文のテーマに従い、卒論指導を行う。

【授業の目標】

決められた卒論執筆要綱に準じ、決められた卒論提出期限に間に合うべく、各自の研究テーマに従い卒論研究・作成作業を行う。

【授業計画】

- 1) 卒業論文タイトルの決定 (4月)
- 2) 卒論(章)の構成 (5月上旬)
- 3) 文献リスト作成 (5月下旬)
- 4) 卒論(節)の構成 (6月)
- 5) 1節分の論文執筆仮提出 (7月下旬)
- 6) 中間発表 (8月下旬～9月上旬)
- 7) 卒論仮提出 (11月中旬)
- 8) 卒論本提出 (12月中旬)

受講者各自が、卒論作成年間スケジュールに従い、それぞれ指示された内容について、指定日時までに必要な作業を実施してくる。受講者各自の卒論テーマに関する問題点について、受講者同士互いに発表、討論していくことにより、卒論完成に向けての相乗効果を図っていく。なお、中間発表は、夏期休暇中に特殊演習ゼミ学生との合同合宿(2泊3日)にて行う場合もあるので、注意すること。

【評価方法】

卒論作成作業の進捗状況、報告内容などについても一部考慮しない訳ではないが、その大半は提出卒業論文の内容により評価する。

【テキスト】

テキスト使用せず。

卒業論文ゼミ II

菅野育子

【授業の概要】

図書館情報学の中心課題の一つである情報流通に関する研究を行なう。特に情報メディアから見た情報流通について検討する。情報メディアとは、情報が生産され利用される場面で媒体として機能するものを意味するが、たとえば、図書、雑誌、学術論文、新聞記事、ネットワーク情報資源などである。これらの情報メディアが情報の生産、加工、蓄積、利用の過程でどのような役割を果たしているのかについて、現状を把握するための調査や実験を行なう。また、その基礎となる文献講読を行ないながら、背景知識を得る。卒業論文の作成は、文献レビューと調査を基に研究成果を記述することである。

【授業の目標】

研究目的に基づく調査の計画と実施。

【授業計画】

4年次からは、研究テーマに基づく調査や実験を行なう。3年次で検討した既往研究も参考にしながら、調査方法を吟味した上で調査を実施する。夏期休暇中にゼミ合宿を行ない、中間報告をレジュメと口頭で行なう。卒業論文を執筆した後は、最終発表会に向けてパワーポイントを用いたプレゼンテーションの準備を行なう。

【評価方法】

研究への取り組みと卒業論文の内容から評価する。

【テキスト】

使用しない(プリント配布)。

卒業論文ゼミ II

三和義秀

【授業の概要】

3年前期で履修する「卒業論文I」で習得した知識や技術を補助スキルとして各自の卒業研究の最終テーマを検討する。具体的には、先行研究の調査と内容の理解、システム構築に必要なプログラミング技術を習得する。また学術論文の書き方についても学習する。

【授業の目標】

卒業研究のテーマを決定して、その研究方法を具現化する。

【授業計画】

- 1回から3回
各自の研究テーマに関連する先行研究文献の検索
- 4回から5回
研究のためのビブリオグラフィの作成、先行研究の内容理解
- 6回から10回
プログラミング学習
- 11回から15回
研究テーマに関するプレゼンテーション

【評価方法】

卒業研究に関する中間発表(レポート)、及び試作システムにて評価する。

【テキスト】

授業中に指示する。

【参考文献・資料】

三和義秀. Javaプログラミングのテクニック. 共立出版

卒業論文ゼミ II

村主朋英

【授業の概要】

卒業論文のための研究過程に沿って指導する。
まず、図書館情報学の特質および動向について整理・再確認する。つぎに、他分野を含む各自のテーマの関連主題領域を同定する。その上で、先行研究を網羅的に調査・分析し、テーマを明確化する。そして、研究方法を策定し、実質的な研究を開始する。

【授業の目標】

図書館情報学および各自のテーマの関連主題領域について、理解を深める。そして、研究動向を踏まえて各自のテーマを明確化し、研究方法について吟味する。

【授業計画】

1. 図書館情報学の特質および動向
2. 関連主題領域の同定
3. 先行研究の分析、研究動向の把握
4. 問題設定
5. 研究方法の決定
6. プレゼンテーション（中間発表会）

【評価方法】

平常点（出欠、課題の提出状況）。

【テキスト】

使用せず。

卒業論文ゼミ II

山崎茂明

【授業の概要】

現代社会の発展を基礎づけている科学研究活動を対象にして、コミュニケーションと情報メディアに着目して、さまざまな視点から考察してみたいと思います。4年次後期には、論文テーマについての文献レビューや調査データについて、さらに発表と討論を積み重ね卒業論文をまとめていきます。

【授業の目標】

問題解決、合意形成、発表・討論のための能力とそれらのスキルを育成する。

【授業計画】

みなさんが取りあげるテーマは多岐にわたると思いますが、ゼミ学生相互の意見交換はお互いに有益なものになると考えますので、ゼミを発表と討論の場として活用してください。今ひとつテーマをしばらく切れないといった悩みも問題解決のための一歩と考えていますので、そのことに正面から向き合うよう希望します。英文論文は良いものを選んでじっくり取り組んでみてください。多様な考えや新しいアプローチなど、みなさんの世界を広げてくれるはずです。

【評価方法】

卒業論文、レポート。

【テキスト】

講義内容に関係する基本文献を随時配付する。

卒業論文ゼミ III

伊藤真理

【授業の概要】

履修者各自で設定したテーマに従って、卒業論文を作成するための指導を行う。履修者はこれまでの発表・討議を通して進めてきた研究を論文としてまとめる。

【授業の目標】

収集および分析したさまざまな文献やデータを用いて、論理的で明解な記述ができ、客観性と独自性を持った論文の作成ができる。

論文作成とともに効果的なプレゼンテーションができる。

【授業計画】

卒業論文の文章表現法、執筆規程、引用などについて授業を行い、個別指導を中心として、論文作成を進める。最終的な成果となる卒業論文発表会でのプレゼンテーションの準備を行う。

【評価方法】

平常点、レポートの総合評価。

【テキスト】

使用せず。

【参考文献・資料】

適宜紹介する。

卒業論文ゼミ III

岡澤和世

【授業の概要】

現在既存の情報システムが利用者の多様な要求に応えられない理由を明らかにし、情報技術へのヒューマン・ファクターと人間工学の導入の必要性を指摘する。利用者を中心に据えた情報技術の方法と道具を考察する。ゼミの目的は変動の激しい情報環境に生きている私たち利用者が、氾濫する情報に溺れることなく、正しい情報理解能力（リテラシー）を習得し、活用する方法を考察することである。

<前期>

- オリエンテーション：情報環境
1. 情報と知識を結ぶ鎖 2. 情報アクセス
3. 情報瞬間 4. 情報と文化の関係
5. 情報メディア 6. 書物の歴史
7. 図書館の役割 8. 情報と女性
9. レポートの書き方

<後期>

- オリエンテーション：卒論について
1. 情報環境 2. 情報学の歴史
3. 情報過多現象 4. 人間工学
5. インターネット 6. 情報政策
7. 情報の要求と利用 8. 情報社会の展開過程
9. 将来の情報環境

【授業の目標】

情報社会における社会の要求に応えるための教育と実践

【授業計画】

前期は講義を中心に行なう。後期は各自の卒論テーマに従って解説する。

【評価方法】

レポート。卒業論文。出席回数。

【テキスト】

指定なし

卒業論文ゼミ III

菅野育子

【授業の概要】

図書館情報学の中心課題の一つである情報流通に関する研究を行なう。特に情報メディアから見た情報流通について検討する。情報メディアとは、情報が生産され利用される場面で媒体として機能するものを意味するが、たとえば、図書、雑誌、学術論文、新聞記事、ネットワーク情報資源などである。これらの情報メディアが情報の生産、加工、蓄積、利用の過程でどのような役割を果たしているのかについて、現状を把握するための調査や実験を行なう。また、その基礎となる文献講読を行ないながら、背景知識を得る。卒業論文の作成は、文献レビューと調査を基に研究成果を記述することである。

【授業の目標】

調査結果の分析・考察を通して、卒業論文を完成させ、卒業論文発表会で研究内容を発表すること。

【授業計画】

4年次からは、研究テーマに基づく調査や実験を行なう。3年次で検討した既往研究も参考にしながら、調査方法を吟味した上で調査を実施する。夏期休暇中にゼミ合宿を行ない、中間報告をレジュメと口頭で行なう。卒業論文を執筆した後は、最終発表会に向けてパワーポイントを用いたプレゼンテーションの準備を行なう。

【評価方法】

研究への取り組みと卒業論文の内容から評価する。

【テキスト】

使用しない（プリント配布）。

卒業論文ゼミ III

西荒井学

【授業の概要】

3年次履修科目である卒業論文ゼミIIにおいて、各自が設定した卒業論文のテーマに従い、卒論指導を行う。

【授業の目標】

決められた卒論執筆要綱に準じ、決められた卒論提出期限内に間に合うべく、各自の研究テーマに従い卒論研究・作成作業を行う。

【授業計画】

- 1) 卒業論文タイトルの決定（4月）
- 2) 卒論（章）の構成（5月上旬）
- 3) 文献リスト作成（5月下旬）
- 4) 卒論（節）の構成（6月）
- 5) 1節分の論文執筆仮提出（7月下旬）
- 6) 中間発表（8月下旬～9月上旬）
- 7) 卒論仮提出（11月中旬）
- 8) 卒論本提出（12月中旬）

受講者各自が、卒論作成年間スケジュールに従い、それぞれ指示された内容について、指定日時までに必要な作業を実施してくる。受講者各自の卒論テーマに関する問題点について、受講者同士互いに発表、討論していくことにより、卒論完成に向けての相乗効果を図っていく。なお、中間発表は、夏期休暇中に特殊演習ゼミ学生との合同合宿（2泊3日）にて行う場合もあるので、注意すること。

【評価方法】

卒論作成作業の進捗状況、報告内容などについても一部考慮しない訳ではないが、その大半は提出卒業論文の内容により評価する。

【テキスト】

テキスト使用せず。

卒業論文ゼミ III

三和義秀

【授業の概要】

卒業研究に必要なシステム構築のためのプログラミング、データ分析を行いながら卒業論文の執筆を行う。また月に一度の割合で研究の進捗状況を報告するプレゼンテーションを行う。

【授業の目標】

卒業研究のための制作システム構築、及び論文執筆を完了する。

【授業計画】

- (1回) オリエンテーション
- (2回から3回) 各自の研究テーマに即したシステム構築方法の個別指導
- (4回から5回) 卒業論文の構成内容に関する個別指導
- (6回から7回) 制作システムのプレゼンテーション（中間発表）
- (8回から9回) 制作システムの評価
- (10回から13回) 卒業論文の個別執筆指導
- (14回) 制作システムのプレゼンテーション（最終発表）
- (15回) まとめ

【評価方法】

卒業論文、及び制作システムにて評価する。

【テキスト】

授業中に指示する。

卒業論文ゼミ III

村主朋英

【授業の概要】

卒業論文のための研究過程に沿って指導する。研究計画を実施に移す。そこで得られた成果を分析・考察する。最後に、研究全体の過程を整理し、卒業論文を企画・執筆する。

【授業の目標】

計画的に作業を進め、得られた成果を厳正に分析・考察する。そして、成果を過不足なく表現した論文を構築する。

【授業計画】

1. 研究計画の実施
2. 研究成果の分析・考察
3. 論文の企画・執筆

【評価方法】

平常点（出欠、課題の提出状況）。

【テキスト】

使用せず。

卒業論文ゼミ III

山崎茂明

【授業の概要】

現代社会の発展を基礎づけている科学研究活動を対象にして、コミュニケーションと情報メディアに着目して、さまざまな視点から考察してみたいと思います。4年次後期には、論文テーマについての文献レビューや調査データについて、さらに発表と討論を積み重ね卒業論文をまとめていきます。

【授業の目標】

問題解決、合意形成、発表・討論のための能力とそれらのスキルを育成する。

【授業計画】

みなさんが取りあげるテーマは多岐にわたると思いますが、ゼミ学生相互の意見交換はお互いに有益なものになると考えますので、ゼミを発表と討論の場として活用してください。今ひとつテーマをしばり切れないといった悩みも問題解決のための一歩と考えていますので、そのことに正面から向き合うよう希望します。英文論文の良いものを選んでじっくり取り組んでみてください。多様な考えや新しいアプローチなど、みなさんの世界を広げてくれるはずです。

【評価方法】

卒業論文、レポート。

【テキスト】

講義内容に関係する基本文献を随時配付する。

図書館情報学特殊演習 I

伊藤真理

【授業の概要】

インターネットが普及している今日の情報環境において、情報の組織化（メタデータ）とその利用の意義について理解を深めることを目的とする。人文社会学分野の電子情報資源を対象として、メタデータ作成およびその提供と利用について検討する。

【授業の目標】

メタデータについてのさまざまな用語を理解し、ダブリン・コアフォーマットを用いてメタデータの作成ができる。

【授業計画】

3年次では、電子情報資源の組織化に関する基礎的な知識の習得を中心とする。前半はメタデータの種類や特徴、電子情報資源を対象とした様々な記述フォーマットについての基礎知識を学び、後半はメタデータやメタデータを利用したシステムなどの事例に関する文献を読み、理解を深める。

【評価方法】

平常点、レポートの総合評価。

【テキスト】

使用せず（プリント配布）。

【参考文献・資料】

適宜紹介する。

図書館情報学特殊演習 I

岡澤和世

【授業の概要】

「情報環境」というコンセプトに焦点を当て、現代社会の情報問題を考える。演習を中心に各自の中心のテーマを決め、相互理解を深めていく。

今、情報環境が大きな変貌を遂げようとしている。高度情報化社会に生きている私たちは変わりゆく情報環境について認識を深め、氾濫する情報に溺れることなく、正しい情報理解力（リテラシー）を発揮できるよう求められている。本講義では、そのために必要な情報は何かを中心に論じる。

【授業の目標】

情報社会における社会の要求に応えるための教育と実践

【授業計画】

オリエンテーション：情報環境

1. 情報環境とニューメディア
2. 情報メディア
3. 情報アクセス
4. 情報不均衡
5. 情報と知識を結ぶ鎖
6. 記憶と情報
7. ニューラル・ネットワーク
8. 言語と会話
9. 書物の歴史
10. 女性と情報
11. インフォ・リッチ：インフォ・ブア
12. 情報の質
13. 情報過多
14. 情報と文化の関係
15. 情報と漫画
16. 情報と広告
17. 情報とテレビ
18. 情報の一極集中化

【評価方法】

小論文と出席日数。

【テキスト】

指定なし

図書館情報学特殊演習 I

菅野育子

【授業の概要】

図書館や博物館といった図書館情報学関連のテーマを題材に、特殊演習ゼミ生全員で企画書を共同編集し、作成する。企画書作成は以下のような段階で行なう。

- (1) テーマに関する基礎知識を得るために、関連文献を探索し講読する
- (2) 関連文献を評価するために、文献の要旨についてレジюмеと口頭で発表する
- (3) テーマに関する現状を把握するために、取材を行なう
- (4) 文献と取材から得たデータや知識を文章にまとめる
- (5) 企画書の構成やレイアウトを検討する
- (6) 企画書に採用する検索システムを決定するために、検索システムの調査と評価を行なう
- (7) 企画書の印刷（レイアウトなどの編集作業）

【授業の目標】

図書館や博物館の動向を文献講読から理解すること。

【授業計画】

3年次の半期間は、企画書作成のための基礎知識をゼミ生全員で共有するために、文献の探索、講読、口頭発表を繰り返す。それと同時に、資料の構成や内容についてコンセンサスを得るために話し合いを定期的に行なう。ゼミの最終週には、次年度に向けての計画について報告会を開く。

【評価方法】

ゼミ活動への取り組みと発表内容から評価する

【テキスト】

使用しない（プリント配布）。

図書館情報学特殊演習 I

西荒井学

【授業の概要】

各自が設定したテーマに応じ、プログラム言語あるいはアプリケーション・ソフトウェアを使用して、実際にシステム構築（もしくはプログラム開発）を行い、それらの内容を演習形式で学習していく。

【授業の目標】

各自が設定したシステム構築に必要な開発ツール、すなわちプログラム言語やアプリケーション・ソフトウェアに関する、より高度な知識の習得と基本設計までを実技を通して理解していく。

【授業計画】

- 1) テーマの決定
- 2) プログラム設計
- 3) プログラミング
- 4) テスト
- 5) 仕様書の作成
- 6) 評価

受講者各自が設定したテーマに従って、毎時間実際にシステム構築（もしくはプログラム開発）に必要な各種作業を実施していく。取り扱うプログラミング言語あるいはアプリケーション・ソフトウェアについては、情報教育センターが所有するソフトウェアの範囲内であれば、それ以上の条件は別に設定しない。ただし、表計算ソフトウェアなどのアプリケーション・ソフトウェアを使用する場合には、マクロを使用するなど、唯一、プログラミングの要素を含むことを条件とする。

なお受講者各自に対して、最終的には、開発の目的、プログラム設計書（入力、出力、ファイル、プロセス）、ソース・リスト、操作マニュアル、総合評価からなるレポートの提出を義務付ける。また、4年次での卒業制作に関する中間発表は、卒業論文ゼミ学生と合同で実施するゼミ合宿（2泊3日）の場に行う場合がある。

【評価方法】

プログラム開発の理解度ならびに進捗状況、課題レポートなどによって評価する。

【テキスト】

テキスト使用せず。

図書館情報学特殊演習 I

村主朋英

【授業の概要】

村主特演ゼミでは、歴史情報を用いた演習を行なう。個別テーマごとに、種々の情報源を活用した歴史の探求を行なう。

各自の研究テーマは、情報に関わる事項にとどまらず、科学技術・哲学・文学・芸術・芸能・音楽、また教育や法律など、人間の生活や社会活動に関わる任意の事象の中から、各自の意思にもとづいて決める。

3年次においては、辞典・事典等のレファレンスブックの調査を通じ、予備知識・基礎知識をかため、問題意識を育むための作業を行う。

【授業の目標】

各自の研究テーマについて、予備知識・基礎知識をかため、問題意識を育む。

【授業計画】

1. テーマの設定
2. 用語調査と概念マップ作成
3. 事象の調査(基本的事項の把握)
4. 基本文献リスト(書誌)の作成

【評価方法】

平常点(出欠、課題の提出状況)、最終報告書。

【テキスト】

使用せず。

【参考文献・資料】

情報と文献の探索 第3版(丸善)

図書館情報学特殊演習 I

三和義秀

【授業の概要】

「Web 2.0」という次世代のインターネット・サービスが開発され、「ウィキペディア」、「ブログ(weblog)」、「RSSフィード」などの技術によって、インターネット上での協同作業や知識の共有が活発化している。図書館においても、自分だけの勉強部屋のようなWeb上の個人化された図書館としての「MyLibrary」や知識を共有する場としての「Library2.0」という新しい枠組みも誕生している。本講義では、Web 2.0の社会で活用される最新技術について「集合値」「パーソナライゼーション」「感性情報」「XML」に焦点をあてて学習する。

【授業の目標】

「XML」「ウィキペディア」「ブログ(weblog)」「RSSフィード」などWeb 2.0社会を支える技術の仕組みについて理解し、XMLによるプログラミングの基礎スキルを身に付ける。また、人間の感性の特性と感性情報検索システムの仕組みについて理解する。

【授業計画】

- (1回) オリエンテーション
- (2回から3回) Web社会の代表的な技術：XML, ウィキペディア, ブログ(weblog), RSSの仕組み
- (4回から5回) 人間の感性
- (6回から7回) 感性情報検索システムの仕組み
- (8回から10回) 感性情報検索システムの実例と評価
- (11回から12回) XML文書の作成, XSLTによるスタイルシートの作成
- (13回から14回) XMLによる検索システム(課題)の作成
- (15回) まとめ

【評価方法】

評価項目

- 1) 「Web2.0の社会における技術（「集合値」「パーソナライゼーション」「感性情報」「XML）」をテーマとするレポート（評価割合：50%）
- 2) XMLプログラミングの課題（評価割合：50%）

【テキスト】

梅田望夫。「ウェブ進化論」。ちくま新書

図書館情報学特殊演習 I

山崎茂明

【授業の概要】

フォーマルコミュニケーションの最も主要なメディアとして発展してきた学術雑誌を主たるテーマにして、学術雑誌の創刊時を中心とした歴史的アプローチ、現在の出版状況を数量的に把握する生態論的アプローチ、電子ジャーナルを中心とした未来論的アプローチ、レフェリーシステムに代表される本質論的アプローチ、投稿や雑誌の利用に焦点をあてた行動的アプローチなど、さまざまな視点から学術雑誌の機能を検討します。ゼミ参加者は情報学III(科学コミュニケーション)と情報メディア論V(科学技術情報)を履修し、そこで話されている内容に興味ある方が適切です。

3年時には、執筆、投稿、審査、編集、流通といったプロセスを、著名な総合科学雑誌NATURE誌を例にして、その歴史的な発展や電子化への取り組み、ニュースメディアとの関係、記事の種類と役割など、具体的に取りあげます。また、レフェリーシステムの役割をロールプレイにより体験し、信頼性の高い学術情報がいかに形成されているかを理解してみましょう。実際に多くの学術雑誌を手に触れながら、どのような人が、どんな目的で発表し、読んでいるのか、科学研究世界への想像力を持って取り組みたい。

【授業の目標】

問題解決、合意形成、発表・討論のための能力とそれらのスキルを育成する。

【授業計画】

各自やグループにおける問題解決のプロセスを実践的に学ぶ機会とした。そのために、基本文献の概要と動向のまとめ(文献レビュー)、論文のまとめかたと会議でのプレゼンテーション(PowerPoint実習を含む)など、調査と発表のための基礎知識もとりあげます。

【評価方法】

総合研究報告、レポート。

【テキスト】

講義内容に関係する基本文献を随時配付する。

図書館情報学特殊演習 II

伊藤真理

【授業の概要】

3年次に習得した電子情報資源の組織化（メタデータ）に関する知識を応用しながら、その利用・提供について考察する。各自（個人又はグループ）で任意のテーマを選び、メタデータの効果的な提供サービスの方法について学ぶ。

【授業の目標】

既存のメタデータプロジェクトやシステムについて理解し、それらのシステムにおけるメタデータの活用について把握し、批判的に考察ができるようになる。また、履修者自身でテーマ設定を行い、研究方法を検討する能力を養う。

【授業計画】

メタデータの利用・提供についてさまざまな事例を収集し、比較検討を行う。その考察を基にして、各自のプロジェクトのテーマの選定や研究方法を決定する。

【評価方法】

平常点、レポートの総合評価。

【テキスト】

使用せず。適宜指定する。

【参考文献・資料】

適宜紹介する。

図書館情報学特殊演習 II

菅野育子

【授業の概要】

図書館や博物館といった図書館情報学関連のテーマを題材に、特殊演習ゼミ生全員で企画書を共同編集し、作成する。企画書作成は以下のような段階で行なう。

- 1) テーマに関する基礎知識を得るために、関連文献を探索し講読する
- 2) 関連文献を評価するために、文献の要旨についてレジュメと口頭で発表する
- 3) テーマに関する現状を把握するために、取材を行なう
- 4) 文献と取材から得たデータや知識を文章にまとめる
- 5) 企画書の構成やレイアウトを検討する
- 6) ガイドに採用する検索システムを決定するために、検索システムの調査を行なう
- 7) 作成した企画書を公表し、第三者による評価を行なう
- 8) 企画書の印刷（レイアウトなどの編集作業）

【授業の目標】

研究テーマを決定し、関連する文献の収集や取材活動を行い、テーマに関する情報を収集し、理解し、文章化すること。

【授業計画】

3年次に講読した文献からのデータも参考にしながら、前半は取材活動を中心に行なう。この間も、文献の探索・講読や、企画書の構成・内容についての話し合いを継続する。企画書作成後は、第三者による企画の内容評価を行ない、その結果も含めた最終報告書を作成する。

【評価方法】

ゼミ活動への取り組みと企画書の内容から評価する。

【テキスト】

使用しない（プリント配布）。

図書館情報学特殊演習 II

岡澤和世

【授業の概要】

「情報環境」というコンセプトに焦点を当て、現代社会の情報問題を考える。演習を中心に各自の中心のテーマを決め、相互理解を深めていく。今、情報環境が大きな変貌を遂げようとしている。高度情報化社会に生きている私たちは変わりゆく情報環境について認識を深め、氾濫する情報に溺れることなく、正しい情報理解力（リテラシー）を発揮するよう求められている。本講義では、そのために必要な情報は何かを中心に論じる。

【授業の目標】

情報社会における社会の要求に応えるための教育と実践

【授業計画】

オリエンテーション：情報環境

1. 情報環境とニューメディア
2. 情報メディア
3. 情報アクセス
4. 情報不均衡
5. 情報と知識を結ぶ鎖
6. 記憶と情報
7. ニューラル・ネットワーク
8. 言語と会話
9. 書物の歴史
10. 女性と情報
11. インフォ・リッチ：インフォ・プア
12. 情報の質
13. 情報過多
14. 情報と文化の関係
15. 情報とテレビ
16. 情報の一極集中化
17. 情報倫理
18. 情報社会の展開過程と現状

【評価方法】

出席とレポート。

【テキスト】

指定なし

図書館情報学特殊演習 II

西荒井学

【授業の概要】

各自が設定したテーマに応じ、プログラム言語あるいはアプリケーション・ソフトウェアを使用して、実際にシステム構築（もしくはプログラム開発）を行い、それらの内容を演習形式で学習していく。

【授業の目標】

各自が設定したシステム構築に必要な一連のシステム開発作業を展開し、最終的にシステム評価までを実施することにより、具体的にシステム開発における問題点や課題を理解していく。なお同時に、システム開発作業を実施していく中で、各自のシステム開発作業に使用している開発ツールの有用性や操作性などについても併せて検討し、理解を深めていく。

【授業計画】

- 1) テーマの決定
- 2) プログラム設計
- 3) プログラミング
- 4) テスト
- 5) 仕様書の作成
- 6) 評価

受講者各自が設定したテーマに従って、毎時間実際にシステム構築（もしくはプログラム開発）に必要な各種作業を実施していく。取り扱うプログラミング言語あるいはアプリケーション・ソフトウェアについては、情報教育センターが所有するソフトウェアの範囲内であれば、それ以上の条件は別に設定しない。ただし、表計算ソフトウェアなどのアプリケーション・ソフトウェアを使用する場合には、マクロを使用するなど、唯一、プログラミングの要素を含むことを条件とする。

なお受講者各自に対して、最終的には、開発の目的、プログラム設計書（入力、出力、ファイル、プロセス）、ソース・リスト、操作マニュアル、総合評価からなるレポートの提出を義務付ける。

【評価方法】

プログラム開発の理解度ならびに進捗状況、課題レポートなどによって評価する。

【テキスト】

テキスト使用せず。

図書館情報学特殊演習 II

三和義秀

【授業の概要】

各自の研究テーマに関する先行研究について検索・収集し、それらの内容を理解しながら、システム構築のためのJSPを中心とするプログラミングの基礎スキルを習得する。

【授業の目標】

卒業研究のシステム構築に用いるプログラム言語を決定し、システム設計、及びプログラミング技術を習得する。

【授業計画】

- (1回) オリエンテーション
- (2回から3回) 各自の研究テーマに関連する先行研究文献の検索・収集方法の指導
- (4回から5回) システム設計の方法
- (6回から8回) JSPによるプログラミングの基礎
- (9回から10回) JSPによるWebアプリケーションの作成
- (11回から13回) 研究計画、研究方法の策定とプレゼンテーション
- (14回) 研究方法の評価
- (15回) まとめ

【評価方法】

レポートにて評価する。

【テキスト】

授業中に指示する。

図書館情報学特殊演習 II

村主朋英

【授業の概要】

3年次に引続き、歴史情報に関わる演習(卒業研究)を進める。
まず、各自のテーマに関する年表の作成に取り組む。多数の項目を設定し、広範囲の事象を有機的に組み合わせた年表をつくることを目指す。つぎに、それまでの調査を通じて生じた疑問点・関心事項について検討し、それをもとにテーマを明確化する。

【授業の目標】

質が高く、有意義な年表をつくる。また、テーマに関わる問題状況の掘り下げを通じて問題意識を深め、テーマを明確化する。

【授業計画】

1. 年表の計画
2. 年表のためのデータ収集
3. 年表の編集・調整
4. 問題の分析と仮説の設定
5. プレゼンテーション(テーマ概要発表)

【評価方法】

平常点(出欠、課題の提出状況)

【テキスト】

使用せず。

図書館情報学特殊演習 II

山崎茂明

【授業の概要】

フォーマルコミュニケーションの最も主要なメディアとして発展してきた学術雑誌をより深く理解するために、学生を読者対象にした総合誌「LaIS」の記事を企画し、調査、記事執筆、原稿審査、レイアウト、編集、製作などを実践的に学ぶ。個人やグループで特定テーマを企画し、最終的には、ゼミ学生誌「LaIS」としてまとめることを目標にしています。

【授業の目標】

問題解決、合意形成、発表・討論のための能力とそれらのスキルを育成する。

【授業計画】

各自やグループにおける問題解決のプロセスを実践的に学ぶ機会とした。文献検討だけでなく、訪問調査、見学なども取り入れ、実践的に考えていきたい。

【評価方法】

総合研究報告、レポート。

【テキスト】

講義内容に関係する基本文献を随時配付する。

【参考文献・資料】

必要に応じて指示する。

図書館情報学特殊演習 III

伊藤真理

【授業の概要】

3年次に習得した電子情報資源の組織化(メタデータ)に関する知識を応用しながら、その利用・提供について考察する。各自(個人又はグループ)で任意のテーマを選び、メタデータの効果的な利用や提供方法について学ぶ。

【授業の目標】

各自で決定したテーマの研究目的を達成するための方法を実践できる能力を養う。意見や主張を論理的にまとめ、プレゼンテーションで発表することができる。

【授業計画】

特殊演習IIで決定したテーマや研究方法に基づいて、電子情報資源を対象としてメタデータを利用したレファレンスツールの作成を行う。卒業論文発表会での発表のためのプレゼンテーションの準備を行う。

【評価方法】

平常点、レポートの総合評価。

【テキスト】

使用せず。適宜指定する。

図書館情報学特殊演習 III

岡澤和世

【授業の概要】

「情報環境」というコンセプトに焦点を当て、現代社会の情報問題を考える。演習を中心に各自の中心のテーマを決め、相互理解を深めていく。

今、情報環境が大きな変貌を遂げようとしている。高度情報化社会に生きている私たちは変わりゆく情報環境について認識を深め、氾濫する情報に溺れることなく、正しい情報理解力（リテラシー）を発揮するよう求められている。本講義では、そのために必要な情報は何かを中心に論じる。

【授業の目標】

情報社会における社会の要求に応えるための教育と実践

【授業計画】

オリエンテーション：情報環境

1. 情報環境とニューメディア
2. 情報メディア
3. 情報アクセス
4. 情報不均衡
5. 情報と知識を結ぶ鎖
6. 記憶と情報
7. ニューラル・ネットワーク
8. 言語と会話
9. 書物の歴史
10. 女性と情報
11. インフォ・リッチ：インフォ・ブア
12. 情報の質
13. 情報過多
14. 情報と文化の関係
15. 情報とテレビ
16. 情報の一極集中化
17. 情報倫理
18. 情報社会の展開過程と現状

【評価方法】

出席とレポート。

【テキスト】

指定なし

図書館情報学特殊演習 III

菅野育子

【授業の概要】

図書館や博物館といった図書館情報学関連のテーマを題材に、特殊演習ゼミ生全員で企画書を共同編集し、作成する。企画書作成は以下のような段階で行なう。

- (1) テーマに関する基礎知識を得るために、関連文献を探索し講読する
- (2) 関連文献を評価するために、文献の要旨についてレジュメと口頭で発表する
- (3) テーマに関する現状を把握するために、取材を行なう
- (4) 文献と取材から得たデータや知識を文章にまとめる
- (5) 企画書の構成やレイアウトを検討する
- (6) ガイドに採用する検索システムを決定するために、検索システムの調査と評価を行なう
- (7) 作成した企画書を公表し、第三者による内容評価を行なう
- (8) 企画書の印刷（レイアウトなどの編集作業）

【授業の目標】

研究テーマに関する情報をWebサイトや冊子体の資料としてまとめ、他者からの評価を得て完成させ、発表会で活動報告と製作した資料を公開すること。

【授業計画】

3年次に講読した文献からのデータも参考にしながら、前半は取材活動を中心に行なう。この間も、文献の探索・講読や、企画書の構成・内容についての話し合いを継続する。企画書作成後は、第三者による企画の内容評価を行ない、その結果も含めた最終報告書を作成する。

【評価方法】

ゼミ活動への取り組みと企画書の内容から評価する。

【テキスト】

使用しない（プリント配布）。

図書館情報学特殊演習 III

西荒井学

【授業の概要】

各自が設定したテーマに応じ、プログラム言語あるいはアプリケーション・ソフトウェアを使用して、実際にシステム構築（もしくはプログラム開発）を行い、その内容の演習形式で学習していく。

【授業の目標】

各自が設定したシステム構築に必要な一連のシステム開発作業を展開し、最終的にシステム評価までを実施することにより、具体的にシステム開発における問題点や課題を理解していく。なお同時に、システム開発作業を実施していく中で、各自のシステム開発作業に使用している開発ツールの有用性や操作性などについても併せて検討し、理解を深めていく。

【授業計画】

- 1) テーマの決定
- 2) プログラム設計
- 3) プログラミング
- 4) テスト
- 5) 仕様書の作成
- 6) 評価

受講者各自が設定したテーマに従って、毎時間実際にシステム構築（もしくはプログラム開発）に必要な各種作業を実施していく。取り扱うプログラミング言語あるいはアプリケーション・ソフトウェアについては、情報教育センターが所有するソフトウェアの範囲内であれば、それ以上の条件は別に設定しない。ただし、表計算ソフトウェアなどのアプリケーション・ソフトウェアを使用する場合には、マクロを使用するなど、唯一、プログラミングの要素を含むことを条件とする。

なお受講者各自に対して、最終的には、開発の目的、プログラム設計書（入力、出力、ファイル、プロセス）、ソース・リスト、操作マニュアル、総合評価からなるレポートの提出を義務付ける。

【評価方法】

プログラム開発の理解度ならびに進捗状況、課題レポートなどによって評価する。

【テキスト】

テキスト使用せず。

図書館情報学特殊演習 III

三和義秀

【授業の概要】

図書館情報学特殊演習 I、II で策定した研究計画、習得した知識、技術、及び収集した参考文献を基にして各自の研究テーマに即したシステムの設計、及びプログラミングを行う。また月に1度の割合で、研究の進捗状況を報告するプレゼンテーションを行う。

【授業の目標】

卒業研究の制作システム、及び卒業レポートを完成する。

【授業計画】

- (1回) オリエンテーション
- (2回から5回) 各自の研究テーマ、方法に即した個別指導
- (6回から8回) 研究の進捗状況（中間報告）のプレゼンテーション
- (9回から10回) 試作システムの評価
- (11回から13回) 制作システムの修正と卒業レポートの執筆指導
- (14回から15回) 卒業研究の発表会（最終プレゼンテーション）

【評価方法】

卒業レポート、及び制作システムにて評価する。

【テキスト】

授業中に指示する。

図書館情報学特殊演習 III

村主朋英

【授業の概要】

IおよびIIに引続き、歴史情報に関わる演習（卒業研究）を進める。IIにおいて明確化したテーマについて、情報源を探索し、得られる情報の分析を通じて課題の解決を進める。そして、研究の成果をまとめ、中間発表会と最終レポートの二つの形で表現する。

【授業の目標】

各自のテーマに関する研究を深め、成果をまとめて発表する。また、それら一連の作業を通じ、歴史情報を用いた問題解決について学ぶ。

【授業計画】

1. 情報源の網羅的探索
2. 情報源から得られる情報の分析・総合
3. 問題の解決
4. プレゼンテーション（中間発表、最終報告書）

【評価方法】

平常点（出欠、課題の提出状況）、最終報告書

【テキスト】

使用せず。

図書館情報学特殊演習 III

山崎茂明

【授業の概要】

フォーマルコミュニケーションの最も主要なメディアとして発展してきた学術雑誌をより深く理解するために、学生を読者対象にした総合誌「LaIS」の記事を企画し、調査、記事執筆、原稿審査、レイアウト、編集、製作などを実践的に学ぶ。個人やグループで特定テーマを企画し、最終的には、ゼミ学生誌「LaIS」としてまとめることを目標にしています。

【授業の目標】

問題解決、合意形成、発表・討論のための能力とそれらのスキルを育成する。

【授業計画】

各自やグループにおける問題解決のプロセスを実践的に学ぶ機会とした。文献検討だけでなく、訪問調査、見学なども取り入れ、実践的に考えていきたい。

【評価方法】

総合研究報告、レポート。

【テキスト】

講義内容に関係する基本文献を随時配付する。

【参考文献・資料】

必要に応じて指示する。

プラクティカルイングリッシュ

伊藤真理

【授業の概要】

図書館員や情報専門家として働くときに必要と思われる英文資料や情報源を教材として取りあげ、読解力と背景となる事象へのアプローチを学ぶ。職業人として求められる身近な英語の文章を対象とする。

【授業の目標】

海外の情報機関や情報専門家を訪問、またインターネットを通して必要な情報や知識を獲得するために必要とされる、広い視点での働くための基礎能力を修得する。

【授業計画】

辞書を引く、人と会う（名刺を読む）、図書館訪問（手紙、電子メール）、公共図書館、米国議会図書館、図書館の組織とサービス、求職情報からみた図書館、特定図書館の活動、書評を読む、など。履修者は、必ず英和辞典を持参すること。授業時間内の英訳や自宅での課題など予定している。

【評価方法】

平常点、レポート、試験。

【テキスト】

課題文や資料を随時配付する。

【参考文献・資料】

適宜紹介する。

プロフェッショナルリーディング

村主朋英

【授業の概要】

専門的な外国語文献の効果的・効率的な読解・利用のための技能を養う科目である。主に、英米の情報学・図書館学のレファレンスブック・専門書・学術論文を題材とする。

平易な図書よりも専門的な文献の方が形式が整っており、和文よりも英文の方が一般に論理的で明快である。その点を体感するとともに、そのような特徴を活用して必要な情報をうまく／手早く引き出す技法を学ぶ。

また、専門用語を覚えれば覚えるほど、それに比例して専門的な文献は読みやすくなる。そこで、情報関連の専門用語についても講義で取り上げる。演習を中心に進める。（翻訳・要約などの作業課題を課する）

【授業の目標】

コツさえわかれば専門的な外国語文献は大変に読みやすいメディアです。そのことを体感し、読み解くことの楽しさを覚えてほしい。

なお、演習を中心とし、平常点を重視するので、がんばってください。

【授業計画】

1. 論文の流れの掴み方
文章の構造的性/専門用語を憶えることの意義
2. 演習（1）：短文全訳で腕試し
3. 演習（2）：文脈のわかっている英文の読解
4. 演習（3）：長文の斜め読み
5. 演習（4）：異なる専門分野の英文
6. レジュメの作り方
レジュメの要件/レジュメ作成演習

【評価方法】

以下の三つを組み合わせる。

- （1）平常点（出欠および宿題の提出状況）
- （2）レポート（外国語論文を読んでレジュメを作成）

【テキスト】

図書館情報学用語辞典（丸善）

そのほか、各自英和辞典を持参すること。

情報学 I (生命情報増幅)

林 博司

【授業の概要】

生命は多くの情報システムによって支えられている。原始生命以来存在する先天的な遺伝情報系について学ぶ。

- 1: 地球の誕生と生命の起源
- 2: 遺伝子とは何か
- 3: 核酸の構造と遺伝暗号
- 4: 遺伝情報の伝達と発現
- 5: タンパク質の構造と機能
- 6: 情報発現の制御機構
- 7: 遺伝子像の変遷
- 8: 遺伝子による生命現象の支配
- 9: 遺伝情報系と言語情報系

【授業の目標】

遺伝情報系のもつ情報システムとしての特異性を理解する。

【授業計画】

体験的、視聴覚的に学ぶ。

【評価方法】

中間テスト(30%)、レポート(30%)、最終テストの成績(40%)で評価する。

【テキスト】

なし

【参考文献・資料】

授業で指示する

情報学 II (生命情報増幅)

林 博司

【授業の概要】

生命は多くの情報システムによって支えられている。ここでは後天的な情報システムである脳神経系の情報処理について学ぶ。

- 1: 脳科学の歴史
- 2: 脳の構造と機能
- 3: 神経細胞の成り立ちと神経回路
- 4: 脳の可塑性
- 5: 記憶のメカニズム
- 6: 意識・感情についての理解
- 7: 感覚系の進化
- 8: 情報とは何か

【授業の目標】

脳神経系の作動機構を理解し、コンピュータによる情報処理との異同を理解する。

【授業計画】

体験的、視聴覚的に学ぶ。

【評価方法】

中間テスト(50%)最終テスト(50%)の成績で評価する。

【テキスト】

指定しない

【参考文献・資料】

情報生物学入門(鈴木英雄他著 培風館 2,427円)

情報学 III (図書館と情報検索の歴史)

村主朋英

【授業の概要】

図書館情報学分野に関わる歴史を概観する。『図書館情報学ハンドブック』第2版(丸善刊)において示された枠組みに基づき、図書及び図書館史の範囲を拡張し、〈人類の情報環境の発達過程を概観する〉というコンセプトを掲げ、図書館情報サービスの発達ならびに書誌・目録・分類およびレファレンスブックに代表される知識の組織化過程の発達を中心に、〈情報・知識の伝達・継承のために人類がどのような活動を行ってきたか〉という問題を探求する。

具体的には、まず情報活動のための背景要因となるメディア技術(情報・通信技術)の発達過程を概観し、つぎに情報流通の制度・機構(とくに図書館等の情報サービス機関や、図書館員等の情報専門職)、および書誌・索引作成や目録・分類法等の情報の蓄積・検索の技術・技法が整備されていった過程を評述する。それらは、人類にとって一種の環境要因である。その上で、そうした環境要因と人間との関わり(とくに情報の社会的蓄積・継承の問題)を展望する。

IIIでは、古代から中世までを対象とし、IVに引き継ぐ。

【授業の目標】

まず、図書館情報学の世界の一員として知っておくべき基本事項を習得する。次に、それらの事項の相互間の連関(歴史の流れ)を看取する。さらに、そうした歴史の流れを形成する「力」および「メカニズム」について探求する。

【授業計画】

1. 古代文明のメディアと情報・知識活動
2. ギリシア・ローマにおける進展
3. 中世の学術と書物・図書館
4. 印刷革命

【評価方法】

定期試験 ※穴埋め・訂正問題、論述問題

【テキスト】

歴史のなかの科学コミュニケーション(Vickery著 税別定価3,800円)
図書館情報学用語辞典(丸善)

【参考文献・資料】

図書館情報学ハンドブック 第2版(丸善)

情報学 IV (図書館と情報検索の歴史)

村主朋英

【授業の概要】

図書館情報学分野に関わる歴史を概観する。『図書館情報学ハンドブック』第2版(丸善刊)において示された枠組みに基づき、図書及び図書館史の範囲を拡張し、〈人類の情報環境の発達過程を概観する〉というコンセプトを掲げ、図書館情報サービスの発達ならびに書誌・索引・目録・分類およびレファレンスブックに代表される知識の組織化過程の発達を中心に、〈情報・知識の伝達・継承のために人類がどのような活動を行ってきたか〉という問題を探求する。

具体的には、まず情報活動のための背景要因となるメディア技術(情報・通信技術)の発達過程を概観し、つぎに情報流通の制度・機構(とくに図書館等の情報サービス機関や、図書館員等の情報専門職)、および書誌・索引作成や目録・分類法等の情報の蓄積・検索の技術・技法が整備されていった過程を評述する。それらは、人類にとって一種の環境要因である。その上で、そうした環境要因と人間との関わり(とくに情報の社会的蓄積・継承の問題)を展望する。

IVでは、IIIの知見を踏まえた上で、近・現代を対象とする。なお、メディアおよびコンピュータやネットワーク等の情報通信技術は背景要因の一部として扱うのみなので、それらの内容に期待する学生には、別の科目や参考書等を紹介する。

【授業の目標】

(情報学IIIと同様です。情報学IIIの該当項目を参照してください)

【授業計画】

1. 学術情報流通システムの成立:
学会とアカデミー、学術雑誌、書誌の展開
2. 知の環境化: 百科事典、国立図書館、公共図書館
3. ドキュメンテーションから情報検索へ

【評価方法】

定期試験 ※穴埋め・訂正問題、論述問題

【テキスト】

歴史のなかの科学コミュニケーション(Vickery著 勁草書房)
図書館情報学用語辞典(丸善)

【参考文献・資料】

図書館情報学ハンドブック 第2版(丸善)

情報学 V (科学コミュニケーション)

山崎茂明

【授業の概要】

現在社会の発展を基礎づけている科学研究活動を対象にして、そこで発生するコミュニケーションの実態を、情報メディアと研究者に着目して、具体的な事例をもとに検討したい。とくに、科学研究の不正行為に焦点をあて、科学コミュニケーションの生態と機能を明らかにし、全体像への理解を試みる。

1. 科学研究の目的
2. 研究資金、研究者、成果としての学術論文
3. 17-21世紀の科学研究
4. 科学は信頼されているか
5. 科学研究の不正行為
6. 不正行為の生態
7. 日本における事例
8. 海外での事例
9. 主要国における対応
10. レフェリーシステムと不正行為
11. 学術論文の撤回と不正行為
12. 雑誌編集者の役割
13. 信頼できる科学コミュニケーションの確立

【授業の目標】

科学コミュニケーションの世界を実態として理解し、批判的にアプローチできる能力を育成する。

【授業計画】

講義を中心に行う。教科書はできるだけ事前に読んでもらいたい。講義内容に関係する資料を随時配付する。

【評価方法】

期末レポート、小レポート (授業時間内)

【テキスト】

科学者の不正行為 (山崎茂明 丸善)

【参考文献・資料】

背信の科学者たち (Broad, W.他 化学同人)
ORI研究倫理入門 (Steneck, N. 丸善)
アメリカの研究費とNIH (白楽ロックビル 共立出版)

情報処理概説 II (情報スキル I)

【授業の概要】

情報処理技術におけるソフトウェアの意義、ならびに有用性について、基礎的なプログラミング実習を通して、必要な基礎知識を習得していく。また、パッケージ系ソフトウェアとユーザー・ジョブ・プログラムの本質的な相違点を理解すると共に、ソフトウェア開発の本質的意義、および基本的な技法について学習していく。

なお、プログラミング実習については、VB (Visual Basic) を使用することから、VBの特徴、機能等についても併せて触れていく。

【授業の目標】

ソフトウェアの発展経緯や各種ソフトウェアの違いを正しく理解すると共に、ソフトウェアの応用方法を習得する。また、プログラミングの基礎技術を習得する。

【授業計画】

- 1) 開発系ソフトウェアの種類と歴史
- 2) パッケージ系ソフトとユーザー・ソフト
- 3) 表計算ソフトウェア：実習
- 4) プレゼンテーション・ソフト：実習
- 5) 情報処理ステップとプログラム開発基礎手順 (問題解析、開発)
- 6) VB (Visual Basic) の特徴と機能
- 7) プログラミングの前に、VBの起動、操作：実習
- 8) 演算処理、プロジェクトの保存/呼び出し：実習
- 9) 判断分岐、繰り返し処理：実習
- 10) 関数の利用、配列：実習
- 11) モジュールの追加、変数の共有：実習
- 12) VBアプリケーション開発練習：実習

講義と情報教育センターにおけるコンピュータ実習とを約半々の割合で授業を進行していく。

【評価方法】

出席状況、学期末試験ならびにコンピュータ実習課題提出内容によって評価する。

【テキスト】

コンピュータ入門I 2009年度版 (愛知淑徳大学情報教育センター編、共立出版)

情報処理概説 I (情報スキル II)

【授業の概要】

情報処理に必要なコンピュータのハードウェアおよびソフトウェアに関する基礎知識の習得、ならびに情報処理機器の基本操作、技法をコンピュータ実習に重点を置きながら習得していく。特に、コンピュータ技術は日進月歩の勢いで変化してきているが、その原理・原則には不変、かつ共通している部分が少ない。本授業では、情報のコンピュータ内部表現、コンピュータの基本機能など、ハードウェアならびにソフトウェアにおいて普遍的なコンピュータ技術基盤に焦点を絞って学習していく。

【授業の目標】

キーボード操作をはじめ日本語文書作成など、最も基礎的な操作技術習得を図ると共に、コンピュータ操作技術のみならず情報技術に関連する基礎的な知識を身に付ける。

【授業計画】

- 1) コンピュータの歴史的発展過程
- 2) 情報の表現と情報単位
- 3) コンピュータの仕組み
- 4) キー・タイピング練習：実習
- 5) 基本ソフトウェアと応用ソフトウェア
- 6) 基本ソフトウェアの操作：実習
- 7) 応用ソフトウェアの操作：ワープロ・ソフト実習
- 8) ネットワークの利用 (電子メール、WWW)：実習
- 9) 情報処理方式とシステム形態
- 10) 計測・制御システムの機能と特徴
- 11) 情報構造 (ファイルとデータベース)
- 12) 情報処理技術の応用分野と今後の情報処理

講義と情報教育センターにおけるコンピュータ実習とを約半々の割合で授業を進行していく。

【評価方法】

出席状況、学期末試験ならびにコンピュータ実習課題提出内容によって評価する。

【テキスト】

コンピュータ入門II 2009年度版 (愛知淑徳大学情報教育センター編、共立出版)

ネットワークリテラシ (情報スキル III)

【授業の概要】

情報社会を形成する重要な社会技術のひとつであるネットワーク技術について、その機能の有用性と脆弱性を主に実習を積み重ねながら習得していく。特に、現在の重要な情報基盤であるインターネット環境に焦点を当て、情報の受発信に係る操作・作成技法を学習する。操作技法については、電子メールおよびWWW (World Wide Web) での応用操作技術、ならびに作成方法については、WWW上でのホームページを効果的に作成・運用していく技術、CGIプログラミングを通してのネットワーク構築、およびセキュリティ技術を本授業の中心課題とする。

なお、授業内容に準じて、ネットワーク技術利用の意義、作成する情報コンテンツに対する配慮や心構え、および情報倫理、セキュリティの問題についても触れていく。

【授業の目標】

コンピュータネットワークの意義、機能、及び技術動向を理解し、ユビキタス社会で活用できるネットワーク・リテラシーを身につける。

【授業計画】

1. ネットワークとインターネット
 2. OSI参照モデルとTCP/IPプロトコル
 3. LANの種類と仕組み
 4. サーバの種類と仕組み
 5. IPアドレスとサブネットマスクの仕組み
 6. ネットワークの実践、基本コマンド
 7. セキュリティと情報倫理
 8. ハイパーテキスト、HTMLの仕組み
 9. 画像の表示、ハイパーリンクの設定
 10. フレームとテーブルの作成
 11. XMLの仕組み
 12. XML文書とスタイルシートの作成
 13. ホームページ課題制作
 14. まとめ
 15. 試験
- ※14回目のまとめと15回目の試験は入れ替わる場合があります。

【評価方法】

出席状況 (割合：20%)、課題提出 (割合：30%)、学期末試験 (割合：50%) によって総合評価を行う。

【テキスト】

ネットワークリテラシ入門 (第2版) (共立出版)

プログラミング論 (情報スキルIV)

【授業の概要】

システム開発の基本要素であるプログラミング技術について、プログラム言語を用いてその技能と基礎知識を習得する。特に、プログラム言語が持つ特徴ならびに機能の学習からはじめ、データ処理におけるアルゴリズムについての考え方、ならびに最終的なコーディング作業に至るまでの一連のプログラミング工程について学習する。

【授業の目標】

データ処理におけるアルゴリズムからプログラミング作業に至るまでのシステム開発における基礎知識と技術を Visual Basic のプログラミング実習を通じて習得する。

【授業計画】

1. システム開発におけるプログラミング
2. プログラミング言語の概要
3. プログラミングの基礎、手順
4. アルゴリズムとフローチャート
5. 変数とデータ型
6. 順次構造
7. 関数の利用
8. 選択構造：IF, Select Case文
9. 繰り返し構造：For～Next文
10. 繰り返し構造：Do While～Loop, Do Until～Loop文
11. 一次元配列
12. 二次元配列
13. 文字列処理
14. まとめ
15. 試験

【評価方法】

出席状況 (20%)、課題提出 (30%)、学期末試験 (50%) によって総合評価を行う。

【テキスト】

プログラミング入門 (西荒井学著 共立出版)

プログラミング実習

佐々木尚

【授業の概要】

プログラミングは、単なる机上の問題として理解していくことだけでは、残念ながら、真の意味での理解には繋がらない。本授業では、C言語とJavaを用いて、実際に手続き指向、並びにオブジェクト指向のプログラミング実習を重ねていくことにより、プログラミングの基礎能力を養うと共に、プログラミングの本質を理解していく。

提示するプログラミング実習課題に関して、問題の解析から最終的なコーディングに至るまでの一連の作業を繰り返していくことにより、基本的なプログラミング・テクニックを習得していく。なお、実習課題を解決するために必要な処理の概要ならびに技術的な問題については、適宜、補足的に説明していくこととする。

【授業の目標】

アルゴリズムの発想力とC言語、Javaプログラミングの基礎スキルを身につける。

【授業計画】

- (1回) オリエンテーション、プログラミングとは
- (2回) 変数、データ型、配列の仕組み
- (3回) アルゴリズムとフローチャート
- (4回) UNIXの基本操作
- (5回) C言語プログラミングの基礎 (変数、データ型、演算子、関数)
- (6回) プログラム制御 (順次、分岐:if-else)
- (7回) プログラム制御 (繰り返し構造:for,while)
- (8回) 配列 (一次元配列と二次元配列)、配列とfor文
- (9回) 演習問題
- (10回) Javaプログラミングの基礎 (変数、データ型、演算子、クラス)
- (11回) プログラム制御 (順次、分岐:if-else)
- (12回) プログラム制御 (繰り返し構造:for,while)
- (13回) 配列 (一次元配列と二次元配列)、配列とfor文
- (14回) 演習問題
- (15回) 期末試験&まとめ

【評価方法】

期末試験 (40%)、プログラミングの課題1回 (30%)、出席回数 (30%)

プログラミング実習

小林久恵

【授業の概要】

プログラミングは、単なる机上の問題として理解していくことだけでは、残念ながら、真の意味での理解には繋がらない。本授業では、C言語とJavaを用いて、実際に手続き指向、並びにオブジェクト指向のプログラミング実習を重ねていくことにより、プログラミングの基礎能力を養うと共に、プログラミングの本質を理解していく。

提示するプログラミング実習課題に関して、問題の解析から最終的なコーディングに至るまでの一連の作業を繰り返していくことにより、基本的なプログラミング・テクニックを習得していく。なお、実習課題を解決するために必要な処理の概要ならびに技術的な問題については、適宜、補足的に説明していくこととする。

【授業の目標】

アルゴリズムの発想力やC言語、Javaプログラミングの基礎スキルを身につけ、プログラミングに際して要求される論理的思考能力を養うことを目的とする。

【授業計画】

1. プログラミングとは
2. UNIXの基本操作
3. C言語プログラミングの基礎 (変数、データ型、関数)
4. プログラム制御 (順次、分岐:if-else)
5. プログラム制御 (反復:for, while, do-while)
6. 配列 (一次元配列、二次元配列)
7. C言語のまとめ
8. Javaの基本操作
9. Javaプログラミングの基礎 (変数、データ型、クラス)
10. プログラム制御 (順次、分岐:if-else)
11. プログラム制御 (反復:for, while, do-while)
12. 配列 (一次元配列、二次元配列)
13. Javaのまとめ
14. 演習問題
15. 試験

【評価方法】

出席状況 (20%)、課題提出 (30%)、学期末試験 (50%) によって総合評価を行う。

【テキスト】

C言語プログラミングのテクニック (小林久恵著、共立出版)

プログラム設計応用 I (C)

三和義秀 小林久恵

【授業の概要】

構造化プログラミングの技法とUNIX/Cによるプログラミングを行う。さらにオブジェクト指向の考え方を学び、Visual C++によるプログラミングを行う。

【授業の目標】

C言語の文法、プログラム構造を理解し、アルゴリズムをC言語でプログラム化するスキルを身につける。また資格試験を積極的に受験し、各自のスキルを客観的に評価する。

【授業計画】

- (1回) オリエンテーション、C言語の基礎 (変数とデータ型、演算子) の復習
- (2回) C言語の基礎 (制御構造:if-else,or,while,do-while, 配列) の復習
- (3回) アドレスとポインタの仕組み
- (4回) ポインタと文字列操作、ポインタと配列操作
- (5回) 関数の設計
- (6回) 文字列処理 (関数とポインタ)
- (7回) 記憶クラス、文字列関数
- (8回) 構造体の仕組み
- (9回) 構造体とポインタ
- (10回) ファイル処理 (ファイルへの書き込みと読み込み)
- (11回) 演習問題
- (12回) C言語プログラミング能力認定試験対策
- (13回) C言語プログラミング能力認定試験対策
- (14回) 期末試験
- (15回) まとめ

【評価方法】

定期試験 (50%)、プログラミングの課題1回 (30%) 及び出席回数 (20%) の割合で評価する。

【テキスト】

小林久恵他. 例題で学ぶC言語プログラミングのテクニック. 共立出版

プログラム設計応用 II (COBOL)

西荒井学

【授業の概要】

近年、アプリケーション・ソフトウェアの中でも多様なパッケージ・ソフトウェアが提供されることが多くなってきている。しかしながら、提供されるパッケージ・ソフトウェアだけで、すべてを充足することは困難を極める場合が少なくない。本授業では、事務処理用言語であるCOBOLを使用して、実際のプログラム作成に関する基礎技術を学習していくことにより、プログラミングの本質を理解していく。

プログラミングは、単なる机上の問題ではなく、実際にコンピュータ実習を重ねていくことにより、理解を一層深めていくことができる。よって、授業内では出来る限りCOBOLプログラムを数多く作成していくことにより、プログラミングの本質的な問題点を理解していくと共に、COBOLというプログラム言語が持っている本質的な特徴を理解していく。なお、COBOLプログラミングの実習については、情報処理における基本的な処理プロセスを題材にした実習問題を解決していく。

【授業の目標】

COBOLというプログラム言語が持つ特徴とプログラム作成上の基本的なアルゴリズムを理解する。数多くのコンピュータ実習を体験することにより、プログラミング能力を養う。

【授業計画】

- 1) プログラミングの必然性と基本手順
 - 2) COBOLの基本構造と特徴 (予約語、利用者定義語、コーディング書式)
 - 3) 識別部の役割とコーディング
 - 4) 環境部の役割とコーディング
 - 5) データ部の役割とコーディング
 - 6) 手続き部の役割とコーディング
 - 7) プログラミング実習 (実習問題A～H)
- 全授業回数の内、前半は講義中心、後半は実習形式で行なう。

【評価方法】

出席状況、提出課題プログラム数、提出課題プログラムの内容、ならびに学期末試験にて総合評価する。

【テキスト】

テキスト使用せず (プリント配布)

データ管理論 I (表計算と統計)

親松和浩

【授業の概要】

調査研究において収集したデータを整理・分類し、それらの性質や状態を数量的に表現して全体としての法則性を見つけ出すための手法と、どのようにコンピュータを統計処理に活用するかについて表計算ソフトExcelを使って学ぶ。

【授業の目標】

統計用語の意味とその仕組みを理解しながら、統計処理におけるExcelの活用方法を身につける。

【授業計画】

- (1回) オリエンテーション、統計とは何か、度数分布表とヒストグラム
- (2回) Excelによるデータ入力、表・グラフの作成
- (3回) Excelの関数
- (4回) 統計量の求め方 (平均値、中央値、範囲、四分位範囲、尖度と歪度)
- (5回) 統計量の求め方 (分散、標準偏差、偏差値の求め方と意味)
- (6回) Excelによる度数分布表、ヒストグラム、ドットプロット、クロス集計表の作成
- (7回) Excelによる平均値、範囲、最頻値、分散と標準偏差等の求め方
- (8回) 確率分布、正規分布
- (9回) 2項分布と標準正規分布
- (10回) 相関係数の求め方とその意味、回帰分析
- (11回) 散布図の作成、相関係数、回帰係数
- (12回) 検定の仕組み (帰無仮説と対立仮説、検定統計量)
- (13回) 検定の方法 (Excelによる仮説の検定)
- (14回) 期末試験
- (15回) まとめ

【評価方法】

出席及び課題レポート等を総合的に評価する。

【テキスト】

三和義秀. 第2版Excelで学ぶ“やさしい統計処理のテクニック”. 共立出版

プログラム設計応用 III (Java)

三和義秀 小林久恵

【授業の概要】

オブジェクト指向の考え方を学び、Javaを用いてオブジェクト指向プログラミングの基礎を習得する。

【授業の目標】

オブジェクト指向プログラミングの利点を理解し、Javaを用いてアルゴリズムをプログラム化するスキルを身につける。またSun認定Javaアソシエイト試験など資格試験を積極的に受験して習得したスキルを客観的に評価する。

【授業計画】

- (1回) オリエンテーション、オブジェクト指向のパラダイムとは
- (2回) オブジェクト指向プログラミング、Javaの特徴とJavaプログラムの開発環境
- (3回) Javaの変数のデータ型 (基本型と参照型)
- (4回) Javaのプログラム構造
- (5回) クラスの設計
- (6回) コンストラクタ
- (7回) オーバーロード
- (8回) クラス変数とクラスメソッド
- (9回) クラスの継承
- (10回) オーバーライド
- (11回) アクセス制御
- (12回) ファイル処理
- (13回) 資格試験への対策
- (14回) 期末試験
- (15回) まとめ

【評価方法】

定期試験 (50%)、プログラミングの課題1回 (30%) 及び出席回数 (20%) の割合で評価する。

【テキスト】

第1回目の授業時に指示する

データ管理論 I (表計算と統計)

宮下和洋

【授業の概要】

調査研究において収集したデータを整理・分類し、それらの性質や状態を数量的に表現して全体としての法則性を見つけ出すための手法と、どのようにコンピュータを統計処理に活用するかについて表計算ソフトExcelを使って学ぶ。

【授業の目標】

統計用語の意味とその仕組みを理解しながら、統計処理におけるExcelの活用方法を身につける。

【授業計画】

- (1回) オリエンテーション、統計とは何か、度数分布表とヒストグラム
- (2回) Excelによるデータ入力、表・グラフの作成
- (3回) Excelの関数
- (4回) 統計量の求め方 (平均値、中央値、範囲、四分位範囲、尖度と歪度)
- (5回) 統計量の求め方 (分散、標準偏差、偏差値の求め方と意味)
- (6回) Excelによる度数分布表、ヒストグラム、ドットプロット、クロス集計表の作成
- (7回) Excelによる平均値、範囲、最頻値、分散と標準偏差等の求め方
- (8回) 確率分布、正規分布
- (9回) 2項分布と標準正規分布
- (10回) 相関係数の求め方とその意味、回帰分析
- (11回) 散布図の作成、相関係数、回帰係数
- (12回) 検定の仕組み (帰無仮説と対立仮説、検定統計量)
- (13回) 検定の方法 (Excelによる仮説の検定)
- (14回) 期末試験
- (15回) まとめ

【評価方法】

定期試験 (70%)、出席回数 (30%) の割合で評価する。

【テキスト】

三和義秀. 第2版Excelで学ぶ“やさしい統計処理のテクニック”. 共立出版

データ管理論 II (DB構築)

原 伸之

【授業の概要】

パソコン活用の3本の柱の1つである「データベース」を取り上げる。世の中のコンピュータ利用の大部分が、このデータベース利用であると言っても過言ではない。金融機関での預金の出し入れ、座席の予約さらにコンビニでの商品管理など。これらは、データベースの応用システムである。

また、昨日常常生活にまで入り込んできた「インターネット」も、広い意味での「データベース」応用である。授業では、これらのシステムの核となっている「データベース」の理解・構築技法・利用方法を講義と実技で体験・習得する。

1. データベース概論
 - …データベースとは
 - データベースの理解
 - カード型データベースと関係データベースのちがひ
 - 関係データベースの特徴
2. 関係データベース・ソフトウェア「ACCESS」
 - データベースの定義
 - データベースの構築
 - データベースの利用
3. 関係データベースの構築 (ACCESSを使用して)
 - …事例を作成・体験
 - 基本的なデータベース
 - Wordで作成した文書のデータベース化
 - インターネットから取り込んだ画像のデータベース化
 - 関数を使用したデータベース
4. 構築したデータベースの事例発表
 - …習得したデータベースの構築技法を使って、身近なところで考えられるデータベースを構築し、その活用をレポートする。
5. マクロとVBAマクロ入門
 - …AccessのマクロとVBAの初歩的な使い方
 - マクロの作成とコマンドボタンへの貼り付け
 - VBAマクロを使った日記帳

【授業の目標】

「データベース」の理解と独自でAccessによる「データベース」の構築

【授業計画】

配布されたプリントに基づいて、講義・実習を行う。

【評価方法】

習得した技術および知識を基にして、各自が構築した「身近なところで考えられるデータベース」の内容を評価し、成績とする。

【テキスト】

プリント配布。

情報システム設計基礎 II

西 荒井 学

【授業の概要】

情報システム設計は、究極的にはプログラム開発に至るまでの一連の情報システム構築手順において、重要な要素を担っている。システム設計の良し悪しが、情報システムの有効性、効率性、ならびに運用性の良否に帰結する。本授業では、情報システム設計手順における概要設計および詳細設計に焦点を絞り、具体的なシステム設計内容ならびに設計技法について学習していく。

なお、具体的な概要設計および詳細設計における考え方、方法を学習していくと共に、情報システム設計の成果であるソフトウェア・ドキュメントの意義や作成方法、および各システム設計段階における問題点についても解説していく。簡単な事例システムを取り上げ、実習形式を中心にして具体的に学習する。

【授業の目標】

システム設計・開発作業の概要設計ならびに詳細設計に関する基礎的な知識を習得する。なお、簡単なシステム設計作業を実習形式で行うことにより、システム設計に関する知識・技術を具体的に応用していく能力を養う。

【授業計画】

- 1) 情報システム設計の意義と役割
 - 2) コード設計の意義と設計内容 (実習を含む)
 - 3) 出力設計の意義と設計内容 (実習を含む)
 - 4) 入力設計の意義と設計内容 (実習を含む)
 - 5) ファイル設計の意義と設計内容 (実習を含む)
 - 6) プロセス設計の意義と設計内容 (実習を含む)
 - 7) 信頼性設計の意義と設計内容 (実習を含む)
 - 8) システムの評価、システム監査
- 毎週講義終了10～15分間を使用して、小テストを実施する。

【評価方法】

出席状況、小テスト、課題レポート、ならびに学期末試験にて総合評価する。

【テキスト】

図解システム設計の基礎 (加藤英雄 共立出版)

情報システム設計基礎 I

西 荒井 学

【授業の概要】

情報システムの設計・開発に必要なシステムの概念、システム設計の基本的枠組や基本的な設計手順、ならびに設計技法について学習していく。通常の住宅建設においても、施主の要望を十分に充足することができるように、種々の建築設計が行われ、各設計書に基づき実際に施工・工事がなされていく。このことは、システム構築においても、建築設計とは設計内容等の差異はあれ、決して例外ではない。本授業では、システムの具体的な設計内容に重要な影響を及ぼすシステム分析、要求定義ならびに基本設計に焦点を絞り、システム設計の考え方や設計技法について理解していく。

なお、コンピュータ技術の急速な進展に伴い、システムは巨大化、高度化してきた。この結果、システム技術においても専門化、多様化してきており、システム設計自体にも変化が見え隠れしてきている。このようなことから、授業内容に準じて、システム設計に関わる技術背景や技術変遷等についても、その都度解説していく。

【授業の目標】

システムの定義や概念を正しく理解し、システム構築に必要なシステム技術に関する基本的な知識を習得する。また、システム設計・開発作業の前半部分となるシステム分析から基本設計までの基礎的な知識を習得する。

【授業計画】

- 1) システムの定義と概念
 - 2) システム設計手順の全体像
 - 3) SEの基本的要件
 - 4) ソフトウェア開発の現状と問題
 - 5) コンピュータ技術と通信技術の進展
 - 6) システム分析の意義と内容
 - 7) 環境調査から機能分析まで
 - 8) 基本設計の内容と重要性
- 毎週講義終了10～15分間を使用して、小テストを実施する。

【評価方法】

出席状況、小テスト、課題レポート、ならびに学期末試験にて総合評価する。

【テキスト】

図解システム設計の基礎 (加藤英雄 共立出版)

情報システム論 I (情報システム開発)

辻 紘 良

【授業の概要】

情報システム開発の骨格ならびに開発工程における技法や問題点について、実際にシステム開発手順を実習形式にて学習していくことにより習得していく。特に、情報ファイルの設計ならびに管理の問題、中でも電子化されていく情報ファイルの問題に焦点を当てて解説していく。また、最近の電子情報の多くが、文字情報からイメージ情報にまで拡大してきている現状を踏まえ、今後の電子情報ファイルが抱える課題や将来像についても触れていく。

なお、システム開発実習については、簡単な文書データ検索システムのサブ・システム構築を事例に取り上げるが、授業では個人単位でのシステム開発実習とグループ単位でのシステム開発実習を併せて実施していく。開発実習で利用するソフトウェアは、本来、プログラム言語の利用が望ましいが、本授業ではExcelのマクロ、あるいはVBA (Visual Basic for Application) を対象とする。

【授業の目標】

電子ファイリング・システムの機能や特徴を習得すると共に、システム開発の実習を通してシステム開発手順を正しく理解する。また、実習ではExcelのマクロやVBAについての利用方法に関しても併せて理解していく。

【授業計画】

- 1) システム開発の概要と意義
 - 2) システム開発工程手順
 - 3) 電子ファイリング・システムの必要性
 - 4) 画像イメージと記録媒体
 - 5) ExcelのマクロとVBAの概要
 - 6) システム開発実習 (個人別課題)
 - 7) システム開発実習 (グループ別課題)
 - 8) システム評価
- 前半では、システム開発全般に関する問題について講義を実施する。後半では、受講者をグループに分け、簡単なシステムを実際に開発する。

【評価方法】

出席状況、課題レポート、実習課題の成果、ならびに学期末試験にて評価する。

【テキスト】

Excel環境下でのシステム開発への挑戦
- データベース機能の活用 - (西 荒井 学 共立出版)

【参考文献・資料】

コンピュータと情報システム (草薙 信照 サイエンス社)

情報システム論 II (情報ネットワーク)

三和義秀

【授業の概要】

研究・教育活動を支援する大学・学術図書館における学術情報サービスの基盤となる情報ネットワークについて論じる。とくに、米国で構築されている、情報資源マネジメントを基礎とした医科大学における情報システム、そして米国国立医学図書館を中心とした医学・医療情報ネットワーク、インターネット上の仮想図書館であるデジタル図書館について考察する。また、「根拠に基づく医療EBM」の活動の発展とともに必要とされつつある新しい情報サービス、新しい情報専門職についても議論する。

【授業の目標】

学術研究分野における情報サービス、情報ネットワークの特性を学び、特に今年度は感性情報検索システムの仕組みや課題を理解する。

【授業計画】

- (1回) オリエンテーション、図書館を取り巻く環境、ハイパーテキスト
- (2回) インターネット環境、図書館機能の再考、図書館機能の再構築
- (3回) 今後の図書館サービス (Web2.0、集合知の利用、Library2.0)
- (4回) 主題言語、件名目録、主要な件名標目表、シソーラス
- (5回) 意味ネットワークとその応用、オントロジー
- (6回) 情報へのアクセス技術、索引法、各種索引法
- (7回) 言語処理とアクセス技術、検索エンジンの技法、セマンティックウェブ
- (8回) メタデータとXML文書
- (9回) XML/XSLプログラミング
- (10回) 米国のデジタル図書館
- (11回) 米国の図書館を中心としたデジタル情報資源サービス・ネットワーク
- (12回) デジタル図書館 (感性情報検索システム) の設計
- (13回) デジタル図書館 (感性情報検索システム) の設計
- (14回) 期末試験
- (15回) まとめ

【評価方法】

定期試験 (50%)、XMLプログラミングの課題1回 (30%)、出席回数 (20%) の割合で評価する。

【テキスト】

長田秀一. 知識組織化論. サンウェイ出版

【参考文献・資料】

梅田望夫. ウェブ進化論: 本当の大変化はこれから始まる. ちくま新書

090102004_0760 掲載順：0760

MCode:090108517_0130 ★

情報サービス基礎論 II

伊藤真理

【授業の概要】

図書館で行われる情報サービスは、その対象、館種、主題、規模ごとに多様な特徴を持つ。さらに今日では、伝統的な図書館サービスに加え、情報通信技術の普及発展に伴う新たな対応を迫られている。パブリック・サービス、テクニカル・サービス、評価の観点から、館種ごとに概観し、比較・検討する。

【授業の目標】

現在の社会での情報のあり方を視野に入れながら、情報の選択、収集、蓄積と提供について、図書館サービスの視点から理解を深める。

【授業計画】

1. パブリック・サービス
 - A. 貸出閲覧
 - B. レファレンスサービス
 - C. 相互協力
2. テクニカル・サービス
 - A. 選書・収書
 - B. 整理
 - C. 雑誌その他の媒体
3. 評価の観点から見た情報サービス
 - A. 蔵書
 - B. 人的サービス
 - C. 図書館アメニティ
 - D. コンソーシアム
 - E. その他のサービス

【評価方法】

平常点、小テスト、レポート、期末試験による総合評価。

【テキスト】

適宜プリントを配布。

【参考文献・資料】

変わりゆく大学図書館 (逸村裕・竹内比呂也編著 勁草書房 2005)
 図書館情報学用語辞典 第2版 (丸善 2002)
 そのほか、適宜授業内で紹介する。

情報サービス基礎論 I

廣田慈子

【授業の概要】

情報化社会は社会における産業構造の変化をもたらしている。「情報」を扱う産業は、急速に増大し、社会に大きな影響力を与えている。この科目では、図書館情報学の観点から現代社会における特徴的な情報産業の現状を概観し、「情報」を商品化するプロセスを考察するとともに、すべての職業において進展している「情報化」の持つ意味を検討する。また進路としての情報関連産業について論じる。さらに、情報産業の事例紹介を論じ、職業倫理と勤労観についても言及する。

【授業の目標】

情報サービスに関わる様々な機関やメディアの流通のあり方について、図書館との関連性を鑑みながら、理解を深める。

【授業計画】

1. 情報サービスの基本理念
2. 情報化社会と情報産業
3. メディア産業と通信
4. 出版産業
5. 書店
6. アーカイブ
7. 法制度
8. 図書館政策
9. 情報化社会と情報倫理・勤労観
10. 情報産業と大学

【評価方法】

小テスト、レポート、期末試験による総合評価。

【テキスト】

プリント配布。

【参考文献・資料】

変わりゆく大学図書館 (逸村裕・竹内比呂也編著 勁草書房 2005)
 図書館情報学用語辞典 第2版 (丸善 2002)

090102004_0770 掲載順：0770

MCode:090108517_0210 ★

情報メディア基礎論 I

菅野育子

【授業の概要】

情報流通における情報メディアの役割について論じる。各種メディアの生産から流通までを対象に、その過程での問題点について議論し、より効果的な情報流通のための情報メディアのあり方を検討する。

【授業の目標】

多種多様な情報メディアの生産から利用までについて理解すること。

【授業計画】

- 1 情報流通と情報メディア
- 2 学術情報の流通モデル
- 3 情報メディアの特徴と問題点
 - (1) 図書
 - 出版流通過程と制度
 - オンライン書店、オンデマンド出版
 - (2) 雑誌
 - 学術雑誌の機能、査読制度
 - 雑誌論文の構成
 - 抄録作成法、引用法、
 - プレプリント、e-print
 - レター、editorial comment
 - (3) 新聞
 - 新聞の流通制度
 - 新聞記事の構成

[この後は、情報メディア基礎II (後期) に続く]

【評価方法】

期末試験によって評価する。

【テキスト】

使用しない (プリント配布)。

情報メディア基礎論 II

菅野育子

【授業の概要】

情報流通における情報メディアの役割について論じる。各種メディアの生産から流通までを対象に、その過程での問題点について議論し、より効果的な情報流通のための情報メディアのあり方を検討する。

【授業の目標】

多種多様な情報メディアの生産から利用までについて理解すること。

【授業計画】

[情報メディア基礎I(前期)から続く]

- 3 情報メディアの特徴と問題点
 - (4) 会議資料
学会、会議録
 - (5) 特許資料
特許制度
パテントファミリー、引用特許
 - (6) 規格票
規格制度、情報関連の標準化活動
 - (7) データベース
情報検索システムの歴史
検索技術、シソーラス
 - (8) インターネット
ネットワーク情報資源の特徴
WWWの評価
Web citation、メタデータ
ウェブ・アーカイビング
- 4 情報メディアの種類と構造
- 5 情報流通モデルの修正
- 6 電子環境下における情報メディア

【評価方法】

期末試験によって評価する。

【テキスト】

使用しない(プリント配布)。

情報メディア論 III (医学情報メディア)

山崎茂明

【授業の概要】

医学の研究、臨床、教育を支えるメディアである学術雑誌、図書、データベース、デジタル情報資源を対象に、それらの特色や役割を、生産・流通・利用のサイクルの中で検討する。

【授業の目標】

医学情報専門職として医学情報メディアの特色をより深く学ぶ。

【授業計画】

1. 医学情報メディアをめぐって
2. 医学教育・研究・臨床における情報要求
3. 医学情報サービスと医学図書館：この20年の動向
4. Index Medicusの発刊
5. MEDLINE/PubMedへの発展
6. 生命倫理データベースとケネディ記念倫理研究所図書館
7. 国内外の医学データベース
8. 19世紀アメリカ医学ジャーナリズムの形成
9. Lancet誌の創刊とThomas Wakley
10. 総合医学雑誌の役割(BMJ誌を中心に)
11. 生物医学雑誌の統一投稿規程
12. 医学情報流通にはたす編集者の役割
13. 一般の人々への健康情報の提供
14. 医学情報の普及と信頼性

【評価方法】

レポート(2回程度)および出席。

【テキスト】

プリントを配布

【参考文献・資料】

生命科学論文投稿ガイド(山崎茂明著 中外医学社)
医学文献サーチガイド(山崎茂明著 日本医書出版協会)
看護研究のための文献検索ガイド(山崎・六本木 日本看護協会)

情報メディア論 I (マルチメディア)

川澄未来子

【授業の概要】

社会、教育現場における情報機器の発展経緯、種類、機能、ならびに情報メディアの発達と変化について論じながら、情報メディアの特性、視聴覚メディア、図形処理と画像処理を中心とするソフトウェア、インターネットとシミュレーションに係るツールの活用方法、情報メディアと情報通信(ネットワーク)技術やマルチメディアとの関係について考察する。また、技術的な側面として、インターネットでの情報の検索手法、ハイパーテキスト・システムの本質的問題、およびその設計・開発手法についても触れていく。

【授業の目標】

現代社会における情報メディアの意義、機能、及び活用方法について理解を深めるとともに、マルチメディアを利用したコミュニケーションや制作に必要な知識やデザイン手法について映像教材を視聴しながら体感的に学ぶ。

【授業計画】

画像・映像・サウンドなどのマルチメディア教材を利用しながら学習をすすめる。特に、マルチメディアを利用したコミュニケーションや制作に関係の深い、次のトピックスについて学ぶ。

- (1) マルチメディア表現の歴史
- (2) アイディアから形へ
- (3) 形・色・質感のデザイン
- (4) グラフィックの表現
- (5) アニメーション
- (6) モーションキャプチャ
- (7) カメラワークとライティング
- (8) マルチメディア表現の活用例

【評価方法】

出席状況、受講態度、提出課題、試験結果などから総合的に評価する。(評価点の配分は授業にて説明する。)

【テキスト】

特になし

【参考文献・資料】

授業内で紹介

情報メディア論 IV (人文社会情報メディア)

菅野育子

【授業の概要】

人文・社会科学分野における情報メディアの特徴から、学問分野における学術情報の生産と利用について検討することを目的とする。

【授業の目標】

人文・社会科学分野で生産され利用されている各種情報メディアの特徴を理解すること。

【授業計画】

- 1 学問分野と情報メディア
- 2 自然科学分野と人文・社会科学分野
- 3 人文・社会情報メディア
 - 3.1 美術分野
 - 3.2 文学
 - 3.3 法律分野
 - 3.4 心理学
 - 3.5 図書館情報学
- 4 情報メディアからみた情報の生産と利用

【評価方法】

レポート、期末テストから総合的に評価する。

【テキスト】

専門資料論(JLA図書館情報学テキストシリーズ)(日本図書館協会)

情報メディア論 V (科学技術情報メディア)

山崎茂明

【授業の概要】

自然科学領域における主要な一次情報源である学術雑誌を中心に解説します。学術雑誌と科学論文についての知識は、情報サービス専門家に欠かせない知識です。学術雑誌を理解するポイントは、図書館資料としての狭い枠組みでなく、研究活動と科学コミュニケーションのなかで、その役割や問題を知ることにあります。とくに、研究者による論文生産の視点から、学術雑誌について検討します。

1. 環境としての学術情報
2. 文献情報と文献調査
3. 学術雑誌の歴史と生態
4. 総合誌、レビュー誌、レター誌
5. 日本からの英文論文発表
6. 主要海外誌への日本からの発表傾向
7. オーサーシップからみた学術論文
8. 出版倫理と利害の衝突
9. ニュースメディアと学術雑誌
10. レフェリーシステム
11. 一流誌への発表
12. インパクトファクターの批判的吟味
13. 電子メディア (データベース、一次雑誌) の現在

【授業の目標】

学術雑誌を中心に、執筆、審査、発表、製作、流通、利用の流れを理解し、より深く情報サービスを展開できる能力を育成する。

【授業計画】

講義を中心に行う。教科書はできるだけ事前に読んでもらいたい。講義内容に関する資料を随時配付する。

【評価方法】

期末レポート、小レポート (授業時間内)

【テキスト】

論文投稿のインフォマティクス (山崎茂明著 中外医学社)

【参考文献・資料】

電子時代の学術雑誌 (Lambert, J.著 日本図書館協会)
出版産業の起源と発達 (Thompson, J.W.著 出版同人)
歴史としての学問 (中山茂著 中央公論社)
生命科学論文投稿ガイド (山崎茂明著 中外医学社)
医学文献サーチガイド 第2版 (山崎茂明著 日本医書出版協会)
研究評価 (根岸正光・山崎茂明著 丸善)

資料組織論

伊藤真理

【授業の概要】

情報の組織化に関する理論と概念について理解することを目的とする。様々な情報資源を念頭において、資料組織業務の標準化と統一化の流れを把握し、目録の機能を理解することを目指す。

目録に関する用語と、英米目録規則、日本目録規則、主要な分類表および主題件名標目表を網羅する。

【授業の目標】

情報の組織化に関する概念を理解し、現在の目録情報サービスについて批判的に考察することができること。

目録やそれに関連する専門用語を理解すること。

【授業計画】

- 第1回 情報の組織化とは
- 第2回 目録
- 第3回 書誌コントロール
- 第4回 書誌ユーティリティ
- 第5回 メタデータ
- 第6回 各種目録規則
- 第7回 AACR2r, NCR
- 第8回 典拠コントロール
- 第9回 アクセス・ポイントの選定: 標目形
- 第10回 各種記述フォーマット
- 第11回 主題目録概要
- 第12回 分類法
- 第13回 主要分類法、図書記号法
- 第14回 主要件名標目表

【評価方法】

平常点、レポート、試験による総合評価。

【テキスト】

『資料組織論テキスト』(伊藤真理 ダイテック、2008)

【参考文献・資料】

書誌コントロールの課題 (国立国会図書館編 日本図書館協会、2002)
文献世界の構造: 書誌コントロール論序説 (根本彰著 勁草書房、1998)
図書館ネットワーク-書誌ユーティリティの世界- (宮澤彰 丸善、2002)

情報メディア分析論

菅野育子

【授業の概要】

情報メディアの機能に関する基礎的な知識を学ぶために、学術情報だけでなく一般社会における情報の流通に関係する各種情報メディアについて概説する。

具体的には、新聞 (新聞記事)、雑誌 (雑誌記事)、図書、特許資料、絵画 (美術作品) などを取り上げ、その特徴を概観する。

さらに、各情報メディアの分析を行ないながら、分析結果からどのような情報を得ることができるのかについて議論する。

【授業の目標】

情報メディア基礎論の講義で紹介した各種情報メディアの理解を深めること。

【授業計画】

1. 情報メディアの機能
2. 情報メディア (1) 新聞
3. 新聞記事の分析: 新聞記事DBとの比較
4. 情報メディア (2) 雑誌
5. 雑誌記事の分析: 索引語付与と抄録作成
6. 情報メディア (3) 図書
7. 図書の分析: 主題分類と書誌記述
8. 情報メディア (4) 特許資料
9. 特許資料の分析: 技術動向調査
10. 情報メディア (5): 絵画 (美術作品)
11. 絵画の分析: CDWAとAATシソーラス
12. 情報メディアの分析から得られる情報

【評価方法】

レポートと出席回数で評価する。

【テキスト】

使用しない (プリント配布)。

資料組織演習

伊藤真理

【授業の概要】

演習を通して、「資料組織論」で学んだ理論について習得を目的とする。演習内容は、記述目録法と主題目録法の2部から構成する。

記述目録では、目録規則の適用について学ぶ。ISBDや記述目録の知識を演習を通して理解し、さらに書誌ユーティリティを利用したオンライン目録作業について演習を行う。

主題目録法では、国内で主に利用されている「日本十進分類法」と「基本件名標目表」を取り上げる。主に図書資料を対象として、書誌レコードを作成する。

学内LAN講習を必ず受講のこと。

【授業の目標】

「資料組織論」で学んだ知識を応用して、さまざまな参考ツールを活用しながら、オンライン目録作業を通して書誌レコードの作成が行うことができる。

情報共有環境での、書誌コントロールや典拠コントロールについて理解する。

【授業計画】

- ・目録作業の概要
- ・記述目録法
 - ISBD
 - 書誌ユーティリティ (NACSIS/MARC) を利用したMARCレコード作成
 - アクセス・ポイントの選定
 - 典拠コントロール
- ・主題目録法
 - 分類: 日本十進分類法
 - 主題件名標目表: 基本件名標目表

【評価方法】

平常点、実習およびレポートの総合評価。

【テキスト】

授業内で指定する。

【参考文献・資料】

資料組織演習 改訂新版 (北克一著 M.B.A.2003年)
「資料組織論」で配布したテキスト

資料組織演習

杉山誠司

【授業の概要】

演習を通して、「資料組織論」で学んだ理論について習得を目的とする。演習内容は、記述目録法と主題目録法の2部から構成する。記述目録では、目録規則の適用について学ぶ。ISBDや記述目録の知識を演習を通して理解し、さらに書誌ユーティリティを利用したオンライン目録作業について演習を行う。主題目録法では、国内で主に利用されている「日本十進分類法」と「基本件名標目表」を取り上げる。主に図書資料を対象として、書誌レコードを作成する。学内LAN講習を必ず受講のこと。

【授業の目標】

「資料組織論」で学んだ知識を応用して、さまざまな参考ツールを活用しながら、オンライン目録作業を通して書誌レコードの作成が行うことができる。情報共有環境での、書誌コントロールや典拠コントロールについて理解する。

【授業計画】

- ・目録作業の概要
- ・記述目録法
 - ISBD
 - 書誌ユーティリティ (NACSIS/MARC) を利用したMARCレコード作成
 - アクセス・ポイントの選定
 - 典拠コントロール
- ・主題目録法
 - 分類: 日本十進分類法
 - 主題件名標目表: 基本件名標目表

【評価方法】

平常点、実習およびレポートの総合評価。

【テキスト】

授業内で指定する。

【参考文献・資料】

資料組織演習 改訂新版 (北克一著 M.B.A.2003年)
「資料組織論」で配布したテキスト

レファレンスサービス論

千代由利

【授業の概要】

図書館における情報サービスの中核を成してきたレファレンスサービスに関して、レファレンスコレクションの構築、レファレンス質問からその回答にいたる一連のレファレンスプロセス、サービス組織のあり方、等について理解を深めることを主な目的として講義を進める。この科目は、「情報検索演習III (情報と文献の探索)」と相互に補完するものとして扱う。

【授業の目標】

図書館サービスにおけるレファレンスサービスの意義および重要性について、これまでの展開および新しい情報環境下における展開について理解し、演習等をとおして実践する。

【授業計画】

1. 授業のガイダンス
2. 図書館における情報サービス
3. レファレンスサービスの歴史と展開
4. 図書館におけるレファレンスサービス
5. 情報源とレファレンスコレクション
6. レファレンス質問とレファレンスプロセス
7. 質問の受付と内容の確認
8. 探索戦略と質問の分析
9. 探索の手順と情報(源)の入手
10. 回答の提供と事後処理
11. レファレンスブックの探索

【評価方法】

出席状況、演習レポート、試験等により評価する。

【テキスト】

『新版 問題解決のためのレファレンスサービス』(長澤雅男 石黒祐子著 日本図書館協会 2007.4)

【参考文献・資料】

『情報源としてのレファレンスブック (新版)』(長澤雅男、石黒祐子著 日本図書館協会)
『レファレンスサービス 図書館における情報サービス』(長澤雅男著 丸善)

資料組織演習

廣田慈子

【授業の概要】

演習を通して、「資料組織論」で学んだ理論について習得を目的とする。演習内容は、記述目録法と主題目録法の2部から構成する。記述目録では、目録規則の適用について学ぶ。ISBDや記述目録の知識を演習を通して理解し、さらに書誌ユーティリティを利用したオンライン目録作業について演習を行う。主題目録法では、国内で主に利用されている「日本十進分類法」と「基本件名標目表」を取り上げる。主に図書資料を対象として、書誌レコードを作成する。学内LAN講習を必ず受講のこと。

【授業の目標】

「資料組織論」で学んだ知識を応用して、さまざまな参考ツールを活用しながら、オンライン目録作業を通して書誌レコードの作成が行うことができる。情報共有環境での、書誌コントロールや典拠コントロールについて理解する。

【授業計画】

- ・目録作業の概要
- ・記述目録法
 - ISBD
 - 書誌ユーティリティ (NACSIS/MARC) を利用したMARCレコード作成
 - アクセス・ポイントの選定
 - 典拠コントロール
- ・主題目録法
 - 分類: 日本十進分類法
 - 主題件名標目表: 基本件名標目表

【評価方法】

平常点、実習およびレポートの総合評価。

【テキスト】

授業内で指定する。

【参考文献・資料】

資料組織演習 改訂新版 (北克一著 M.B.A.2003年)
「資料組織論」で配布したテキスト資料

情報検索演習 I (情報探索入門)

伊藤真理

【授業の概要】

各種情報資源およびその利用に関する知識・技術を学び、基本的な情報リテラシーを修得することを目的とする。
なお、履修者は図書館オリエンテーションおよび学内LAN講習会を履修前に必ず受講しておくこと。
また、授業の際には「図書館情報学用語辞典第2版」および本授業で使用する全配付資料を毎回必ず持参すること。

【授業の目標】

情報資源の特徴を理解し、情報検索に活用することができる。
情報検索の専門用語を理解し、学術情報収集のための基本的なスキルを習得する。

【授業計画】

- (1) 情報資源の種類および特徴を知る
 - ・一次資料と二次資料
 - ・書誌情報
- (2) 情報資源の探索法を知る
 - ・目録、書誌などの二次資料の種類・特徴
 - ・各種オンライン目録、データベース、サーチエンジンの種類・特徴・利用法
 - ・論理演算
 - ・部分一致
- (3) 情報資源の評価
- (4) 既習の探索法を利用して収集した情報を基に、レポートを作成する
 - ・著作権
 - ・引用
 - ・書誌情報の書き方 (SIST02)

【評価方法】

平常点、レポート、試験によって評価する。

【テキスト】

使用せず (配付資料)。

【参考文献・資料】

デジタル社会のリテラシー:「学びのコミュニティ」をデザインする (山内祐平 東京 岩波書店 2003.238p. ISBN 4-00-024004-8)

情報検索演習 I (情報探索入門)

木幡智子

【授業の概要】

各種情報資源およびその利用に関する知識・技術を学び、基本的な情報リテラシーを修得することを目的とする。
 なお、履修者は図書館オリエンテーションおよび学内LAN講習会を履修前に必ず受講しておくこと。
 また、授業の際には「図書館情報学用語辞典第2版」および本授業で使用する全配付資料を毎回必ず持参すること。

【授業の目標】

情報資源の特徴を理解し、情報検索に活用することができる。
 情報検索の専門用語を理解し、学術情報収集のための基本的なスキルを習得する。

【授業計画】

- 情報資源の種類および特徴を知る
 - 一次資料と二次資料
 - 書誌情報
- 情報資源の探索法を知る
 - 目録、書誌などの二次資料の種類・特徴
 - 各種オンライン目録、データベース、サーチエンジンの種類・特徴・利用法
 - 論理演算
 - 部分一致
- 情報資源の評価
- 既習の探索法を利用して収集した情報を基に、レポートを作成する
 - 著作権
 - 引用
 - 書誌情報の書き方 (SIST02およびISO690、690-2)

【評価方法】

平常点、レポート、試験によって評価する。

【テキスト】

使用せず (配付資料)。

【参考文献・資料】

デジタル社会のリテラシー：「学びのコミュニティ」をデザインする (山内祐平 東京 岩波書店 2003.238p. ISBN 4-00-024004-8)

090102004_0920 掲載順 : 0920

MCode:090108517_0170 ★

情報検索演習 I (情報探索入門)

廣田慈子

【授業の概要】

各種情報資源およびその利用に関する知識・技術を学び、基本的な情報リテラシーを修得することを目的とする。
 なお、履修者は図書館オリエンテーションおよび学内LAN講習会を履修前に必ず受講しておくこと。
 また、授業の際には「図書館情報学用語辞典第2版」および本授業で使用する全配付資料を毎回必ず持参すること。

【授業の目標】

情報資源の特徴を理解し、情報検索に活用することができる。
 情報検索の専門用語を理解し、学術情報収集のための基本的なスキルを習得する。

【授業計画】

- 情報資源の種類および特徴を知る
 - 一次資料と二次資料
 - 書誌情報
- 情報資源の探索法を知る
 - 目録、書誌などの二次資料の種類・特徴
 - 各種オンライン目録、データベース、サーチエンジンの種類・特徴・利用法
 - 論理演算
 - 部分一致
- 情報資源の評価
- 既習の探索法を利用して収集した情報を基に、レポートを作成する
 - 著作権
 - 引用
 - 書誌情報の書き方 (SIST02およびISO690、690-2)

【評価方法】

平常点、レポート、試験によって評価する。

【テキスト】

使用せず (配付資料)。

【参考文献・資料】

デジタル社会のリテラシー：「学びのコミュニティ」をデザインする (山内祐平 東京 岩波書店 2003.238p. ISBN 4-00-024004-8)

090102004_0930 掲載順 : 0930

MCode:090108517_0180 ★

情報検索演習 II (学術情報の探索)

伊藤真理

【授業の概要】

学術論文を対象として、オンライン情報検索システムの活用に必要な知識と技術を習得することを目的とする。テーマ検索の実習に基づき、検索過程の把握や検索ツールの利用、および検索結果に対する評価について理解する。
 LAN講習会を必ず受講すること。

【授業の目標】

情報検索における基礎的な専門知識を理解すること。
 実際の検索過程で、さまざまな情報検索の知識や技術を活用する能力を修得すること。

【授業計画】

- 情報検索とは
- 学術情報の検索
学術論文の特徴
抄録・索引誌
- CD-ROM検索
- シソーラス
- 各種オンライン情報検索システム
JDream
DIALOG
CSA
- テーマ検索

【評価方法】

平常点、小テスト、レポート作成の総合評価。

【テキスト】

使用せず (プリント配布)。

情報検索演習 II (学術情報の探索)

廣田慈子

【授業の概要】

学術論文を対象として、オンライン情報検索システムの活用に必要な知識と技術を習得することを目的とする。テーマ検索の実習に基づき、検索過程の把握や検索ツールの利用法、および検索結果に対する評価について理解する。
 LAN講習会を必ず受講すること。

【授業の目標】

情報検索における基礎的な専門知識を理解すること。
 実際の検索過程で、さまざまな情報検索の知識や技術を活用する能力を修得すること。

【授業計画】

- 情報検索とは
- 学術情報の検索
学術論文の特徴
抄録・索引誌
- CD-ROM検索
- シソーラス
- 各種オンライン情報検索システム
JDream
DIALOG
CSA
- テーマ検索の演習

【評価方法】

平常点、小テスト、レポート作成の総合評価。

【テキスト】

使用せず (プリント配布)。

【参考文献・資料】

適宜、紹介する。

情報検索演習 III (情報と文献の探索)

菅野育子

【授業の概要】

情報検索演習I(1年次必修)および情報検索演習II(2年次)を基礎とし、より高度な情報検索技術の習得を目標とする。

本科目で扱う情報源は、図書館を中心とした情報提供機関において利用可能なものとし、特にレファレンス業務に必要な情報源探索技能を養うため、検索対象のメディア別に特徴、機能、検索に必要な技術の紹介、実習を伴う課題解決演習を行う。さらにレファレンス質問を事例にして、利用者インタビュー、利用者の情報要求の確認、適切な情報源の選定、検索、回答の評価などの一連の作業について実習する。演習には情報検索室の書誌データベースと本学図書館所蔵の印刷体二次資料を併用する。

【授業の目標】

情報検索演習I(1年次必修)および情報検索演習II(2年次)を基礎とし、より高度な情報検索技術の習得を目標とする。

【授業計画】

1. 文献探索と情報探索
2. 各種情報源の特徴
 - 2.1 雑誌記事(書誌情報)検索
 - 2.2 雑誌記事横断検索: DIALINDEX複数ファイル横断検索
 - 2.3 シソーラスを利用した検索
 - 2.4 引用関係を利用した検索
 - 2.5 一次資料が入手可能なシステムの検索
 - 2.6 ネットワーク情報資源検索・アクセス
 - 2.7 図書(所蔵/目次情報)検索
 - 2.8 新聞記事(全文記事)検索: 各種新聞ファイル
 - 2.9 人物情報検索: 人物情報横断検索
3. レファレンス質問を事例とした問題解決プロセス

【評価方法】

出席点、課題点、試験によって評価する。

【テキスト】

使用しない(プリント配布)。

情報利用論 I (情報探索行動論)

岡澤和世

【授業の概要】

情報社会に関する史的展開、情報と知識の性質、コミュニケーションについて論じる。焦点は、情報とは何か、利用者の住む情報社会とはどんな社会か、情報と人、文化との相互関係、アクセス権利の倫理面、データ保護、個人のプライバシー、インターネットなど情報技術がもたらす諸問題についてである。これらを情報環境との関係から概説する。

【授業の目標】

情報社会における社会の要求に応えるための教育と実践

【授業計画】

- 1) 情報社会とは
- 2) 情報社会に至る史的展開
- 3) 情報と知識の性質
- 4) 情報の質と信頼性
- 5) 情報の理解とコミュニケーション
- 6) 情報、知識、文献の管理
- 7) 情報サービスへの応用
- 8) マーケティング/プランニング
- 9) 情報倫理-知的所有権とデータ保護
- 10) 情報社会と人間
- 11) 情報と文化的問題
- 12) 情報と経済的問題
- 13) 情報と政治的問題
- 14) 情報環境
- 15) 情報教育と未来

【評価方法】

出席とレポート

【テキスト】

指定なし

情報検索演習 III (情報と文献の探索)

廣田慈子

【授業の概要】

情報検索演習IIにおける習得内容を基礎とし、より高度な情報検索技術の習得を目標とする。

本科目で扱う情報源は、図書館を中心とした情報提供機関において利用可能なものとし、特にレファレンス業務に必要な情報源探索技能を養うため、検索対象のメディア別に特徴、機能、検索に必要な技術の紹介、実習を伴う課題解決演習を行う。さらにレファレンス質問を事例にして、利用者インタビュー、利用者の情報要求の確認、適切な情報源の選定、検索、回答の評価などの一連の作業について実習する。演習には情報検索室の書誌データベースと本学図書館所蔵の印刷体二次資料を併用する。

【授業の目標】

より高度な情報検索技術を習得し、情報検索の専門家としての技能を獲得する。

【授業計画】

1. 文献探索と情報探索
2. 各種情報源の特徴
 - 2.1 雑誌記事(書誌情報)検索
 - 2.2 雑誌記事横断検索: DIALINDEX複数ファイル横断検索
 - 2.3 シソーラスを利用した検索
 - 2.4 引用関係を利用した検索
 - 2.5 一次資料が入手可能なシステムの検索
 - 2.6 ネットワーク情報資源検索・アクセス
 - 2.7 図書(所蔵/目次情報)検索
 - 2.8 新聞記事(全文記事)検索: 各種新聞ファイル
 - 2.9 人物情報検索: 人物情報横断検索
3. レファレンス質問を事例とした問題解決プロセス

【評価方法】

出席点、課題点、試験によって評価する。

【テキスト】

使用しない(プリント配布)。

【参考文献・資料】

適宜、紹介する。

情報利用論 II (情報探索行動論)

岡澤和世

【授業の概要】

教育を受けたいという強い希望、誰もが自由に情報を利用できるアクセス機会の平等を求める運動、民主主義の伝統、そして誰にも頼らない自主探索意欲が巧妙に入り混じってできたのが図書館である。そしてその理想は常に利用者の要求を満足させるところに置かれてきた。しかし、20世紀になると様々なテクノロジーが開発され、従来の図書館が大きく様変わりし始め、それに伴って情報を探す利用者の行動も変わり始めた。この講義では、情報行動について論じる。ニューメディア、インターネット、情報環境などについても概説する。

【授業の目標】

情報社会における社会の要求に応えるための教育と実践

【授業計画】

- オリエンテーション
1. 情報の伝達と利用
 - 1) 情報の定義
 - 2) 情報の特質
 2. 科学のコミュニケーション
 3. 研究活動とインフォーマル・コミュニケーション
 - 1) インフォーマルコミュニケーションの研究
 - 2) 見えざる大学
 4. 見えざる大学の調査研究について
 5. 情報利用者調査と用語の説明
 6. User Studyの概説とUser Studyの方法論
 7. 方法の種類
 8. 比較・検討
 9. User Studyの調査例
 10. 行政

【評価方法】

小テストで評価。

【テキスト】

指定なし

情報利用論 III (問題解決と情報活用)

田村俊作

【授業の概要】

日常生活において情報を見つけ利用する行動は、仕事上での情報収集のように、社会的に規定された側面を持つと同時に、私達を新たな知識の水準、生活の新たな場面へと導く創造的な面も持っている。また、探索には、ブラウジングや検索システムの利用など、独特の行動様式やツールが存在している。この講義では、こうした情報を見つけ利用する行動の社会的側面および情報の発見に導く心理的側面、ツールの利用、行動様式などを取り上げて、情報を見つけ利用する行動の特質を描き出してみたい。日常誰でも経験するあたりまえのことを、私なりの視点で掘り下げてみようとする授業。自分の経験にひきつけて理解してほしい。

【授業の目標】

問題解決と情報活用に対する理解を深める。

【授業計画】

集中講義。授業時に配布するプリントをもとに講義を進めて行く。

1. 情報を見つけ利用する行動の基礎概念
2. 情報を見つけ利用する過程
3. 探索様式
4. 情報を見つけ利用する行動の社会的側面
5. 人々が生活する世界と情報を見つけ利用する行動の順に講義を進める予定。

【評価方法】

最後の時間に試験を行う。

【テキスト】

授業時にプリント配布。

【参考文献・資料】

情報の要求と探索 (Varlejs, J.ed. 勁草書房 1993)
 情報探索と情報利用 (田村俊作編 勁草書房 2001)
 情報検索のスキル (三輪真木子 2003 中公新書)
 Looking for Information. 2nd ed. (Case, D. O. Academic Press, 2007)
 Theories of Information Behavior. (Fisher, K.E. et al., ed. ASIS&T, 2005)

情報学特殊 I (生命科学と情報科学)

林 博司

【授業の概要】

次に掲げるトピックスについてかなり深くかつ最新の知識も含め学ぶ。

バイオ・インフォマティクスとは何か？

- ・DNAとコンピュータ
- ・蛋白質とコンピュータ
- ・神経回路とコンピュータ

DNA鑑定とはどのようなものか？

生体から情報を得るための技術の進歩。

- ・物理学的手法
- ・化学的手法
- ・生物学的手法

情報を制御するための情報

【授業の目標】

情報学 I で学んだ事をさらに深く追求する。最新の学術情報を理解するための深い基礎知識を学ぶ事を目標とする。

【授業計画】

概要で述べたトピックについて、講義、演習、討論を有機的に絡めた授業を行う。必要に応じて視覚的な教材も取り入れる。

【評価方法】

期末試験を行い、その成績で決める。期末試験はノートの持込を認める。

【テキスト】

特に指定しない

【参考文献・資料】

授業中に指示する。

情報利用論 IV (経営と文書の管理)

林 信孝

【授業の概要】

最近、企業内における文書・記録管理のニーズが非常に高まっています。その背景には官民を問わず様々な文書・記録に係る不祥事が多発したことが影響しているからです。このような流れをうけて、官では、国の公文書管理制度改革への取組みも進み、予定では2009年初めの通常国会に「公文書管理法」の法案が提出されることになっています。一方、民間では、すでに「新会社法」や日本版SOX法など文書管理のあり方に新しい対応を迫る法規制の強化が進んでいます。そこで、本講座では、文書・記録管理に焦点をあてて、その歴史や各種法律や規格 (ISOなど) の解説から、情報倫理、情報セキュリティ、紙のファイリングの手法、電子データの管理などの実務に関するテクニックまでを解説します。

【授業の目標】

組織運営に関して文書・記録管理の重要性を理解するとともに、実際の紙のファイリングや電子データの管理方法、情報倫理、情報セキュリティについて理解し、組織内において文書・記録管理を効果的に実施できるようなスキルを身につけることを目標とします。

【授業計画】

時間の許す範囲で、概ね以下のような項目の授業を行います。

- 1: 今、なぜ記録管理が重要なのか?
 - 2: 組織とそのガバナンスについて
 - 3: 文書管理総論
 - 4: 文書管理を取り巻く環境
 - 5: 文書の種類と特徴
 - 6: 紙文書管理
 - 7: 電子文書管理
 - 8: 文書の長期保存
 - 9: 文書のセキュリティ
 - 10: アーカイブス概論
- 具体的なスケジュールについては第1日目に紹介します。

【評価方法】

毎日、最後の時間に簡単な小テストを行い、そのテスト結果と出席率とを総合して評価します。

【テキスト】

ITセクレタリー教育テキスト ※2009年春発売予定

【参考文献・資料】

たかが文書、されど文書管理 (山下貞磨 日経BP)

情報学特殊 II (生物の情報処理)

林 博司

【授業の概要】

情報学 II の内容をさらに専門化した授業である。以下のトピックスを扱う。

情報は如何に処理されるのか？

- ・文字的な情報
- ・物質的な情報
 情報伝達物質
 蛋白質相互作用
 細胞間相互作用
- ・電気信号による情報
- ・個体間の情報交換

【授業の目標】

生物の持つ優れた情報処理機構について、さらに深く学び、新しい情報処理技術について考える姿勢を育てたい。

【授業計画】

概要に述べた問題について、講義・演習・討論を有機的に組み合わせた授業を行いたい。学生の理解度に応じて具体的な授業内容を変える。

【評価方法】

期末試験の一発勝負。ノートの持込を認める。

【テキスト】

特に指定しない。

【参考文献・資料】

授業の中で指示する。

情報学特殊 III (情報史の探究)

村主朋英

【授業の概要】

情報史とは、Norman D. Stevensが1986年に提案した概念である。彼の提案は、人類の歴史全体の中で情報が果たしてきた役割を考えるために、図書館情報学固有の歴史概念（図書館や情報検索の歴史）を拡張・発展させ、コンピュータ史やコミュニケーション史・メディア史等と統合するものであり、実質的に人類の歴史全体を情報やメディアという側面から捉え直すという壮大なものとなっている。さらにそれは、翻って、情報学や情報に関して問い直すことにもつながる。それゆえに、彼の構想の完全な実現はいまだに遠い。そこで本講義では、その実現へ向けての一步として、情報学IIIおよびIVにおける歴史像を拡張・発展させ、情報史の世界の全体像の把握を試みる。

【授業の目標】

情報史を探究することは、人間と情報とのかかわりを探究することに等しい。ここで、情報やコミュニケーション過程に対する見方を研ぎ澄ましてほしい。

【授業計画】

1. オリエンテーション：Stevensの情報史構想
2. トピック群（予定）
 - ・記号の初源／アレクサンドリアの灯火／『薔薇の名前』と書物
 - ・言語と翻訳／科学の言語（生物分類と化学記号）
 - ・通信と放送／表象の文化／Memexとインターネット
3. 総合的な情報史へ向けて
 - ・情報史の多面性、情報空間モデルによる統合の試み

【評価方法】

平常点（小テスト形式の授業内レポートに基づく）

【テキスト】

歴史のなかの科学コミュニケーション（Vickery著 勁草書房）
※情報学III/IVで使用しない部分を本講義で使用する。
また、本講義の前提知識の供給源となる。

【参考文献・資料】

歴史のなかのコミュニケーション（新曜社）
情報の歴史（N T T出版）
※その他、授業で適宜紹介していく。

図書館経営論

小木曾眞

【授業の概要】

図書館の技術的な面－分類・目録等－資料組織とは別に図書館運営上の諸問題－司書の専門職制の問題、図書館の地域サービスと図書館網計画、図書館の経営評価と見直し等、を図書館経営論として論述する。

【授業の目標】

図書館経営にかかわる組織・管理運営・各種計画について、事例を紹介しながら理解を深める。
最近の経営環境の変化に合わせて、新しい考え方をできる限り紹介する。

【授業計画】

1. 講義の進め方／図書館運営の実際・最近の事情・レポート①出題
2. 図書館の経営論の意義・あり方
3. 自治体行政と図書館
関係法規、予算、議会との関係等
4. 図書館業務の理論と実際
「図書館学の五法則」「カウンター業務の重要性」等
5. 図書館の組織
「アウトソーシング」等
6. 図書館の職員（レポート①提出）
「館長論」「専門的職員」「図書館の自由」等
7. 図書館の計画とマーケティング（身近な事例のレポート②出題）
「図書館開設計画」「ファンドレイジング」等
8. 図書館の施設整備計画
「スペース計画」「安全・快適・デザイン」等
9. 図書館ネットワークの形成
「図書館相互協力」「インターネットの利用」等
10. 図書館業務・サービスの評価（レポート②提出）
「パフォーマンス指標」「アンケート調査」等
11. まとめ
※講義の中でレポート提出を指示します。2回

【評価方法】

期末テスト実施－記述式。出席点、レポート、記述試験の総合評価。

【テキスト】

改訂図書館経営論（高山正也編著 樹村房）
補充レジメ（講義の都度配布）

【参考文献・資料】

図書館経営論（柳 与志夫著 学文社 2007）
公立図書館の経営[補訂版]（大澤正雄著 日本図書館協会 2005）
図書館経営論[改訂版]（宮沢厚雄著 勉誠出版 2006）
図書館関係新聞記事等を適宜紹介する

情報学特殊 IV (情報伝達論)

高井次郎

【授業の概要】

情報伝達行動として、人間のコミュニケーションのプロセスについて取り上げる。個人内コミュニケーションから国際コミュニケーションまでのさまざまなレベルについて説明するとともに、コミュニケーションの基礎をなしている言語および非言語コミュニケーションのあり方などについて教授する。

【授業の目標】

授業目標は、コミュニケーションの基礎的要素と、言語と非言語チャネルの役割の重要性を理解し、コミュニケーション過程における送信者と受信者の関係発展のプロセスについて検討し、円滑なコミュニケーションをはかるための能力の獲得を目指す。

【授業計画】

1. コミュニケーションの定義
2. 言語コミュニケーション
3. 言語コミュニケーション
4. 非言語コミュニケーション
5. 非言語コミュニケーション
6. 対人認知
7. 対人コミュニケーション
8. 対人コミュニケーション
9. 集団コミュニケーション
10. 組織コミュニケーション
11. マスコミュニケーション
12. マスコミュニケーション
13. 異文化コミュニケーション
14. コミュニケーション理論
15. 期末試験

【評価方法】

出席および期末試験をもって成績の評価を実施する。

【テキスト】

未定

【参考文献・資料】

授業において適宜紹介する。

図書館学特殊 I

菅野育子

【授業の概要】

国内の「図書館実習」を受講するための前提科目である。
本学指定の図書館実習館を中心に、国内の図書館の現状と課題について、特に実務的な内容を主として講義する。実習館から学外講師を招いて、討論会形式の授業も含むため、詳細日程は第1回の授業で提示する。

【授業の目標】

国内の「図書館実習」に参加するために必要な、図書館業務及び図書館界の動向について理解すること。

【授業計画】

1. 図書館の勤務時間と勤務内容
2. 図書館の職階制と司書職制度
3. 公共図書館における情報提供サービス
4. 大学図書館における情報提供サービス
5. 図書館統計の方法と問題点
6. 図書館におけるウェブ・アーカイブとメタデータ

【評価方法】

出席回数、レポート、テストによる総合評価

【テキスト】

プリント配布

図書館実習

菅野育子 岡澤和世

【授業の概要】

各図書館現場での実習を行う。
下記から選択し、それぞれ6日間程度の実習を行う。
(1) 愛知県図書館他、受入実績のある国内の図書館での実習
(2) 自己開拓(国内)
(3) 北京図書館実習(北京大学および北京国家図書館)

- * (1) あるいは(2)を選択する者は、国内実習者対象に開講される『図書館学特殊I』を受講し、単位を修得しなければならない。
- * (1) には定員枠がある。詳細は『図書館学特殊I』第一回講義にて述べる。
- * (1) あるいは(2)を選択する者は、(3)も選択することができるが、(1)と(2)の両方を選択することはできない。
- * (3)を選択する者は、(1)あるいは(2)のどちらかを選択してもよい。

【授業の目標】

国内の公共図書館と大学図書館において、実際の業務を経験することから、学内の講義内容の理解を深めること。また、本学文学部提携校である北京大学の図書館などを見学し、海外の図書館事情を知ること。

【授業計画】

実習受入先の図書館の作成した実習カリキュラムに従い、実習受入館の指導者によって行う。

【評価方法】

実習受入先の図書館の評定に基づく。

【テキスト】

実習受入先の作成した資料による。

生涯学習概論

角 弘昭

【授業の概要】

現代の社会では、一人ひとりが人として主体的に生きてゆくため、広く社会において学び続けてゆくことが求められている。そのための生涯学習の歴史、意義、実践について具体的な事例を基に考察をする。

【授業の目標】

明治以降の我が国の社会情勢と生涯学習(社会教育)のあゆみを概観し、生涯学習全般について理解すると共に、将来あるべき生涯学習社会の姿を考える。

【授業計画】

- 1 はじめに
 - 導入としての概観(単元の構成内容)
 - 受講上の注意
- 2 社会教育のはじまり
 - 通俗教育から社会教育
- 3・4 社会教育の展開
 - 戦後の社会教育
 - 施設とその展開
- 5 生涯学習の登場
 - 社会教育から生涯教育・生涯学習
- 6 欧米における生涯学習
- 7 生涯学習の構成
 - 行政などの組織
- 8・9・10 生涯学習の展開
 - ① 人権教育
 - ② 学社融合
 - ③ スポーツ振興
 - ④ 高齢者福祉
- 11 今後の課題
 - 規制緩和の進む中で
- 12 まとめ

【評価方法】

主に期末試験(筆記)により評価するが、開講中にレポートを課した場合はこれを加味する。

【テキスト】

テキストは使用しない。

【参考文献・資料】

授業中に参考文献を適宜紹介する。

図書館学特殊 III (児童サービス論)

近藤洋子

【授業の概要】

図書館における児童サービスの理論と実際について、基礎的理解を図る。具体的には、日本の読書推進政策の現状を踏まえ、児童用資料の特性、利用者としての児童の特性、公立図書館・学校図書館における児童サービスおよび、図書館の周辺領域における児童へのサービスについても広くとりあげる。

【授業の目標】

図書館における児童サービスの理論の基礎的理解を具体的資料にあたって学ぶ。
サービスがよりよく実践されるための実技を学ぶ。
図書館見学等を通して、現状のサービスについて理解を深めていく。

【授業計画】

- (1) 子どもの読書と児童図書館
- (2) 児童図書館の意義と歴史
- (3) 児童資料の類型、出版・流通
- (4) 児童資料の特性1 絵本・創作児童文学
- (5) 児童資料の特性2 昔話・ノンフィクション・その他
- (6) 児童資料の収集・整理 蔵書構成
- (7) 資料提供サービス 窓口業務・フロアワーク・レファレンス
- (8) 集会行事 展示・PR
- (9) 児童サービスの技術1 読み聞かせ ストーリーテリング
- (10) 児童サービスの技術2 ブックトーク 書評・ブックリスト
- (11) 児童図書館の企画・運営 施設・設備
- (12) 児童サービスの対象 乳幼児・ヤングアダルトサービス
- (13) 類縁機関との連携 学校図書館
- (14) 児童図書館の現在と今後 見学レポートの発表
- (15) ストーリーテリング実習

【評価方法】

出席状況 平常点 図書館見学等レポートを総合評価

【テキスト】

児童サービス論 新訂版(堀川照代編著 日本図書館協会)

【参考文献・資料】

児童サービス論(佐藤涼子編 教育史料出版会)
児童図書館のあゆみ(児童図書館研究会編 教育史料出版会)

知的所有権

辻田芳幸

【授業の概要】

人の創作活動の成果である著作物は、今日、創作者の人格の発露というばかりか、企業などによる投下資本の結晶という意味合いをも濃くし始めている。近時、情報技術(IT)の発達によってこのような傾向が顕著である。そこで、この講義においては、情報社会における知的所有権の役割について、著作権法を中心に解説することとしたい。具体的には、情報社会においてどのような問題が生じ、それがどのようにして解決されるのか、情報の受信者のみならず発信者として、いかなる点に留意しなければならないかを探求する。

【授業の目標】

著作権法の基本的知識とその情報社会における役割を具体的に理解できるようにしたい。

【授業計画】

- 第1回 情報社会における知的財産法、著作権法の役割
 - 第2回 著作物(著作権法によって保護されるもの)
 - 第3回 著作者(創作的行為とは)
 - 第4回 著作権の権利～著作者人格権(著作者に与えられる権利)
 - 第5回 著作者の権利～著作権(複製権、貸与権など)
 - 第6回 著作物の自由利用(私的複製、引用など)
 - 第7回 著作物の自由利用(図書館、教育機関における複製など)
 - 第8回 著作物の自由利用(非営利の上演など)
 - 第9～12回 情報社会に特殊な問題(音楽・画像配信問題など)
 - 第13回～ その他の知的財産法制
- *この他、注目すべき新聞報道があった場合は、随時取り上げる。また学生のリクエストに応じて各種の関連問題を取り扱う。

【評価方法】

主として期末試験の結果で判断し、提出物・質問は加点要素とする。

【テキスト】

追って指示する

【参考文献・資料】

中山信弘『著作権法』(2007年、有斐閣)、斉藤博『著作権法』(2007年、有斐閣)。新書では中山信弘『マルチメディアと著作権』(1996年、岩波新書)など。その他については講義中随時紹介する。

個人コミュニケーション論 I (認知心理学)

高橋伸子 安田恭子

【授業の概要】

見る、聞く、話す、覚える、考えるなどの知的機能を総称して認知という。認知心理学では、人間を高次な情報処理体として見なし、情報の入力と出力との間に生じるさまざまな認知的過程を実験とシミュレーションにより理論化している。本講義では、人間の記憶活動と言語活動がどのように営まれているかを明らかにするとともに、それらの活動を支える基盤が、脳の中でどのように組織化されているのかについても検討する。また、講義を通じて、我々が日常生活の中で体験する不思議な現象を認知心理学的に解明していきたい。

【授業の目標】

ヒトの認知機能（情報処理形式）の特徴について理解する。また、ヒトをとりまく環境で生じる諸現象を科学的にとらえる思考力を養う。

【授業計画】

1. サプリメンタル・パーセプション
2. 沈黙の手がかり
3. 意識できない知識
4. 健忘症患者の隠された能力
5. なぜ、ずっと覚えていられないのか
6. 記憶の混乱と偽りの記憶
7. 嫌な出来事が忘れられない
8. 言葉と心
9. 言葉の働き
10. 言葉が失われるとき
11. 言葉が意識を生む
12. 自己意識の起源にせまる

【評価方法】

出席状況および筆記試験の成績により評価する。

【テキスト】

使用しない。必要に応じてプリントを配布する。

【参考文献・資料】

適宜紹介する。

博物館概論

柴垣勇夫

【授業の概要】

博物館とは何か、その発達の歴史をたどり、世界と日本の博物館を概観するとともに、博物館の新しい動きをとらえる。

【授業の目標】

学芸員として必要な基礎的知識を学習する。

【授業計画】

- 1) はじめに…博物館学とは何かなど学習の基礎を知る。
- 2) 博物館の定義…ICOMの定義、博物館法の定義を中心に考えていく。
- 3) 博物館の始原…博物館の始原をたずねてみる。
- 4) 博物館の萌芽…ルネサンス期からの博物館的な施設の形を探る。
- 5) 近代博物館の出発I…王権の誇示としての財宝の展示から考える。
- 6) 近代博物館の出発II…市民への公開がなされていく過程を考える。
- 7) ヨーロッパの博物館…主要な博物館を例にとり、近世からの特徴をまとめる。
- 8) アメリカの博物館、アジアの博物館…合衆国独立から現代までと、アジアの博物館の特徴をみる。
- 9) 日本の博物館…日本の博物館の歴史を概観する。
 - ・幕末から明治期にかけての博物館の出発
 - ・国威の宣揚と博物館
 - ・通俗教育による教化と博物館
 - ・十五年戦争と博物館
- 10) 博物館法の概要
- 11) 博物館の新しい動き
 - ・企業博物館、エコ・ミュージアム、テーマ・パークなど
 - ・最近の博物館組織

【評価方法】

- ・数回にわたるテストとレポートの提出で評価する。
- ・出席率も重要な評価対象である。

【テキスト】

新訂博物館学概説（長谷川銚治原著、柴垣勇夫補訂）

【参考文献・資料】

必要に応じてプリントを配布する。

個人コミュニケーション論 II (認知心理学)

諸上茂光 安田恭子

【授業の概要】

人間の脳の中にはさまざまな意識的・無意識的な処理過程が存在している。意識されない刺激情報も私たちの認知や行動に影響を及ぼしている。その事実やその脳内のプロセスを実験結果や脳損傷患者の症例から論じる。

【授業の目標】

ヒトの認知機能に関わる脳内機構について理解し、脳損傷患者あるいは脳機能が低下した高齢者などとの接し方を学ぶ。

【授業計画】

1. 幻覚
2. 認識と失認
3. 相貌失認
4. 注意機能障害
5. 情動の起源
6. 記憶障害
7. 記憶錯誤
8. 失語症
9. 分割脳と自己
10. 意識と無意識

【評価方法】

レポートおよび期末試験による総合評価

【テキスト】

脳のはたらきと行動のしくみ（八田武志著 医歯薬出版株式会社）

博物館概論

早川正一

【授業の概要】

「博物館概論」とは、愛知淑徳大学が文部省（現在の文科省）の認可のもとに、学芸員と呼ぶ博物館や美術館に不可欠な専門職員になるため、基礎知識をカリキュラムを通じて取得させる基幹の学科目である。したがって、この養成課程の当初に受講させるので真剣に取り組まないと脱落しかねない。充分な心構えが肝要である。

次のような単元のもとに講義を展開してゆく予定である。

【授業の目標】

この科目は、後期におこなう「博物館学各論I」と共に、所定の必修科目の一つである。必修の理由は、卒業を条件として学芸員の資格が与えられる基幹の学科目のため、この講義内容を習得させることが目標となる。

【授業計画】

博物館や美術館の基本概念と必要性
 専門職員としての「学芸員」とは何か
 博物館と美術館の発達とその時代背景
 博物館と呼ぶ施設の機能と多様性
 博物館の分類と現代性
 博物館の日常的な組織と運営の局面への学芸員のかかわり方、そして館外活動への配慮
 博物館の相互協力と情報の活用
 毎時間、入念にノートさせる。コピーは許さない。
 無用な欠席は不合格につながる。注意されたい。
 長谷川銚治『博物館学論考』（1995）をはじめ、大学図書館に所蔵の関連文献を熟読しておくこと。

【評価方法】

学期末の筆記試験をはじめ、毎時間の出席状況、受講態度などで総合評価する。資格認定のため厳格である。

【テキスト】

テキストを購入させない。毎時間のノートの一学期分がテキストの代用となる。

【参考文献・資料】

本学図書館が所蔵する060～069.9までの基礎図書に目を通しておくことをすすめる。

博物館学各論 I

柴垣勇夫

【授業の概要】

博物館の現状を分析し、その将来を考えるとともに、文化財の保護についても学習する。

【授業の目標】

学芸員資格にかかる基礎的事項を学習する。

【授業計画】

- 1) 博物館の機能…生涯学習施設と定義されていることを考える。
- 2) 博物館の分類…分類を通して、博物館の役割やあり方を考えていく。
- 3) 博物館の組織…公立博物館を例にとり、典型的な組織をみていく。
- 4) 博物館の運営…公立博物館を例にとり、運営の実際を知る。
- 5) 学芸員の倫理…学芸員の実態などに焦点をあて、「学芸員」はいかにあるべきかを考える。
- 6) 予算など…博物館のマネジメントについて考える。
- 7) 博物館の施設・設備…市民参加の視点から、あるべき施設・設備について考えてみる。
- 8) 博物館と情報その1…情報化社会の発展、情報技術の進歩と博物館のあり方を探っていく。
- 9) 博物館と情報その2…博物館での情報提供のあり方を探る。
- 10) 博物館と情報その3…博物館と大学・研究機関などの連携についても考える。
- 11) 文化財の保護…わが国の文化財保護の現状と問題点について考察し、博物館との関係を考える。

【評価方法】

- ・数回にわたるテストとレポートの提出で評価する。
- ・出席率は重要な評価対象である。

【テキスト】

新訂博物館学概説（長谷川銑治原著 柴垣勇夫補訂）

【参考文献・資料】

必要に応じてプリントを配布する。

博物館学各論 II

柴垣勇夫

【授業の概要】

博物館資料とは何か、資料の取扱い方を学習する。また、博物館における調査・研究についても考える。

【授業の目標】

学芸員として必要な基本的事項を実践をとおして学習する。

【授業計画】

- 1) 「物」が博物館資料として位置づけられることを考える。
- 2) 博物館資料の実際について具体的に学ぶ。
 - a 資料の収集
 - b 資料の取扱い
 - ・保存箱の種類と取扱い
 - ・掛軸の扱いと掛け方
 - ・古文書 ・和装本の取扱い
 - ・やきもの ・茶碗の取扱い
 - ・瓦のみかたと取扱い、拓本の取り方
 - ・刀、太刀のみかたと取扱い
 - c 資料の整理・保存
 - d 資料の保全
- 3) 資料情報の管理について、その実際を探る。
- 4) 博物館における調査と研究、成果の公表について考える。

【評価方法】

- ・数回にわたるテストとレポートの提出で評価する。
- ・出席率も重要な評価対象である。

【テキスト】

新訂博物館学概説（長谷川銑治原著 柴垣勇夫補訂）

【参考文献・資料】

必要に応じてプリントを配布する。

博物館学各論 I

早川正一

【授業の概要】

愛知淑徳大学の学芸員課程委員会が計画したカリキュラムに準拠し、前段階の「博物館概論」を修得した学生に受講させる。したがって、この講義も基幹をなす学科目であるから、年次計画を考慮し、真面目に受講しないと、資格取得につながらないので、注意が肝要である。

【授業の目標】

この科目は、前期に実施する「博物館概論」と共に、所定の必修科目の一つであって、必修とした最大の理由は、卒業を条件に学芸員の資格が与えられる。したがって、授業計画による講義内容を受講生に修得させることが目標となる。

【授業計画】

次の単元を土台として講義を展開する予定である。
博物館や美術館の展示と陳列構造
博物館がとり扱う資料の収集と保存
博物館と所属する学芸員のおこなう調査と研究
博物館や美術館のおこなう普及活動と教育
文化財の種類と保護にかかわる諸問題
生涯学習の必要性和博物館の関連事業
毎時間、入念にノートさせる。コピーは許さない。
無用な欠席は不合格につながるの、注意してほしい。
博物館学論考（長谷川銑治 1995）をはじめ、大学図書館に所蔵の関連文献を通読しておくこと。

【評価方法】

本学の学長の名において資格を認定する以上、定期試験を厳格に実施し、出席状況や受講態度を含めて総合評価する。

【テキスト】

毎時間のノートの一学期分がテキストの代用となるので、テキストを購入させない。

【参考文献・資料】

本学図書館が所蔵する060～069.9までの基礎図書に目を通しておくことをすすめる。

博物館学各論 II

赤羽一郎

【授業の概要】

博物館の活動の基軸は「資料」にあり、それを収集し、正しく保存し、かつ有効に活用することが博物館には求められる。本講座では、資料の収集・取り扱い・整理・保存・活用について、具体的事例や実習を取り入れながら学んでいく。

【授業の目標】

博物館における「資料」の存在意味を学び、その基礎的な取り扱いと活用について実習を通して修得することを目標とする。

【授業計画】

1. 博物館資料とは……「博物館資料」とは、何を指すか、理念およびその具体的種類を知る。
2. 資料収集……資料の収集に際しての、収集方針の重要性、収集方法の事例を学ぶ。
3. 資料の取り扱い……基本資料の取り扱いを実習し、習得するとともに、その構造を知り展示方法等も学ぶ。
陶磁器、考古資料、軸装、額装、刀剣その他で実習する。
4. 資料整理……資料の整理について、分類方法やその整理登録方法を考え、資料カードの作成を実習する。
5. 資料情報……整理された資料の情報、二次的資料の情報の管理運営について考える。
6. 資料保管……資料の保管に関しての、保存条件や方法、問題点などを学ぶ。
7. 資料活用……資料を活用した調査研究活動の実際とその意義を知る。
また、4年次の「博物館実習」に備えた情報や、館務実習の準備について説明する。

【評価方法】

受講態度及びレポートで評価する。

【テキスト】

【新訂博物館学概説】（長谷川銑治・著 戸谷印刷）
必要に応じてプリントを配布し、ビデオ等も利用する。

博物館学各論 II

瀬川貴文

【授業の概要】

博物館は「もの（物）」「ひと（人）」「ば（場）」の3つの要素で構成される。この授業では、そのうちの「もの」=博物館資料に焦点をあて、博物館活動の中での役割を考える。

【授業の目標】

博物館資料の定義、収集、整理分類、保管保存、調査研究そして実際の取扱い方について、基礎的な知識を学び、技術を習得することを目標とする。

【授業計画】

履修学生が、手を動かし、自分で考える「実技」の時間をできるだけ多くとる。

- (a) 博物館と博物館資料
- (b) 資料を記録する技術
拓本・実測・写真など。
- (c) 資料を扱う技術
掛け軸・卷子・和本・陶磁器・考古資料など。
- (d) 資料を保管・保存する技術
ドキュメンテーション・保存科学など。
- (e) 博物館と調査・研究

【評価方法】

実技を行うため、出席および授業に臨む姿勢を重視する。あわせて、レポートなどの課題、(時間内の)小テストの結果も勘案する。

【テキスト】

随時プリントを配布し、参考文献・論文などを紹介する。

【参考文献・資料】

随時プリントを配布し、参考文献・論文などを紹介する。

博物館実習

赤羽一郎

【授業の概要】

展示についての理論・方法論を提示し、また博物館・美術館見学、博物館実習を通して、学芸員に求められる業務を多様な面から学習する。

【授業の目標】

学芸員資格を取得するにあたって、展示演習・博物館見学・博物館実習を通して、展示についての基礎的な理論と方法を修得することを目標とする。

【授業計画】

1. 展示の意義……博物館等における展示の意義、役割について学ぶ。
2. 展示の条件……展示空間の諸条件について、資料保全と展示効果の両面から学ぶ。
3. 展示のプロセス……展示立案から終了までの流れを実践的に学ぶ。
4. 学外に出て現場の実務に接し、学芸員業務を具体的に学ぶ。
 - 1) 博物館見学……土・日曜日に展覧会や施設の見学に出かける。
 - 2) 館務実習……夏休み中に各博物館に依頼して館務実習を行う。
 - 3) 海外実習……夏休み中に希望者と海外の博物館に出かけ学習する。
 - 4) 県外実習……2)、3)に参加できない者は、9月に県外へ見学に出かける。

【評価方法】

授業および学外での研修等の出席状況、受講態度及びレポート成績によって評価する。

【テキスト】

『新訂博物館学概論』（長谷川銑治・著 戸谷印刷）

【参考文献・資料】

必要に応じてプリントを配布し、ビデオ等も利用する。

博物館実習

柴垣勇夫

【授業の概要】

展示演習、内外の博物館見学、館務実習などを通して、実践的に学習する。

【授業の目標】

学芸員の基本的な役割について、種々の実践をとおして考察するとともに学芸員資格取得のためのまとめをする。

【授業計画】

- 1 展示についての学問的側面、実際の運用などをみていく。
 - 1) 展示とは
 - 2) 展示のポイント
・動線 ・視線 ・照明 ・温度 ・湿度
 - 3) 展示の施設、設備
 - 4) 展示のプロセス
 - 5) 展示方法の実践例
 - 6) 展示と保全
- 2 生涯学習が重要な課題である現代社会にあって、博物館が果たす役割を考える。
- 3 学外に出て現場の実務に接し理解を深める。
 - 1) 博物館見学……土・日曜日に展覧会や施設の見学に出かける（全員）。
 - 2) 館務実習……夏休み中に各博物館に依頼して館務実習を行う。
 - 3) 海外実習……夏休み中に希望者と海外の博物館に出かけ学習する。
 - 4) 県外実習……2)、3)に参加できない者は、9月に県外へ見学に出かける。

【評価方法】

- ・演習はもちろん、学外での研修、実習にはかならず参加し、それぞれレポートを提出。評価の対象とする。
- ・その都度、提出させるレポートを中心に実習態度なども勘案して評価する。

【テキスト】

新訂博物館学概説（長谷川銑治著）

【参考文献・資料】

必要に応じてプリントを配布する。

博物館実習

武藤 真

【授業の概要】

「展示」は、博物館と利用者とは結ぶインターフェイスであり、博物館の「顔」といえる。この授業では、「展示」に関わる知識・技術を学び、各種博物館の見学を通じて、その実践例を見る。

【授業の目標】

実技を行うことによって、「展示」に関わる知識・技術、とくに展示デザインの基礎を身につけることを目標とする。

【授業計画】

- I 「展示」を実施する際の各場面を疑似体験できるよう、「実技」の時間を多くとる。また、ビデオなど視聴覚教材を用いて、具体的なイメージでとらえられるようにする。
 - (a) 展示とは
 - (b) 展示のプロセス
 - (c) 展示の構成要素
 - (d) 展示と資料保全
 - (e) 着想から実施まで
 - (f) 解説の方法と印刷物
 - (g) 展示とその周辺
 - (h) まとめ
- II 学外に出て現場の実務に接し理解を深める。
 - 1) 博物館見学……土・日曜日に展覧会や施設の見学に出かける。
 - 2) 館務実習……夏休み中に各博物館に依頼して館務実習を行う。
 - 3) 海外実習……夏休み中に希望者と海外の博物館に出かけ学習する。
 - 4) 県外実習……2) 3)に参加できない者は、9月に県外へ見学に出かける。

【評価方法】

実技を行うので出席状況を重視する。あわせて、レポートと課題の提出などにより評価する。

【テキスト】

授業中に適宜指示する。

【参考文献・資料】

授業の進行状況に応じ、文献・論文などを指示する。

日本語表現 T 1

外山敦子

【授業の概要】

日本語による基礎的な表現技術（文章表現力）について、その知識の確実な定着と応用力の養成とを目的とする。特に、大学における学修に欠かせない2つの文章力（①事実を正確にかつ分かりやすく説明する力、②論理的に自分の意見を述べる力）を身につけることに重点を置く。その実践としての小論文作成（計3回）については、1回ごとに目標を設定し、段階を踏んでより高度な課題に取り組む。その際、自己修正力（推敲）の過程を重視し、他者意識を伴った説得力ある文章を書く力を身につける。

なお、各学部学科（専攻）の特質に応じて、内容・方法の調整を行うことがある。

【授業の目標】

1. 高等学校までに学習した漢字やことばを確実に使いこなし、適切な表現を用いた正しく分かりやすい文章を書く力を身につける。
2. 事実と意見、他人の意見と自分の意見とを区別し、論理的な文章を書く力を身につける。

【授業計画】

1. オリエンテーション
2. 大学図書館を使いこなす
3. 伝わる文章を書く
4. 論理的な文章を書く
5. 順序を考えて書く
6. 課題①事実を正確にかつ分かりやすく伝える文章を書く
7. 課題①を推敲する
8. 目的に応じて文章を構成する
9. 事実と意見とを区別する
10. 課題②事実と意見とを区別して論理的な文章を書く
11. 課題②を推敲する
12. 要約と引用の方法
13. 課題③他人の意見やデータを引用して文章を書く
14. 課題③を推敲する
15. 授業のまとめ

※漢字やことばの使い方に関する小テストを計10回実施する。

【評価方法】

出席状況、小テスト、課題などにより総合的に評価する。

【テキスト】

愛知淑徳大学文学部国文学科編「日本語表現T1」（予定）

【参考文献・資料】

授業時に指示する。

教育原理

佐藤実芳

【授業の概要】

学校教育をめぐる様々な問題が生じている今日、学校とは何か、教育とは何か、そのあるべき姿を、私たち教職をめざす者は真剣に考える必要がある。そこで、教育の本質と目的を中心に、様々な角度から検討する。教育の本質に関しては教育史上代表的な思想を中心に、教育目的に関しては、古代ギリシャから今日に至るまでの変遷を概観するとともに、日本の現代の教育についてその目的等に関して考察する。

【授業の目標】

- ・教育を受けるという立場だけでなく、教職課程を履修し教職をめざすという視点から、学校とは何か、教育とは何かを考え、理解すること。
- ・教育についての様々な考え方や実践を理解すること。

【授業計画】

- 1 教育とは何か
- 2 人間と教育
 - (1) 動物学からみた人間の特殊性
 - (2) 人間の成長と環境
 - (3) 教育の重要性
 - (4) 人間形成の場
- 3 教育の本質
 - (1) 教育の本質
 - (2) 注入主義の教育（ソフィスト～本質主義）
 - (3) 開発主義の教育（ソクラテス～進歩主義）
- 4 教育の目的
 - (1) 教育目的とは
 - (2) 古代ギリシャの教育目的
 - (3) 日本の学校教育の目的の歴史の変遷
 - (4) 現在の日本の学校教育の目的
- 5 現代の教育

【評価方法】

出席状況 10% 課題の提出 40% 定期試験 50%

【テキスト】

資料を配布する。

【参考文献・資料】

授業の中で、必要に応じて紹介する。

日本語表現 T 2

外山敦子

【授業の概要】

「日本語表現T1」の学修を踏まえ、大学における学修に不可欠な日本語の「読む・書く・話す・聞く」技術を総合的に身につけるため、レポートの書き方と口頭発表の仕方の基礎を学ぶ。具体的には、①テーマ設定、②資料収集と分析、③発表資料の作成、④グループ発表（15分間）、⑤レポート作成、というそれぞれの作業を決められた手順に従って実践的に取り組むことによって、論文や資料を集めて読む力、形式やルールにしたがってレポートを書く力、聞き手を意識した発表をする力、発表を聞いて要点をつかむ力をつける。

なお、各学部学科（専攻）の特質に応じて、内容・方法の調整を行うことがある。

【授業の目標】

1. 大学で求められるレポートや口頭発表のルール及び準備の手順を身につける。
2. 事実や主張を、口頭及び文章で論理的にかつ分かりやすく伝える力を身につける。
3. 複数の資料を収集し比較分析した結果を報告するレポートを書く力を身につける。

【授業計画】

1. オリエンテーション
 2. 資料を収集する
 3. データを分析してまとめる
 - 4～5. 発表の構想を報告する（中間発表）
 6. 発表資料を作る
 7. 話し方や補助ツールの使い方工夫する
 - 8～11. 調査分析の成果を報告する（グループ発表）
 12. レポートの形式やルールを学ぶ
 13. 論理的なレポートの書き方を学ぶ
 14. レポートの提出
 15. 授業のまとめ
- ※漢字やことばの使い方に関する小テストを計10回実施する。

【評価方法】

出席状況、小テスト、発表、課題提出などにより総合的に評価する。

【テキスト】

愛知淑徳大学文学部国文学科編「日本語表現T2」（予定）

【参考文献・資料】

授業時に指示する。

教育心理学

富安玲子

【授業の概要】

教育を受ける側と教育する側との相互の人間関係の中で展開される「教育」の営みについて、発達の基礎や障害者への理解を踏まえながら、学習のメカニズムや動機づけの理論を通して考え、心理学的知見を実践の中に生かしていくことを目的としたい。

【授業の目標】

発達についての理解や行動形成への関わり方について、教育する立場にたって考えていくこと

【授業計画】

- 1 教育の機能と教育心理学の位置づけ
- 2～4 発達段階と発達の個人差
- 5 障害者の理解と発達可能性
- 6, 7 学習の成立過程（1）プログラム学習の原理
- 8, 9 学習の成立過程（2）発見学習の原理
- 10, 11 学習の成立過程（3）観察学習
- 12, 13 学習における知識の役割
- 14, 15 学習意欲を育てる

【評価方法】

期末試験と授業への出席・関与度による。

【テキスト】

テキストとしては使用しない。必要な資料等は授業時に配付する。

【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

特別支援教育論

小塩允護

【授業の概要】

障害のある子どもの教育に関する現状理解に基づき、障害の程度等に応じて特別な場で指導を行う特殊教育から一人一人の教育的ニーズに応じて適切な教育的支援を行う特別支援教育への転換について、歴史的、理念的に振り返るとともに、個別的教育支援計画や特別支援教育コーディネーター、広域特別支援連携協議会等特別支援教育に関する基本的考え方を学習する。

【授業の目標】

障害のある子どもの教育について、その歴史の変遷を理解するとともに、一人一人の教育的ニーズに応じる特別支援教育の理念とその基本的枠組みを理解する。

【授業計画】

- 1 障害のある子どもの教育の歴史-義務制施行前-
- 2 障害のある子どもの教育の歴史-義務制施行後-
- 3 特殊教育から特別支援教育への転換-現状認識と理念-
- 4 特別支援教育に関わる制度
- 5 学習指導要領と教育課程の編成及び配慮事項
- 6 特別支援学校の教育の概要
- 7 特別支援学校における教育課程と指導
- 8 自立活動の指導
- 9 特別支援学校のセンター的機能と交流及び共同学習
- 10 小・中学校等における特別支援教育-校内支援体制の確立-
- 11 小・中学校等における特別支援教育-特別支援学級と通級による指導-
- 12 個別的教育支援計画と個別の指導計画
- 13 特別支援教育コーディネーターの役割と関係機関のネットワーク
 - (1) 特別支援学校のセンター的役割
 - (2) 特別支援学校における特別支援教育コーディネーターの役割
 - (3) 小・中学校における特別支援教育コーディネーターの役割

【評価方法】

レポートの成績に、出席状況や授業中の学習態度を加味して総合的に評価する。

【テキスト】

テキストは使用せず、資料を配付する。

【参考文献・資料】

授業の中で必要に応じて紹介する。

総合演習

浅田まり子 石黒昭吉 伊藤昭道 大久保義男 小塩允護 楠元町子 小出隆司
佐藤成哉 佐藤実芳 富安玲子 中嶋真弓 中野靖彦 二宮 昭 松田秀子 渡辺かよ子

【授業の概要】

「21世紀は不透明な社会」といわれるように、わが国の児童・生徒を取り巻く社会的環境は以前のそれと大きく異なってきた。現在、教育が抱える諸問題を掘り起こし、分析し、学校（教職員）が果たさなければならない役割は何か、ということを生徒自らが探究し、発表することによって、近い将来「総合的な学習の時間」で経験することになる教師力を育成する。なお全専任が各テーマにそって、学生の演習を支援する体制をとる。

【授業の目標】

今日の社会問題と教育の関連ならびに教育の意義を実践的に理解する。

【授業計画】

第1週～11週：各グループでの個人レポート発表と討議。12週～最終週：全体成果発表会、各グループでの総合討議とレポート提出。各教員のテーマは以下のとおり。

- ジェンダーと教育：富安玲子
ユニバーサル社会と個性化：小塩允護
宇宙船地球号の秘密：佐藤成哉
健康と運動：松田秀子
生涯学習における学校：渡辺かよ子
平和と命の尊厳を考える：小出隆司
福祉—ボランティア活動のあり方：伊藤昭道
「いじめ」と学級経営：石黒昭吉
人間教育としての感性教育の役割：大久保義男
現代社会と音楽：浅田まり子
情報化社会における読書：中嶋真弓
社会と子育て：佐藤実芳
国際化と異文化理解：楠元町子

【評価方法】

個人レポートと授業や発表会への参加、総括レポートによる総合評価。

【テキスト】

なし

【参考文献・資料】

その都度指示する。

学校教育体験

浅田まり子 石黒昭吉 伊藤昭道 大久保義男 小塩允護 楠元町子 小出隆司
佐藤成哉 佐藤実芳 富安玲子 中嶋真弓 中野靖彦 二宮 昭 松田秀子 渡辺かよ子

【授業の概要】

現在の小学校教育や子どもを理解するために、1週間、小学校において子どもたちと生活を共にする。観察実習と子どもとの触れ合い（放課・給食・掃除等）を通じて、教師の仕事と教職の意義を学ぶとともに、教職への志望を確固強化する。小学校教育について基本的な理解を中心とした事前指導を行い、事後指導として学生が体験発表を行うことで、個々の体験を共有させ、教育実習等へと発展させていく。

【授業の目標】

- ・小学校教育及び子どもについての理解を深める。
- ・教師の仕事と教職の意義について学ぶ。
- ・教師としての自らの適正を把握する。

【授業計画】

- 1 事前指導
 - (1) 学校教育体験の意義と目的
 - (2) 学校教育体験の内容と方法
 - (3) 学校教育体験についての全般的諸注意
- 2 学校教育体験（1週間）
- 3 事後指導

学校教育体験の成果報告会及び反省会

【評価方法】

事前事後指導に出席し、学校教育体験を行い、「学校教育体験記録簿」を提出することで、合格とする。

【テキスト】

必要に応じて資料を配布する。

【参考文献・資料】

必要に応じて紹介する。

介護実践演習

伊藤昭道

【授業の概要】

障害者の教育に携わる者にとって、障害者を、障害をもつ特別な存在として見るのではなく、一人の人間として認識し、たまたま支援を必要としている存在であると考えるのが基本である。そのためには、知識として理解するだけでなく、実際に福祉施設で、あるいは特別支援学校において日常生活や学校生活を共にして、実践を通して、正しい障害者観を形成する。併せて個人の尊厳の上に立った介護のあり方について考える。

【授業の目標】

社会福祉施設・特別支援学校での介護体験を通して、高齢者や障害者への理解を深めるとともに、職員や教員が献身的に介護や教育に当たっている姿を見て、人間尊重の精神を学ぶ。

【授業計画】

- 1 事前指導
 - 障害者・高齢者の理解
 - 社会福祉施設等の種類と役割
 - 特別支援学校教育の理解
 - 介護実践演習に臨む心構えと留意事項
- 2 社会福祉施設等での介護実践
特別支援学校での介護実践
- 3 事後指導
レポート作成

【評価方法】

事前指導の出席状況、介護実践記録、介護実践の出動状況、レポートの内容から総合的に評価をする。

【テキスト】

全国特殊学校長会編著『フィリア』ジアース教育新社

【参考文献・資料】

事前指導用資料を配布する。

専門演習 I a

浅田まり子

【授業の概要】

各担当者がそれぞれの専門分野の特性を生かし、教育諸分野に関連する個々の学生の興味関心の深化と学問的探求力の養成をめざす。各ゼミが独自に授業内容を構成する。

【授業の目標】

小学校の教材を主に、楽しく表現する声楽・器楽の演奏の指導法と、鑑賞・音楽理論を活かした、編曲および即興演奏で分析力・判断力・集中力を養成していく。

【授業計画】

- 第1回 音楽科指導総説
- 第2回 歌唱教材研究 (1～4年)
- 第3回 歌唱教材研究 (5・6年)
- 第4回 器楽教材研究 (1～4年)
- 第5回 器楽教材研究 (5・6年)
- 第6回 鑑賞教材研究 (1～4年)
- 第7回 鑑賞教材研究 (5・6・年)
- 第8回 楽典の基礎 (譜表～音程)
- 第9回 楽典の基礎 (音階・調とその関係)
- 第10回 楽典の基礎 (和音・和声)
- 第11回～第13回 個人研究指導
- 第14回～第15回 研究発表

【評価方法】

個人レポート・研究発表と授業や集団討議への参加度による総合評価

【テキスト】

教科教育法、音楽通論、五線紙
小学音楽・音楽のおくりもの1～6年

【参考文献・資料】

小学校学習指導要領解説 (音楽編)
初等科音楽教育法

専門演習 I a

伊藤昭道

【授業の概要】

各担当者がそれぞれの専門分野の特性を生かし、教育諸分野に関連する個々の学生の興味関心の深化と学問的探求力の養成をめざす。各ゼミが独自に授業内容を構成する。

【授業の目標】

障害者との共生社会の構築に向けて様々な思想が提唱されてきた。共生を目指すいろいろな教育実践を分析し、今後の障害児教育の役割と機能を検討する。

【授業計画】

- 第1回 障害の概念をめぐって
- 第2回～第14回 下記の項目を参考にして、各学生はテーマをひとつ設定する。そして、レポートを作成し、討論しながら授業を進めていく。
 - 1.障害者との共生を促進する思想・運動に関する事柄
 - 2.障害者理解教育に関する事柄
 - 3.学校教育における障害児の分離と統合に関する事柄
 - 4.各国の障害児教育制度・政策に関する事柄
- 第15回 まとめ・総括のレポート発表

夏季休業中に特別支援学校の見学・参観を予定している。

【評価方法】

個人レポート・研究発表と授業や集団討議への参加度による総合評価

【テキスト】

なし。

【参考文献・資料】

中村満紀男・荒川 智編著『障害児教育の歴史』明石書店 他 授業の中で随時紹介する。

専門演習 I a

石黒昭吉

【授業の概要】

各担当者がそれぞれの専門分野の特性を生かし、教育諸分野に関連する個々の学生の興味関心の深化と学問的探求力の養成をめざす。各ゼミが独自に授業内容を構成する。

【授業の目標】

数学は文化であるという視点から、将来、算数・数学教育の教材研究を自分で行えるようになるための基礎的知識と基本的技能を修得するため、教材についての講義・演習を行う。

【授業計画】

- 教師としての教科「算数」の理解にむけて、「さんすう」の四領域を基にグループに分かれて以下の3つの事柄について取り組む。
- 1 【第1週～第5週】小学校の教科「算数」の四領域を新指導要領に基づき系統化し、構造化による分析
 - 2 【第6週～第10週】旧(現)指導要領のもとでの教科書をもとに、これを新学習指導要領に沿った形に再編成する。
 - 3 【第6週～第15週】今回の指導要領で特にクローズアップされた「算数的活動」について、それを踏まえた、たのしいさんすう教材の開発

【評価方法】

個人レポート・研究発表と授業や集団討議への参加度による総合評価

【テキスト】

適宜採用する。

【参考文献・資料】

随時紹介する。

専門演習 I a

大久保義男

【授業の概要】

各担当者がそれぞれの専門分野の特性を生かし、教育諸分野に関連する個々の学生の興味関心の深化と学問的探求力の養成をめざす。各ゼミが独自に授業内容を構成する。

【授業の目標】

絵画表現の基礎として素描を繰り返し、造形のための基礎的な観察力と表現力を習得する。また、石膏デッサンなどにより動勢や量感などの造形要素を理解する。

【授業計画】

- 1 素描
 - (1) 鉛筆による静物デッサン
 - (2) 木炭による石膏デッサン
 - (3) 人物クロッキーとデッサン
- 2 水彩
 - (1) 水彩による静物描写
 - (2) 水彩による風景描写
- 3 自由課題

【評価方法】

個人レポート・研究発表と授業や集団討議への参加度による総合評価

【テキスト】

使用しない。必要に応じてプリントを配布する。

【参考文献・資料】

授業の中で必要に応じて紹介する。

専門演習 I a

小塩允護

【授業の概要】

各担当者がそれぞれの専門分野の特性を生かし、教育諸分野に関連する個々の学生の興味関心の深化と学問的探求力の養成をめざす。各ゼミが独自に授業内容を構成する。

【授業の目標】

来るべき生涯学習社会において、知的障害等発達障害のある人の生涯学習支援をめぐる現状について知り、さまざまな課題について考察する。

【授業計画】

発達障害のある人の生涯学習、教育・心理領域における研究法、論文作成法についての概論講義の後、関連文献の講義を交代で行う。その後、各自が関心のあるテーマを大まかに設定し、そのテーマに関連する文献研究を行い、その結果をレポートにまとめる。

また、時間が許せば、特別支援学校や特別支援学級の現状、卒業後の生涯学習支援の現状について、実地調査を授業時間外で行う予定。

【評価方法】

個人レポート・研究発表と授業や集団討議への参加度による総合評価

【テキスト】

用いない。

【参考文献・資料】

授業の中で適宜紹介する。

専門演習 I a

楠元町子

【授業の概要】

各担当者がそれぞれの専門分野の特性を生かし、教育諸分野に関連する個々の学生の興味関心の深化と学問的探求力の養成をめざす。各ゼミが独自に授業内容を構成する。

【授業の目標】

異文化交流の観点から、国際博覧会の成果、歴史的意義について、関連する文献や論文を読み、ディスカッションを行い、多様な情報の中から事実を追求していく目を養う。

【授業計画】

- 1 オリエンテーション
- 2 異文化交流とは何か
- 3 国際博覧会誕生の歴史的背景
- 4～6 海外の主な国際博覧会
- 7～9 日本で開催された国際博覧会
- 10 愛知万博の成果
- 11 上海万博に期待されるもの
- 12 国際博覧会の今後のあり方
- 13 まとめ

【評価方法】

個人レポート・研究発表と授業や集団討議への参加度による総合評価

【テキスト】

テキストは使用しない。毎時プリントを配付する。

【参考文献・資料】

随時必要な参考文献を紹介する。

専門演習 I a

小出隆司

【授業の概要】

各担当者がそれぞれの専門分野の特性を生かし、教育諸分野に関連する個々の学生の興味関心の深化と学問的探求力の養成をめざす。各ゼミが独自に授業内容を構成する。

【授業の目標】

低学年の子どもの身体的・機能的な発達、思考と言語認識の発達、情緒・心理的な発達に関する基礎的な理論学習をする。学んだことを、特色ある生活科教育実践校の理論と実践に重ねて学習する。生活科を学ぶ価値を発見する。

【授業計画】

- 1 子どもの発達・認識の理論学習
- 2 子どもの思考と言語についての基礎的な理論学習
- 3 子ども研究を基礎に生活科の教材開発研究を進める
- 4 特色ある生活科実践校の理論と実践を学び、重ねて生活科教育の価値と可能性を追究する
- 5 並行して、植物栽培や小動物の飼育活動を行う

【評価方法】

個人レポート・研究発表と授業や集団討議への参加度による総合評価

【参考文献・資料】

講義時に資料は配布する
参考文献は必要に応じて紹介していく

専門演習 I a

佐藤成哉

【授業の概要】

各担当者がそれぞれの専門分野の特性を生かし、教育諸分野に関連する個々の学生の興味関心の深化と学問的探求力の養成をめざす。各ゼミが独自に授業内容を構成する。

【授業の目標】

「学校教育体験」の経験や学校現場教師による研究授業のビデオ等をもとに、小学校理科の指導技能や子どもの学びの姿や教師の指導のあり方などを討論する。

【授業計画】

下記項目に関する調査・研究・発表をグループ単位で行う。

- (1) ビデオ教材（授業風景）を利用して
○現場教師と教育実習生の授業観察及び授業分析
・指導案の書き方 ・理科教材の活用法 ・発問の工夫など
- (2) 教育雑誌「理科の教育」を利用して
○理科教育に関する新しい理論や理科教材に関する解説
- (3) 科学実験関連雑誌を利用して
総合的な学習の時間や他教科の授業で役立つ実験等の教材化
- (4) 切り抜き速報「科学と環境版」[食と生活版]を利用して
小学校理科授業に役立つ科学関連記事の抽出及び教材化

【評価方法】

個人レポート・研究発表と授業や集団討議への参加度による総合評価

【テキスト】

小・中学校学習指導要領解説－理科編－ 文科省
小・中学校理科教科書及び教師用指導書 大日本図書

【参考文献・資料】

小学校学習指導要領解説－各自興味関心のある教科－ 文科省
理科の教育 日本理科教育学会
切り抜き速報・科学と環境版／食と生活版 ニホンミック
科学実験関連雑誌

専門演習 I a

佐藤実芳

【授業の概要】

各担当者がそれぞれの専門分野の特性を生かし、教育諸分野に関連する個々の学生の興味関心の深化と学問的探求力の養成をめざす。各ゼミが独自に授業内容を構成する。

【授業の目標】

主に就学前及び児童期の子どもたちに関わる様々な問題について、教育的な視点から理解を深める。

【授業計画】

1. 研究テーマについての交流
 - ・研究テーマの設定
 - ・研究テーマ追究に向けての取組み計画
2. 基本的な文献の購読
 - ・就学前及び児童期の子どもたちにかかわる基本的な文献を購読し、その内容を整理して発表する。
 - ・発表に対して、相互に討論することにより、理解を深める。
3. まとめ

【評価方法】

個人レポート・研究発表と授業や集団討議への参加度による総合評価

【テキスト】

授業中に指示する。

【参考文献・資料】

授業の中で、必要に応じて紹介する。

専門演習 I a

中嶋真弓

【授業の概要】

各担当者がそれぞれの専門分野の特性を生かし、教育諸分野に関連する個々の学生の興味関心の深化と学問的探求力の養成をめざす。各ゼミが独自に授業内容を構成する。

【授業の目標】

『小学校学習指導』の変遷について究明したり、国語科教育に携わった先人達の研究業績や指導法などについて考察したりする学修を行う。

【授業計画】

- 1 個人研究テーマについての交流
 - ・研究テーマの設定
 - ・研究テーマ追究に向けての取組計画
- 2 小学校学習指導要領（国語）の変遷
 - ・小グループによる追究
 - *グループごとで改訂期ごとの特徴について調べ、内容を整理し、発表する。
- 3 小学校学習指導要領改訂に伴う教科書教材の採録状況の変遷
 - ・教科書教材の変遷
 - ・文学的な文章・説明的な文章の採録
 - ・読書指導の在り方
- 4 国語科教育に携わった先人達の研究業績
 - ・小グループによる追究
 - *グループごとで先人の業績について調べ、内容を整理し、発表する。
- 5 個人追究課題の交流
 - ・研究報告→質疑→討論→助言の形式で、テーマでの学びを発表する。

【評価方法】

個人レポート・研究発表と授業や集団討議への参加度による総合評価

【テキスト】

必要に応じて資料を配付する。

【参考文献・資料】

授業中に適宜紹介する。

専門演習 I a

富安玲子

【授業の概要】

各担当者がそれぞれの専門分野の特性を生かし、教育諸分野に関連する個々の学生の興味関心の深化と学問的探求力の養成をめざす。各ゼミが独自に授業内容を構成する。

【授業の目標】

心を開き合う生徒—教師関係を築くために、聴くことの意味を考え、マイクロカウンセリングの「かかわり技法」を中心に基本的なスキルを学んでいく。

【授業計画】

- 1 聴くことの意味～教育とカウンセリング～
- 2 ロール・プレイ～自分のスタイルを知る～
- 3 マイクロカウンセリングとは
- 4 マイクロ技法の意味と基本的かかわり技法
- 5 かかわり行動（1）
- 6 かかわり行動（2）
- 7 会話への誘い・質問技法
- 8 明確化～はげましといいかえ～
- 9 感情の反映（1）
- 10 感情の反映（2）
- 11 要約技法
- 12 意味の反映
- 13 基本的かかわり技法の統合（1）
- 14 基本的かかわり技法の統合（2）
- 15 ロール・プレイ～聴くことと技法の意味～

【評価方法】

個人レポート・研究発表と授業や集団討議への参加度による総合評価

【テキスト】

アイビイ,A.E. (福原真知子他訳編) マイクロカウンセリング 川島書店

【参考文献・資料】

福原真知子監修 マイクロカウンセリング技法—事例場面から学ぶ— 風間書房
その他は、授業の中で紹介する

専門演習 I a

中野靖彦

【授業の概要】

各担当者がそれぞれの専門分野の特性を生かし、教育諸分野に関連する個々の学生の興味関心の深化と学問的探求力の養成をめざす。各ゼミが独自に授業内容を構成する。

【授業の目標】

子どもの心身の健全な発達にとって、学校、教師、家庭のそれぞれの役割、および連携のあり方を巡る課題を中心に討論を深める。

【授業計画】

- 第1～3回 今の日本の学校教育について考察する。
- 第4～6回 学校、教師、子どもを巡る教育環境について考える。
- 第7～9回 今の子どもの成長と子どもを取り巻く環境について議論する。
- 第10～13回 子どもと学校、子どもと家庭・地域とのあり方についてまとめる。

【評価方法】

個人レポート・研究発表と授業や集団討議への参加度による総合評価

【テキスト】

授業中、適宜、指示する。

【参考文献・資料】

学生が資料などの収集・作成を行うが、適宜、参考文献や資料を提供する。

専門演習 I a

二宮 昭

【授業の概要】

各担当者がそれぞれの専門分野の特性を生かし、教育諸分野に関連する個々の学生の興味関心の深化と学問的探求力の養成をめざす。各ゼミが独自に授業内容を構成する。

【授業の目標】

論文講読を中心に発達障害児の教育に関する研究の基礎的知識を得るとともに、ボランティア活動を行い、彼らの援助のあり方について体験を通して学ぶ。

【授業計画】

1. 論文講読
指定する実践研究論文を各自が読み、担当者がその内容を報告し、それに基づいて討論する。
2. 体験実習
からだを使ったさまざまな体験実習を通して、からだとこころの結びつき、障害児教育におけるからだへの働きかけの意義などを考える。

【評価方法】

個人レポート・研究発表と授業や集団討議への参加度による総合評価

【テキスト】

使用しない。

【参考文献・資料】

適宜紹介する。

専門演習 I a

松田 秀子

【授業の概要】

各担当者がそれぞれの専門分野の特性を生かし、教育諸分野に関連する個々の学生の興味関心の深化と学問的探求力の養成をめざす。各ゼミが独自に授業内容を構成する。

【授業の目標】

健康教育や体育科教育に関する研究領域を概観することを目的とし、文献紹介や調査方法など研究に必要な基礎的能力を習得する。

【授業計画】

- グループワークを通して、健康・運動遊び・体育・スポーツをキーワードとした、下記の内容を探究する。
1. 日本子ども資料年鑑、月刊 体育科教育・子どもと発達発達等の講読
 2. 視聴覚教材による指導方法の検討
 3. 教材研究の実践

【評価方法】

個人レポート・研究発表と授業や集団討議への参加度による総合評価

【テキスト】

小学校学習指導要領解説―体育編― 文部科学省

【参考文献・資料】

日本子ども資料年鑑
月刊 体育科教育 大修館書店
月刊 子どもと発達発達 杏林書院

専門演習 I a

渡辺かよ子

【授業の概要】

各担当者がそれぞれの専門分野の特性を生かし、教育諸分野に関連する個々の学生の興味関心の深化と学問的探求力の養成をめざす。各ゼミが独自に授業内容を構成する。

【授業の目標】

教育に関連する基礎文献を広く講読・議論することによって各自の教育体験を相対化し、生涯学習社会における学校、教養のあり方を考える。

【授業計画】

1. 共通基礎文献の講読と検討
2. 基礎的研究方法の理解と習得
3. 各自の問題関心の深化

【評価方法】

個人レポート・研究発表と授業や集団討議への参加度による総合評価

【テキスト】

なし

【参考文献・資料】

その都度、指示する。

専門演習 I b

浅田まり子

【授業の概要】

専門演習Iaに引き続き、各担当者がそれぞれの専門分野の特性を生かし、教育諸分野に関連する個々の学生の興味関心の深化と学問的探求力の養成をめざす。各ゼミが独自に、授業を構成する。

【授業の目標】

声楽や器楽のアンサンブル・指揮法・編曲・即興演奏などで、生きいきと楽しめる音楽の表現力と、コミュニケーション能力をさらに高めることをめざす。

【授業計画】

- 第1回 音楽教育概論
- 第2回 楽典（記号と標語・楽式）
- 第3回 日本の音楽と世界の音楽
- 第4回 創作教材研究
- 第5回 指揮法
- 第6回 合唱指導法
- 第7回 合奏指導法
- 第8回 音楽史と作曲家
- 第9回 音楽療法の基礎
- 第10回 音楽表現法と即興演奏
- 第11回～第13回 個人研究指導
- 第14回～第15回 研究発表

【評価方法】

個人レポート・研究発表と授業や集団討議への参加度による総合評価

【テキスト】

教科教育法、音楽通論・五線紙
小学音楽・音楽のおくりもの1～6年

【参考文献・資料】

小学校学習指導要領（音楽編）
初等科音楽教育法

専門演習 I b

石黒昭吉

【授業の概要】

専門演習Iaに引き続き、各担当者がそれぞれの専門分野の特性を生かし、教育諸分野に関連する個々の学生の興味関心の深化と学問的探求力の養成をめざす。各ゼミが独自に、授業を構成する。

【授業の目標】

専門演習Iaの成果を基に、算数の教科書について、学生それぞれが、各学年から一つづつ単元を取り出し、教科内容的（算数・数学的）観点から分析することで、算数・数学の教材の理解を深める。

【授業計画】

4年次における専門演習Ⅱ・卒業研究に向けて、次の研究を予備的研究・準備として位置づけ取り組む。

- 【第1週～第10週】各自興味のあるテーマの探求
 - (1)研究(発表)論文の収集・・・夏休み～各研究会への参加
 - (2)先行研究論文の講読・・・輪番で内容の報告、討論
 - (3)各自の研究課題の明確化
 - (4)【第5週～第10週】ミニ研究の実践・発表
- 【第11週～第15週】卒業研究計画の策定・立案
 - (1)卒業研究を見据えた先行研究の収集・講読
 - (2)卒業研究のテーマの検討・絞り込み
 - (3)研究方法の検討
 - (4)研究計画の立案

【評価方法】

個人レポート・研究発表と授業や集団討議への参加度による総合評価

【テキスト】

適宜採用する。

【参考文献・資料】

随時紹介する。

専門演習 I b

大久保義男

【授業の概要】

専門演習Iaに引き続き、各担当者がそれぞれの専門分野の特性を生かし、教育諸分野に関連する個々の学生の興味関心の深化と学問的探求力の養成をめざす。各ゼミが独自に、授業を構成する。

【授業の目標】

デザイン表現の基礎としてデザイン用具の使い方や材料の性質を理解するとともに、さまざまな表現技法を学ぶ。また、遠近法などの基礎知識を習得し、それらを表現に応用できるようにする。

【授業計画】

- デザインの基礎技法
 - (1)透視図法
 - (2)色の三要素
 - (3)モダンテクニック
 - (4)レタリング
- デザイン制作
- 遠近法の表現
 - (1)静物描写（油彩）
 - (2)風景描写（油彩）
- 自由課題

【評価方法】

個人レポート・研究発表と授業や集団討議への参加度による総合評価

【テキスト】

使用しない。必要に応じてプリントを配布する。

【参考文献・資料】

授業の中で必要に応じて紹介する。

専門演習 I b

伊藤昭道

【授業の概要】

専門演習Iaに引き続き、各担当者がそれぞれの専門分野の特性を生かし、教育諸分野に関連する個々の学生の興味関心の深化と学問的探求力の養成をめざす。各ゼミが独自に、授業を構成する。

【授業の目標】

障害児の支援体制は就学前、学齢期、成人期とそれぞれ異なる行政が担当している。学齢期を中心としその前後の連携のあり方を検討し、一貫した支援体制を探る。

【授業計画】

第1回

学習の進め方とテーマの設定について

第2回～第14回

下記の項目を参考にして各学生は興味関心に基づき、テーマを設定する。そして、レポートを作成し、討論しながら授業を進めていく。

- 1.障害児の早期療育・早期教育の現状と課題
- 2.就学相談の現状・課題
- 3.特別支援学校における教育課程と指導体制・支援体制
- 4.個別の教育支援計画について
- 5.高等部卒業後の進路選択
- 6.特別支援教育に係わる関係機関との連携

第15回

まとめ・総括のレポート発表

春季休業中に特別支援学校の見学・参観を予定している。

【評価方法】

個人レポート・研究発表と授業や集団討議への参加度による総合評価

【テキスト】

なし。

【参考文献・資料】

授業の中で、随時参考文献のリストを配布する。

専門演習 I b

小塩允護

【授業の概要】

専門演習Iaに引き続き、各担当者がそれぞれの専門分野の特性を生かし、教育諸分野に関連する個々の学生の興味関心の深化と学問的探求力の養成をめざす。各ゼミが独自に、授業を構成する。

【授業の目標】

専門演習I aに引き続き、知的障害等発達障害のある人の生涯学習支援について支援方策の在り方を探求する。

【授業計画】

各自が設定したテーマの関連文献から重要文献を選び、講読を進める中で研究テーマの明確化を行う。その後、研究テーマにふさわしい研究方法を検討し、研究デザインをレポートとしてまとめる。

また、前期の専門演習I aに引き続き、時間が許せば、実地調査を授業時間外で行う予定。

【評価方法】

個人レポート・研究発表と授業や集団討議への参加度による総合評価

【テキスト】

用いない。

【参考文献・資料】

授業の中で適宜紹介する。

専門演習 I b

楠元町子

【授業の概要】

専門演習Iaに引き続き、各担当者がそれぞれの専門分野の特性を生かし、教育諸分野に関連する個々の学生の興味関心の深化と学問的探求力の養成をめざす。各ゼミが独自に、授業を構成する。

【授業の目標】

異文化交流における問題を受講者各自が選び、ディベートすることにより、問題解決やコミュニケーション能力の向上を目指す。

【授業計画】

第1回は、受講者各自が異文化交流の現状や問題点、追求したい事柄について簡単に述べる。次回から受講者各自が選んだ異文化交流における問題についてレポートを発表し、その内容に基づいて受講者全員でディベートし、問題解決方法を考える。

【評価方法】

個人レポート・研究発表と授業や集団討議への参加度による総合評価

【テキスト】

テキストは使用しない。

【参考文献・資料】

随時必要な参考文献を紹介する。

専門演習 I b

小出隆司

【授業の概要】

専門演習Iaに引き続き、各担当者がそれぞれの専門分野の特性を生かし、教育諸分野に関連する個々の学生の興味関心の深化と学問的探求力の養成をめざす。各ゼミが独自に、授業を構成する。

【授業の目標】

地域探訪をして地域マップ（自然、人物、歴史・伝統、産業など）づくりをする。子どもの目線を視野に入れて、地域の諸条件を生かした生活科学の単元計画案をグループで創る。同時に具体的な素材をもとにして授業案作りをして集団批評する。

【授業計画】

専門演習Iaを基礎に引き続き生活科教育の実践力をつけるために、特色ある生活科教育実践校の理論と実践に学ぶ。また、並行して子ども研究と、生活科教材の開発研究を継続する。

- 1 グループ（個人）で選択し地域の、地域マップ（自然、人物、歴史・伝統、産業など）づくりをする。基礎になる資料収集活動をする。
- 2 それを基に、地域に根ざした生活科教育の年間指導計画・単元計画案づくりをする。
- 3 グループ（個人）で生活科学学習指導案をつくり検討する（集団批評）。
- 4 全員が授業研究（模擬授業）をして、授業分析、検討会をし実践力をつける。
- 5 淑菜園で、各自がテーマを持って栽培・飼育活動をする。
- 6 授業研究に取り組みながら、子ども研究と生活科の教材開発研究（具体的な教材作り）を進める。

【評価方法】

個人レポート・研究発表と授業や集団討議への参加度による総合評価

【テキスト】

テキストは使用しない。

【参考文献・資料】

必要に応じて適宜資料を配布し、参考文献を紹介する。

専門演習 I b

佐藤成哉

【授業の概要】

専門演習Iaに引き続き、各担当者がそれぞれの専門分野の特性を生かし、教育諸分野に関連する個々の学生の興味関心の深化と学問的探求力の養成をめざす。各ゼミが独自に、授業を構成する。

【授業の目標】

「教育実習」時の研究授業(実習生)や現場教師の研究授業時のビデオや資料等をもとに、小学校理科の授業を構築する上での教材の工夫や改善について演習する。

【授業計画】

専門演習 I a に引き続き、グループ単位で下記項目に関する調査・研究・発表を行い、指導案作成・模擬授業への連携を図る。

- (1) ビデオ教材（授業風景）を利用して
 - 現場教師や教育実習生の授業観察及び授業分析
 - ・指導案の比較検討
 - ・理科教材の工夫・改善
 - ・指導案作成
- (2) 教育雑誌「理科の教育」を利用して
 - 理科教育に関する新しい理論や理科教材に関する解説
- (3) 科学実験関連雑誌を利用して
 - おもしろ科学実験の教材化及びそれらを活用した指導案作成
- (4) 切り抜き速報「科学と環境版」[食と生活版]を利用して
 - 科学関連記事の教材化及びそれらを活用した指導案作成

【評価方法】

個人レポート・研究発表と授業や集団討議への参加度による総合評価

【テキスト】

小・中学校学習指導要領解説－理科編－ 文科省
小・中学校理科教科書及び教師用指導書 大日本図書

【参考文献・資料】

小学校学習指導要領解説－各自興味関心のある教科－ 文科省
理科の教育 日本理科教育学会
切り抜き速報・科学と環境版/食と生活版 ニホンミック
科学実験関連雑誌

専門演習 I b

佐藤実芳

【授業の概要】

専門演習Iaに引き続き、各担当者がそれぞれの専門分野の特性を生かし、教育諸分野に関連する個々の学生の興味関心の深化と学問的探求力の養成をめざす。各ゼミが独自に、授業を構成する。

【授業の目標】

主に就学前及び児童期の子どもたちに関わる様々な問題について、教育的な視点から理解を深めることにより、教育の役割について考察していく。

【授業計画】

1. 研究テーマについての交流
 - ・研究テーマの確認
 - ・研究テーマ追究に向けての取組計画の確認
2. 基本的な文献の購読
 - ・「専門演習 I a」に続き、就学前及び児童期の子どもたちにかかわる基本的な文献を購読し、その内容を整理して発表する。
 - ・発表に対して、相互に討議することにより、理解を深める。
3. 研究テーマに関する発表
 - ・研究テーマに関するこれまでの学習成果を、各自が発表する。
 - ・発表に対して、相互に討議することにより、研究テーマを再確認する。
4. まとめ

【評価方法】

個人レポート・研究発表と授業や集団討議への参加度による総合評価

【テキスト】

授業中に指示する。

【参考文献・資料】

授業の中で、必要に応じて紹介する。

専門演習 I b

富安玲子

【授業の概要】

専門演習Iaに引き続き、各担当者がそれぞれの専門分野の特性を生かし、教育諸分野に関連する個々の学生の興味関心の深化と学問的探求力の養成をめざす。各ゼミが独自に、授業を構成する。

【授業の目標】

専門演習Iaに引き続き、人間関係における働きかける側の影響のあり方を考え、マイクロカウンセリングの「積極技法」を中心に学んでいく。

【授業計画】

- 1 ロール・プレイの検討 (1)
- 2 ロール・プレイの検討 (2)
- 3 教育と積極技法の意味
- 4 基本的傾聴技法の連鎖
- 5 焦点のあて方技法
- 6 対決技法
- 7 指示技法
- 8 フィードバックと自己開示
- 9 論理的帰結
- 10 解釈/再構成
- 11 積極的要約と助言
- 12 技法の統合/面接の5段階 (1)
- 13 技法の統合/面接の5段階 (2)
- 14 ロール・プレイ～教師の姿勢～
- 15 人間関係とカウンセリング

【評価方法】

個人レポート・研究発表と授業や集団討議への参加度による総合評価

【テキスト】

アイビイ,A.E. (福原真知子他訳編) マイクロカウンセリング 川島書店

【参考文献・資料】

福原真知子監修 マイクロカウンセリング技法―事例場面から学ぶ― 風間書房
その他は、授業の中で紹介する

専門演習 I b

中嶋真弓

【授業の概要】

専門演習Iaに引き続き、各担当者がそれぞれの専門分野の特性を生かし、教育諸分野に関連する個々の学生の興味関心の深化と学問的探求力の養成をめざす。各ゼミが独自に、授業を構成する。

【授業の目標】

現行『小学校学習指導要領』の分析をもとに、実際の教科書教材にその分析を当てはめ、付けたい力・ねらい等を明らかにした学習指導課程の在り方を学修する。

【授業計画】

- 1 個人研究テーマについての交流
 - ・研究テーマの確認
 - ・研究テーマ追究に向けての取組計画見直し
- 2 個人研究テーマに関わる内容での学習指導案作成
 - ・教材研究
 - ・授業構想
 - ・学習指導案作成
 - ・学習指導案交流 質疑応答・討論・助言
 - ・学習指導案の見直し
- 3 模擬授業の実施
 - ・模擬授業
 - ・模擬授業の成果と課題
- 4 個人追究課題の交流
 - ・研究報告→質疑→討論→助言の形式で、研究テーマでの学びを発表する。

【評価方法】

個人レポート・研究発表と授業や集団討議への参加度による総合評価

【テキスト】

必要に応じて資料を配付する。

【参考文献・資料】

授業中に適宜紹介する。

専門演習 I b

中野靖彦

【授業の概要】

専門演習Iaに引き続き、各担当者がそれぞれの専門分野の特性を生かし、教育諸分野に関連する個々の学生の興味関心の深化と学問的探求力の養成をめざす。各ゼミが独自に、授業を構成する。

【授業の目標】

専門演習Iaに引き続き、教師、親の成長、地域の人々との関わりを通して、学校および社会での人間関係のあり方について探求を深める。

【授業計画】

- 第1～4回 子どもを取り巻く、学校・家庭・地域環境についてまとめる。
- 第5～7回 子どもの人間関係構築と学校・教師の役割について探求する。
- 第8～10回 子どもの心の成長と家庭と地域の役割について考える。
- 第11～13回 学校・家庭・地域の連携と学校支援についてまとめる。

【評価方法】

個人レポート・研究発表と授業や集団討議への参加度による総合評価

【テキスト】

授業中に指示する。

【参考文献・資料】

適時、参考文献や資料を提示する。

専門演習 I b

二宮 昭

【授業の概要】

専門演習Iaに引き続き、各担当者がそれぞれの専門分野の特性を生かし、教育諸分野に関連する個々の学生の興味関心の深化と学問的探求力の養成をめざす。各ゼミが独自に、授業を構成する。

【授業の目標】

各自が最も関心のあるテーマについて、それを研究として具体化するための研究方法を報告し、卒業研究のテーマと研究方法についての見直しをつける。

【授業計画】

1. 論文の講読
担当者がそれぞれ関心のある研究テーマに関する実践研究論文を報告し、それに基づいて討論を行う。
2. 研究方法の検討
障害児教育実践と結びつく研究に具体化するための方法について、各自の報告と討論を通して検討する。

【評価方法】

個人レポート・研究発表と授業や集団討議への参加度による総合評価

【テキスト】

使用しない。

【参考文献・資料】

適宜紹介する。

専門演習 I b

松田秀子

【授業の概要】

専門演習Iaに引き続き、各担当者がそれぞれの専門分野の特性を生かし、教育諸分野に関連する個々の学生の興味関心の深化と学問的探求力の養成をめざす。各ゼミが独自に、授業を構成する。

【授業の目標】

健康教育や体育科教育に関する基礎的な研究能力を基に、各自が選んだテーマについて調査・研究したものを発表・討議する。

【授業計画】

専門演習Iaで学んだことを基に、健康・運動あそび・体育・スポーツをキーワードとした下記の内容について、各自のテーマを設定し研究する。

1. 関連する文献の研究
2. 研究方法の検討
3. 教材研究を通しての模擬授業

【評価方法】

個人レポート・研究発表と授業や集団討議への参加度による総合評価

【テキスト】

小学校学習指導要領解説―体育編― 文部科学省

【参考文献・資料】

日本子ども資料年鑑
新・日本人の体力標準値 不昧堂出版
体育・スポーツ系大学生のための論文・レポートの書き方

専門演習 I b

渡辺かよ子

【授業の概要】

専門演習Iaに引き続き、各担当者がそれぞれの専門分野の特性を生かし、教育諸分野に関連する個々の学生の興味関心の深化と学問的探求力の養成をめざす。各ゼミが独自に、授業を構成する。

【授業の目標】

教育問題および教育学に関する内外の基本文献を講読しつつ、研究方法論の基礎的理解、ならびに生涯発達支援と教育への問題関心の深化を図る。

【授業計画】

1. 共通基礎文献の講読
2. 研究方法論の各自の研究テーマへの適用と検討
3. 各自の関心テーマに関する発表と検討
4. 各自の関心テーマを生涯発達支援の視点から検討総括

【評価方法】

個人レポート・研究発表と授業や集団討議への参加度による総合評価

【テキスト】

使用しない

【参考文献・資料】

その都度、指示する。

ポルトガル語 I

瀧藤千恵美

【授業の概要】

近年、この東海地区には多くの日系ブラジル人が在住し、ポルトガル語の需要は、特に教育現場においてもますます高いものとなっている。本授業ではテキストや練習問題を用いて、会話をする上で必要最低限の文法を学び、簡単なコミュニケーションがとれる能力をつけることを目的とする。またポルトガル語の学習を通じてブラジルの文化や社会などの理解を深めることも目標とする。

【授業の目標】

ブラジル・ポルトガル語のコミュニケーションに最低限必要な基礎文法事項を学びましょう。また会話の手助けとなるブラジル文化や社会の知識も身に付けていきましょう。

【授業計画】

- 第1回. プレゼンテーション
- 第2回. あいさつ、文字と発音
- 第3回. ser動詞、疑問文と否定文
- 第4回. 名詞の性数
- 第5回. 指示詞と所有詞
- 第6回. ter動詞、数字
- 第7回. 形容詞、冠詞
- 第8回. estar動詞
- 第9回. 今までの復習
- 第10回. 規則動詞
- 第11回. 規則動詞
- 第12回. ir動詞
- 第13回. 疑問詞
- 第14回. 今までの復習
- 第15回. 定期試験

【評価方法】

定期試験や小テスト、平常点（出席や宿題）の評価により総合判断する。

【テキスト】

ニューエクスプレス ブラジルポルトガル語（香川正子著 白水社）

【参考文献・資料】

ポ和辞書 どんなものでもよいが、オススメは
現代ポルトガル語辞典（池上岑夫他編 白水社）

ポルトガル語 II

瀧藤千恵美

【授業の概要】

本授業は、「ポルトガル語I」に引き続き、日常会話に必要な基本的文法事項を身に付けていく。十分な練習問題を織り交ぜながら、受講者のレベルに対応して順次ステップアップし、「聞く・話す・読む・書く」という総合的運用力を付けて、基礎的な会話力を強めていくことを目標とする。また受講者の関心に応じて、ブラジルについての知識を広げていきたい。

【授業の目標】

ポルトガル語の基礎文法をさらに身に付け、学校教育で使うような単語や用語などを覚えていく。またブラジルの社会や文化に関する知識も増やしていく。

【授業計画】

- 第1回 ポルトガル語 I で学んだ内容の復習
- 第2回 querer動詞、preferir動詞、曜日
- 第3回 poder動詞
- 第4回 現在進行形
- 第5回 再起動詞、時間表現
- 第6回 完全過去形
- 第7回 完全過去形
- 第8回 比較級
- 第9回 不完全過去形
- 第10回 関係代名詞
- 第11回 目的語
- 第12回 現在完了
- 第13回 受動態
- 第14回 今までの復習
- 第15回 定期試験

【評価方法】

定期試験と小テスト、平常点（出席や宿題、授業態度）などから総合的に判断して評価。

【テキスト】

ニューエクスプレス ブラジル・ポルトガル語（香川正子著 白水社）

【参考文献・資料】

ポ和辞典を必ず用意すること！！

環境教育

坂部孝夫

【授業の概要】

新しい学習指導要領の重要な領域のひとつに「総合的な学習の時間」が登場し、そのなかで、重要な取り組みに「環境問題」があげられている。地球の温暖化、オゾン層の破壊、熱帯雨林の減少などの地球的規模の環境問題のみならず、生活様式の変化に伴うゴミの増加、水質汚染、大気汚染などの都市・生活型公害問題について、行政官の経験を生かして実地調査を含めた研究をする。またビオトープの形成などについても学ばせたい。

【授業の目標】

学生諸君が地球環境問題から身近な環境問題まで、広く、かつ正しく理解し、子どもたちにその大切さを簡単な身近にある機材を用いて教える能力を養う。

【授業計画】

- 地球規模の環境問題から身近な環境問題までをパワーポイントやビデオなどを使い、ビジュアルに紹介します。その上で、将来を背負う子供たちに、この環境問題をどのように教えていくかを学びます。さらに学生諸君が環境を保護し、自然と共生する重要性を認識し、恵み豊かな環境を次世代の人々へ継承していく必要性を学びます。さらに愛知県環境調査センターまたはモリコロパークの森の学び舎の視察見学を6月ごろの土曜日に実施予定しています。
- 授業内容は大きく分けて以下の4分野と実地調査ですが、4分野では極力画像を用いた授業とします。
 - ①環境問題の歴史を学び、環境問題の光と影を確認します。
 - ②環境問題の現状を学びます。(地球温暖化問題、大気、水環境課題、廃棄物リサイクル問題、砂漠化・森林の劣化・酸性雨問題、自然の保・保全・創造の問題)
 - ③環境問題への取組を学びます。(国の政策、企業の努力、市民活動など)
 - ④環境教育手法の課題と今後の展望を学びます。
 - ⑤愛知県の環境教育を実施している施設である、愛知県環境調査センター、または、モリコロパーク内の森の学び舎を視察します。

【評価方法】

小論文の提出をほぼ毎授業中に実施し、評価結果をお返しします。最後に事前に試験問題をお知らせした論文試験を行います(試験当日、ノート、参考書など持ち込み自由とします)。また、出席日数(小論文提出回数)は大きく評価します。

【テキスト】

授業中に必要な資料を配布します。

【参考文献・資料】

授業中に適宜紹介します。

幼児教育論

佐藤実芳

【授業の概要】

乳幼児期は、人間形成の基礎が培われる大切な時期である。乳幼児を取り巻く環境は、少子化、核家族化、都市化などの影響を受け、近年、乳幼児の教育や保育のあり方が多様化している。小学校に入学してくる子どもたちを理解するために、幼児教育・保育の基本的な考え方に加え、幼保一元化の問題、早期教育、幼稚園と小学校との連携など、その現状と課題について学習する。

【授業の目標】

乳幼児についての理解を深めるとともに、幼児教育や保育の現状及びそれぞれが直面している課題等についての知識を広め、児童の理解へと結びつける。

【授業計画】

- 子どもの誕生と教育
 - (1)子どもの誕生と教育の必要性
 - (2)遺伝と環境
 - (3)発達段階
- 家庭での教育 - その役割と課題-
- 幼児教育施設及び保育施設 - その特性と課題-
 - (1)幼稚園 (2)保育所 (3)認定「子ども園」(4)認可外施設
- 幼保一元化
- 幼稚園と小学校との連携
- 早期教育

【評価方法】

出席状況 10% 学習態度 40% 課題の提出 50%

【テキスト】

資料を配布する。

【参考文献・資料】

授業の中で、必要に応じて紹介する。

性の健康

木全和巳

【授業の概要】

小学校では、無邪気に触れ合う低学年から、初経・精通を経験し、異性を意識し始める高学年まで、心と身体がめまぐるしく成長、発達する時期を過ごす。現代社会は、男女が本質的に平等であること性の健康は権利であることを確認し、子どもたちが、自己肯定感を育みながら、自らがこととからだの主人公として成長することを期待している。この講義では、性の健康の理念、子どもの現状、性の発達、具体的な授業実践について学ぶ。

【授業の目標】

- ① 現代の日本社会における学齢期の子どもの性を中心としたところとからだの成長・発達について理解すること
- ② 性の健康及び性の健康の権利という理念とこの理念の実現のための性の学習への権利について理解すること
- ③ こうした性の学習を具体化した教育実践について理解し、授業づくりができるようになること

【授業計画】

この講義では、現場の教師たちやスクールカウンセラーにも協力をいただき、オムニバス方式で行う。また、講義にも、実際の模擬授業を取り入れる。この時には小学生になったつもりで参加してほしい。

- ① ガイダンス 講義の内容と進め方 と テーマ解説
- ② 低学年における性の健康教育の授業 (1) 女の子・男の子のからだ
- ③ 低学年における性の健康教育の授業 (2) うまれるよ
- ④ 学校教育における性の健康教育の位置づけと体系
- ⑤ 中学年における性の健康教育の授業 (1) おとなになりゆくからだところ
- ⑥ 中学年における性の健康教育の授業 (2) おとなになりゆくからだところ
- ⑦ 高学年における性の健康教育の授業 (1) 人を「好き」になるってどんなこと
- ⑧ 現代社会と子どもたち
- ⑨ 高学年における性の健康教育の授業 (2) いろいろな家族・いろいろな生き方
- ⑩ 高学年における性の健康教育の授業 (3) いのちのつながり
- ⑪ 性虐待・性暴力の対応と相談 養護教諭や児童相談所や保健所、医療機関との連携
- ⑫ 障害のある子どもと「性の教育」
- ⑬ 学校教育における性の健康教育の歴史と問題点
- ⑭ まとめ 小学校における性の健康教育実践の課題
- ⑮ 評価 (授業案の発表)

【評価方法】

出席 (毎回の授業の感想文) 30%
期末レポート① (指導案の作成と発表) 30%
② (授業の感想レポート) 40%

【テキスト】

私製のテキストを第1回目に販売します。1000円の予定です。

【参考文献・資料】

人間と性の教育 全6巻 (“人間と性”教育研究協議会編 大月書店2006年)

スポーツ指導法

蛭田秀一

【授業の概要】

スポーツがすべての人にとってより健康で充実した生活をおくる上で必要不可欠な活動になっている現在、スポーツ指導者には、対象者の特徴(例:年齢、性別、体力、運動経験など)や個性に応じた指導が強く要請されている。この授業では、スポーツ指導に必要な視点・知識・方法などの基礎的要件の学習に加え、受講生間での指導シミュレーションを実施することによって、対象者の特徴や個性の違いに柔軟に対応できるスポーツ指導するにはどのようにしたらよいかを考えていく。

【授業の目標】

- 1) 適切な動作を可能にする身体の構造と機能、および運動やスポーツ動作に関する科学的知識について理解を深める。
- 2) 身体運動について適切な表現で記述・伝達できる。
- 3) スポーツ種目の特性を考慮しながら、学習者の属性や特徴の違いに応じた指導内容を計画・実施・改善できる。

【授業計画】

教室における講義形式と運動施設での実習形式を併用して授業を進める。

講義内容:
・身体の構造と機能
・運動の分類
・スポーツの多様性と特異性
・動作分析
・運動学習
実習内容:
・スポーツにおける「できる」「できない」
・自分を指導してみる
・相手を指導する
・指導上の工夫

【評価方法】

授業参加状況70% (討論、成果物を含む)、レポート30%。

【テキスト】

授業において配布する。

【参考文献・資料】

自分が指導可能と思われるスポーツ種目の指導書。または、自分が指導か学習かしてみたいスポーツ種目の入門書。授業初日に持参すること。

教育と調査・統計

小川一美

【授業の概要】

これからの教師に特に求められる資質の1つが、児童や教育のあり方についての適切な理解力である。また、信頼される学校づくりのためには、地域や保護者の意見や状況などを把握することも必要になる。様々な情報が飛び交う中、適切にデータを収集し、そして得られたデータを適切に読み解くことは決して容易なことではない。本授業のねらいは、実際にデータ収集などを行いながらこうした力を養うことである。

【授業の目標】

情報やデータを適切に読み解く力や収集する力、さらには批判的思考力を身につける。

【授業計画】

大きく分けて以下の3つのテーマに沿って授業を行うが、それぞれに複数時間をあてることになる。

1. クリティカルな思考とは
クリティカルな思考とはどういうものか、人が犯しやすい誤った判断とはどういうものかについて、複数のトピックスに基づき講義を行う。
2. 調査法とは
データ収集の1つの手法である調査法について学習する。
3. データ収集
調査法を用いたデータ収集の練習を行う。
4. 発表会
収集したデータについて発表会を行う。

【評価方法】

授業への参加態度およびレポートにより、総合的に評価する。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献・資料】

授業時に適宜紹介する。

ジェンダーと教育

國信潤子

【授業の概要】

ジェンダーの概念について正確に理解し、教育・生育過程で形成される固定的ジェンダー：性別役割分業とはどのようなものかを検討する。また、その社会的影響について考える。さらに「隠れたカリキュラム」として指摘される学校生活のなかの定型的性別役割分担についても事例的に考察する。講義、学生間のグループ討議、視聴覚教材による講座である。

【授業の目標】

教育をジェンダー（社会・文化的性）視点で見直すことが主要な目的である。初等、中等教育の教材にみられるジェンダーを事例的に検討する。さらに教科書以外にも教育職にある人のもつジェンダーにかかわる規範意識が生徒にどのような影響を与えるかについても事例的に紹介する。教育職にある人がジェンダーに敏感であることによって学校生活全般が生徒に、従来とは異なる影響を与えることを理解する。

【授業計画】

下記の各項目について各2回ずつほどで講義、討議などによって進める。

- 1) 教育にみるジェンダーとは：生育過程にみるジェンダー形成
- 2) ジェンダー概念の理解とその歴史的展開
- 3) 初等、中等教育にみられるジェンダー
- 4) 通念としてあるジェンダー視点の教育現場への影響
- 5) 視聴覚教材等による隠れたカリキュラムの理解
- 6) 討議：ジェンダーの将来展望

中間テスト、期末小論文試験がある。

【評価方法】

履修態度、毎回授業後のミニ・レポート、グループ討議参加度、中間テスト、期末小論文試験などの総合評価による。

【テキスト】

特になし。

【参考文献・資料】

授業時に随時配布する。
参考文献も随時提示する。

児童福祉論

谷口純世

【授業の概要】

「児童福祉論」では、子育て支援や、児童虐待・DV（ドメスティック・バイオレンス）・養育者や子ども自身の心身の障害など、さまざまな子どもや家庭の課題への援助を行っている。教育現場では、このような子どもや家庭のニーズに出会うことも多い。このため、現在の子どもや家庭をとりまく課題や、それに対する福祉施策、法律、援助手法などを学び、教育と福祉が支援を共に行うためにはどのような連携手段があるのかについて、事例も交えて学ぶ。

【授業の目標】

現代の子どもと家庭をとりまく問題・課題に対する、教育・福祉の連携した支援のあり方について学びを深めること。

【授業計画】

- 1～2 子ども家庭福祉とは
- 3～4 現代の子どもと家庭をとりまく課題とは
- 5～6 子どもと家庭を支える福祉機関
- 7～8 子どもと家庭を支える福祉施設
- 9～10 子どもと家庭を支える人々
- 11～12 子ども家庭福祉における教育・福祉の連携
- 13～14 事例
- 15 テスト

【評価方法】

出席・受講態度・テストの総合評価とする。

【テキスト】

講義内で紹介する。

【参考文献・資料】

参考文献は講義内で紹介する。
資料は適宜配布する。

リーダーシップ論

加藤尚子

【授業の概要】

リーダーシップ論という科目では組織における人間行動の理解を深めることが目的となる。私たちが組織で働くとき、私たちはどのような場合にどのような反応をし、どのような行動をするのだろうか。マネジメントする側にたったとすれば、どのようにしたら働く側から望む行動を引き出せるのだろうか。講義及びケースディスカッションを行いながらこれらについて理解を深めていく。

【授業の目標】

組織目標を達成するためには、個人一人ひとりの力だけではなく、複数の人々の協働が求められる。組織で働く人々はその中で人間関係に影響を及ぼす存在であるとともに、そこから影響を受ける存在でもある。私たちが組織で働くとき、私たちはどんな場合にどのような反応をし、どのような行動をするのだろうか。人を率いていく側にたったとすれば、どのようにしたらメンバーから望む行動を引き出せるのだろうか。本科目では上記の視点を持つことを目的とし、リーダーシップについての講義形式の授業を行う。また第12回からは思考過程の訓練を目的とした授業を取り入れる。具体的には実際の出来事を書かれた教材（ケース）を使用しながら、自分がその当事者であったとすればどのような意思決定をするのかディスカッション形式の授業を行う。

【授業計画】

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 特性理論
- 第3回 行動理論 (1)
- 第4回 行動理論 (2)
- 第5回 リーダーシップのコンティンジェンシー理論 (1)
- 第6回 リーダーシップのコンティンジェンシー理論 (2)
- 第7回 複数で行う場合のコミュニケーション (1)
- 第8回 複数で行う場合のコミュニケーション (2)
- 第9回 複数で行う場合のコミュニケーション (3)
- 第10回 今日的に求められるリーダーシップ (1)
- 第11回 今日的に求められるリーダーシップ (2)
- 第12回 ケースディスカッション (1)
- 第13回 ケースディスカッション (2)
- 第14回 ケースディスカッション (3)
- 第15回 まとめ

【評価方法】

出席点及び定期試験の成績による評価を行う。出席点とはクラスにおける発言、提出物等をさす。

【テキスト】

必要に応じプリントを配布する。

【参考文献・資料】

開講時に指示。

キャリア発達論

武田圭太

【授業の概要】

働くことに焦点を合わせ、経営組織の構成員として、職場集団のなかで与えられた職務を遂行しながら、加齢とともに人が発達・成長・社会化・個性化していく過程について学ぶ。具体的には、職業興味、職業選択、キャリア展望、組織社会化、職務満足、仕事の動機づけ、組織コミットメントなど、キャリアの生涯発達に関する主題を取り上げて、共働き夫婦の仕事と家庭との調和をはじめ、職業生活にかかわる身近な問題について考える。

【授業の目標】

キャリアを創造するための基本的な考え方を理解することが目標である。

【授業計画】

- 第1回 キャリア発達の学説
- 第2回 キャリア展望
- 第3回 組織社会化
- 第4回 職業興味
- 第5回 職業選択
- 第6回 組織コミットメント
- 第7回 仕事の動機づけ
- 第8回 現実ショックへの対処
- 第9回 フリーターと早期離・転職
- 第10回 職務満足
- 第11回 女性が働く現状
- 第12回 共働き夫婦のキャリア
- 第13回 仕事と家庭との調和 (1)
- 第14回 仕事と家庭との調和 (2)
- 第15回 まとめ：キャリア発達初期の課題

【評価方法】

①随時行う小テスト (40%) と②学期末の課題レポート (60%) で評価する。

【テキスト】

テキストは特に指定しない。

【参考文献・資料】

ライフサイクルの心理学 (上) (下) (D. J. レヴィンソン著 講談社)
 キャリア・ダイナミクス (E. H. シャイン著 白桃書房)
 「選職社会」転機を活かせ (N. K. シュロスバーク著 日本マンパワー出版)

090102505_0510 掲載順:0510

MASTER ★

人権と教育

小出隆司

【授業の概要】

ここでは、子どもの人権と子供たちの発達障害 (ライフ・ハザード) について学ぶ。同時に発達障害からの脱却を生活科学学習の領域で考えてみる。教師の知性と体験を豊かにすることが子どもたちの人間としての豊かさを培う重要な要素となる。そのために、視野を国の内外に広げて学習し、現場見学、実体験 (栽培・飼育・制作)、表現活動 (音楽・劇・図工工作・体育) など五感を豊にする実習的学習を条件の許す範囲で多く取り入れていきたい。

【授業の目標】

子どもの人権についての基本的な学習と子どもたちの発達障害の現実とそこから脱却について幼・小の子どもの立場から考察する。子どもについての複眼的思考ができるように実践的な活動を通して学びあう。

【授業計画】

- 1 日本国憲法と子どもの権利条約について
- 2 世界各地の子どもたち人権についてー ちがいを共に生きるとはー (国連ユニセフの『世界子ども白書』を読む)
- 3 子どもたちの遊びや生活の特徴について (日本子どもを守る会『子ども白書』)
- 4 放課後の子どもたち (学習塾・各種クラブ・学童保育)
- 5 子どもたちにとって文化とは何か。(子どもたちを取り巻く文化的状況の現状)
- 6 子どもの発達障害 (ライフ・ファザード) の現実と脱却を考察
- 7 子ども権利条約と障害者支援の現実 (障害者の声)
- 8 グループごとにテーマを設定、調査活動をしてまとめ、発表・討論

* 講義と課題の設定、調査・まとめ・発表・討論を基本にして学習を進める。

【評価方法】

授業への参加態度、課題レポートなど提出物、発表内容、学習カードの記述内容などの評価を基に総合的に評定する。

【テキスト】

プリント資料を配布。

【参考文献・資料】

『人権教育と人権啓発』文科省・法務省
 講義時に著書・論文紹介をする。

生涯学習実践論

黒澤ひとみ

【授業の概要】

生涯学習社会の到来と言われて久しいが、その意味するところは何なのだろうか。さらに、人間の一生にとって「学び」はどのような意味があるのだろうか。学習権は基本的人権の一つであるという国際社会の認識に立脚しつつ、人間が人間らしく生きていくための「学び」のあり方について、社会教育、生涯学習に関する実践記録を読みながら考えていく。

【授業の目標】

- ・「学校」という枠だけではとらえきれない社会における様々な「学び」の記録や、学習活動を通して成長していく人々の姿を知ることを通して、人間にとって「学び」の重要性を理解していく。
- ・上記の理解を深めるため、教育学に関する基本的知識を習得する。

【授業計画】

- オリエンテーション
- ・学校教育と生涯学習はどのような関係なのか
- 1、一人ひとりが発達の主人公になるために
 - ・人間の発達にとって「指導」とは
 - ・保育、子育てを通した大人の学びとは (『NHKスペシャル 裸で育て君らしくー大阪・アトム共同保育所』)
 - 2、「生活」と「教育」の結びつきを重視した教育のあり方について
 - ・生活綴方の教育方法とその歴史
 - ・社会教育における生活記録の取り組み (映画「フリーダム・ライターズ」「こんばんは」など)
 - 3、「教育」と「福祉」の谷間に生じた教育福祉問題について
 - ・教育福祉問題とその歴史
 - ・国連子どもの権利条約とユネスコ学習権宣言 (映画「ランドセルゆれて」など)

【評価方法】

出席10%、レポート40%、試験50%

【テキスト】

適宜、授業中に資料を配布します。

【参考文献・資料】

適宜、授業中に紹介、配布します。

090102505_0520 掲載順:0520

MASTER ★

教育文化史

渡辺かよ子

【授業の概要】

日本を含む東洋ならびに西洋における各時代の教育思想ならびに教育文化史を学ぶ。具体的な子どもの生活と社会背景の変遷に着目しつつ、各国・各文化圏における学校や大学等の教育諸制度の確立過程とその思想史的背景について比較教育的に明らかにしていく。これらを通じ、人間形成としての教養の問題の歴史性と国際性、今日の教育文化の特徴に関する知見を養うことをめざす。

【授業の目標】

世界の各地域、各時代の教育制度、教育思想、教育文化の概要を理解する。

【授業計画】

- 1 古代の教育文化と子どもの生活 (世界と日本)
- 2 中世の教育文化と子どもの生活 (世界と日本)
- 3 近代の教育文化と子どもの生活 (各国の教育の近代化)
- 4 20世紀の教育文化と子どもの生活 (各国の教育状況)

【評価方法】

授業内小レポート、レポート、書評の総合評価。

【テキスト】

(新版) 子どもの教育の歴史 (江藤恭二他編 名古屋大学出版会)

【参考文献・資料】

文学でつづる教育史 (伊ヶ崎暁生著 民衆社)
 日本子ども史 (森山茂樹・中江和恵著 平凡社)
 歴史の中の子どもたち (森良和著 学文社)

比較教育論

渡辺かよ子

【授業の概要】

進展する国際化・情報化の中であって、人間は次世代にどのような夢や願いを託すことができるのか。教育は自らが社会問題であると共に、貧困や不平等などの社会問題に対する有力な解決方策でもある。本講義では、日本を含む各国の教育と全世界的教育の状況の比較研究を通じて、日本の教育の特徴と現代教育の課題を明らかにしていく。

【授業の目標】

国ごとに異なる教育制度と教育事情に関する理解を通じて、自らの教育経験を相対化しつつ、教育事象の普遍性と特殊性に関する諸理論を習得する。

【授業計画】

1. 国際化と比較・国際教育学
2. 比較教育学の方法
3. 社会発展論と教育
4. 各国の教育制度と子どもの生活
5. 世界の教育改革

【評価方法】

授業内小レポート、レポート、書評の総合評価。

【テキスト】

比較教育学の基礎（田中圭治郎編著 ナカニシヤ出版）

【参考文献・資料】

比較教育学（マーク・ブレイ編著 馬越敏・大塚豊監訳 東信堂）

国際理解教育論

渡辺かよ子

【授業の概要】

現代社会において国際理解による異文化や異なる価値への寛容精神の養成は、地球的規模での共生と平和の実現に必要な不可欠のものとなっている。本講義では、日本の近代化の過程における「先進」諸国の文明導入、国際的経済格差の現状と問題、現代日本の国際化の現状と問題、いわゆる帰国子女・海外日本人教育の現状、留学・留学生の支援等から、開発教育と連動した行動的な国際理解教育を学んでいく。

【授業の目標】

今日の教育の国際化と異文化、国際的教育格差の問題現状を理解すると共に、その克服の手立てを理論的実践的に学ぶ。

【授業計画】

1. 国際理解教育の課題
2. 日本の近代化と国際化
3. 各国の国際化と教育における多文化主義
4. 海外子女教育と帰国子女教育
5. 外国人の子どもの教育
6. 異文化理解の課題

【評価方法】

授業内小レポート、レポート、書評の総合評価。

【テキスト】

国際理解教育（佐藤郡衛著 明石書店）

【参考文献・資料】

異文化理解の倫理にむけて（稲賀繁美編 名古屋大学出版会）
国際教育開発論（黒田一雄・横関祐見子編 有斐閣）

生涯発達支援論

渡辺かよ子

【授業の概要】

現代社会は、情報化、高齢化、生命・健康、環境などの分野において様々な問題に直面している。このような状況下において、人々が主体的に生活していくためには学校教育で身につけた学力を基礎として、広く社会において学び続けることが大切である。本講義では、学校教育と関連した生涯発達支援としての生涯学習の原理、実践等について具体的な事例をもとに考察する。

【授業の目標】

生涯学習の理念とその意義を理解し、生涯にわたり主体的に学び続ける意欲と関心を喚起する。

【授業計画】

1. 生涯学習の定義と理念
2. 生涯学習と家庭教育・学校教育・社会教育
3. 人間の成長発達と生涯学習
4. 生涯発達と経験、エイジング
5. 生きがいと自己実現
6. 成人の学習の特性とその支援
7. 生涯学習の世界的動向
8. 人権としての生涯学習

【評価方法】

授業内小レポート、レポート、書評の総合評価

【テキスト】

生涯学習と自己実現（麻生誠・堀薫夫著 放送大学教育振興会）

【参考文献・資料】

生涯学習論（山本恒夫・浅井経子・渋谷英章編著 文憲堂）
生涯学習を学ぶ人のために（赤尾勝己編 世界思想社）
現代社会教育学（佐藤一子著 東洋館出版社）

初等国語

中嶋真弓

【授業の概要】

初等国語科の内容に相当する教科として、文学作品や新聞等の文章を取り上げ、それらに関する考察を試みることを通じて、「読むこと」「書くこと」について実践的な力を身につける。また国語科書写への理解を深めるため、日常生活への書写の取り入れにも留意しながら、プレゼンテーションやパネルディスカッションといった多様な方法での自己表現を通して、ものの見方や考え方を鍛えていく学修を行う。

【授業の目標】

小学校国語科の目的・内容について学んだり、国語科教育の教材研究や指導法について考察したりすることを通して、国語科指導者としての基礎的な知識や技能を身に付ける。また、小学校書写の指導法について、必要に応じて実技実習を行いながら基礎を学ぶ。

【授業計画】

- 1 国語科教育の意義と課題
- 2 物語文教材の教材研究とその指導法
- 3 物語文教材の単元構想と教材開発
- 4 物語文教材における学習プリント・教具の工夫
- 5 「書くこと」の教材における教材研究とその指導法
- 6 「書くこと」の言語活動に向けての取組
- 7 「書くこと」の言語活動（論理的文章を書こう）の実施
- 8 「話すこと・聞くこと」の教材における教材研究とその指導法
- 9 「話すこと・聞くこと」の言語活動に向けての取組
- 10 「話すこと・聞くこと」の言語活動（パネルディスカッション）の実施
- 11 楽しさを実感させる言語事項の指導
- 12 書写の授業
- 13 6年間を見通した書写指導の在り方

【評価方法】

授業への出席状況・受講態度と意欲・授業内容に応じた課題の提出・期末試験により、総合的に評価する。

【テキスト】

必要に応じて資料を配布する。

【参考文献・資料】

授業の中で、適宜紹介する。

初等社会

楠元町子

【授業の概要】

初等社会科の内容に相当する教科として、初等社会科の歴史、目的、内容、方法に関する基礎的教養を培うと共に、各種ディベートの解説と実践を行い、論理的思考力、情報収集選択技術、コミュニケーション能力の向上を目指す。受講者の社会問題への関心の深化とディベート技術の向上に加え、児童生徒の発達段階に即した論題の作成方法、ディベートの進め方の学習を通して、ディベート指導者の育成も図りたい。

【授業の目標】

初等社会科の学習内容を理解するとともに、児童生徒の批判的思考力とコミュニケーション能力向上のために、授業の中でディベートの試合が実践できる技術と指導方法を身につける。

【授業計画】

- 1 社会科誕生の背景と社会科教育の目標
- 2 社会科授業とディベート
- 3 ディベート概説
- 4 論題の作成方法と紙上ディベート
- 5 ラベリング・ナンバリングの意義と方法
- 6 立論の作成と反駁の準備
- 7 簡易ディベートの実践（三角ディベート）
- 8 審査方法とフローシートの取り方
- 9 ディベート実践①：ディベートの試合
- 10 ディベート実践②：ディベートの試合
- 11 ディベートの課題とパネル・ディベート
- 12 ディベート実践③：パネル・ディベートの試合
- 13 ディベート実践④：パネル・ディベートの試合

【評価方法】

出席状況、ディベートの参加状況、レポートを総合的に評価する。

【テキスト】

テキストは使用しない。毎時プリントを配付する。

【参考文献・資料】

随時必要な参考文献を紹介する。

初等理科

佐藤成哉

【授業の概要】

小学校理科に必要な物理・化学・生物・地学各領域における基礎的概念、知識を習得し、自然科学現象理解の深化を図る。また基礎的実験技術・操作の習得を通して、科学の不思議を体験するとともに、科学に楽しみ、科学を人に伝える喜びも体感できる「科楽」の構築をめざす。

【授業の目標】

科学の不思議を体験したり、人に伝える経験を通して、理科を魅力的なものにする手法が考案できるようにする。

【授業計画】

- 1 小学校学習指導要領（理科）
- 2 教科理科の教育課程－小学校～高等学校の理科を系統的に－
- 3 小学校理科
 - 物理領域－力学、電磁気学、熱－
 - 化学領域－実験器具、水溶液、気体－
 - 生物領域－植物、動物－
 - 地学領域－地球、気象、天体－
- 4 子どもの学びの姿
- 5 もの作りとおもしろ実験－身近な素材を使った教材作り－

講義には、ビデオ視聴による授業観察や模擬授業、実験等を含む。

【評価方法】

出席状況や履修・発表態度、レポート等によって総合的に評価する。

【テキスト】

小学校学習指導要領（文部科学省）
小学校学習指導要領解説 理科編（文部科学省）
小・中学校理科教科書及び教師用指導書（大日本図書）
資料などは適宜配布する。

【参考文献・資料】

授業中に適宜紹介する。

初等算数

石黒昭吉

【授業の概要】

算数教材の数学的背景や相互関係を解説し、教材に関する理解を深める。できる限り具体的内容、教材例を取り上げることにより講義を進め、「数学的なものの見方・考え方」について考察する。また身近に存在する物事・現象に隠されている数学的考え方に着目しつつ、具体的な問題の提示をその解決の過程を通じて明らかにすることで、教師としての算数・数学的思考力の開発、充実を図る。

【授業の目標】

小学校算数の目標、教材に関する理解を深めることで、将来算数教育に携わる際にその有用性、おもしろさについて認識できることを目標とする。

【授業計画】

- 1 オリエンテーション・日常生活と算数
- 2 学習指導要領の読み方
- 3 小学校算数の学習内容の概観
算数教育のねらい
 - (1) 「数と計算」領域 1
 - (2) 「数と計算」領域 2
 - (3) 「量と測定」領域 1
 - (4) 「量と測定」領域 2
 - (5) 「図形」領域 1
 - (6) 「図形」領域 2
 - (7) 「数量関係」領域 1
 - (8) 「数量関係」領域 2
- 4 まとめ

【評価方法】

積極的な授業参加、レポート、発表、試験等によって総合的に評価する。

【テキスト】

小学校学習指導要領（文部科学省） 指導要領解説・算数編（文部科学省）

【参考文献・資料】

随時紹介する。

初等生活

小出隆司

【授業の概要】

初等生活科の内容に相当する教科として、小学校の教育内容に生活科が導入された経緯とその背景、構成理論、具体的内容およびその実践内容を講義し、実践体験を通して、生活科の理解を図る。生活科を低学年の子どもたちの成長にどう生かすか、価値ある学習展開をするための実践的視点を学ぶ。

【授業の目標】

生活科とは、どのような教科であるかを理解し、子どもの成長・発達にどのように関わることができるかを多角的に考察する。生活科の実践をすすめるための基礎理論を培う。

【授業計画】

- 1 生活科の創設までの経緯
- 2 小学校低学年の社会認識・自然認識・生活認識の特徴
- 3 生活科の目標
- 4 生活科の内容
- 5 生活科の内容構成と視点と内容についての分析と提言
- 6 生活科と児童の生活空間である地域の捉え方と視点
- 7 地域の生活地図づくり（人間・自然・商店・公共施設・神社・寺院・史跡など）
- 8 生活科の授業実践事例紹介と検討・教訓と課題
- 9 模倣授業（実践された授業をもとに）
- 10 生活科と表現活動（発表・身体・図工・音楽など）
- 11 生活科と絵本の世界
- 12 生活科と「総合学習の時間」との関連
- 13 生活科の評価と教師の役割
- 14 課題図書感想発表（書名は講義時に明示）
- 15 適宜菜園づくり

【評価方法】

毎時間の学習カード、課題図書（書名は講義時に明示）の感想文、期末レポート、出席状況などを基に総合評価する。

【テキスト】

使用しない（プリント配布）。

【参考文献・資料】

『小学校学習指導要領』（文部科学省）

初等音楽

浅田まり子

【授業の概要】

初等教員に必要な基礎的音楽教養を身につけるために、音楽に関する基礎知識と、音楽の実技能力を養成するためにピアノ演習を中心に学ぶ。また音楽療法について、実践を通じて学ぶ。

【授業の目標】

音楽基礎理論を活用しながら、教師として必要な音楽実技の発表能力を育成することを目標とする。

【授業計画】

- 第1回 音楽科の目標と内容
- 第2回 弾き歌いトレーニング
- 第3回 子どもの成長と音楽学習計画
- 第4回 楽典解説と問題
- 第5回 鑑賞教材指導
- 第6回 ことばと歌のヴォイストレーニング
- 第7回 歌唱と指揮指導
- 第8回 合唱指導
- 第9回 リコーダー指導
- 第10回 器楽指導
- 第11回 合奏指導
- 第12回 即興演奏と音楽療法
- 第13回 音楽教育の歩み
- 第14回～第15回 実技の総合発表

【評価方法】

出席状況・授業態度・関心度・提出物・歌唱技能・楽器技能・音楽理論創作（各10%）・弾き歌い演奏技能（20%）

【テキスト】

初等科教育音楽法 音楽の友社
歌はともだち 教育芸術社
小学校学習指導要領解説 音楽編

【参考文献・資料】

音楽理論

初等図画工作

大久保義男

【授業の概要】

児童の発達段階に即した指導を行うための造形表現を習得する。小学校の図画工作の教材について理解を深めるため、絵画、デザイン、彫刻、工芸などの基礎的な技能を学ぶ。

【授業の目標】

図画工作のさまざまな教材やその指導法を学び、児童の豊かな発想や創造的な技能を伸ばすための教材の開発法を考える。

【授業計画】

- 1 小学校図画工作科の造形表現
 - (1) いろいろな材料を使って表現しよう
 - (2) いろいろな場所を活かして表現しよう
 - (3) 考えたことや思ったことを表現しよう
 - (4) 自分だけの表し方や扱い方を見つけよう
 - (5) 生活を楽しくする作品を作ろう
 - (6) 想像力を働かせて表現しよう
 - (7) 立体で表現しよう
 - (8) 動く造形を作ろう
 - (9) 自分たちの作品を飾って楽しもう
 - (10) 名作を鑑賞しよう
- 2 材料と造形表現
 - (1) 表現技法の開発
 - (2) 表現技法を生かした造形表現

【評価方法】

課題の提出、学習態度、出席状況、期末考査などにより、総合的に評価する。

【テキスト】

使用しない。必要に応じて資料を配付する。

【参考文献・資料】

授業の中で必要に応じて紹介する。

初等家庭

渥美正子

【授業の概要】

家庭生活は生活主体である家族と衣食住というモノとの関わりで展開している。衣食住や家族の生活などに関する実践的・体験的活動を通して、家庭生活を支えている様々なモノと家族の機能を理解し家庭生活への関心を高めることを目的とする。衣食住に関わる日常生活に必要な基本的知識・技能を修得し、自らが家族の一員として家庭生活の向上に向けて寄与できる態度を育成したい。

【授業の目標】

家庭生活の質的な向上を主体的・創造的に追求していくことの重要性を理解すること。

【授業計画】

- 1.生活者としての主体形成
- 2.生活の構成要素
- 3.生活環境の変遷
- 4.家族領域の課題
- 5.住生活領域の課題
- 6.衣生活領域の課題
- 7.食生活領域の課題
- 8.消費者問題
- 9.家庭生活と地域
- 10.高齢社会の生活環境
- 11.小学校家庭科に関わる課題
- 12.これからの家庭科教育の展望

【評価方法】

試験とレポートで行う。

【参考文献・資料】

授業中に適宜指示する。

初等体育

松田秀子

【授業の概要】

初等体育科の内容に相当する教科として、体育科における教育観・指導法に関する教育理論を踏まえ、体育の授業を行うための基礎知識と技能を習得する。また子どもにとっての遊びの意義を理解し、子どもが楽しめる運動あそびについて学習すると共に、遊びの内容や効果、問題点について検討し、子どもの運動遊びのあり方について学ぶ。

【授業の目標】

小学校体育に関する基礎知識を学習し、運動領域の基本的な実践力を実習を通して身につけることを目標とする。

【授業計画】

- 1 オリエンテーション
- 2 小学校体育の目標と内容
- 3 表現リズム遊び
- 4 運動遊び・伝承遊び
- 5 体ほぐしの運動
- 6 陸上運動1
- 7 陸上運動2
- 8 器械運動1
- 9 器械運動2
- 10 ボール運動（バスケットボール型）
- 11 ボール運動（サッカー型）
- 12 ボール運動（ベースボール型）
- 13 保健領域の内容と展開1
- 14 保健領域の内容と展開2
- 15 まとめ

【評価方法】

出席状況、技能テストや授業態度、レポートを総合して評価する。

【テキスト】

小学校学習指導要領解説 体育編（平成20年8月）

【参考文献・資料】

必要に応じて、授業中に紹介する。

体育特殊演習

松田秀子

【授業の概要】

この授業は、小学校学習指導要領の体育科における「水泳」の領域に基づいた学習内容について理解を深め、小学校で水泳の指導ができる能力を養うことを目的とする。具体的には「水遊び」「浮く・泳ぐ運動」「水泳」「各泳法の技能の習得」「安全や管理」「着衣泳」「救急法」等について実践し、演習形態で学習する。さらに指導力の向上を図る目的で、学生自身の泳法の技能を習熟させるようにする。

【授業の目標】

- 1.小学校体育における水泳の泳法について理解する。
- 2.実習を通して、各泳法の技能の習得を目指すとともに、指導者としての資質の向上をねらいとする。

【授業計画】

- 1.実習日時 平成21年9月
日程の詳細については、履修登録の際にお知らせします。
- 2.実習場所 愛知淑徳水泳学校(星ヶ丘キャンパス)
- 3.内容
 - 1)オリエンテーション
 - 2)水遊び
 - 3)浮く・泳ぐ運動
 - 4)平泳ぎの技能習得と指導法
 - 5)クロールの技能習得と指導法
 - 6)背泳ぎの技能習得と指導法
 - 7)バタフライの技能習得と指導法
 - 8)水中安全教育(着衣泳)
 - 9)水中安全教育(救急法)
 - 10)まとめ

【評価方法】

出席状況や受講態度、技能テスト、レポートなどを総合して評価する。

【テキスト】

必要に応じて資料を配布する。

【参考文献・資料】

必要に応じて適宜紹介する。

発達心理学

富安玲子

【授業の概要】

人間を発達可能性のある存在として生涯発達の視点から考えながら、一人ひとりが自分の人間観・発達観の基礎づくりをすることを目的にしたい。自己意識の発達などのプロセスを辿り、自分自身の自己形成過程への関心を深めることによって自己理解を促進することも目指したい。

【授業の目標】

自己形成のプロセスへの関心を深め、生徒及び自分自身への理解を促進すること。

【授業計画】

1. 発達の心理学を学ぶ/発達の心理学から学ぶ
2. 青年期の意味
3. 発達と教育
4. 「自分」の諸相
5. 「自分でない」世界の認識から
6. 第一「反抗」期の意味
7. 自我と他我
- 8,9. 他律的規範への順応
- 10,11. 第二の誕生
- 12,13. アイデンティティの確立
14. 生涯発達の視点と生き方
15. 自分探しの旅と人間関係

【評価方法】

期末試験と授業への出席・関与度による。

【テキスト】

テキストとしては使用しない。必要な資料等は授業時に配付する。

【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

教職入門

大久保義男

【授業の概要】

本講義では、教員という職業がどのような意義を持っているのか、学校での教師の職務と役割がどのようなものであるかを、学生の被教育体験を生かしながら具体的に解説する。その上で、今日の学校が抱えている問題解決の方途を、中教審、教課審の答申や、県教委の教員採用選考の指針から学び、教員に求められる資質能力を明らかにすることによって教職につくかどうか、自らの適性を見極めて決定する情報と機会を提供したい。

【授業の目標】

教員の職務と役割について学び、教育への関心や教職に対する情熱や使命感を高めるとともに、教員としての適性を省察する契機とする。

【授業計画】

- 1 教員の仕事
 - (1) 学習指導
 - (2) 生徒指導・教育相談
 - (3) 進路指導
 - (4) 学級経営
 - (5) 教科外指導
- 2 教師に求められる資質・能力
- 3 教員の養成と採用
- 4 教員の地位と身分
 - (1) 身分上の義務・制限
 - (2) 教員の待遇と勤務条件
 - (3) 教員の研修
- 5 学校の管理・運営
 - (1) 学校制度
 - (2) 学校運営
 - (3) 校務分掌

【評価方法】

課題の提出、学習態度、出席状況、期末考査などにより、総合的に評価する。

【テキスト】

使用しない。必要に応じて資料を配付する。

【参考文献・資料】

授業の中で必要に応じて紹介する。

教育制度

佐藤実芳

【授業の概要】

社会の変化に伴う学校の誕生や変化に基づき、社会において学校教育が果たしてきた役割について考えるとともに、学校制度の類型的比較と外国と日本の学校教育制度の変遷から、学校教育制度の基礎的な事項を理解する。さらに、学校教育制度及び教育行政制度等に関する現在の日本の教育法規を取り上げ、日本の教育制度の仕組みや特徴等について学習する。

【授業の目標】

- ・教育制度の基本的な事項について理解すること。
- ・日本の学校教育制度の歴史的変遷について理解すること。
- ・現在の日本の教育制度について、教育法規に基づいて理解すること。

【授業計画】

- 1 教育制度の意義
- 2 現代学校教育制度の起源
- 3 学校教育制度の類型
- 4 日本の学校教育制度の変遷
- 5 現在の日本の教育制度と教育行政制度
- 6 教育法規と学校教育
- 7 諸外国の学校教育制度

【評価方法】

出席状況 10% 課題の提出 20% 定期試験 70%

【テキスト】

資料を配布する。

【参考文献・資料】

授業の中で、必要に応じて紹介する。

教育課程

小栗正彦

【授業の概要】

学習指導要領の改訂によって、学習内容の厳選がなされると同時に、「生活科」や「総合的な学習の時間」が導入され、「生きる力」を学ぶ新しいカリキュラムの開発が必要になった。この歴史的経過を振り返りつつ、教科中心カリキュラムと経験中心カリキュラムの考え方に関する考察、現行教育課程の諸問題、わが国における新しいカリキュラムの取り組みなどについて学ぶなかで、カリキュラム編成の基礎的能力を育成する。

【授業の目標】

激しい社会変化に主体的に対応し、一人ひとりの子どもに「生きる力」を育むための教育課程をどのように編成したらよいかを教育課程編成の歴史から読み解くと同時に、特色ある教育課程の具体的なあり方を学ぶ。

【授業計画】

- 第1時限 授業に関する諸注意
- 第2時限 講義の進め方と評価に関する注意、アンケートの実施
- 第3時限 教育課程とは何か（領域に関して）
- 第4時限 世界の教育課程改革の歴史（20世紀以降）
特にアメリカにおける教育課程に関する考え方の変遷
- 第5時限 わが国における教育課程改革の歴史（戦後）
学習指導要領の変遷史①
- 第6時限 わが国における教育課程改革の歴史（戦後）
学習指導要領の変遷史②
- 第7時限 現行の「学習指導要領を読む」総則
- 第8時限 「学習指導要領」をベースにどう授業するか①
- 第9時限 「学習指導要領」をベースにどう授業するか②
- 第10時限 新「学習指導要領」はどう変わる？ 総則
- 第11時限 新「学習指導要領」はどう変わる？ 教科編①
- 第12時限 新「学習指導要領」はどう変わる？ 教科編②
- 第13時限 現在の教育問題の数々①
小学校における「外国語」の授業について
「学力低下」問題
- 第14時限 現在の教育問題の数々②
学級崩壊の現状
「いのち」の授業
先生になろう
- 第15時限 ビデオ「桜の花の咲く頃」の鑑賞
試験

【評価方法】

各種レポート、試験の成績、出席状況などから総合的に評価する

【テキスト】

「講義ノート」及びプリント

国語科教育法 II

中嶋真弓

【授業の概要】

学習者が主体的に授業に臨むことができる学習の在り方を、多様な観点から考究し、「よい授業」づくりに向けて大切にすべきことを明らかにしていく。その学修をもとに、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「言語事項」の3領域1事項の具体的な学習指導案を作成したり、模擬授業をしたりしながら、実際の教育現場で生きている教師の力量を身に付けていく。

【授業の目標】

国語科教育の体系を踏まえた上で、3領域1事項（新学習指導要領）の指導の在り方を教科書教材を活用して明らかにする。また、授業に必要な学習材・教具を開発したり、読書力を高めるための学校図書館の活用について考えたりする。

【授業計画】

- 1) 国語科の目標と指導内容
- 2) 魅力ある国語科授業にするための工夫
- 3) 「話すこと・聞くこと」の指導
- 4) 「書くこと」の指導
- 5) 「読むこと」の指導
- 6) 読書指導
- 7) 言語事項・書写の指導
- 8) 国語科と他教科との関連
- 9) 主な教科書教材を活用しての教材研究①
- 10) 主な教科書教材を活用しての教材研究②
- 11) 学習指導案作成①・模擬授業
- 12) 学習指導案作成②・模擬授業
- 13) 学習指導の見直しと具体的な手立て

【評価方法】

授業への出席状況・受講態度と意欲・授業内容に応じた課題の提出・期末試験により、総合的に評価する。

【テキスト】

小学校学習指導要領（文部科学省）
小学校学習指導要領解説 国語編（文部科学省）

【参考文献・資料】

授業の中で、適宜紹介する。

国語科教育法 I

中嶋真弓

【授業の概要】

国語科教師としての資質や能力を高めるために、国語科教育に携わった先人の研究業績や指導法、もの見方や考え方を考察し、現在の国語科教育の体系を理解していく。その上で、教材研究の在り方や学習活動の設定の仕方、発問の仕方等の指導方法について理解を深めたり、具体的事例や実際の授業ビデオを検証したりしながら、学習指導案を作成していく。

【授業の目標】

- 1 学習指導要領や教科書教材の変遷及び国語科教育に携わった先人達の業績について学ぶ。
- 2 学習指導案の作成を通して、論理的・実践的な指導力の基礎・基本を身に付ける。

【授業計画】

- 1 国語科教育の現状と役割
- 2 『学習指導要領』の変遷（1）
- 3 『学習指導要領』の変遷（2）
- 4 教科書教材の変遷（1）
- 5 教科書教材の変遷（2）
- 6 国語科教育に携わった先人達の業績
- 7 国語科の授業
- 8 国語科の教材研究と指導法
- 9 学習指導案の作成（1）
- 10 学習指導案の作成（2）
- 11 授業観察（ビデオ等を活用して）
- 12 国語科授業改善に向けての工夫
- 13 国語科教育の課題

【評価方法】

授業への出席状況・受講態度と意欲・授業内容に応じた課題の提出・期末試験により、総合的に評価する。

【テキスト】

小学校学習指導要領（文部科学省）
小学校学習指導要領解説 国語編（文部科学省）

【参考文献・資料】

授業の中で、適宜紹介する。

社会科教育法 I

楠元町子

【授業の概要】

学習指導要領の趣旨に沿って、日本人としての自覚を持ち、国際社会に生きる民主的、平和的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養うことを目的に、児童の身近な地域の学習を通して、わが国の国土と歴史、政治、近隣諸国との関係に対する理解を深める教育方法を考える。具体的には、地図や統計などの基礎的資料や体験学習の活用方法、板書方法、教材研究、授業の進め方を学び、教科指導に必要な知識と技能を養う。

【授業の目標】

小学校社会科の授業を実践するために必要な知識や、さまざまな教材を活用した授業方法、板書方法を身に付ける。

【授業計画】

- 1 小学校社会科の目標と学習内容
- 2 小学校社会科3・4年生の学習内容について概説
- 3 小学校社会科5・6年生の学習内容について概説
- 4 身近な地域とわたしたちの暮らし
- 5 体験学習を取り入れた授業（模擬授業）と討議
- 6 日本の地形と産業
- 7 地図を活用した授業（模擬授業）と討議
- 8 日本の歴史と近隣諸国
- 9 史料を用いた授業（模擬授業）と討議
- 10 日本の経済とグローバリズム
- 11 統計資料を活用した授業（模擬授業）と討議
- 12 日本の政治と世界平和
- 13 討論を組み入れた授業（模擬授業）と討議

【評価方法】

出席状況、レポート、定期試験を総合的に評価する。

【テキスト】

小学校学習指導要領（文部科学省）
小学校学習指導要領解説 社会編（文部科学省）

【参考文献・資料】

授業の中で随時紹介する。

社会科教育法 II

楠元町子

【授業の概要】

本授業では、社会科教育法IIにおいて学習した事項を踏まえ、小学校の教科書を用いて、児童の発達段階に合わせた効果的な学習方法、インターネットや視覚教材、ゲームを活用した授業方法、現代社会を反映した教材開発を考察し、受講者による学習指導案の作成と模擬授業を行い、具体的実践的な指導法を研究する。

【授業の目標】

小学校社会科の授業を実施するために必要な学習指導案の作成方法や、実際に授業を行うことにより、具体的な授業方法を身に付ける。

【授業計画】

- 1 インターネット、視覚教材を活用した授業方法
- 2 ゲームを活用した授業方法
- 3 新聞を活用した授業方法
- 4 いろいろな教材研究の方法
- 5 学習指導案の作り方と評価方法
- 6 小グループでの3年生または4年生の社会科指導案の作成
- 7 小グループによる模擬授業の実施と研究協議 (1)
- 8 小グループによる模擬授業の実施と研究協議 (2)
- 9 各自で5年生または6年生の社会科指導案の作成
- 10 受講者による模擬授業の実施と評価 (1)
- 11 受講者による模擬授業の実施と評価 (2)
- 12 受講者による模擬授業の実施と評価 (3)
- 13 受講者による模擬授業の実施と評価 (4)

【評価方法】

出席状況、提出物、レポートを総合的に評価する。

【テキスト】

小学校学習指導要領 (文部科学省)
小学校学習指導要領解説 社会編 (文部科学省)

【参考文献・資料】

授業の中で随時紹介する。

算数科教育法 I

石黒昭吉

【授業の概要】

算数教育の目標・内容・指導方法・評価を中心とした概説を行う。また、教科書分析、学習指導案の作成などの活動を通じて授業実践に向けての基礎的素養・実践力を養う。併せて、小学校算数科における学習指導上の諸問題についてあきらかにする。

さらに、前半での講義を活かして、小学校算数での主に「数と計算」領域について、そこでの題材の見方、考え方について考察し、学習指導案の作成、それについての検討など実習的な内容を扱う。

【授業の目標】

小学校教科「算数」の学習内容について、各学年ごとで概観することで授業を実践するための基礎的知識・理解を得る。

【授業計画】

- 1 オリエンテーション
- 2 算数教育の目標
- 3 教科「算数」の各学年の内容
 - (1) 第1学年の内容
 - (2) 第2学年の内容
 - (3) 第3学年の内容
 - (4) 第4学年の内容
 - (5) 第5学年の内容
 - (6) 第6学年の内容
- 4 まとめ

【評価方法】

積極的な授業参加、レポート、発表、試験等によって総合的に評価する。

【テキスト】

小学校学習指導要領 (文部科学省) 指導要領解説・算数編 (文部科学省)

【参考文献・資料】

随時紹介する。

算数科教育法 II

石黒昭吉

【授業の概要】

小学校学習指導要領総則にある配慮事項の一つに「各学年の指導内容については、そのまとめ方や重点の置き方に適切な工夫を加えると共に、教材等の精選を図り、効果的な指導ができるようにすること」とあるが、このことについて小学校での算数における具体化を図る。すなわち、各学年の内容と示している指導事項は指導の順序を示しているものではないので、小学校算数の四領域・内容について、その相互の関連・系統性をあきらかにする。そのことで、そういった順序性も含め、指導内容を具体的に組織、配列できる力を養う。

【授業の目標】

教育実習生および新任教師として、算数科の授業をするための基礎能力を身につけることを目標とする。

【授業計画】

- 1 算数教育の目標と今日的課題
- 2 教材分析・教科書の分析
- 3 「数と計算」における概念と内容の取り扱い
- 4 「数と計算」に関する教材化
- 5 「量と測定」における概念と内容の取り扱い
- 6 「量と測定」に関する教材化
- 7 「図形」における概念と内容の取り扱い
- 8 「図形」に関する教材化
- 9 「数量関係」における概念と内容の取り扱い
- 10 「数量関係」に関する教材化
- 11 授業の組み立て方と学習指導案
- 12 学習指導と評価
- 13 まとめ

【評価方法】

積極的な授業参加、レポート、発表、試験等によって総合的に評価する。

【テキスト】

小学校学習指導要領 (文部科学省)
小学校学習指導要領解説 算数編 (文部科学省)

【参考文献・資料】

随時紹介する。

理科教育法 I

佐藤成哉

【授業の概要】

小学校における理科教育のあり方を多角的に考察する。理科教育に関わる基礎的事項と理科教育観の歴史の変遷を知り、今日の理科教育観の全体像を把握するとともに、理科教授の目標と実際の授業のつくり方について具体的な理解を深める。

また、模擬授業を取り入れ、学生相互のコミュニケーションを図りながら授業づくりについて検討していく。

【授業の目標】

小学校理科の意義や理科カリキュラムの構成について理解するとともに、学習指導計画に準じた授業設計や指導案を作成し、模擬授業ができるようになる。また、実験器具の名称や使用法及び取扱い上の注意点等を理解し、安全に実験が行えるようになる。

【授業計画】

- 1 理科教育の意義・目標
- 2 教科理科の教育課程 (小学校～中学校の理科を系統的に)
- 3 理科学習指導計画
- 4 授業設計の手順
- 5 授業形態と指導上の特徴・留意点
学習指導案 - 作成の意義とその内容 -
- 6 小学校理科教材と教員採用試験

講義には、ビデオ視聴による授業観察や模擬授業・実験等を含む。

【評価方法】

出席状況、発表態度、履修態度、小テスト、レポート、定期試験によって総合的に評価する。

【テキスト】

小学校学習指導要領 (文部科学省)
小学校学習指導要領解説 理科編 (文部科学省)
小・中学校教科書及び教師用指導書 (大日本図書)

【参考文献・資料】

資料等は、授業中に適宜紹介・配布する。

理科教育法 II

佐藤成哉

【授業の概要】

小学校理科の各学年での目標および内容、A・B・C各領域の特性と系統、原理や法則の理解と考え方、単元目標のとらえ方、学習指導案の書き方とその指導について、具体的な理解を深める。また、代表的な学習指導法や指導と評価の一体化など新しい学習評価のあり方についての理解を深め、より実践的な力の育成を図る。

【授業の目標】

教育実習を想定し、小学校理科の授業（模擬授業）を構築する上での指導案の作成や教材化など、より実践的な指導力の育成を目標とする。

【授業計画】

- 1 小学校学習指導要領－理科－
- 2 「教材」及び「教材研究」の定義
- 3 教材化－構成要素、改善・工夫の視点－
- 4 「教材研究」の内容
- 5 学習指導法
- 6 評価と評定－教育評価の必要性、評価法と留意点など－
- 7 教採問題の教材化
具体的な単元をあげて教材化を試み、演習的（模擬授業）に行う。

講義には、ビデオ視聴による授業観察や模擬授業、実験等を含む。

【評価方法】

出席状況、発表態度、履修態度、小テスト、レポートによって総合的に評価する。

【テキスト】

- 小学校学習指導要領（文部科学省）
小学校学習指導要領解説 理科編（文部科学省）
小・中学校教科書及び教師用指導書（大日本図書）

【参考文献・資料】

授業中に適宜紹介・配布する。

生活科教育法 I

小出隆司

【授業の概要】

各地の特色ある生活科教育実践校の具体的な諸実践を基に、その実際・理念・方法に学ぶ。機会を見つけて地域の小学校の生活科授業を参観して、現場教師との意見交流をして生活科教育に対する実践的な認識を深める。地域の諸条件をどう生かして生活科の学習を創るか、子どもの目線を視野に入れての地域探訪をする。受講者各自が、テーマをもって講義に参加して、個人又はグループによる模擬授業をして実践的な力量を身に着ける。

【授業の目標】

特色ある生活科の実践に学び、大学周辺を舞台に地域素材の教材化を試み、模擬授業をして生活科への認識と技術力を高める。

【授業計画】

- 1 生活科の教科書分析と授業づくり
- 2 生活科の年間指導計画づくり
- 3 生活科1・2年生の実践紹介と授業分析・検討
- 4 近隣の小学校の生活科授業の見学（またはビデオで観る）
- 5 見学した（またはビデオで観た）生活科授業を基に授業研究
- 6 グループでテーマを設定し大学の周辺の探検
- 7 大学周辺の探検を地図にまとめ発表会
- 8 グループごとに模擬授業のテーマを設定し授業案づくり
- 9 授業案検討と資料づくり（模擬授業の準備）
- 10 模擬授業と授業研究
- 11 授業の技術（発問、板書、学習環境づくり、評価の仕方など）
- 12 授業の技術（見学・観察のさせ方、発表・表現のさせ方など）
- 13 生活科の授業を創るための子どもの活動・教師の活動とは何か
- 14 課題図書感想・意見発表（書名は講義時に明示）
- 15 適宜菜園づくり

【評価方法】

毎時間の学習カード・課題図書感想文・期末レポート及び出席状況などを基に総合的に評価する。

【テキスト】

使用しない（プリント配布）

【参考文献・資料】

『小学校学習指導要領』（文部科学省）

生活科教育法 II

小出隆司

【授業の概要】

低学年の子どもの身体機能的な発達、思考と言語認識の発達、情緒・心理的な発達などに関する基礎的な理論学習をする。（生活教育法I）で学習した特色ある生活科実践校の実践例と重ねながら、さらに、一歩深めた生活科教育を創造的、実践的に考案する。その上で、個人又はグループで仮想教案を作成して模擬授業をおこない、相互に意見交流をし、生活科教育の実践的な力量をより高める。

【授業の目標】

低学年の児童の諸発達に関する基礎的な理論学習をし、子どもについて多角的に認識を深め、生活科授業づくりの実践的な力量を高める。

【授業計画】

- 1 子どもの発達と生活科（子どもの発達と認識、思考と言語など）
- 2 『小学校学習指導要領の解説 生活編』（文部科学省）
- 3 今日までの生活科の歩みをみる－教育現場の状況と実践・課題－
- 4 身近な植物栽培（野菜作り、花、果物、球根などを育てる）とそのポイント
- 5 身近な小動物の飼育（金魚、メダカ、ミミズ、カタツムリ、チヨウなど）とそのポイント
- 6 生活科1・2年生の授業の技術
- 7 生活科1・2年生の授業づくり
- 8 生活科年間指導計画づくりの実際
- 9 テーマを選び各自で仮想授業案づくり
- 10 模擬授業と反省
- 11 4、5の取り組みの報告
- 12 生活科と総合学習（フレネ教育の理論と実際）
- 13 私の創っていききたい生活科（各自の考えを提言）

【評価方法】

講義への参加態度、課題・期末レポート、学習カード等で総合的に評定する。

【テキスト】

- 小学校学習指導要領（文部科学省）
小学校学習指導要領解説 生活編（文部科学省）

【参考文献・資料】

講義時にそのつど明示する。

音楽科教育法 I

長谷川滋夫

【授業の概要】

小学校1学年～6学年までの教材の中から、唱歌と唱歌の伴奏を中心に、ア・カペラでの合唱、小楽器での簡単な合奏の指導法を学ぶ。また、基本的な音楽理論の演奏への活用法や音楽鑑賞の指導法も学ぶ。

【授業の目標】

小学校音楽科の目標・内容・指導計画・指導法・評価法等について学習する。さらに、実技実習を通して、表現及び鑑賞指導における実践的な指導力を身に付ける。

【授業計画】

- 1 音楽と教育
- 2 教科の目標
- 3 表現指導法
- 4 鑑賞指導法
- 5 歌唱共通教材の解説
- 6 鑑賞共通教材の解説
- 7 合唱指導法
- 8 合奏指導法
- 9 年間計画の立案
- 10 学習指導案の作成
- 11 学習の評価法
- 12 学習指導案実践

【評価方法】

授業への出席状況、実技実習への参加態度、レポート、試験などを基に総合的に評価する。

【テキスト】

- 小学校学習指導要領（文部科学省） 小学校学習指導要領解説・音楽編（文部科学省）

【参考文献・資料】

授業中に適宜参考文献を適宜示すとともに、資料楽譜、資料プリントを適宜配布する。

音楽科教育法 II

長谷川滋夫

【授業の概要】

音楽科教育法Iをふまえて、小学校1学年～6学年までの教材の中から唱歌、唱歌の伴奏と弾き語り、特に変声期における発声について、発声のしくみとその指導法を学ぶ。また合唱や器楽合奏の指導法と指揮法についても学ぶ。

【授業の目標】

小学校音楽科の目標・内容・指導計画・指導法・評価法等についての学習を深める。さらに、実技実習を通して、表現及び鑑賞指導における実践的な指導力の向上を図る。

【授業計画】

- 1 1・2学年の教材演習
- 2 3・4学年の教材演習
- 3 5・6学年の教材演習
- 4 発声指導法
- 5 合唱指導法1
- 6 合唱指導法2
- 7 器楽指導法1
- 8 器楽指導法2
- 9 指揮法1
- 10 指揮法2
- 11 学習指導案の作成と実践
- 12 グループ研究と発表

【評価方法】

授業への出席状況、実技実習への参加態度、レポート、試験などを基に総合的に評価する。

【テキスト】

小学校学習指導要領（文部科学省）
小学校学習指導要領解説・音楽編（文部科学省）
小学校課程のための教科教育法 音楽編（教育芸術社）

【参考文献・資料】

授業中に関連参考文献を適宜示すとともに、資料楽譜・資料プリントを適宜配布する

図画工作科教育法 II

大久保義男

【授業の概要】

図画工作科教育法Iで習得した図画工作の基本的な指導法を積み上げ、より確かな指導力の習得をめざす。図画工作科教育法IIでは、児童画の発達段階や児童画教育の歴史についての理解を深めるとともに、美術作家の生き方や美術教育との関わりを学び、図画工作科教育の理念や指導法を理解する。

【授業の目標】

児童画の発達段階、児童画教育の歴史、美術作家と造形教育との関わりについて学び、図画工作科の意義や内容についての理解をさらに深める。

【授業計画】

- 1 美術教育による人間形成
 - (1) 幼児・児童・思春期の各ステージにおける造形上の特徴と発達
 - (2) 人間形成における芸術教育の基幹性と普遍性
ハーバート・リード「芸術による教育」読解
 - (3) 創造的発達と精神的成長
ローウェンフェルド「美術による人間形成」読解
- 2 わが国の児童画教育史
 - (1) 学校教育のはじまりと新定画帖
 - (2) 自由画教育
 - (3) 戦後の児童画教育
- 3 美術教育思潮
 - (1) チゼックの創造主義
 - (2) 造形主義とバウハウス
 - (3) 近年の美術教育思潮
- 4 美術作家の生き方に学ぶ図画工作科教育の理念や指導法

【評価方法】

課題の提出、学習態度、出席状況などにより、総合的に評価する。

【テキスト】

小学校学習指導要領（文部科学省）
小学校学習指導要領解説図画工作編（文部科学省）

【参考文献・資料】

授業の中で必要に応じて紹介する。

図画工作科教育法 I

大久保義男

【授業の概要】

学習指導要領における図画工作科の目標や指導内容を踏まえながら、児童の発達段階に即した実践的な指導法を身につける。図画工作科教育法Iでは、身近な材料や自然物を使い身体全体の感覚や技能などを働かせることができる指導法や、児童の豊かな発想や創造的な技能を伸ばすことのできる指導法を開発する。

【授業の目標】

評価の方法や指導計画の立て方など、図画工作科の実践的な指導法を学び、図画工作科の意義や内容についての理解を深める。

【授業計画】

- 1 小学校における図画工作科の学習内容と指導法
 - (1) 図画工作科の目標と性格
 - (2) 各学年の目標と内容
 - (3) 指導計画の作成と内容の取扱い
 - (4) 図画工作科で身につける学力
 - (5) 図画工作科の教科性
- 2 児童の発達段階に即した指導法
 - (1) 身体全体の感覚や技能を働かせることのできる指導法
 - (2) 豊かな発想や創造的な技能を伸ばすことのできる指導法
- 3 指導と評価
 - (1) 学習指導と評価の一体化
 - (2) 評価の観点と方法
- 4 指導計画の作成
 - (1) 指導計画の考え方
 - (2) シラバスの作成の手順と要点
 - (3) 学習指導案の立て方と要点

【評価方法】

課題の提出、学習態度、出席状況などにより、総合的に評価する。

【テキスト】

小学校学習指導要領（文部科学省）
小学校学習指導要領解説 図画工作編（文部科学省）

【参考文献・資料】

授業の中で必要に応じて紹介する。

家庭科教育法 I

仲島千恵

【授業の概要】

小学校における家庭科教育の目標を踏まえ、領域ごとの実践的・体験的な活動方法について具体的な方策を探る。また、子どもたちに身につけさせたい知識・技能を確認した上で、どのように実践的態度を育てているのか考える。家庭環境により異なる生活経験を持つ子どもたちを指導する上で注意すべきことを考え、どのような教材をどう取り扱うか、実践例をもとに検討する。

【授業の目標】

家庭科教育について基本的な理解をさせる。
小学校教員として必要な資質や態度について考えさせる。

【授業計画】

- 1 学習指導要領とは
- 2 学習指導要領における教育課程の基本方針
- 3 学習指導要領における家庭科の基本方針1
- 4 学習指導要領における家庭科の基本方針2
- 5 学習指導要領における家庭科の目標
- 6 学習指導要領における家庭科の内容1
- 7 学習指導要領における家庭科の内容2
- 8 指導計画作成上の留意事項
- 9 授業実践のポイント
- 10 家庭科の授業をどう展開するか1 家庭生活と家族
- 11 家庭科の授業をどう展開するか2 日常の食事と調理の基礎
- 12 家庭科の授業をどう展開するか3 快適な衣服と住まい
- 13 家庭科の授業をどう展開するか4 身近な消費生活と環境

【評価方法】

試験とレポート

【テキスト】

小学校学習指導要領（文部科学省）
小学校学習指導要領解説 家庭科編（文部科学省）
小学校学習指導要領の解説と展開 家庭編
（安彦忠彦監修・内野紀子編著 教育出版）

家庭科教育法 II

仲島千恵

【授業の概要】

「家庭科教育法I」で学んだ内容をもとに、より実践的な家庭科の授業展開について考える。特に実践的・体験的な活動のための教材及び授業計画について、安全面の配慮を踏まえ、検討する。さらに現代社会における家庭生活に関わる問題点を取り上げ、家庭科教育としての視点で考察する。また、「食育」についても小学校家庭科における取り組みを検討する。

【授業の目標】

家庭科教育について理論と実践の両面から理解を深めさせる。
小学校教員として必要な資質や態度について考えさせる。

【授業計画】

- 1 家庭科教育のめざすもの
- 2 子どもの生活と家庭科
- 3 未来の学びと家庭科
- 4 小学校家庭科の授業とは
- 5 さまざまな教材づくりを学ぶ
- 6 小学校家庭科の授業をつくる
- 7 学習指導案を書く
- 8 授業をシミュレーションする
- 9 評価について学ぶ
- 10 授業実践から学ぶ1 子どもの興味・関心を生かす授業
- 11 授業実践から学ぶ2 技能を生かして楽しむ授業
- 12 授業実践から学ぶ3 「食育」についての取り組み
- 13 授業実践から学ぶ4 家庭科学習を生かした「総合的な学習の時間」への発展

【評価方法】

テストとレポート
その他指示された提出物

【テキスト】

授業力UP 家庭科の授業 (鶴田敦子・伊藤葉子編著 日本標準)
小学校学習指導要領の解説と展開 家庭編
(安彦忠彦監修・内野紀子編著 教育図書)

体育科教育法 II

丸山真司

【授業の概要】

この授業では、小学校体育の内容領域である「器械運動」及び「陸上運動」の指導法、授業づくり、教材づくりについて、低学年・中学年・高学年のカリキュラムを視野に置きつつ、これまでの優れた体育実践研究の成果として生み出された「典型実践」をモデルにしながら実技を通して学ぶ。同時に、体育授業の分析方法についても併せて学ぶ。

【授業の目標】

小学校体育(器械運動、陸上運動)の指導法、授業づくり、教材づくり、授業研究方法について学ぶ。

【授業計画】

- 1 オリエンテーション:「みんながうまくなる体育」=「みんなが『わかる・できる』体育」の理論学習と求める体育授業のイメージの形成
<前半>:<陸上運動の授業づくりと教材づくり>
2 小学校における陸上運動のカリキュラムと教材づくりのポイント
3・4 短距離走(50m走)の学習①②-曲線と足跡調査からリズム走へ
5・6 リレーの学習と指導法-「ゴーマーク鬼ごっこ」からリレーへ
7 陸上運動のまとめ
<後半>:<器械運動の授業づくりと教材づくり>
8 器械運動の「クロスカリキュラム」と授業づくり・教材のポイント
9 マット運動①-マット運動の感覚づくり(「ねこちゃん体操」等)
10 マット運動②-動物模倣から「お話マット」へ
11 マット運動③-側転の系統的指導の学習
12 マット運動④-連続技への発展
13・14 マット運動⑤⑥-集団マットづくり
15 マット運動のまとめ

【評価方法】

評価は平常点、授業で提出するミニレポート、グループノート、学期末のレポートによっておこなう。

【テキスト】

テキストはなし。

【参考文献・資料】

・専門誌『体育科教育』(大修館書店)、『たのしい体育・スポーツ』(創文企画)
・『小1～6走・跳・投の遊び 陸上運動の指導と学習カード』(小学館2007)
・山内基広(2007)『ねこちゃん体操からはじまる器械運動のトータル学習プラン』(創文企画)
・小学校学習指導要領解説 体育編 (文部科学省)

他、授業中に紹介する。

体育科教育法 I

松田秀子

【授業の概要】

小学校学習指導要領の趣旨に沿って、運動領域の内容、児童の発育・発達の特徴を踏まえた指導方法等について理解を深め、実技指導の実践方法を学ぶ。具体的には「基本の運動」「ゲーム」「体づくり」「ボール運動」「表現運動」の領域を中心とした内容について、指導案を作成し、模擬授業を実践することにより指導法を習得する。

【授業の目標】

- 1.小学校体育の目標を理解し、教材や指導方法について学ぶ。
- 2.模擬授業を通して、学習指導案の作成や評価について学び、指導力身につける。

【授業計画】

- 1.オリエンテーション
- 2.基本の運動(低学年)の学習とその指導法
- 3.基本の運動(中学年)の学習とその指導法
- 4.体づくり運動の学習と指導法
- 5.バスケットボールの学習と指導法
- 6.ソフトバレーボールの学習と指導法
- 7.ハンドボールの学習と指導法
- 8.サッカーの学習と指導法
- 9.表現運動の学習と指導法
- 10.授業計画の作成と評価
- 11.まとめ

【評価方法】

出席状況や受講態度、レポート、試験などを総合して評価する

【テキスト】

小学校学習指導要領 (文部科学省)
小学校学習指導要領解説 体育編 (平成20年8月) (文部科学省)

【参考文献・資料】

授業の中で、必要に応じて紹介する。

道徳指導法

山田修子

【授業の概要】

道徳とはなにか、わが国の道徳教育の基盤、義務教育における道徳教育の在り方を探究する。その上で、今日の道徳教育に至るまでの歴史的変遷を学び、さらに道徳性の発達理論を考察する。また、道徳指導の実践についての具体例をとりあげ、その理解を深める。

【授業の目標】

道徳教育の基盤や必要性および道徳性の発達理論を理解し、学校教育全体を視野に入れながら「道徳の時間」の適切な指導ができるようにする。

【授業計画】

- 1 道徳と道徳教育
- 2 道徳教育の歴史、変遷
- 3 道徳性の発達理論と児童理解
- 4 道徳性の発達理論と小学校における道徳教育
- 5 小学校における道徳教育の実践
 - (1) 道徳教育の目標
 - (2) 道徳教育の内容
 - (3) 学校の道徳指導年間計画、学級の道徳指導
 - (4) 「道徳の時間」の指導計画、指導案の作成
 - (5) 「道徳の時間」の指導の実際、他教科との関連
 - (6) 模擬授業とまとめ

【評価方法】

試験、提出物、出席状況により総合的に評価する。

【テキスト】

小学校学習指導要領 (文部科学省)
小学校学習指導要領解説 道徳編 (文部科学省)

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時間に紹介する。

特別活動指導法

山田修子

【授業の概要】

小学校の特別活動の変遷とその具体的な活動として学級活動、クラブ活動、委員会活動、児童会活動、学校行事についての指導法を考察、演習する。そのなかで望ましい人間関係、基本的な生活習慣の形成を通して個人及び社会の一員としての在り方、生き方に関する指導の充実を図ることを学習の目標とする。

【授業の目標】

具体的な実践例や変遷に学び、基礎的な知識を身につける。さらに指導計画、指導案の作成、演習を通して指導法を検討し、集団と個の理解を確かなものにする。

【授業計画】

- 1 特別活動の変遷、意義と役割
- 2 特別活動の目標、内容
- 3 学級活動と人格形成
- 4 学級活動の内容と指導案の作成
- 5 クラブ活動と人間関係
- 6 児童会活動の内容と指導計画
- 7 児童会活動の指導の実際
- 8 学校行事の内容と企画、指導（1）
- 9 学校行事の内容と企画、指導（2）
- 10 学校行事実践の紹介
- 11 事前指導、事後指導の意義と方法、演習
- 12 特別活動における指導の在り方
- 13 まとめ

【評価方法】

試験、課題提出、出席状況などにより総合的に評価する。

【テキスト】

小学校学習指導要領（文部科学省）
小学校学習指導要領解説 特別活動編（文部科学省）

【参考文献・資料】

必要に応じて授業中に紹介する。

教育方法

石黒昭吉

【授業の概要】

今日親も教員も子供の本当の姿が見えなくなり、確かな指導の手だてが見出せず苦悩している。この現状を打破するためには、子供の理解を深め、子供の立場に立つて教材を開発し、教育方法を構築し、実践する力量が求められている。

テキストを中心に、ビデオ教材、学生同士の討議を加えた参加型授業形態で行い、教員としての教育的力量を培う教育方法を解明したい。

【授業の目標】

学校教育活動の中核を占める学習活動（授業）について、その原理・方法、教育学的技術、評価等を中心的テーマとした講義・演習により、どのように教材を工夫し、どのような授業をすれば学習者は上手く学べるかについて理解する。

【授業計画】

- 1 オリエンテーション
- 2 学習指導要領とは
- 3 学習指導要領の変遷
- 4 教育課程とは
- 5 教育課程と指導計画
- 6 学習指導案とは
- 7 学習指導案の作成
- 8 学習指導と評価の実際
- 9 模擬授業の実施

【評価方法】

積極的な授業参加とレポート、課題試験、学習指導案・模擬授業等によって評価する。

【テキスト】

後日、必要に応じて採用し、活用する。

【参考文献・資料】

適宜紹介する。

生徒・進路指導

山田修子

【授業の概要】

生徒指導を管理監督、非行の防止といった消極的な視点からではなく、21世紀に生きる青少年の健全な育成を目指す。個人の尊厳と人格を尊重した生徒指導により生徒の生きる力を養う生徒指導の在り方を求める。進路指導においては、その理念及び目的を具体的に学習する。これらの学習をとおし、生徒指導にあたる教員の在り方及び人間観について具体的に指導する。

【授業の目標】

生徒指導・進路指導の在り方の基本を理解し、児童を健全に育てるための視点と指導方法について学ぶ。また、個の人格を尊重する姿勢や人間観を確かなものにする。

【授業計画】

- 1 生徒指導・進路指導とは
- 2 児童理解の方法と指導
- 3 集団の理解と指導の方法
- 4 生徒指導・進路指導の年間計画と全校指導体制
- 5 生徒指導・進路指導と教科指導、道徳との関連
- 6 生徒指導・進路指導と教科外指導
- 7 生徒指導・進路指導と教育相談
- 8 児童の問題行動の理解と指導
- 9 教室の荒れの理解と指導
- 10 不登校・いじめの理解と指導
- 11 発達障害（特別支援教育）の理解と生徒指導
- 12 家庭、地域、関係機関との連携
- 13 まとめ

【評価方法】

試験、提出物、出席状況により総合的に評価する。

【テキスト】

必要に応じて授業時間に資料を配布する。

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時間に紹介する。

教育相談

富安玲子

【授業の概要】

教育相談の役割が認識されるようになった背景からその必要性を考え、教育相談への理解を深めて実践につなげていきたい。教育相談は生徒一人ひとりに関心をもつところから始まる。そこで生徒理解のあり方や不適応行動への対応について考えたい。また、傾聴の大切さを中心にして情報提供や助言の仕方なども含めた面接の進め方を学び、カウンセリングの基礎知識も併せて学んでいく。

【授業の目標】

生徒の立場に立った生徒－教師関係のあり方を考えながら、面接の進め方の実際を学び、さまざまな視点からの柔軟な対応の必要性を体得すること。

【授業計画】

1. 今、なぜ「教育相談」「カウンセリング」か
2. 「自分」は他者との関係の中で育つ
3. 教師-生徒の相互影響過程
- 4～5. 生徒理解
6. 学校における教育相談
- 7～9. 教育相談の進め方
10. 相談とカウンセリング
11. 適応と不適応
12. 問題行動のとりえ方とその対応
13. 不登校を考える
14. いじめを考える
15. 非行を考える

【評価方法】

期末試験と授業への出席・関与度による。

【テキスト】

テキストとしては使用しない。必要な資料等は授業時に配付する。

【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

カウンセリング

富安玲子

【授業の概要】

「教育相談」での学習を更に進めて、カウンセリングについてその歴史や理論に触れながら、カウンセリングの人間観や基本的態度について学んだ上で、実習による体験を通して共感的理解や傾聴の意味を考えていく。カウンセリング技法の実際についても学び、教師として児童や保護者との人間関係の中で活かしていくことを目指したい。

【授業の目標】

「教育相談」での学習を更に進めて、実習を取り入れながら、「聴く」ことの意味と「聴く」人である自分について考えていくこと。

【授業計画】

1. 教育相談とカウンセリングを巡って
2. カウンセリングの歴史
3. カウンセリングの人間観
4. カウンセリングの理論
5. カウンセラーに必要な基本的態度・行動
- 6,7. 共感的理解のエクササイズ
- 8,9. 正確に「聴く」とは
10. カウンセリングの実例
11. 話しやすさの源は聴き上手：かかわり技法
- 12,13. 応答訓練
14. ロールプレイ
15. カウンセリングにおける諸問題

【評価方法】

期末試験、ロールプレイ・レポート、授業への参加・関与度による

【テキスト】

テキストとして使用しない。必要な資料等は授業時に配付する。

【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

教育フィールドワーク

渡辺かよ子

【授業の概要】

種々の教育ボランティアを通じて教育学の諸理論と実践との連関を学ぶ。事前に教育フィールドワークに関する理論と意義を学び、授業担当者による個々の学生のボランティア活動をモニタリングと、参加学生相互の交流を図りながら、教育と社会への関心を育てる。

【授業の目標】

教育学の諸理論を体験的に理解し、体験から生じた問いを学問的に探究する。

【授業計画】

4月22日(水)、5月20日(水)、6月17日(水)、7月15日(水)、10月14日(水)、11月18日(水)、12月16日(水)のいずれも昼休みに、ミニ講義と討論。
1月に総括討議(日時場所は別途掲示)。

【評価方法】

毎月のミニ・レポートと学年末の総括レポート。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献・資料】

適宜紹介・配布する。

教育実習(小)

中嶋真弓

【授業の概要】

小学校において4週間、経験豊かな教員より、学習指導、生徒指導、学級経営等の指導を受けながら、学校生活の実際を理解するとともに、児童との触れ合いの中で、児童に対する理解を深め、新しい時代の教師としての基盤を築く。教育実習の事前指導として、学校教育全般にわたる基本的理解並びに教育実習の意義等を修得させ、事後指導として教育実習の体験発表を行うことにより、各々の教育実習を更に実りあるものにする。

【授業の目標】

・教育実習に取り組む上で必要な心構えを確立するとともに、教育実習の内容や方法を理解したり、学習指導、生徒指導、学級経営等の指導技術の向上を図ったりする。
・教育実習で体験したり学んだりした事柄を整理したり交流したりする中で、教師となるための指導力や実践力を身に付ける。

【授業計画】

- 1 教育実習の意義と目的
- 2 教育実習の内容と方法及び教育実習記録簿の説明
- 3 授業研究 I
 - ・各教科における指導の在り方
- 4 授業(領域)等の研究 II
 - ・道徳・特別活動・総合的な学習の時間の指導の在り方
- 5 生徒指導の在り方と学級経営について
- 6 教育実習に関する全般的留意事項(教育実習 4週間)
- 7 事後指導
 - ・体験発表会

【評価方法】

毎時間の授業態度・出席状況と実習校の評価(生徒指導・学習指導・実習態度等)に基づき、総合的に評価する。

【テキスト】

必要に応じて資料を配布する。

【参考文献・資料】

授業中に適宜紹介する。

児童保健

高橋昌久

【授業の概要】

子どもが心身ともに健康に育っていくために必要な小児医学と臨床心理学の知見を基礎に、教師やまわりの大人に必要な児童保健に関する理論と実践的配慮について学ぶ。これらを通じて、「子どもが子どもらしく生きる権利」の重要性とその実現方途を多面的に習得し、家庭における虐待の早期発見や防止、心身の障害に対して適切に行動できる教師・支援者としての実践力を身につけることをめざす。

【授業の目標】

子どものこころと体に起こる様々な問題について、事実・情報の収集から解決すべき問題は何かを考え、その解決策の立案を行うまでの基礎を身につける。

【授業計画】

- 1 オリエンテーション インシデント・プロセス法について他
- 2 子どものからだに起こること からだの発達
- 3 子どものからだに起こること 感染症など
- 4 子どものからだに起こること 低身長・肥満など
- 5 子どものからだに起こること 摂食障害など
- 6 子どものこころに起こること こころの発達・こころの理論
- 7 子どものこころに起こること 発達障害・学習障害
- 8 子どものこころに起こること こどものうつなど
- 9 学校と距離をおく子
- 10 児童虐待(1) 早期発見とその対応
- 11 児童虐待(2) 発達障害との関連
- 12 まとめ インシデント・プロセス法を用いた事例検討(1)
- 13 まとめ インシデント・プロセス法を用いた事例検討(2)

【評価方法】

積極的な授業参加、授業中のレポート、期末試験の成績を加味して総合的に評価する。

【テキスト】

テキストは使用せず、プリントを配布する。

【参考文献・資料】

授業のなかで、随時紹介する。

障害者の心理・生理・病理

小塩允護

【授業の概要】

障害のある子どもの心理面や学習上の特性、発達の様相や実態把握の仕方について、知的障害や自閉症、LD・ADHD等の発達障害を中心に学習する。また、それらの障害の発生機序を胎生期、周産期、育成期に分けて概観するとともに、障害に対する医療的対応の在り方や医療機関との連携の在り方、二次障害が生じるリスクなどについて学習する。

【授業の目標】

それぞれの障害の発生原因、特性を理解し、一人一人の持てる力を伸ばし、二次障害を起こさないためにどんな配慮が必要であるかを理解する。

【授業計画】

- 1 障害の理解
- 2 障害の医学的理解
- 3 視覚障害の特性と理解
- 4 聴覚障害の特性と理解
- 5 知的障害の特性と理解
- 6 肢体不自由の特性と理解
- 7 病弱・身体虚弱の特性と理解
- 8 言語障害の特性と理解
- 9 情緒障害の特性と理解
- 10 LD（学習障害）の特性と理解
- 11 ADHD（注意欠陥多動性障害）の特性と理解
- 12 高機能自閉症の特性と理解
- 13 二次障害の予防と医療的なケア

【評価方法】

期末試験の成績に、出席状況と授業中の学習態度を加味して総合的に評価する。

【テキスト】

テキストは使用せず、資料を配付する。

【参考文献・資料】

授業の中で必要に応じて紹介する。

肢体不自由者の心理・生理・病理

二宮 昭

【授業の概要】

脳性まひ者を中心に、肢体不自由者について定義や概念、原因や症状、また、認知や行動などの心理的特徴について概説し、その障害特性の理解を深める。そして、肢体不自由者の教育において、どのようなことが問題となるのか、そのような児童生徒とどのようにかかわることが必要となるのか、ということについての基礎的知識を得る。

【授業の目標】

肢体不自由者についての理解を深めるとともに、その教育を行うための基本的態度を養う。

【授業計画】

1. 肢体不自由者とは
 - 1) 定義と概念-なぜ〇〇障害ではないのか
 - 2) 原因と症状-脳性まひを中心に
2. 肢体不自由者の特性
 - 1) 知的能力や人格
 - 2) 認知行動-世界をとらえる場としての「からだ」
 - 3) コミュニケーション-やりとりの基盤としての「からだ」
3. 肢体不自由者の教育と「からだ」
 - 1) 教育における「からだ」の問題
 - 2) 「からだ」を通じた教育実践の重要性
4. テスト

【評価方法】

期末テストの成績による。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献・資料】

適宜紹介する。

知的障害者の心理・生理・病理

小塩允護

【授業の概要】

知的障害のある子どもの心理面や学習上の特性、発達の様相や実態把握の仕方、知的障害の病因となる出生前・周産期・出生後の危険因子、ダウン症候群など知的障害を伴う代表的な症候群、知的障害に伴いやすい二次的障害について学習する。また、知的障害を伴うことが多い自閉症のある子どもについても併せて学習する。

【授業の目標】

知的障害の発生原因や特性を把握し、一人一人の持てる力を最大限に伸ばし、二次障害を起こさないためにどんな配慮が必要かを理解する。

【授業計画】

1. 遺伝的要因
2. 染色体異常
3. 周産期及び出生後の要因
4. 発達の見方と実態把握
5. ダウン症候群の特性と理解
6. 固定観念と二次障害

【評価方法】

期末試験の成績に、出席状況と授業中の学習態度を加味して総合的に評価する。

【テキスト】

テキストは用いず、資料を配付する。

【参考文献・資料】

授業中に適宜紹介する。

病弱者の心理・生理・病理

渡邊一功

【授業の概要】

何らかの病気のために長期・短期の入院治療を受けながら教育を受けている病弱者の指導に関わるために、まず、病弱者の概念と共通の心理について考えた上で、病弱の種類別に生理・病理の面から理解を深めていく。程度に応じた指導の必要性や、障害の種類・程度の多様化が進んでいる現状についても言及し、考えていきたい。

【授業の目標】

病弱者の教育に際し必要な基本的事項を理解する。

【授業計画】

- 第1回 病弱者教育の対象疾患
- 第2回 病弱者の心理と対応
- 第3回 悪性腫瘍
- 第4回 循環器疾患
- 第5回 腎臓疾患
- 第6回 呼吸器疾患
- 第7回 内分泌疾患
- 第8回 アレルギー・膠原病
- 第9回 神経疾患
- 第10回 心身症
- 第11回 病弱者のリハビリテーション
- 第12回 事例から学ぶ医療従事者の役割
- 第13回 教育と医療の連携
- 第14回 まとめ
- 第15回 試験

【評価方法】

出席状況、受講態度、筆記試験を総合して評価する

【テキスト】

病弱・虚弱児の医療・療育・教育（宮本 信也 土橋 圭子編 金芳堂 ISBN 4-7653-1187-2）

【参考文献・資料】

標準小児科学 第6版（森川昭廣ほか編 医学書院 2006）
 ネルソン小児科学 原著 第17版 原著編集 R.E.Behrmanほか 衛藤義勝
 監修 エルセビア・ジャパン2006
 小児科学 第3版（大関武彦他総編 医学書院2008）

言語障害者の心理・生理・病理

二井裕子

【授業の概要】

言語障害者の人格の成長と言語の発達の実態を理解するために、健全な言語の段階やことばの基盤として、発声、構音、聴覚の機構とその仕組み、そして中枢神経系の機構について学ぶ。そして言語障害の発生の仕組みを、言語発達障害、聴覚障害、構音障害、高次脳機能障害について学び、原疾患と言語障害の関わりについて理解を深める。

【授業の目標】

言語障害に関する脳、聴覚器官、発声発語器官のしくみや働きなど医学的な知識を学ぶ。発達障害のとらえ方を知る。発達や言語症状の評価法などを学び、支援のプログラムの立て方を考える。

【授業計画】

1. 言語障害のあらまし、言語に関する脳の仕組み
2. 発声発語器官、聞こえの仕組み
3. 発達と発達障害
4. 言語発達、聞こえの発達
5. 発達の評価、発達検査
6. 知能の評価、知能検査
7. 言語発達の評価、言語発達検査
8. 言語表出の評価、語彙検査、構音検査
9. その他の言語検査（失語症、読み書き等）
10. きこえの評価、聴力検査
11. 言語を支える周辺の能力の評価
12. 家族への援助
13. 支援プログラム

【評価方法】

試験の成績に、出席状況、授業中の態度、レポートの内容をもとに、総合的に評価する

【テキスト】

テキストは使用せず、資料を配布する

【参考文献・資料】

授業の中で必要に応じて紹介する

重複障害者の心理・生理・病理

梅本美恵子

【授業の概要】

これからの特別支援教育においては、ひとりひとりのニーズに応じて支援することが強く求められている。このようななかにあつて重複障害者の指導を担う教員には、個々の児童生徒の実態をいかに理解するか、そのためには心身両面からの十分な実態把握が必要とされている。生理学、運動生理学、身体の運動訓練、摂食、医療的ケア等についての知識と技能について述べる。

【授業の目標】

重複障害者の生理学、運動生理学や心身の発達を学び、教育現場での医療的ケアの在り方を理解する。

【授業計画】

- 1 重複障害者とは
- 2 生理学的側面からの理解
- 3 運動生理学的側面からの理解
- 4 心理学的側面からの理解
- 5 コミュニケーション発達の理解
- 6 コミュニケーション関係の形成
- 7 医療との連携
医療的ケアの現状と課題
- 8 福祉との連携
- 9 労働との連携

【評価方法】

期末試験の成績に、出席状況や受講態度等を加味して総合的に評価する。

【テキスト】

特別支援学校における重度・重複障害児の教育（姉崎弘著 大学教育出版）

【参考文献・資料】

授業の中で必要に応じて紹介する。

情緒障害者の心理・生理・病理

後藤秀爾

【授業の概要】

「情緒障害」の語はもともと行政用語である。一応、自閉症を含む心の問題を抱える子どもを示すものと捉えた上で、その子どもたちの体験世界をどのように理解するか、という点を中心に考えを深める。高機能を含めた自閉症のほか、場面緘黙、不登校、ひきこもり、リストカット症候群、被虐待症候群等々、最近、注目されている心の病理について、多面にわたる理解の目をひらくことが、授業の狙いである。

【授業の目標】

子どもの障害種別を判断する知識だけではなく、症状や問題行動によって発信しているメッセージや、目の前の子どもの真の姿を理解するための視点のおき方を、主として学びとって欲しい。

【授業計画】

- 第1回 障害児問題からみた学校のいま（取り組むべき課題は何か）
- 第2回 あらためて障害概念について（障害とは何か）
- 第3回 発達障害と情緒障害・1（情緒障害定義の多様性）
- 第4回 発達障害と情緒障害・2（概念の区分と重なり）
- 第5回 高機能自閉症とその周辺・1（感覚過敏から派生すること）
- 第6回 高機能自閉症とその周辺・2（自己感と自己イメージの生成）
- 第7回 ADHD・学習障害（時代が生み出す障害）
- 第8回 児童虐待・1（世代間伝達の視点）
- 第9回 児童虐待・2（解離性障害との関連）
- 第10回 不登校（時代の変化と病理の変化）
- 第11回 リストカット・摂食障害（情緒性と身体性）
- 第12回 場面緘黙・引きこもり（非社会的行動の意味するもの）
- 第13回 非行・いじめ・暴力（攻撃性と発達エネルギー）
- 第14回 モンスターペアレント（親としての苦悩を知る）
- 第15回 時代の病理を見る視点（真の課題はどこにあるか）

【評価方法】

主として期末試験の結果による

【テキスト】

使用しない

【参考文献・資料】

母子臨床と世代間伝達（渡辺久子著 金剛出版）

軽度発達障害者の心理・生理・病理

二宮 昭

【授業の概要】

近年、教育現場で大きな問題の1つになっているのが、落ち着いて教室にいないことができない、他者との関係がうまくとれない、という子どもたちの存在である。そうした子どもたちの多くを占める、高機能自閉症（アスペルガー症候群）、学習障害（LD）、注意欠陥／多動性障害（ADHD）などの軽度発達障害について、定義や概念、症状、心理的・行動的特徴について概説し、その障害特性についての理解を深める。

【授業の目標】

軽度発達障害者についての理解を深めるとともに、その教育を行ううえで重要な基本的態度を養う。

【授業計画】

1. 軽度発達障害とは
2. 高機能広汎性発達障害（高機能自閉症・アスペルガー症候群）
 - 1) 自閉症の概念の変遷
 - 2) 定義と概念
 - 3) 心理的・行動的特徴
3. 学習障害（LD）
 - 1) 定義と概念
 - 2) 心理的・行動的特性
4. 注意欠陥／多動性障害（ADHD）
 - 1) 定義と概念
 - 2) 心理的・行動的特徴
5. テスト

【評価方法】

期末テストの成績による。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献・資料】

適宜紹介する。

障害者検査基礎

小塩允護

【授業の概要】

障害のある子どもの教育を充実させる上で必要とされるアセスメントについて、検査法、行動観察法、面接法を中心に概観し、各論として代表的な発達検査法、知能検査法、視覚検査法等の実施法と留意事項、各検査の解釈の仕方、諸検査を活用する場合の実際と総合的な解釈の仕方、検査結果から指導課題を見いだす方法等について学習する。

【授業の目標】

障害のある子どもに対するアセスメントの概要を理解するとともに、代表的な検査の実施法と解釈法を習得する。

【授業計画】

1. 障害のある子どものアセスメント概論
2. WISC-Ⅲの実施と解釈
3. K-ABCの実施と解釈
4. アセスメントの総合的解釈

【評価方法】

期末試験の成績に、出席状況と授業中の学習態度を加味して総合的に評価する。

【テキスト】

テキストは用いず、資料を配付する。

【参考文献・資料】

授業の中で適宜紹介する。

視覚障害者の指導

成富清武

【授業の概要】

視覚障害者についての理解を深めるために、先ず心理・生理・病理について初歩的な知識を概観した上で、各教科の指導の工夫について考えていく。自立活動を促す具体的な方法を、点字指導を取り入れながら、情報機器の活用も交えた指導法を考え、職業教育と進路指導に繋げていく。

【授業の目標】

障害がある幼児児童生徒に対する理解を深めるとともに、その保護者の心情の理解に努め、共生の立場で障害者支援ができる方法や態度を身につける。

【授業計画】

最初に障害者全般についての基礎的事柄を理解した上で、視覚障害者の心理、行動特性等に、具体的事例や実技を交えながら触れる。

- 1 障害者と親の心情の理解
- 2 視覚障害者と親の心情の理解
- 3 視覚障害者の行動特性
- 4 歩行指導の実際
- 5 視覚障害者の実態把握の方法と教科指導
- 6 職業教育と進路指導
- 7 交流教育の実際とまとめ

【評価方法】

出席数、授業態度、レポート提出等から総合的に評価する。

【テキスト】

テキストは使用しない。必要に応じて資料を配付する。

【参考文献・資料】

視覚障害教育入門Q&A（全国盲学校長会編著ジアース教育新社）
視力0.06の世界（小林一弘著 ジアース教育新社）
点字の学習指導の手引き（平成15年度改訂版 文部科学省）
盲・聾・養護学校学習指導要領（幼稚部は教育要領）（文部科学省）

聴覚障害者の指導

梅本美恵子

【授業の概要】

聴覚障害者についての理解を深めるために、先ず心理・生理・病理について初歩的な知識を概観した上で、各教科の指導の工夫について考えていく。自立活動を促す具体的な方法を、手話を活用した言語活動を取り入れながら、情報機器の活用も交えた指導法を考え、職業教育と進路指導に繋げていく。

【授業の目標】

聴覚に障害のある幼児、児童又は生徒への指導理念や教育課程、指導方法を理解し、特別支援教育の指導の基礎知識を学ぶ。

【授業計画】

- 1 きこえと聴覚障害
耳の機能、難聴の種類と程度
- 2 聴覚障害の言語指導とコミュニケーション
乳幼児期の教育相談、幼稚部からの指導
- 3 聴覚の障害に応じた教育課程の考え方
早期教育、各教科での配慮
- 4 聴覚障害者の教育課程の編成
- 5 自立活動の内容と具体的な方法
聴覚活用（補聴器、人工内耳）
発音・発語
コミュニケーションと言語
キューサイン、指文字、手話
- 6 各教科の指導法の工夫
小学部段階における体験的な言語概念の形成
中学部段階における読書習慣の形成
高等部段階における情報機器等の活用
- 7 職業教育と進路指導の内容

【評価方法】

小テストの成績に、出席状況や受講態度等を加味して総合的に評価する。

【テキスト】

テキストを使用せず資料を配付する。

【参考文献・資料】

授業の中で必要に応じて紹介する。

知的障害者の指導

小塩允護

【授業の概要】

知的障害のある子どもの教育に関する現状理解に基づき、知的障害の特性に応じた教育課程編成の在り方、教科別の指導や領域別の指導、領域・教科を合わせた指導の在り方、授業の実際、具体的な指導法、職業教育と進路指導の実際、自立活動の指導の実際、指導における情報機器等の活用を含む教材・教具の開発・利用等について総合的に学習する。

【授業の目標】

知的障害教育の歴史と現状を正しく認識し、知的障害の特性に応じた生活経験主義教育の考え方とその具体的な実践のあり方について理解する。

【授業計画】

- 1 知的障害のある子どもの教育の歴史
- 2 知的障害のある子どもの教育の現状
- 3 知的障害に対応した教育課程編成の基本的考え方
- 4 領域・教科を合わせた指導
- 5 教科別、領域別の指導
- 6 自立活動の指導
- 7 総合的な学習の時間
- 8 情報機器等の活用
- 9 自閉症への対応
- 10 特別支援学級における教育
- 11 知的障害のある生徒の社会参加の実態
- 12 知的障害のある生徒の職業教育
- 13 進路指導と進路の学習

【評価方法】

期末試験の成績に、出席状況と授業中の学習態度を加味して総合的に評価する。

【テキスト】

テキストは使用せず、資料を配付する。

【参考文献・資料】

授業の中で必要に応じて紹介する。

肢体不自由者の指導

鈴木郁子

【授業の概要】

肢体不自由者・病弱者の教育の成立はともに医療が密接に関連しており、整形外科の発展に伴って肢体不自由者に対する教育の重要性が認識されるとともに、療養所から小児科病棟の充実の流れとともに、病気療養者の治療と教育の相互の必要性が説かれるようになった。対象となる児童生徒の病種・病状や障害の程度およびその教育的配慮事項、家庭・医療機関・福祉施設等との連携の在り方について講義する。

【授業の目標】

肢体不自由教育および病弱教育の基本を理解し、個々の障害特性や教育的ニーズに応じた指導の在り方について学ぶ。

【授業計画】

- 1 特別支援教育と肢体不自由者・病弱者の教育の歴史
- 2 肢体不自由者の概念とその理解
- 3 病弱者の概念とその理解
- 4 指導計画とその展開
 - (1) 教育課程編成の基本的な考え方
 - (2) 授業づくりの基本
 - (3) 自立活動の指導
 - (4) 個別的教育支援計画の作成
- 5 教育機器の利用と活用
- 6 健康管理と医療的ケア
- 7 進路指導と職業教育
- 8 関係諸機関等との連携

【評価方法】

期末試験の成績に出席状況、授業中の学習態度、レポートを加味して総合的に評価する。

【テキスト】

肢体不自由教育の基本とその展開（日本肢体不自由教育研究会監修 慶応義塾大学出版会）

【参考文献・資料】

授業のなかで必要に応じて紹介する。

090102505_1110 掲載順 : 1110

MASTER ★

重複障害者の指導

伊藤昭道

【授業の概要】

特別支援学校における最近の重複障害学級在籍率は全体では44%前後である。今後の特別支援学校において、ひとつの指導の領域を形成する。障害が重複しかつ重度化している故に単一障害者に比べて指導の難しさがある。この授業では、重複障害者の概念、実態把握の方法、教育課程の編成、個別の指導計画の作成、評価の方法、具体的な指導の実際等について解説し、基礎的な知識と指導法を身につけさせる。

【授業の目標】

重複障害児の指導内容及び指導方法、学校生活の支援について基本的な理解を図る。

【授業計画】

- 1 重複障害者の概念
- 2 特別支援学校における重複障害者の実態
- 3 重複障害者の教育課程編成と個別の指導計画の作成
 - (1) 重複障害者教育課程編成上の特例
 - (2) 個別の指導計画の作成・評価
- 4 重複障害者の指導の実際
 - (1) 知的障害や視覚障害、聴覚障害等を伴う重複障害者
 - (2) 重度・重複障害者
 - (3) 指導法の工夫、教材の開発、教育の形態
 - (4) 実践事例
- 5 重度・重複障害者の学校生活に係わる課題
 - (1) 支援体制
 - (2) 教育環境
 - (3) 健康保持・安全確保
- 6 卒業後の生活
- 7 まとめとテスト

【評価方法】

出席状況、授業中の態度、課したレポートの内容、期末試験の成績ををもとに総合的に評価する。

【テキスト】

特に指定しない。授業の中で資料を配布する。

【参考文献・資料】

盲・聾・養護学校学習指導要領（文部省）他。授業の中で紹介する。

090102505_1120 掲載順 : 1120

MASTER ★

言語障害者・情緒障害者の指導

二井裕子

【授業の概要】

言語障害（言語発達障害、聴覚障害、構音障害、高次脳機能障害など）と情緒障害（広汎性発達障害、緘黙症、不登校、集団不適応など）の種類とその特徴を学び、障害のしくみを考慮した指導の基本的原理について学習する。また障害の特徴を理解する枠組として、認知言語発達にかかわりのある感覚運動的知能の発達、象徴機能の発達、情緒の発達に関連のある心理社会的成熟について学ぶ。

【授業の目標】

言語障害と情緒障害の概要を知り、支援についての基本的な理解を図る。

【授業計画】

- 1 言語障害、情緒障害、発達障害
- 2 発達の考え方：発達論
- 3 言語の発達と障害
- 4 情緒の発達と障害
- 5 言語障害：発声、発語、構音の障害、吃音
- 6 言語障害：高次脳機能障害、学習障害
- 7 言語障害：言語発達障害（知的障害、脳性麻痺）
- 8 言語障害：言語発達障害（自閉症、広汎性発達障害）
- 9 聴覚障害
- 10 情緒障害：広汎性発達障害
- 11 情緒障害：ADHD、不登校、虐待
- 12 障害の特徴のとりえ方
- 13 支援のあり方

【評価方法】

期末試験の成績に、出席状況、授業中の態度、レポートの内容をもとに、総合的に評価する。

【テキスト】

テキストは使用せず、資料を配布する。

【参考文献・資料】

授業の中で必要に応じて紹介する。

発達障害者の指導

二宮 昭

【授業の概要】

発達障害者の指導・教育においては、「発達」や「障害」ということをどのように捉えたらよいのかということをもとに論じる。その上で、具体的な事例を交えながら、発達障害者の実際の指導のあり方について検討する。とくに、単に子どもを変えるという発想だけではなく、指導や援助のあり方を変える、つまり指導者側が変わることで子どもが変わるという指導法について考察する。

【授業の目標】

発達障害児についての理解を深めるとともに、その教育・指導の具体的な手だてを考えるうえで重要となる基本的な態度を身につける。

【授業計画】

- 1 福祉は障害者？－障害者の受け容れの歴史
- 2 障害とその改善－障害の重層的構造
- 3 発達とは－ピアジェとヴィゴツキーを中心に1
- 4 発達とは－ピアジェとヴィゴツキーを中心に2
- 5 発達障害とは
- 6 知的障害とは
- 7 知的障害者の指導
- 8 自閉症とは (1)
- 9 自閉症者のコミュニケーション－やりとりの基盤としての「からだ」
- 10 自閉症者の指導1
- 11 自閉症者の指導2
- 12 まとめ
- 13 テスト

【評価方法】

期末テストの成績による

【テキスト】

使用しない

【参考文献・資料】

適宜紹介する

知的障害者の教育課程及び指導法

小塩允護

【授業の概要】

学習指導要領に基づき、知的障害の特性に応じた教育課程編成の在り方について、特に領域・教科を合わせた指導と自立活動の指導を中心に学習する。指導法に関しては、個別的教育支援計画と個別の指導計画に基づき、計画-実行-評価-改善という系統的指導サイクルを、応用行動分析の視点や指導手続きも含め、具体例を通じて学習する。

【授業の目標】

(1)生活単元学習を代表とする領域・教科をあわせた指導、自立活動の指導を中心に学習指導の仕方を理解する。
(2)応用行動分析の理論とそれに基づく指導法を理解する。

【授業計画】

1. 応用行動分析概論
2. 応用行動分析に基づく指導法の実践
3. 特別支援学校における年間指導計画の実践
4. 生活単元学習の実践
5. 遊びの指導の実践
6. 日常生活の指導の実践
7. 作業学習の実践
8. 自立活動の指導を核とする課題学習の実践

【評価方法】

期末試験の成績に、出席状況と授業中の学習態度を加味して総合的に評価する。

【テキスト】

テキストは用いず、資料を配付する。

【参考文献・資料】

授業の中で適宜紹介する。

病弱者の教育課程及び指導法

鈴木郁子

【授業の概要】

病弱者の教科指導においては、小学校、中学校、高等学校に準じて行われるものであるが、とくに一人一人の病気の種類や程度の応じた教育内容の精選や指導上の工夫や配慮が必要である。教育課程の実施にあたり、教科・領域の特質および指導上の課題、指導計画の作成、指導上の留意事項、教材・教具の創意・工夫、評価の工夫と改善、医療機関等との連携について講義をする。

【授業の目標】

病弱者という障害の理解と今日的課題を正しく認識し、個々のニーズに応じた具体的な実践の在り方を学ぶ

【授業計画】

- 1 病弱教育の歴史とその歩み
- 2 主な疾患の変遷と病弱教育の課題
- 3 指導計画とその展開
 - (1) 教育課程の編成
 - (2) 教科の学習
 - (3) 自立活動の指導
 - (4) 総合的な学習の時間の在り方
 - (5) 健康安全指導
 - (6) 個別的教育支援計画の作成
 - (7) 進路指導
- 4 特別支援教育の制度の中における病弱教育の役割
- 5 まとめとテスト

【評価方法】

期末試験の成績に出席状況、学習態度、レポートを加味して総合的に評価する。

【テキスト】

テキストは使用せず、資料を配布する。

【参考文献・資料】

授業の中で必要に応じて紹介する。

肢体不自由者の教育課程及び指導法

二宮 昭

【授業の概要】

肢体不自由者の教育においては、重度・重複化という流れの中で一人一人の発達に応じたきめ細かな指導が必要となる。その際、重要な問題となる「からだ」と「ところ」の結びつきという面から、肢体不自由者の教育をどのように組み立てて、どのような指導を行うことが重要かということについて、できるだけ多くの実践例に基づきながら、具体的な指導法について検討する。

【授業の目標】

肢体不自由者の教育における「からだ」を通じた働きかけの意義と実践方法を学ぶ。

【授業計画】

1. 肢体不自由者の「からだ」と「ところ」
 - 1) 傾く垂直線-世界を捉える場としての「からだ」
 - 2) 主体的行動の出現・拡大-自己の確立と「からだ」
 - 3) 気持ちが通い合う-コミュニケーションの基盤としての「からだ」
2. 「からだ」を通じた教育の実践例
3. 肢体不自由者の教育における「からだ」
 - 1) 児童・生徒の側からみた「からだ」を通じた教育の意義
 - 2) 教師の側からみた「からだ」を通じた教育の意義
 - 3) 実践にあたっての留意点
4. テスト

【評価方法】

期末テストの成績による。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献・資料】

適宜紹介する。

言語障害者の教育課程及び指導法

廣 瀨 忍

【授業の概要】

言語障害者の基本的特性を考慮した教育の原理にもとづき、言語障害者に言語障害の改善のみを指導するのではなく、全人的な成長を目指す形の教育のあり方について学ぶ。内外の各種の指導法を用いた言語障害者の特徴に対応した教育課程の編成の方法を学ぶ。コミュニケーション、自立活動、情報機器の活用などの指導について具体的な方法を学ぶ。

【授業の目標】

発達の現れる言語障害の種類とそれぞれの特性を理解し、わが国の教育制度の中でどのように支援が行われているのかを知る。特に、通級による指導の制度を学ぶことで、支援者間の連携の重要性が論じられるようになる。

【授業計画】

1. 言語障害のある児童生徒の特性
2. ことばの生成のメカニズム①呼吸と発声
3. ことばの生成のメカニズム②構音
4. 言語障害の種類と原因
5. 構音障害の特徴とその支援
6. 吃音の特徴とその支援
7. 音声障害の特徴とその支援
8. 言語発達の遅れの特徴とその支援
9. 読み書き障害の特徴とその支援
10. 聴覚障害者の言語の特徴とその支援
11. 通級による指導の制度とその歴史
12. 通級による指導の現状
13. 通級指導教室と通常の学級との連携
14. 特別支援学級・特別支援学校における言語指導
15. 授業内容の復習と確認

【評価方法】

学期末テストおよび授業への参加態度の評価による

【テキスト】

特別支援教育を学ぶ 第2版 岐阜大学特別支援教育研究会編 ナカニシヤ出版

【参考文献・資料】

講義の中で随時配布する。
参考図書 「ふしぎだね!? 言語障害のおともだち」発達障害を考える本8 ミネルヴァ書房

情緒障害者の教育課程及び指導法

後藤秀爾

【授業の概要】

自閉症者は、主としてコミュニケーションの発達にかかわる障害を持ち、認知機能のアンバランスが大きいことが特徴となる。そのため、教育環境の整備と、特異な才能の芽を見つけて開花させるための方策が不可欠となる。また、その他の情緒障害者は、本来的に認知発達に障害のないものを指しており、むしろ心の傷を癒し、葛藤を整理するという援助が中心となる。この授業では、対応のための基盤となる視点を提供する。

【授業の目標】

技法や方法論にとらわれることなく、正しい子ども理解に基づいた対応の基本指針を学ぶことが、目標である。

【授業計画】

- 第1回 あらためて教育とは（教えることと育てること）
- 第2回 指導技法の位置づけ（障害児指導技法のいろいろ）
- 第3回 技法・理論・理念（指導技法を生かすもの）
- 第4回 実践者としての学び方（統合的臨床実践の考え方）
- 第5回 生活者としての子どもへの視点
- 第6回 発達障害における2次障害への対応
- 第7回 自閉症対応の基本と2次障害
- 第8回 自閉症児の集団参加支援
- 第9回 ADHD・学習障害への支援
- 第10回 児童虐待の家族支援の考え方
- 第11回 不登校・場面緘黙・引きこもりへの支援
- 第12回 リストカット・背職障害への支援
- 第13回 非行・いじめへの介入
- 第14回 家族対応の基本（子どもの課題と親の課題）
- 第15回 発達環境としての学校（子どもの課題と教師の課題）

【評価方法】

主として期末試験の結果による

【テキスト】

使用しない

【参考文献・資料】

心裡臨床という営み 生きるということと病むということ 村瀬嘉代子他著 金剛出版

重複障害者の教育課程及び指導法

梅本美恵子

【授業の概要】

「今後の特別支援教育のありかたについて（最終報告）」が平成15年3月に出され、障害のある子どもたち一人一人のニーズに応じて、乳幼児から学校卒業までの一貫した支援を行うために「個別の教育支援計画」を策定することが提言された。とりわけ重複障害者の教育にあたっては、一人一人の指導目標や指導内容・方法の明確化を図るため「個別の指導計画」の充実が望まれる。個々のニーズの把握、目標作り、指導内容、評価、連携する機関と組織・システムの整備、留意事項等について講義する。

【授業の目標】

障害を併せ有する児童生徒に対する特別支援教育の理念と教育課程の編成を理解するとともに、アセスメントと教育的ニーズに応じた「個別の指導計画」の策定及び教育実践の技能を学ぶ。

【授業計画】

- 1 重複障害児の教育とは
- 2 重複障害の診断と発達評価
- 3 教育課程の編成
- 4 個別の教育支援計画の策定
アセスメントと個別の指導計画
- 5 自立活動等の指導
- 6 訪問教育と家族支援
- 7 重複障害児の指導例
脳性まひ児の指導
難治てんかん児の指導
進行性筋ジストロフィー症児の指導
在宅訪問教育の指導
医療的ケア児の指導
- 8 個別の移行支援計画

【評価方法】

期末試験の成績に、出席状況や受講態度等を加味して総合的に評価する。

【テキスト】

特別支援学校における重度・重複障害児の教育（姉崎弘著 大学教育出版）

【参考文献・資料】

授業の中で必要に応じて紹介する。

軽度発達障害者の教育課程及び指導法

二宮 昭

【授業の概要】

学習障害（LD）や注意欠陥／多動性障害（ADHD）など軽度発達障害者の教育について、その授業の組み立て方や実際の指導・援助の方法について検討する。とくに彼らの問題の基本となると思われる他者とのコミュニケーション（やりとり）をどのように展開させていくかということを中心に、学級集団での指導と個別指導の両面から、より望ましい指導実践のあり方を探っていく。

【授業の目標】

軽度発達障害者への具体的な教育方法を学ぶ。

【授業計画】

1. 軽度発達障害者の指導・援助にあたって
 - 1) 彼らの「障害」をどう捉えるか
 - 2) 指導・援助者としての基本的態度
2. 軽度発達障害者のコミュニケーションの指導
 - 1) 軽度発達障害者のコミュニケーションの問題
 - 2) これまでよく行われてきた指導・援助法とは
 - 3) やりとりを深める指導・援助法への展開
3. 軽度発達障害者の知的行為の指導
 - 1) 読み・書き能力の開発
 - 2) 数的操作能力の形成
4. 個別指導と学級集団での指導
5. テスト

【評価方法】

期末テストの成績による。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献・資料】

適宜紹介する。

児童英語

Pike—McFadden Rowena

【授業の概要】

児童英語教育の今に至る経緯を振り返りながら、公立小学校をはじめとする現代の動きについて学び、今後の日本における児童英語教育の新たな方向性を探る。諸外国で行われている児童英語教育や、早期英語教育の意義についてリサーチやプレゼンテーション活動を通じて考察し、「楽しい」だけではなく着実に運用能力につながる効果的な英語教育を追及する。

【授業の目標】

児童英語教育の経緯、教材、授業内容、意義、現状等からその課題と可能性を考察する。

【授業計画】

1. オリエンテーション：児童英語教育とは
2. 児童英語教育の経緯
3. 児童英語教育の現状
4. 教材研究（1）
5. 教材研究（2）
6. 効果的なゲーム例（1）
7. 効果的なゲーム例（2）
8. 公立小学校の英語教育（1）
9. 公立小学校の英語教育（2）
10. 指導案作成
11. 教材作成
12. 模擬授業
13. 模擬授業
14. 模擬授業
15. 模擬授業の反省とまとめ

【評価方法】

授業への参加態度50%、課題30%、模擬授業20%、等による総合評価

【テキスト】

ロングマン英語指導のキポイントシリーズ 児童英語の効果的指導法 (Wendy A. Scott & Lisbeth H. Ytreberg著 ロングマン) (日本語版)

児童英語教育法 I

川北祥子

【授業の概要】

児童英語教育で使われている様々な教材・教具を取り上げ、児童英語教育を効果的に行うための指導法について学びます。英語のリズムやイントネーションの習得を目的とした歌やチャンツ、文字学習に有効なフォニックス、想像力や読解能力を養う絵本、学習活動を豊かにするゲームやアクティビティなどを紹介し、子どもに英語を教える際に役立つテクニックを体験的に習得します。

【授業の目標】

児童英語教育における様々な指導法や基本的なスキルを習得する。

【授業計画】

1. オリエンテーション：児童英語教育 I
2. 公立小学校や民間の教育機関における英語教育例
3. 児童英語指導例（1）
4. 児童英語指導例（2）
5. 児童英語指導例（3）
6. 公立小学校のクラス運営における英語
7. 他教科と英語との連携
8. 低学年を対象とした英語教育例
9. 高学年を対象とした英語教育例
10. 国際理解教育の一環としての英語教育とは（1）
11. 国際理解教育の一環としての英語教育とは（2）
12. 模擬授業（低学年対象）
13. 模擬授業（高学年対象）
14. ディスカッション
15. まとめ

【評価方法】

授業への参加態度、テストの成績、模擬授業等による総合評価

【テキスト】

子どもに英語をどう教えるか Wendy A.Scott / Lisbeth H.Ytreberg 著
ピアソン・エデュケーション

【参考文献・資料】

必要に応じて紹介します。

児童英語教育法I

Pike—McFadden Rowena

【授業の概要】

児童英語教育で使われている様々な教材・教具を取り上げ、児童英語教育を効果的に行うための指導法について学びます。英語のリズムやイントネーションの習得を目的とした歌やチャンツ、文字学習に有効なフォニックス、想像力や読解能力を養う絵本、学習活動を豊かにするゲームやアクティビティなどを紹介し、子どもに英語を教える際に役立つテクニックを体験的に習得します。

【授業の目標】

児童英語教育における様々な指導法や基本的なスキルを習得する。

【授業計画】

1. オリエンテーション：児童英語教育 I
2. 公立小学校や民間の教育機関における英語教育例
3. 児童英語指導例（1）
4. 児童英語指導例（2）
5. 児童英語指導例（3）
6. 公立小学校のクラス運営における英語
7. 他教科と英語との連携
8. 低学年を対象とした英語教育例
9. 高学年を対象とした英語教育例
10. 国際理解教育の一環としての英語教育とは（1）
11. 国際理解教育の一環としての英語教育とは（2）
12. 模擬授業（低学年対象）
13. 模擬授業（高学年対象）
14. ディスカッション
15. まとめ

【評価方法】

授業への参加態度、テストの成績、模擬授業等による総合評価

【テキスト】

未定

児童英語教育法 II

川北祥子

【授業の概要】

児童英語教育における重要かつ配慮すべきポイントをまとめ、大人とは異なる子どもの心理について考慮しながらカリキュラムやレッスンの組み立て方について学びます。小学校や民間の児童英語教室等、実際に行われている児童英語教育の実践例を参考にしながら、子どもの年齢や習得度に合わせたカリキュラムデザイン、及び授業運営計画を作成し模擬授業を行います。

【授業の目標】

子どもの年齢や英語の習得度に合わせた教案を作成し、授業運営する。

【授業計画】

1. オリエンテーション：児童英語教育 II
2. 公立小学校や民間の児童英語教育の実情と課題
3. 英語教育実践例（公立小学校）
4. 英語教育実践例（民間の児童英語教育）
5. 他国の外国語教育（1）
6. 他国の外国語教育（2）
7. 児童英語教育の5W1Hとは（1）
8. 児童英語教育の5W1Hとは（2）
9. 年間カリキュラム作成（1）
10. 年間カリキュラム作成（2）
11. 指導案作成（1）
12. 指導案作成（2）
13. 模擬授業（1）
14. 模擬授業（2）
15. 模擬授業の反省とまとめ

【評価方法】

授業への参加態度、テストの成績、模擬授業等による総合評価

【テキスト】

小学校ならではの英語活動（宗誠著 文溪堂）

【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

下記科目は今年度開講しません。

専門演習 II a

【授業の概要】

専門演習Iabを基礎に、各担当者の専門分野の特性を生かし、教育諸分野に関連する個々の学生の興味関心のさらなる深化と学問的探求力の強化、ならびにその教育実践場面での意義について学ぶ。

- 富安 玲子：専門演習Iabで習得したカウンセリングのスキルをロールプレイによって確認し、検討し合うことで実践への適用を目指す。
- 小塩 允護：知的障害等発達障害のある人の自立と社会参加の現状を把握し、キャリア教育という視点から指導内容・方法を考察する。
- 二宮 昭：個人発表と討論を通して、各自の研究テーマの確定と研究方法の具体化を行う。合わせて、発達障害児の教育実践における研究の意義について検討する。
- 佐藤 成哉：地球環境やエネルギー教育などに関する身近な諸問題の中からテーマを設定し、小心理学や総合的な学習の時間で活用できる教材の開発へと深化させる。
- 松田 秀子：専門演習Iabに引き続き、健康教育や体育科教育に関する研究成果を報告し、発表・討議する。
- 渡邊かよ子：生涯発達支援と教育に対する各自の問題関心の深化を図りつつ、自らの研究課題に関連する先行研究の成果を総括し、独自テーマによる探求を開始する。
- 小出 隆司：仮想教案をもって、地域の小学校の生活科授業を参観し、現場教師の実践に学ぶ。意見交流をし、実践的認識を深め、授業づくりと授業分析の基礎的な力量を培う。
- 伊藤 昭道：応答性の乏しい重度重複障害児に働きかけ、その心に揺さぶりをかけ、意識レベルを高め自発的な活動を促す教材・教具を開発する。
- 石黒 昭吉：教材づくりについて、基礎学力の向上・応用力の育成・数学的な考え方の育成などのさまざまな視点からの指導を通じて、児童を惹きつける算数教材の開発を演習という形で実践する。
- 大久保義男：彫塑表現の基礎として、人物を立体で表現し、立体的なものを見方や表現方法を習得する。ここでは、竹べらや塑像台づくりなどの制作から始め、彫塑の成り立ちを総合的に理解する。
- 浅田まり子：模擬授業の指導案・実践を計画し研究し、教材を的確にこなし、その時と場合に応じて効果的な授業の展開ができるように弾力性のある指導力をめざす。
- 中嶋 真弓：教科書教材の学習指導案を作成したりその指導案をもとに模擬授業を実施したりすることを通して、授業に生きる学習指導案が作成できるよう学修を行う。
- 佐藤 実芳：主に就学前及び児童期の子どもたちに関わる様々な問題から各自がテーマを設定し、教育的な視点から更に理解を深め、教育の役割について考察していく。
- 楠元 町子：国際理解や異文化交流に関して、各自が興味をもつテーマを選び、研究、発表する。その過程で、プレゼンテーション能力の向上をはかる。

卒業研究

【授業の概要】

各学生の興味関心に応じ、これまで学んできた教育関連諸分野の専門知識の確実な習得と個人による体系化を目指し、指導教員による個別指導の下、卒業論文ないしは卒業制作に取り組む。卒業論文ないしは卒業制作のテーマ設定、研究・制作方法の検討、論文執筆ならびに制作各段階において、指導教員による個別継続的指導助言を受けながら、論文や作品の完成をめざす。

教職実践演習

【授業の概要】

教職課程の最終段階として、教職課程履修者に、教員として最小限必要な資質能力を確実に身に付けさせることを目的とする。演習や事例研究、グループ討論を取り入れ、最新の教育に関する動向等を踏まえつつ、教職の意義や教員の役割等を再認識させ、教員の具体的な職務内容や学校現場の実態等について理解を深めさせ、教科指導や生徒指導等に関する実践的指導力の基礎を定着させる。

専門演習 II b

【授業の概要】

専門演習IIaに引き続き、各担当者の専門分野の特性を生かし、教育諸分野に関連する個々の学生の興味関心のさらなる深化と学問的探求力の強化、ならびにその教育実践場面での意義について学ぶ。

- 富安 玲子：教育相談事例の検討を通して相談のあり方について考えるとともに、人間関係へのカウンセリングの応用について検討する。
- 小塩 允護：専門演習II aに引き続き、知的障害等発達障害のある人の自立と社会参加をめざす上でキャリア教育という視点から支援方法を探索する。
- 二宮 昭：討論や個別指導を通して、各自が行った研究結果をどのようにまとめたらよいかを検討する。そして、2年間の専門演習での成果を卒業研究として完成させる。
- 佐藤 成哉：専門演習IIaで開発した新しい教材の実践授業への応用(模擬授業)や改善点についての考察などを通して、理科指導の総合的かつ総括的な理解を図る。
- 松田 秀子：卒業論文作成にむけて、専門演習IIaで興味・関心をもった健康教育や体育科教育に関する研究内容を発展させることを目的とする。
- 渡邊かよ子：専門演習の総仕上げとして、生涯発達支援と教育に関する各自の探究成果を発表し合い、その理論的意義と実践的課題克服の手立てを検討する。
- 小出 隆司：これまで学習した特色ある生活科実践校の実践例を基に、さらに、一步深めた生活科教育の内容と方法を創造的、実践的に考察する。総仕上げとして、グループで生活科学習指導案を作成して模擬授業をし、教師になるための実践力をつけるための仮想実習をする。
- 伊藤 昭道：障害児の日常生活の場としての学校環境について、実地調査を交えて検討し、安全で快適、そして自由に活動できる学校環境のあり方を提案する。
- 石黒 昭吉：専門演習IIaの成果を踏まえて、実際に、現行の教科書に、例えば、学生自身が考えたオリジナルな問題を取り入れたり、各単元の導入段階での児童の興味関心を持たせるトピックスなどの内容で構成されるサブテキスト作りに取り組む。
- 大久保義男：専門演習のまとめとして、多色刷り木版画を学ぶ。版の工程や材料・道具の理解を通じ、版による表現のおもしろさを習得する。また、銅版画などの多様な版方法についても理解を深める。
- 浅田まり子：豊かな感性とゆとりのある人間性、コミュニケーション能力を養成する音楽教育について、各自の教育研究発表をすることを目標とする。
- 中嶋 真弓：授業をビデオでみながら、現場における国語科教育の在り方を理解する。さらに、系統的指導に向けて、年間指導計画や教材開発についても学修する。
- 佐藤 実芳：主に就学前及び児童期の子どもたちに関わる様々な問題から各自がテーマを設定し、教育的な視点から更に理解を深め、現在求められている教育について考える。
- 楠元 町子：国際理解や異文化交流に関して、各自が興味をもつテーマを選び、研究・発表し卒業論文を作成する。その過程で、研究方法や他者に伝える手法を学んでいく。

総合表現

【授業の概要】

感じたことや考えたことを表現する意欲を養い、創造性を豊かにすることは、人間性を育む上で大切なことである。この授業はオペレッタやミュージカルを通して、学生の総合的な表現力を養うことを目的とする。身体による表現と音楽による表現を軸として(1)オペレッタ・ミュージカルとは何か(2)目的に合ったテーマ選び(3)企画・構成(4)動きづくり等の内容を演習形態で学習し、作品発表を行う。

教育実習 (特)

【授業の概要】

教育実習は、大学での学習の成果を実践し、検証する機会である。障害者の実態に触れ、学校生活全般の中で彼らが必要とする支援について考え、実践する。教科指導、特別活動、自立活動の指導、学級経営に参加して、特別支援学校の教員の業務について体験し、理解を深める。さらに、教員と保護者、関係機関との連携の様子を観察し、連携の重要性について理解を深めるとともに、教職の専門職としての自覚と誇りを高める。

ジェンダーと社会

中島美幸

【授業の概要】

文学作品を始めとする「表現」を取り上げ、「女」「男」がどのように描かれているか、また、なぜそのように「女」「男」が描かれたのか、社会的・歴史的・心理的視点から考える。また、「表現」された「女」「男」によって、社会や個人がいかに固定的なイメージに縛られているかを認識し、さらに、固着したイメージから自由な、現実の多様な女と男の生と性を「表現」に探る。

【授業の目標】

「表現」を分析する能力を高めることで、社会の身近なところにさまざまなジェンダー問題が存在することに気づき、自らの生き方を考える機会とする。

【授業計画】

- 第1回 講義概要説明
- 第2回 ことばとジェンダー
- 第3回 <娘>の表現——恋愛と自立と
- 第4回 <母>の表現——母性神話を問う
- 第5回 <家族像>を描きなおす
- 第6回 表現する女性の困難(1)——イギリス小説誕生の背景
- 第7回 表現する女性の困難(2)——樋口一葉の挑戦
- 第8回 『青鞥』の女性たち
- 第9回 男性作家のジェンダー
- 第10回 教科書のなかのジェンダー
- 第11回 幼い頃に出会った表現
- 第12回 映画のなかのジェンダー
- 第13回 「表現」と「政治」
- 第14回 まとめ

【評価方法】

学期末レポートの得点を基本に、毎回提出のコメントカードの合計点を加えた総合計で評価。コメントカードは内容に応じて加点。

【テキスト】

なし。随時、プリントを配布する。

【参考文献・資料】

講義の中でその都度紹介する。

女性学・男性学

中島美幸

【授業の概要】

男女についての定説化した知識、それによって作り出された役割、人格の内部に及ぶ性別化の影響とその結果生まれる病理などについて、さまざまな事例や理論を紹介し検討する。

【授業の目標】

男女をめぐる状況は、近年大きく変化してきた。男女に関する従来の思い込みから自由になれるよう、新しい情報に接し、自己決定できるための知識を獲得する。

【授業計画】

- 第1回 講義の概要説明
- 第2回 作られる「女らしさ」「男らしさ」
- 第3回 恋愛と結婚
- 第4回 リプロダクティブ・ヘルス/ライツ
- 第5回 母になるということ、父になるということ
- 第6回 多様性とエンバウメント
- 第7回 女性に対する暴力の根絶
- 第8回 「男らしさ」からの解放
- 第9回 「働くしかない男」と「働けない女」
- 第10回 性別分業をめぐる——現在と2055年の日本
- 第11回 男女をめぐる国際比較
- 第12回 女性解放運動の歩み
- 第13回 女性学・男性学の誕生
- 第14回 テスト

【評価方法】

学期末テストの得点を基本に、毎回提出のコメントカードの合計点を加えた総合計で評価。コメントカードは内容に応じて加点。

【テキスト】

なし。随時、プリントを配布する。

【参考文献・資料】

講義の中でその都度紹介する。

ジェンダーと社会

森井マスキ

【授業の概要】

「女」や「男」がどのように描かれてきたか。なぜそのように描かれたのか。本講義では、文学作品や映画など、「表現」の中にあられたジェンダー規範を、社会的・歴史的・心理的視点から解きほぐしながら、自由で多様な〈性〉のあり方を探っていく。

【授業の目標】

私たちの人格や生き方を規定する〈性〉について、さまざまな作品を分析していく中で、その問題点に気づき、ジェンダーバイアスから自由な思考ができるようになることをめざす。

【授業計画】

- 1 ガイダンス
- 2 近代の恋愛幻想—「或る女」
- 3 家父長制と女子教育—『十三夜』
- 4 近代の労働と主婦の誕生—『G・I・ジェーン』
- 5 性愛から純愛へ—『ベッドタイムアイズ』
- 6 家族神話の崩壊—「父の詫び状」
- 7 レイプ幻想—「ザ・レイプ」
- 8 お姫様婚姻譚—「美女と野獣」
- 9 少女マンガとフェミニズム—「マージナル」
- 10 男の子の全能感—「少年ジャンプ」
- 11 新たなセクシュアリティ—「親指Pの修行時代」
- 12 まとめ

【評価方法】

授業時に課すペーパーと、学期末テストの成績を総合して判断する。

【テキスト】

なし。随時、プリントを配布する。

【参考文献・資料】

授業中に、適宜紹介する。

女性学・男性学

竹信三恵子

【授業の概要】

男女がともに働く社会に不可欠なワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の両立）の実現には何が必要かを、これを損なう「ワーキングプア」問題の解決方法なども含めて明らかにし、問題解決の道をさぐる。

【授業の目標】

ワーク・ライフ・バランスのある暮らしに必要な働き方の仕組みや安全ネット、男女平等のための法制度のあり方を考え、パートや派遣労働などの非正規労働がもたらす貧困への対応策も含めて、人間らしい働き方のための将来設計を考える。

【授業計画】

新聞記事、ビデオを多数使って、以下の4点から戦後の企業社会がワーク・ライフ・バランスを軽視するに至った理由と、その軽視が招いた社会の行き詰まり、今後の企業社会のあるべき方向性を示す。

1. 戦後の日本の経済政策が男女分業に支えられてきた状況とこれを可能にした社会状況～高度経済成長からバブル崩壊まで
2. ワーク・ライフ・バランスへシフトする海外の変化への日本社会の対応法とその限界～男女雇用機会均等法・男女共同参画社会基本法と「ワーク・ライフ・バランス」
3. 格差社会と少子化のはざままで～ワーキングプアと福祉削減に揺れる「子育てできる社会」
4. 仕事と生活を両立できる社会構造の実現～男女が働ける税制と年金制度、福祉・雇用制度とは

【評価方法】

出席日数、授業後のフィードバックシートの提出状況と内容、授業内での質問や意見発表などの貢献度で評価する。

【テキスト】

『家事の値段』とは何か（久場嬉子・竹信三恵子著 岩波ブックレット 1999年）

【参考文献・資料】

ジェンダーから見た新聞のうら・おもて～新聞女性学入門（田中和子・諸橋泰樹著 現代書館 1996年）
ワークシェアリングの実像～雇用の分配か、分断か（竹信三恵子著 岩波書店 2002年）

女性学・男性学

中村 彰

【授業の概要】

1999年6月に成立した「男女共同参画社会基本法」がめざす社会システムを検証し、仕事の場や家庭、地域で、私たち男女がフェアに対等に生きるとは何かを説明します。日本における女性運動、男性運動のあゆみにもふれ、先人たちの心根を学びます。セクシャル・ハラスメント、ドメスティック・バイオレンス、過労死、中高年の自殺など、そのときどきの社会問題を男女共同参画の視点で読み解きます。

【授業の目標】

男女共同参画社会とは何か？ 新聞などのプリント、ビデオなどで判りやすく講義します。ワークショップで自分を振り返る工夫も試みます。

【授業計画】

- 1 ジェンダーと男女共同参画社会
- 2 日常に潜むジェンダー・バイアス
- 3 女子差別撤廃条約と男女共同参画社会基本法
- 4 ドメスティック・バイオレンス
- 5 セクシャル・ハラスメント
- 6 恋愛・性をめぐるジェンダー
- 7 多様な性を考える一性自認・性指向・インターセックス
- 8 メディア・リテラシー
- 9 教育とジェンダー
- 10 仕事社会がもたらしたもの
- 11 高齢社会とジェンダー
- 12 育児支援とジェンダー
- 13 福祉・医療現場とジェンダー
- 14 ジェンダーからみた障害者問題

【評価方法】

レポートにより評価します

【テキスト】

中村彰『男性の「生き方」再考 ―メンズリブからの提唱』世界思想社 2005
日本DV防止・情報センター編『デートDVってなに？ Q&A』解放出版社 2007

比較文化

文 嬉眞

【授業の概要】

国際化が進み、世界の文化について触れる機会が多くなってきた。この授業では、さまざまな文化を考察する上で必要な概念について学ぶことによって、世界の文化の特徴について考える。さらに、異文化交流についても講義する。

【授業の目標】

外国人が日本文化を見て表現したことを分析し、それによって「日本文化」を再認識することをその目標とする。

【授業計画】

本講義では、主に「日本の文化」に焦点を当て考えることにする。特に、外国人（見る側）が日本という異文化（見られる側の文化）と直接接触した際、どのように評価（表現方法）・認識したかを考察し、その考察からなぜそのような評価・認識があらわれるかを分析する。そして、得られた分析によって外国人（見る側）がもつ「文化」を再分析する。すなわち、外国人（見る側）が「異文化」（見られる側の文化）を見るまなざしに関して考察することによって、自文化（見る側の文化）を再認識するだろう。

1. 異文化との理解・誤解に関する一般的な概論
2. 異文化交流史における本講義の位置付け
3. 前近代の外国人（見る側）における「日本認識」および外国人（見る側）がもつ「文化」に関する考察
4. 近・現代の外国人（見る側）における「日本認識」および外国人（見る側）がもつ「文化」に関する考察
5. 異文化としての「日本文化論」

【評価方法】

1. 出席、受講態度、講義時の課題等で全体の50%を評価する。
2. 学期末レポートで残る50%を評価する。

【テキスト】

講義の中で随時、配布する。（必ず事前に読んでおくこと）

【参考文献・資料】

授業中に指示する。

比較文化

星山 幸子

【授業の概要】

国際化が進み、世界の文化について触れる機会が多くなってきた。この授業では、文化を理解するための枠組みや概念を学ぶとともに、いくつかの事例をとおして「文化」について考える。さらに、異文化交流についても講義する。その際、民族、国家、南北問題、ジェンダー等といったさまざまな視点から文化について考える。とくに、イスラームの文化の事例も授業のなかで取り上げる。

【授業の目標】

私たちの生活には、さまざまなモノや考え方に関する多くの情報があふれている。この授業では、複数の事例をとおして、異文化に対する視座について学習する。さらに、多様な文化や価値観を学ぶことにより自分自身の社会や文化を見つめ直すことを目標とする。

【授業計画】

1. 文化の理解
2. ことばと文化
3. 民族と国家と文化
4. エスニシティと文化
5. 言語、宗教、文化
6. イスラームの文化
7. イスラームと女性
8. 教育と文化
9. 文化と規範
10. 開発と文化
11. 文化のグローバル化

【評価方法】

出席、授業中の提出物、討論と質疑応答 20%
期末試験 80%

【テキスト】

テキストは使用しない。授業中に適宜プリントを配布する。

【参考文献・資料】

参考文献については、授業のなかで適宜指示する。また、ビデオなどの視聴覚資料を使用する。

東アジアの生活と文化

楊 衛平

【授業の概要】

日本は東アジアに位置し、歴史的にも東アジアの影響を強く受けている。日本と関係の深い近隣の国を中心にその生活や文化について講義する。

【授業の目標】

中国の多民族の構成からそれぞれの生活・民俗・風習を中心に取り上げ、中国の歴史・宗教・食・医学・音楽などについての認識を深め、伝統的な中国文化を理解していくことを目標とする。

【授業計画】

1. 中国の民族構成
2. 儒・仏・道とは
3. 中国の年中行事
4. 医食同源食文化
5. 東西医学の比較
6. 気文化と気功術
7. 飲茶文化と歴史
8. 伝統武術と雑技
9. 少数民族の音楽
10. 少数民族の服装
11. 中国人の百家姓
12. 中国の名勝物語
13. 中国人の考え方

【評価方法】

出席状況、受講態度、各回のレポートによって総合的に評価する。

【テキスト】

プリントを配布する。

【参考文献・資料】

中国人・文字・暮らし（李順然 東方書店）
中国仏・道・儒教史話（劉克蘇 河北大学出版社）
中国伝統文化導論（劉栄興 河北大学出版社）
中国視聴数字図書館（北京芸術科学電子出版社）

国際交流

松本一子

【授業の概要】

国際化時代といわれる現代社会は、さまざまな形で国際交流や国際協力が行われている。最近ではNPOやNGOの活躍がめざましい。国際交流の歴史を概観しながら、主として日本に滞在する多くの外国人との異文化接触を通しての国際交流のあり方について講義する。

【授業の目標】

地球市民としての意識を育むことを目標とする。

【授業計画】

1. 国際交流とは
2. 国際交流の歴史
3. 国際交流活動の現状
 - ・自治体と国際交流
 - ・地域の国際化と多文化共生
 - ・地球市民教育
 - ・ネットワークの形成と活用
4. 実践国際交流
 - ・先進的組織運営のさまざまな事例
 - ・交流から共生へ

以上を骨組みに、受講生が「自分に何ができるか」を考える材料を提供する。

【評価方法】

レポート及び平常点（リアクションカードの提出&出席率）で評価する。

【テキスト】

オリジナル教材

【参考文献・資料】

草の根の国際交流と国際協力（毛受敏浩編著 明石書店 2003年）
国際交流の組織運営とネットワーク（榎田勝利編著 明石書店 2004年）
講義の際に適宜紹介する。

生涯学習

山川法子

【授業の概要】

身近に繰り広げられている“生涯学習”について、まず知り、生涯学習の成り立ちや目的・内容等について、整理する。また、受講者自身の生涯学習について、キャリア・シートを活用しながら、考えていく。

【授業の目標】

受講者が、自らの生涯を見据えて、ライフプランを立てる方法を獲得することを目標とする。そのために、人の生涯や学習の内容等に関する基礎知識の解説と、受講者による考察を中心に行う。なお、キャリアシート等を用いた、自己分析や職業選択、ライフプラン作成の作業を行ってもらう。

【授業計画】

- 1 学習とは
- 2 生涯教育と生涯学習
- 3 身近な「学習のできる場」
- 4 主要な社会教育施設と学校
- 5 互いに心地良く過ごすとは
- 6 人生のビジョンを立てる(キャリアシート全4回)
- 7 まとめ

【評価方法】

レポート2回により評価する。
(レポート課題のおおまかな説明や提出期日については第1回目の授業にて伝える)

【テキスト】

テキストは特に指定しない。プリントを配布することがある。

【参考文献・資料】

生涯学習と自己実現(放送大学教育振興会、堀薫夫・三輪建二)
生涯学習論-現代社会と生涯学習(放送大学教育振興会、岩永雅也)等
授業中に随時紹介する。

手話・点字

堀 正和

【授業の概要】

手話・点字について聴覚障害者や視覚障害者のコミュニケーションや文化におけるその役割や歴史と実践的技術・方法論を講義する。

【授業の目標】

手話及び点字の成り立ちがわかり、手話の簡単な日常会話の読み取りや表現ができるようになり、点字のカナ・数字・アルファベットの読み書きができるようになる。

【授業計画】

1. 聴覚障害概要
2. 聴覚障害者のコミュニケーション方法
3. 手話の概要
4. 手話演習
5. 視覚障害概要
6. 視覚障害者のコミュニケーション方法
7. 点字の概要
8. 点字演習

【評価方法】

手話や点字の読み取りや表現のテストにより行う。

【テキスト】

点訳のしおり・点字器付き（日本点字図書館）及び手話教室入門（全日本ろうあ連盟出版局）

日本の歴史

岩口和正

【授業の概要】

社会のもっとも基礎的な構造のひとつである家族や親族関係は、時代とともに大きく変貌してきました。そして、このような変貌こそが歴史の最も大きな変動要因のひとつとなっているものです。そこで、日本歴史における家族や親族関係の特徴・変遷の意味について、東アジア諸国のそれとも比較しながら、政治制度や経済制度とのかかわりを中心に考えます。

【授業の目標】

- (1) 歴史が家族の日々の暮らしの中から創られることを理解する
- (2) 家族や親族を巡るあまり変わらない歴史と大きく変わってきた歴史を学ぶ
- (3) 家族や親族の歴史と社会や政治の歴史との関係を考える
- (4) 歴史史料に親しみ、その扱い方について習熟する

【授業計画】

- (1) 歴史の中の婚姻論・家族論の意味
- (2) 妻問婚の特徴1<万葉集を中心として>
- (3) 妻問婚の特徴2<日本霊異記を中心として>
- (4) 婿取婚の成立と特徴
- (5) 嫁取婚の成立と特徴
- (6) 密通法と離婚法の成立と展開
- (7) 江口と神埼<遊女の出現>
- (8) 婚姻と家族と親族<日本の親族体系の特徴>
- (9) 婚姻とイエ<所有・財産制度と婚姻の歴史>

【評価方法】

成績評価は学期末の試験でおこないます。ただし、受講者数の特に少ない場合は平常点による評価となります

【テキスト】

使用しません

【参考文献・資料】

授業の中で別途に紹介いたします

日本の文学

堀尾幸平

【授業の概要】

日本の文学史について概説し、日本文学の特徴や外国文学の影響などについてもふれる。古典から近・現代までの著名な作品や名作も鑑賞し、日本文学への興味と関心を高める。

【授業の目標】

1. 文学とは何か。その定義、形態、特色などを理解する。
2. 日本の文学の著名な作品を鑑賞しながら、文学史全体を把握する。

【授業計画】

1. 文学とは何か
2. 明治期の文学
3. 坪内逍遙、二葉亭四迷
4. 三輪弘忠、巖谷小波
5. 大正期の文学
6. 小川未明、鈴木三重吉
7. 千葉省三、浜田廣介
8. 少年詩、童謡、金子みすゞ
9. 昭和期の文学
10. 佐藤紅緑、江戸川乱歩
11. 宮澤賢治
12. 新美南吉、坪田譲治
13. 平成期の文学
14. 創作の方法理論
15. 試験

【評価方法】

定期試験、レポート、出席状況等によって総合的に評価する。

【テキスト】

新日本児童文学論（堀尾幸平著 中日文化 2,200円）

【参考文献・資料】

授業中に適宜紹介する。

伝統芸能

林 和利

【授業の概要】

日本の伝統芸能である能・狂言・歌舞伎・人形浄瑠璃（文楽）などの歴史や文化的意義について講義し、ビデオなどによる鑑賞も行う。

【授業の目標】

各ジャンルの概要・歴史を知り、その価値を認識して、日本人として当然わきまえるべき知識を修得する。

【授業計画】

1. 授業の目的と方針を提示
 2. 日本芸能演劇史概説
 3. 芸能の発生について
 4. 神楽について
 5. 伎楽・舞楽・散楽について
 6. 田楽について
 7. 猿楽について
 8. 能について
 9. 狂言について
 10. 歌舞伎について
 11. 文楽について
- また、学外で催される伝統芸能の舞台を種々案内し、各自の判断で鑑賞することを促す。

【評価方法】

出席状況と単位認定試験により総合的に評価する。
学外の伝統芸能を鑑賞した場合は、レポート提出により評価の対象にする。

【テキスト】

日本文化論序説（林和利著 青山社）

【参考文献・資料】

日本演劇全史（河竹繁俊著・岩波書店）
演劇百科大事典（早稲田大学演劇博物館編・平凡社）
なごやと能・狂言（林和利著・風媒社）

書道

森美恵子

【授業の概要】

現代の芸術としての書道の意味と意義について概説し、中国や日本の名筆についても鑑賞する。書写は楷書・行書・草書などを書き、技法の向上をはかり、現代社会に於ける文字、書の美について考え、書道への関心を高める。

【授業の目標】

すぐれた古典の臨書並びに鑑賞を通して、用美一体の書作を習得し、審美眼を得させる。

【授業計画】

楷書・行書・草書の古法帖を拡大臨書コピーし、その手本に基づき書作した清書作品を提出する。
書写中心であるが、中国の書論に則り、古法帖の概略等も講ずる。

【評価方法】

授業内で提出する平素の成績物及び出席状況等にて総合的に評価する。

【テキスト】

書の鑑賞と学び方（上田桑鳩 教育図書研究会）

書道

小川晃治

【授業の概要】

現代の芸術としての書道の意味と意義について概説し、中国や日本の名筆についても鑑賞する。書写は楷書・行書・草書などを書き、技法の向上をはかり、現代社会に於ける文字、書の美について考え、書道への関心を高める。

【授業の目標】

東洋独自の文化遺産である書、用美一体の書美。
漢字、ひらがな、カタカナと世界で類を見ない最高の言語、文字を有する書と文化、この現代社会そして人々の生活の中にしっかりと存在していることを理解、認識すること。

【授業計画】

講義、実技を一日の時間内に進める。前後期共通の為、各時代の書美、他の美術、文学の対比についての講義は概論とする。現代社会に於ける書美と、日本人の美意識を探究することを基準として進める。

【評価方法】

レポート二種、実技作品、学習態度、出欠状況などによる。

【テキスト】

担当者の手本、古典法帖。

映像文化

小倉 史

【授業の概要】

現代芸術としての映画の意味と意義を概説し、映画の歴史についてもふれ、名作を鑑賞する。欧米やアジアの映画との比較の視点から日本映画の特徴について講義し、映画への興味と関心を高める。

本講義では、撮影技術や演出方法、作品の背景といった映画に関する基本的な知識について解説し、それらを指標としながら実際に映画を鑑賞する。また、受講生に毎回書いてもらうミニ・レポートとともに、作品を分析し、読み解いていく。

受講生にとっては「古い」映画、「見慣れない」映画にも数多く触れることになるため、様々な映画と積極的に関わろうとする意欲的な学生の受講を歓迎する。

【授業の目標】

映画の基本的な知識を得たり、作品の背景を知ったりすることで、映画をただ「観る」のではなく、意識的に「読み解く」ことができるようにする。

【授業計画】

1. イントロダクション
2. ショットとシーン
3. 長回しとディープフォーカス
4. 編集とモンタージュ
5. カメラ移動とフレーミング
6. 「作家」で見る
7. 異化効果
8. 「ジャンル」で見る
9. 「テーマ」で見る
10. まとめ

【評価方法】

学期末に教場レポートを実施する。出席状況と毎回授業後に提出してもらうミニ・レポートの内容も加味する。

【テキスト】

適宜プリントを配布する。

【参考文献・資料】

適宜指示する。

数学の世界

岡田克彦

【授業の概要】

数学は膨大な体系を持つ学問体系であるが、主要な分野の入門的、基礎的な事項を解説する。日常生活や他の学問分野はさまざまな数学の恩恵を受けて成り立っているため、例えば、物理学と数学との関連、日常体験と数学の関連性といったことにもふれてみたい。

【授業の目標】

文科系の学生が、社会に出て仕事をする上で、最低限必要な数学の知識を習得させる。数学が面白くて簡単なものである事を理解させる。

【授業計画】

以下の各項目について説明し、演習を行う。

- 1 確率
- 2 統計、偏差値
- 3 ベクトル
- 4 微分
- 5 積分
- 6 物理学への応用

【評価方法】

課題及び試験で評価する。

【テキスト】

特に使用しない。随時プリントを配布する。

生き物の世界

服部一三

【授業の概要】

地球上には多種・多様な動物や植物が生存しているが、それぞれ進化しながら今日の生態系を成している。動物や植物の分類、分布、食性などの基礎知識を学ぶとともに、自然環境保護の視点を視野に入れながら、生き物の世界について講義する。

【授業の目標】

地球という太陽系第3惑星に住んでいる種々な動物・植物と人間との関わりを理解するとともに、特に、植物との関わりを中心として、今後の関わり方についても理解を得られるようにする。

【授業計画】

- | | |
|---------|-------------------------------|
| 第1回 | 1. 生物界の分類 |
| | 2. 生物の進化 |
| 第2-6回 | 3. 植物と人の関わり |
| | 1) 農耕の始まり |
| | 2) 世界の農耕文化 |
| | 3) 日本農耕文化の起源と発展 |
| | 4. 人が手を加えた植物—作物 |
| | 1) 作物とは? |
| | 2) 世界の作物の起源 |
| 第7-8回 | 5. 作物改良の原理と方法 |
| | 1) 作物改良の原理 |
| | (1) メンデルの法則—遺伝学 |
| | (2) 遺伝の物質的基礎 |
| 第9回 | 2) 作物の改良方法 |
| 第10回 | 6. バイオテクノロジー |
| 第11-12回 | 1) バイオテクノロジーとは? |
| | 2) 作物の改良とバイオテクノロジー |
| | (1) 細胞・組織培養 |
| | (2) 遺伝子操作 |
| | (3) バイオテクノロジーで得られた作物をいかに考えるか? |
| | (1) 倫理 |
| | (2) 安全性 |

【評価方法】

受講資格についてはあえて問わないが、成績評価には出席点を重視し、単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

【参考文献・資料】

下記の書籍を参考書籍として使用するが、テキストなどを作成して講義を進めるので、特に買い求める必要はない。

生物的自然と人間 (平田豊著 開成出版)

生命の科学

林 博司

【授業の概要】

生命の誕生、生命の維持、生体を構成する物質の特徴、遺伝の仕組み、遺伝子変異のメカニズムと機能などについてヒトの身体を例に講義する。

【授業の目標】

生命現象の多くの側面が、物理学と化学の言葉で説明できることを理解し、生命の科学が、人類の幸福にどう役立っているかを学ぶ。

【授業計画】

1. 命の惑星地球
2. 命の理解に必要な物理と化学のエッセンス
3. 命を支える器官
4. 器官を作る細胞
5. 細胞の仕組み
6. 分子機械としての生命
7. 分子機械の設計図：遺伝子
8. 遺伝子の働き
9. 遺伝子を操作する
10. 細胞を操作する
11. 器官を操作する
12. 遺伝子と環境のかかわり

以上12講を実験・映像資料も用いておこなう。

【評価方法】

出席点と小テストの得点で総合的に評価する

【テキスト】

指定しない

【参考文献・資料】

講義中に適宜触れる

生命の科学

小野佳成

【授業の概要】

ヒトの生命維持機構を他の脊椎動物と比較しながら解説します。

【授業の目標】

ヒトの生命維持機構(消化器、呼吸器、循環器、泌尿器、運動器、皮膚、感覚器、中枢神経系等)が効率的に上手に働き、生命維持が行われているかを理解する。

【授業計画】

1. ヒトはなぜ食べるのか? (1) 消化管:消化と吸収
2. ヒトはなぜ食べるのか? (2) 消化器:肝臓と膵臓
3. ヒトは冬にも活動できるのか? (1) 循環器:心臓
4. ヒトは冬にも活動できるのか? (2) 循環器:血管
5. ヒトは冬にも活動できるのか? (3) 血液系:赤血球、白血球、凝固系
6. ヒトは陸上で生活できるのか? (1) 腎臓と排尿
7. ヒトはどのように殖えるのか? 生殖、受精、妊娠
8. ヒトは陸上で生活できるのか? (2) 肺呼吸
9. ヒトは陸上で生活できるのか? (3) 運動器:骨、筋肉系
10. ヒトは陸上で生活できるのか? (4) 皮膚:色、体温調節、感覚
11. ヒトはどのようにして外界との変化をとらえるのか? 視覚 聴覚、平衡覚、嗅覚、味覚等
12. ヒトはどのように行動するのか? 本能行動、意識
13. ヒトはどのように考え、行動するのか? 高次機能

【評価方法】

講義ごとの小テストによって評価します。学期末試験は施行しません。

【テキスト】

使用しません。

【参考文献・資料】

必要に応じて配布する予定です。

食品の科学

杉浦信彦

【授業の概要】

ヒトの生命の源泉は食物に在り、幸福の源泉は健康に在るといわれています。生涯を通して健やかで安らかな暮らしを続けるにはどうしたらよいのか。生命と健康を脅かす様々なリスクに対処しながら健康を守るための手段を、食品と栄養の視点から学びます。

【授業の目標】

1. 食と健康のかかわりの基礎的知識を学ぶ。
2. 食品の表示を知り、正しい知識に基づいた食品の選択を考える。
3. 過剰および不足栄養成分と生活習慣病とのかかわりを学ぶ。
4. 食の化学的安全性について添加物や農薬の功罪を中心に考える。

【授業計画】

1. ガイダンス
2. 食と健康を考える “食の5条件とは”
3. 食品の表示
4. 健康補助食品・サプリメント
5. 現代人に不足する成分元素 1)カルシウム
6. “ ” 2)鉄
7. 過剰栄養とメタボリックシンドローム
8. 食生活の安全 1)食品添加物
9. “ ” 2)天然着色料と合成着色料
10. “ ” 3)合成保存料の功罪
11. “ ” 4)合成甘味料の恐怖
12. “ ” 5)残留農薬とポストハーベスト
13. 飲料水の化学的安全性を考える。

テーマによりVTR視聴や簡単な演習を行います。

【評価方法】

出席回数、授業内容についてのメモリーシートおよびレポートの提出により評価します。

【テキスト】

使用せず、適時プリントを配布します。

【参考文献・資料】

適時紹介します。

食品の科学

千葉善根

【授業の概要】

基礎的な科学と食品の科学とのかかわり、食品の持つ機能や性質、貯蔵などを学び、食品と酵素の関係や科学物質としての理解を深め、多様化した食生活や加工食品の氾濫の中で生活に役立つ講義をする。

【授業の目標】

日常生活で、身近にある食品が化学的(科学的)にどのような意義・性質・機能を持っているかを理解する。

【授業計画】

1. 現代食生活の問題点
食生活の変化と食糧資源について。
2. 糖質と食品
デンプンの機能と利用、食物せんい、最近の甘味料について。
3. たんぱく質と食品
変性と加工・調理との関係、加工食品と食物性たんぱく質の利用。
4. 脂質と食品
脂肪の性質と脂肪酸、油脂の劣化、乳化と乳化食品。
5. 無機質と食品
骨粗鬆症等。
6. ビタミン
食品加工・調理との関係、生物学的触媒としての働き。
7. 発酵食品
食品と酵素・微生物との関係。

【評価方法】

定期試験にて評価。

【テキスト】

使用しない(プリント配布)。

【参考文献・資料】

講義の際 紹介

生活の化学

永井慎一

【授業の概要】

私たちの生命や健康で豊かな暮らしは化学の力で支えられている。日々の暮らしにかかわる物質や現象を、事例をあげながら化学の目で学ぶ。

【授業の目標】

身近な物質の性質や現象の違いを、物質の顔というべき有機化合物の構造を眺めながら理解を深める。

【授業計画】

生命の科学1-2(有機化合物の構造式、受容体と酵素のX線構造)
身近な現象の科学1-3(青いバラ、紅葉、タンパク質と変性、ジスルフィド結合、血液型、にぎり寿司、味、HbA1c値とパンのキツネ色、エビカニの色、瞬間接着剤)
ホルモンとフェロモン、特に最近構造決定されたチャバネゴキブリの性フェロモン
薬と作用の化学(モルフィネの構造から最強の鎮痛パッチの開発とベニシリンから最新の抗生物質への構造変換)
毒の化学(体内で究極の発がん物質に変化するタバコの成分などの毒)
青春から注意する病気
ヒット商品の化学1-3(最近発売され、ヒットした数々の生活関連商品の化学的なしくみ)などを最新の研究成果を紹介しながら分かり易いイラストで解説、有機化学の楽しさを学ぶ。

【評価方法】

期末に提示する問題の解答を、期限内に1問につき原稿用紙400字で提出させ、解答と出席した授業の実時間数で成績評価する。

【テキスト】

毎回配布する教材(A3両面)で講義。

【参考文献・資料】

多数あるので、初回授業で紹介。

環境の保護

田部一史

【授業の概要】

いま、地球規模で自然破壊・環境破壊が進んでいる。自然を守り環境を保護する立場から、生物とそれととりまく外的環境の問題点を、身近な例をあげて講義する。

【授業の目標】

1. さまざまな地球環境問題の現状とその原因についての理解を深める。
2. 環境汚染物質が生命と健康へ与える影響の大きさについて学ぶ。
3. 人の手による生態系破壊の現状を知り、環境保護の方策を考える。

【授業計画】

- 第1講 序論：自然に学ぶ
 第2講 森林破壊：森はいのちの母である
 第3講 砂漠化：人為による砂漠の拡大
 第4講 地球温暖化と異常気象：人間がつくり出した異常
 第5講 大気汚染と酸性雨：自然も文明も溶かし去る
 第6講 フロンとオゾンホール：降りそそぐ有害紫外線
 第7講 いのちのしくみ1・細胞レベル：遺伝子とタンパク質
 第8講 いのちのしくみ2・個体レベル：生体防御
 第9講 環境汚染とがん：細胞を狂わせる物質の氾濫
 第10講 環境ホルモン：いのちのつながりを絶つ
 第11講 生態系のバランス：壊れやすい自然のしくみ
 第12講 生命の多様性：人の手による大量絶滅
 第13講 美しい自然を守ろう：循環型社会をめざして
 第14講 期末試験

【評価方法】

出席状況、中間レポートおよび期末試験の成績によって総合的に評価する。(出席20%、レポート30%、試験50%)

【テキスト】

使用せず。毎回講義資料プリントを配布する。

【参考文献・資料】

授業中に指示する。

日本国憲法

初谷良彦

【授業の概要】

法と国家は人間のためにある。憲法は、このような法の目的と国家の責務を明らかにしようとするものである。なるべく具体的な現実の問題と関連させて説明したり、裁判例などにも触れ、憲法はわれわれの生活の中に入り込んでいる身近な、確かな存在であることを実感できるようにしたい。

【授業の目標】

激動する世界の乱拍子が聞こえるような時代となった。今、次代を担う学生諸君にとって、もっとも大切なことは豊かな憲法感覚を身につけることである。憲法の基本原理やその歴史的背景をしっかりと学んで欲しいと願っている。

【授業計画】

- 第1回 憲法総論
 第2回 日本国憲法制定の経緯
 第3回 日本国憲法の基本原理
 第4回 国民主権
 第5回 平和的生存権と戦争の放棄
 第6回 基本的人権
 第7回 教育を受ける権利
 第8回 国会
 第9回 内閣
 第10回 裁判所
 第11回 地方自治
 第12回 国法の諸形式
 第13回 国家と国家統治の基本
 第14回 日本国憲法と法の支配
 第15回 政府の手続に関わる諸権利

【評価方法】

主として中間試験及び期末試験の成績によって評価する。

【テキスト】

憲法講義I(改訂新版)(初谷良彦著 成文堂)

【参考文献・資料】

授業の際、随時紹介する。

日本国憲法

大嶽 浩

【授業の概要】

法と国家は人間のためにある。憲法は、このような法の目的と国家の責務を明らかにしようとするものである。なるべく具体的な現実の問題と関連させて説明したり、裁判例などにも触れ、憲法はわれわれの生活の中に入り込んでいる身近な、確かな存在であることを実感できるようにしたい。

【授業の目標】

基本的人権の「獲得の歴史」を理解し、人権の「保障の意味」を理解すること。

【授業計画】

1. 憲法と理想
2. 憲法と法律
3. 憲法と憲法典
4. 国民の司法参加
5. 憲法の最高法規性
6. 憲法の改正

【評価方法】

試験とレポートによる評価。

【テキスト】

使用せず。プリントを配布。

【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

入門法律学

大嶽 浩

【授業の概要】

社会生活は「法」という社会規範が網の目のようにはりめぐらされています。そこで、法とは何か、という問題を「文学作品」、「映像作品」、「新聞記事」などを利用して考えてみたいと思います。

【授業の目標】

「社会あるところに法がある」ことを文学作品を通して理解すること。

【授業計画】

1. 法学の入門書と文学作品
2. 法学習と文学作品
3. 法学習の方法
4. 法学と政治と文学
5. 法学と活字
6. 法学と批評

【評価方法】

試験とレポートによる評価。

【テキスト】

使用せず。プリントを配布。

【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

入門法律学

高橋 喬治

【授業の概要】

社会生活は「法」という社会規範が網の目のようにはりめぐらされています。そこで、いろいろな生活場面ごとに、法律がどのようにしているのかを、身近な事例を挙げたりしながら考察していきます。

【授業の目標】

それぞれの法律や、その基礎にある考え方を学び、またそれらの考え方を実際の生活に当てはめてみることにします。

【授業計画】

授業では、冒頭でそれぞれの回に関係する問題を考えてもらい、その解説も含めながら講義をしていきます。項目としては、いまのところ以下のようものを考えています。

1. 法律を学ぶということ
2. 憲法はなぜ大切なのか
3. 民法と毎日の生活
4. 会社法と起業のための基礎知識
5. 民事訴訟法を知って裁判所を使いこなす
6. 罪と罰と刑法
7. 犯人逮捕で一件落着とはならない刑事訴訟法
8. パイト・OL・サラリーマンと労働法
9. 国際法から見た日本
10. 意外と身近な行政法
11. いろいろな国や地域の法律
12. 法律の歴史をひもといてみる
13. 常識を使って少年犯罪の問題を考え直す

【評価方法】

学期末の筆記試験を基本にして評価します。

【テキスト】

授業でプリントを配付します。その他に、小型の『六法』を購入してください。(詳細は第一回目の授業で話しますが、ポケット六法(有斐閣)、デイリー六法(三省堂)、新六法(三省堂)などがあり、価格は1700円～1800円程度です。)

【参考文献・資料】

講義の際、随時紹介したり、配付します。

入門社会学

堀田 裕子

【授業の概要】

社会学は、人間関係に焦点をあてつつ、個人・集団・社会など「社会」を総合的な視座から研究する学問です。学生の皆さんの関心と興味を中心に、現代社会の抱えるさまざまな課題を取りあげ、社会学の入門とします。

【授業の目標】

人間および人間関係に関する多様な見方・考え方や現代の主要なトピックを扱うことで、「社会」についての多角的な知見を学びます。また、そうした知見にふれることで皆さんのもっている「常識」を少しでもうち破っていただけたらと思います。

【授業計画】

- 1) イントロダクション——社会学とは
- 2) 社会化と自我——人「間」になるプロセス
- 3) 相互行為——地位と役割の社会的意義
- 4) 行為——行為の意味を「理解」する
- 5) 集団と組織——集団での活動とルール
- 6) 未組織集合体——人間は群れるとどうなるか
- 7) 権力と支配——支配する側/される側
- 8) 見えない権力——権力主体不在の権力
- 9) ジェンダー——女と男をめぐる諸問題
- 10) 家族——変わりゆく家族と少子高齢化
- 11) 社会病理——自殺や犯罪はなぜ起こるか
- 12) 教育——学校は何を教える所か
- 13) 情報化——ハイパースペースの中の人間
- 14) 医療——病気と健康はいかにして作られるか
- 15) まとめ——社会調査と社会をみる眼

【評価方法】

出席20%、筆記試験80%で評価します。

【テキスト】

使用しません。

【参考文献・資料】

講義中に適宜紹介します。

入門社会学

高木 真理子

【授業の概要】

社会学は、人間関係に視座を据えて、個人・集団・社会など、社会を総合的に研究する学問である。学生の関心と興味を中心に、現代社会の課題を分析対象に取り上げ社会学の入門とする。

【授業の目標】

身の回りで起こっていることに興味をもち、それについて深く考察できるようになりましょう。

【授業計画】

世界で、そして日本でおこっている身近な事柄をとりあげ、社会のしくみや制度に目を向ける。『社会学』という本をテキストとして使うが、授業ではテキストの内容だけでなく、いろいろな事象に興味をもってもらいたいと思っている。

1. はじめに——社会学について
2. 社会とは——私たちと彼ら
3. 行為とは——4類型
4. 集団とは——コミュニティ
5. 家族とは——少子化や介護の問題へ
6. 逸脱とは——少年非行
7. コミュニケーションとは——携帯電話?メール?
8. 社会心理とは——群集心理など
9. ジェンダーとは——あらためて見直すジェンダー

以上のようなテーマについて、授業時間1～2回を使ってクラスで学んでいきたい。授業回数や進行速度の関係で、割愛する部分が出てくる可能性があることをあらかじめ了解しておいていただきたい。

【評価方法】

毎回ではないが、pop quizを行う。最終評価はレポートか試験。出席を重視する。出席とは単に教室に「存在」することではない。自分なりのノートをつくり、毎回のトピックに対する自分の考えをまとめるなどの形で、授業に積極的に参加することが求められる。
評価＝出席(25%) pop quiz(25%) レポートまたは試験(50%)

【テキスト】

奥井智之著『社会学』東京大学出版会

【参考文献・資料】

授業中に紹介する

入門心理学

青柳 眞紀子

【授業の概要】

心理学の研究対象と研究方法を明らかにし、行動科学としての心理学を展望する。心理学の一般的方法論や心理学の各領域における基礎的知識を概説する。

【授業の目標】

「心理学」の概要について、正しい理解を深めること。「心理学」は身近な存在でもあることを認識し、自分自身を振り返るきっかけをつかむ。

【授業計画】

1. ガイダンス、心理学とは
2. 無意識の世界1
3. 無意識の世界2
4. ストレスとタイプA性格
5. 錯視の不思議
6. 学習1
7. 学習2
8. パーソナリティ1
9. パーソナリティ2
10. 対人関係1
11. 対人関係2
12. 集団の心理

【評価方法】

試験の成績、レポート、出席状況などから総合的に評価する。

【テキスト】

随時資料を配布する。

入門心理学

加藤智宏

【授業の概要】

心理学の研究対象と研究方法を明らかにし、行動科学としての心理学を展望する。心理学の一般的方法論や心理学の各領域における基礎的知識を概説する。

【授業の目標】

近年マスコミ等で心理学が取り上げられることが多くなってきた。それだけ心理学が身近になってきたと考えられる。しかしその一方で、マスコミ等で取り上げられた内容だけから心理学のイメージが作られているようにも思われる。そこでこの授業では、心理学の様々な切り口を取り上げることで、心理学の持つ広範な知識を獲得することを目標とする。

【授業計画】

- 知覚と感覚
- 要素と全体（ゲシュタルト心理学）
- 学習と記憶
- 忘却と変容
- 発達心理学（ピアジェとエリクソン）
- 防衛機制
- フロイトとユングの精神構造モデル
- 心理療法
- 心理テスト
- 個人と集団
- 応用心理学（犯罪心理学、環境心理学）

以上を中心に、それぞれ1～2回の講義を予定しています。

【評価方法】

出席状況と試験の成績によって総合的に評価します。

【テキスト】

使用しません。授業中に資料を配付します。

入門心理学

梅林 薫

【授業の概要】

心理学の研究対象と研究方法を明らかにし、行動科学としての心理学を展望する。心理学の一般的方法論や心理学の各領域における基礎的知識を概説する。

【授業の目標】

心理学とは人の行動や心的過程を科学的に研究する学問分野である。人はいかに外界を認知し、どのように記憶し、あるいはいかにして学習するのか。またその心、行動を司る脳機能とはどのようなものか。本講義では心理学全般の基本的知識の習得を目指す。

【授業計画】

- 心理学の定義、心理学の研究領域
- 知覚：錯視
- 知覚と注意：知覚の情報処理モデル、選択的注意
- 記憶：記憶の貯蔵庫モデル、長期記憶の種類
- 記憶：作業記憶
- 学習：レスポナント条件づけ、オペラント条件づけ
- 情動：情動モデル
- パーソナリティ：類型論、特性論
- 脳と行動：脳機能の概略

以上を中心に、それぞれ1～2回の講義を予定

【評価方法】

試験の成績、出席状況などから総合的に評価する。

【テキスト】

随時資料を配布する。

入門心理学

加藤公子

【授業の概要】

心理学の研究対象と研究方法を明らかにし、行動科学としての心理学を展望する。心理学の一般的方法論や心理学の各領域における基礎的知識を概説する。

【授業の目標】

心理学の各領域における基本的な考え方を理解する。

【授業計画】

- 心理学とは
- 知覚①：視覚、錯視
- 知覚②：知覚の情報処理
- 注意の働き：選択的注意、注意の配分
- 記憶①：短期記憶と長期記憶
- 記憶②：意味記憶
- 思考：問題解決、推理
- 学習①：古典的条件づけ
- 学習②：オペラント条件づけ
- 感情：感情理論
- パーソナリティ：類型論と特性論、パーソナリティ検査
- 脳の機能：脳の構造、脳と認知処理

【評価方法】

試験の成績から評価する。

【テキスト】

使用しない。授業時に適宜資料を配布する。

入門文化人類学

三木 誠

【授業の概要】

人間は無意識のうちに自然に生れ育った文化からさまざまな影響を受けている。世界中の社会に見られるさまざまな文化的事象を、できるだけ多くの事例をあげて講義する。

【授業の目標】

人間の文化の多様性を理解するとともに、文化相対主義的な考え方を身につけ、自文化の客観的な把握と、異文化の正当な理解ができるようにする。

【授業計画】

以下のようなテーマで講義を行う。それぞれのテーマを総合的に理解するのに不可欠な概念や用語の解説と、プリント等を利用した事例研究が主になる。異文化に対する興味や好奇心を喚起するために映像資料も活用する。

- 文化人類学とは？
- 性別と社会(1)
- 性別と社会(2) (映像資料鑑賞を含む)
- 婚姻と家族(1) (映像資料鑑賞を含む)
- 婚姻と家族(2) (映像資料鑑賞を含む)
- 婚姻と家族(3) (映像資料鑑賞を含む)
- 婚姻と家族(4) (映像資料鑑賞を含む)
- 宗教と信仰(1) (映像資料鑑賞を含む)
- 宗教と信仰(2) (映像資料鑑賞を含む)
- 宗教と信仰(3) (映像資料鑑賞を含む)
- 民族文化の諸相(1) (映像資料鑑賞を含む)
- 民族文化の諸相(2) (映像資料鑑賞を含む)
- 民族文化の諸相(3) (映像資料鑑賞を含む)
- 民族文化の諸相(4) (映像資料鑑賞を含む)
- まとめ

【評価方法】

定期試験により評価する。ノートや配布資料は持ち込み可とする。

【テキスト】

指定せず。

【参考文献・資料】

興味を持った学生にはそのつと指示する。

国際情勢

瀬戸裕之

【授業の概要】

近年、日本とアジアの国際関係は、経済関係だけにとどまらず、地域の安全保障体制を構築するうえでも重要性を増している。講義では、アジアにおける国際関係について、具体的な事象に触れながら説明し、アジアと日本の関係について考察することにした。

【授業の目標】

アジアの国際関係の形成と発展、並びにアジアと日本の関係を、歴史的背景およびアジアが抱える課題をふまえて理解すること。

【授業計画】

1. アジアを学ぶために
2. アジアの国家形成－植民地からの独立
3. アジアの革命－中国の革命と改革
4. アジアの冷戦－朝鮮半島の分断国家
5. アジアの地域統合－ASEANの形成と発展
6. アジアにおける日本の戦争－戦前のアジア政策
7. アジアに対する日本の外交－戦後の国際協力

【評価方法】

成績評価は、期末試験（筆記）により行う。出欠は考慮しないが、中間試験を受験しないものは、期末試験の受験資格を失う。

【テキスト】

テキストは使用しない。

【参考文献・資料】

授業において、関連文献を紹介する。

現代のマナー

近藤乃美子

【授業の概要】

人間関係の円滑な親和を保つために必要な基本的マナーを学ぶ。身近な実例をとりあげて講義する。

【授業の目標】

良識ある家庭人であり、自立し誇りを持って行動できる社会人となり、伝統と文化に裏打ちされた広い教養を身につけ、自信を持って国際社会においても活躍できる人材を育成する一端を担うことを目標とする。

【授業計画】

講義方式による。授業中、適宜プリントを配布する。

1. マナーの基本
2. 会話と傾聴
3. 身だしなみとおしゃれ
4. 服装 フォーマルとカジュアル
5. 訪問と応接 和風
6. 洋風
7. 茶菓のマナー
8. 贈答のマナー
9. 冠婚のマナー
10. 葬祭のマナー
11. 食事のマナー
12. パブリックマナー

【評価方法】

出席状況、授業態度、期末試験等により総合的に評価する。

【テキスト】

テキストとしては使用しない。

【参考文献・資料】

参考文献・資料はなし。

現代のマナー

嘉悦祐子

【授業の概要】

コミュニケーションを円滑に進めるには、相手を尊重する気持ちや思いやりが大切で、マナーとはこの相手を思いやる気持ちを形にしたものである。身近な実例をとりあげて講義する。

【授業の目標】

自分の気持ちをどのような形で表現すれば相手に誤解なく伝わるのか、状況に応じたマナーを身につける。

【授業計画】

1. マナーとは
2. 学生と社会人の違い
3. 第一印象の重要性
4. マナーの五原則
 - (1) 表情
 - (2) 態度
 - (3) 挨拶
 - (4) 身だしなみ
 - (5) 言葉づかい
5. 電話応対
6. 訪問
7. 来客応対
8. 報告、連絡、相談
9. 文書
10. 冠婚葬祭
11. テーブルマナー
12. まとめ
13. 試験

【評価方法】

出席状況、授業態度、学期末の試験成績により総合的に評価する。

【テキスト】

使用せず。授業毎にプリントを配布する。

【参考文献・資料】

必要に応じ授業内で紹介する。

文章表現法

青木 健

【授業の概要】

マルチメディアの発達で文章を書く機会が少なくなっているため、自らの意思を文章で表現することが苦手な人も増えている。文章を作り、書くために必要な基礎的技法や構成について具体例を示しながら講義する。

【授業の目標】

書くことは同時に読むこと。文章表現の多様さにふれ、読む楽しさと、書くことによって自らの言葉で考えるトレーニングをしたい。書くことで新しい自己を発見し、自己の世界を拓けてもらえることががのぞましい。

【授業計画】

- 第1回 人は言葉の織物である。(伝達と表現1)
- 第2回 現代の口語表現について。(伝達と表現2)
- 第3回～12回
例文をテキストに、文章の構成、表現技法、語法、リズム、修辭法など具体的に講義。

この間に課題を3回提出し、短文(2～3枚、400字詰)を書いてもらい、提出原稿から文章表現についての共通の問題点を抽出して講評する。

【評価方法】

出席状況、3回の提出原稿などを基準として評価する。

【テキスト】

高校生のための文章読本(筑摩書房) 参考書籍は授業中に数冊提示します。

話し方作法

三久保角男

【授業の概要】

①日本語の発音のメカニズムと豊かな表現のための基礎技術、②読む・話すことの技術、③ことばの用法、を視点を、音声言語の特質とコミュニケーション能力を高めるテクニクを知る。

【授業の目標】

マルチメディアの発達で直接的な会話することが少なくなり、話すことが苦手な人が増えている。自分の意思を効果的にことばで伝えるための基礎的な技術を身につけられるための方策を考える。

【授業計画】

1. 話しことば概論
ことばの機能 話しことばの特徴 共通語と方言
2. 日本語の音声 1 (発声)
音声器官 呼吸法 発声法
3. 日本語の音声 2 (発音)
拍と音節 母音と子音 調音 アクセント 環境による音声変化
4. 話しことばの表現技法
スピード ポーズ イントネーション プロミネンス
5. 文を読む
読みの基本 朗読
6. 話しをする
パブリックスピーキング リポート インタビュー
7. 話しことばの用法
ことば事情 ことばの変化 敬意表現

授業は講義が中心になるが、可能な限り実践を伴うものにする。参加意欲を持って欲しい。

【評価方法】

期末に筆記試験を行う。随時の提出物も評価に加味する。

【テキスト】

毎回、レジュメ・資料等を用意する。

ライフサイクルと健康

松田秀子

【授業の概要】

人間は年齢に伴い体型も変化し、健康も害しやすくなる。ライフサイクルにあわせた運動と健康の維持について、身近な問題を取りあげて講義する。

【授業の目標】

ライフサイクルにあわせた運動と健康の維持について、身近な問題を取りあげて考える。

【授業計画】

1. ライフサイクルと健康とは
2. 姿勢
3. プロポーション (理想と現実)
4. 肥満とやせ
5. 隠れ肥満
6. 骨密度・体脂肪測定
7. 自分のからだを判定しよう
8. 体脂肪を正しく落とす方法
9. 筋肉と運動神経
10. 健康づくりのための運動
11. Walking
12. 性への理解
13. 学生生活と健康

【評価方法】

出席状況・レポート・単位認定試験によって総合的に評価する。

【テキスト】

使用しない。
必要に応じて参考資料を配付する。

キャリアの形成

樋口貴子

【授業の概要】

キャリア形成とは、将来の働き方をデザインすることであり、これからの生き方をデザインすることでもあります。そのためには、自分を理解し、職業と社会経済動向の理解も深め、さらにキャリアの選択を可能にする心構えが必要になってきます。人が働くことを意識するのは、学生生活から職業生活へ移行する節目のときです。これから迎える職業生活という本格的なキャリアのスタートを切る前に、働くことを中心としたキャリア形成をぜひ描いておきましょう。それに必要な考え方や方策を実践的に学習します。

【授業の目標】

社会が大きく転換している今、就職・進学を問わず、その環境は目まぐるしく変化しています。そこで、本授業では、自分の将来に向けて、まずは自分なりの指針や目標を立て、その上で何を学び、どう行動すればよいかを考えます。
また、その過程で新しい自分を発見し、自分らしさを磨いていくことで、自分の将来や働くことに対する不安や迷いを解消し、社会に羽ばたくことに臨むことなく、希望を持って前向きに挑戦できるよう、自分なりの職業観を涵養します。
キーワードは、4つ。①「自己研鑽」…たゆまぬ向上心。②「自己統合」…自分を見つめる。③「社会的存在」…社会における個人のあり方、自立/自律の自覚。④「真摯な姿勢」…前向きな学習姿勢、幅広い見識。
これらの資質を基盤に、これからの21世紀をたくましく、自分らしく生きていくために、自らの人生設計を主体的に行うキャリア形成を実践します。

【授業計画】

1. 21世紀に求められる人材像とプロフェッショナル意識
2. キャリア形成のすそめと基本的資質
3. 社会経済の動向とキャリア形成の必要性
4. キャリア形成の体系とそのプロセス
5. 自己理解の演習①「キャリアの発達課題」
6. 自己理解の演習②「ライフキャリアの虹」
7. 自己理解の演習③「ライフスタイルとワークキャリアの価値観」
8. 自己理解の演習④「職業興味と職業適性」
9. 仕事理解の演習①「働く意味、仕事が成り立つ条件」
10. 仕事理解の演習②「業界研究、企業研究、仕事研究」
11. 仕事理解の演習③「さまざまな働き方とその実態」
12. 仕事理解の演習④「ビジネス基礎能力とコンピテンシー」
13. 意思決定の演習「職業選択における意思決定のあり方」
14. 将来の目標設定①「なりたい自分のキャリアモデル」
15. 将来の目標設定②「自分の目指すキャリアビジョン」

【評価方法】

筆記試験と出席状況

【テキスト】

キャリアの形成 (樋口貴子著)

【参考文献・資料】

授業の中で適宜、紹介します

ライフサイクルと健康

土田 洋

【授業の概要】

人間は年齢に伴い体型も変化し、健康も害しやすくなる。ライフサイクルにあわせた運動と健康の維持について、身近な問題を取りあげて講義する。

【授業の目標】

ライフサイクルにあわせた運動と健康の維持について、身近な問題を取りあげて考える。

【授業計画】

1. 現代の健康問題
2. 身体と健康
3. 心と健康
4. 遺伝や適応と健康
5. 環境と健康
6. 栄養と健康
7. 運動と健康
8. 運動による障害
9. 社会と健康
10. 経済と健康
11. 情報技術と健康
12. 交通と健康
13. 住宅と健康

【評価方法】

出席状況・レポート・単位認定試験によって総合的に評価する。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献・資料】

資料としてプリントの配布、ビデオ等を利用する。

メンタルヘルス

太田龍朗

【授業の概要】

複雑な現代社会において、心の病はもはや人ごとではない。なぜ心は病んでいくのだろうか。この授業では、心理学・医学モデルや事例などをもとに、心に影響を及ぼす様々な要因について検討し、心の健康について考える。

【授業の目標】

心の健康についていろいろな病を通して考え、身体の病気と同じように、ごく身近なものであることを理解しつつ、正しい知識を修得するとともに、全人的なとりくみの重要性が分かるようにする。

【授業計画】

概論：第1回	メンタルヘルス序論：心の病とその歴史
第2回	いろいろな病：精神疾患の種類と分類
第3回	症状のとりえ方：精神と神経の症状
第4回	ライフサイクルと心：発達と加齢
各論：第5回	青年期、思春期にはじまる統合失調症（分裂病）
第6回	気分・感情の障害としての躁うつ病（気分障害）
第7回	うつ病と現代社会を考える
第8回	ストレスとその反応：神経症と心身症
第9回	やまらない、止まらない：薬物依存
第10回	眠りと食と性の偏り：睡眠、摂食、性障害
第11回	大人とは異なる児童・小児の心の問題
第12回	老人と高齢者の病：器質性障害(認知症など)
総論：第13回	病を前にして：治療、面接、カウンセリング
第14回	心の健康に向けて：地域社会、制度と活動
第15回	期末試験

【評価方法】

おもに期末試験の成績と各回講義でのレポート・アンケート提出によって総合的に評価する。

【テキスト】

改訂 大学生のための精神医学（高橋俊彦・近藤三男編 岩崎学術出版社）

【参考文献・資料】

精神を病むということ（秋元波留夫・上田敏著 医学書院）
図解雑学 心の病と精神医学（景山任佐著 ナツメ社）

メンタルヘルス

長谷川純子

【授業の概要】

心理学および医学的な観点から多角的に心の成長や健康について講義する。現代ストレス社会の中で、自分らしく健やかな生活を過ごすために必要なセルフコントロールの実際や心の健康に関わる事例なども紹介する予定である。

【授業の目標】

心の健康管理に必要な大学生教養レベルの知識習得を目指す。

【授業計画】

1. 心の病
2. ストレスと心の健康
3. 心の発達とメンタルヘルス
 - (1) 児童・思春期
 - (2) 老年期
 - (3) 女性のメンタルヘルス

【評価方法】

単位認定試験の結果を重視するが、出席日数や授業態度も評価の対象となる。

【テキスト】

なし。プリント配布。

【参考文献・資料】

必要に応じて適宜紹介する。

健康とくすり

永井慎一

【授業の概要】

現在の日本は飽食の時代といわれ、運動不足やストレスのためくすりの助けがなければ健康の維持は難しい。病気とくすりについて正しい知識を学び、くすりの効きかたと副作用について理解を深める

【授業の目標】

病気は、酵素の働きで過剰に生成する生理活性物質が受容体に結合することで発症し、くすりの大部分は、酵素と受容体の働きを阻害することで効くことを学ぶ。

【授業計画】

第1回	全講義の要旨 [病気とくすりのまとめ] を配布したのち、最新の医薬品事情や薬事行政などを解説
第2～3回	くすりの基礎知識として、生体内運命、新しいくすりのかたち、受容体拮抗薬、酵素阻害薬、危険なくすりの飲み合わせなど2回にわたって解説
第4回	くすりの正しい知識を、イラスト入りの質問形式で学ぶ
第5回	処方方だが保険適用外の生活改善薬をはじめ、女性のくすりと検査器具、最新の一般用医薬品（OTC）と繁用される医療用医薬品を解説
第6回	頭痛、生理痛の原因物質とくすりの効きかた
第7回	花粉症、アトピー性皮膚炎発症のメカニズムとくすりの効きかた
第8回	生活習慣病の早期発見に不可欠な血液検査値のみかたと心疾患
第9～12回	生活習慣病である高血圧、がん、糖尿病と、近年若者に拡大するクラミジアやエイズの発症原因と治療薬

【評価方法】

期末に提示する問題の解答を、期限内に1問につき原稿用紙400字で答えさせ、解答と出席した実授業時間数で成績評価する。

【テキスト】

教材（A3両面）を毎回配布して講義する。

【参考文献・資料】

多数あるので、初回授業で紹介する

スポーツと文化

松田秀子

【授業の概要】

スポーツが文化であることを歴史的社会的事実から論証し、スポーツの生成、発展、衰退に関する諸要因について考え、現代社会における「人間性復権」について展望する。

【授業の目標】

スポーツが文化であることを論証し、スポーツの生成、発展、衰退に関する諸要因について考え、現代社会における「人間性復権」について展望する。

【授業計画】

1. スポーツは遊びから出発する
2. スポーツは技能を追求する
3. スポーツは競争と協力の両面をもつ
4. スポーツはフェアプレーの精神によって成り立つ
5. スポーツは自己実現を志向させる
6. スポーツは舞踊とともに祭礼と結びついていた
7. スポーツには教育が関係する
8. スポーツには政治が関係する
9. スポーツには科学が関係する
10. スポーツには地理的環境に影響されることが大きい
11. スポーツには民族性が反映される
12. スポーツには商業主義がつきまとう
13. スポーツは「強いこと」から「美しいこと」へと対象を拡げつつある
14. スポーツの生成・発展・衰退の過程は、文化の場面と同じである

【評価方法】

出席状況・レポート・単位認定試験によって総合的に評価する。

【テキスト】

使用せず。
必要に応じて参考資料を配付し、参考書籍を指示する。

スポーツと文化

門間 博

【授業の概要】

スポーツが文化であることを歴史的社会的事実から論証し、スポーツの生成、発展、衰退に関する諸要因について考え、現代社会における「人間性復権」について展望する。

【授業の目標】

スポーツが文化であることを論証し、スポーツの生成、発展、衰退に関する諸要因について考え、現代社会における「人間性復権」について展望する。

【授業計画】

1. 導入、授業の全体について
2. スポーツとは何か（スポーツの起源とその歴史）
- 3～4. スポーツの魅力
- 5～6. スポーツとメディア
- 7～8. スポーツと商業主義
- 9～10. スポーツと政治・経済
- 11～12. スポーツと教育
- 13～14. スポーツと倫理
15. まとめ

【評価方法】

出席状況・レポート・単位認定試験によって総合的に評価する。

【テキスト】

使用せず。
必要に応じて参考資料を配付し、参考書籍を指示する。

健康と医学

小野佳成

【授業の概要】

いろいろな健康問題が注目を浴び、「メタボリックシンドローム」「低侵襲治療」「エイズウイルス」「ノロウイルス」「食中毒」「リハビリテーション」「後期高齢者」「認知症」等の耳慣れない言葉がマスコミによって報道されています。本講では、これらの健康問題を取り上げ、医学的な見地から解説します。

【授業の目標】

マスコミで取り上げられる最近の健康に関する問題を考え、理解する。

【授業計画】

1. メタボリックシンドローム
2. エイズウイルス
3. 性格はどのように形成されるか？
4. 脳梗塞とリハビリテーション
5. 後期高齢者と認知症
6. ノロウイルス：下痢集団発生
7. 女性は膀胱炎になりやすい？：尿路感染防御機構
8. 生殖：妊娠から出産
9. 骨粗鬆症と転倒骨折

※適時追加する予定です。

【評価方法】

講義ごとの小テストによって評価します。期末テストは行ないません。

【テキスト】

ありません。

【参考文献・資料】

必要に応じて資料を配付します。

スポーツ科学

門間 博 境田雅章 土田 洋 寺田邦昭 松田秀子 丸山治美
今井辰也 堀田典生

【授業の概要】

スポーツの科学的理論と実技的能力を実践を通じて学び、各種スポーツおよびストレッチャ体操・トレーニングなどの実践によって運動の基礎的技術を習得する。

【授業の目標】

運動の科学的理論の学習と各種スポーツの実践を通して、健康の保持増進への理解を深め、運動不足による体力の低下および過食による肥満を防ごうとする。

【授業計画】

- ・第1週目の授業は教室にてガイダンスを行う。
- ・天候によって種目を変更する場合がある。
- ・授業については、健康スポーツ教育センターの掲示板を参照のこと。
- ・授業内容については、担当教官の欄を参照のこと。

月曜日	1限	門間	テニス・バドミントン
	2限	門間	テニス・バドミントン
	3限	今井	バレーボール・バスケットボール
	4限	今井	バレーボール・バスケットボール
火曜日	2限	土田	フットサル・卓球
	3限	松田	バドミントン・ニュースポーツ
	3限	土田	フットサル・卓球
水曜日	4限	松田	バドミントン・ニュースポーツ
	2限	門間	バドミントン・卓球
	2限	土田	卓球・バドミントン
	3限	門間	バレーボール・バスケットボール
木曜日	3限	堀田	テニス・卓球
	4限	門間	バレーボール・バスケットボール
	1限	寺田	卓球・バドミントン
	2限	寺田	スキルトレーニング・バドミントン
金曜日	3限	境田	テニス・フットサル
	4限	境田	テニス・フットサル
	1限	門間	テニス・バドミントン
	2限	門間	テニス・バドミントン
	3限	門間	テニス・バドミントン
	3限	丸山	エアロビクス&フィットネス
	4限	門間	テニス・バドミントン
	4限	丸山	エアロビクス&フィットネス

【評価方法】

出席=70点
実技・参加の態度・種目理解度等=30点

スポーツ科学

門間 博

【授業の概要】

スポーツの科学的理論と実技的能力を実践を通じて学び、各種スポーツおよびストレッチャ体操・トレーニングなどの実践によって運動の基礎的技術を習得する。

【授業の目標】

スポーツの科学的理論と実技的能力を実践を通じて学び、各種スポーツおよびストレッチャ体操・トレーニングなどの実践によって運動の基礎的技術を習得する。

【授業計画】

- ・第1週目の授業は教室にてガイダンスを行う。
 - ・第2週目の授業は体力診断テストを行う。
 - ・授業については、健康スポーツ教育センターの掲示板を参照のこと。
- [バドミントン] (月曜1限後半・月曜2限後半・水曜2限前半・金曜1限後半・金曜2限後半・金曜3限後半・金曜4限後半)
- 1～2. ラケットとシャトルをコントロールする
 3. ルールとマナーを身につける
 - 4～6. ミニゲーム
- [卓球] (水曜2限後半)
1. ラケットのグリップと打法
 2. フォアハンド・バックハンド
 3. サーブとレシーブ
 - 4～6. ゲーム(審判とスコア)、テスト(スキル)
- [テニス] (月曜1限前半・月曜2限前半・金曜1限前半・金曜2限前半・金曜3限前半・金曜4限前半)
- 1～2. ラケットとボールに慣れる
 3. ルールとマナーを身につける
 - 4～6. ミニゲーム
- [バレーボール] (水曜3限前半・水曜4限前半)
1. パスワーク(オーバーハンド・アンダーハンド)
 2. サーブとレシーブ(サーブレシーブ・パスアタックレシーブ)
 3. トス・アタック・ブロック
 - 4～6. ゲームと審判(ルール)、テスト(スキル)
- [バスケットボール] (水曜3限後半・水曜4限後半)
1. ボールに慣れる
 - 2～3. 個人・チームでの基本的な練習
 4. ルールとマナーを身につける
 - 5～6. ゲーム・スキルテスト

【評価方法】

出席=70点 実技・参加の態度・種目理解度等=30点

スポーツ科学

境田雅章

【授業の概要】

スポーツの科学的理論と実技的能力を実践を通じて学び、各種スポーツおよびストレッチャ体操・トレーニングなどの実践によって運動の基礎的技術を習得する。

【授業の目標】

スポーツの科学的理論と実技的能力を実践を通じて学び、各種スポーツおよびストレッチャ体操・トレーニングなどの実践によって運動の基礎的技術を習得する。

【授業計画】

- ・第1週目の授業は教室にてガイダンスを行う。
 - ・授業については、健康スポーツ教育センターの掲示板を参照のこと。
- [テニス] (木曜3限・4限前半)
1. ガイダンス、競技の概略
 2. ラケットとボールに慣れる ゲーム
 3. ボールをコントロールする ゲーム
 4. サーブを練習する ゲーム
 5. ルールとマナーを身につける ゲーム
 - 6～7. ゲーム・スキルテスト
- [フットサル] (木曜3限・4限後半)
1. ガイダンス、競技の概略
 2. ボールに慣れる ゲーム(スモール・ビッグ)
 3. 基本的な個人技能の確認 ゲーム(スモール・ビッグ)
 4. チームでの基本的な練習 ゲーム(スモール・ビッグ)
 5. ルールとマナーを身につける ゲーム(スモール・ビッグ)
 - 6～7. スキルテスト ゲーム(スモール・ビッグ)

【評価方法】

出席=70点
実技・参加の態度・種目理解等=30点

スポーツ科学

土田 洋

【授業の概要】

スポーツの科学的理論と実技的能力を実践を通じて学び、各種スポーツおよびストレッチャ体操・トレーニングなどの実践によって運動の基礎的技術を習得する。

【授業の目標】

スポーツの科学的理論と実技的能力を実践を通じて学び、各種スポーツおよびストレッチャ体操・トレーニングなどの実践によって運動の基礎的技術を習得する。

【授業計画】

- ・第1週目の授業は教室にてガイダンスを行う。
 - ・授業については、健康スポーツ教育センターの掲示板を参照のこと。
- [フットサル] (火曜2限・3限前半)
1. ガイダンス、競技の概略
 2. 体力診断テスト
 3. ボールに慣れる
 4. ルールとマナーを身につける
 - 5～7. ゲーム
- [卓球] (火曜2限・3限後半)
1. ガイダンス、競技の概略
 2. ルールとマナーを身につける
 3. ラケットのグリップと打法
 4. サーブとレシーブ
 - 5～7. ゲーム・スキルテスト
- [バドミントン] (水曜2限後半)
1. ガイダンス、競技の概略
 2. ルールとマナーを身につける
 3. ラケットとシャトルに慣れる
 4. シャトルコントロール
 - 5～7. ゲーム

【評価方法】

出席=70点
実技・参加の態度・種目理解等=30点

スポーツ科学

寺田邦昭

【授業の概要】

スポーツの科学的理論と実技的能力を実践を通じて学び、各種スポーツおよびストレッチ体操・トレーニングなどの実践によって運動の基礎的技術を習得する。

【授業の目標】

スポーツの科学的理論と実技的能力を実践を通じて学び、各種スポーツおよびストレッチ体操・トレーニングなどの実践によって運動の基礎的技術を習得する。

【授業計画】

- ・第1週目の授業は教室にてガイダンスを行う。
- ・天候によって種目を変更する場合がある。
- ・授業については、健康スポーツ教育センターの掲示板を参照のこと。

〔卓球〕(木曜1限前半)

1. ガイダンス、競技の概略
2. ラケットのグリップと打法
3. フォアハンド・バックハンド
(ロング・ショート・カット・スマッシュ)
4. サービスとレシーブ
- 5～7. シングルスゲーム・ダブルスゲーム (スコア記録)

〔スキルトレーニング〕(木曜2限前半)

オールラウンドプレーヤーを目指し、下記のスポーツスキルを週毎に種目を変えながら実施し、その基本的な動きのコツの獲得を目指す。

1. ガイダンス
- 2～4. 主にアウトドア種目 (フライングディスク、ソフトボール、ゴルフ、サッカー) 等を用いての動き作り
- 5～8. 主にインドア種目 (卓球、バドミントン、バレーボール、バスケットボール) 等を用いての動き作り

〔バドミントン〕(木曜1限後半・木曜2限後半)

1. ガイダンス、競技の概略
2. ラケットとシャトルに慣れる
3. シャトルをコントロールする
4. ルールとマナーを身につける
- 5～8. シングルスゲーム・ダブルスゲーム (スコア記録)

【評価方法】

出席=70点
実技・参加の態度・種目理解度等=30点

スポーツ科学

丸山治美

【授業の概要】

スポーツの科学的理論と実技的能力を実践を通じて学び、各種スポーツおよびストレッチ体操・トレーニングなどの実践によって運動の基礎的技術を習得する。

【授業の目標】

スポーツの科学的理論と実技的能力を実践を通じて学び、各種スポーツおよびストレッチ体操・トレーニングなどの実践によって運動の基礎的技術を習得する。

【授業計画】

- ・第1週目の授業は教室にてガイダンスを行う。
- ・授業については、健康スポーツ教育センターの掲示板を参照のこと。
- ・この授業では、1. エアロビクスの特性・効果を理解する 2. エアロビクスを通して運動する楽しさ・表現する楽しさを味わう 3. 自分の身体への感覚を敏感にし、自分の身体と対話し、自分の身体をよく知るの3点を目標に行う。

〔エアロビクス&フィットネス〕(金曜3限・金曜4限)

1. ガイダンス
2. エアロビクスとは何か その理論と特性
3. 目標心拍数の設定と主観的運動強度
4. 筋力トレーニング 筋肉と骨格
- 5～6. ボールを使って
7. 体脂肪
8. ウェイトコントロール
9. 骨を強くする
- 10～15. エアロビクス ダンス パフォーマンス
動きづくり練習 発表・相互評価

【評価方法】

出席=70点
実技・参加の態度・種目理解度等=30点

スポーツ科学

松田秀子

【授業の概要】

スポーツの科学的理論と実技的能力を実践を通じて学び、各種スポーツおよびストレッチ体操・トレーニングなどの実践によって運動の基礎的技術を習得する。

【授業の目標】

スポーツの科学的理論と実技的能力を実践を通じて学び、各種スポーツおよびストレッチ体操・トレーニングなどの実践によって運動の基礎的技術を習得する。

【授業計画】

- ・第1週目の授業は教室にてガイダンスを行う。
- ・授業については、健康スポーツ教育センターの掲示板を参照のこと。

〔バドミントン〕(火曜3限前半・火曜4限前半)

1. ガイダンス
2. 体力診断テスト
3. ラケットとシャトルに慣れる
4. シャトルをコントロールする
5. ルールとマナーを身につける
6. ミニゲーム

〔ニュースポーツ〕(火曜3限後半・火曜4限後半)

1. ガイダンス
 - 2～8. ユニホッケー
スピードミントン
ソフトバレーボール
ミニテニス
ファミリーバドミントン
- 上記のニュースポーツを実践する。

【評価方法】

出席=70点
実技・参加の態度・種目理解度等=30点

スポーツ科学

今井辰也

【授業の概要】

スポーツの科学的理論と実技的能力を実践を通じて学び、各種スポーツおよびストレッチ体操・トレーニングなどの実践によって運動の基礎的技術を習得する。

【授業の目標】

スポーツの科学的理論と実技的能力を実践を通じて学び、各種スポーツおよびストレッチ体操・トレーニングなどの実践によって運動の基礎的技術を習得する。

【授業計画】

- ・授業については、健康スポーツ教育センターの掲示板を参照のこと。

〔バレーボール〕(月曜日3限・4限前半)

1. ガイダンス
2. ボールに慣れる
- 3～4. 個人・チームでの基本的な練習
- 5～7. ゲーム・スキルテスト

〔バスケットボール〕(月曜日3限・4限後半)

1. ガイダンス
2. ボールに慣れる
- 3～4. 個人・チームでの基本的な練習
- 5～7. ゲーム・スキルテスト

【評価方法】

出席=70点
実技・参加の態度・種目理解度等=30点

スポーツ科学

堀田典生

【授業の概要】

スポーツの科学的理論と実技的能力を実践を通じて学び、各種スポーツおよびストレッチ体操・トレーニングなどの実践によって運動の基礎的技術を習得する。

【授業の目標】

スポーツの科学的理論と実技的能力を実践を通じて学び、各種スポーツおよびストレッチ体操・トレーニングなどの実践によって運動の基礎的技術を習得する。

【授業計画】

・第1週目の授業は、教室にてガイダンスを行う。
 ・この授業では、テニス・卓球というラケットスポーツを通して、健康のために生涯にわたって運動・スポーツを楽しみながら継続していく術を身につけることも目標とする。
 ・授業については、健康スポーツ教育センターの掲示板を参照のこと。

〔テニス〕(水曜3限前半)

1. 基本の練習、ルール・マナー学習
2. 基本の練習、片面シングルス
3. 能力別練習、片面シングルス
4. 能力別練習、ダブルスの説明及び簡単なゲーム
- 5～7. シングルス・ダブルスゲーム、スキルチェック

〔卓球〕(水曜3限後半)

- 1～2. 基本の練習 ルール学習
3. 能力別・グループ別練習、簡易ゲーム
- 4～6. シングルス・ダブルスゲーム、スキルチェック

【評価方法】

出席=70点

実技・参加の態度・種目理解度等=30点

健康と運動

門間 博 境田雅章 土田 洋 寺田邦昭 松田秀子 今井辰也 堀田典生

【授業の概要】

現代社会は、運動不足による体力の低下、過食による肥満など健康を阻害する要因が増加している。スポーツ種目の実践を通して、健康の保持増進への理解を深めることを目的とする。

【授業の目標】

運動の科学的理論の学習と各種スポーツの実践を通して、健康の保持増進への理解を深め、運動不足による体力の低下および過食による肥満を防ごうとする。

【授業計画】

- ・第1週目の授業は教室にてガイダンスを行う。
- ・天候によって種目を変更する場合がある。
- ・授業については、健康スポーツ教育センターの掲示板を参照のこと。
- ・授業内容については、担当教官の欄を参照のこと。

月曜日	1限	門間	テニス
	2限	門間	テニス
	3限	今井	バレーボール
	4限	今井	バレーボール
火曜日	2限	土田	フットスポーツ
	3限	松田	バドミントン
	3限	土田	フットスポーツ
	4限	松田	バドミントン
水曜日	2限	門間	バドミントン
	3限	門間	バドミントン
	3限	堀田	卓球
	4限	門間	バドミントン
木曜日	1限	寺田	バドミントン
	2限	寺田	ニュースポーツ
	3限	境田	サッカー
	4限	境田	サッカー
金曜日	1限	門間	バドミントン
	2限	門間	バドミントン
	3限	門間	テニス
	4限	門間	テニス

【評価方法】

出席=70点

実技・参加の態度・種目理解度等=30点

健康と運動

門間 博

【授業の概要】

現代社会は、運動不足による体力の低下、過食による肥満など健康を阻害する要因が増加している。スポーツ種目の実践を通して、健康の保持増進への理解を深めることを目的とする。

【授業の目標】

運動の科学的理論の学習と各種スポーツの実践を通して、健康の保持増進への理解を深め、運動不足による体力の低下および過食による肥満を防ごうとする。

【授業計画】

・第1週目の授業は教室にてガイダンスを行う。
 ・天候によって種目を変更する場合がある。
 ・授業については、健康スポーツ教育センターの掲示板を参照のこと。

〔テニス〕(月曜1限、月曜2限、金曜3限、金曜4限)

1. ガイダンス、競技の概略
2. ラケットとボールに慣れる(グリッパ、スタンス)
3. グランドストローク(フォアハンドを中心に)
4. グランドストローク(バックハンドを中心に)
5. サービス、レシーブ
6. ボレー、スマッシュ
7. ゲームの進め方、ルールとマナー
8. ダブルスゲーム(フォーメーションを中心に)
- 9～15. ダブルスゲーム、スキルテスト

〔バドミントン〕(水曜2限・水曜3限・水曜4限・金曜1限・金曜2限)

1. ガイダンス
2. 歴史的ゲームの追体験(シングルスゲーム)
3. ラケットワーク
4. ストローク練習(アンダーハンドを中心に)
5. ストローク練習(サイドハンドを中心に)
6. ストローク練習(オーバーヘッドを中心に)
7. ゲームの進め方、ルール説明
8. ダブルスゲーム(フォーメーションを中心に)

【評価方法】

出席=70点

実技・参加の態度・種目理解度等=30点

健康と運動

境田雅章

【授業の概要】

現代社会は、運動不足による体力の低下、過食による肥満など健康を阻害する要因が増加している。スポーツ種目の実践を通して、健康の保持増進への理解を深めることを目的とする。

【授業の目標】

運動の科学的理論の学習と各種スポーツの実践を通して、健康の保持増進への理解を深め、運動不足による体力の低下および過食による肥満を防ごうとする。

【授業計画】

- ・第1週目の授業は教室にてガイダンスを行う。
- ・授業については、健康スポーツ教育センターの掲示板を参照のこと。

〔サッカー〕(木曜3限・4限)

1. ガイダンス、競技の概略
2. パス&トラップ ゲーム(スモール・ビッグ)
3. ヘディング ゲーム(スモール・ビッグ)
4. ドリブル&シュート ゲーム(スモール・ビッグ)
5. ボールを奪われない技術 ゲーム(スモール・ビッグ)
6. 競り合いの技術 ゲーム(スモール・ビッグ)
7. パス&サポート ゲーム(スモール・ビッグ)
8. 実技テスト ゲーム(スモール・ビッグ)
9. 切り替え(ボールを奪われたら奪い返す) ゲーム(スモール・ビッグ)
10. ゴールを奪う(シュートの意識) ゲーム(スモール・ビッグ)
11. シュートのためのコントロール ゲーム(スモール・ビッグ)
12. 突破からのシュート ゲーム(スモール・ビッグ)
13. チーム戦術(システム) ゲーム(スモール・ビッグ)
14. チーム戦術(カウンター) ゲーム(スモール・ビッグ)
15. ゲーム&ゲーム

【評価方法】

出席=70点

実技・参加の態度・種目理解等=30点

健康と運動

土田 洋

【授業の概要】

現代社会は、運動不足による体力の低下、過食による肥満など健康を阻害する要因が増加している。スポーツ種目の実践を通して、健康の保持増進への理解を深めることを目的とする。

【授業の目標】

運動の科学的理論の学習と各種スポーツの実践を通して、健康の保持増進への理解を深め、運動不足による体力の低下および過食による肥満を防ごうとする。

【授業計画】

- ・第1週目の授業は教室にてガイダンスを行う。
- ・授業については、健康スポーツ教育センターの掲示板を参照のこと。

〔フィットネス〕

1. ガイダンス、マシン使用説明
2. 脚力強化

3. バランス力強化

〔キックベースボール〕

1. ガイダンス、競技の概略
2. チーム編成 試しのゲーム
3. チーム再編成 ゲーム
4. ゲーム

〔フットサル〕

1. ガイダンス、競技の概略
2. フットサル用のボールに慣れる 試しのゲーム
3. 基礎技術の練習
4. パスワークの練習
- 5～7. ゲーム

【評価方法】

出席=70点

実技・参加の態度・種目理解等=30点

健康と運動

寺田邦昭

【授業の概要】

現代社会は、運動不足による体力の低下、過食による肥満など健康を阻害する要因が増加している。スポーツ種目の実践を通して、健康の保持増進への理解を深めることを目的とする。

【授業の目標】

運動の科学的理論の学習と各種スポーツの実践を通して、健康の保持増進への理解を深め、運動不足による体力の低下および過食による肥満を防ごうとする。

【授業計画】

- ・第1週目の授業は教室にてガイダンスを行う。
- ・ニュースポーツについて、2～6週までのうち雨天の場合には7～14週に予定しているインドア種目に変更して実施する。

- ・授業については、健康スポーツ教育センターの掲示板を参照のこと。

〔バドミントン〕(木曜1限)

1. ガイダンス
2. 歴史的ゲームの追体験 (シングルスゲーム)
3. ラケットワーク
4. ストローク練習 (アンダーハンドを中心に)
5. ストローク練習 (サイドハンドを中心に)
6. ストローク練習 (オーバーヘッドを中心に)
7. ゲームの進め方、ルール説明
8. ダブルスゲーム (フォーメーションを中心に)
- 9～15. ダブルスゲーム

〔ニュースポーツ〕(木曜2限)

1. ガイダンス
- 2～3. フライングディスク
- 4～6. ベタンク、ターゲット・バード・ゴルフ
- 7～10. インディアカ、ミニテニス
- 11～14. ダーツ、ソフトテニス、ソフトバレー
15. グループによるニュー・スポーツの創作と発表

【評価方法】

出席=70点

実技・参加の態度・種目理解度等=30点

健康と運動

松田秀子

【授業の概要】

現代社会は、運動不足による体力の低下、過食による肥満など健康を阻害する要因が増加している。スポーツ種目の実践を通して、健康の保持増進への理解を深めることを目的とする。

【授業の目標】

運動の科学的理論の学習と各種スポーツの実践を通して、健康の保持増進への理解を深め、運動不足による体力の低下および過食による肥満を防ごうとする。

【授業計画】

- ・第1週目の授業は教室にてガイダンスを行う。
- ・授業については、健康スポーツ教育センターの掲示板を参照のこと。

〔バドミントン〕(火曜3限・火曜4限)

1. ガイダンス
2. 記録への挑戦 (打ち続けよう)
3. 歴史的ゲームの追体験
4. 用具の特徴 (貴重な水鳥の羽根)
5. フォーム作り (格好良いフォームで打とう)
6. 攻撃的なショット (初速はどれくらい?)
7. 守備的なショット
8. 基本の戦術
9. ダブルスのフォーメーション
10. 世界のバドミントンプレイヤーを観よう (VTR)
11. ゲームの特徴 (心拍数、運動強度はどれくらい?)
12. ゲームのルールとマナーを身につけよう
13. ハーフコート・ミニゲーム
14. ダブルスゲーム
15. スキルテスト

【評価方法】

出席=70点

実技・参加の態度・種目理解度等=30点

健康と運動

今井辰也

【授業の概要】

現代社会は、運動不足による体力の低下、過食による肥満など健康を阻害する要因が増加している。スポーツ種目の実践を通して、健康の保持増進への理解を深めることを目的とする。

【授業の目標】

運動の科学的理論の学習と各種スポーツの実践を通して、健康の保持増進への理解を深め、運動不足による体力の低下および過食による肥満を防ごうとする。

【授業計画】

- ・授業については、健康スポーツ教育センターの掲示板を参照のこと。

〔バレーボール〕(月曜3限・月曜4限)

1. ガイダンス
2. ボールに慣れる
- 3～5. 個人・グループでの基本的な練習
6. ルールとマナーを身につける
- 7～9. チームでの基本的な練習
- 10～15. ゲーム・技能テスト

【評価方法】

出席=70点

実技・参加の態度・種目理解度等=30点

健康と運動

堀田典生

【授業の概要】

現代社会は、運動不足による体力の低下、過食による肥満など健康を阻害する要因が増加している。スポーツ種目の実践を通して、健康の保持増進への理解を深めることを目的とする。

【授業の目標】

運動の科学的理論の学習と各種スポーツの実践を通して、健康の保持増進への理解を深め、運動不足による体力の低下および過食による肥満を防ごうとする。

【授業計画】

・第1週目の授業は、教室にてガイダンスを行う。
・卓球は子どもから高齢者まで参加でき、スポーツ施設に限らず保養所など様々な場所で楽しむことができるスポーツといえる。従って卓球を楽しむようになることは、生涯に渡って運動やスポーツを楽しむ術を身につけることにつながる。そこで、卓球を楽しむ術を身につけることも目標とする。
・授業については、健康スポーツ教育センターの掲示板を参照のこと。

[卓球(水曜3限)]

1. ガイダンス
2. 自分に合うラケット探し、フリー練習
3. ストローク、サーブ、レシーブの練習
4. 自分の能力を知る、ラリーは何回続けられますか？
5. 能力別練習1
6. 能力別練習2、フォームの確認し合い
7. ルール・マナー、審判法の学習
- 8～9. シングルゲーム
10. グループ編成、グループ練習1
11. グループ練習2、ダブルスの動き方とルール学習
- 12～13. ダブルゲーム
14. 団体(グループ)戦1
15. 団体(グループ)戦2、スキルチェック

【評価方法】

出席=70点

実技・参加の態度・種目理解度等=30点

スポーツ特殊講座（ボウリング）

松田秀子

【授業の概要】

ボウリングを通して、基礎的技術の向上と知識の習得を目標とし、楽しさを学び生涯スポーツの実践へとつなげる。

【授業の目標】

ボウリングの基礎的な技術と知識を習得し、楽しさを学び生涯スポーツの実践へとつなげる。

【授業計画】

〔ボウリング〕

1. 実習日時 平成21年9月2日(水)・3日(木)・4日(金)
7日(月)・8日(火)・9日(水)
計6日間 9:30～12:40
2. 説明会 日時 平成21年7月1日(水)12:30～13:15
場所 長久手キャンパス体育館3階 体育講義室
実習に必要な諸手続きを行うので必ず参加すること。
参加できない場合は事前に長久手キャンパス
健康スポーツ教育センターに問い合わせること。
説明会の欠席者は受講を認めません。
3. 場所 星ヶ丘ボウル
4. 実習費 7,200円
5. 定員 60名
6. 内容
 - 1日目 開講式、ボウリング学習の意義と特質、用具説明
 - 2日目 ボウリングの歴史、基本動作
 - 3日目 ボールのコントロール、軌道調整
 - 4日目 アジャスティングの基本と実践、3-2-1理論
 - 5日目 レーンコンディションとボールの曲がり
ストライクアングルの実践練習
 - 6日目 競技会説明、競技会（アメリカン方式3ゲーム）、閉講式

【評価方法】

出席状況と実習中の技術の上達度により総合評価する。

【参考文献・資料】

山本幸治「スポーツボウリングの世界」日本放送出版協会、2004。

スポーツ特殊講座（スケート）

鶴原香代子

【授業の概要】

スケートを通して、基礎的技術の向上と知識の習得を目標とし、楽しさを学び生涯スポーツの実践へとつなげる。

【授業の目標】

スケートを行うためのマナーを理解し、安全に楽しく実施するための基礎技能の習得を図り、生涯スポーツの一つとして位置づけられるようにする。

【授業計画】

1. 実習日時 平成21年9月2日(水)・3日(木)・4日(金)
7日(月)・8日(火)・9日(水)計6日間
時間：9:30～12:40
2. 説明会 日時：平成21年7月7日(火)16:45～17:35
場所：長久手キャンパス体育館3階 体育講義室
・実習に必要な諸手続きを行うので必ず参加すること。
・説明会の欠席者は受講を認めません。
※出席できない場合は事前に長久手キャンパス
健康スポーツ教育センターに問い合わせること。
3. 実習場所 名古屋スポーツセンター（大須）
4. 実習費 9,600円
※前年度の費用ですので変更する場合があります。
5. 定員 40名
6. 内容
 - 1日目 開講式、床で歩行練習、基本姿勢、氷上歩行・両足滑走
 - 2日目 自然滑走、正しい押し出し
 - 3日目 フォアスケータイング・カーブ滑走
 - 4日目 ストップ、バックスケータイングの基本
 - 5日目 クロスステップ、フォアからバックへのターン
 - 6日目 総合練習、実技テスト、閉講式

【評価方法】

出席状況（70%）と実習中の技術の上達度・参加態度・種目理解度（30%）により総合評価する。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献・資料】

大学スケート研究会「アイススケータイングの基礎」アイオーエム、1995。

Basic English 1

山田久美子 DYCUS, David C. 他

【授業の概要】

基本的なリスニング能力を、LL教材を用いて演習形式で身につける。

【授業の目標】

短いフレーズを中心とした英語を正確に聞き取れるようになるための基礎的な能力を身に付けることを目標とする。

【授業計画】

英語運用能力育成を目指す全学共通科目の一つとして、基礎的なリスニング力を養成することがこの授業の目標である。この目標を達成するために、音声教材、CALLシステムなどを活用し、以下の内容で授業を進める。

1. 英語のリズムとイントネーションの習得
2. 連結・脱落・同化などの聞き取り
3. ディクテーション
4. シャドーイング
5. 短文・長文の暗唱
6. ペア・プラクティス

様々な場面における対話や応答、状況説明などの聞き取りを通じて、語彙の増強と基本的な英語表現の習得も図る。

なお、担当教員や使用テキストなどにより、若干の変更が生じる場合がある。授業の計画や進度についての詳細は、1回目の授業で担当教員から説明される。

【評価方法】

出席25%、宿題25%、授業への積極的参加・授業内活動・テスト50%

【テキスト】

担当教員によってテキストは異なるので、掲示、配布物で確認すること。

Basic English 2

小沢 茂 BROWNING, Jeremy S. 他

【授業の概要】

英文の内容を早く、正確に読みとれる能力を身につけるために、さまざまなタイプの英文を多読・速読する。

【授業の目標】

英語運用能力育成を目指す全学共通科目の一つとして、英文の内容を早く、正確に読みとれるようになることがこの授業の目標である。

【授業計画】

1分あたり150語以上のスピードで英文を読み、英語を日本語に訳すのではなく、英語を英語として読み、分からない単語があっても前後の文脈から意味を推測し、パラグラフごとの要点を把握するための訓練を行う。速読の訓練には、本学に導入しているコンピュータを利用した英語学習システム ALC NetAcademy (アルクネットアカデミー) のSpeed Reading機能を自習課題とする。授業は以下の内容で進める。

1. 社会・経済、世界の情報、自然科学、文化、広告文などの実用的な英文などさまざまな分野の英文の読解
2. 語彙力の増強
3. 文法事項の整理
4. 練習問題・確認テストなど

なお、担当教員や使用テキストなどにより、若干の変更が生じる場合がある。授業の計画や進度についての詳細は、1回目の授業で担当教員から説明される。

【評価方法】

出席25%、宿題25%、授業への積極的参加・授業内活動・テスト50%

【テキスト】

担当教員によってテキストは異なるので、掲示、配布物で確認すること。

English 1 (Listening)

小沢 茂 SUTHONS, Philip 他

【授業の概要】

リスニングの発展的な能力を、LL教材等を用いて演習形式で身につける。

【授業の目標】

英語をより正確に聞き取り、パラグラフや会話文の要点を把握できるようになるための発展的な能力を身に付けることを目標とする。

【授業計画】

英語運用能力育成を目指す全学共通科目の一つとして、会話文・説明文などの内容を正確に把握できるリスニング力を養成することがこの授業の目標である。

この目標を達成するために、さまざまな音声教材、CALLシステムなどを活用し、以下の内容で授業を進める。

1. 英語のリズムとイントネーションの習得
2. 連結・脱落・同化などの聞き取り
3. 数字・地名の聞き取りと、日本人英語学習者が発音・聞き取りを不得手としている音の練習
4. ディクテーション
5. シャドーイング
6. 短文・長文の暗唱
7. ペア・プラクティス

授業で取り上げた教材を、何度も繰り返し声に出して発音する練習を通じて、英語らしいリズムとイントネーションの習得とともに、語彙力と表現力も身につける。英語を頭の中で日本語に置き換えるのではなく、英語を英語として聞き理解できるようになるために、大量・高速の英語を聞く。

なお、担当教員や使用テキストなどにより、若干の変更が生じる場合がある。授業の計画や進度についての詳細は、1回目の授業で担当教員から説明される。

【評価方法】

出席25%、宿題25%、授業への積極的参加・授業内活動・テスト50%

【テキスト】

担当教員によってテキストは異なるので、掲示、配布物で確認すること。

English 2 (Reading)

今井加寿 MC GOLDRICK, Gemma 他

【授業の概要】

さまざまなタイプの英文の内容を正しく把握できるように、英文精読のトレーニングを行う。

【授業の目標】

目的に応じた英文の読み方があることを知り、ある程度のまとまった長さの英文を読みとれるようになることがこの授業の目標である。

【授業計画】

パラグラフごとの要点を把握し、異なるパラグラフが論理的にどのような関係にあるのか、筆者の主張・論点・メッセージは何かを理解する必要がある。授業は以下の内容で進める。

1. 長文の大意把握
2. 語彙力の増強
3. 文法事項の整理
4. 練習問題・確認テストなど

なお、担当教員や使用テキストなどにより、若干の変更が生じる場合がある。授業の計画や進度についての詳細は、1回目の授業で担当教員から説明される。

【評価方法】

出席25%、宿題25%、授業への積極的参加・授業内活動・テスト50%

【テキスト】

担当教員によってテキストは異なるので、掲示、配布物で確認すること。

English 3 (TOEIC 1)

山田久美子 DYCUS, David C. 他

【授業の概要】

就職などでも考慮されることが多い国際コミュニケーション英語能力テストTOEICに向けての基礎的な能力を身に付ける。

【授業の目標】

TOEICに向けての基本的な文法や語彙など基本事項を徹底的に身につけることを目標とする。

【授業計画】

英語運用能力育成を目指す全学共通科目の一つとして、文法や語彙などの基本事項の整理を行うのがこの授業の目標である。この目標を達成するために、この授業では、本学に導入しているコンピュータを利用した英語学習システムALC NetAcademy（アルクネットアカデミー）を活用して、文法や語彙などの基本事項を再確認し、その定着を図る。具体的には、以下のように授業を進める。

1. 受講生による演習問題への解答
2. 授業担当者による問題解説
3. 演習問題を利用したディクテーション、シャドーウィング、ペア・プラクティスなど
4. Speed ListeningとSpeed Reading機能を活用した速聴・速読練習
5. 確認テストの実施

なお、担当教員や使用テキストなどにより、若干の変更が生じる場合がある。授業の計画や進度についての詳細は、1回目の授業で担当教員から説明される。

【評価方法】

出席25%、宿題25%、授業への積極的参加・授業内活動・テスト50%

【テキスト】

担当教員によってテキストは異なるので、掲示、配布物で確認すること。

English 4 (Speaking 1)

SUTHONS, Philip 他

【Course description】

ネイティブ・スピーカーの教員によって、実用英会話の基礎的な力を身に付ける。

This course aims to develop students' basic English proficiency by focusing on the practical English skills that will enable them to communicate their needs, views and ideas. Topics commonly included in TOEIC tests will be used as themes for these oral encounters.

Reading, Writing and Listening tasks will be used only as preparation for oral activities. For example, dialogues and role plays may be used to set the scene for further discussion. The dialogues may be text based or student designed (i.e. homework).

【Course objectives】

This course aims to develop students' basic English proficiency by focusing on the practical English skills that will enable them to communicate their needs, views and ideas.

【Course schedule】

Topics will include such things as: Office Conversations, Travel Situations, Talking about Occupations, On the Telephone, Eating out and other TOEIC type situational conversations.

【Assessment】

25% Attendance
25% Homework
50% Class-work/Participation/Tests

【Textbooks】

To be announced

English 5 (TOEIC 2)

小沢 茂 DYCUS, David C. 他

【授業の概要】

就職などでも考慮されることが多い国際コミュニケーション英語能力テストTOEICに向けての発展的な能力を身につけ、英語の総合力を高めることを目標とする。

【授業の目標】

リスニング力とリーディング力を総合的に向上させることが目標である。

【授業計画】

英語運用能力育成を目指す全学共通科目の一つとして、リスニング力とリーディング力を総合的に向上させることがこの授業の目標である。この目標を達成するために、この授業では、本学に導入しているコンピュータを利用した英語学習システムALC NetAcademy（アルクネットアカデミー）を自習課題として活用して、英語コミュニケーション能力の向上を目指す。具体的には、以下のように授業を進める。

1. 受講生による演習問題への解答
2. 授業担当者による問題解説
3. 演習問題を利用したディクテーション、シャドーイング、ペア・プラクティスなど
4. 確認テストの実施

なお、担当教員や使用テキストなどにより、若干の変更が生じる場合がある。授業の計画や進度についての詳細は、1回目の授業で担当教員から説明される。

【評価方法】

出席25%、宿題25%、授業への積極的参加・授業内活動・テスト50%

【テキスト】

担当教員によってテキストは異なるので、掲示、配布物で確認すること。

English 6 (Speaking 2)

HARRIS, Richard S. 他

【Course description】

ネイティブ・スピーカーの教員によって、実用英会話の応用的な力を身に付ける。

This pre-intermediate course aims to further develop students' English proficiency by focusing on the practical English skills that will enable them to communicate their needs, views and ideas. Topics commonly included in TOEIC tests will be used as themes for these oral encounters.

Reading, Writing and Listening tasks will be used only as preparation for oral activities. For example, dialogues and role plays may be used to set the scene for further discussion. The dialogues may be text based or student designed (i.e. homework).

【Course objectives】

This pre-intermediate course aims to further develop students' English proficiency by focusing on the practical English skills that will enable them to communicate their needs, views and ideas.

【Course schedule】

Topics will include such things as: Leisure and Recreation, The Weather, Advertising, Commuting and Transportation, Banking and Shopping.

【Assessment】

25% Attendance
25% Homework
50% Class-work/Participation/Tests

【Textbooks】

To be announced

Advanced General English IG

鈴木久子 太田晶子 今井加寿

【授業の概要】

TOEICスコア470点以上の学習者を対象とする全学向けのTOEIC対策講座。日本人教員担当の「Advanced General English I」、英語ネイティブスピーカー担当の「Advanced General English II」から成る。最高、半期に2コマ（I、IIの両科目を受講した場合）まで、4年間続けて何度でも履修できる。週1回の授業で2単位とする。毎回、授業外でのリーディング演習（60分×7日×13回）とリスニング演習（60分×7日×13回）（それぞれ91時間相当）が課せられる。課題は毎回チェックされる。授業中に演習に取り組む態度、出席、課題などにより総合的な評価を行う。

【授業の目標】

学期末のTOEIC受験における得点アップを最大の目標とする。ただし、各自目標を設定し、到達度・進捗度を確認することが望ましい。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーションおよび模擬演習
 第2回～第14回 演習・解説、Vocabularyテスト
 ・1週間の宿題の範囲からVocabularyの小テスト・採点・解説（15分）
 ・前回の宿題で間違いが多かった点および質問の解説（15分）
 ・演習（リーディング・リスニング）（30分）
 ・問題解説（25分）
 第15回 模擬テスト
 ＊宿題 リーディング演習（60分×7日）＝毎回7時間相当分
 （合計 7時間×13回＝91時間）
 リスニング演習（60分×7日）＝毎回7時間相当分
 （合計 7時間×13回＝91時間）

【評価方法】

出席・演習に取り組む態度・宿題の遂行度合いなどにより総合的に評価する。

【テキスト】

掲示・配布物で確認すること。

Advanced General English IIG

CAPITIN-PRINCIPE, Abigail B. PUDWILL, Larry A.

【授業の概要】

TOEICスコア470点以上の学習者を対象とする全学向けのTOEIC対策講座。日本人教員担当の「Advanced General English I」、英語ネイティブスピーカー担当の「Advanced General English II」から成る。最高、半期に2コマ（I、IIの両科目を受講した場合）まで、4年間続けて何度でも履修できる。週1回の授業で2単位とする。毎回、授業外でのリーディング演習（60分×7日×13回）とリスニング演習（60分×7日×13回）（それぞれ91時間相当）が課せられる。課題は毎回チェックされる。授業中に演習に取り組む態度、出席、課題などにより総合的な評価を行う。

【授業の目標】

学期末のTOEIC受験における得点アップを最大の目標とする。ただし、各自目標を設定し、到達度・進捗度を確認することが望ましい。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーションおよび模擬演習
 第2回～第14回 演習・解説、Vocabularyテスト
 ・1週間の宿題の範囲からVocabularyの小テスト・採点・解説（15分）
 ・前回の宿題で間違いが多かった点および質問の解説（15分）
 ・演習（リーディング・リスニング）（30分）
 ・問題解説（25分）
 第15回 模擬テスト
 ＊宿題 リーディング演習（60分×7日）＝毎回7時間相当分
 （合計 7時間×13回＝91時間）
 リスニング演習（60分×7日）＝毎回7時間相当分
 （合計 7時間×13回＝91時間）

【評価方法】

出席・演習に取り組む態度・宿題の遂行度合いなどにより総合的に評価する。

【テキスト】

掲示・配布物で確認すること。

Advanced General English IH

鈴木久子 太田晶子 今井加寿

【授業の概要】

TOEICスコア470点以上の学習者を対象とする全学向けのTOEIC対策講座。日本人教員担当の「Advanced General English I」、英語ネイティブスピーカー担当の「Advanced General English II」から成る。最高、半期に2コマ（I、IIの両科目を受講した場合）まで、4年間続けて何度でも履修できる。週1回の授業で2単位とする。毎回、授業外でのリーディング演習（60分×7日×13回）とリスニング演習（60分×7日×13回）（それぞれ91時間相当）が課せられる。課題は毎回チェックされる。授業中に演習に取り組む態度、出席、課題などにより総合的な評価を行う。

【授業の目標】

学期末のTOEIC受験における得点アップを最大の目標とする。ただし、各自目標を設定し、到達度・進捗度を確認することが望ましい。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーションおよび模擬演習
 第2回～第14回 演習・解説、Vocabularyテスト
 ・1週間の宿題の範囲からVocabularyの小テスト・採点・解説（15分）
 ・前回の宿題で間違いが多かった点および質問の解説（15分）
 ・演習（リーディング・リスニング）（30分）
 ・問題解説（25分）
 第15回 模擬テスト
 ＊宿題 リーディング演習（60分×7日）＝毎回7時間相当分
 （合計 7時間×13回＝91時間）
 リスニング演習（60分×7日）＝毎回7時間相当分
 （合計 7時間×13回＝91時間）

【評価方法】

出席・演習に取り組む態度・宿題の遂行度合いなどにより総合的に評価する。

【テキスト】

掲示・配布物で確認すること。

Advanced General English IIH

CAPITIN-PRINCIPE, Abigail B. PUDWILL, Larry A.

【授業の概要】

TOEICスコア470点以上の学習者を対象とする全学向けのTOEIC対策講座。日本人教員担当の「Advanced General English I」、英語ネイティブスピーカー担当の「Advanced General English II」から成る。最高、半期に2コマ（I、IIの両科目を受講した場合）まで、4年間続けて何度でも履修できる。週1回の授業で2単位とする。毎回、授業外でのリーディング演習（60分×7日×13回）とリスニング演習（60分×7日×13回）（それぞれ91時間相当）が課せられる。課題は毎回チェックされる。授業中に演習に取り組む態度、出席、課題などにより総合的な評価を行う。

【授業の目標】

学期末のTOEIC受験における得点アップを最大の目標とする。ただし、各自目標を設定し、到達度・進捗度を確認することが望ましい。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーションおよび模擬演習
 第2回～第14回 演習・解説、Vocabularyテスト
 ・1週間の宿題の範囲からVocabularyの小テスト・採点・解説（15分）
 ・前回の宿題で間違いが多かった点および質問の解説（15分）
 ・演習（リーディング・リスニング）（30分）
 ・問題解説（25分）
 第15回 模擬テスト
 ＊宿題 リーディング演習（60分×7日）＝毎回7時間相当分
 （合計 7時間×13回＝91時間）
 リスニング演習（60分×7日）＝毎回7時間相当分
 （合計 7時間×13回＝91時間）

【評価方法】

出席・演習に取り組む態度・宿題の遂行度合いなどにより総合的に評価する。

【テキスト】

掲示・配布物で確認すること。

Advanced Academic English 09A

BROWNING, Jeremy S. WRINGER, Paul

【授業の概要】

本科目「Advanced Academic English 09A」は、2人の担当教員による週2日の授業で1セット（4単位）を基本とする全学対象の上級英語科目である。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。英語で行なう時事問題考察・文化考察などの多様な授業活動を通して語彙力増強と英語運用能力の強化を目指す。学外ゲストとの英語交流も行なわれる。多くの英語コミュニケーション実践により、文化の多様性に対する認識が深まり、広い視野と柔軟な視点が育成されるだろう。4年間続けて履修できる。（ただし、1年生および編入生（1年目）は前期開講の本科目は受講できない。）

【授業の目標】

Wringer

1. To help students to integrate new ideas, vocabulary and idioms into everyday speech
2. To help students recognize organizational patterns in preparation for the TOEIC test

Browning

Students will develop stronger vocabulary, idiomatic expressions, and language learning strategies that cover various language skill areas.

【授業計画】

Wringer

Students will be expected to discuss a variety of topics each week from the following themes: People; Relationships; Workplace; Family; and Society.

Browning

Students will explore various topics that go beyond the simple conversation level. Every 2 weeks a new topic will be introduced that challenges the students to express themselves in greater detail. During the 2-week exploration of the topic, students will use various language skills (reading, writing, listening & speaking) to help them holistically learn the topic & its language requirements.

【評価方法】

「Advanced Academic English 09A」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。火曜日5限（担当教員：BROWNING, Jeremy）、木曜日1限（担当教員：WRINGER, Paul）の両方に登録し、両授業への出席が必要である。それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

【テキスト】

Wringer : To be announced.

Browning: Handouts will be provided

Advanced Academic English 09C

横山綾子 DAVIES, Alun

【授業の概要】

本科目「Advanced Academic English 09C」は、2人の担当教員による週2日の授業で1セット（4単位）を基本とする全学対象の上級英語科目である。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。英語で行なう時事問題考察・文化考察、通訳演習などの多様な授業活動を通して語彙力増強と英語運用能力の強化を目指す。学外ゲストとの英語交流も行なわれる。多くの英語コミュニケーション実践により、文化の多様性に対する認識が深まり、広い視野と柔軟な視点が育成されるだろう。4年間続けて履修できる。（ただし、1年生および編入生（1年目）は前期開講の本科目は受講できない。）

【授業の目標】

横山

通訳の訓練には、言語の知識、訳出技術、論理的思考、また自主的な発言能力など様々な要素が求められます。このクラスでは、First in First out (FIFO) の訓練を中心にスピーディーな訳出、日本語のわかりやすく美しい表現など学習します。

Davies

Aims:

To strengthen existing skills and develop fluency via communication tasks. To learn about CHUNKS as an aid to building a powerful vocabulary of natural English. To practice speed, rhythm, stress and intonation patterns of native speaker English.

【授業計画】

横山

第1回 通訳一般概論 Sight translation

第2～10回 The Student Timesからの記事使用（テープ）

Shadowing, Sight translation, メモ取り、逐次通訳演習、同時通訳入門

Davies

This course will provide opportunities for oral interaction in English. Vocabulary-building is central to the aim of using English for communication in a range of speaking and listening tasks (e.g. drama; discussion; interpreting; conversation).

【評価方法】

「Advanced Academic English 09C」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。火曜日1限（担当教員：DAVIES, Alun）、水曜日2限（担当教員：横山綾子）の両方に登録し、両授業への出席が必要である。それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

【テキスト】

横山 : The Student Times その他

Davies: No text is required.

Advanced Academic English 09B

BROWNING, Jeremy S. WRINGER, Paul

【授業の概要】

この科目「Advanced Academic English 09B」は、2人の担当教員による週2日の授業で1セット（4単位）を基本とする全学対象の上級英語科目である。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。英語で行なう時事問題考察・文化考察などの多様な授業活動を通して語彙力増強と英語運用能力の強化を目指す。学外ゲストとの英語交流も行なわれる。多くの英語コミュニケーション実践により、文化の多様性に対する認識が深まり、広い視野と柔軟な視点が育成されるだろう。4年間続けて履修できる。

【授業の目標】

Wringer

1. To help students to integrate new ideas, vocabulary and idioms into everyday speech
2. To help students recognize organizational patterns in preparation for the TOEIC test

Browning

Students will develop stronger vocabulary, idiomatic expressions, and language learning strategies that cover various language skill areas.

【授業計画】

Wringer

Students will be expected to discuss a variety of topics each week from the following themes: People; Relationships; Workplace; Family; and Society.

Browning

Students will explore various topics that go beyond the simple conversation level. Every 2 weeks a new topic will be introduced that challenges the students to express themselves in greater detail. During the 2-week exploration of the topic, students will use various language skills (reading, writing, listening & speaking) to help them holistically learn the topic & its language requirements.

【評価方法】

「Advanced Academic English 09B」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。火曜日5限（担当教員：BROWNING, Jeremy）、木曜日1限（担当教員：WRINGER, Paul）の両方に登録し、両授業への出席が必要である。それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

【テキスト】

Wringer : To be announced.

Browning: Handouts will be provided

Advanced Academic English 09D

横山綾子 DAVIES, Alun

【授業の概要】

本科目「Advanced Academic English 09D」は、2人の担当教員による週2日の授業で1セット（4単位）を基本とする全学対象の上級英語科目である。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。英語で行なう時事問題考察・文化考察、通訳演習などの多様な授業活動を通して語彙力増強と英語運用能力の強化を目指す。学外ゲストとの英語交流も行なわれる。多くの英語コミュニケーション実践により、文化の多様性に対する認識が深まり、広い視野と柔軟な視点が育成されるだろう。4年間続けて履修できる。

【授業の目標】

横山

通訳の訓練には、言語の知識、訳出技術、論理的思考、また自主的な発言能力など様々な要素が求められます。このクラスでは、First in First out (FIFO) の訓練を中心にスピーディーな訳出、日本語のわかりやすく美しい表現など学習します。

Davies

Aims:

To strengthen existing skills and develop fluency via communication tasks. To learn about CHUNKS as an aid to building a powerful vocabulary of natural English. To practice speed, rhythm, stress and intonation patterns of native speaker English.

【授業計画】

横山

第1回 通訳一般概論 Sight translation

第2～10回 The Student Timesからの記事使用（テープ）

Shadowing, Sight translation, メモ取り、逐次通訳演習、同時通訳入門

Davies

This course will provide opportunities for oral interaction in English. Vocabulary-building is central to the aim of using English for communication in a range of speaking and listening tasks (e.g. drama; discussion; interpreting; conversation).

【評価方法】

「Advanced Academic English 09D」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。火曜日1限（担当教員：DAVIES, Alun）、水曜日2限（担当教員：横山綾子）の両方に登録し、両授業への出席が必要である。それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

【テキスト】

横山 : The Student Times その他

Davies: No text is required.

Advanced Academic English 09E

難波豊子 CURRAN, Beverley

【授業の概要】

本科目「Advanced Academic English 09E」は、2人の担当教員による週2日の授業で1セット（4単位）を基本とする全学対象の上級英語科目である。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。英語で行なう時事問題考察・文化考察、通訳演習などの多様な授業活動を通して語彙力増強と英語運用能力の強化を目指す。学外ゲストとの英語交流も行なわれる。多くの英語コミュニケーション実践により、文化の多様性に対する認識が深まり、広い視野と柔軟な視点が育成されるだろう。4年間続けて履修できる。（ただし、1年生および編入生（1年目）は前期開講の本科目は受講できない。）

【授業の目標】

Bev Curran
To create a community of supportive language learners and to develop each student's confidence in their ability to express their ideas in prepared presentations and extemporaneous discussion in English.

難波豊子
英語の構文を意識しながら聞き、生の英語に慣れる。且つ「聞き手に分かりやすい通訳とは？」を、通訳練習を通して考えてながら、主に英語から日本語への逐次通訳力強化を目指す。

【授業計画】

Bev Curran
Each week, in my class, a different student will be responsible for selecting a topic and introducing a discussion about it in English. The other students will listen with attention and then continue the discussion through their own questions and comments. The goal in each class is to engage in animated discussion for 90 minutes, giving each student an opportunity to grow more comfortable and confident in initiating and continuing a conversation or discussion in English. Special guests will also be invited to the class to talk about themselves with the students in a relaxed and supportive atmosphere.

難波豊子
・スラッシュ・リーディングによる頭からの情報処理
・分かりやすい日本語の検討
・短い時間で、英文のメッセージを把握
・2点集中力育成練習

上記基礎力強化を基本に
(1)英語のテープを聞いて、グループあるいはペアで内容把握
(2)単語チェック

(3)日本語への逐次通訳練習を中心として演習を行う。
内容理解の段階では、基本的に英語を話す事を要求する。教材は基本として毎回異なった内容のものを使用。教材としては時事的なニュースを取り扱うが、スピーチの通訳も実践する。また、1回はゲストスピーカーを招待し、積極的に会話を行ってもらう。

【評価方法】

火曜日2限（担当教員：難波豊子）、木曜日2限（担当教員：CURRAN, Beverley）の両方に登録し、両授業への出席が必要である。それぞれの授業において、日常の授業態度、宿題に対する姿勢、ゲストスピーカーとのディスカッションへの貢献度等で、総合的に評価し、それらの評価の平均をこの科目の評価とする。

【テキスト】

授業中に配布、指示する。

英語コミュニケーション基礎

太田直子 山田久美子 小沢 茂

【授業の概要】

英語力の向上の為にはまず基礎が大切である。基礎をもう一度確認することで大学レベルの英語の授業をさらに効果的に活用できると考える。授業は、そのためのステップとして、もう一度、英語基礎を一からやり直しする。

【授業の目標】

文法を復習すること、そして基本的な例文を暗記することで英語の基礎を再確認する。
次回のTOIECスコア350を目指す。

【授業計画】

授業計画
1) 授業オリエンテーション
2) 品詞
3) 5文型
4) 時制 <現在形・過去形>
5) 進行形・未来形
6) 完了形
7) 助動詞
8) 受動態
9) 不定詞
10) 動名詞
11) 関係詞
12) 比較級・最上級
13) 仮定法
14) まとめ
15) まとめ
但し、授業の進行状況により内容を変更する場合がある。

この授業は、英語サポートプログラムである「基礎からのやり直し英語」と同時に履修することができる。同時に履修することにより、さらに英語の基礎力が付くと考える。「基礎からのやり直し英語」についての詳細は、授業中に説明をする。また、「基礎からのやり直し英語」のパンフレット（9号棟に設置）が用意されている。

【評価方法】

出席と小テスト

【テキスト】

Kikujii Saito, Michiko Joichi
「Simple Grammar シンプルセンテンスで学ぶ基本英文法」 南雲堂 1,800円

【参考文献・資料】

講義の際に説明する

Advanced Academic English 09F

難波豊子 CURRAN, Beverley

【授業の概要】

本科目「Advanced Academic English 09F」は、2人の担当教員による週2日の授業で1セット（4単位）を基本とする全学対象の上級英語科目である。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。英語で行なう時事問題考察・文化考察、通訳演習などの多様な授業活動を通して語彙力増強と英語運用能力の強化を目指す。学外ゲストとの英語交流も行なわれる。多くの英語コミュニケーション実践により、文化の多様性に対する認識が深まり、広い視野と柔軟な視点が育成されるだろう。4年間続けて履修できる。

【授業の目標】

Bev Curran
To continue to give students practice in preparing and leading a discussion, as well as sustaining a discussion through careful listening and questions. The group discussion aims to form a community of supportive language learners and to develop each student's ability to express their ideas in English.

難波豊子
英語の構文を意識しながら聞き、生の英語に慣れる。且つ「聞き手に分かりやすい通訳とは？」を、通訳練習を通して考えてながら、主に英語から日本語への逐次通訳力強化を目指す。

【授業計画】

Bev Curran
In the second semester, discussions will continue, and students will be encouraged to take more responsibility for engaging in discussion and offering support to the speaker through a thoughtful consideration of the topic. Each week will be a chance to grow closer as a group of engaged language learners whose communal energy will motivate individual student growth in English ability and self-confidence. Special guests will also be invited to the class to talk to the students in English in a relaxed but lively atmosphere.

難波豊子
・スラッシュ・リーディングによる頭からの情報処理
・分かりやすい日本語の検討
・短い時間で、英文のメッセージを把握
・2点集中力育成練習

上記基礎力強化を基本に
(1)英語のテープを聞いて、グループあるいはペアで内容把握
(2)単語チェック

(3)日本語への逐次通訳練習を中心として演習を行う。
内容理解の段階では、基本的に英語を話す事を要求する。教材は基本として毎回異なった内容のものを使用。教材としては時事的なニュースを取り扱うが、スピーチの通訳も実践する。また、1回はゲストスピーカーを招待し、積極的に会話を行ってもらう。

【評価方法】

本科目は、週2回コースの授業で4単位の科目である。火曜日2限（担当教員：難波豊子）、木曜日2限（担当教員：CURRAN, Beverley）の両方に登録し、両授業への出席が必要である。それぞれの授業において、日常の授業態度、宿題に対する姿勢、ゲストスピーカーとのディスカッションへの貢献度等で、総合的に評価し、それらの評価の平均をこの科目の評価とする。

【テキスト】

授業中に配布、指示する。

中国語読解 1 A

中西千香 李昱 胡桂蘭 曹志偉 湯海鵬 嚴萍

【授業の概要】

身近な実用読解文を多くとりあげた教材を通じて中国語の初級段階を総合的に学習し、中国語の発音・文法面・表現面における基礎的能力を養成する。さらにHSK基礎試験の2級合格を目指し、〈中国漢語水平考試大綱〉に規定された400～900前後の語彙力と70項目の文法力を身につける。このことで、中国語の平易な文章の読解が可能になると同時に、履修翌学期からHSK試験対策コースである〈HSK基礎コースA〉〈HSK基礎コースB〉の履修が可能になる。

【授業の目標】

中国語学習の基礎となる発音、基本的な語彙・文法を学習し、中国語で簡単なやりとりができる程度の語彙・表現力を身につける。

【授業計画】

1. オリエンテーション
2. 母音、数字、挨拶、疑問文、形容詞述語文
3. 子音、声調、曜日表現、省略疑問文、疑問詞疑問文
4. 音節、勧誘表現
5. 動詞述語文、指示代名詞
6. 我姓松本。自己紹介
7. 介詞“和”、副詞“也”“都”
8. 我的家庭。所有・存在の“有”、名詞述語文
9. 部分否定文、感嘆表現、変調と軽声
10. 我们的大学。介詞“给”“在”
11. 名詞の修飾表現
12. 我的一天。日時・時刻の表現、方向補語
13. 就要放暑假了。語気助詞“了”、介詞“和”
14. 伝聞の表現、能願動詞“想”“要”

【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

中国語読解 1 A 2 (愛知淑徳大学中国語教育委員会編)

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

中国語読解 1 B

中西千香 胡桂蘭

【授業の概要】

講義の内容等とカリキュラム上の位置づけは〈中国語読解 1 A〉に準ずるが、中国語の基礎を固め理解をより深めるために週2回の受講が可能となるよう設定された講義である。ただし、文法項目の順序と用例、そして練習問題などの設定が〈中国語読解 1 A〉と異なる教材を使用する。このことで、学習した文法事項を確実に身に付けること、同じ文法項目をちがった角度から見ることで理解の幅を広げること、多面にわたる練習問題を多く解くことでHSKの合格をより確実なものにするを図る。

【授業の目標】

中国語学習の基礎となる発音、基本的な語彙・文法を学習し、中国語で簡単なやりとりができる程度の語彙・表現力を身につける。

【授業計画】

読解に必要な、基礎的な表現や文法事項を、特に日本人の苦手な部分に重点を置いて、半期にわたって学習する。

- | | |
|------|-------------|
| 第一課 | 発音 (1) |
| 第二課 | 発音 (2) |
| 第三課 | 発音 (3) |
| 第四課 | 発音 (4) |
| 第五課 | 人称代名詞・“是” |
| 第六課 | 指示代名詞・数詞・量詞 |
| 第七課 | 形容詞と形容詞述語文 |
| 第八課 | 動詞述語文 |
| 第九課 | “有”・年月日 |
| 第十課 | 場所・時間・数量 |
| 第十一課 | 前置詞(介詞)・“了” |
| 第十二課 | 能願動詞 |

【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

中国語読解 1 B (中国語教育委員会編)

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

中国語会話 1 A

中西千香 大森信徳 曹志偉 周素芬 陳惠貞 中塚亮

【授業の概要】

分かりやすい実用会話文を多くとりあげた教材を通じて、中国語の初級段階を総合的に学習し、中国語の発音・音声面・表現面における基礎的能力を養成する。さらにHSK基礎試験の2級合格を目指し、HSK試験センターより出された〈中国漢語水平考試大綱〉に規定された400～900前後の語彙力と70項目の文法力を身につける。このことで、一般的な挨拶・自己紹介などが可能になると同時に、履修翌学期からHSK試験対策コースである〈HSK基礎コースA〉〈HSK基礎コースB〉の履修が可能になる。

【授業の目標】

中国語学習の基礎となる発音、基本的な語彙・文法を学習し、中国語で簡単なやりとりができる程度の語彙・表現力を身につける。

【授業計画】

初めて中国語を学ぶ学生を対象とし、日常会話表現の習得を目指す。

1. オリエンテーション
2. 発音 (1)
3. 発音 (2)
4. 発音 (3)
5. 発音 (4)
6. あいさつ表現
7. 時間の表し方
8. 年齢を言う
9. 家族について語る
10. 自分の家について語る
11. 学校について語る
12. まとめ

【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

中国語会話 1 A 2 (中国語教育委員会編)

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

中国語会話 1 B

中塚亮

【授業の概要】

講義の内容等とカリキュラム上の位置づけは〈中国語会話 1 A〉に準ずるが、中国語の基礎を固め理解をより深めるために週2回の受講が可能となるよう設定された講義である。ただし、文法項目の順序と用例、そして練習問題などの設定などが〈中国語会話 1 A〉と異なる教材を使用する。このことで、学習した文法事項を確実に身に付けること、同じ文法項目をちがった角度から見ることで理解の幅を広げること、多面にわたる練習問題を多く解くことでHSKの合格をより確実なものにするを図る。

【授業の目標】

中国語学習の基礎となる発音、基本的な語彙・文法を学習し、中国語で簡単なやりとりができる程度の語彙・表現力を身につける。

【授業計画】

1. オリエンテーション
2. 今天星期几? 曜日と疑問詞利用の疑問文
3. 我很高兴。省略疑問文、形容詞述語文
4. 我学习中文专业。能願動詞“能”
5. 现在几点? 時間表現、語気助詞“了”
6. 我的家庭。介詞“在”
7. 谈天气。天気表現、選択疑問文、感嘆文、
8. 邀请。仮定文、反復疑問文、部分否定文
9. 我的大学。伝聞の表現
10. 找手机。目的語位置換えの“把”、結果補語“到”
11. 喜欢什么? 過去の経験表現「V+“过”」
結果や程度表現「V+“得”」
12. 帮我。能願動詞“会”
13. 假期做什么? 結果補語“好”
14. まとめ

【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

中国語会話 1 B (愛知淑徳大学中国語教育委員会編)

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

中国語読解 2

李昱 胡桂蘭 大森信徳 湯海鵬 張勤 嚴萍

【授業の概要】

読解学習を通じて中国語の全体像がつかめる基礎的能力を養成する。さらに、HSK基礎試験の3級合格を目指し、＜中国漢語水平考試大綱＞に規定された900～1500前後の語彙力と140項目の文法力を身につける。HSK試験対策のためには＜HSK基礎コースA＞か、＜HSK基礎コースB＞と並行した履修が望ましく、基礎能力の深度を深めるためには＜中国語会話2＞と並行した履修が望ましい。

【授業の目標】

半期の学習成果を踏まえ、読解能力のさらなる向上を目指す。より複雑な文章の学習を通じて、中国語の基本構造を理解し、読解能力を養成する。

【授業計画】

本文の状況設定や表現は、旅行記・家族のこと・趣味など、学習者が興味を持てるような身近な題材を取り上げた。

1. 暑假回家的一天。完了の表現、結果補語“到”
2. 使役の表現“让”
3. 鈴木一家。能願動詞“会”“能”
4. 過去の経験表現「V+“过”」
5. 我家的照片。動作の進行・状態の持続などの表現「V+“着”」
6. 介詞“离”、連動文
7. 终于习惯了。疑問詞の連用、感嘆表現2
8. 自己の意見表示
9. 我做了一个夢。進行表現の「“在”+V」
10. 程度補語と可能補語、副詞用法の“地”
11. 我太幸福了。目的語位置換えの“把”
12. 比較の表現、受身文
13. まとめ

【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

中国語読解1 A 2（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

中国語会話 2

中西千香 李昱 胡桂蘭 周素芬 杜英起 大森信徳

【授業の概要】

身近で分かりやすい実用例文を多くとりあげた会話学習を通じて、中国語の音声面・文法面・表現面における全体像がつかめるような基礎的能力を養成する。さらに、HSK基礎試験の3級合格を目指し、HSK試験センターより出された＜中国漢語水平考試大綱＞に規定された900～1500前後の語彙力と140項目の文法力を身につける。履修後は旅先での中国語による買い物や換金など、基本的な会話が可能になる。なおHSK試験対策のためには＜HSK基礎コースA＞か＜HSK基礎コースB＞と並行した履修が望ましく、基礎能力の定着をはかるためには＜中国語読解2＞と並行した履修が望ましい。

【授業の目標】

半期の学習成果を踏まえ会話能力のさらなる向上を目指す。日常の様々なシーンで求められる表現・会話の学習を通じて、中国語の運用能力を身につける。

【授業計画】

本文の状況設定や表現は、学習者が中国に留学している気分で学習できるように配慮した。

1. 趣味を語る
2. 中国へ行く
3. ホテルのフロントで
4. 換金する
5. 道を尋ねる
6. バスに乗る
7. 電話をかける
8. タクシーに乗る
9. 実践会話練習

【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

中国語会話1 A 2（中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

HSK基礎コースA *聴解中心

中西千香 李昱 大森信徳 王麗英 杜英起

【授業の概要】

近年注目されている中国語能力試験HSK（漢語水平考試）に向けて、受験に必要な基礎的な能力を集中的に養成するための授業である。試験で要求される400～1500前後の語彙量とその語彙量に相応する文法力・聴解力を身につける。

【授業の目標】

HSKを通じて、中国語の実践能力を高める。HSK基礎2級から3級に合格するレベルの語彙・文法・読解力を身につける。

【授業計画】

12課編成で授業を進める予定である。まず文法の説明から入り、そのあと、練習問題を解いて、練習問題について解説する。各課の文法のポイント は下記の通りである。

1. “了”や“过”の使い方など
2. “時点”の言い方や“时段”の言い方など
3. “小时”や“钟头”の使い方など
4. “方位词表”について
5. “多会儿”や“哪会儿”の使い方など
6. “该”や“应该”の使い方など
7. 介詞の“朝”、“向”と“往”の使い方
8. 比較表現について
9. “是字句”について
10. “愿意”や“想”の使い方など
11. “趋向补语”について
12. “复合趋向补语”である“下来”や“下去”などの意味について
授業の予習としてホームページを利用することができる。

【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

HSK基礎A 改訂版（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

HSK基礎コースB *読解中心

中西千香 李昱 河井昭乃 曹志偉 嚴萍 中塚亮

【授業の概要】

近年注目されている中国語能力試験HSK（漢語水平考試）に向けて、受験に必要な基礎的な能力を集中的に養成するための授業である。設定する目標、講義内容とカリキュラム上の位置づけは＜HSK基礎コースA＞に準ずるが、HSKの資格取得に対して特に関心を持つ学生に週2回のHSK対策コースの受講を可能にするため設定された講義である。文法項目の順序と用例、そして練習問題などの設定が＜HSK基礎コースA＞とは異なる教材を使用し、習得した文法事項を確実に身に付けること、同じ文法項目をちがった角度から見ることで理解の幅を広めること、多面にわたる練習問題を解くことでHSKの合格をより確実なものとする。

【授業の目標】

HSKを通じて、中国語の実践能力を高める。HSK基礎2級から3級に合格するレベルの語彙・文法・読解力を身につける。

【授業計画】

12課編成で授業を進める予定である。まず文法の説明から入り、そのあと、練習問題を解いて、練習問題について解説する。各課の文法のポイントは下記の通りである。

1. “我”と“你”；“左右”と“前后”など
2. “是”；語気助詞の“吗”と“呢”など
3. “了”；形容詞述語文など
4. “動詞+过”と“形容詞+过”；“在”など
5. 数量補語；“头”と“面”など
6. “有字句”；構造助詞“地”など
7. 量詞の重ね型；“把”構文など
8. “从”と“离”；“一边～一边～”など
9. “都”と“一共”；程度補語など
10. “被”構文；“在・正・正在”など
11. 方向補語；“多么”など
12. 複合方向補語；“是～还是～”など
授業の予習としてホームページを利用することができる。

【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

HSK基礎B 改訂版（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

中国語読解3

大森信徳 河井昭乃 曹志偉

【授業の概要】

読解中心のテキストを用い、さらなる意欲で中国語の表現の学習に励み中国語文の読解力と理解力を一層高めていくための授業である。さらに、HSK初等試験の4級合格を目指し、1500～2000前後の語彙量とそれに相応する文法項目をマスターしていく。なおHSK試験対策のためには<HSK初等コースA>か、<HSK初等コースB>と並行した履修が、中国語コミュニケーション能力を高めるためには<中国語会話3>と並行した履修が望ましい。

【授業の目標】

前段階までに学習した語彙・文法を復習することで基礎の定着を図り、その上にさまざまな題材を扱った文章を学習することで、より高度な文章読解力・構成力を身につける。

【授業計画】

1. 应该感谢谁
2. 接続詞の使い方、用途など。“虽然～但是”など。
3. 一件小事
4. 連動文。動態助詞“着”。
5. 生日宴会
6. 動詞の重ね型。結果補語。
7. 中国人的问候语
8. 挨拶の言葉。“打招呼、问候语”などの基本と応用。
9. 在中国过中秋节
10. 構造助詞の使い方。“的、地、得”の使い方、それぞれの違い。
11. 修自行车的张师傅
12. 数量補語。可能補語。

【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

中国語読解3・4（中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

HSK初等コースA *聴解中心

中西千香 李昱 巖萍

【授業の概要】

中国語を1年以上学習した履修者を対象としたHSK受験対策の授業である。履修後、HSK初等試験の4級に合格することをめざし、試験で要求される1500～2000前後の語彙量とそれに相応する文法力をマスターしていく。

【授業の目標】

HSKを通じて、中国語の総合的能力を高める。HSK初中等4級に合格するレベルの語彙・文法・読解力および聴解力を身につける。

【授業計画】

テキストの各課は文法のポイントと練習問題から構成されている。授業時にはテキストに即して練習問題を解くこととその解説を中心に、実践能力の向上をめざす。単語テストなどによって学習内容の定着をはかり、また予習を課すこともあり、履修者の積極的な学習が要求される。

学習のペースとしては、学習者の理解に合わせて一課を一回の授業で進めていく。

【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

HSK初等コースA（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

中国語会話3

李昱 胡桂蘭 大森信徳 周素芬

【授業の概要】

第二外国語として一年間ほど中国語を学んできた学習者が、生活において日常的に取り上げられる話題を中心に構成された会話のテキストを用い、さらなる意欲で中国語の表現の学習に励み、中国語によるコミュニケーション能力を一層高めていくための授業である。さらに、HSK初等試験の4級合格を目指し、1500～2000前後の語彙量とそれに相応する文法項目をマスターしていく。履修後は家族生活・大学生活などについて語ることができる。なおHSK試験対策のためには<HSK初等コースA>か、<HSK初等コースB>と並行した履修が、中国語読解能力を高めるためには<中国語読解3>と並行した履修が望ましい。

【授業の目標】

前段階までに学習した語彙・文法を復習することで基礎の定着を図り、その上にさまざまなシチュエーションを想定した学習によってより高度な会話力・表現力を身につける。

【授業計画】

中国語会話2を履修した学生が、さらに高度な内容について、中国語で円滑に会話が行えるようになることを目指す。

1. 初めまして
 2. 私達の中国語の先生
 3. 朝食を食べる
 4. タクシーに乗る
 5. 宿舍のおばさん
 6. 言葉のパートナー
- 各課を二回の授業で扱うことで、反復練習と重要ポイントの定着を図る。

【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

中国語会話3・4（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

HSK初等コースB *読解中心

中西千香 胡桂蘭 曹志偉 巖萍

【授業の概要】

中国語を1年以上学習した履修者を対象としたHSK受験対策の授業である。設定する目標、講義内容と位置づけは<HSK初等コースA>に準ずるが、HSKの資格取得に対して特に関心を示す学生に週2回のHSK対策コースの受講を可能にするため設定された講義である。文法項目の順序と用例、そして練習問題などの設定が<HSK初等コースA>で用いる教材と異なる教材を使用し、習得した文法事項が確実に身に付くこと、同じ文法項目をちがった角度から見ることによって理解の幅を広げること、多面にわたる練習問題を多く解くことでHSKの合格をより確実なものにしていく。

【授業の目標】

HSKを通じて、中国語の総合的能力を高める。HSK初中等4級に合格するレベルの語彙・文法・読解力および聴解力を身につける。

【授業計画】

テキストの各課は文法のポイントと練習問題から構成されている。授業時には教科書に即して練習問題を解くこととその解説を中心に、実践能力の向上をめざす。単語テストなどによって学習内容の定着をはかり、また予習を課すこともあり、履修者の積極的な学習が要求される。

学習のペースとしては、学習者の理解に合わせて一課を一回の授業で進めていく。

【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

HSK初等コースB（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

中国語読解 4

大森信徳 河井昭乃

【授業の概要】

読解中心のテキストを用い、さらなる意欲で中国語の表現の学習に励み、中国語の読解力と理解力を一層高めていくための講義である。さらに、HSK初中等試験の5級合格を目指し、2000～2500前後の語彙力とそれに相応する文法力を身につける。なおHSK試験対策のためには<HSK中等上級コースA>か<HSK中等上級コースB>と並行した履修が、中国語コミュニケーション能力を高めるためには<中国語会話4>と並行した履修が望ましい。

【授業の目標】

前段階までに学習した語彙・文法を復習することで基礎の定着を図り、その上にさまざまな題材を扱った文章を学習することで、より高度な文章読解力・構成力を身につける。

【授業計画】

1. 自行车上的宝座儿
2. 方向補語。程度補語。“把”構文(1)。
3. 雨披
4. 反復疑問文。反語表現。
5. 服装与色彩
6. 副詞のポイント。“又、再、也、都、一直、已经”。
7. 逛商场
8. 形容詞と副詞の用例。“差点儿”の使い方。
9. 一个特别的“村”
10. 伝聞表現。複合方向補語“起来”。感嘆表現。
11. 学汉语趣事
12. “差不多”の使い方。“把”構文(2)。特殊な動詞述語文。

【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

中国語読解3・4(中国語教育委員会編)

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

HSK中等上級コースA *聴解中心

河井昭乃 巖 萍

【授業の概要】

中国語を1年半以上学習した学生を対象としたHSK受験対策の授業である。履修後、HSK初中等試験の5級に受かることをめざし、ねらいの試験で要求される2000～2500前後の語彙力とそれに相応する文法力をマスターしていく。

【授業の目標】

HSKを通じて、中国語の総合的能力を高める。HSK初中等5級に合格するレベルの語彙・文法・読解力および聴解力を身につける。

【授業計画】

12課編成で授業を進める予定である。まず文法の説明から入り、そのあと練習問題を解いて、練習問題について解説する。単語テストなどによって学習内容の定着をはかり、また予習を課すこともあり、履修者の積極的な学習が要求される。学習のペースとしては、学習者の理解に合わせて一課を一回の授業で進めていく。

【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

HSK中等上級コースA(愛知淑徳大学中国語教育委員会編)

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

中国語会話 4

李 昱 胡 桂蘭 周 素芬

【授業の概要】

一年半ほど中国語を学んできた学習者が、生活において日常的に取りあげられる話題を中心に構成された会話のテキストを用い更なる意欲で中国語の表現の学習に励み、中国語によるコミュニケーション能力を一層高めていくための講義である。さらに、HSK初・中等試験の5級合格を目指し、2000～2500前後の語彙力とそれに相応する文法力を身につける。履修後は趣味生活・地域社会などについて語ることができる。なおHSK試験対策のためには<HSK中等上級コースA>か<HSK中等上級コースB>と並行した履修が、中国語読解能力を高めるためには<中国語読解4>と並行した履修が望ましい。

【授業の目標】

前段階までに学習した語彙・文法を復習することで基礎の定着を図り、その上にさまざまなシチュエーションを想定した学習によってより高度な会話力・表現力を身につける。

【授業計画】

中国語会話3を履修した学生が、さらに高度な内容について、中国語で円滑に会話が行えるようになることを目指す。

1. 市場での買い物
 2. 旅行に行こう
 3. 体を鍛える
 4. ついてない一日
 5. ダイエット
 6. 友情に乾杯
- 各課を二回の授業で扱うことで、反復練習と重要ポイントの定着を図る。

【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

中国語会話3・4(愛知淑徳大学中国語教育委員会編)

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

HSK中等上級コースB *読解中心

大森信徳 河井昭乃

【授業の概要】

中国語を1年半以上学習した履修者を対象としたHSK受験対策の授業である。設定する目標、講義内容と位置づけは<HSK中等上級コースA>に準ずるが、HSKの資格取得に対して特に関心を示す学生に週2回のHSK対策コースの受講を可能にするため設定された講義である。文法項目の順序と用例、そして練習問題などの設定が<HSK中等上級コースA>で用いる教材と異なる教材を使用し、習得した文法事項が確実に身に付くこと、同じ文法項目をちがった角度から見ることによって理解の幅を広めること、多面にわたる練習問題を解くことでHSKの合格をより確実なものにしていく。

【授業の目標】

HSKを通じて、中国語の総合的能力を高める。HSK初中等5級に合格するレベルの語彙・文法・読解力および聴解力を身につける。

【授業計画】

12課編成で授業を進める予定である。まず文法の説明から入り、そのあと練習問題を解いて、練習問題について解説する。単語テストなどによって学習内容の定着をはかり、また予習を課すこともあり、履修者の積極的な学習が要求される。学習のペースとしては、学習者の理解に合わせて一課を一回の授業で進めていく。

【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

HSK中等上級コースB(愛知淑徳大学中国語教育委員会編)

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

中国語作文 1

李昱 嚴萍 曹志偉

【授業の概要】

第二外国語として2年間ほど中国語を学んできた学習者が、その間会話と読解を中心に習得してきた中国語の表現力と理解力を活用し、みずから平易な中国語文章が書けることをねらいとする。さらに、HSK中等試験の6級または7級に受かることを目指し、2500～3500前後の語彙量とそれに相応する文法項目をマスターしていく。

【授業の目標】

作文の授業を通して、受講者に日常生活に必要な平易な文章だけでなく、各文体に沿って練習を重ねることで社会のさまざまな場面で使用される実用な文体を身に付けることも目標とする。

【授業計画】

学習のベースとしては、教科書の構成に沿って学習者の理解に合わせて一課を二回の授業で進めていく。教科書の第一課から第六課まで進む予定。

- 第一課 文章記号と文章形式
- 第二課 自己紹介
- 第三課 書き付けと招待状
- 第四課 日記
- 第五課 手紙
- 第六課 電子メール

【評価方法】

出席、様々な課題提出から総合的に判定する。

【テキスト】

中国語作文（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

HSK中等高級コース 1 A *聴解中心

大森信徳 周素芬

【授業の概要】

中国語を二年以上学習した履修者を対象としたHSK受験対策の授業である。履修後、HSK初中等試験の6級または7級に受かることを目指す。HSKで要求される総合的な中国語の能力を養成する。

【授業の目標】

練習問題を大量に解くことで、HSK6級合格に要求される2500～3500前後の語彙とそれに相応する文法・表現をマスターしていく。

【授業計画】

各課は文法のポイントと練習問題から構成されている。授業時には練習問題を解くこととその解説を中心として、実践能力の向上を目指す。単語テストなどによって学習内容の定着をはかり、また予習を課すこともあり、履修者の積極的な取り組みが要求される。学習のベースとしては学習者の理解に合わせて一課を二回の授業で進めていく。教科書の第一課から第六課まで進む予定。

【評価方法】

期末試験、出席状況、小テスト、課題提出から総合的に判定する。

【テキスト】

HSK中等高級コースA（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

HSK中等高級コース 1 B *読解中心

胡桂蘭 曹志偉

【授業の概要】

設定する目標、扱う語彙量と文法ポイントなどを含めた講義内容と位置づけは<HSK中等高級コース2A>に準ずるが、HSKの資格取得に対して特別に関心を示す学生に週2回のHSK対策コースの受講を可能にするため設定された講義である。文法項目の順序と用例、そして練習問題などの設定が<HSK中等高級コース2A>で用いる教材と異なる教材を使用し、習得した文法事項が確実に身に付くこと、同じ文法項目をちがった角度から見ることで理解の幅を広めること、多面にわたる練習問題を解くことでHSKの合格をより確実なものにしていく。HSK中等高級コースBは読解中心とする。

【授業の目標】

HSK（中国語水平考）6級に合格するレベルの語彙、文法、読解力の養成を目指す。

【授業計画】

各課は文法のポイントと練習問題から構成されている。授業時には練習問題を解くこととその解説を中心として、実践能力の向上を目指す。単語テストなどによって学習内容の定着をはかり、また予習を課すこともあり、履修者の積極的な取り組みが要求される。学習のベースとしては学習者の理解に合わせて一課を二回の授業で進めていく。教科書の第一課から第六課まで進む予定。

【評価方法】

出席状況、小テスト、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

HSK中等高級コースB（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

同時通訳入門 1

周素芬 曹志偉

【授業の概要】

第二外国語として2年間ほど中国語を学んできた学習者が、その間会話と読解を中心に習得してきた中国語の表現力と理解力を活用し、初歩的な実務通訳ができる実力を養成する。高度な中国語の運用能力を身につけ、実社会で中国語を使った仕事ができることをねらいとする。

【授業の目標】

日本語と中国語の表現の違いを認識した上で、中国語通訳の基本的技術を身につける。そのために必要とされるスキルの目安として、HSK中等試験の6級または7級に合格する程度の2500～3500前後の語彙量とそれに相応する文法項目・表現をマスターしてゆく。

【授業計画】

教科書は通訳が必要とされるさまざまな状況を想定して、各課ごとに一つのシチュエーションを取り上げて構成されている。それぞれの状況でよく使われる語彙・表現を学習した上で、日本語と中国語のリビート、通訳の練習を行う。教科書に沿って一課を二回の授業で進め、この授業では第一課から第六課まで学習する予定である。

1. 出迎え
2. ホテルにて
3. 工場見学
4. 宴席にて
5. 交渉
6. 観光ショッピング

【評価方法】

出席状況、小テスト、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

同時通訳入門（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

中国語作文2

曹志偉 嚴萍

【授業の概要】

一年半ほど中国語を学んできた学習者が、その間会話と読解を中心として習得してきた中国語の表現力と理解力を活用し、中国語の一般的な文章が書けることをねらいとする。さらに、HSK中等試験の7級または8級に受かることを目指し、3500～4000前後の語彙量とそれに相応する文法項目を身につける。履修後は、友人・知人への略式手紙、中国官公署向けの書類作成、中国語による日記・メモの作成などが可能になる。

【授業の目標】

作文の授業を通して、受講者に日常生活に必要な平易な文章だけでなく、各文体に沿って練習を重ねることで社会のさまざまな場面で使用される実用な文体を身につけることも目標とする。

【授業計画】

学習のペースとしては、教科書の構成に沿って学習者の理解に合わせて一課を二回の授業で進めていく。教科書の第七課から第十二課まで進む予定。

- 第七課 契約書
- 第八課 就職書類
- 第九課 記述文
- 第十課 説明文
- 第十一課 感想文
- 第十二課 意見文

【評価方法】

出席、様々な課題提出から総合的に判定する。

【テキスト】

中国語作文（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて指示する。

HSK中等高級コース2A *聴解中心

胡桂蘭 周素芬

【授業の概要】

中国語を一年半以上学習した履修者を対象とするHSK受験対策の授業である。履修後、HSK中等試験の7級または8級に受かることを目指す。HSKで要求される総合的な中国語の能力を養成する。

【授業の目標】

練習問題を大量に解くことで、HSK7級合格に要求される3500～4000前後の語彙とそれに相応する文法・表現をマスターしてゆく。

【授業計画】

各課は文法のポイントと練習問題から構成されている。授業時には練習問題を解くこととその解説を中心として、実践能力の向上を目指す。単語テストなどによって学習内容の定着をはかり、また予習を課すこともあり、履修者の積極的な取り組みが要求される。学習のペースとしては学習者の理解に合わせて一課を二回の授業で進めていく。教科書の第七課から第十二課まで進む予定。

【評価方法】

出席状況、小テスト、期末試験、課題提出から総合的に判定する。

【テキスト】

HSK中等高級コースA（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

HSK中等高級コース2B *読解中心

曹志偉

【授業の概要】

設定する目標、講義内容と位置づけは<HSK中等高級コース2A>に準ずるが、HSKの資格取得に対して特別に関心を示す学生に週2回のHSK対策コースの受講を可能にするため設定された講義である。文法項目の順序と用例、そして練習問題などの設定が<HSK中等高級コース2A>で用いる教材と異なる教材を使用し、習得した文法事項が確実に身に付くこと、同じ文法項目をちがった角度から見ることで理解の幅を広めること、多面にわたる練習問題を解くことでHSKの合格をより確実なものにしていく。HSK中等高級コースBは読解中心とする。

【授業の目標】

HSK（中国語水平考試）7級に合格するレベルの語彙、文法、読解力の養成を目指す。

【授業計画】

各課は文法のポイントと練習問題から構成されている。授業時には練習問題を解くこととその解説を中心として、実践能力の向上を目指す。予習を課すこともあり、履修者の積極的な取り組みが要求される。学習のペースとしては学習者の理解に合わせて一課を二回の授業で進めていく。教科書の第七課から第十二課まで進む予定。

【評価方法】

出席状況、小テスト、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

HSK中等高級コースB（愛知淑徳大学中国語委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

同時通訳入門2

周素芬 曹志偉

【授業の概要】

一年半以上中国語を学んできた学習者が、その間会話と読解を中心として習得してきた中国語の表現力と理解力を活用し、平易な同時通訳ができる実力を養成する。高度な中国語の運用能力を身につけ、実社会で中国語を使った仕事ができることをねらいとする。さらに、HSK中等試験の7級または8級に受かることを目指し、3500～4000前後の語彙量とそれに相応する文法項目を身につける。HSK試験対策のためには<HSK中等高級コース2A>か<HSK中等高級コース2B>と並行した履修が、中国語表現の深度を深めるためには<中国語作文2>と並行した履修が望ましい。

【授業の目標】

日本語と中国語の表現の違いを認識した上で、中国語通訳の基本的技術を身につける。そのために必要とされるスキルの目安として、HSK中等試験の7級または8級に合格する程度の3500～4000前後の語彙量とそれに相応する文法事項・表現を身につける。

【授業計画】

教科書は通訳が必要とされるさまざまな状況を想定して、各課ごとに一つのシチュエーションを取り上げて構成されている。それぞれの状況でよく使われる語彙・表現を学習した上で、日本語と中国語のリピート、通訳の練習を行う。教科書に沿って一課を二回の授業で進め、この授業では第七課から第十二課まで学習する予定である。

1. 電話会談
2. 商品見本市
3. 納品・支払い
4. 梱包・輸送
5. 損害賠償
6. 仲裁

【評価方法】

出席状況、小テスト、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

同時通訳入門（愛知淑徳大学中国語委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

韓国・朝鮮語入門

金賢珍 キム ソヨン

【授業の概要】

韓国・朝鮮の文字であるハングルの読み書き、基礎文法の理解、よりらしい発音のトレーニングなど、入門段階において必要な学習内容を総合的に習得していくことにより、韓国・朝鮮語学習に対する興味と自信を覚えてもらう。

【授業の目標】

基礎的名詞および動詞や形容詞を中心にする500語程度の基本語彙、60項目ほどの基礎文法を身につけて、それを用いた短文の読み書き、聞きとり、意思表示、そして会話上の運用を可能にする。

【授業計画】

この段階における集中学習法の効果をねらい、週2回履修を義務づける。なお、韓国・朝鮮語は日本語と文法構造がほとんど同じで、効果的に学習すれば1年間で高校3年の英語力程度の力をつけることができるといわれる。

- 第1講～第4講 ハングルの読み書き1、まとめ
1) 基本母音字(10個)、挨拶1
2) 基本子音字1・2(平音9個・激音5個)、挨拶2
3) 合成子音字(激音5個)、名詞1
- 第5講～第8講 ハングルの読み書き2、まとめ
1) 合成母音字1・2(11個)、名詞2
2) 終声子音字1・2(7種)、名詞3
発音ルールとトレーニング、動詞1
- 第9講～第10講 外国語のハングル表記、まとめ
助詞1、上称形1、尊敬形1、まとめ
連結語尾1、助詞2、上称形2、尊敬形2、変則活用1
試験対策
中間試験
- 第11講～第12講 数詞と助数詞1、連結語尾2、否定形、現在時制1、
敬語、変則活用2
- 第13講～第14講 数詞と助数詞2、連結語尾3、慣用表現1、
連結語尾3
- 第15講 数詞と助数詞2、連結語尾4、助詞3、変則活用4
用言の名詞形、現在時制2、不可能形、曖昧形、
変則活用5、連結語尾5
- 第16講 助詞4、変則活用6、連結語尾6、回想の表現、
慣用表現2
- 第17講～第18講 試験対策
単位認定試験
- 第19講～第20講 試験対策
単位認定試験
- 第21講～第23講 試験対策
単位認定試験
- 第24講～第25講 試験対策
単位認定試験
- 第26講～第27講 試験対策
単位認定試験
- 第28講～第29講 試験対策
単位認定試験
- 第30講 試験対策
単位認定試験

【評価方法】

出席、授業のための準備、小テスト、中間テスト、単位認定試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

はじめての韓国・朝鮮語 (曹述燮 プリンテック)

【参考文献・資料】

授業中に適時指示する。

韓国・朝鮮語読解1

金賢珍 キム ソヨン 金元榮

【授業の概要】

身近でわかりやすい実用読解文を多く取り上げたテキストを中心に韓国・朝鮮語の基礎過程を総合的に学習し、基礎的な韓国・朝鮮語を読み、書き、理解し、表現する能力を養成する。

【授業の目標】

名詞、動詞や形容詞、そして冠詞や副詞など1,000語程度の基本語彙、120項目ほどの文法力を身につけて、それを用いた文章の読み書きの運用を可能にする。そして、韓国語能力試験の1級、ハングル能力検定試験の4級に受かることを目指す。

【授業計画】

- 第1講 授業概要の説明、入門講座の復習
- 第2・3講 サッカーがお好きですか。
過去の経験の敬語体、
理由・原因の表現、単純否定表現と不可能表現
- 第4・5講 明日は何をされますか。
意志・意図・計画の表現、願望の表現、勧誘の表現
- 第6・7講 郵便局に行く。
用言の連体形
- 第8講 総合復習および中間テスト
- 第9・10講 喫茶店で。変則1、
仮定の表現、選択・許容の表現、命令・提案・要求の表現
- 第11・12講 韓国料理屋で。変則2、
前置きの表現、逆接の表現、助数詞
- 第13・14講 道をたずねる。変則3、
案内の表現、義務・必要性の表現、比較・対照の表現
- 第15講 単位認定試験

【評価方法】

出席、授業のための準備、小テスト、中間テスト、単位認定試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

韓国語中級(李昌圭 白帝社)

【参考文献・資料】

授業中に適時指示する。

韓国・朝鮮語会話1

金賢珍 金美淑 李芝賢

【授業の概要】

使用頻度の高い実用会話文を多く取り上げたテキストを中心に韓国・朝鮮語の基礎過程を総合的に学習し、基礎的な韓国・朝鮮語を聞きとり、理解し、応対する能力を養成する。

【授業の目標】

名詞、動詞や形容詞、そして冠詞や副詞などの1,000語程度の基本語彙、120項目ほどの文法力を身につけて、それを用いた会話の聞き取り、意思表示の運用を可能にする。そして、韓国語能力試験の1級、ハングル能力検定試験の4級に受かることを目指す。

【授業計画】

- 第1講 授業概要の説明、こんにちは
- 第2講 韓国は初めてですか
- 第3講 ここが寮です
- 第4講 授業は3月2日からです
- 第5講 MTって何ですか
- 第6講 どこで売っていますか
- 第7講 韓国の歌、表現練習、まとめ、中間テスト
- 第8講 スタンドランプを見せてください
- 第9講 一杯飲みましょう
- 第10講 大学生活はどうですか
- 第11講 よく聞けば勉強になります
- 第12講 誕生パーティをしましょう
- 第13講 会話を楽しむ
- 第14講 試験対策
- 第15講 単位認定試験

【評価方法】

出席、授業のための準備、小テスト、中間テスト、単位認定試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

始めよう韓国語会話(曹述燮・李正子・金賢珍 プリンテック)

【参考文献・資料】

授業中に適時指示する。

韓国語能力試験対策1

キムソヨン 金芝恵 白明学

【授業の概要】

韓国語能力試験の1級あるいはハングル能力検定試験の4級に合格するために、既出問題および新出予想問題のドリル式練習、ポイントの解説、語彙・文法リストの作成などで構成される。

【授業の目標】

1,000語程度の基本語彙、120項目ほどの文法力を着実に身につけて、韓国語能力試験の1級あるいはハングル能力検定試験の4級に必ず合格する。

【授業計画】

発音と表記、文法、助詞、読解と表現などねらいの試験で要求される学習量を模擬試験をおとして習得していく。聞き取り、書き取りの試験対策も平行する。

- 第1講 授業ガイド、発音と表記
- 第2講 終結語尾(叙述形・命令形)
- 第3講 数え方・否定形
- 第4講 各種助詞1
- 第5講 連体形
- 第6講 敬語の表現
- 第7講 変則用言
- 第8講 模擬試験
- 第9講 各種助詞2
- 第10講 挨拶・語句
- 第11講 活用表現1
- 第12講 活用表現2
- 第13講 読解
- 第14講 模擬試験
- 第15講 単位認定試験

【評価方法】

出席、授業のための準備、模擬試験などの各種テスト、単位認定試験の成績等を総合して評価する。

【テキスト】

ハングル能力検定試験4級合格をめざして(李昌烈 白帝社)

【参考文献・資料】

授業中に適時指示する。

韓国・朝鮮語読解 2

金元榮 姜信和

【授業の概要】

身近でわかりやすい実用読解文を多く取り上げたテキストを中心に韓国・朝鮮語の初級過程を総合的に学習し、平易な韓国・朝鮮語を読み、書き、理解し、表現する能力を養成する。

【授業の目標】

1,500から3,000語程度の活用語彙、180～250項目ほどの文法力を身につけ、基本的な説明文・広告文などが理解できること、簡単な文章が正しく書けること、そして韓国語能力試験の2級、ハングル能力検定試験の3級に受かることを目指す。

【授業計画】

- 第1講 授業概要の説明
- 第2・3講 地下鉄の駅で。変則4、可能・不可能、能力・無能力の表現、排除の表現、推量・可能性の表現
- 第4・5講 タクシーに乗る。前後関係の表現、意図・予定の表現、決定の意の表現、依頼・要求の表現
- 第6・7講 約束を交わす。感動・独白・感想の表現、同時進行の表現
- 第8講 総合復習および中間テスト
- 第9・10講 天気、引用・伝聞の表現、確認あるいは同意の表現
- 第11・12講 電話をかける、紹介・案内の表現、曖昧さの表現
- 第13・14講 ショッピングをする、許諾・承認の表現
- 第15講 単位認定試験

【評価方法】

出席、授業のための準備、小テスト、中間テスト、単位認定試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

韓国語中級 (李昌圭 白帝社)

【参考文献・資料】

授業中に適時指示する。

韓国・朝鮮語会話 2

キム ソヨン 金美淑 李芝賢

【授業の概要】

使用頻度の高い実用会話文を多く取り上げたテキストを中心に韓国・朝鮮語の初級過程を総合的に学習し、平易な韓国・朝鮮語を聞きとり、理解し、応対する能力を養成する。

【授業の目標】

1,500から3,000語程度の活用語彙、180～250項目ほどの文法力を身につけ、ホテルでの客室予約、銀行での口座開設などの日常生活の簡単な会話を可能にし、基本的な説明文・広告文が理解できるようにする。そして、韓国語能力試験の2級、ハングル能力検定試験の3級に受かることを目指す。

【授業計画】

- 第1講 会話1の復習、どこでもかまいません
- 第2講 週末には何をしましたか
- 第3講 今晚またお電話いたします
- 第4講 趣味は料理とか旅行です
- 第5講 資料を探しに一緒に行きませんか
- 第6講 韓国料理ができますか
- 第7講 韓国の歌、表現練習、まとめ、中間テスト
- 第8講 何をしようと思っていますか
- 第9講 どこにいらっしゃいますか
- 第10講 バスカ地下鉄に乗っていきます
- 第11講 さる水曜日からです
- 第12講 このバックいくらだった
- 第13講 会話を楽しむ
- 第14講 試験対策
- 第15講 単位認定試験

【評価方法】

出席、授業のための準備、小テスト、中間テスト、単位認定試験の成績等を総合して評価する。

【テキスト】

始めよう韓国語会話 (曹述燮・李正子・金賢珍 プリンテック)

【参考文献・資料】

授業中に適時指示する。

韓国語能力試験対策 2

キム ソヨン 金芝恵 白明学

【授業の概要】

韓国語能力試験の2級あるいはハングル能力検定試験の3級に合格するために、既出問題および新出予想問題のドリル式練習、ポイントの解説、語彙・文法リストの作成などで構成される。

【授業の目標】

1,500から3,000語程度の活用語彙、180～250項目ほどの文法力を着実に身につけ、韓国語能力試験の2級あるいはハングル能力検定試験の3級に必ず合格する。

【授業計画】

基礎表現、発音、読解と活用表現などねらいの試験で要求される学習量を模擬試験とおして習得していく。聞き取り、書き取りの試験対策も平行する。

- 第1講 授業ガイド、発音
- 第2講 各種縮約形
- 第3講 受け身・使役
- 第4講 する関係動詞・する動詞・する形容詞、する副詞
- 第5講 名詞作り、形容詞作り、数え方
- 第6講 各種助詞、不規則用言
- 第7講 終結語尾・接続助詞
- 第8講 模擬試験
- 第9講 語句・活用表現 1
- 第10講 活用表現 2
- 第11講 活用表現 3
- 第12講 読解 1
- 第13講 読解 2
- 第14講 模擬試験
- 第15講 単位認定試験

【評価方法】

出席、授業のための準備、模擬試験、単位認定試験の成績等を総合して評価する。

【テキスト】

ハングル能力検定試験3級合格をめざして (李昌烈 白帝社)

【参考文献・資料】

授業中に適時指示する。

韓国・朝鮮語読解 3

金賢珍 姜信和

【授業の概要】

身近でわかりやすい実用読解文を多く取り上げたテキストを中心に韓国・朝鮮語の中級過程を総合的に学習し、日常生活に必要な一般的な韓国・朝鮮語を読み、書き、理解し、表現する能力を養成する。

【授業の目標】

3,000から4,000語程度の活用語彙、240～300項目ほどの文法力を身につけ、簡単な手紙を読んだり書いたりするなど平易な文章による意思伝達が可能であること、新聞、雑誌を読んでもある程度理解可能であること、そして韓国語能力試験の3級または4級、ハングル能力検定試験の準2級または3級に受かることを目指す。

【授業計画】

- 第1講 授業概要の説明
- 第2・3講 病院で。動詞の名詞形、希望・願望の表現、補助用言、話し手の意志・予定や推測の表現
- 第4・5講 バス停で。譲歩や強調の表現、能力・推測・予定・意図などの表現、理由や根拠を示す連用形、命令・指示の伝聞
- 第6・7講 銀行で。特定の動作を原因に提示する表現、物事の限界や程度・目標を示す表現
- 第8講 総合復習および中間テスト
- 第9・10講 書店で。動作や動作の様態を示す連用形、はなはだしい程度の表現、動作継続の表現、状況の前置きを示す表現、伝聞を確認する表現、
- 第11・12講 韓国料理。仮定条件を示す表現、全面的な肯定の表現、付加表現、勧誘の伝聞、例示・容認・列挙・限定などを示す表現
- 第13・14講 天気。引用・伝聞の表現、相手の意向を聞く表現、
- 第15講 単位認定試験

【評価方法】

出席、授業のための準備、小テスト、単位認定試験の成績等を総合して評価する。

【テキスト】

韓国語上級 (李昌圭 白帝社)

【参考文献・資料】

授業中に適時指示する。

韓国・朝鮮語会話3

金賢珍 キム ソヨン 李芝賢

【授業の概要】

使用頻度の高い実用会話文を多く取り上げたテキストを中心に韓国・朝鮮語の中級過程を総合的に学習し、日常生活に必要な一般的な韓国・朝鮮語を聞きとり、理解し、応対する能力を養成する。

【授業の目標】

3,000から4,000語程度の活用語彙、240～300項目ほどの文法力を身につけ、日常言語生活において語彙の不便がなくよく使われる言葉をゆっくり聞けば十分理解できてハンゲルの会話が楽しめるようにする。そして、韓国語能力試験の3級または4級、ハンゲル能力検定試験の準2級または2級に受かることを目指す。

【授業計画】

- 第1講 専門科目を多めに履修しなければなりません
- 第2講 時間はいつがいいですか
- 第3講 自動引き落としのほうがいいと思います
- 第4講 曇りといっておりました
- 第5講 春といったらレンギョと山つつじですね
- 第6講 本当に美味しいですね
- 第7講 韓国の歌、表現練習、まとめ、中間テスト
- 第8講 民俗博物館に行ってきました
- 第9講 庭園文化について知りたいです
- 第10講 どちらが速いですか
- 第11講 使えますとも！
- 第12講 矢のように早いですね
- 第13講 下宿先を変えようかと思っています
- 第14講 会話を楽しむ
- 第15講 単位認定試験

【評価方法】

出席、授業のための準備、小テスト、中間テスト、単位認定試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

使おう韓国語会話 (曹述燮・金賢珍 プリンテック)

【参考文献・資料】

授業中に適時指示する。

韓国語能力試験対策3

金賢珍 キム ソヨン

【授業の概要】

韓国語能力試験の3級または4級あるいはハンゲル能力検定試験の準2級または2級に合格するために、既出問題および新出予想問題のドリル式練習、ポイントの解説、語彙・文法リストの作成などで構成される。

【授業の目標】

3,000から4,000語程度の活用語彙、240～300項目ほどの文法力を着実に身につけ、韓国語能力試験の3級または4級あるいはハンゲル能力検定試験の準2級または2級に必ず合格する。

【授業計画】

発音、読解、注意すべき用言とその用例、活用表現などねらいの試験で要求される学習量を模擬試験をとおして習得していく。聞き取り、書き取りの試験対策も平行する。

- 第1講 授業ガイド、発音
- 第2講 漢字音の比較
- 第3講 受け身、使役
- 第4講 する関係動詞・する動詞・する形容詞・する副詞
- 第5講 各種副詞、各種助詞
- 第6講 名詞作り、形容詞作り、動詞作り、名詞節作り
- 第7講 語句
- 第8講 模擬試験
- 第9講 活用表現1
- 第10講 活用表現2
- 第11講 活用表現3
- 第12講 読解1
- 第13講 読解2
- 第14講 模擬試験
- 第15講 単位認定試験

【評価方法】

出席、授業のための準備、模擬試験、単位認定試験の成績等を総合して評価する。

【テキスト】

ハンゲル能力検定試験準2級合格をめざして (李昌烈 白帝社)

【参考文献・資料】

授業中に適時指示する。

初めての外国語1 (ドイツ語)

須藤 勲

【授業の概要】

この授業では、ドイツ語を基礎から学びます。基本的な文法事項や、発音、聞き取りの練習を通して、ドイツ語を学んでいきます。また、外国語を学ぶ際には、その言葉を話す国の文化の理解が欠かせません。授業では、ドイツ語を話す国々の文化についても紹介していきます。

【授業の目標】

ドイツ語を理解し、使用するために必要な能力の向上を目指します。特にこの授業では、ドイツ語の表現能力を養い、必要な語彙を身につけることを目標にしています。ドイツ語の学習を通してドイツ語圏の文化についての理解を深めることも目標のうちです。

【授業計画】

さまざまな場面ごとの会話の例を学び、それを利用してパートナー練習を通して実際に使うことが出来るように練習を行います。同時に、文法事項を学ぶことでドイツ語を理解し、またドイツ語で表現するために必要な知識を身につけることを目指します。具体的な内容は次のとおりです。

- ・ドイツ語の特徴とドイツ語を話す国々の紹介
- ・動詞の現在人称変化、語順
- ・ドイツ語の語順、疑問文と答え方
- ・名詞の性と格
- ・定冠詞の格変化
- ・不定冠詞の格変化
- ・所有、否定冠詞
- ・人称代名詞
- ・前置詞
- ・話法の助動詞の変化、使い方

【評価方法】

数回の小テストと授業参加(40%)、および期末試験(60%)によって判断します。期末試験にだけ成績評価の重点を置くのではないので、小テストに関してもしっかりとした準備が求められます。

【テキスト】

クロイツング (小野他著 朝日出版社)

【参考文献・資料】

独和辞典

初めての外国語2 (フランス語)

清水ベアトリックス

【授業の概要】

ヨーロッパの文化や近代精神の発祥の地ともいわれるフランスの旅に行ってみませんか？実際の旅にも役に立つフランス語を覚えるような内容を盛り込んでいるプリント、ビデオドキュメンタリーなどを使って、会話とコミュニケーションを中心にフランス語を楽しく学びます。

【授業の目標】

半年のコースなので、分かりやすいパターンを使って、フランス語の特徴を理解し、フランス語に興味を持つようになります。毎回、文法と語彙のメインポイントをしっかり説明した後、楽しい会話の練習をします。様々なシチュエーションによる必要な単語や表現を覚えて、身に付くまでクラス全員と一緒に練習を繰り返して、喫茶店での注文の仕方、メトロの乗り方、道の尋ね方、電話のかけ方、デパートの使い方、お土産の買い方などを学びます。

【授業計画】

- 1)挨拶-自己紹介-20までの数
- 2)名前・国籍・住んでいるところをたずねる
- 3)職業についてたずねる -60までの数
- 4)何かを示す-持っているものについて話す-
- 5)好きなものを言う-100までの数-小テスト
- 6)年齢についてたずねる-疑問文と否定文の作り方
- 7)1000までの数-買い物と喫茶店での注文の仕方
- 8)趣味について話す-小テスト
- 9)時間の使い方-時間割について話す
- 10)一週間の過ごし方
- 11)ある場所について説明する-小テスト
- 12)家族について話す
- 13)まとめ-映画観察
- 14)まとめ-映画観察
- 15)試験

【評価方法】

定期試験を重視するが、出席率、受講態度なども考慮に入れる。

【テキスト】

プリント

初めての外国語3 (ロシア語)

水野晶子

【授業の概要】

ロシア語の基礎を学び、初歩的なロシア語の運用能力を身に付けます。授業ではロシア語の仕組み(文法)の学習と並行して、ロシアの音楽、絵画、民芸品、映画、料理などロシア文化もたくさん紹介します。様々なロシアの姿に触れることで、ことばの学習と同時にヨーロッパとアジアに跨る隣国ロシアへの理解を深めていきます。

【授業の目標】

キリル文字をマスターしロシア語の基本的な仕組み(文法)を理解すること、簡単な会話が出来ようになること、そしてロシアについて自分なりの何か新しい見識を得ることを目標とします。

【授業計画】

毎回、プリントを配布し、プリントを中心に辞書を積極的に活用しながら授業を進めていきます。

一見少し風変わりなキリル文字、音楽のように美しい響きを持ったロシア語にぜひ一度、触れてみませんか。新しいことばを学ぶことは、新しい世界への扉の鍵を手に入れることです。他ではなかなか学ぶチャンスのないロシア語にチャレンジして、新たな世界を覗いてみましょう。芸術の宝庫であるロシア、「知」だけでは理解できないとされるロシア、心に響く何かときっと出会えること請け合いです！授業では各回次のようなテーマでロシア語の仕組みについて学んでいきます。

1. キリル文字に慣れ親しむ①
2. キリル文字に慣れ親しむ②
3. ロシア語のいろいろな挨拶表現とロシア人の名前の仕組み
4. 辞書でいろいろ調べてみよう！
5. 自分をロシア語で紹介しよう
6. ロシア語で尋ねてみよう
7. いろいろな形容詞を使ってみよう
8. 天気表現
9. いろいろな行為をロシア語で表現する①
10. いろいろな行為をロシア語で表現する②
11. 「～で～する」表現と数詞
12. 映画鑑賞
13. ロシア語で気持ちを表現しよう
14. 総復習
15. 試験

【評価方法】

①プリントの課題、②授業への参加度、③期末試験の三つの総合点で評価します。

【テキスト】

安藤厚 他 著『ロシア語ミニ辞典』白水社

初めての外国語4 (スペイン語)

木下まりあ

【授業の概要】

「初めての外国語4 (スペイン語)」は、スペイン語を初めて学ぶ人のための入門的な講義であり、スペイン語の基礎知識の習得を目指します。

【授業の目標】

- ・スペイン語の基礎を学び、初歩的な語学力を身につけ、学習ゲームや練習問題を通して、スペイン語への関心を高める。
- ・多様性に富んだスペインの歴史と文化について学び、独特の風土についての理解を深める。

【授業計画】

講義方式による。授業中、適宜プリントを配布する。

1. スペイン語とスペイン語圏の世界
2. スペイン語のアルファベット、音節、アクセント
3. 挨拶、自己紹介の仕方
4. 名詞の性数、定冠詞と不定冠詞
5. 形容詞(性数の一致)
6. 人称代名詞、ser動詞とestar動詞
7. 数詞と時刻の表現
8. スペイン語の手紙の書き方
9. 旅行に役立つスペイン語会話
10. まとめ

【評価方法】

出席 20%
授業中の提出物、小レポート 30%
期末レポート 50%

【テキスト】

「未定」

初めての外国語5（イタリア語）

柴田有香

【授業の概要】

芸術、ファッション、料理、観光など様々な分野において魅力で溢れるイタリア、そして人とのコミュニケーションを大切に創造性に富んだイタリア人には、興味と親しみが高まるばかり。その上イタリア語は、私達日本人にとって聞き取り又発音しやすい言語でもあり、実は私達は日頃から知らず知らずのうちにカタカナでのイタリア語単語に接しています。簡単で実用的な日常会話を題材にしてイタリア語の基礎を学びながら、イタリアへの扉を開きます。

【授業の目標】

簡単なイタリア語を聞き、読み、話せるようになることによって、イタリア語のおもしろさを実感し、更にはイタリアへの関心を深めていけることを目指します。

【授業計画】

挨拶、自己紹介、人の紹介、バルやレストランでの注文の仕方。その他、「何語を話しますか?」「私はおなかがいっぱいです」「私は眠いです」などの表現方法。実際日常の様々な状況の中でよく使われる単語や会話表現を楽しく習得しながら、名詞、形容詞、冠詞、動詞（現在）などの基礎文法にも触れていきます。又映像や音楽を通して、イタリアへの小旅行や生きたイタリア語の響きも楽しみましょう。

【評価方法】

出席、授業中の積極性、試験成績から総合的に評価。

【テキスト】

Un piatto d'italiano イタリア語ひとさら（改訂版）遠藤礼子著（白水社）

初めての外国語6（ポルトガル語）

瀧藤千恵美

【授業の概要】

「初めての外国語6（ポルトガル語）」は、ポルトガル語を初めて学ぶ人のための入門的な講義であり、ポルトガル語の基礎知識の習得を目指します。

【授業の目標】

ブラジル・ポルトガル語のコミュニケーションに最低限必要な基礎文法事項を学び、簡単な会話ができるようにしましょう。（詳細は授業にて説明します）

【授業計画】

- 第1回. プレゼンテーション
- 第2回. あいさつ
- 第3回. 発音
- 第4回. SER動詞
- 第5回. 男性名詞と女性名詞
- 第6回. 数字
- 第7回. TER動詞
- 第8回. 規則動詞（ar動詞）
- 第9回. 規則動詞（er,ir動詞）
- 第10回. ir動詞
- 第11回. 時間表現
- 第12回. 疑問詞
- 第13回. querer動詞
- 第14回. 今までの復習
- 第15回. 定期試験

の予定。また授業中にブラジルの文化や社会に関するDVDなども鑑賞予定。

【評価方法】

定期試験（口頭試験）と平常点（出席や授業態度）の評価により総合判断します。

【テキスト】

プリントを配布

【参考文献・資料】

各自でブラジル・ポルトガル語の参考書を見ると良い。
おススメは「ニューエクスプレス ブラジルポルトガル語」香川正子著 白水社

情報スキル I (Word・PowerPoint)

西荒井学 諸上茂光 小林久恵 外部講師

【授業の概要】

コンピュータに関わる基本的な知識と技術の習得を目的として、今後のより専門的な情報技術に関する技能と知識の習得に向けての礎を築く、基盤となる授業科目である。具体的には、情報技術の基礎となる基本ソフトウェアならびに、Wordにおける文書表現の方法や特徴をはじめ、プレゼンテーション・ツールを利用した資料作成や発表の手段・方法について学習し、情報の処理能力や創造力を培うとともに、コンピュータの仕組みなど実践に対応する純粋な論理的知識も養う。

【授業の目標】

Windows XPの環境を前提に、基本的なパッケージソフトウェアの操作方法を習得し、文書表現やプレゼンテーション技法についてコンピュータ実習を通じて体得する。

【授業計画】

1. Webメールの基本操作
2. メールマナーとセキュリティ
3. Windows操作(1): ファイルとフォルダ
4. Windows操作(2): 圧縮ファイル
5. Word操作(1): 文字の編集と装飾
6. Word操作(2): 文字の配置と印刷
7. Word操作(3): 図形の作成
8. Word操作(4): 表の作成
9. Word操作(5): まとめ、プレゼンテーションの概要
10. PowerPoint操作(1): 基本操作
11. PowerPoint操作(2): 図表の活用
12. PowerPoint操作(3): プレゼンテーションと資料作成
13. プレゼンテーション課題制作
14. まとめ
15. 試験

※14回目のまとめと15回目の試験は入れ替わる場合があります。

後期の「情報活用スキルI」を履修予定の学生は必ず受講する。

【評価方法】

出席状況(割合:20%)、課題提出(割合:30%)、学期末試験(割合:50%)によって総合評価を行う。

【テキスト】

情報スキルI 2009年度版(愛知淑徳大学情報教育センター編、共立出版)

情報スキル II (Excel・Access)

西荒井学 小林久恵 外部講師

【授業の概要】

コンピュータに関わる基本的な知識と技術の習得を目的として、今後のより専門的な情報技術に関する技能と知識の習得に向けての礎を築く、基盤となる授業科目である。具体的には、Excelによる表計算処理を中心に、収集したデータの加工方法や特徴を的確に把握する技能を習得する。また、Accessによるデータベースの作成を通して、データベースの基本原則や仕組み、特徴についての基礎知識を学習する。

【授業の目標】

コンピュータ技術の基礎として不可欠なコンピュータの仕組み、及びデータ処理操作方法について、利用者が持つべき基本的な専門知識を習得する。また、Accessによるデータベース作成・検索・レポート作成についてのスキルと知識を習得する。

【授業計画】

1. コンピュータの歴史と原理、ハードウェアの仕組み
2. ソフトウェアの役割、情報ツールとマナー
3. 情報の表現: 基数変換、補数
4. Excel(1): データ入力と編集
5. Excel(2): 数式と関数
6. Excel(3): 相対参照と絶対参照
7. Excel(4): グラフの作成、印刷
8. Excel統計(1): 統計処理とは
9. Excel統計(2): 度数分布とヒストグラム
10. Excel統計(3): 代表値と散布度
11. Access(1): データベースの設計
12. Access(2): テーブル、フォームの作成
13. Access(3): クエリ、レポートの作成
14. まとめ
15. 試験

※14回目のまとめと15回目の試験は入れ替わる場合があります。

後期の「情報活用スキルI」「資格取得スキルIa・Ib」「情報活用スキルIII」を履修予定の学生は必ず受講する。

【評価方法】

出席状況(割合:20%)、課題提出(割合:30%)、学期末試験(割合:50%)によって総合評価を行う。

【テキスト】

情報スキルII 2009年度版(愛知淑徳大学情報教育センター編、共立出版)

情報スキル III (ネットワークリテラシ)

三和義秀 諸上茂光 奥村文徳 小林久恵 原伸之 戸谷英司

【授業の概要】

コンピュータに関わる基本的な知識と技術の習得を目的として、今後のより専門的な情報技術に関する技能と知識の習得に向けての礎を築く、基盤となる授業科目である。具体的には、ネットワークに関する基礎的かつ実践的な技能と知識を習得する。また、ネットワークの仕組みを理解すると同時に、HTMLやXMLを利用したホームページの作成を通して、ネットワークの基本的な考え方、活用方法、有効性を体得する。さらに、情報社会の特質や問題点にも触れながら、ネットワークの利用やホームページを作成する際に配慮すべき情報倫理観を育てる。

【授業の目標】

ネットワーク技術を利用する上で必須となるネットワークの仕組みやホームページ作成の知識とスキルを習得する。

【授業計画】

1. ネットワークとインターネット
2. OSI参照モデルとTCP/IPプロトコル
3. LANの種類と仕組み
4. サーバの種類と仕組み
5. IPアドレスとサブネットマスクの仕組み
6. ネットワークの実践、基本コマンド
7. セキュリティと情報倫理
8. ハイパーテキスト、HTMLの仕組み
9. 画像の表示、ハイパーリンクの設定
10. フレームとテーブルの作成
11. XMLの仕組み
12. XML文書とスタイルシートの作成
13. ホームページ課題制作
14. まとめ
15. 試験

※14回目のまとめと15回目の試験は入れ替わる場合があります。

この授業を履修する上で、「情報スキルI」「情報スキルII」を併せて履修することが望ましい。

後期の「資格取得スキルIa・Ib」、2年前期の「情報活用スキルII」を履修予定の学生は必ず受講する。

【評価方法】

出席状況(割合:20%)、課題提出(割合:30%)、学期末試験(割合:50%)によって総合評価を行う。

【テキスト】

ネットワークリテラシ入門 第2版(共立出版)

情報スキル IV (プログラミング)

奥村文徳 小林久恵 原伸之

【授業の概要】

コンピュータに関わる基本的な知識と技術の習得を目的として、今後のより専門的な情報技術に関する技能と知識の習得に向けての礎を築く、基盤となる授業科目である。具体的には、システム開発における基本技術であるプログラミング技術について、プログラム言語を用いてその技能と基礎知識を習得する。特に、プログラム言語が持つ特徴や機能の学習からはじめ、データ処理におけるアルゴリズムについての考え方、ならびに最終的なコーディング作業に至るまでの一連のプログラミング工程について学習する。

【授業の目標】

データ処理におけるアルゴリズムからプログラミング作業に至るまでのシステム開発における基礎知識と技術をVisual Basic のプログラミング実習を通じて習得する。

【授業計画】

1. システム開発におけるプログラミング
2. プログラミング言語の概要
3. プログラミングの基礎、手順
4. アルゴリズムとフローチャート
5. 変数とデータ型
6. 順次構造
7. 関数の利用
8. 選択構造: IF、Select Case文
9. 繰り返し構造: For~Next文
10. 繰り返し構造: Do While~Loop, Do Until~Loop文
11. 一次元配列
12. 二次元配列
13. 文字列処理
14. まとめ
15. 試験

※14回目のまとめと15回目の試験は入れ替わる場合があります。

後期の「資格取得スキルIa・Ib」「情報活用スキルIII」を履修予定の学生は必ず受講する。

【評価方法】

出席状況(割合:20%)、課題提出(割合:30%)、学期末試験(割合:50%)によって総合評価を行う。

【テキスト】

プログラミング入門(西荒井学著 共立出版)

情報活用スキル I (情報ツールの活用)

諸上茂光 奥村文徳 小林久恵 宇佐美貴史 伊藤吉樹

【授業の概要】

習得したコンピュータに関わる基本的な知識と技術を補助スキルとして活用する科目である。具体的には、実社会において問題解決やプロジェクト推進の際にICTを実践的に活用できるように、必要な情報の検索ならびにその収集、収集した情報の分析、分析したデータの特性を効果的に表現する図表や説明力のある高度な文章の作成、さらには説得力のあるプレゼンテーションの実施まで、一連の情報ツール活用能力を習得する。

【授業の目標】

Word・Excelについての高度なスキルを身につけた上で、インターネットを利用した情報検索から文章による整理分析、PowerPointによる効果的な表現に至るまでの情報活用の流れを習得する。

【授業計画】

1. 情報活用とは
 2. 検索エンジンの活用、情報の信頼性
 3. Wordの実践(1): 長文レポートの作成
 4. Wordの実践(2): 脚注、索引、目次の作成
 5. Wordの実践(3): グラフ、図表目次の作成
 6. Excelの実践(1): データの加工・集計
 7. Excelの実践(2): データベースの集計
 8. Excelの実践(3): データの検索・抽出
 9. プレゼンテーションの計画
 10. プレゼンテーションの技法
 11. 総合演習(1)
 12. 総合演習(2)
 13. 総合演習(3)
 14. まとめ
 15. 試験
- ※14回目のまとめと15回目の試験は入れ替わる場合があります。

なお、この授業では「情報スキルI」「情報スキルII」で習得した知識、技術が必要になる。

【評価方法】

出席状況、課題提出、学期末試験によって総合評価を行う。

【テキスト】

情報リテラシーの応用 (伊東俊彦他著 近代科学社)

資格取得スキル Ia (ITパスポート試験対策)

森 友紀 末次新市 金澤小夜子

【授業の概要】

学習者の目標、能力の客観的評価、そして明日に「役立つもの」として「ITパスポート試験」の合格を目標とする教育科目である。情報技術全般にわたる基礎的な技能や知識を習得し、担当する業務に対して情報技術を活用できる能力を身につける。特に、ITパスポート試験の出題範囲である「テクノロジ系」を学習し、コンピュータシステム、データベース、ネットワーク、セキュリティ等の基礎知識や、アルゴリズムやプログラミングの論理的な思考力を養う。

【授業の目標】

情報分野における国家資格であるITパスポート試験の資格取得を目指す。

【授業計画】

1. ITパスポート試験概要、基礎理論(1): 離散数学
2. 基礎理論(2): 応用数学、情報に関する理論
3. アルゴリズムとプログラミング
4. コンピュータ構成要素
5. システム構成要素
6. ソフトウェア
7. 中間試験、前半のまとめ
8. ハードウェア、ヒューマンインタフェース
9. マルチメディア
10. データベース
11. ネットワーク(1): ネットワーク方式
12. ネットワーク(2): 通信プロトコル、ネットワーク応用
13. セキュリティ(1): 情報資産、情報セキュリティ管理
14. セキュリティ(2): 情報セキュリティ対策、後半のまとめ
15. 試験

この授業では、「情報スキルI」「情報スキルII」「情報スキルIII」で習得した知識が必要になる。

また、ITパスポート試験を受験する人は「資格取得スキルIb」も履修することが望ましい。

【評価方法】

出席状況 (割合: 20%)、中間試験 (割合: 40%)、学期末試験 (割合: 40%) によって総合評価を行う。

【テキスト】

ITパスポート試験 対策テキスト&問題集 平成21年度版 (FOM出版)

情報活用スキル II (情報発信ツールの作成)

石丸 緑 末次新市

【授業の概要】

習得したコンピュータに関わる基本的な知識と技術を補助スキルとして活用する科目である。具体的には、Webサイトに掲載する写真やイラスト、アニメーション画像などのデジタルコンテンツ制作に関する高度な技能と知識を習得し、ユーザの利用環境や利用目的に応じた表現方法を考慮し、問題解決を意識した情報発信ツールの開発を行う。

【授業の目標】

Photoshopを利用して、画像処理の知識とスキルを習得し、ユーザの利用環境や利用目的に応じたWebサイトを制作する。

【授業計画】

1. デジタル画像の基礎知識、Photoshopの基本操作
 2. 画像の補正: 色調補正、トーンカーブ
 3. 画像の合成: 選択範囲の作成、レイヤー機能
 4. 画像の加工: フィルタの適用
 5. 画像の描画: シェイプの作成
 6. 文字のレイアウト、レイヤースタイルの設定
 7. レイヤーマスクの作成
 8. 課題: 画像編集
 9. アニメーションGIFの作成(1)
 10. アニメーションGIFの作成(2)
 11. 印刷、Web用ボタンの作成
 12. スライスツール、出力サイズの調整
 13. 課題: Webサイト制作
 14. まとめ
 15. 試験
- ※14回目のまとめと15回目の試験は入れ替わる場合があります。

この授業では、「情報スキルIII」で習得した知識が必要になる。

【評価方法】

出席状況、課題提出、学期末試験によって総合評価を行う。

【テキスト】

Photoshopレッスンブック CS3/CS2/CS/7対応 (ソシム)

資格取得スキル Ib (ITパスポート試験対策)

末次新市 森 友紀

【授業の概要】

学習者の目標、能力の客観的評価、そして明日に「役立つもの」として「ITパスポート試験」の合格を目標とする教育科目である。特に、問題解決の手法やデータ分析、オフィスツールの活用に関する「ストラテジ系」の基礎知識、またコンピュータやネットワークを活用して、業務環境の整備を考えるための「マネジメント系」の基礎知識を習得する。

【授業の目標】

情報分野における国家資格であるITパスポート試験の資格取得を目指す。

【授業計画】

1. 企業活動: 経営・組織、OR・IE、会計・財務
2. 法務(1): 知的財産権、労働関連法規・取引関連法規
3. 法務(2): ガイドライン・技術者倫理、標準化
4. 経営戦略マネジメント(1): 経営戦略手法・経営分析手法、ビジネス戦略
5. 経営戦略マネジメント(2): 経営管理システム、技術戦略マネジメント
6. ビジネスインダストリ: ビジネスシステム、エンジニアリングシステム
7. 問題演習
8. 中間試験、前半のまとめ
9. システム戦略: 情報システム戦略、業務プロセス
10. システム企画: システム化計画、要件定義、調達計画・実施
11. 開発技術: システム開発技術、ソフトウェア開発管理技術
12. プロジェクトマネジメント
13. サービスマネジメント、システム監査
14. 後半のまとめ、問題演習
15. 試験

この授業では、「情報スキルI」「情報スキルII」「情報スキルIII」で習得した知識が必要になる。

また、ITパスポート試験を受験する人は「資格取得スキルIa」も履修することが望ましい。

【評価方法】

出席状況 (割合: 20%)、中間試験 (割合: 40%)、学期末試験 (割合: 40%) によって総合評価を行う。

【テキスト】

ITパスポート試験 対策テキスト&問題集 平成21年度版 (FOM出版)

資格取得スキル II a (基本情報技術者試験対策)

戸谷英司

【授業の概要】

学習者の目標、能力の客観的評価、そして明日に「役立つもの」として「基本情報技術者試験」の合格を目標とする教育科目である。情報技術全般の基礎知識を活用し、高度な技術者をを目指す者としての知識と実践的な活用能力を習得する。特に午前問題を中心に、基礎理論から開発技術に至る「テクノロジ系」、プロジェクトマネジメントやサービスマネジメントに関する「マネジメント系」、システム戦略や経営戦略などに関する「ストラテジ系」の幅広い知識を習得する。

【授業の目標】

情報分野における国家資格である基本情報技術者試験の資格取得を目指す。

【授業計画】

1. 情報の基礎理論(1)：データの表現と基数変換
2. 情報の基礎理論(2)：論理演算
3. ハードウェア(1)：動作原理、プロセッサの性能
4. ハードウェア(2)：記憶素子、補助記憶装置
5. ソフトウェア(1)：OS、ジョブ管理とタスク管理
6. ソフトウェア(2)：実記憶管理、仮想記憶システム、プログラム言語
7. ファイルとデータベース(1)：ファイル編成とデータベースの正規化
8. ファイルとデータベース(2)：DBMS、SQL
9. 通信ネットワーク(1)：通信の仕組み
10. 通信ネットワーク(2)：プロトコル、LAN、アクセス制御方式
11. システム開発(1)：開発手法、外部設計、内部設計、プログラム設計
12. システム開発(2)：テスト技法、オブジェクト指向、信頼性設計
13. セキュリティ、情報化と経営
14. データ構造とアルゴリズム
15. 試験

この授業を履修する際には、履修条件を確認すること。
また、基本情報技術者試験を受験する人は「資格取得スキルIIb」も履修することが望ましい。

【評価方法】

出席状況(割合:20%)、課題提出(割合:30%)、学期末試験(割合:50%)によって総合評価を行う。

【テキスト】

基本情報技術者合格教本(技術評論社)

【参考文献・資料】

基本情報技術者予想問題集(アイテック)

資格取得スキル II b (基本情報技術者試験対策)

戸谷英司

【授業の概要】

学習者の目標、能力の客観的評価、そして明日に「役立つもの」として「基本情報技術者試験」の合格を目標とする教育科目である。特に午後問題を中心に、テクノロジ系やマネジメント系、ストラテジ系についての応用問題に取り組み、データ構造、アルゴリズム、プログラム言語や表計算に関する問題を通して、論理的思考力と実務能力を養う。

【授業の目標】

情報分野における国家資格である基本情報技術者試験の資格取得を目指す。

【授業計画】

1. ハードウェア
2. ソフトウェア
3. アルゴリズム(1)：整列・探索、配列処理
4. アルゴリズム(2)：文字列操作、擬似言語
5. プログラム開発：テスト手法
6. データベース：SQL、排他制御
7. 通信ネットワーク
8. 情報処理技術：在庫管理、日程計画
9. プログラム設計(1)：システム開発手順、仕様分析方法
10. プログラム設計(2)：コード設計、画面設計、データ設計
11. プログラム言語
12. 過去問題対策(1)
13. 過去問題対策(2)
14. まとめ
15. 試験

この授業を履修する際には、履修条件を確認すること。
また、基本情報技術者試験を受験する人は「資格取得スキルIIa」も履修することが望ましい。

【評価方法】

出席状況(割合:20%)、課題提出(割合:30%)、学期末試験(割合:50%)によって総合評価を行う。

【テキスト】

基本情報技術者合格教本(技術評論社)

【参考文献・資料】

基本情報技術者予想問題集(アイテック)

CGクリエイティングコース I (CGクリエイター検定Webデザイン部門2級試験対策)

伊藤吉樹

【授業の概要】

「CGクリエイター検定Webデザイン部門2級」の合格を目標とする教育科目である。2級問題は、「CGクリエイター検定3級」レベルのCGに関する総合的な知識の他に、コンセプトメイキングから運用に至る全工程の知識が必要とされるため、Webデザインや音の利用に関するWeb制作に必要な知識を体系的に学ぶ。

【授業の目標】

CGクリエイター検定Webデザイン部門3級合格者やそれに準ずる者を対象に、CGクリエイター検定Webデザイン部門2級の資格取得を目指す。

【授業計画】

1. Webデザインへのアプローチ(Webサイト制作の流れ)
 2. コンセプトメイキング(Webサイトの種類とコンセプト)
 3. コンセプトメイキング(Web2.0、情報メディアについて)
 4. 情報の構造(情報の収集・分類、組織化、Webサイト構造)
 5. ページデザイン(レイアウト、タイポグラフィ)
 6. ページデザイン(グラフィックス、カラーコーディネート)
 7. ナビゲーション(ユーザインターフェース、ナビゲーションデザインの手法)
 8. 動きと音の効果(動きの技法と表現、音の演出)
 9. Webサイトを実現する技術(技術の基礎、Webサイト上の機能)
 10. Webサイトを実現する技術(Web制作の言語、バックエンドで活用する技術)
 11. Webサイトのテストと運用(Webサイトのテスト、Web解析)
 12. Webサイトのテストと運用(Webサイトの運用とリニューアル)
 13. 知的財産権、過去出題問題の検証と分析
 14. まとめ
 15. 試験
- ※14回目のまとめと15回目の試験は入れ替わる場合があります。

この授業を履修する際には、履修条件を確認すること。
特に「CGクリエイティングコースII」を履修予定の学生は必ず受講する。

【評価方法】

出席状況、課題提出、学期末試験によって総合評価を行う。

【テキスト】

Webデザイン：コンセプトメイキングから運用まで改訂版(CG-ARTS協会)

【参考文献・資料】

ハイパーメディアデザイン：Webページのための情報のデザイン(CG-ARTS協会)
Webデザイナー検定2級・3級問題集(CG-ARTS協会)

システム管理者コース II (ソフトウェア開発技術者試験対策)

戸谷英司

【授業の概要】

「応用情報技術者試験(旧ソフトウェア開発技術者試験)」の合格を目標とする教育科目である。応用情報技術者として、高品質なソフトウェアを開発するための知識を習得する。ネットワーク、データベースの全般的知識と実装技術、内部設計書やプログラム設計書の作成、テスト実施における指導能力について学ぶ。

【授業の目標】

応用情報技術者試験の資格取得を目指す。

【授業計画】

1. コンピュータ科学基礎上級(情報の基礎理論)
2. アルゴリズムとプログラミング(データ構造、探索、整列)
3. コンピュータシステム(ハードウェア)
4. コンピュータシステム(ソフトウェア、プログラム言語)
5. システム構成要素(集中・分散、構成、評価、信頼性、待ち行列)
6. システム開発と運用(システム開発手法とプロセスモデル)
7. データベース(関係データベースの基礎)
8. データベース(SQLとデータベース設計)
9. ネットワーク(通信技術、プロトコル、インターネット)
10. セキュリティと標準化(暗号化と認証、コンピュータウイルス、リスク対策)
11. マネジメント(工程管理、システム運用)
12. ストラテジ(経営戦略・経営工学、会計、関連法規・標準化)
13. 過去出題問題対策
14. 過去出題問題対策
15. 試験

この授業を履修する際には、履修条件を確認すること。

【評価方法】

出席状況(割合:20%)、課題提出(割合:30%)、学期末試験(割合:50%)によって総合評価を行う。

【テキスト】

授業前に掲示で指示する。

【参考文献・資料】

応用情報技術者合格教本(大滝みや子、岡嶋裕史著 技術評論社)
情報処理教科書 応用情報技術者(日高哲郎著 翔泳社)
応用情報技術者 予想問題集(アイテック情報技術教育研究部編著 アイテック)

CGクリエイティングコースⅡ (CGクリエイター検定Webデザイン部門1級試験対策)

伊藤吉樹

【授業の概要】

「CGクリエイター検定Webデザイン部門1級」の合格を目標とする教育科目である。1級問題は、Web設計とWebデザインの高度な専門知識の他に、企画立案とWebデザインの具体化に関する問題解決能力が必要とされるため、自ら発案するテーマに基づいたWeb制作の実習を行う。

【授業の目標】

CGクリエイター検定Webデザイン部門1級の資格取得を目指す。

【授業計画】

1. Webデザインを始める前に：企画提案とコンセプトメイキング
2. グローバルナビゲーションのデザイン
3. ビットマップ画像の選択と抽出、編集・加工
4. フォトレタッチとフィルタや効果による高度な表現
5. ベクターグラフィックスのデザイン：
 ロゴ作成、ピクトグラム・地図の作成
6. スライスと最適化：Web画像の切り分けと書き出し
7. 課題制作：レイアウトデザイン
8. 基本コーディング：HTMLの基本タグとリンク
9. XHTMLとマークアップ：グルーピングと画像リンク
10. CSSの基本記述ルールとボックスモデル
11. CSSとXHTMLによるページレイアウト
12. JavaScriptによる動的表現：Flashによる動的表現
13. 総合課題制作：コンテンツ構築、デザインニング
14. 総合課題制作：コーディング、アップロード、講評
15. 試験

この授業を履修する際には、履修条件を確認すること。

【評価方法】

出席状況、課題提出、学期末試験によって総合評価を行う。

【テキスト】

3週間でマスター Webデザインの教室（ソシム）

【参考文献・資料】

詳解 HTML & XHTML & CSS辞典（秀和システム）
詳解 JavaScript & DynamicHTML辞典 Ajax対応（秀和システム）

教職入門

後口伊志樹

【授業の概要】

本講義は、教員という職業がどのような意義を持っているのか、学校での教師の職務と役割がどのようなものであるかを、学生の被教育体験を生かしながら具体的に解説する。職務の個々の内容について、現在の中学校の実態を踏まえて詳説する。その上で、今日の学校が抱えている問題解決の方途を、中教審などの答申から学び、求められている教師像を明らかにすることによって教職につくかどうか、自らの適性を見極めて決定する情報と機会を提供したい。

【授業の目標】

「学制」公布に始まる学校教育制度の歴史的推移を概観し、今日の学校教育が抱える諸課題について理解を深めるとともに、教育の重要性と教師の役割の重大さを知ることによって学生自らが「教師としての適性」を見極める機会を提供する。

【授業計画】

- 1 教育とは何か
- 2 日本における近代学校教育制度の変遷
 - (1) 第一の教育改革
 - (2) 第二の教育改革
 - (3) 第三の教育改革
- 3 教師に求められる資質能力とは何か
 - (1) いつの時代にも求められる資質能力
 - (2) 今後特に求められる資質能力
- 4 教師の資質能力にかかる形成諸段階
 - (1) 養成段階（戦前・戦後の教員養成）
 - (2) 採用段階
 - (3) 現職研修段階
 - ・ 法的根拠
 - ・ 研修の種類
- 5 教職員の職種・職務
- 6 教員の日・一学期・一年の仕事
- 7 今日教育問題をテーマにグループ討論

【評価方法】

期末試験、授業コメント・カード、グループ討論評価表、出席率を総合して評価する。

【参考文献・資料】

授業時に参考文献の紹介とともに資料プリントを配布する。

090107014_0030 掲載順 : 0030

MASTER ★

教職入門

小栗正彦

【授業の概要】

本講義は、教員という職業がどのような意義を持っているのか、学校での教師の職務と役割がどのようなものであるかを、学生の被教育体験を生かしながら具体的に解説する。職務の個々の内容について、現在の中学校の実態を踏まえて詳説する。その上で、今日の学校が抱えている問題解決の方途を、中教審などの答申から学び、求められている教師像を明らかにすることによって教職につくかどうか、自らの適性を見極めて決定する情報と機会を提供したい。

【授業の目標】

現在の教育現場で、教師や生徒たちが置かれている状況を知ることによって、学生自らが「教師としての適性」を見極めるための機会を提供したい。

【授業計画】

- 第1・2時限 教師になるためには（教職課程ガイダンス）
 - ・ レポートの書き方
 - ・ 教師に求められる資質・能力
 - ・ 戦前、戦後の教師像
- 第3時限 学校をとりまくしくみ（教育行政のあり方）
 - ・ 国や地方公共団体が「教育」にどう関わっているのか
 - ・ いろいろな学校
- 第4・5・6時限 「学校」をとりまく諸問題
 - ・ いじめ問題
 - ・ 「新しい荒れ」（生徒をとりまく状況）と学校現場（学級崩壊）
 - ・ 教師の生活
 - ・ 「外国語」の小学校必修化問題について
- 第7時限 愛知の教育について
- 第8・9・10時限 学習指導要領とは
 - ・ その思想、歴史と現行教育課程の問題点
 - ・ カリキュラム・メイキング
- 第11時限 学習指導とは（進路指導との関連で）
 - ・ 生徒のためのよりよい勉強法（「学び」のモチベーションをどうやって高めるか）
- 第12時限 青年期とはどんな時代なのか
- 第13時限 先生になろう（ピエオ「桜の花の咲く頃」鑑賞）
- 第14時限 先生になるために最低限、読んでほしい本の紹介
- 第15時限（最終回） 試験

【評価方法】

課題の提出、出席状況、期末考査などにより、総合的に評価する。

【テキスト】

講義ノート

【参考文献・資料】

授業時に紹介する。

教職入門

大久保義男

【授業の概要】

本講義では、教員という職業がどのような意義を持っているのか、学校での教師の職務と役割がどのようなものであるかを、学生の被教育体験を生かしながら具体的に解説する。その上で、今日の学校が抱えている問題解決の方途を、中教審、教課審の答申や、県教委の教員採用選考の指針から学び、教員に求められる資質能力を明らかにすることによって教職につくかどうか、自らの適性を見極めて決定する情報と機会を提供したい。

【授業の目標】

教員の職務と役割について学び、教育への関心や教職に対する情熱や使命感を高めるとともに、教員としての適性を省察する契機とする。

【授業計画】

- 1 教員の仕事
 - (1) 学習指導
 - (2) 生徒指導・教育相談
 - (3) 進路指導
 - (4) 学級経営
 - (5) 教科外指導
- 2 教師に求められる資質・能力
- 3 教員の養成と採用
- 4 教員の地位と身分
 - (1) 身分上の義務・制限
 - (2) 教員の待遇と勤務条件
 - (3) 教員の研修
- 5 学校の管理・運営
 - (1) 学校制度
 - (2) 学校運営
 - (3) 校務分掌

【評価方法】

課題の提出、学習態度、出席状況、期末考査などにより、総合的に評価する。

【テキスト】

使用しない。必要に応じて資料を配付する。

【参考文献・資料】

授業の中で必要に応じて紹介する。

090107014_0040 掲載順 : 0040

MASTER ★

教師論

大久保義男

【授業の概要】

日本における明治維新以降の教員養成制度について、教員免許・資格、教員に求められていた資質等の歴史を学習する。

多様化と個性化、国際化、情報化、高学歴化等の現代社会の急激な社会変化の中において期待される教員像を求め、学生の被教育体験を交えて模索することによって、教職への理解を深め、目的意識をもって教職への道を歩む人材の育成を目指す。

【授業の目標】

学校教育における教師の役割について考えるとともに、学校を取り巻く諸課題を整理しながら今後の学校教育の在り方や教師像について展望する。

【授業計画】

- 1 教職の意義と教師の役割
- 2 教育基本法の趣旨
- 3 中学校・高等学校の目的・目標
- 4 学校教育の歴史
- 5 答申類に見る我が国の教育施策
- 6 愛知県の教育施策
- 7 教育をめぐる現代的な諸課題
 - (1) 青少年の心理と生徒理解
 - (2) 問題行動・不登校・いじめ・児童虐待・薬物乱用
 - (3) 人権教育・同和問題
 - (4) 障害児教育
 - (5) 情報教育・国際理解教育・環境教育・消費者教育
 - (6) 生涯学習・社会教育
- 8 魅力ある学校づくり
 - (1) 学校評価と開かれた学校づくり
 - (2) 教員評価と学校組織の活性化
 - (3) 危機管理・説明責任

【評価方法】

課題の提出、学習態度、出席状況、考査などにより、総合的に評価する。

【テキスト】

使用しない。必要に応じて資料を配布する。

【参考文献・資料】

授業の中で必要に応じて紹介する。

教育原理

佐藤実芳

【授業の概要】

高等教育機関への高い進学率を誇っている日本では、教育といえは学校教育を思い浮かべることが多いであろう。しかし、学校教育を受けるのは、人生の一時期にしかすぎない。しかも学校教育をめぐる様々な問題が生じている今日、学校とは何か、教育とは何か、そのあるべき姿を真剣に考える必要がある。

本講義では、教育の歴史及び教育思想から現在の教育問題まで幅広く紹介する中で、教育の本質と目的を中心に教育とは何かを考察していく。

【授業の目標】

・教育を受けるという立場だけではなく、教職課程を履修し教職をめざすという立場で教育をするという視点から学校とは何か、教育とは何かを考え理解すること。
・教育についての様々な考え方や実践を理解すること。

【授業計画】

1. 教育とは何か
2. 人間と教育
動物学からみた人間の特殊性
人間の成長と環境
教育の重要性
人間形成の場
3. 教育の本質
注入主義（ソフィスト～本質主義）
開発主義（ソクラテス～進歩主義）
4. 教育の目的
教育目的とは
教育目的の歴史的変遷（古代ギリシャ～現代）
5. 現代の教育

【評価方法】

出席状況 10% 課題の提出 40% 定期試験 50%

【テキスト】

資料を配布する。

【参考文献・資料】

授業の中で必要に応じて紹介する。

教育原理

渡辺かよ子

【授業の概要】

高等教育機関への高い進学率を誇っている日本では、教育といえは学校教育を思い浮かべることが多いであろう。しかし、学校教育を受けるのは、人生の一時期にしかすぎない。しかも学校教育をめぐる様々な問題が生じている今日、学校とは何か、教育とは何か、そのあるべき姿を真剣に考える必要がある。

本講義では、教育の歴史及び教育思想から現在の教育問題まで幅広く紹介する中で、教育の本質と目的を中心に教育とは何かを考察していく。

【授業の目標】

・教育を受けるという立場だけではなく、教職課程を履修し教職をめざすという立場で教育をするという視点から学校とは何か、教育とは何かを考え理解すること。
・教育についての様々な考え方や実践を理解すること。

【授業計画】

1. 教育とは何か
2. 人間と教育
動物学からみた人間の特殊性/人間の成長と環境/教育の重要性/人間形成の場
3. 教育の本質
注入主義（ソフィスト～本質主義）/開発主義（ソクラテス～進歩主義）
4. 教育の目的
教育目的とは/教育目的の歴史的変遷（古代ギリシャ～現代）
5. 現代の教育

【評価方法】

授業内レポートとテスト。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献・資料】

国家（プラトン著 岩波書店）
世界図説（コメニウス著 平凡社）
エミール（ルソー著 岩波書店）
学校と社会（デューイ著 岩波書店）
被抑圧者の教育学（フレイレ著 亜紀書房）

教育原理

五島敦子

【授業の概要】

高等教育機関への高い進学率を誇っている日本では、教育といえは学校教育を思い浮かべることが多いであろう。しかし、学校教育を受けるのは、人生の一時期にしかすぎない。しかも学校教育をめぐる様々な問題が生じている今日、学校とは何か、教育とは何か、そのあるべき姿を真剣に考える必要がある。

本講義では、教育の歴史及び教育思想から現在の教育問題まで幅広く紹介する中で、教育の本質と目的を中心に教育とは何かを考察していく。

【授業の目標】

学校教育はこれまでどのようにつくられ、これからどのように変化していくのか。本講義は、教育原理の基礎知識を学ぶとともに、現代的な教育課題にひとりひとりが迫るための問いかけを盛り込み、「学ぶ側」でなく「教える側」として学校教育をとらえる視点を養うことをねらいとする。

【授業計画】

1. 教育とは何か
2. 教育の本質
(1) 注入主義 ソフィスト～本質主義
(2) 開発主義 ソクラテス～進歩主義
3. 戦後日本の教育課題
(1) 高度経済成長と教育爆発
(2) 落ちこぼれと校内暴力
(3) いじめと不登校の発生
4. 国際競争と教育改革の進展
(1) 新しい学力観と臨時教育審議会
(2) 「普通の子」の事件・学級崩壊
(3) 生きる力と確かな学力
5. 現代日本の教育課題

【評価方法】

定期試験、授業内小テスト、出席状況による総合評価

【テキスト】

やさしい教育原理 新版（田嶋一ほか著、有斐閣）

【参考文献・資料】

格差社会と教育改革（荻谷剛彦・山口二郎著、岩波書店）
その他、授業中に提示する

教育思想史

梅村敏郎

【授業の概要】

教育は、人間の本質的な営みの一つであって、既に古代から哲学者や思想家の考察の対象となってきた。これらの思想は、思想家たちが生きた時代や文化の主要な潮流や思想家自身の思考方法の特徴によって極めて多様な思想や理論が形成された。

この授業では、古代から現代まで各時代を代表するような偉大な教育思想を時代順に進めるのではなく、現代の教育についての基本的な考え方や主要な概念に直接的な影響を与え、そのため現代教育と直接的なつながりを持つと思われる17世紀のコメニウスを出発点として、それ以後今日に至るまで最も重要と考えられてきた教育者たちの思想を取り上げる。

その際、学生はそれらの思想についての他人の解釈や解説を聴くことも必要ではあるが、むしろそれらの思想と直接に対決することがより大切である。

専門的な研究者にとっては、それらの思想はそれが書かれた元の言語で読まれるべきであろうが、初歩の学生は先ずそれらの書物の良い日本語訳によって、これらの思想に直接触れることが必要である。

【授業の目標】

17世紀以来の西洋の代表的な教育思想家が現代教育にどのような影響を及ぼしたかを調べることによって、現代教育の思想的基盤について一層の理解を得ることを目標とする。

【授業計画】

1. 教育思想史を勉強することの意義
2. 教育思想史を17世紀から取り扱う理由
3. コメニウス
4. ルソー
5. ベスタロッチ
6. ヘルバルト
7. フレーベル
8. デューイ
9. 教育思想と教育実践

【評価方法】

評価は資料持ち込み自由の筆答試験による。

【テキスト】

事前に授業内容を要約したプリントを配布する。

【参考文献・資料】

参考文献は授業中に適宜紹介する。

教育心理学 I

小池理穂

【授業の概要】

中学・高校生についての理解を深めるために乳幼児期から青年期までの発達を概観し、発達課題について考え、障害児への理解を通して発達の可能性について考えていく。その上で、教育を受ける側と教育する側との相互の人間関係の中で展開される「教育」の営みについて、学習のメカニズムや動機づけの理論を通して考え、心理学的知見を実践の中に生かしていくことを目的とする。

【授業の目標】

教育に対して、教育心理学が求められている点、教育心理学が担っている役割、提供できる知識・技術を理解する。その上で、自己を見つめ、自分の教育観を考える。

【授業計画】

1. 教育心理学を学ぶということ
 - ・教育の機能と教育心理学の位置づけ
2. 発達について考える
 - ・生涯発達の視点
 - ・障害の意味と発達可能性
 - ・発達段階と発達課題
 - ・認知の発達
3. 学習の過程を考える
 - ・学習の成立過程
 - ・学習における知識の役割
 - ・学習意欲を育てる
 - 外発的動機づけと内発的動機づけ/原因帰属をめぐって/知的好奇心の喚起/報酬の意味/目標のありかた

【評価方法】

筆記試験またはレポートに加えて、授業への参加関与度を考慮する。

【テキスト】

使用せず。

【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

教育心理学 II

富安玲子

【授業の概要】

人間を発達可能性のある存在として生涯発達の視点から考えながら、一人ひとりが自分の教育観・発達観の基礎づくりをすることを目的にしたい。自己意識の発達などのプロセスを辿りながら、教育的働きかけとの関わりを考え、今日の問題への理解を深めていきたい。

【授業の目標】

自己形成のプロセスへの関心を深め、生徒及び自分自身の理解を促進すること。

【授業計画】

1. 発達の心理学を学ぶ/発達の心理学から学ぶ
2. 青年期の意味
3. 発達と教育
4. 「自分」の諸相
5. 「自分でない」世界の認識から
6. 第一「反抗」期の意味
7. 自我と他我
8. 9. 他律的規範への順応
10. 11. 第二の誕生
12. 13. アイデンティティの確立
14. 生涯発達の視点と生き方
15. 自分探し(自分育て)の旅と人間関係

【評価方法】

期末試験と授業への出席・関与度による。

【テキスト】

テキストとしては使用しない。必要な資料等は授業時に配付する。

【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

教育心理学 I

中野靖彦

【授業の概要】

中学・高校生についての理解を深めるために乳幼児期から青年期までの発達を概観し、発達課題について考え、障害のある幼児、児童、生徒への理解を通して発達の可能性について考えていく。その上で、教育を受ける側と教育する側との相互の人間関係の中で展開される「教育」の営みについて、学習のメカニズムや動機づけの理論を通して考え、心理学的知見を実践の中に生かしていくことを目的とする。

【授業の目標】

発達についての理解や行動形成への関わり方について、教育する立場に立って考えていくこと。

【授業計画】

1. 教育の機能と教育心理学の位置づけ
2. 生涯発達の視点
3. 障害のある幼児、児童、生徒の理解と発達可能性
4. 発達段階と発達課題
5. 認知の発達を通しての人間理解
6. 学習の成立過程
7. 学習における知識の役割
8. 学習意欲を育てる
9. 学級集団の理解と指導
10. 教育の評価
11. 教師と生徒

【評価方法】

期末試験と授業への出席・関与度による。

【テキスト】

テキストとしては使用しない。必要な資料等は授業時に配付する。

【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

障害児の教育

小塩允護

【授業の概要】

特殊教育から特別支援教育へと移行し、障害のある児童生徒への指導が従来の特殊教育諸学校や特殊学級等から、通常の学級に在籍する障害のある児童生徒に対しても指導の場が拡大されてきた。このことから、今後教職に就く者が障害のある児童生徒の教育に対しても広く学ぶ必要性が生じ、障害のある児童生徒の理解を深めていくことが大切である。

【授業の目標】

過去及び現在の特別支援教育の仕組みを理解するとともに、それぞれの障害の特性を理解し、個々の特別な教育的ニーズに応じるために学校教育では、どのように指導・支援する必要があるかを概略把握する。

【授業計画】

1. 特殊教育から特別支援教育への転換
2. 障害のある児童生徒の教育の現状
 - 特別支援学校における教育
 - 小・中学校等における障害のある児童生徒の教育
3. 障害の理解
4. 各種障害の特性と理解

【評価方法】

出席状況・授業中の学習態度・期末試験等の成績により総合的に評価する。

【テキスト】

テキストは使用せず、資料を配布する。

【参考文献・資料】

授業の中で必要に応じて紹介する。

教育制度

佐藤実芳

【授業の概要】

社会の変化にともなう学校の誕生や変化に基づき、社会において学校教育が果たしてきた役割について考えるとともに、学校教育制度の歴史的変遷から、学校教育制度の基本的な事項を理解する。さらに、学校経営や教育行政に関する規定がある教育法規を取り上げ、現在の日本の教育制度の特徴を考察していく。

【授業の目標】

- ・教育制度の基本的な事項について理解すること。
- ・日本の学校教育制度の歴史的変遷について理解すること。
- ・現在の日本の教育制度について、教育法規に基づいて理解すること。

【授業計画】

1. 教育制度の意義
2. 現代学校教育制度の起源
3. 学校教育制度の類型
4. 日本の学校教育制度の変遷
5. 教育法規と学校教育
6. 教育行政制度
7. 諸外国の教育制度

【評価方法】

出席状況 10% 課題の提出 20% 定期試験 70%

【テキスト】

資料を配布する。

【参考文献・資料】

授業の中で必要に応じて紹介する。

学級経営

前田勝洋

【授業の概要】

学級崩壊、担任不信等学校を取り巻く教育環境が問題となっている今日の教育状況を正しく理解し、学級担任として、どのように生徒に接したらよいか、どのようにして生徒の信頼を回復するのか探求するとともに、楽しい、生き生きとした学級作りを具体的な事例から求めて行きたい。

【授業の目標】

教師の資質の一つである「学級経営」の進め方の方法を、具体的な事例研究によって、実証的に学ぶことをめざす。

【授業計画】

小学校、中学校の学級経営事例に学びながら、教師の資質向上を図る方策を探していきたい。

- (1) 学級づくりと学級こわしの関係
- (2) 生徒理解と学級担任の役割
- (3) 共感的学級経営の実践
- (4) 成就型教育観と参加型教育観
- (5) 学級担任と言葉の問題
- (6) カルテ（個人記録）と一人ひとりを生かす経営

以上のような視点を軸にしなが、互いに事例について意見交換を行うなど、担任教師としての資質を磨きたい。

【評価方法】

毎回の受講感想レポートと「事例に対する意見記述」を中心に行いたい。

【テキスト】

後日、必要に応じて採用し、活用する。

教育制度

五島敦子

【授業の概要】

社会の変化にともなう学校の誕生や変化に基づき、社会において学校教育が果たしてきた役割について考えるとともに、学校教育制度の歴史的変遷から、学校教育制度の基本的な事項を理解する。さらに、学校経営や教育行政に関する規定がある教育法規を取り上げ、現在の日本の教育制度の特徴を考察していく。

【授業の目標】

学校教育制度の課題について、諸外国の教育改革を比較考察しながら理解するとともに、教育基本法を中心に教育法規と教育行政の基礎知識を学ぶ。グループ・ワークを通じて教育制度に関する関心を深め、意見をまとめて発表する力を養うことをねらいとする。

【授業計画】

1. 教育制度の概観
2. 教育段階とその課題
3. 国際学力調査とその意味
4. 欧米諸国の教育改革
5. アジア諸国の教育改革
6. 教育法規の基礎知識
7. 日本国憲法・教育基本法・学校教育法
8. 教育行政の基礎知識
9. 教員の服務と義務
10. グループ研究発表

【評価方法】

定期試験、レポート、グループ・ワークによる総合評価

【テキスト】

やさしい教育原理 新版（田嶋一ほか著、有斐閣）

【参考文献・資料】

解説教育六法（解説教育六法編集委員会編、三省堂）
教育改革の国際比較（大桃敏行ほか編著、ミネルヴァ書房）
新しい学力テストを読み解く（田中耕治編著、日本標準）

教育課程

後口伊志樹

【授業の概要】

特定の発達段階にいる子どもを対象として、各レベルの学校がその教育目的・目標を十分に達成するために、子どもにどの種の教科・教材をどのように学習させるか、またどの種の活動をどう体験させるかについての全体的な教育計画である教育課程（カリキュラム）について学習する。

なお、各学校が教育課程を編成する場合には、広範な人間の文化領域のなかから、子どもが学習・体験すべき内容・要件を選択し組織化する原理が何であるかという問題についても焦点をあてる。

【授業の目標】

教育課程の変遷を学ぶことによって、「生きる力」と「確かな学力」の一層の充実を目指す現行学習指導要領が生まれてきた時代背景と今後の進展について理解するとともに、教育課程編成の理論と実際についても論考する。

【授業計画】

- 1 教育課程とは
 - (1) 教育課程研究の重要性
 - (2) 教育課程を考えるいくつかの視点
 - (3) 教育課程の編成原理
- 2 教育課程の歴史的変遷
 - (1) 戦前の教育課程
 - (2) 戦後の教育課程
 - ア 学習指導要領第一次改訂
 - イ 学習指導要領第二次改訂
 - ウ 学習指導要領第三次改訂
 - エ 学習指導要領第四次改訂
 - オ 学習指導要領第五次改訂
 - カ 学習指導要領第六次改訂
 - キ 学習指導要領第七次改訂
- 3 現行学習指導要領総則編（小・中・高）
- 4 現行教育課程の事例検討（小・中・高）
- 5 教育課程編成の構成要件と生徒・学校の実態
- 6 教育課程にかかる今日的諸課題をテーマにグループ討論

【評価方法】

期末試験、授業コメント・カード、グループ討論評価表、出席率を総合して評価する。

【参考文献・資料】

授業時に参考文献の紹介とともに資料プリントを配布する。

教育課程

小栗正彦

【授業の概要】

特定の発達段階にいる子どもを対象として、各レベルの学校がその教育目的・目標を十分に達成するために、子どもにどの種の教科・教材をどのように学習させるか、またどの種の活動をどう体験させるかについての全体的な教育計画である教育課程(カリキュラム)について学習する。

なお、各学校が教育課程を編成する場合に、広範な人間の文化領域のなかから、子どもが学習・体験すべき内容・要件を選択し組織化する原理が何であるかという問題についても焦点をあてる。

【授業の目標】

教育課程の歩みを学ぶことの中から、どのようにして「ゆとり」と「生きる力」を目指した、1998年の「新教育課程」が生み出されてきたかを理解できるようにする。また、教育課程を編成する難しさを体験させる。

【授業計画】

第1時限	講義に関する諸注意 講義の進め方と評価に関する注意、アンケートの実施
第2・3時限	「教育課程」とは何か
第4時限	わが国の教育課程改革の歴史(戦前)
第5・6時限	世界の教育課程改革の歴史(20世紀以降) 特にアメリカにおける教育課程に関する考え方の変遷
第7・8・9時限	わが国における教育課程改革の歴史(戦後) ・学習指導要領の変遷史
第10時限	現行の学習指導要領の成立と問題点
第11時限	・いわゆる「学力低下」論争、その他について 教育課程(カリキュラム)を編成する (高等学校…現行学習指導要領)
第12時限	小学校における「外国語」の授業について
第13時限	学びのモチベーションを高める授業とは
第14時限	諸外国における学校制度と教育課程 ・アメリカ、イギリス、フランス、ドイツ、中国
第15時限	試験

【評価方法】

課題の提出、出席状況、期末考査などにより、総合的に評価する。

【テキスト】

小栗『講義ノート』

【参考文献・資料】

授業時に紹介する。

国語科教育法 I

佐々木亜紀子

【授業の概要】

中学校学習指導要領には、「国語」の教科目標として、「国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を養い言語感覚を豊かにし、国語に対する認識を深め国語を尊重する態度を育てる。」とある。この目標を正しく理解して、高等学校あるいは中学校生徒にいかにか教えるかを考える授業にしたい。具体的には、教材研究の方法、学習指導案の作成方法、板書方法、授業の進め方、評価の方法などを学び、教育現場に対応し得る力を養う。

【授業の目標】

学習指導要領における「国語」の教科目標を理解したうえで、適切な教材研究の方法を習得し、学習指導案を作成し、授業を行なう実践力を育成する。

【授業計画】

第1講	ガイダンス・国語科教育の概観 学習指導要領における国語科教育の目標
第2講	学習指導案の作成方法
第3講～第5講	中学校「論説文」の学習指導 (教材研究・指導案・授業・評価などの方法)
第6講～第8講	高等学校「短歌」の学習指導(同上)
第9講～第11講	中学校古典導入教材の学習指導(同上)
第12講～第14講	高等学校古文導入教材の学習指導(同上)
第15講	単位認定試験

【評価方法】

授業への参加態度と課題の内容との平常点、及び単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

【テキスト】

新版 中学校高等学校国語科学習指導の研究(大田勝司他編 双文社出版)

【参考文献・資料】

高等学校学習指導要領解説 国語編
中学校学習指導要領解説 国語編

国語科教育法 II

佐々木亜紀子

【授業の概要】

中学校学習指導要領の趣旨に沿って、国語を正確に理解し、適切に表現する能力を高めるためにどのような授業を行えばよいのか、中学校の教科書を用い、学習指導案の作成と模擬授業を行いながら、具体的・実践的な指導法を研究する。

【授業の目標】

中学校学習指導要領における「国語」の教科目標を理解したうえで、適切な教材研究の方法を習得し、学習指導案を作成し、授業を行なう実践力を育成する。

【授業計画】

第1講	ガイダンス・模擬授業計画 学習指導要領における中学校の国語科教育
第2講・第3講	「説明文」「俳句」教材の学習指導 (教材研究・指導案・授業・評価などの方法の研究)
第4講～第7講	「評論」「ルポルタージュ」「随想」教材の学習指導 (模擬授業と授業方法の研究)
第8講～第10講	「小説」教材の学習指導 (教材研究・指導案・授業・評価などの方法の研究)
第11講～第13講	「漢詩」教材の学習指導(同上)
第14講	「言語活動例」を用いた学習指導(同上)
第15講	単位認定試験

【評価方法】

授業への参加態度と課題の内容との平常点、及び単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

【テキスト】

新版 中学校高等学校国語科学習指導の研究(大田勝司他編 双文社出版)

【参考文献・資料】

中学校学習指導要領解説 国語編

国語科教育法 III

佐々木亜紀子

【授業の概要】

高等学校学習指導要領の趣旨に沿って、国語への関心を高め、表現力を伸ばし、日本の文化と伝統について理解を深める総合的な国語教育の在り方を求め、高等学校の教科書を用い、学習指導案の作成と模擬授業を行いながら、具体的・実践的な指導法を研究する。

【授業の目標】

高等学校学習指導要領における「国語」の教科目標を理解したうえで、適切な教材研究の方法を習得し、学習指導案を作成し、授業を行なう実践力を育成する。

【授業計画】

第1講	ガイダンス・模擬授業計画 学習指導要領における高等学校の国語科教育
第2講～第3講	「国語総合」「小説」の学習指導 (教材研究・指導案・授業・評価などの方法と研究)
第4講～第7講	「国語総合」古文教材の学習指導 (模擬授業と授業方法の研究)
第8講～第11講	「古典」漢文教材の学習指導 (教材研究・指導案・授業・評価などの方法と研究)
第12講～第14講	「国語表現」の学習指導 (同上)
第15講	単位認定試験

【評価方法】

授業への参加態度と課題の内容との平常点及び単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

【テキスト】

新版 中学校高等学校国語科学習指導の研究(大田勝司他編 双文社出版)

【参考文献・資料】

高等学校学習指導要領解説 国語編

国語科教育法IV

坂東 進

【授業の概要】

高等学校の学習指導案の趣旨に沿って、ことばへの理解と関心を高め、ことばによる表現のあり方を理解し、日本の文化への認識を高め、国語教育のあり方を探求する。高校の教科書を用いて学習指導案の作成をしながら、模擬授業を行い、実践的な力を養う。

【授業の目標】

高等学校学習指導要項の「国語」の目標を理解し、その上で適切な教材研究の方法を修得し、学習指導案を作成し、授業における実践力をつける。

【授業計画】

- 1 国語は何を学ぶ教科か
- 2 「読む」という行為
国語表現の授業
「書く」という行為
- 3 文学教材と評論文
文学教材の学び方・教え方 詩歌 小説
評論文の学び方・教え方 「現代文」とは何か
現代文
- 4 古典教材の学び方・教え方 古文 漢文
- 5 学習指導案の作成
現代文の指導方法
古典の指導方法

【評価方法】

課題の提出 出席状況 試験などによる総合評価

英語科教育法 I

松本青也

【授業の概要】

英語教育法をテーマとして、目的論、技能論、方法論を中心に、日本における英語教育の歴史、諸外国の言語政策と英語教育、マルチメディアを活用した英語教育、などの話題を含めて考察する。

【授業の目標】

日本の英語教育が直面する様々な課題と、その可能性について、主に理論的な側面から考察する。

【授業計画】

1. 目的論：問題提起。コミュニケーション能力
2. 学習指導要領。学校英語教育の目標
3. 異文化と国際理解
4. 技能論：Sound
5. Listening
6. Speaking
7. Reading & Writing
8. 方法論：教授法の歴史（日本）
9. 教授法の歴史（外国）
10. 外国語教授理論
11. 新しい教授法
12. マルチメディア利用の可能性と課題
13. 指導過程の構成と授業評価
14. まとめ：これからの英語教育
15. テスト

【評価方法】

テストの成績、学習態度、出席状況等による総合評価。

【テキスト】

英語は楽しく使うもの ～インターネットが可能にした最新英語習得法～
(松本青也著 朝日出版社)

【参考文献・資料】

自作教材資料

英語科教育法 II

高橋美由紀

【授業の概要】

学習指導要領の趣旨に沿って実践的コミュニケーション能力の基礎を育成するために、特に入門期でどのような指導をすればいいかを中心に教育方法を考える。授業は、入門期の英語教育の意義や効果的な指導法、授業計画、指導案の書き方、教材・教具研究などの講義と、入門期の学習者が楽しめる英語教育を行うためのワークショップから構成される。

【授業の目標】

中学校入門期の英語教育の指導者を養成することを目標としている。

【授業計画】

1. オリエンテーション：入門期の英語教員の資質について
2. 入門期の英語教育の現状と課題・レベルや経験年数が異なる学習者の指導について
3. 入門期の英語教育の目的と意義・入門期の学習者の効果的な教授法
4. 音声重視の英語教育・入門期の学習者と文字教育
5. 歌やゲームを利用した英語教育
6. 入門期の英語教育の視覚教材・聴覚教材研究
7. 入門期の英語教育のコンピュータ教材やビデオ教材の研究
8. ALTとのTT授業について・テキストと授業計画、指導案の書き方について
9. 中学校入門期の英語教育・アジア諸国の英語教育
10. 模擬授業の具体例と指導案
11. 模擬授業
12. 模擬授業
13. 模擬授業
14. 模擬授業
15. 模擬授業の反省と今後の課題

【評価方法】

マイクロティーチングによるテスト、出席状況、授業態度
指導案作成、レポート

【テキスト】

中学校学習指導要領 外国語（英語）（文部科学省）
『これからの小学校英語教育の構想』（高橋美由紀編著 アブリコット出版社）
Sunshine Kids Book 1（山岡多美子・高橋美由紀 開隆堂出版）
Sunshine Kids Book 2（高橋美由紀・山岡多美子 開隆堂出版）
その他、絵本、カセット、CD、文献等は授業内に紹介する。

【参考文献・資料】

教材、教具作成のために、画用紙、色紙、マジックなどが必要である。

英語科教育法 III

高橋美由紀

【授業の概要】

学習指導要領の趣旨に沿って、コミュニケーション能力の基礎を育成するためには、日本の中学校ではどのような授業を行えばよいのか、模擬授業を行いながらその具体的な指導法を研究する。

【授業の目標】

中学校英語教育の指導者を養成することを目標としている

【授業計画】

1. オリエンテーション：中学校英語教師の資質について、テキスト説明、小・中・高・大の英語教育について
2. 授業の組み立て：授業を盛り上げるための教材・教具について、教案作成ワークショップその1、ビデオによる模範授業参観その1
3. 授業の組み立て：歌やゲームを取り入れた授業展開、教案作成ワークショップその2、ビデオによる模範授業参観その2
4. 授業研究：テキスト内容に沿ったオリジナル教材・教具の作成、生徒を引きつける授業の様々なアイデア
- 5～14. 各グループによる模擬授業
15. 予備日

【評価方法】

テストは実施しない、出席状況、授業態度、課題レポート、模擬授業

【テキスト】

Sunshine Kids Book 1（山岡多美子・高橋美由紀 開隆堂出版）
Sunshine Kids Book 2（高橋美由紀・山岡多美子 開隆堂出版）
『これからの小学校英語教育の構想』（高橋美由紀編著 アブリコット出版社）
Sunshine 1・2・3（松本青也他 開隆堂出版）
中学校学習指導要領 外国語（英語）（文部科学省）
その他、ゲーム集、歌、カセット、CD等はコピーを使用する。

【参考文献・資料】

教材・教具作成のために画用紙、マジックなどの文具類が必要である。

英語科教育法 IV

山森孝彦

【授業の概要】

学習指導要領の趣旨に沿って、コミュニケーション能力を育成することに主眼を置いて、生徒の多様化した日本の高等学校における英語教育を効果的に行うにはどのようにするか、具体的、実践的に指導する方法を研究する。

【授業の目標】

高等学校で教育実習を行う際に必要な心構えと英語教授力の基礎を身につける。具体的目標は次の通りである。

- ・高校生が各学年でどれくらいの文法事項、語彙、英語力を身につけているかある程度予想することができる。
- ・与えられた教材を研究し、高校生に適した効果的な教授法を工夫し、指導案を作成することができる。
- ・考えた指導案にそって授業を行うことができる（発声、視線、発音、板書、生徒とのやりとり、落ち着きなど）。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーションと班分け（担当部分と日程を決める）
- 第2～5回 高校英語教師に求められる力、授業の組み立て方、効果的な英語教授法などについての講義と演習
- 第6～13回 模擬授業実習
 - ・数人1組で模擬授業を行う。（教材研究・指導案作り・授業発表）
 - ・発表者と記録・計時係以外の学生は生徒役となる。
 - ・毎回授業に対するフィードバックとディスカッションを行う。
- 第14～15回 教育実習生としての心得についての講義と課題レポート提出

【評価方法】

成績は、授業参加度40%（出席率、授業中の取り組みや課題など）、模擬授業40%（指導案、模擬授業、集計と反省）、期末レポート20%、を総合して評価する。

【テキスト】

英語Iの教科書（出版社未定）

【参考文献・資料】

高等学校学習指導要領解説 外国語編 英語編 文部省

情報科教育法 II

石黒昭吉

【授業の概要】

本授業においては、情報科教育法IIにおいて学習した事項について、授業者として、実際の学校の授業でどのように展開するかを学習することを目的として、効果的な授業を実施するために必要な、学習指導案、教材・教具の開発と活用、教育方法について、授業計画の作成と模擬授業を行ない実践的な学習を実施する。

授業はすべてコンピュータ実習室で行なう。

【授業の目標】

専門教科「情報」の13科目についてその概要を理解する。教育実習生および新任教師として、教科「情報」の授業をするための基礎的能力を身につけることを目標とする。

【授業計画】

- 1 オリエンテーション
- 2 専門教科「情報」とは何か
- 3 専門教科「情報」に関する目標・学習内容・指導方法の概要
- 4 普通教科「情報」の授業の展開
 - (1) 「社会と情報」の授業計画の立案、学習指導案の作成・模擬授業の実施
 - (2) 「情報の科学」の授業計画の立案、学習指導案の作成・模擬授業の実施
- 5 専門教科「情報」の科目「課題研究」の教材収集・開発

【評価方法】

出席状況、提出された課題、指導案とそれに基づく模擬授業等により総合的に評価する。

【テキスト】

高等学校学習指導要領解説（情報編）（文部省 開隆堂出版）（前期と同じテキストです。）

【参考文献・資料】

随時紹介する。

情報科教育法 I

石黒昭吉

【授業の概要】

本授業においては、高度情報化社会における学校教育における情報科教育の意義、役割を認識し、情報科の学習指導要領に示された教育の目的を理解するとともに、情報科担当者に要求される教育目標達成に必要な基礎的な知識、技能について実習を織りまぜながら学習する。授業はすべてコンピュータ実習室で行なう。

教育実習に参加する学生がある場合には、授業計画を変更することができる。

【授業の目標】

高等学校での普通教科「情報」の目標・学習内容・指導方法の概要を理解し、情報科教員として必要となるミニマムエッセンシャルズとしての知識・技能を身につけることを目標とする。

【授業計画】

- 1 オリエンテーション
- 2 情報科教育の史的展開と意義について概観する
- 3 高度情報化社会における情報倫理、セキュリティ等について
- 4 コンピュータ及び情報に関する基本的な知識・技能について
- 5 普通教科「情報」に関する目標・学習内容・指導方法の概要
 - (1) 科目「社会と情報」の目標・学習内容・指導方法について
 - (2) 科目「情報の科学」の目標・学習内容・指導方法について
- 6 普通教科「情報」に関する学習内容の発表

【評価方法】

出席状況、提出された報告書、発表等により総合的に評価する。

【テキスト】

高等学校学習指導要領解説（情報編）（文部省 開隆堂出版）

【参考文献・資料】

随時紹介する。

道徳指導法

伊藤昭道

【授業の概要】

道徳とはなにか、わが国の道徳教育の基盤、義務教育における道徳教育の在り方を探求する。その上で、今日の道徳教育に至るまでの歴史の変遷を学び、さらに道徳性の発達理論を考察する。また、道徳指導の実践についての具体例をとりあげ、その理解を深める。

【授業の目標】

道徳教育の必要性を理解すると共に、将来教育現場で「道徳」の時間の指導や道徳教育を行う上で必要な知識や指導法を習得することをめざす。併せて教育実習で「道徳の時間」の指導が適切に行えるようにする。

【授業計画】

- 1 道徳と道徳教育
 - ・道徳と倫理
 - ・道徳教育思想の展開
- 2 道徳教育の現状と課題
- 3 道徳性の発達に関する理論
- 4 学校における道徳教育の実践
 - ・道徳教育の目標
 - ・道徳教育の内容
 - ・「道徳の時間」の指導計画、指導案の作成
 - ・「道徳の時間」の指導の実践
- 5 道徳教育の歴史
 - ・学制公布前後から昭和20年終戦に至る修身教育の変遷
 - ・戦後の道徳教育の展開
- 6 まとめとテスト

【評価方法】

学期末試験の成績に、毎時間の出席状況、授業中の態度、課したレポート内容を加味して総合的に評価する。

【テキスト】

講義資料を配布。

【参考文献・資料】

中学校学習指導要領（文部省 平成10年）
史料 道徳教育を考える（浪本勝年他編 北樹出版 他）

特別活動指導法

不破民由

【授業の概要】

中学校・高等学校の特別活動の変遷とその具体的な活動として学級活動、ホームルーム活動、生徒会活動、学校行事についての指導法を考察、演習する。
そのなかで望ましい人間関係、基本的な生活習慣の形成を通して個人及び社会の一員としての在り方、生き方に関する指導の充実を図ることを学習目標とする。

【授業の目標】

特別活動を歴史的・国際的に比較し、相対的に考えることができるようになる。
「読書タイム」や話し合いなどを通じ実践的に特別活動を考察する。

【授業計画】

1. 自由度の高い特別活動の可能性…学習活動や生徒指導とのかかわりとともに、特別活動の独自の価値を考える。
2. 特別活動の歴史の変遷…「どくとるマンボウ青春記」や森有礼を事例として近代日本の特別活動の変遷を具体的にイメージする。
3. 学級活動…閉鎖的な空間であることによる団結力の向上というプラス面と、逃げられない息苦しさというマイナス面を考察する。
4. 生徒会活動…特に、「校則」の見直しを考察し、日常生活における生徒会活動の活性化を重点化して考察する。
5. 学校行事…学校行事の精選化の流れの中で、必要な学校行事とその取り組み方、計画方法を工夫する

【評価方法】

2回のレポートを中心に評価する。普段の授業の参加状況を参考にします。

【テキスト】

どくとるマンボウ青春記（北杜夫 新潮文庫）

【参考文献・資料】

特別活動（高旗正人・倉田侃司編著 ミネルヴァ書房）
＜学級＞の歴史学（柳治男 講談社選書メチエ）
運動会と日本近代（吉見俊哉他編 青弓社） 他

教育方法

前田勝洋

【授業の概要】

今日親も教員も子供の本当の姿が見えなくなり、確かな指導の手だてが見出せず苦悩している。この現状を打破するためには、子供の理解を深め、子供の立場に立って教材を開発し、教育方法を構築し、実践する力量が求められている。

テキストを中心に、ビデオ教材、学生同士の討議を加えた参加型授業形態で行い、教員としての教育的力量を培う教育方法を解明したい。

【授業の目標】

具体的な小中高等学校の授業を検討することを中心としながら、教育方法の理解に努め、授業実践のワザの習得をめざして、教員としての資質を磨く。

【授業計画】

1. 人間回復の学力と教師の在り方
 - (1) 中学・高校における学力論と教師論の検討
 - (2) 生徒の思考の発展を目指す授業方法
 - (3) 生徒の自主的な学習を育てる学習指導法
 - (4) 生徒の側に立った学習指導技術
2. 情報機器及び教材の活用方法
 - (1) 情報機器の特色とその効果的な活用方法
 - (2) 視聴覚教材の特色とその効果的な活用方法
 - (3) メディアの進歩と新しいリテラシーの育成方法
3. 学習者にとって個を生かす学習集団とは
 - (1) 多様化した生徒への対応の仕方
 - (2) 中学校における個を生かす学習集団
 - (3) 高等学校における個を生かす学習集団

【評価方法】

学生の積極的な授業参加と毎時提出するミニレポート、期末に行う論文試験等によって評価する。

【テキスト】

後日、必要に応じて採用し、活用する。

教育方法

坂東 進

【授業の概要】

学習指導要領改訂の期間が短くなり、またその理念も改訂毎に変化し、ゆとり教育と学力重視の廻間で、生徒も教員も確かな手だてを求めて苦悩している。そのために実効あるすぐれた授業実践を学び、その思想と手法を学びすぐれた教員としての資質を検証する。

【授業の目標】

具体的な学校の授業を検討しながら、教育方法の理解に努め、授業方法の実践力の修得をめざして教員としての資質と力量を磨く

【授業計画】

1. 学校の歴史と機能
2. 生徒の実態と学校を取巻く社会環境
3. 学力とはなにか
4. すぐれた実践に学ぶ「仮説実験授業」「水道方式」「鍛える国語」「教育技術法則化運動」「百ます計算」「よのなか科」
5. 学校力、教師力とは
6. 教える技術 メディアを使用して

【評価方法】

課題の提出 出席状況 試験などによる総合評価

教育方法

前田勝洋

生徒指導（進路指導を含む）

小栗正彦

【授業の概要】

生徒指導を管理監督、非行の防止といった消極的な視点からではなく、21世紀に生きる青少年の健全な育成を目指す。個人の尊厳と人格を尊重した生徒指導により生徒の生きる力を養う生徒指導の在り方を求める。進路指導においては、その理念及び目的を具体的に学習する。

これらの学習をとおして、生徒指導にあたる教員の在り方及び人間観について具体的に指導する。

【授業の目標】

現在の生徒たちがおかれている状況を理解すると同時に、非行、いじめ、不登校、学級崩壊など深刻な教育問題にどのように対処すればよいかを学ばせたい。

【授業計画】

- | | |
|----------|--|
| 第1時限 | 講義の進め方と評価などについての注意
アンケートの実施 |
| 第2時限 | 「生徒指導」（進路指導を含む）では何を学ぶのか |
| 第3時限 | 「生徒指導」（進路指導を含む）の歴史と発展
生徒指導の意義と課題 |
| 第4時限 | 文部省「生徒指導の手引き（改訂版）」を読む
生徒指導（進路指導を含む）の歴史と発展 |
| 第5時限 | アメリカ、日本の場合
発達心理（青年期の心理）
子どもと大人の「境界」→「13歳論」 |
| 第6時限 | 生徒理解の方法と技術 |
| 第7時限 | いまの中学・高校生が育ってきた時代背景 |
| 第8時限 | いまの学校で起こっていることとも
生徒の側から（いまの中学・高校では）
生徒指導における数々の事例（法令との関わりで）
・校則問題（制服・茶髪染髪・バイクなど）
・「いじめ」と「不登校」
・学校事故（授業・クラブ活動での事故） |
| 第9時限 | 進路指導について
・学習のモチベーションを高めるために
ゲーム機やケータイと子どもたち |
| 第10時限 | 「いネット」について（平成16年は「キャリア教育元年」） |
| 第11時限 | 懲戒と処分について（学校における「非行」対策との関わり） |
| 第12時限 | 少年事件の手続き上の問題点（触法少年、虞犯少年、犯罪少年） |
| 第13・14時限 | 学校に関する事柄を特集したビデオを見る。
学級崩壊とは（NHKの特集番組）
・最北の酪農高校で「桜の花の咲く頃」 |
| 最終回 | 試験 |

【評価方法】

課題の提出、出席状況、期末考査などにより、総合的に評価する。

【テキスト】

小栗「講義ノート」

【参考文献・資料】

授業時に紹介する。

生徒指導（進路指導を含む）

内藤春彦

【授業の概要】

生徒指導を管理監督、非行の防止といった消極的な視点からではなく、21世紀に生きる青少年の健全な育成を目指す。個人の尊厳と人格を尊重した生徒指導により生徒の生きる力を養う生徒指導の在り方を求める。
進路指導においては、その理念及び目的を具体的に学習する。
これらの学習をとおして、生徒指導にあたる教員の在り方及び人間観について具体的に指導する。

【授業の目標】

学校が抱えている今日的課題の認識とその対応策の学習・実践を行い、それをもって21世紀社会を担う青少年の健全育成に携わることが出来る人間観のある教員の養成を図りたい。

【授業計画】

- 1 学校が抱えている今日的課題とその対応策
 - (1) 学校教育の現状と望ましい学校づくり
 - (2) さまざまな不応に對する生徒指導の在り方
- 2 生徒指導の在り方
 - (1) 生徒指導の考え方と指導体制
 - (2) 生徒指導の法律問題
 - (3) 生徒の問題行動
 - (4) 非行少年の補導と処遇
 - (5) 青少年の健全育成と生徒指導関係機関
 - (6) 進路指導-1 (7) 進路指導-2
- 3 人間観の追求
 - (1) アブラハム・マズローの「自己実現の欲求」
 - (2) サムエル・ウルマンの「青春とは」
 - (3) 宮沢賢治の「雨ニモマケズ」
- 4 学校における教育相談の課題と展望
- 5 生きる力を養うソーシャルスキルトレーニングの実践

【評価方法】

メッセージ交換カード、期末考査及び出席状況等の総合的評価。

【テキスト】

必要に応じて資料を配付する。

【参考文献・資料】

授業時に、紹介または配付する。

教育相談（カウンセリングを含む）

中野靖彦

【授業の概要】

教育相談の役割が認識されるようになった背景からその必要性を考え、教育相談への理解を深めて実践につなげていきたい。生徒理解のあり方や不応行動への対応について考えるとともに、カウンセリングの基礎知識を学ぶ。

【授業の目標】

生徒の立場に立った生徒-教師関係のあり方を考えながら、人との関わり、コミュニケーションの仕方の実際を学び、さまざまな視点からの柔軟な対応の必要性を体得すること。

【授業計画】

1. 今、なぜ「教育相談」「カウンセリング」か
2. 「自分」は他者との関係の中で育つ
3. 教師-生徒の相互影響過程
4. 生徒理解
5. 学校における教育相談
6. 教育相談の進め方
7. 相談とカウンセリング
8. 適応と不応
9. 問題行動のとらえ方とその対応
10. 不登校を考える
11. いじめを考える
12. 非行を考える

【評価方法】

期末試験と授業への出席・関与度による。

【テキスト】

テキストとしては使用しない。必要な資料等は授業時に配付する。

【参考文献・資料】

参考書として、中野著「鏡は先に笑わない」風媒社 を考えている。

生徒指導（進路指導を含む）

八谷芳樹

【授業の概要】

生徒指導を管理監督、非行の防止といった消極的な視点からではなく、21世紀に生きる青少年の健全な育成を目指す。個人の尊厳と人格を尊重した生徒指導により生徒の生きる力を養う生徒指導の在り方を求める。
進路指導においては、その理念及び目的を具体的に学習する。
これらの学習をとおして、生徒指導にあたる教員の在り方及び人間観について具体的に指導する。

【授業の目標】

生徒指導や進路指導に関する基本的な理論を学び、現代の学校の生徒指導上の諸問題への具体的、実践的対応を検討する。グループによる討論を試みる。

【授業計画】

- | | |
|-------|--------------------------|
| 第1時限 | ガイダンス・アイスブレイキング・問題発生時の対応 |
| 第2時限 | 生徒指導とは（講義） |
| 第3時限 | 生徒指導とは（グループ発表） |
| 第4時限 | 校則と法令 |
| 第5時限 | 問題行動（反社会的行動） |
| 第6時限 | 問題行動（非社会的行動） |
| 第7時限 | いじめ問題 |
| 第8時限 | 懲戒・体罰 |
| 第9時限 | 部活動を通した生徒指導 |
| 第10時限 | 遺愛集（島 秋人）の世界 |
| 第11時限 | 子どもの発達のみちすじ |
| 第12時限 | 学級経営を通した生徒指導 |
| 第13時限 | 進路指導（進路指導とキャリア教育） |
| 第14時限 | 進路指導（社会で求められる力） |
| 最終回 | 試験 |

【評価方法】

授業への参加の度合い、課題の提出、出席状況、期末考査などにより、総合的に評価する。

【テキスト】

授業の初回に指示する。

【参考文献・資料】

授業時に紹介する。

カウンセリング

富安玲子

【授業の概要】

カウンセリングについてその歴史や理論に触れながら、カウンセリングの人間観や基本的態度について学んだ上で、実習による体験を通して共感的理解や傾聴の意味を考えていく。カウンセリング技法の実際についても学び、実際の人間関係の中で活かしていくことを目指したい。

【授業の目標】

「教育相談」での学習を更に進めて、実習を取り入れながら、「聴く」ことの意味と「聴く」人である自分について考えていくこと。

【授業計画】

1. 教育相談とカウンセリングを巡って
2. カウンセリングの歴史
3. カウンセリングの人間観
4. カウンセリングの理論
5. カウンセラーに必要な基本的態度・行動
6. 共感的理解のエクササイズ
7. 8. 正確に「聴く」とは
9. カウンセリングの実際例
10. 11. 話しやすさの源は聴き上手：かかわり技法
12. 13. 応答訓練
14. ロールプレイ
15. カウンセリングにおける諸問題

【評価方法】

期末試験、ロールプレイ・レポート、授業への出席・関与度による。

【テキスト】

テキストとしては使用しない。必要な資料等は授業時に配付する。

【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

総合演習

小栗正彦 伊藤昭道 後口伊志樹 楠元町子 佐藤成哉
佐藤実芳 中嶋真弓 坂東進 渡辺かよ子

【授業の概要】

社会構造や家族構造の変化する現代社会において、青少年をとりまく現実的な課題について分析及び検討することにより、総合的な見地に立って未来に生きる中学生、高校生をどのように教育するか、その方法を探究し、総合的な指導力を備えた教員の育成をめざし、次の9テーマに別れて演習を行う。

- (1) ボランティア活動の在り方ー福祉との関連について (伊藤昭道)
- (2) 学校におけるクライシス・マネジメントの問題 (後口伊志樹)
- (3) みんなの学校問題 (小栗正彦)
- (4) 国際化と異文化理解 (楠元町子)
- (5) 人間と自然環境 (佐藤成哉)
- (6) 社会と子育て (佐藤実芳)
- (7) 情報化社会における読書 (中嶋真弓)
- (8) 中高生の進路問題を考える (坂東進)
- (9) 生涯学習における学校 (渡辺かよ子)

【授業の目標】

各課題に対して、自ら問題点を明らかにし、その解決に向けて調査・研究し、それを分かりやすく説明する (プレゼンテーション能力) スキルを学ぶ。

【授業計画】

※印は後期日程 (於 星が丘)

1. 全体、各テーマ別 8月10日 ※1月27日
 - (1) 総合演習とは、これからのすすめ方
 - (2) 各テーマの概要説明、希望テーマ提出、テーマ別編成
 - (3) 各テーマ別に課題設定と学習法の指導
2. 8月26日 ※2月16日
課題レポートの提出 (必要部数の印刷)
3. 各テーマ別 8月31日 ※2月19日
 - (1) 課題レポートについて報告、質疑応答
4. 各テーマ別 9月4日 ※2月26日
 - (1) グループとして課題について整理、代表者の選出
5. 全体 9月9日 ※3月3日
 - (1) グループ代表者の発表、担当教員の指導
 - (2) 感想文の作成と提出

【評価方法】

レポートと感想文、出席状況によって総合的に評価する。

教育実習指導 (介護体験事前指導を含む)

坂東進

【授業の概要】

教育実習前の指導として、学校教育全般にわたる基本的理解並びに教育実習の意義、実習生としての望ましい態度・技能を習得する。また、介護等体験実習にむけて個人の尊厳、社会連帯の理念に関する認識を深めさせる。

【授業の目標】

教育実習の内容・方法の理解、基礎的な指導技術の習得を図る。併せて、福祉施設、特別支援学校教育への理解を深め、教育実習および介護等体験履修上の心構えを確立する。

【授業計画】

- 1 教育実習の意義と目的
 - ・前年度実習の様子
 - ・「先輩からの一言」
- 2 教育実習の内容と方法
 - ・教育実習の領域
 - ・教育実習の方法
- 3 教育実習記録
 - ・実習記録の意義と方法
- 4 授業研究
 - ・教材研究、教具の意義
 - ・学習理解を深めるための発問・板書の活用方法
 - ・模擬授業の実施
- 5 教育実習についての全般的諸注意並びに事後指導
- 6 介護体験事前指導
 - ・障害者・高齢者の理解
 - ・社会福祉施設等の種類と役割
 - ・特別支援教育諸学校教育の理解
 - ・障害児 (者) 介護への心構え
- 7 介護体験事後指導
- 8 まとめとテスト

【評価方法】

毎時間の授業態度、課したレポート内容、期末試験の結果 (実習・体験評価を参考) により総合的に評価する。

【テキスト】

教育実習指導 必要に応じて資料を配布。
介護体験事前指導 『フィリア』 (全国特殊学校校長会編著 ジアース教育新社)

【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

教育実習指導 (介護体験事前指導を含む)

伊藤昭道

【授業の概要】

教育実習前の指導として、学校教育全般にわたる基本的理解並びに教育実習の意義、実習生としての望ましい態度・技能を習得する。また、介護等体験実習にむけて個人の尊厳、社会連帯の理念に関する認識を深めさせる。

【授業の目標】

教育実習の内容・方法の理解、基礎的な指導技術の習得を図る。併せて、福祉施設、特別支援学校教育への理解を深め、教育実習および介護等体験履修上の心構えを確立する。

【授業計画】

- 1 教育実習の意義と目的
 - ・前年度実習の様子
 - ・「先輩からの一言」
- 2 教育実習の内容と方法
 - ・教育実習の領域
 - ・教育実習の方法
- 3 教育実習記録の意義、書き方
- 4 授業研究
 - ・教材研究、教具の意義
 - ・学習理解を深めるための発問・板書の仕方
 - ・模擬授業の実施
- 5 教育実習についての全般的諸注意並びに事後指導
- 6 介護体験事前指導
 - ・障害者・高齢者の理解、社会福祉施設等の種類と役割
 - ・特別支援学校教育の理解、障害児 (者) 介護への心構え
- 7 介護体験事後指導
- 8 まとめとテスト

【評価方法】

毎時間の授業態度、課したレポート内容、期末試験の結果 (実習・体験評価を参考) により総合的に評価する。

【テキスト】

教育実習指導 必要に応じて資料を配布。
介護体験事前指導 『フィリア』 (全国特殊学校校長会編著 ジアース教育新社)

【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

教育実習指導 (介護体験事前指導を含む)

宮部幸雄

【授業の概要】

教育実習前の指導として、学校教育全般にわたる基本的理解並びに教育実習の意義、実習生としての望ましい態度・技能を習得する。また、介護体験実習にむけて個人の尊厳、社会連帯の理念に関する認識を深めさせる。

【授業の目標】

1. 教師の勤務や業務について理解し、学校教育における教師の役割について、体験的、総合的に理解を深める。
2. 教師として、生徒の指導に必要な、より実際の専門的な知識と技能を習得する。
3. 教育実践上の研究方法や研究態度を習得する。

【授業計画】

- 1 教育実習の意義と目的
- 2 教育実習の内容と方法
- 3 教育実習記録
- 4 授業研究
 - ・教材研究、教具の意義
 - ・学習理解を深めるための発問・板書の活用方法
- 5 教育実習についての全般的諸注意並びに事後指導
- 6 介護体験事前指導・事後指導

【評価方法】

出席状況、レポートの提出、試験等の結果を総合的に評価します。

【テキスト】

教育実習を成功させよう 2009年版 (小松喬生・次山信男編 一橋書店)

教育実習 I

伊藤昭道

【授業の概要】

教科に関する専門科目及び教職に関する専門科目で学習した成果を実践し、検証する機会である。

実習校での3週間の教育実習を通じて、教師という専門職としての自覚と誇りを高めるとともに、生徒から親愛と信頼の念をもって迎えられる実習生となるよう、努力と工夫をして3年間の成果を存分に発揮してほしい。

【授業の目標】

自らが体験した教育実習を通して現在の教育現場の状況と自らの教員としての適性を把握する。

【授業計画】

実習校において、教師としての仕事を行う。

1.学級担任として

朝の打合せ、STの諸連絡と生徒観察にはじまり、帰りの清掃指導にいたるまでの仕事内容を理解し、生徒指導にあたる。また、道徳教育、総合的な学習の指導にあたるとともに学級事務を担当する。

2.教科担任として

前半では、指導教官の授業参観と授業案の作成及び教材の準備を行う。後半では、授業案にもとづいて授業を実施し、指導教官の指導と助言を得て、授業をより充実させるよう努める。

3.特別活動として

学級活動、生徒会活動、学校行事、クラブ・部活動に積極的に参加する。

【評価方法】

実習校の評価（生徒指導、学習指導、実習態度）に基づいて評価する。

【テキスト】

『教育実習記録』を活用する。

生涯学習概論

角 紘昭

【授業の概要】

現代の社会では、一人ひとりが人として主体的に生きてゆくため、広く社会において学び続けてゆくことが求められている。そのための生涯学習の歴史、意義、実践について具体的な事例を基に考察をする。

【授業の目標】

明治以降の我が国の社会情勢と生涯学習（社会教育）のあゆみを概観し、生涯学習全般について理解すると共に、将来あるべき生涯学習社会の姿を考える。

【授業計画】

- 1 はじめに
 - 導入としての概観（単元の構成内容）
 - 受講上の注意
- 2 社会教育のはじまり
 - 通俗教育から社会教育
- 3・4 社会教育の展開
 - 戦後の社会教育
 - 施設とその展開
- 5 生涯学習の登場
 - 社会教育から生涯教育・生涯学習
- 6 欧米における生涯学習
- 7 生涯学習の構成
 - 行政などの組織
- 8・9・10 生涯学習の展開
 - ① 人権教育
 - ② 学社融合
 - ③ スポーツ振興
 - ④ 高齢者福祉
- 11 今後の課題
 - 規制緩和の進む中で
- 12 まとめ

【評価方法】

主に期末試験（筆記）により評価するが、開講中にレポートを課した場合はこれを加味する。

【テキスト】

テキストは使用しない。

【参考文献・資料】

授業中に参考文献を適宜紹介する。

教育実習 II

小栗正彦

【授業の概要】

教科に関する専門科目及び教職に関する専門科目で学習した成果を実践し、検証する機会である。

実習校での2週間の教育実習を通じて、教師という専門職としての自覚と誇りを高めるとともに、生徒から親愛と信頼の念をもって迎えられる実習生となるよう、努力と工夫をして3年間の成果を存分に発揮してほしい。

【授業の目標】

自らが体験した教育実習を通して現在の教育現場の状況と自らの教員としての適性を把握する。

【授業計画】

実習校において、教師としての仕事を行う。

(1) 学級担任として

朝の打合せ、STの諸連絡と生徒観察にはじまり、帰りの清掃指導にいたるまでの仕事内容を理解し、生徒指導にあたる。

また、道徳教育、総合的な学習の指導にあたるとともに学級事務を担当する。

(2) 教科担任として

前半においては、指導教官の授業参観と授業案の作成及び教材の準備を行う。

後半においては、授業案にもとづいて授業を実施し、指導教官の指導と助言をえて、授業をより充実させるよう努める。

(3) 特別活動として

学級活動、生徒会活動、学校行事、クラブ・部活動に積極的に参加する。

【評価方法】

実習校の評価（生徒指導、学習指導、実習態度）に基づいて評価する。

【テキスト】

『教育実習記録』を活用する。

国際理解教育論

植村広美

【授業の概要】

日本の近代化の過程において、どのような経路により先進諸国の文明が導入されたかを考察する。その考察を踏まえ、日本の国際化について教育の視点から考察する。そして、どのように国際理解教育を展開すべきかを考えてみたい。

【授業の目標】

明治以降のわが国の教育のあり方を踏まえ、国際理解教育を理解すること。（詳細は授業にて解説する。）

【授業計画】

1. 日本の近代化の過程における外国文明の摂取
 - (1) 近代化への萌芽
 - (2) 海外視察と帰国後の動向
 - (3) 外国人教員の雇用とその教育への影響
 - (4) 技術伝習による日本の産業の近代化
2. 現代の学校教育における国際化
 - (1) 学校教育における国際理解教育
 - (2) 在日外国人の子弟の受け入れ体制

【評価方法】

出席、レポート、筆記試験により評価する。

【テキスト】

テキストは使用しない。

【参考文献・資料】

授業中に適宜紹介する。

学校経営と学校図書館

小栗正彦

【授業の概要】

学校教育における学校図書館の教育的意義を確認し、より効果的な学校図書館の活用を目指し、教職員のみでなく、生徒会及びPTAとの連携を視野に入れた望ましい学校図書館の組織と運営はいかにあるべきかを、次の点に視座をあてて、具体的な成功事例を紹介し学習する。

【授業の目標】

司書教諭及び学校図書館司書教諭の資格取得のために必要な基礎的知識を習得する。

【授業計画】

第1時限	講義の進め方と評価の方法などについて
第2時限	あなたにとって「本を読む」とは、「図書館」を利用するということは
第3時限	学校図書館の理念と教育的意義
第4時限	学校図書館法とは（学校図書館法の展開と改正）
第5・6時限	学校図書館の歴史と現状、制度、法規、基準（施設、設備など）
第7時限	教育行政と学校図書館
第8時限	学校図書館の「経営」とは（学校図書館に関わる人びと）
第9時限	学校図書館の経営要素（資料、施設・設備、予算、図書館サービス）
第10時限	学校図書館メディアの内容と構成
第11時限	司書教諭の役割とその問題点
第12時限	生徒たちに対する読書指導のあり方 ・君達が読ませたいと思う本、君達に読んでもらいたい本 レファレンスのあり方 何をどう調べるか
第13時限	学校図書館の国際的動向と先進事例
第14時限	いま「本の世界」で問題になっていること
最終回	試験

【評価方法】

課題の提出、学習態度、出席状況などにより、総合的に評価する。

【テキスト】

必要に応じて資料を配付する。

【参考文献・資料】

授業時に紹介する。

学校図書館メディアの構成

担当者未定

【授業の概要】

情報化の著しい進展と共に、従来の活字メディア中心の学校図書館は児童生徒の活字離れにより、大きく変容を迫られている。これからの学校図書館は、児童生徒が喜んで利用できるよう、そのニーズに応え、多様なメディアを取り入れなければならない。この点を中心にして、これからの学校図書館のメディア構成を考えてみたい。

【授業の目標】

詳細は後日、掲示にて明示する。

【授業計画】

【評価方法】

学習指導と学校図書館

枝元益祐

【授業の概要】

学校図書館は、教育に必要な資料を生徒及び教員の利用に供することによって、（1）学校の教育課程の展開に寄与するとともに、（2）生徒の健全な教養を育成することを目的としている。

この授業では、（1）の目的を達成するために学校図書館はどのようなものでなければならないかを、蔵書構成や利用指導の現状と実践例、教科学習や総合学習における図書館利用の方法と実践例について学ぶ。

また、司書教諭の役割とこれからの学校教育に占める重要性について学習するとともに、利用指導の図書館実習を体験することによって、司書教諭の仕事への理解を深める。

【授業の目標】

学校において行われる教育活動全体の中での学習指導の位置付けと機能とを学校図書館が担う教育活動に関連付けることによって、その重要性を浮き彫りにする。

そこで、カリキュラム展開の中での学校図書館が学習指導に果たし得る効果と教育制度とストリートレベルとの双方の観点から捉えるとともに、メディア活用能力の重要性とその涵養、発展方法について論及、考察する。

【授業計画】

1. 学校教育における学習指導の位置付けとそこに果たす学校図書館の役割（総論①）
2. 社会教育と学校教育の関連性（総論②）
3. 司書教諭の専門性と学習支援
4. 専門性の醸成と実践活動プロセス
5. 専門性の醸成の場としての学校図書館
6. 学習理論の観点から見る学習行動及びそこに果たす学校図書館の役割
7. 発達段階に応じた学校図書館メディアの活用
8. 情報メディア活用能力と学校図書館活動
9. 学校図書館における情報サービスと学習指導
10. 公教育と学校図書館及び学習指導の意義
11. 公教育と私教育との関連及びそれぞれの評価過程
12. 学習支援としての学校図書館活動

【評価方法】

授業内での課題：40%
期末試験：60%

【テキスト】

使用しない。適宜教材資料等を配布する。

【参考文献・資料】

学校教育と図書館－司書教諭科目のねらい・内容とその解説（志保田務、北克一、山本順一 編著 第一法規）

読書と豊かな人間性

梅田卓夫

【授業の概要】

現在、児童生徒の読書離れの傾向は拡大し、まったくと言っていいほど本を読まなくなってきた。

児童生徒の読書離れの要因と実態を解明するとともに、学校図書館が「読書と豊かな人間性」の視点に立って、どのような役割を果たすべきかを、具体的な事例を紹介するとともに、一方的な講義に終わることなく、受講者自身の体験も取り入れ、以下のような視座に立った参加型授業を展開する。

【授業の目標】

人類の歴史の中で、図書館・本・読書はどのような役割を果たしてきたか。また個人の成長の過程で読書はどのような意味を持つか。人間精神と読書との関わりを、実例によって見ながら、学校図書館および学校図書館司書が「豊かな人間性」のために果たすべき役割を考える。

【授業計画】

1. 読書のよこび
（1）読書との出会いとよこび——先人の読書経験から学ぶ
2. 人間形成と読書
（1）幼児期における読み聞かせの教育的意味
（2）少年期・青年期における読書との出会い
（3）読書による、内省、思索の意義
3. 学校教育における読書指導
（1）教師による本の紹介、読み聞かせ
（2）「十分間読書」「朝の黙読」等の実践例
4. 読書と仲間作り
（1）家庭・友人間での読書、対話、読書会
（2）学区図書館を利用した共同研究
5. 読書の技術
（1）情報収集のための「読書」と思索のための読書
（2）愛読書、好きな作家

【評価方法】

出席状況及びレポートによる。

【テキスト】

プリントを配布する。

【参考文献・資料】

プリントを配布する。

情報メディアの活用

担当者未定

【授業の概要】

学校図書館の高度情報化は21世紀には避けて通れない状況である。現在の状況は必ずしも満足はできないが、学校図書館に将来関係すると思われる新しいメディアの運用についての基礎知識と技能は、今後学校図書館の仕事に携わる教員にとって必須だと言える。以上の観点から、次のテーマで実践的な学習を行ない、これからの情報化される学校図書館の効果的な活用を目標とする。

【授業の目標】

詳細は後日、掲示にて明示する。

【授業計画】

【評価方法】

博物館概論

柴垣勇夫

【授業の概要】

博物館とは何か、その発達の歴史をたどり、世界と日本の博物館を概観するとともに、博物館の新しい動きをとらえる。

【授業の目標】

学芸員として必要な基礎的知識を学習する。

【授業計画】

- 1) はじめに…博物館学とは何かなど学習の基礎を知る。
- 2) 博物館の定義…ICOMの定義、博物館法の定義を中心に考えていく。
- 3) 博物館の始原…博物館の始原をたずねてみる。
- 4) 博物館の萌芽…ルネサンス期からの博物館的な施設の形を探る。
- 5) 近代博物館の出発I…王権の誇示としての財宝の展示から考える。
- 6) 近代博物館の出発II…市民への公開がなされていく過程を考える。
- 7) ヨーロッパの博物館…主要な博物館を例にとり、近世からの特徴をまとめると。
- 8) アメリカの博物館、アジアの博物館…合衆国独立から現代までと、アジアの博物館の特徴をみる。
- 9) 日本の博物館…日本の博物館の歴史を概観する。
 - ・幕末から明治期にかけての博物館の出発
 - ・国威の宣揚と博物館
 - ・通俗教育による教化と博物館
 - ・十五年戦争と博物館
- 10) 博物館法の概要
- 11) 博物館の新しい動き
 - ・企業博物館、エコ・ミュージアム、テーマ・パークなど
 - ・最近の博物館組織

【評価方法】

- ・数回にわたるテストとレポートの提出で評価する。
- ・出席率も重要な評価対象である。

【テキスト】

新訂博物館学概説（長谷川銕治原著、柴垣勇夫補訂）

【参考文献・資料】

必要に応じてプリントを配布する。

博物館概論

早川正一

【授業の概要】

「博物館概論」とは、愛知淑徳大学が文部省（現在の文科省）の認可のもとに、学芸員と呼ぶ博物館や美術館に不可欠な専門職員になるため、基礎知識をカリキュラムを通じて取得させる基幹の学科目である。したがって、この養成課程の当初に受講させるので真剣に取り組みないと脱落しかねない。充分な心構えが肝要である。

次のような単元のもとに講義を展開してゆく予定である。

【授業の目標】

この科目は、後期におこなう「博物館学各論I」と共に、所定の必修科目の一つである。必修の理由は、卒業を条件として学芸員の資格が与えられる基幹の学科目のため、この講義内容を習得させることが目標となる。

【授業計画】

博物館や美術館の基本概念と必要性
専門職員としての「学芸員」とは何か
博物館と美術館の発達とその時代背景
博物館と呼ぶ施設の機能と多様性
博物館の分類と現代性
博物館の日常的な組織と運営の局面への学芸員のかかわり方、そして館外活動への配慮
博物館の相互協力と情報の活用
毎時間、入念にノートさせる。コピーは許さない。
無用な欠席は不合格につながるので、注意されたい。
長谷川銕治『博物館学論考』（1995）をはじめ、大学図書館に所蔵の関連文献を通読しておくこと。

【評価方法】

学期末の筆記試験をはじめ、毎時間の出席状況、受講態度などで総合評価する。資格認定のため厳格である。

【テキスト】

テキストを購入させない。毎時間のノートの一学期分がテキストの代用となる。

【参考文献・資料】

本学図書館が所蔵する060～069.9までの基礎図書に目を通しておくことをすすめる。

博物館学各論 I

柴垣勇夫

【授業の概要】

博物館の現状を分析し、その将来を考えるとともに、文化財の保護についても学習する。

【授業の目標】

学芸員資格にかかる基礎的事項を学習する。

【授業計画】

- 1) 博物館の機能…生涯学習施設と定義されていることを考える。
- 2) 博物館の分類…分類を通して、博物館の役割やあり方を考えていく。
- 3) 博物館の組織…公立博物館を例にとり、典型的な組織をみていく。
- 4) 博物館の運営…公立博物館を例にとり、運営の実際を知る。
- 5) 学芸員の倫理…学芸員の実態などに焦点をあて、「学芸員」はいかにあるべきかを考える。
- 6) 予算など…博物館のマネジメントについて考える。
- 7) 博物館の施設・設備…市民参加の視点から、あるべき施設・設備について考えてみる。
- 8) 博物館と情報その1…情報化社会の発展、情報技術の進歩と博物館のあり方を探っていく。
- 9) 博物館と情報その2…博物館での情報提供のあり方を探る。
- 10) 博物館と情報その3…博物館と大学・研究機関などとの連携についても考える。
- 11) 文化財の保護…わが国の文化財保護の現状と問題点について考察し、博物館との関係を考える。

【評価方法】

- ・数回にわたるテストとレポートの提出で評価する。
- ・出席率は重要な評価対象である。

【テキスト】

新訂博物館学概説（長谷川銕治原著、柴垣勇夫補訂）

【参考文献・資料】

必要に応じてプリントを配布する。

博物館学各論 I

早川正一

【授業の概要】

愛知淑徳大学の学芸員課程委員会が計画したカリキュラムに準拠し、前段階の「博物館概論」を修得した学生に受講させる。したがって、この講義も基幹をなす学科目であるから、年次計画を考慮し、真面目に受講しないと、資格取得につながらないので、注意が肝要である。

【授業の目標】

この科目は、前期に実施する「博物館概論」と共に、所定の必修科目の一つであって、必修とした最大の理由は、卒業を条件に学芸員の資格が与えられる。したがって、授業計画による講義内容を受講生に修得させることが目標となる。

【授業計画】

次の単元を土台として講義を展開する予定である。
博物館や美術館の展示と陳列構造
博物館がとり扱う資料の収集と保存
博物館と所属する学芸員のおこなう調査と研究
博物館や美術館のおこなう普及活動と教育
文化財の種類と保護にかかわる諸問題
生涯学習の必要性和博物館の関連事業
毎時間、入念にノートさせる。コピーは許さない。
無用な欠席は不合格につながるので、注意してほしい。
博物館学論考（長谷川銕治 1995）をはじめ、大学図書館に所蔵の関連文献を通読しておくこと。

【評価方法】

本学の学長の名において資格を認定する以上、定期試験を厳格に実施し、出席状況や受講態度を含めて総合評価する。

【テキスト】

毎時間のノートの一学期分がテキストの代用となるので、テキストを購入させない。

【参考文献・資料】

本学図書館が所蔵する060～069.9までの基礎図書に目を通しておくことをすすめる。

博物館学各論 II

柴垣勇夫

【授業の概要】

博物館資料とは何か、資料の取扱い方を学習する。また、博物館における調査・研究についても考える。

【授業の目標】

学芸員として必要な基本的事項を実践をとおして学習する。

【授業計画】

- 1) 「物」が博物館資料として位置づけられることを考える。
- 2) 博物館資料の実際について具体的に学ぶ。
 - a 資料の収集
 - b 資料の取扱い
 - ・ 保存箱の種類と取扱い
 - ・ 掛軸の扱いと掛け方
 - ・ 古文書 ・和装本の取扱い
 - ・ やきもの ・茶碗の取扱い
 - ・ 瓦のみかたと取扱い、拓本の取り方
 - ・ 刀、太刀のみかたと取扱い
 - c 資料の整理・保存
 - d 資料の保全
- 3) 資料情報の管理について、その実際を探る。
- 4) 博物館における調査と研究、成果の公表について考える。

【評価方法】

- ・ 数回にわたるテストとレポートの提出で評価する。
- ・ 出席率も重要な評価対象である。

【テキスト】

新訂博物館学概説（長谷川銑治原著 柴垣勇夫補訂）

【参考文献・資料】

必要に応じてプリントを配布する。

博物館学各論 II

瀬川貴文

【授業の概要】

博物館は「もの（物）」「ひと（人）」「ば（場）」の3つの要素で構成される。この授業では、そのうちの「もの」＝博物館資料に焦点をあて、博物館活動の中での役割を考える。

【授業の目標】

博物館資料の定義、収集、整理分類、保管保存、調査研究そして実際の取扱い方について、基礎的な知識を学び、技術を習得することを目標とする。

【授業計画】

履修学生が、手を動かし、自分で考える「実技」の時間をできるだけ多くとる。

- (a) 博物館と博物館資料
- (b) 資料を記録する技術
拓本・実測・写真など。
- (c) 資料を扱う技術
掛け軸・卷子・和本・陶磁器・考古資料など。
- (d) 資料を保管・保存する技術
ドキュメンテーション・保存科学など。
- (e) 博物館と調査・研究

【評価方法】

実技を行うため、出席および授業に臨む姿勢を重視する。あわせて、レポートなどの課題、(時間内の)小テストの結果も勘案する。

【テキスト】

随時プリントを配布し、参考文献・論文などを紹介する。

【参考文献・資料】

随時プリントを配布し、参考文献・論文などを紹介する。

博物館学各論 II

赤羽一郎

【授業の概要】

博物館の活動の基軸は「資料」にあり、それを収集し、正しく保存し、かつ有効に活用することが博物館には求められる。本講座では、資料の収集・取扱い・整理・保存・活用について、具体的事例や実習を取り入れながら学んでいく。

【授業の目標】

博物館における「資料」の存在意味を学び、その基礎的な取扱いと活用について実習を通して修得することを目標とする。

【授業計画】

1. 博物館資料とは……「博物館資料」とは、何を指すか、理念およびその具体的な種類を知る。
2. 資料収集……資料の収集に際しての、収集方針の重要性、収集方法の事例を学ぶ。
3. 資料の取扱い……基本資料の取扱いを実習し、習得するとともに、その構造を知り展示方法等も学ぶ。
陶磁器、考古資料、軸装、額装、刀剣その他で実習する。
4. 資料整理……資料の整理について、分類方法やその整理登録方法を考え、資料カードの作成を実習する。
5. 資料情報……整理された資料の情報、二次的資料の情報の管理運営について考える。
6. 資料保管……資料の保管に関しての、保存条件や方法、問題点などを学ぶ。
7. 資料活用……資料を活用した調査研究活動の実際とその意義を知る。
また、4年次の「博物館実習」に備えた情報や、館務実習の準備について説明する。

【評価方法】

受講態度及びレポートで評価する。

【テキスト】

『新訂博物館学概説』（長谷川銑治・著 戸谷印刷）
必要に応じてプリントを配布し、ビデオ等も利用する。

博物館実習

柴垣勇夫

【授業の概要】

展示演習、内外の博物館見学、館務実習などを通して、実践的に学習する。

【授業の目標】

学芸員の基本的な役割について、種々の実践をとおして考察するとともに学芸員資格取得のためのまとめをする。

【授業計画】

- 1 展示についての学問的側面、実際の運用などをみていく。
 - 1) 展示とは
 - 2) 展示のポイント
・ 動線 ・視線 ・照明 ・温度 ・湿度
 - 3) 展示の施設、設備
 - 4) 展示のプロセス
 - 5) 展示方法の実践例
 - 6) 展示と保全
- 2 生涯学習が重要な課題である現代社会にあって、博物館が果たす役割を考える。
- 3 学外に出て現場の実務に接し理解を深める。
 - 1) 博物館見学……土・日曜日に展覧会や施設の見学に出かける（全員）。
 - 2) 館務実習……夏休み中に各博物館に依頼して館務実習を行う。
 - 3) 海外実習……夏休み中に希望者と海外の博物館に出かけ学習する。
 - 4) 県外実習……2)、3)に参加できない者は、9月に県外へ見学に出かける。

【評価方法】

- ・ 演習はもちろん、学外での研修、実習にはかならず参加し、それぞれレポートを提出。評価の対象とする。
- ・ その都度、提出させるレポートを中心に実習態度なども勘案して評価する。

【テキスト】

新訂博物館学概説（長谷川銑治著）

【参考文献・資料】

必要に応じてプリントを配布する。

博物館実習

赤羽一郎

【授業の概要】

展示についての理論・方法論を提示し、また博物館・美術館見学、博物館実習を通して、学芸員に求められる業務を多様な面から学習する。

【授業の目標】

学芸員資格を取得するにあたって、展示演習・博物館見学・博物館実習を通して、展示についての基礎的な理論と方法を修得することを目標とする。

【授業計画】

1. 展示の意義……博物館等における展示の意義、役割について学ぶ。
2. 展示の条件……展示空間の諸条件について、資料保全と展示効果の両面から学ぶ。
3. 展示のプロセス……展示立案から終了までの流れを実践的に学ぶ。
4. 学外に出て現場の実務に接し、学芸員業務を具体的に学ぶ。
 - 1) 博物館見学……土・日曜日に展覧会や施設の見学に出かける。
 - 2) 館務実習……夏休み中に各博物館に依頼して館務実習を行う。
 - 3) 海外実習……夏休み中に希望者と海外の博物館に出かけ学習する。
 - 4) 県外実習……2)、3)に参加できない者は、9月に県外へ見学に出かける。

【評価方法】

授業および学外での研修等の出席状況、受講態度及びレポート成績によって評価する。

【テキスト】

『新訂博物館学概論』（長谷川銚治・著 戸谷印刷）

【参考文献・資料】

必要に応じてプリントを配布し、ビデオ等も利用する。

生涯学習概論

角 紘昭

【授業の概要】

現代の社会では、一人ひとりが人として主体的に生きてゆくため、広く社会において学び続けてゆくことが求められている。そのための生涯学習の歴史、意義、実践について具体的な事例を基に考察をする。

【授業の目標】

明治以降の我が国の社会情勢と生涯学習（社会教育）のあゆみを概観し、生涯学習全般について理解すると共に、将来あるべき生涯学習社会の姿を考える。

【授業計画】

- 1 はじめに
 - 導入としての概観（単元の構成内容）
 - 受講上の注意
- 2 社会教育のはじまり
 - 通俗教育から社会教育
- 3・4 社会教育の展開
 - 戦後の社会教育
 - 施設とその展開
- 5 生涯学習の登場
 - 社会教育から生涯教育・生涯学習
- 6 欧米における生涯学習
- 7 生涯学習の構成
 - 行政などの組織
- 8・9・10 生涯学習の展開
 - ① 人権教育
 - ② 学社融合
 - ③ スポーツ振興
 - ④ 高齢者福祉
- 11 今後の課題
 - 規制緩和の進み中で
- 12 まとめ

【評価方法】

主に期末試験（筆記）により評価するが、開講中にレポートを課した場合はこれを加味する。

【テキスト】

テキストは使用しない。

【参考文献・資料】

授業中に参考文献を適宜紹介する。

博物館実習

武藤 真

【授業の概要】

「展示」は、博物館と利用者とは結ぶインターフェイスであり、博物館の「顔」といえる。この授業では、「展示」に関わる知識・技術を学び、各種博物館の見学を通じて、その実践例を見る。

【授業の目標】

実技を行うことによって、「展示」に関わる知識・技術、とくに展示デザインの基礎を身につけることを目標とする。

【授業計画】

- I 「展示」を実施する際の各場面を疑似体験できるよう、「実技」の時間を多くとる。また、ビデオなど視聴覚教材を用いて、具体的なイメージでとらえられるようにする。
 - (a) 展示とは
 - (b) 展示のプロセス
 - (c) 展示の構成要素
 - (d) 展示と資料保全
 - (e) 着想から実施まで
 - (f) 解説の方法と印刷物
 - (g) 展示とその周辺
 - (h) まとめ
- II 学外に出て現場の実務に接し理解を深める。
 - 1) 博物館見学……土・日曜日に展覧会や施設の見学に出かける。
 - 2) 館務実習……夏休み中に各博物館に依頼して館務実習を行う。
 - 3) 海外実習……夏休み中に希望者と海外の博物館に出かけ学習する。
 - 4) 県外実習……2) 3)に参加できない者は、9月に県外へ見学に出かける。

【評価方法】

実技を行うので出席状況を重視する。あわせて、レポートと課題の提出などにより評価する。

【テキスト】

授業中に適宜指示する。

【参考文献・資料】

授業の進行状況に応じ、文献・論文などを指示する。

視聴覚教育メディア論

藤井 信

【授業の概要】

情報・視聴覚機器の持つ機能、メディアリテラシー、宗教と視聴覚との関連の観点から、情報教育のあり方、更には、学芸員としての博物館・美術館等における視聴覚的展示や補助資料に関することを論じていきたい。

【授業の目標】

視聴覚教育の意義・役割と、情報の送り手と受け手の立場からメディアリテラシーを理解する。展示・解説等における視聴覚・情報メディアの活用を追求する。

【授業計画】

- 1 視聴覚教育の目標
 - 1-1 視聴覚教育の意義
 - 1-2 視聴覚教育の機能
 - 1-3 視聴覚教育の役割と特性
- 2 情報の活用とリテラシー
 - 2-1 情報とメディア
 - 2-2 情報の記録と保存
 - 2-3 情報活用能力の育成
 - 2-4 プレゼンテーションの意義と機能
 - 2-5 情報モラルとセキュリティ
- 3 宗教における視聴覚の役割
 - 3-1 宗教における荘厳
 - 3-2 宗教における音声
 - 3-3 宗教における絵画・彫刻
- 4 博物館・美術館におけるプレゼンテーション
 - 4-1 展示の機能と効果
 - 4-2 学芸員の職務・役割
 - 4-3 視聴覚資料の鑑賞

【評価方法】

毎時の小レポート、指示するレポートおよび期末テストで評価する

【テキスト】

メディア社会（佐藤卓己著、岩波新書）

【参考文献・資料】

メディア・リテラシー（菅谷明子著、岩波新書）
 視聴覚メディアと教育方法（井上智義編、北大路書房）

教育学概論

植村広美

【授業の概要】

教育学の基本的な知識や概念の習得とそれに基づく具体的な諸問題について考察を進めていくことにする。とりわけ、人間の社会生活と教育との関連に力点をおいて、本来の教育の意義や望ましい教育の作用を明らかにするように努めていく。その際、より理解が深まるよう具体的な事例を題材として取り上げていく。

【授業の目標】

学問としての教育学の性格、歴史、現代的な課題についていろいろな視点から理解すること。(詳細は授業にて解説する。)

【授業計画】

1. 序
2. 教育学の概念
3. 教育学の歴史
 - (1) 外国
 - (2) 日本
4. 教育学の課題
5. 学校と教育
6. 社会と教育
7. 家庭と教育
8. 現代と教育
9. 総括

【評価方法】

出席、レポート、筆記試験により評価する。

【テキスト】

テキストは使用しない。

【参考文献・資料】

授業中に適宜紹介する。

美術史

高橋秀治

【授業の概要】

美術の歴史をつくってきた美術家たちはその生きた時代の動きと無関係に作品を生み出したのではなく、常にその背景と共にあります。美術が社会を映す鏡という視点に立ち、19世紀末から今日に至る西洋近現代美術のありさまを社会的、文化的あるいは思想や、政治、人々の生活などの背景と結びつけながら理解していきます。

【授業の目標】

美術作品を鑑賞するときに、単に表現上の技法や構成などを分析的に理解するにとどまらず、作品の生れた時代的、社会的あるいは文化的背景まで含めた幅広い視野の必要性を理解できるようになることを目標とする。

【授業計画】

- | | | | |
|------|----------------|-------|------------|
| 1～4 | 印象派からシュルレアリスムへ | 5～8 | 激動の時代と美術 |
| | ・産業革命と芸術 | | ・第一次世界大戦 |
| | ・写真と絵画 | | ・反芸術 |
| | ・時間表現 | | ・第二次世界大戦 |
| | ・心理学 | | ・工業社会 |
| 9～12 | アメリカ美術の時代 | 13～15 | ニューメディアと美術 |
| | ・巨大絵画 | | ・ニューメディア |
| | ・アメリカン・ドリーム | | ・身体表現 |
| | ・文明の廃棄物 | | |
| | ・エコロジー | | |

【評価方法】

出欠を確認し、評価に反映させる。ワークシートや感想・質問などを記すフィードバックシートなどを適宜配布、回収して出欠の確認に代えるとともに内容を評価する。また、授業で自分の考えを表明したり質問をする姿勢もあわせて評価する。

【テキスト】

とくになし

【参考文献・資料】

必要により授業内で紹介する。

民俗学

谷沢 明

【授業の概要】

なにげなくくりかえしている日々の暮らしの中に、古い生活の投影がある。現代人の物の見方、考え方の中にも、伝統的な生活文化が反映している。民俗学においては、日本人はいかなる文化をつくりあげて今日にいたったかを、民衆の立場にたち、民衆の生活の中から、社会・経済・儀礼・信仰などの伝承をとおして具体的にみつめていきたい。また、古いものが今日の暮らしの中にどのように残存しているか、新しく変わった部分はどこで、何が新しくさせていく力になったかも考えてみたい。

【授業の目標】

日本民俗学の基礎を幅広く学び、民俗学的な物の見方を身につけることを目標とする。

【授業計画】

1. 民俗学を学ぶ～目的・領域・方法論～
2. 稲作と日本文化～伝統的文化のとらえかた～
3. 農耕儀礼～田遊びを中心に～
4. 年中行事～正月行事を中心に～
5. 年中行事～盆行事を中心に～
6. 人生儀礼～人生の折り返しにあたって～
7. 暮らしの中の習俗～海に生きる人々～
8. 暮らしの中の習俗～山に生きる人々～
9. 庶民信仰を探る～絵馬に託された願い～
10. 庶民信仰を探る～庚申信仰～
11. 日本民俗学のあゆみ～柳田國男の役割～
12. 日本民俗学のあゆみ～宮本常一のまなざし～

【評価方法】

中間レポート及び授業内小テスト・試験による。

【テキスト】

フィールドワークで探る民俗と生活文化

【参考文献・資料】

授業で必要に応じて紹介します。

文化史

秋元悦子

【授業の概要】

本講座は、歴史・文化が地理的背景とどのように関係してきたか、日本文化に大きな影響を与えた中国を例にさまざまな角度から検討するものである。授業では、古典文献・地形図・考古学などの情報を利用して文化的特質を考察してゆく。

教材としてプリントを配布し、視覚資料(DVD・OHC・地図ソフトなど)を多用し、地域と歴史の様相をより具体的に示していきたい。

【授業の目標】

ある地域の「文化」を知ろうとするときに、どのような手段・方法があるかを学ぶことが目標である。

本講座では、地理的状況や歴史思想、考古学的な状況を知ることにより、様々な視点から物事を解説することができるようになることを目標としている。

同時に、古代日本・中国の史資料に関する基礎的知識も養っていきたい。

【授業計画】

1. 履修に関するガイダンス・オリエンテーション
2. 中国と日本の自然地理を知る
標高・気温・降水量の分析から
3. 中国人の地域概念と日本への影響
『禹貢』の世界から現代の地理意識まで
漢籍と日本の風土記
4. 『禹貢』時期の考古学
夏殷周三代の歴史とその遺跡
5. ユーラシア大陸の歴史と中国
四大文明から近代までのユーラシア史
中国の首都変遷から見えるもの
6. 気候変動と歴史
王朝交代と気候変動の関係
7. まとめ

【評価方法】

おもに期末試験(筆記)により評価する。期中にレポートを提出させた場合は、これを成績評価に反映させる。

【テキスト】

なし。授業中に配布するプリントを使用。

【参考文献・資料】

世界の歴史と文化 中国(陳舜臣・尾崎秀樹監修 新潮社)
長安の都市計画(妹尾達彦著 講談社選書メチエ)
また、授業中に各種文献を紹介する。

生涯学習概論

角 紘昭

【授業の概要】

現代の社会では、一人ひとりが人として主体的に生きてゆくため、広く社会において学び続けてゆくことが求められている。そのための生涯学習の歴史、意義、実践について具体的な事例を基に考察をする。

【授業の目標】

明治以降の我が国の社会情勢と生涯学習（社会教育）のあゆみを概観し、生涯学習全般について理解すると共に、将来あるべき生涯学習社会の姿を考える。

【授業計画】

- 1 はじめに
導入としての概観（単元の構成内容）
受講上の注意
- 2 社会教育のはじまり
通俗教育から社会教育
- 3・4 社会教育の展開
戦後の社会教育
施設とその展開
- 5 生涯学習の登場
社会教育から生涯教育・生涯学習
- 6 欧米における生涯学習
- 7 生涯学習の構成
行政などの組織
- 8・9・10 生涯学習の展開
①人権教育
②学社融合
③スポーツ振興
④高齢者福祉
- 11 今後の課題
規制緩和の進む中で
- 12 まとめ

【評価方法】

主に期末試験（筆記）により評価するが、開講中にレポートを課した場合はこれを加味する。

【テキスト】

テキストは使用しない。

【参考文献・資料】

授業中に参考文献を適宜紹介する。

図書館情報学概論 I

村主朋英

【授業の概要】

この科目は、図書館情報学に関する学習の基礎固めのためのものである。Iでは、図書館情報学における基本的な考え方および分野の特徴について概説する。

【授業の目標】

用語辞典を参照しながら、図書館と情報にかかわる多様な用語をできるだけ多く習得すること。それに加えて、情報伝達にはさまざまな因子が関与すること、そして情報に関して多様な考え方やアプローチが併存していることを理解してほしい。

【授業計画】

1. 情報と知識の研究と実務に関わる分野
図書館学/情報学/図書館情報学
図書館情報学を学ぶための情報源
2. 情報の概念
情報概念の歴史：定義の多様性と現象の多面性
情報の構造的な理解：認知と心/人間・人・ヒト
3. 情報検索：人間と情報の相互作用

【評価方法】

定期試験

注1)「図書館情報学概論I」の単位を修得済でない学生については、「同II」の履修を認めない。

注2)「図書館情報学概論I」の最終日に夏休みレポート課題を提示する。採点は「同II」の成績に組み込む。今年度「同II」のみ履修予定の学生は、7月初旬までに問い合わせること。

【テキスト】

図書館情報学用語辞典 第2版（丸善）

【参考文献・資料】

図書館・情報学概論 第2版（勁草書房）
情報学の理論と実際（勁草書房）
図書館情報学ハンドブック 第2版（丸善）
※その他、授業で紹介する。

図書館情報学概論 I

廣田慈子

【授業の概要】

この科目は、図書館情報学に関する学習の基礎固めのためのものである。Iでは、図書館情報学における基本的な考え方および分野の特徴について概説する。

【授業の目標】

まず、用語辞典を参照しながら、図書館と情報にかかわる多様な用語をできるだけ多く習得すること。それが第一である。それに加えて、「情報」も、「図書館情報学」という学術分野それ自体も、簡単には理解できない難物であるということも体感してほしい。そして、情報伝達にはさまざまな因子が関与することを理解し、情報に関して多様な考え方やアプローチが併存していることを理解してほしい。

【授業計画】

1. 情報と知識の研究と実務に関わる分野
図書館学/情報学/図書館情報学
図書館情報学を学ぶための情報源/指定図書
2. 情報の概念
概念・考え方・観点・立場
定義の多様性と現象の多面性
情報概念の歴史/情報・知識・データ
定義の整理のための枠組み/構造的な理解
認識・認知・こころ/人間・人・ヒト
3. 情報検索の過程

【評価方法】

平常点、レポート、試験によって評価する。

【テキスト】

図書館情報学用語辞典（丸善 3,800円税別定価）および配布資料

【参考文献・資料】

適宜、講義内で紹介する。

図書館情報学概論 II

村主朋英

【授業の概要】

この科目は、図書館情報学に関する学習の基礎固めのためのものである。IIでは、図書館・情報サービスの実際に関して、最低限知っておくべき事項を紹介し、今後の学習への指針を提供する。

【授業の目標】

用語辞典を参照しながら、図書館と情報にかかわる多様な用語をできるだけ多く習得すること。それに加えて、情報伝達にはさまざまな因子が関与すること、そして情報に関して多様な考え方やアプローチが併存していることを理解してほしい。

【授業計画】

1. 情報システムとしての図書館
2. 館種ごとのサービスとその文脈
国立図書館/公共図書館/大学図書館/学校図書館/専門図書館
3. 情報専門職の世界
4. 図書館情報学の未来

【評価方法】

定期試験と夏休みレポート

注1)「図書館情報学概論I」の単位を修得済でない学生については、「同II」の履修を認めない。

注2)「図書館情報学概論I」の最終日に夏休みレポート課題を提示する。採点は「同II」の成績に組み込む。今年度「同II」のみ履修予定の学生は、7月初旬までに問い合わせること。

【テキスト】

図書館情報学用語辞典 第3版・第2版（丸善）

【参考文献・資料】

図書館情報学ハンドブック 第2版（丸善）
図書館ハンドブック 第6版（日本図書館協会）

図書館情報学概論 II

廣田慈子

【授業の概要】

古来より人類の知識と経験を記録物として収集、保管し、現在と将来にわたって提供する情報機関としての図書館の姿を概説し、図書館についての基礎を学ぶ。

地域、社会環境、技術の進展、多様な人々の利用要求などに応じて発展してきた、図書館の機能と構造、意義、種類と構成要素などを歴史的展開や法・社会環境の変化などを踏まえて全体像を把握する。

【授業の目標】

情報サービス機関としての図書館の全体像を把握し、図書館の多様性や社会的意義など、包括的に図書館を理解すること。

【授業計画】

1. 社会における図書館
 - ・情報サービス機関としての図書館
 - ・情報の流通と図書館
2. 図書館の意義と役割
 - ・図書館の機能（サービス）
 - ・法的基盤からみた図書館
3. 図書館の構成要素
 - ・図書館という組織／図書館員／利用者／図書館
4. 図書館の種類と機能
 - ・国立図書館／公共図書館／大学図書館／専門図書館／学校図書館
5. 情報ネットワークの中の図書館
6. 図書館を取り巻く諸問題
 - ・情報環境の変化／図書館の運営 等

【評価方法】

平常点、小課題、レポート試験等による総合評価。

【テキスト】

図書館情報学用語辞典 第3版（丸善）
その他、適宜資料を配付する。

【参考文献・資料】

図書館学基礎資料 第7版（今まど子編 樹村房）
図書館情報学ハンドブック 第2版（丸善）
その他、適宜講義内で紹介する。

図書館経営論

雨森弘行

【授業の概要】

図書館の技術的な面－分類・目録等－資料組織とは別に図書館運営上の諸問題－司書の専門職制の問題、図書館の地域サービスと図書館網計画、図書館の経営評価と見直し等、を図書館経営論として論述する。

【授業の目標】

図書館に対する社会の要請や期待に対して、図書館がどのように応えるべきか、また応え得るのかについて、図書館の存在意義についての基本的な考え方を身につけるとともに、図書館の組織機構・管理運営・計画策定等、経営の全般に亘って、実際例を参考にしながら理解を深める。

【授業計画】

1. 開講に当たって（受講の動機、目的、目標の確認）
2. 図書館経営の意義
3. 自治体行政と図書館
4. 図書館業務の理論と実際
5. 図書館の組織
6. 図書館の職員
7. 図書館の計画とマーケティング
8. 図書館の施設整備計画
9. 図書館ネットワークの形成
10. 図書館業務・サービスの評価
11. まとめ

【評価方法】

出席点、小レポート、最終レポートにより総合評価する。

【テキスト】

改訂「図書館経営論」（最新刊）（高山正也他編著 樹村房）

【参考文献・資料】

授業中に適宜紹介する。

図書館経営論

小木曾眞

【授業の概要】

図書館の技術的な面－分類・目録等－資料組織とは別に図書館運営上の諸問題－司書の専門職制の問題、図書館の地域サービスと図書館網計画、図書館の経営評価と見直し等、を図書館経営論として論述する。

【授業の目標】

図書館経営にかかわる組織・管理運営・各種計画について、事例を紹介しながら理解を深める。
最近の経営環境の変化に合わせて、新しい考え方をできる限り紹介する。

【授業計画】

1. 講義の進め方／図書館運営の実際・最近の事情・レポート①出題
2. 図書館の経営論の意義・あり方
3. 自治体行政と図書館
関係法規、予算、議会との関係等
4. 図書館業務の理論と実際
「図書館学の五法則」「カウンター業務の重要性」等
5. 図書館の組織
「アウトソーシング」等
6. 図書館の職員（レポート①提出）
「館長論」「専門的職員」「図書館の自由」等
7. 図書館の計画とマーケティング（身近な事例のレポート②出題）
「図書館開設計画」「ファンドレイジング」等
8. 図書館の施設整備計画
「スペース計画」「安全・快適・デザイン」等
9. 図書館ネットワークの形成
「図書館相互協力」「インターネットの利用」等
10. 図書館業務・サービスの評価（レポート②提出）
「パフォーマンス指標」「アンケート調査」等
11. まとめ
※講義の中でレポート提出を指示します。2回

【評価方法】

期末テスト実施－記述式。出席点、レポート、記述試験の総合評価。

【テキスト】

改訂図書館経営論（高山正也編著 樹村房）
補充レジュメ（講義の都度配布）

【参考文献・資料】

図書館経営論（柳 与志夫著 学文社 2007）
公立図書館の経営[補訂版]（大澤正雄著 日本図書館協会 2005）
図書館経営論[改訂版]（宮沢厚雄著 勉誠出版 2006）
図書館関係新聞記事等を適宜紹介する

情報サービス基礎論 I

廣田慈子

【授業の概要】

情報通信技術（ICT）の急速かつ世界規模での展開を背景として、社会における人と情報との関わりは激変している。「情報サービス基礎論 I」では、情報を扱う産業も多様化・高度専門化する中で、旧来からの情報提供機関である「図書館」のサービスについて、社会の変化に対応する先進事例や今日直面する諸問題について概観する。

【授業の目標】

情報サービス機関として図書館が直面する諸問題について理解し、現代の社会環境、特に情報化・電子化が進む社会環境の中で、図書館に求められ、図書館が提供すべき情報サービスの内容と多様性に対する知識と理解を深め、図書館および図書館員の可能性について考える。

【授業計画】

1. 現代の情報化社会における図書館の役割
2. ICT（情報通信）環境と図書館環境の変化
3. 図書館における情報サービスの意義
4. 図書館種別の情報サービスの概要
5. 現代の図書館情報サービスの目標と先進事例
6. 現代社会と図書館情報サービスの諸問題

上記内容について、講義を中心に行います。
適宜、小課題やレポート等を課します。

【評価方法】

講義内での小課題等（30%）、および期末レポート（70%）の総合評価

【テキスト】

適宜、プリント配付資料を用いる。

【参考文献・資料】

『これからの図書館像－地域を支える情報拠点をめざして－』（「これからの図書館の在り方検討協力者会議」報告書）文部科学省2008年3月
その他、講義内で適宜紹介します。

情報サービス基礎論 II

伊藤真理

【授業の概要】

図書館で行われる情報サービスは、その対象、館種、主題、規模ごとに多様な特徴を持つ。さらに今日では、伝統的な図書館サービスに加え、情報通信技術の普及発展に伴う新たな対応を迫られている。パブリック・サービス、テクニカル・サービス、評価の観点から、館種ごとに概観し、比較・検討する。

【授業の目標】

現在の社会での情報のあり方を視野に入れながら、情報の選択、収集、蓄積と提供について、図書館サービスの観点から理解を深める。

【授業計画】

- パブリック・サービス
 - 貸出閲覧
 - レファレンスサービス
 - 相互協力
- テクニカル・サービス
 - 選書・収書
 - 整理
 - 雑誌その他の媒体
- 評価の観点から見た情報サービス
 - 蔵書
 - 人的サービス
 - 図書館アメニティ
 - コンソーシアム
 - その他のサービス

【評価方法】

平常点、小テスト、レポート、期末試験による総合評価。

【テキスト】

適宜プリントを配布。

【参考文献・資料】

変わりゆく大学図書館（逸村裕・竹内比呂也編著 勁草書房 2005）
 図書館情報学用語辞典 第2版（丸善 2002）
 そのほか、適宜授業内で紹介する。

情報サービス基礎論 II

廣田慈子

【授業の概要】

「情報サービス基礎論I」の履修を前提とする。
 あなたが図書館員であると仮定し、図書館の現場で利用者からの期待に応えるさまざまな業務と施設を計画立案し、実施、評価するケーススタディなどを交え、より具体的に図書館サービスについての理解を深めることを目的とする。

【授業の目標】

今日の社会において図書館に求められる「情報サービス」の意義と役割、歴史的展開を理解した上で、現況の情報サービスの内容とその必要性、および新しい社会環境・技術環境に対応した情報サービスの内容とその必要性について、理解を深める。

【授業計画】

- 図書館における「情報サービス」（基礎論Iの復習）
- 情報サービスの歴史と展開
 - 図書館における伝統的な情報サービスの歴史と内容の変遷
- 図書館情報サービスの種類：パブリックサービス
 - 貸出閲覧／レファレンスサービス／等
- 図書館情報サービスの種類：テクニカルサービス
 - 資料組織化／蔵書構築／等
- 現代社会における図書館サービスの変化
 - 情報通信技術（ICT）環境変化に対応した新・情報サービス
- 社会環境の変化と図書館サービスの変化
 - 法的環境の変化（著作権等）に対応した情報サービスの展開
- 求められる「図書館の情報サービス」
 上記内容について、講義を中心にを行います。
 適宜、小課題やレポート等を課します。

【評価方法】

講義内での小課題等（30%）、および期末試験レポート（70%）の総合評価

【テキスト】

適宜、配布資料（レジュメ等）を用いる。

【参考文献・資料】

図書館情報学用語辞典 第3版（同編集委員会編 丸善）
 その他、授業中に適宜紹介する。

レファレンスサービス論

千代由利

【授業の概要】

図書館における情報サービスの中核を成してきたレファレンスサービスに関して、レファレンスコレクションの構築、レファレンス質問からその回答にいたる一連のレファレンスプロセス、サービス組織のあり方、等について理解を深めることを主な目的として講義を進める。この科目は、「情報検索演習III（情報と文献の探索）」と相互に補完するものとして扱う。

【授業の目標】

図書館サービスにおけるレファレンスサービスの意義および重要性について、これまでの展開および新しい情報環境下における展開について理解し、演習等をとおして実践する。

【授業計画】

- 授業のガイダンス
- 図書館における情報サービス
- レファレンスサービスの歴史と展開
- 図書館におけるレファレンスサービス
- 情報源とレファレンスコレクション
- レファレンス質問とレファレンスプロセス
- 質問の受付と内容の確認
- 探索戦略と質問の分析
- 探索の手順と情報（源）の入手
- 回答の提供と事後処理
- レファレンスブックの探索

【評価方法】

出席状況、演習レポート、試験等により評価する。

【テキスト】

『新版 問題解決のためのレファレンスサービス』（長澤雅男 石黒祐子著 日本図書館協会 2007.4）

【参考文献・資料】

『情報源としてのレファレンスブックス（新版）』（長澤雅男、石黒祐子著 日本図書館協会）
 『レファレンスサービス 図書館における情報サービス』（長澤雅男著 丸善）

情報検索演習 II（学術情報の探索）

伊藤真理

【授業の概要】

学術論文を対象として、オンライン情報検索システムの活用に必要な知識と技術を習得することを目的とする。テーマ検索の実習に基づき、検索過程の把握や検索ツールの利用、および検索結果に対する評価について理解する。
 LAN講習会を必ず受講すること。

【授業の目標】

情報検索における基礎的な専門知識を理解すること。
 実際の検索過程で、さまざまな情報検索の知識や技術を活用する能力を修得すること。

【授業計画】

- 情報検索とは
- 学術情報の検索
 - 学術論文の特徴
 - 抄録・索引誌
- CD-ROM検索
- シソーラス
- 各種オンライン情報検索システム
 - JDream
 - DIALOG
 - CSA
- テーマ検索

【評価方法】

平常点、小テスト、レポート作成の総合評価。

【テキスト】

使用せず（プリント配布）。

情報検索演習 II (学術情報の探索)

廣田慈子

【授業の概要】

学術論文を対象として、オンライン情報検索システムの活用に必要な知識と技術を習得することを目的とする。テーマ検索の実習に基づき、検索過程の把握や検索ツールの利用法、および検索結果に対する評価について理解する。

LAN講習会を必ず受講すること。

【授業の目標】

情報検索における基礎的な専門知識を理解すること。

実際の検索過程で、さまざまな情報検索の知識や技術を活用する能力を修得すること。

【授業計画】

1. 情報検索とは
2. 学術情報の検索
学術論文の特徴
抄録・索引誌
3. CD-ROM検索
4. シソーラス
5. 各種オンライン情報検索システム
JDream
DIALOG
CSA
6. テーマ検索の演習

【評価方法】

平常点、小テスト、レポート作成の総合評価。

【テキスト】

使用せず（プリント配布）。

【参考文献・資料】

適宜、紹介する。

情報検索演習 III (情報と文献の探索)

廣田慈子

【授業の概要】

情報検索演習IIにおける習得内容を基礎とし、より高度な情報検索技術の習得を目標とする。

本科目で扱う情報源は、図書館を中心とした情報提供機関において利用可能なものとし、特にレファレンス業務に必要な情報源探索技能を養うため、検索対象のメディア別に特徴、機能、検索に必要な技術の紹介、実習を伴う課題解決演習を行う。さらにレファレンス質問を事例にして、利用者インタビュー、利用者の情報要求の確認、適切な情報源の選定、検索、回答の評価などの一連の作業について実習する。演習には情報検索室の書誌データベースと本学図書館所蔵の印刷体二次資料を併用する。

【授業の目標】

より高度な情報検索技術を習得し、情報検索の専門家としての技能を獲得する。

【授業計画】

1. 文献探索と情報探索
2. 各種情報源の特徴
 - 2.1 雑誌記事（書誌情報）検索
 - 2.2 雑誌記事横断検索：DIALINDEX複数ファイル横断検索
 - 2.3 シソーラスを利用した検索
 - 2.4 引用関係を利用した検索
 - 2.5 一次資料が入手可能なシステムの検索
 - 2.6 ネットワーク情報資源検索・アクセス
 - 2.7 図書（所蔵/目次情報）検索
 - 2.8 新聞記事（全文記事）検索：各種新聞ファイル
 - 2.9 人物情報検索：人物情報横断検索
3. レファレンス質問を事例とした問題解決プロセス

【評価方法】

出席点、課題点、試験によって評価する。

【テキスト】

使用しない（プリント配布）。

【参考文献・資料】

適宜、紹介する。

情報検索演習 III (情報と文献の探索)

菅野育子

【授業の概要】

情報検索演習I（1年次必修）および情報検索演習II（2年次）を基礎とし、より高度な情報検索技術の習得を目標とする。

本科目で扱う情報源は、図書館を中心とした情報提供機関において利用可能なものとし、特にレファレンス業務に必要な情報源探索技能を養うため、検索対象のメディア別に特徴、機能、検索に必要な技術の紹介、実習を伴う課題解決演習を行う。さらにレファレンス質問を事例にして、利用者インタビュー、利用者の情報要求の確認、適切な情報源の選定、検索、回答の評価などの一連の作業について実習する。演習には情報検索室の書誌データベースと本学図書館所蔵の印刷体二次資料を併用する。

【授業の目標】

情報検索演習I（1年次必修）および情報検索演習II（2年次）を基礎とし、より高度な情報検索技術の習得を目標とする。

【授業計画】

1. 文献探索と情報探索
2. 各種情報源の特徴
 - 2.1 雑誌記事（書誌情報）検索
 - 2.2 雑誌記事横断検索：DIALINDEX複数ファイル横断検索
 - 2.3 シソーラスを利用した検索
 - 2.4 引用関係を利用した検索
 - 2.5 一次資料が入手可能なシステムの検索
 - 2.6 ネットワーク情報資源検索・アクセス
 - 2.7 図書（所蔵/目次情報）検索
 - 2.8 新聞記事（全文記事）検索：各種新聞ファイル
 - 2.9 人物情報検索：人物情報横断検索
3. レファレンス質問を事例とした問題解決プロセス

【評価方法】

出席点、課題点、試験によって評価する。

【テキスト】

使用しない（プリント配布）。

情報メディア基礎論 I

菅野育子

【授業の概要】

情報流通における情報メディアの役割について論じる。各種メディアの生産から流通までを対象に、その過程での問題点について議論し、より効果的な情報流通のための情報メディアのあり方を検討する。

【授業の目標】

多種多様な情報メディアの生産から利用までについて理解すること。

【授業計画】

1. 情報流通と情報メディア
2. 学術情報の流通モデル
3. 情報メディアの特徴と問題点
 - (1) 図書
出版流通過程と制度
オンライン書店、オンデマンド出版
 - (2) 雑誌
学術雑誌の機能、査読制度
雑誌論文の構成
抄録作成法、引用法、
プレプリント、e-print
レター、editorial comment
 - (3) 新聞
新聞の流通制度
新聞記事の構成

[この後は、情報メディア基礎II（後期）に続く]

【評価方法】

期末試験によって評価する。

【テキスト】

使用しない（プリント配布）。

情報メディア基礎論 I

廣田慈子

【授業の概要】

情報流通における情報メディアの役割について論じる。各種メディアの生産から流通までを対象に、その過程での問題点について議論し、より効果的な情報流通のための情報メディアのあり方を検討する。

【授業の目標】

今日の情報化社会および情報通信技術に応じた、多種多様な情報メディアの生産から利用までについて理解する。

【授業計画】

- 1 情報流通と情報メディア
- 2 学術情報の流通モデル
- 3 現代社会における情報メディアの特徴と問題点
 - (1) 図書
出版流通過程と制度
オンライン書店、オンデマンド出版
 - (2) 雑誌
学術雑誌の機能、査読制度
雑誌論文の構成
抄録作成法、引用法、
プレプリント、e-print
レター、editorial comment
 - (3) 新聞
新聞の流通制度
新聞記事の構成
 - (4) 会議資料
学会、会議録
 - (5) 特許資料
特許制度
パテントファミリー、引用特許
 - (6) 規格票
規格制度、情報関連の標準化活動
 - (7) データベース
情報検索システムの歴史
検索技術、シソーラス
 - (8) インターネット
ネットワーク情報資源の特徴
WWWの評価
Web citation、メタデータ
ウェブ・アーカイビング
- 4 情報流通モデルの修正

【評価方法】

平常点、小課題、レポートによって評価する。

【テキスト】

適宜、配付資料を用いる。

【参考文献・資料】

適宜、講義内で紹介する。

情報メディア基礎論 II

菅野育子

【授業の概要】

情報流通における情報メディアの役割について論じる。各種メディアの生産から流通までを対象に、その過程での問題点について議論し、より効果的な情報流通のための情報メディアのあり方を検討する。

【授業の目標】

多種多様な情報メディアの生産から利用までについて理解すること。

【授業計画】

- [情報メディア基礎I（前期）から続く]
- 3 情報メディアの特徴と問題点
 - (4) 会議資料
学会、会議録
 - (5) 特許資料
特許制度
パテントファミリー、引用特許
 - (6) 規格票
規格制度、情報関連の標準化活動
 - (7) データベース
情報検索システムの歴史
検索技術、シソーラス
 - (8) インターネット
ネットワーク情報資源の特徴
WWWの評価
Web citation、メタデータ
ウェブ・アーカイビング
 - 4 情報メディアの種類と構造
 - 5 情報流通モデルの修正
 - 6 電子環境下における情報メディア

【評価方法】

期末試験によって評価する。

【テキスト】

使用しない（プリント配布）。

情報メディア基礎論 II

廣田慈子

【授業の概要】

今日の図書館が取り扱う情報メディアは、技術の進展や社会環境の変化に合わせて多様化している。この講義では、情報メディアの種類とそれぞれの情報源としての特性、図書館サービスにおける意義を学び、情報流通と利用における役割についての知識を身につけ問題点について検討する。

【授業の目標】

図書館サービスの土台となる情報メディアの特性と役割を学ぶことで、図書館サービスにおける意義と実践に必要な知識を身につけ、多様なサービスに寄与できる知識を身につける。

【授業計画】

1. 図書館と図書館資料、情報メディア
2. 図書館資料としての情報メディアの種類と特性
 - ・紙媒体メディア情報源
 - ・非紙媒体メディア情報源
 - ・非メディア（ネットワーク）情報源
3. 情報メディアの発生・生産
4. 情報流通と情報メディア
5. 図書館コレクションとしての情報メディア
 - ・情報メディアの収集・選択・整理
 - ・情報メディアの保存・管理・再編
6. 情報メディアと情報通信技術・環境
 - ・新しいメディアと情報技術
 - ・ネットワーク環境と情報メディア
7. 情報メディアの活用と法的環境
8. 図書館における情報メディアの活用の今後

【評価方法】

平常点、小課題およびレポートによって評価する。

【テキスト】

適宜、配付資料を用いる。

【参考文献・資料】

図書館情報学用語事典（丸善）
その他、適宜紹介する。

情報メディア論 IV（人文社会情報メディア）

菅野育子

【授業の概要】

人文・社会科学分野における情報メディアの特徴から、学問分野における学術情報の生産と利用について検討することを目的とする。

【授業の目標】

人文・社会科学分野で生産され利用されている各種情報メディアの特徴を理解すること。

【授業計画】

- 1 学問分野と情報メディア
- 2 自然科学分野と人文・社会科学分野
- 3 人文・社会情報メディア
 - 3.1 美術分野
 - 3.2 文学
 - 3.3 法律分野
 - 3.4 心理学
 - 3.5 図書館情報学
- 4 情報メディアからみた情報の生産と利用

【評価方法】

レポート、期末テストから総合的に評価する。

【テキスト】

専門資料論（JLA図書館情報学テキストシリーズ）（日本図書館協会）

情報メディア論 IV (人文社会情報メディア)

藤野寛之

【授業の概要】

人文・社会科学分野における情報メディアの特徴から、学問分野における学術情報の生産と利用について検討することを目的とする。

【授業の目標】

人文・社会科学分野で生産され利用されている各種情報メディアの特徴を理解する。

【授業計画】

- 1 学問分野と情報メディア
- 2 自然科学分野と人文・社会科学分野
- 3 人文・社会情報メディア
 - (1) 美術・音楽
 - (2) 言語・文学
 - (3) 歴史
 - (4) ビジネス (経済、経営、企業情報等)
 - (5) 法律
 - (6) 図書館情報学
 - (7) その他
- 4 情報メディアからみた情報の生産と利用

【評価方法】

出席状況、レポートおよび試験などを総合して評価する。

【テキスト】

専門資料論 [JLA図書館情報学テキストシリーズII 8] (三浦逸雄、野末俊比古 共編著 日本図書館協会)。
その他、適宜プリントを配布する。

【参考文献・資料】

授業中に指示する。

情報メディア論 V (科学技術情報メディア)

廣田慈子

【授業の概要】

自然科学領域における主要な一次情報源である、学術雑誌を中心に解説する。学術雑誌と科学論文についての知識は、情報サービス専門家に欠かさない知識であり、学術雑誌を理解するポイントは、図書館資料としての狭い枠組みでなく、研究活動と科学コミュニケーションのなかで、その役割や問題を知ることにある。本講義では、特に研究者による論文生産の視点から、学術雑誌について検討する。

【授業の目標】

学術雑誌を中心に、執筆、審査、発表、製作、流通、利用の流れを理解し、自然科学領域における情報メディアの特性を理解し、より深く情報サービスを展開できる能力を習得する。

【授業計画】

1. 学術情報と文献情報・文献調査
2. 学術雑誌の歴史と形態
 - ・総合誌、レビュー誌、レター誌、等
3. 科学論文の執筆・論文発表
 - ・執筆と投稿規程
 - ・発表の形態
4. オーサーシップからみた学術論文
5. 出版倫理と科学者の倫理
6. レフェリーシステム
7. 学術雑誌の評価とインパクトファクター
8. 電子化環境・ネットワーク環境における学術情報
 - ・オンラインジャーナル、データベース等
 - ・オープンアクセス、機関リポジトリ等の新しい流れ

【評価方法】

平常点、レポートで評価する

【テキスト】

使用せず (配付資料)。

【参考文献・資料】

適宜、紹介する。

情報メディア論 V (科学技術情報メディア)

山崎茂明

【授業の概要】

自然科学領域における主要な一次情報源である学術雑誌を中心に解説します。学術雑誌と科学論文についての知識は、情報サービス専門家に欠かさない知識です。学術雑誌を理解するポイントは、図書館資料としての狭い枠組みでなく、研究活動と科学コミュニケーションのなかで、その役割や問題を知ることにあります。とくに、研究者による論文生産の視点から、学術雑誌について検討します。

1. 環境としての学術情報
2. 文献情報と文献調査
3. 学術雑誌の歴史と生態
4. 総合誌、レビュー誌、レター誌
5. 日本からの英文論文発表
6. 主要海外誌への日本からの発表傾向
7. オーサーシップからみた学術論文
8. 出版倫理と利害の衝突
9. ニュースメディアと学術雑誌
10. レフェリーシステム
11. 一流誌への発表
12. インパクトファクターの批判的吟味
13. 電子メディア (データベース、一次雑誌) の現在

【授業の目標】

学術雑誌を中心に、執筆、審査、発表、製作、流通、利用の流れを理解し、より深く情報サービスを展開できる能力を育成する。

【授業計画】

講義を中心に行う。教科書はできるだけ事前に読んでもらいたい。講義内容に関係する資料を随時配付する。

【評価方法】

期末レポート、小レポート (授業時間内)

【テキスト】

論文投稿のインフォマティクス (山崎茂明著 中外医学社)

【参考文献・資料】

電子時代の学術雑誌 (Lambert, J.著 日本図書館協会)
出版産業の起源と発達 (Thompson, J.W.著 出版同人)
歴史としての学問 (中山茂著 中央公論社)
生命科学論文投稿ガイド (山崎茂明著 中外医学社)
医学文献サーチガイド 第2版 (山崎茂明著 日本医書出版協会)
研究評価 (根岸正光・山崎茂明著 丸善)

資料組織論

伊藤真理

【授業の概要】

情報の組織化に関する理論と概念について理解することを目的とする。様々な情報資源を念頭において、資料組織業務の標準化と統一化の流れを把握し、目録の機能を理解することを目指す。目録に関する用語と、英米目録規則、日本目録規則、主要な分類表および主題件名標目表を網羅する。

【授業の目標】

情報の組織化に関する概念を理解し、現在の目録情報サービスについて批判的に考察することができること。
目録やそれに関連する専門用語を理解すること。

【授業計画】

- 第1回 情報の組織化とは
- 第2回 目録
- 第3回 書誌コントロール
- 第4回 書誌ユーティリティ
- 第5回 メタデータ
- 第6回 各種目録規則
- 第7回 AACR 2r, NCR
- 第8回 典拠コントロール
- 第9回 アクセス・ポイントの選定; 標目形
- 第10回 各種記述フォーマット
- 第11回 主題目録概要
- 第12回 分類法
- 第13回 主要分類法、図書記号法
- 第14回 主要件名標目表

【評価方法】

平常点、レポート、試験による総合評価。

【テキスト】

『資料組織論テキスト』(伊藤真理 ダイテック、2008)

【参考文献・資料】

書誌コントロールの課題 (国立国会図書館編 日本図書館協会、2002)
文献世界の構造: 書誌コントロール論序説 (根本彰著 勁草書房、1998)
図書館ネットワーク-書誌ユーティリティの世界- (宮澤彰 丸善、2002)

資料組織論

廣田慈子

【授業の概要】

情報の組織化に関する理論と概念について理解することを目的とする。様々な情報資源を念頭において、資料組織業務の標準化と統一化の流れを把握し、目録の機能を理解することを目指す。目録に関する用語と、英米目録規則、日本目録規則、主要な分類表および主題件名標目表を網羅する。

【授業の目標】

情報の組織化に関する概念を理解し、現在の目録サービスについて批判的に考察することができること。目録やそれに関連する専門用語を理解すること。

【授業計画】

- 第1回 情報の組織化
- 第2回 目録
- 第3回 書誌コントロール
- 第4回 書誌ユーティリティ
- 第5回 目録規則
- 第6回 記述目録 (1) AACR2r, NCR
- 第7回 記述目録 (2) アクセス・ポイントの選定; 標目形; 典拠コントロール
- 第8回 記述目録 (3) 各種記述フォーマット
- 第9回 メタデータ
- 第10回 主題目録 (1) 概要
- 第11回 主題目録 (2) 分類法
- 第12回 主題目録 (3) 主要分類法
- 第13回 主題目録 (4) 主要件名標目表

【評価方法】

平常点、小課題、レポート、試験の総合評価。

【テキスト】

初回時にテキスト配布。

【参考文献・資料】

書誌コントロールの課題 (国立国会図書館編 日本図書館協会、2002)
 文献世界の構造: 書誌コントロール論序説 (根本彰著 勁草書房、1998)
 図書館ネットワーク-書誌ユーティリティの世界- (宮澤彰 丸善、2002)

資料組織演習

伊藤真理

【授業の概要】

演習を通して、「資料組織論」で学んだ理論について習得を目的とする。演習内容は、記述目録法と主題目録法の2部から構成する。記述目録では、目録規則の適用について学ぶ。ISBDや記述目録の知識を演習を通して理解し、さらに書誌ユーティリティを利用したオンライン目録作業について演習を行う。主題目録法では、国内で主に利用されている「日本十進分類法」と「基本件名標目表」を取り上げる。主に図書資料を対象として、書誌レコードを作成する。学内LAN講習を必ず受講のこと。

【授業の目標】

「資料組織論」で学んだ知識を応用して、さまざまな参考ツールを活用しながら、オンライン目録作業を通して書誌レコードの作成が行うことができる。情報共有環境での、書誌コントロールや典拠コントロールについて理解する。

【授業計画】

- ・ 目録作業の概要
- ・ 記述目録法
 - ISBD
 - 書誌ユーティリティ (NACSIS/MARC) を利用したMARCレコード作成
 - アクセス・ポイントの選定
 - 典拠コントロール
- ・ 主題目録法
 - 分類: 日本十進分類法
 - 主題件名標目表: 基本件名標目表

【評価方法】

平常点、実習およびレポートの総合評価。

【テキスト】

授業内で指定する。

【参考文献・資料】

資料組織演習 改訂新版 (北克一著 M.B.A.2003年)
 「資料組織論」で配布したテキスト

資料組織演習

廣田慈子

【授業の概要】

演習を通して、「資料組織論」で学んだ理論について習得を目的とする。演習内容は、記述目録法と主題目録法の2部から構成する。記述目録では、目録規則の適用について学ぶ。ISBDや記述目録の知識を演習を通して理解し、さらに書誌ユーティリティを利用したオンライン目録作業について演習を行う。主題目録法では、国内で主に利用されている「日本十進分類法」と「基本件名標目表」を取り上げる。主に図書資料を対象として、書誌レコードを作成する。学内LAN講習を必ず受講のこと。

【授業の目標】

「資料組織論」で学んだ知識を応用して、さまざまな参考ツールを活用しながら、オンライン目録作業を通して書誌レコードの作成が行うことができる。情報共有環境での、書誌コントロールや典拠コントロールについて理解する。

【授業計画】

- ・ 目録作業の概要
- ・ 記述目録法
 - ISBD
 - 書誌ユーティリティ (NACSIS/MARC) を利用したMARCレコード作成
 - アクセス・ポイントの選定
 - 典拠コントロール
- ・ 主題目録法
 - 分類: 日本十進分類法
 - 主題件名標目表: 基本件名標目表

【評価方法】

平常点、実習およびレポートの総合評価。

【テキスト】

授業内で指定する。

【参考文献・資料】

資料組織演習 改訂新版 (北克一著 M.B.A.2003年)
 「資料組織論」で配布したテキスト資料

資料組織演習

杉山誠司

【授業の概要】

演習を通して、「資料組織論」で学んだ理論について習得を目的とする。演習内容は、記述目録法と主題目録法の2部から構成する。記述目録では、目録規則の適用について学ぶ。ISBDや記述目録の知識を演習を通して理解し、さらに書誌ユーティリティを利用したオンライン目録作業について演習を行う。主題目録法では、国内で主に利用されている「日本十進分類法」と「基本件名標目表」を取り上げる。主に図書資料を対象として、書誌レコードを作成する。学内LAN講習を必ず受講のこと。

【授業の目標】

「資料組織論」で学んだ知識を応用して、さまざまな参考ツールを活用しながら、オンライン目録作業を通して書誌レコードの作成が行うことができる。情報共有環境での、書誌コントロールや典拠コントロールについて理解する。

【授業計画】

- ・ 目録作業の概要
- ・ 記述目録法
 - ISBD
 - 書誌ユーティリティ (NACSIS/MARC) を利用したMARCレコード作成
 - アクセス・ポイントの選定
 - 典拠コントロール
- ・ 主題目録法
 - 分類: 日本十進分類法
 - 主題件名標目表: 基本件名標目表

【評価方法】

平常点、実習およびレポートの総合評価。

【テキスト】

授業内で指定する。

【参考文献・資料】

資料組織演習 改訂新版 (北克一著 M.B.A.2003年)
 「資料組織論」で配布したテキスト

資料組織演習

後藤宣子

【授業の概要】

「資料組織論」で学んだ理論について、演習を通してより深い理解と習得を目的とする。

演習内容は、記述目録法と主題目録法の2部から構成する。

記述目録では、目録規則の適用について学ぶ。ISBDや記述目録の知識を演習を通して理解し、さらに書誌ユーティリティを利用したオンライン目録作業について演習を行う。

主題目録法では、国内で主に利用されている「日本十進分類法」と「基本件名標目表」を取り上げる。主に図書資料を対象として、書誌レコードを作成する。

本科目の履修については、「資料組織論」の履修を条件とする。

学内LAN講習を必ず受講のこと。

【授業の目標】

「資料組織論」で学んだ知識を応用して、さまざまな参考ツールを活用しながら、オンライン目録作業を通して書誌レコードの作成が行えること。

書誌コントロールや典拠コントロールについて理解すること。

【授業計画】

・目録作業の概要

・記述目録法

ISBD

書誌ユーティリティ (NACSIS/MARC) を利用したMARCレコード

作成

アクセス・ポイントの選定

典拠コントロール

・主題目録法

分類: 日本十進分類法

主題件名標目表: 基本件名標目表

【評価方法】

出席、実習およびレポート提出の総合評価

【テキスト】

資料組織演習 改訂新版 (北克一著 M.B.A.,2003年)

【参考文献・資料】

「資料組織論」で配布したテキスト

情報学 III (図書館と情報検索の歴史)

村主朋英

【授業の概要】

図書館情報学分野に関わる歴史を概観する。『図書館情報学ハンドブック』第2版(丸善刊)において示された枠組みに基づき、図書及び図書館史の範囲を拡張し、〈人類の情報環境の発達過程を概観する〉というコンセプトを掲げ、図書館情報サービスの発達ならびに書誌・目録・分類およびレファレンスブックに代表される知識の組織化過程の発達を中心に、〈情報・知識の伝達・継承のために人類がどのような活動を行ってきたか〉という問題を探求する。

具体的には、まず情報活動のための背景要因となるメディア技術(情報・通信技術)の発達過程を概観し、つぎに情報流通の制度・機構(とくに図書館等の情報サービス機関や、図書館員等の情報専門職)、および書誌・索引作成や目録・分類法等の情報の蓄積・検索の技術・技法が整備されていった過程を評述する。それらは、人類にとって一種の環境要因である。その上で、そうした環境要因と人間との関わり(とくに情報の社会的蓄積・継承の問題)を展望する。

IIIでは、古代から中世までを対象とし、IVに引き継ぐ。

【授業の目標】

まず、図書館情報学の世界の一員として知っておくべき基本事項を習得する。次に、それらの事項の相互間の連関(歴史の流れ)を看取する。さらに、そうした歴史の流れを形成する「力」および「メカニズム」について探求する。

【授業計画】

1. 古代文明のメディアと情報・知識活動

2. ギリシア・ローマにおける進展

3. 中世の学術と書物・図書館

4. 印刷革命

【評価方法】

定期試験 ※穴埋め・訂正問題、論述問題

【テキスト】

歴史のなかの科学コミュニケーション (Vickery著 税別定価3,800円)

図書館情報学用語辞典 (丸善)

【参考文献・資料】

図書館情報学ハンドブック 第2版 (丸善)

図書館学特殊 III (児童サービス論)

近藤洋子

【授業の概要】

図書館における児童サービスの理論と実際について、基礎的理解を図る。具体的には、日本の読書推進政策の現状を踏まえ、児童用資料の特性、利用者としての児童の特性、公立図書館・学校図書館における児童サービスおよび、図書館の周辺領域における児童へのサービスについても広くとりあげる。

【授業の目標】

図書館における児童サービスの理論の基礎的理解を具体的資料にあたって学ぶ。

サービスがよりよく実践されるための実技を学ぶ。

図書館見学等を通して、現状のサービスについて理解を深めていく。

【授業計画】

(1) 子どもの読書と児童図書館

(2) 児童図書館の意義と歴史

(3) 児童資料の類型、出版・流通

(4) 児童資料の特性1 絵本・創作児童文学

(5) 児童資料の特性2 昔話・ノンフィクション・その他

(6) 児童資料の収集・整理 蔵書構成

(7) 資料提供サービス 窓口業務・フロアワーク・レファレンス

(8) 集会行事 展示・PR

(9) 児童サービスの技術1 読み開かせ ストーリーテリング

(10) 児童サービスの技術2 ブックトーク 書評・ブックリスト

(11) 児童図書館の企画・運営 施設・設備

(12) 児童サービスの対象 乳幼児・ヤングアダルトサービス

(13) 類似機関との連携 学校図書館

(14) 児童図書館の現在と今後 見学レポートの発表

(15) ストーリーテリング実習

【評価方法】

出席状況 平常点 図書館見学等レポートを総合評価

【テキスト】

児童サービス論 新訂版 (堀川照代編著 日本図書館協会)

【参考文献・資料】

児童サービス論 (佐藤涼子編 教育史料出版会)

児童図書館のあゆみ(児童図書館研究会編 教育史料出版会)

情報学 III (図書館と情報検索の歴史)

藤野寛之

【授業の概要】

図書館情報学分野に関わる歴史を概観する。『図書館情報学ハンドブック』第2版(丸善刊)において示された枠組みに基づき、図書及び図書館史の範囲を拡張し、〈人類の情報環境の発達過程を概観する〉というコンセプトを掲げ、図書館情報サービスの発達ならびに書誌・目録・分類およびレファレンスブックに代表される知識の組織化過程の発達を中心に、〈情報・知識の伝達・継承のために人類がどのような活動を行ってきたか〉という問題を探求する。

具体的には、まず情報活動のための背景要因となるメディア技術(情報・通信技術)の発達過程を概観し、つぎに情報流通の制度・機構(とくに図書館等の情報サービス機関や、図書館員等の情報専門職)、および書誌・索引作成や目録・分類法等の情報の蓄積・検索の技術・技法が整備されていった過程を評述する。それらは、人類にとって一種の環境要因である。その上で、そうした環境要因と人間との関わり(とくに情報の社会的蓄積・継承の問題)を展望する。

IIIでは、古代から中世までを対象とし、IVに引き継ぐ。

【授業の目標】

図書館や情報メディアに関する歴史的な事実を学ぶ。そのことにより、現代の図書館や情報サービス機関が持つ思想や性格について理解を深めていくことを目標とする。

【授業計画】

1. 古代文明のメディアと情報・知識活動

2. ギリシア・ローマにおける進展

3. 中世の学術と書物・図書館

4. 印刷革命

【評価方法】

出席状況および試験などを総合して評価する。

【テキスト】

歴史のなかの科学コミュニケーション (B. C. ヴィッカーリー著

〔村主朋英訳〕 勁草書房)。

その他、適宜プリントを配布する。

【参考文献・資料】

図書館分類=書誌分類の歴史 第一巻 (エヴァゲニー・シャムーリン著

〔藤野幸雄訳〕 金沢文庫)。

その他の文献は授業中に指示する。

情報学 IV (図書館と情報検索の歴史)

村主朋英

【授業の概要】

図書館情報学分野に関わる歴史を概観する。『図書館情報学ハンドブック』第2版(丸善刊)において示された枠組みに基づき、図書及び図書館史の範囲を拡張し、(人類の情報環境の発達過程を概観する)というコンセプトを掲げ、図書館情報サービスの発達ならびに書誌・索引・目録・分類およびレファレンスブックに代表される知識の組織化過程の発達を中心に、(情報・知識の伝達・継承のために人類がどのような活動を行ってきたか)という問題を探求する。

具体的には、まず情報活動のための背景要因となるメディア技術(情報・通信技術)の発達過程を概観し、つぎに情報流通の制度・機構(とくに図書館等の情報サービス機関や、図書館員等の情報専門職)、および書誌・索引作成や目録・分類法等の情報の蓄積・検索の技術・技法が整備されていった過程を詳述する。それらは、人類にとって一種の環境要因である。その上で、そうした環境要因と人間との関わり(とくに情報の社会的蓄積・継承の問題)を展望する。

IVでは、IIIの知見を踏まえた上で、近・現代を対象とする。なお、マスメディアおよびコンピュータやネットワーク等の情報通信技術は背景要因の一部として扱うのみなので、それらの内容に期待する学生には、別の科目や参考書等を紹介する。

【授業の目標】

(情報学IIIと同様です。情報学IIIの該当項目を参照してください)

【授業計画】

1. 学術情報流通システムの成立:
学会とアカデミー、学術雑誌、書誌の展開
2. 知の環境化: 百科事典、国立図書館、公共図書館
3. ドキュメンテーションから情報検索へ

【評価方法】

定期試験 ※穴埋め・訂正問題、論述問題

【テキスト】

歴史のなかの科学コミュニケーション (Vickery著 勁草書房)
図書館情報学用語辞典 (丸善)

【参考文献・資料】

図書館情報学ハンドブック 第2版(丸善)

情報学 IV (図書館と情報検索の歴史)

藤野寛之

【授業の概要】

図書館情報学分野に関わる歴史を概観する。『図書館情報学ハンドブック』第2版(丸善刊)において示された枠組みに基づき、図書及び図書館史の範囲を拡張し、(人類の情報環境の発達過程を概観する)というコンセプトを掲げ、図書館情報サービスの発達ならびに書誌・索引・目録・分類およびレファレンスブックに代表される知識の組織化過程の発達を中心に、(情報・知識の伝達・継承のために人類がどのような活動を行ってきたか)という問題を探求する。

具体的には、まず情報活動のための背景要因となるメディア技術(情報・通信技術)の発達過程を概観し、つぎに情報流通の制度・機構(とくに図書館等の情報サービス機関や、図書館員等の情報専門職)、および書誌・索引作成や目録・分類法等の情報の蓄積・検索の技術・技法が整備されていった過程を詳述する。それらは、人類にとって一種の環境要因である。その上で、そうした環境要因と人間との関わり(とくに情報の社会的蓄積・継承の問題)を展望する。

IVでは、IIIの知見を踏まえた上で、近・現代を対象とする。なお、マスメディアおよびコンピュータやネットワーク等の情報通信技術は背景要因の一部として扱うのみなので、それらの内容に期待する学生には、別の科目や参考書等を紹介する。

【授業の目標】

図書館や情報メディアに関する歴史的な事実を学ぶ。そのことにより、現代の図書館や情報サービス機関が持つ思想や性格について理解を深めていくことを目標とする。

【授業計画】

1. 近代の動向
2. 図書館の世紀
 - (1) アメリカ
 - (2) イギリス
 - (3) その他
3. 書誌とドキュメンテーション
4. 情報メディア技術の発達
5. 20世紀の情報流通システムと情報検索
6. わが国の図書館、情報流通のあゆみ
7. 各国の図書館、情報流通の比較
8. 各国の図書館・情報政策の変遷

【評価方法】

出席状況および試験などを総合して評価する。

【テキスト】

歴史のなかの科学コミュニケーション (B.C. ヴィッカーイ著 [村主朋英訳] 勁草書房)。
その他、適宜プリントを配布する。

【参考文献・資料】

図書館を育てた人々 イギリス篇 (藤野幸雄、藤野寛之著
日本図書館協会)
その他の文献については授業中に指示する。

個人コミュニケーション論 I (認知心理学)

高橋伸子 安田恭子

【授業の概要】

見る、聞く、話す、覚える、考えるなどの知的機能を総称して認知という。認知心理学では、人間を高次元情報処理体として見なし、情報の入力と出力との間に生じるさまざまな認知的過程を実験とシミュレーションにより理論化している。本講義では、人間の記憶活動と言語活動がどのように営まれているのかを明らかにするとともに、それらの活動を支える基盤が、脳の中でどのように組織化されているのかについても検討する。また、講義を通じて、我々が日常生活の中で体験する不思議な現象を認知心理学的に解明していきたい。

【授業の目標】

ヒトの認知機能(情報処理形式)の特徴について理解する。また、ヒトをとりまく環境で生じる諸現象を科学的にとらえる思考力を養う。

【授業計画】

1. サプリミナル・パーセプション
2. 沈黙の手がかり
3. 意識できない知識
4. 健忘症患者の隠された能力
5. なぜ、ずっと覚えていられないのか
6. 記憶の混乱と偽りの記憶
7. 嫌な出来事が忘れられない
8. 言葉と心
9. 言葉の働き
10. 言葉が失われるとき
11. 言葉が意識を生む
12. 自己意識の起源にせまる

【評価方法】

出席状況および筆記試験の成績により評価する。

【テキスト】

使用しない。必要に応じてプリントを配布する。

【参考文献・資料】

適宜紹介する。

情報メディア論 I (マルチメディア)

川澄未来子

【授業の概要】

社会、教育現場における情報機器の発展経緯、種類、機能、ならびに情報メディアの発達と変化について論じながら、情報メディアの特性、視聴覚メディア、図形処理と画像処理を中心とするソフトウェア、インターネットとシミュレーションに係るトウールの活用方法、情報メディアと情報通信(ネットワーク)技術やマルチメディアとの関係について考察する。また、技術的な側面として、インターネットでの情報の検索手法、ハイパーテキスト・システムの本質の問題、およびその設計・開発手法についても触れていく。

【授業の目標】

現代社会における情報メディアの意義、機能、及び活用方法について理解を深めるとともに、マルチメディアを利用したコミュニケーションや制作に必要な知識やデザイン手法について映像教材を視聴しながら体感的に学ぶ。

【授業計画】

画像・映像・サウンドなどのマルチメディア教材を利用しながら学習をすすめる。特に、マルチメディアを利用したコミュニケーションや制作に関係の深い、次のトピックスについて学ぶ。

- (1) マルチメディア表現の歴史
- (2) アイディアから形へ
- (3) 形・色・質感のデザイン
- (4) グラフィックの表現
- (5) アニメーション
- (6) モーションキャプチャ
- (7) カメラワークとライティング
- (8) マルチメディア表現の活用例

【評価方法】

出席状況、受講態度、提出課題、試験結果などから総合的に評価する。(評価点の配分は授業にて説明する。)

【テキスト】

特になし

【参考文献・資料】

授業内で紹介

情報メディア論 I (マルチメディア)

廣田慈子

【授業の概要】

現代社会における情報の伝達・流通・活用の手法は、情報通信技術とコンピュータ機器の急速な発展と普及と共に多様に变化している。
本講義では、情報の表現・伝達方法である文字・画像情報を中心に、記録媒体である情報メディアおよびそれらを取り扱う多様な情報機器の種類、特性、機能、利用法、等について概説し、図書館・情報サービスにおける導入・活用の実例を示しながら解説する。

【授業の目標】

情報サービスにおける情報機器の活用に必要な基礎知識を習得し、多様な実践に対応しうる見識を身につける。

【授業計画】

1. 情報サービス機関における情報機器の意義と役割
2. 情報機器の概念構造
3. 情報メディアと情報機器の種類と歴史的展開
 - ・記録技術と情報機器
 - ・視聴覚メディアと視聴覚機器
 - ・電子メディアと電子機器
4. 情報処理技術
5. 情報機器の構成
 - ・入力装置
 - ・出力装置
 - ・通信装置
6. ネットワーク環境と情報機器
7. 現代社会における情報通信技術と社会環境の諸問題
 - ・知的財産権
 - ・ユビキタス環境
8. 図書館と情報機器

【評価方法】

出席、小課題、試験、の総合評価。

【テキスト】

適宜、資料を配付する。

【参考文献・資料】

適宜、講義内で紹介する。

図書館サービス論

廣田慈子

【授業の概要】

あなたが図書館員であると仮定し、図書館の現場で利用者からの期待に応えるさまざまな業務と施設を計画立案し、実施、評価するケーススタディなどを交え、より具体的に図書館サービスについての理解を深めることを目的とする。

【授業の目標】

今日の社会において図書館に求められる「情報サービス」の意義と役割、歴史的展開を理解した上で、現況の情報サービスの内容とその必要性、および新しい社会環境・技術環境に対応した情報サービスの内容とその必要性について、理解を深める。

【授業計画】

1. 図書館における「情報サービス」の意義
2. 情報サービスの歴史と展開
 - ・図書館における伝統的な情報サービスの歴史と内容の変遷
3. 図書館情報サービスの種類：パブリックサービス
 - ・貸出閲覧／レファレンスサービス／等
4. 図書館情報サービスの種類：テクニカルサービス
 - ・資料組織化／蔵書構築／等
5. 現代社会における図書館サービスの変化
 - ・情報通信技術（ICT）環境変化に対応した新・情報サービス
6. 社会環境の変化と図書館サービスの変化
 - ・法的環境の変化（著作権等）に対応した情報サービスの展開
7. 求められる「図書館の情報サービス」

上記内容について、講義を中心に行います。
適宜、小課題やレポート等を課します。

【評価方法】

講義内での小課題等（30%）、および期末試験レポート（70%）の総合評価

【テキスト】

適宜、配布資料（レジュメ等）を用いる。

【参考文献・資料】

図書館情報学用語事典 第3版（同編集委員会編 丸善）
その他、授業中に適宜紹介する。

図書館概論

廣田慈子

【授業の概要】

古来より人類の知識と経験を記録物として収集、保管し、現在と将来にわたって提供する情報機関としての図書館の姿を概説し、図書館についての基礎を学ぶ。

地域、社会環境、技術の進展、多様な人々の利用要求などに応じて発展してきた、図書館の機能と構造、意義、種類と構成要素などを歴史的展開や法・社会環境の変化などを踏まえて全体像を把握する。

【授業の目標】

情報サービス機関としての図書館の全体像を把握し、図書館の多様性や社会的意義など、包括的に図書館を理解すること。

【授業計画】

1. 社会における図書館
 - ・情報サービス機関としての図書館
 - ・情報の流通と図書館
2. 図書館の意義と役割
 - ・図書館の機能（サービス）
 - ・法的基盤からみた図書館
3. 図書館の構成要素
 - ・図書館という組織（施設等）／図書館員／利用者／図書館
4. 図書館の種類と機能
 - ・国立図書館／公共図書館／大学図書館／専門図書館／学校図書館
5. 情報ネットワークの中の図書館
6. 図書館を取り巻く諸問題
 - ・情報環境の変化／図書館の運営

【評価方法】

平常点、小課題、レポート試験等による総合評価。

【テキスト】

図書館情報学用語辞典 第3版（丸善）
その他、適宜資料を配付する。

【参考文献・資料】

図書館学基礎資料 第7版（今まど子編 樹村房）
図書館情報学ハンドブック 第2版（丸善）
その他、適宜講義内で紹介する。

図書館資料論

廣田慈子

【授業の概要】

今日の図書館が取り扱う情報メディアは、技術の進展や社会環境の変化に合わせて多様化している。この講義では、情報メディアの種類とそれぞれの情報源としての特性、図書館サービスにおける意義を学び、情報流通と利用における役割についての知識を身につけ問題点について検討する。

【授業の目標】

図書館サービスの土台となる情報メディアの特性と役割を学ぶことで、図書館サービスにおける意義と実践に必要な知識を身につけ、多様なサービスに寄与できる知識を身につける。

【授業計画】

1. 図書館と図書館資料、情報メディア
2. 図書館資料としての情報メディアの種類と特性
 - ・紙媒体メディア情報源
 - ・非紙媒体メディア情報源
 - ・非メディア（ネットワーク）情報源
3. 情報メディアの発生・生産
4. 情報流通と情報メディア
5. 図書館コレクションとしての情報メディア
 - ・情報メディアの収集・選択・整理
 - ・情報メディアの保存・管理・再編
6. 情報メディアと情報通信技術・環境
 - ・新しいメディアと情報技術
 - ・ネットワーク環境と情報メディア
7. 情報メディアの活用と法的環境
8. 図書館における情報メディアの活用の今後

【評価方法】

平常点、小課題およびレポートによって評価する。

【テキスト】

適宜、配付資料を用いる。

【参考文献・資料】

図書館情報学用語事典（丸善）
その他、適宜紹介する。

初級簿記（3級程度） *基礎総合

コーディネーター：三浦克人・浅井敬一郎

【授業の概要】

大原簿記専門学校の講師が日商簿記検定3級の試験対策講座を行い、本学講師がそのコーディネートをを行う。前期は2コマ（3時間）ずつ週2回のペースで、後期は2コマ（3時間）ずつ週1回のペースで講義を行う。この講義は初学者向けの講義であり、簿記の仕組みから精算表の作成まで簿記の基礎とされる内容を一通り学習した後、全国公開模擬試験などの問題を通して日商簿記検定3級の合格サポートを行う。日商簿記検定は知名度・人気ともにナンバーワンの簿記資格であり、公認会計士、税理士試験に挑戦する人や金融関係を目指す人だけでなく、民間企業への就職志望者にとっても非常に有効な資格である。

【授業の目標】

日商簿記検定3級に合格すること。

【授業計画】

- 第1回 簿記の目的・取引・仕訳・勘定口座の記入方法
- 第2回 試算表・商品売上の記帳方法、現金預金の記帳
- 第3回 手形の記帳方法、その他の勘定の記帳方法
- 第4回 その他の勘定記帳方法、主要簿および補助簿
- 第5回 主要簿および補助簿、伝票
- 第6回 直前総まとめ問題集解説（補助簿、試算表、伝票対策）
- 第7回 決算整理（売上原価）、英米式決算法、精算表
- 第8回 決算整理（貸倒、減価償却、固定資産の売却、繰延・見越）
- 第9回 決算整理（消耗品、現金過不足、売買目的有価証券、引出金）
- 第10回 直前総まとめ問題集解説（仕訳、精算表対策）
- 第11回 直前答練第1回、解説
- 第12回 直前答練第2回、解説
- 第13回 直前答練第3回、解説
- 第14回 全国公開模擬試験、解説
- 第15回 単位認定試験

【評価方法】

単位認定試験の成績に応じて評価する。

【テキスト】

大原簿記専門学校のテキスト

中級簿記（2級程度）B *工業簿記

コーディネーター：三浦克人・浅井敬一郎

【授業の概要】

大原簿記専門学校の講師が日商簿記検定2級の試験対策講座を行い、本学講師がそのコーディネートをを行う。2コマ（3時間）ずつ、週1回のペースで講義を行う。この講義は日商簿記検定3級の合格者およびそれに相当する者向けの講義であり、日商簿記検定2級の試験範囲のうち「工業簿記」を取り扱う。同じく2級の試験範囲である「商業簿記」は中級簿記（2級程度）Aで取り扱うので、同時履修が望ましい。日商簿記検定は知名度・人気ともにナンバーワンの簿記資格であり、公認会計士、税理士試験に挑戦する人や金融関係を目指す人だけでなく、民間企業への就職志望者にとっても非常に有効な資格である。

【授業の目標】

日商簿記検定2級に合格すること。

【授業計画】

- 第1回 工業簿記の基礎、個別原価計算の体系
- 第2回 材料費会計
- 第3回 労務費会計
- 第4回 経費会計、製造間接費会計
- 第5回 工企業の財務諸表
- 第6回 部門別会計、工場会計
- 第7回 工業簿記の基礎、総合原価計算の体系
- 第8回 単純総合原価計算
- 第9回 減損および仕損
- 第10回 組別・等級別原価計算
- 第11回 標準原価計算
- 第12回 損益分岐点分析、直接原価計算、固定費調整
- 第13回 総まとめ（1）
- 第14回 総まとめ（2）
- 第15回 単位認定試験

【評価方法】

単位認定試験の成績に応じて評価する。

【テキスト】

大原簿記専門学校のテキスト

中級簿記（2級程度）A *商業簿記

コーディネーター：三浦克人・浅井敬一郎

【授業の概要】

大原簿記専門学校の講師が日商簿記検定2級の試験対策講座を行い、本学講師がそのコーディネートをを行う。2コマ（3時間）ずつ、週1回のペースで講義を行う。この講義は日商簿記検定3級の合格者およびそれに相当する者向けの講義であり、日商簿記検定2級の試験範囲のうち「商業簿記」を取り扱う。同じく2級の試験範囲である「工業簿記」は中級簿記（2級程度）Bで取り扱うので、同時履修が望ましい。日商簿記検定は知名度・人気ともにナンバーワンの簿記資格であり、公認会計士、税理士試験に挑戦する人や金融関係を目指す人だけでなく、民間企業への就職志望者にとっても非常に有効な資格である。

【授業の目標】

日商簿記検定2級に合格すること。

【授業計画】

- 第1回 簿記一巡、固定資産
- 第2回 減価償却、銀行勘定調整表、引当金
- 第3回 その他の引当金、商品の評価、税金
- 第4回 株式の発行、利益処分
- 第5回 会社の合併、社債の発行、決算整理
- 第6回 社債の償還、決算法、財務諸表
- 第7回 伝票会計
- 第8回 帳簿組織
- 第9回 特殊商品売買
- 第10回 仕入割引、売上割引、研究開発費、有価証券
- 第11回 債務保証、手形の不渡り、裏書譲渡
- 第12回 本支店会計
- 第13回 総まとめ（1）
- 第14回 総まとめ（2）
- 第15回 単位認定試験

【評価方法】

単位認定試験の成績に応じて評価をする。

【テキスト】

大原簿記専門学校のテキスト

中級簿記（2級程度）C *実践

コーディネーター：三浦克人・浅井敬一郎

【授業の概要】

大原簿記専門学校の講師が日商簿記検定2級の試験対策講座を行い、本学講師がそのコーディネートをを行う。この講義は中級簿記（2級程度）AまたはBの受講者を対象とした講義であり、検定試験直前期に集中的に行う。日商簿記検定は知名度・人気ともにナンバーワンの簿記資格であり、公認会計士、税理士試験に挑戦する人や金融関係を目指す人だけでなく、民間企業への就職志望者にとっても非常に有効な資格である。

【授業の目標】

日商簿記検定2級に合格すること。

【授業計画】

- 第1回 直前答練第1回、解説
- 第2回 直前答練第2回、解説
- 第3回 直前答練第3回、解説
- 第4回 直前答練第4回、解説
- 第5回 全国公開模擬試験、解説
- 第6回 ファイナルチェック問題、解説
- 第7回 直前総まとめ
- 第8回 単位認定試験

【評価方法】

単位認定試験の成績に応じて評価する。

【テキスト】

大原簿記専門学校のテキスト

上級簿記（1級程度）A * 商業簿記

コーディネーター：三浦克人・浅井敬一郎

【授業の概要】

大原簿記専門学校の講師が日商簿記検定1級の試験対策講座を行い、本学講師がそのコーディネートをを行う。2コマ（3時間）ずつ、週1回のペースで講義を行う。この講義は日商簿記検定2級の合格者およびそれに相当する者向けの講義であり、日商簿記検定1級の試験範囲のうち「商業簿記」を取り扱う。同じく1級の試験範囲である「会計学」、「原価計算」、「工業簿記」は上級簿記（1級程度）B、C、Dで取り扱うので、履修することが望ましい。日商簿記検定は知名度・人気ともにナンバーワンの簿記資格であり、公認会計士、税理士試験に挑戦する人や金融関係を目指す人だけでなく、民間企業への就職志望者にとっても非常に有効な資格である。

【授業の目標】

日商簿記検定1級に合格すること。

【授業計画】

- 第1回 総論、企業会計原則、簿記一巡
- 第2回 一般販売、特殊商品売買I
- 第3回 特殊商品売買II
- 第4回 特殊商品売買III
- 第5回 棚卸資産
- 第6回 固定資産I
- 第7回 固定資産II
- 第8回 減損会計、繰延資産
- 第9回 研究開発費、引当金I
- 第10回 引当金II、退職給付会計I
- 第11回 退職給付会計II、社債I
- 第12回 社債II、資本I
- 第13回 資本II
- 第14回 合併会計、会社分割
- 第15回 単位認定試験

【評価方法】

出席状況、課題、単位認定試験により総合的に評価する。

【テキスト】

大原簿記専門学校のテキスト

上級簿記（1級程度）C * 原価計算

コーディネーター：三浦克人・浅井敬一郎

【授業の概要】

大原簿記専門学校の講師が日商簿記検定1級の試験対策講座を行い、本学講師がそのコーディネートをを行う。講義は前期集中授業期間で行う。この講義は日商簿記検定2級の合格者およびそれに相当する者向けの講義であり、日商簿記検定1級の試験範囲のうち「原価計算」を取り扱う。同じく1級の試験範囲である「商業簿記」、「会計学」、「工業簿記」は上級簿記（1級程度）A、B、Dで取り扱うので、履修することが望ましい。日商簿記検定は知名度・人気ともにナンバーワンの簿記資格であり、公認会計士、税理士試験に挑戦する人や金融関係を目指す人だけでなく、民間企業への就職志望者にとっても非常に有効な資格である。

【授業の目標】

日商簿記検定1級に合格すること。

【授業計画】

- 第1回 総論、原価・営業量・利益関係の分析I
- 第2回 原価・営業量・利益関係の分析II
- 第3回 予算編成
- 第4回 予算統制I
- 第5回 予算統制II、売上数量差異の分析
- 第6回 事業部制、セグメント別損益計算
- 第7回 業務的意思決定I
- 第8回 業務的意思決定II
- 第9回 業務的意思決定III、最適セールス・ミックス
- 第10回 構造的意思想定I、設備投資の意思想定
- 第11回 構造的意思想定II
- 第12回 構造的意思想定III
- 第13回 戦略的原価計算I、品質原価計算
- 第14回 戦略的原価計算II、原価企画、活動基準原価計算
- 第15回 単位認定試験

【評価方法】

出席状況、課題、単位認定試験により総合的に評価する。

【テキスト】

大原簿記専門学校のテキスト

上級簿記（1級程度）B * 会計学

コーディネーター：三浦克人・浅井敬一郎

【授業の概要】

大原簿記専門学校の講師が日商簿記検定1級の試験対策講座を行い、本学講師がそのコーディネートをを行う。講義は前期集中授業期間で行う。この講義は日商簿記検定2級の合格者およびそれに相当する者向けの講義であり、日商簿記検定1級の試験範囲のうち「会計学」を取り扱う。同じく1級の試験範囲である「商業簿記」、「原価計算」、「工業簿記」は上級簿記（1級程度）A、C、Dで取り扱うので、履修することが望ましい。日商簿記検定は知名度・人気ともにナンバーワンの簿記資格であり、公認会計士、税理士試験に挑戦する人や金融関係を目指す人だけでなく、民間企業への就職志望者にとっても非常に有効な資格である。

【授業の目標】

日商簿記検定1級に合格すること。

【授業計画】

- 第1回 現金および預金、債権、有価証券
- 第2回 金融資産および金融負債、デリバティブ取引
- 第3回 ヘッジ会計、為替換算会計
- 第4回 外貨建取引処理基準、為替予約
- 第5回 税効果会計、一時差異等の会計処理I
- 第6回 一時差異等の会計処理II
- 第7回 本支店会計
- 第8回 連結会計、取得日連結
- 第9回 連結会計、取得後連結I
- 第10回 連結会計、取得後連結II
- 第11回 連結会計、持分の段階取得、売却、増資
- 第12回 持分法、連結税効果会計、在外子会社連結
- 第13回 キャッシュ・フロー会計
- 第14回 連結キャッシュ・フロー会計
- 第15回 単位認定試験

【評価方法】

出席状況、課題、単位認定試験により総合的に評価する。

【テキスト】

大原簿記専門学校のテキスト

上級簿記（1級程度）D * 工業簿記

コーディネーター：三浦克人・浅井敬一郎

【授業の概要】

大原簿記専門学校の講師が日商簿記検定1級の試験対策講座を行い、本学講師がそのコーディネートをを行う。2コマ（3時間）ずつ、週1回のペースで講義を行う。この講義は日商簿記検定2級の合格者およびそれに相当する者向けの講義であり、日商簿記検定1級の試験範囲のうち「工業簿記」を取り扱う。同じく1級の試験範囲である「商業簿記」、「会計学」、「原価計算」は上級簿記（1級程度）A、B、Cで取り扱うので、履修することが望ましい。日商簿記検定は知名度・人気ともにナンバーワンの簿記資格であり、公認会計士、税理士試験に挑戦する人や金融関係を目指す人だけでなく、民間企業への就職志望者にとっても非常に有効な資格である。

【授業の目標】

日商簿記検定1級に合格すること。

【授業計画】

- 第1回 総論、単純個別原価計算
- 第2回 部門別個別原価計算
- 第3回 部門別計算I
- 第4回 部門別計算II
- 第5回 実際総合原価計算I、総論
- 第6回 全部原価計算と直接原価計算、固定費調整
- 第7回 実際総合原価計算II、減損、仕損
- 第8回 実際総合原価計算III、異常減損・仕損
- 第9回 工程別総合原価計算
- 第10回 組別・等級別原価計算、練産品・副産物・作業屑
- 第11回 標準原価計算I
- 第12回 標準原価計算II、歩減が発生する場合
- 第13回 標準原価計算III、配合差異・歩留差異
- 第14回 工程別標準原価計算、直接標準原価計算
- 第15回 単位認定試験

【評価方法】

出席状況、課題、単位認定試験により総合的に評価する。

【テキスト】

大原簿記専門学校のテキスト

上級簿記（1級程度）E *実践

コーディネーター：三浦克人・浅井敬一郎

【授業の概要】

大原簿記専門学校の講師が日商簿記検定1級の試験対策講座を行い、本学講師がそのコーディネーターを行う。この講義は上級簿記（1級程度）A、B、C、Dのうちいずれか1つを受講した者を対象とした講義であり、検定試験直前期に集中的に行う。日商簿記検定は知名度・人気ともにナンバーワンの簿記資格であり、公認会計士、税理士試験に挑戦する人や金融関係を目指す人だけでなく、民間企業への就職志望者にとっても非常に有効な資格である。

【授業の目標】

日商簿記検定1級に合格すること。

【授業計画】

1. 直前答練第1回、解説
2. 直前答練第2回、解説
3. 直前答練第3回、解説
4. 直前答練第4回、解説
5. 全国公開模擬試験、解説
6. ファイナルチェック問題、解説
7. 直前総まとめ
8. 単位認定試験

【評価方法】

出席状況、課題、単位認定試験により総合的に評価する。

【テキスト】

大原簿記専門学校のテキスト

初級簿記演習

三浦克人 藤原英賢

【授業の概要】

この授業は、初級簿記（3級程度）の単位を修得した学生で、簿記検定試験の再受験を希望する者のみが履修できる。2コマ（3時間）ずつ、週1回のペースで講義を行う。検定試験のレベルにあわせた問題練習を中心に講義を進める。

【授業の目標】

日商簿記検定3級に合格すること。

【授業計画】

1. 商品売買
2. 手形取引
3. 有価証券
4. 固定資産
5. 決算手続き
6. 精算表の作成
7. 単位認定試験

【評価方法】

出席状況と単位認定試験により評価する。

【テキスト】

日商簿記3級過去問題集（大原簿記学校著 大原出版）

【参考文献・資料】

大原簿記専門学校のテキスト

中級簿記演習A *商業簿記

藤原英賢

【授業の概要】

この授業は、中級簿記（2級程度）AまたはBの単位を修得した学生で、簿記検定試験の再受験を希望する者のみが履修できる。2コマ（3時間）ずつ、週1回のペースで講義を行う。日商簿記検定2級の試験範囲のうち「商業簿記」を取り扱う。検定試験のレベルにあわせた問題練習を中心に講義を進める。同じく2級の範囲である「工業簿記」は、中級簿記演習Bで取り扱うので、同時履修が望ましい。

【授業の目標】

日商簿記検定2級に合格すること。

【授業計画】

1. 商品・特殊商品売買取引
2. 手形取引
3. 株式会社会計
4. 本支店会計
5. 帳簿組織
6. 決算整理
7. 単位認定試験

【評価方法】

出席状況と単位認定試験により評価する。

【テキスト】

日商簿記2級過去問題集（大原簿記学校 大原出版）

【参考文献・資料】

大原簿記専門学校のテキスト

中級簿記演習B *工業簿記

三浦克人

【授業の概要】

この授業は、中級簿記（2級程度）AまたはBの単位を修得した学生で、簿記検定試験の再受験を希望する者のみが履修できる。2コマ（3時間）ずつ、週1回のペースで講義を行う。日商簿記検定2級の試験範囲のうち「工業簿記」を取り扱う。検定試験のレベルにあわせた問題練習を中心に講義を進める。同じく2級の範囲である「商業簿記」は、中級簿記演習Aで取り扱うので、同時履修が望ましい。

【授業の目標】

日商簿記検定2級に合格すること。

【授業計画】

1. 工業簿記の基礎、材料費・労務費・経費の計算
2. 製造間接費の計算、部門費の計算
3. 個別原価計算
4. 総合原価計算
5. 標準原価計算
6. 直接原価計算
7. 単位認定試験

【評価方法】

出席状況と単位認定試験により評価する。

【テキスト】

別途指示する。

【参考文献・資料】

大原簿記学校のテキスト

英語海外セミナー II (オーストラリア)

ARNOLD, Brent C.

【Course description】

Students will be in an English Immersion course at Canberra University. They will study and practise English language in class, and then have an opportunity to use English during out-of-class activities and weekly excursions to places of interest around Canberra. Students will home-stay for the entire period in Canberra.

【Course objectives】

This course will allow students to improve their English skills, and increase their accuracy, fluency and confidence in expressing themselves in English. The English environment and conversation in and outside the classroom will also improve listening comprehension.

【Course schedule】

Daily schedules include morning classes and afternoon activities. Wednesday afternoons will be set aside for excursions to places of interest such as a farm, the National Gallery and Questacon, an interactive science museum.

【Assessment】

Assessment will be based on Canberra University's standards, which evaluate a student's ability to use English, their willingness to try to use English, and improvement in English ability.

【Textbooks】

No text. Worksheets will be given as necessary.

英国インターンシッププログラム

WOODMAN, Jo-Anne

【Course description】

This summer internship programme is designed to allow the students to experience studying, living, and working in England. The course will involve two weeks of English lessons, followed by two weeks work-experience. The English lessons will emphasize the specific language and communication skills needed in a British work environment. The internship placement will be decided after considering the preferences and language ability of each student.

【Course objectives】

This is a unique opportunity for ASU students...they will have English lessons, a home-stay, a multitude of extra-curricular activities, PLUS the chance to acquire knowledge and experience of British corporate culture. Consequently, the students should be better equipped to make informed career decisions.

In addition, potential employers will appreciate the internship experience has helped to broaden their perspective, increased their self confidence, and improved their ability to work and communicate in English.

【Course schedule】

The programme is scheduled to include:
Lessons: - English for work/General English/British Culture
Internship - At least 48 hours of work-experience
Trips / activities (often including other International Students)
- London, Canterbury, Cambridge, Bluewater, beach BBQ, ice-skating, karaoke evening(with hostparents), luncheon(with Internship Supervisors)

【Assessment】

Students will be required to attend all the orientation sessions prior to departure, in addition to fulfilling the lesson and work requirements deemed appropriate by the ASU Programme Co-ordinator.

米国NPOインターンシッププログラム

榎田勝利

【授業の概要】

米国ワシントンD.C.にあるCivil Society Consulting Group (CSCG) との共同プログラムとして、毎年2月中旬から約1ヵ月間実施する。米国の民間非営利組織 (NPO) でのインターンシップの体験を通して米国社会が抱える深刻な社会問題を理解し、その問題解決の方法を学ぶ。インターンシップの期間中は、一般の米国人の家庭でのホームステイをし、日常生活を体験する。インターンシップの受け入れ場所は、ワシントンD.C.および周辺地域で、学生の関心分野、英語力、専門的知識、経験等を考慮し、受け入れ団体を決める。

(活動可能な分野) 老人、児童・青少年、自然・環境、識字教育、障害者、家族、ホームレス、ジェンダー、文化・芸術、スポーツ、バイリンガル教育、外国人支援、国際交流・国際協力、博物館・美術館、図書館、その他。

(米国側協力団体) Civil Society Consulting Group (CSCG)

【授業の目標】

実践の場を通して、異文化コミュニケーション能力と情報技術能力の向上を図り、学生の将来のキャリア形成の一助ともなる機会を提供する。

【授業計画】

(事前研修)・インターンシップの活動分野の決定・日米のNPO、ボランティア団体等の現状学習・日本のNPO、ボランティア団体へのフィールドワーク・英会話のトレーニング・米国側ディレクターによる合宿オリエンテーション

(現地プログラム)・オリエンテーション合宿・基本的に月曜から金曜までの5日間のインターン・1日特別研修プログラム・インターンシップの体験報告書の作成と提出・評価会、修了式、さよならパーティ

(事後研修)・フォローアップ研修、報告書作成

【評価方法】

現地での評価(受け入れ団体、ホストファミリー等と報告書)を考慮し総合評価を行う。

【テキスト】

米国側提出の英文資料

【参考文献・資料】

研修時にその都度資料を提供する

中国語海外セミナー I (中国)

馮 富榮

【授業の概要】

この講義では、言語実践を通して、言葉を知り、相手を理解し、さらに自ら発信して、理解されることの楽しさを体験することができる。また南京師範大学に滞在して生活することで、中国に対する単なる傍観者・観察者ではなく、客観的な目をもった共感者になることを目指す。

1. 南京師範大学において4週間程度の中国語研修を行う。
- ◎ 月曜～金曜の午前中は8:00～11:30まで中国語の授業。日本語のできない先生が中国語で授業するが、分かるのが不思議。内容は会話表現中心。
- ◎ 午後は課外活動として南京市内見学(中山陵、南京博物館、玄武湖、夫子廟、南京大屠殺記念館など)を通して、南京の風俗、歴史を学び、日本語学科の学生との交流会などを通して中国人同世代の人の考え方や生活を学ぶ。
- ◎ 夜は予習復習に追われる。みんな教室に集まって、黙々と勉強。
- ◎ 土曜と日曜は言語実践の日。南京の街へ飛び出そう!
- ◎ 風光明媚な「瘦西湖」で名高い揚州への一日旅行。
2. 言語文化論Iの講義内容と呼応した5日間ほどの研修旅行。
3. 定員は20名程度。
4. 今年度の2月中旬から3月中旬にかけて実地する。
5. 修了者に2単位を認定する。

【授業の目標】

研修に参加することによって、授業に使われている中国語を聞いて分かること、買い物に使う会話や中国人との普通の会話がマスターすること、並びに研修から帰って2ヵ月後に学内で実施するHSK基礎試験の3級を取ることを目標とする。

【授業計画】

後期開講科目であるが、履修登録を必要とせず、参加したことによって単位が取得できる。9月下旬頃、参加募集を掲示に出し、10月中旬頃に参加者を決定する。その後、説明会を2回ほど、オリエンテーションを1回実施する。詳しくは国際交流センターの掲示を見る。2月中旬に出発し、3月中旬に帰国する。費用は25万程度。

【評価方法】

引率者は平常点で評価する。

【テキスト】

南京師範大学の研修授業の担当先生が決めるテキストを使用する。

【参考文献・資料】

適宜に指示する

韓国・朝鮮語海外セミナー I (韓国)

キム ソヨン

【授業の概要】

韓国語の学習と韓国文化の体験、そして韓国の大学生との交流を目的に設けられた研修です。韓国屈指の名門、ソウルの梨花女子大において実施されます。梨大(イデ)の言語教育院が主催する「韓国語短期過程」に合流する形で韓国語の授業、韓国の文化と社会を理解し体験できるための韓国文化の各講座、韓国の庶民生活がじかに体験できる2泊3日におよぶホームステイ、そしてこの国際時代の未来をともに生きる韓国の若者と一緒に語りあい、活動しあえる日韓学生共同プログラムなどが正規のメイン企画です。その他、ソウル随一の学生街、おしゃれ街として知られる新村での一夏の生活もこの研修の大きな魅力の一つです。

期間：夏期休暇の8月中の3～4週間

内容：

1. 韓国語研修
 - a. 梨大(イデ)の言語教育院が主催する「韓国語短期過程」に合流
 - b. 実生活での意思疎通のための集中的韓国語の学習
 - c. 入門の1段階から最上級の6段階に分けられたクラス編成
 - d. 専門教授陣による自分の能力に見合ったクラスでの研修
2. 韓国文化研修
 - a. 芝居鑑賞
 - b. 板門店の訪問
 - c. ホームステイ(2泊3日)
3. 日韓学生共同プログラム
 - a. 毎週1回程度の頻度
 - b. テーマごとに、韓日の大学生が協同参加で活動する大学生との交流行事
 - c. テーマ、「韓国と日本の大学生活を語る」、「地域探訪(文化財調査)」、「韓国の民俗と礼節」など
4. その他の課外活動

【授業の目標】

韓国に滞在しながら実生活に必要な意思疎通のための韓国語(サブバイバル韓国語)を身に付け、梨大言語教育院で韓国語の実力を向上させるとともに、韓国文化研修やホームステイ、韓国の大学生との交流行事等を通して、韓国の文化や諸事情に関する知識や理解を深める。

【授業計画】

- 4～5月：ガイダンス、参加者の募集および決定
- 6～7月：数回の事前研修
- 8月：現地研修
- 9～11月：事後研修および報告書のまとめ

【評価方法】

現地教員、プログラムの関連スタッフ、および引率教員の総合評価による。

【テキスト】

現地研修の韓国語教材「Pathfinder in Korean1,2,3,4,5」(梨花女子大学校出版部) 中国語他は特になし

Get together and Talk I

HARRIS, Richard S.

【Course description】

“One World Cultural Exchange” Get Together and Talk I seminar, 2009

<Course outline>

Students are provided with ample opportunities to improve their English communication skills through dialog with international students. All lectures and activities will be conducted in English. This 2-credit intensive English course is offered to all departments

Students must be available for the full length of the program and they must be motivated to improve their speaking skills in English while actively participating in all aspects of the program.

Course size is limited to 30 students.

【Course objectives】

Course objective is to participate in a cultural exchange with people from other parts of the world. Learn about international societies from native people from Asia Africa, and Europe. Your guide through this lecture Series is Richard S. Harris an American who has been teaching in Japan for over 21 years.

【Course schedule】

<Class activities and assignments>

- 1) International students give presentations on their cultures and participate in Group discussions.
- 2) Japanese students will be required to do two short written assignments about culture, one is pre seminar survey and the other is post seminar assignment.

【Assessment】

Course Assessment

60% of grade will be based on course participation.

40% of grade will be based on assessment of written assignments

【Textbooks】

not required

Get together and Talk II

ARNOLD, Brent C.

【Course description】

対話力養成モジュールの1つとして、学生同士の意見交換を活発に行うことで、説得力のある議論を口頭で展開する方法を、実際の経験を通して学ぶことを目標とします。

Get together and Talk IIでは、本学学生同士の意見交換のみならず、インターネットのプロトコル接続によるビデオコンファレンス機能(アップルコンピュータ社のiChat)を利用して、キャンベラ大学等の学生と意見交換を行います。

さまざまなテーマに基づいて、キャンベラ大学等の学生と意見を交換することで、英語運用力を高めるのみならず、日本語と英語の違い、日本とオーストラリアの文化・考え方の違いなどさまざまな違いを発見することが期待されます。

【Course objectives】

There are three main objectives.

1. To allow students to converse with native speakers, helping the students' listening and speaking fluency skills.
2. Discuss topics of interest with people of a similar age who live in a different country.
3. Listening to native English speakers speaking in Japanese will help students understand their own speaking difficulties and increase their awareness and confidence.

【Course schedule】

This lesson will be held on Tuesdays over 2nd and 3rd periods, 10:50 - 2:50, Wednesdays 4th and 5th Periods 3:00-6:10pm and Thursdays 3rd and 4th Periods 1:20-4:30pm.

During this time there will be 4 time periods, 1. Preparation, 2. Chat, 3. Review, and 4. Lunch/or break! Due to the time difference between Japan and Australia it may be necessary to have a flexible lunch period.

Time Will be used for real time chat with Australian University students. Topics for discussion will differ week to week. Some example topics are listed below.

1. Death penalty
2. The article no.9 of Japanese constitution
3. Marriage between the same sex couple
4. Should we accept more refugees?

【Assessment】

Assessment will be based on
50% Topic preparation
50% Participation

【Textbooks】

No text

【Reference】

<http://www.apple.com/support/isight/>

コミュニティ・サービスラーニング IA (社会貢献実習)

小島祥美

【授業の概要】

私たちが暮らす地域(コミュニティ)には、多様なニーズに対応した地域活動(サービス)が展開されています。本講義では、受講生全員が地域(学外)における実践を通じて、地域社会の一員としての自覚と能力を育成していきます。

具体的な実践活動としてIAでは、地域で活躍するボランティア団体や行政などと協働しながら、EXPOエコマネーを活用した環境活動、ボランティア啓発活動などの企画を行いながら、実践へ繋げていきます。

【授業の目標】

受講生全員が地域に貢献しつつ地域活動に参加し、社会への参画体験を積むことによって、自主的に考え行動する力や責任感、判断力などを養い、健全な社会構成員に求められる資質や能力を育てることを目標とする。

【授業計画】

1. オリエンテーション
(本講義の目的とスケジュール、ラーニングI～IIIの内容等の説明)
2. ラーニングI
 - 1) 地域活動とは?
 - 2) 地域活動の意義とその役割
 - 3) 地域活動参加にあたっての心構え
 - 4) 参加学習と各自の専攻との関連
3. ラーニングII
地域活動参加学習(活動期間は、内容により異なる)
4. ラーニングIII
活動を振り返りながら参加学習と各自の専攻との関連を考えます。

【評価方法】

出席状況、各課題(レポート、発表)により、「合」「否」として評価する。なお、ラーニングI・IIIへの参加(出席)、およびラーニングIIでの所定期間の活動参加を行った者について、単位を認定する。

【テキスト】

適宜、参考文献の紹介、参考資料やプリントを配布する。

【参考文献・資料】

ボランティア・NPO用語事典(社会福祉法人大阪ボランティア協会編集、中央法規出版)

コミュニティ・サービスラーニング IB (社会貢献実習)

小島祥美

【授業の概要】

私たちが暮らす地域(コミュニティ)には、多様なニーズに対応した地域活動(サービス)が展開されています。本講義では、受講生全員が実践を通じて、地域社会の一員としての自覚と能力を育成していきます。
コミュニティ・サービスラーニング IBでは、IAでの企画・運営を受けて、地域で活躍するボランティア団体や行政等と協働しながらEXPOエコマナーを活用した環境活動の他、ボランティア啓発活動などの具体的な運営を行います。

【授業の目標】

受講生全員が地域に貢献しつつ地域活動に参加し、社会への参画体験を積むことによって、自主的に考え行動する力や責任感、判断力などを養い、健全な社会構成員に求められる資質や能力を育てることを目標とする。

【授業計画】

1. オリエンテーション
(本講義の目的とスケジュール、ラーニングI~IIIの内容等の説明)
2. ラーニングI
 - 1) 地域活動とは?
 - 2) 地域活動の意義とその役割
 - 3) 地域活動参加にあたっての心構え
 - 4) 参加学習と各自の専攻との関連
3. ラーニングII
地域活動参加学習(活動期間等は内容により異なります)
4. ラーニングIII
活動を振り返りながら参加学習と各自の専攻との関連を考えます。

【評価方法】

出席状況、各課題により、「合」「否」として評価する。なお、ラーニングI・IIへの参加(出席)、およびラーニングIIでの所定期間の活動参加を行った者について、単位を認定する。

【テキスト】

適宜、参考文献の紹介、参考資料やプリントを配布する。

【参考文献・資料】

参考文献: ボランティア・NPO用語事典(社会福祉法人大阪ボランティア協会編集、中央法規出版)

コミュニティ・サービスラーニング IIIA (地域メディア実習)

小川明子 小島祥美

【授業の概要】

さまざまな産業の労働者として、日本にも多くの外国人が暮らすようになりました。しかし、私たちは、買い物や交通機関などで、彼らと日常的に顔を合わせながら、その生活がどのようなものか、よく理解できていません。そして残念ながら、こうした文化や思いへの無理解や行き違いが、ときに地域社会において問題化したりします。
・この演習では、地域において、その地域に暮らす住民たちと在住外国人が、よりよく互いを理解するためのお手伝いをします。具体的には、外国人(主に、ブラジル、フィリピン)の中高生たちが、普段の暮らしのなかで伝えたいことを写真や動画を撮影し、それをケーブルテレビやウェブサイトなどの地域のメディアで表現することでより多くの人びとに視聴してもらおう現場実践型プログラム、そのお手伝いです。
・この演習では、自分たちがそれぞれの学部や専攻において、これまでの授業のなかで学んだことを積極的に生かして欲しいと思います。(たとえば、語学、映像編集、異文化コミュニケーション、アーカイビングなど)
・この実習は昨年に続き2年目です。すべては参加者の皆さんのやる気次第ですが、きっと思い出に残る実習になると思います。このプロジェクトを面白いと思い、夏休みの一週間をそれにあててみようとする積極的な学生さんぜひ集まってほしいと思っています。

【授業の目標】

- 1) 日本の地域における外国人をめぐる状況を把握する。
- 2) 地域におけるメディアやコミュニケーションの重要性、可能性について考える。
- 3) 大学での学習と、地域の現場との往復を通じて、実践型参加型の学習のありかたについて考える。
- 4) 参加者間のコミュニケーションを通じて、自らプロジェクトを立案し、遂行する能力を身につける。

【授業計画】

- プレセミナー
プレ1日目 4月(場所、日程等、詳細は学生課横CCC掲示板にて提示)
授業内容詳細の提示、サービス・ラーニング準備
プレ2日目 7月(場所、日程等、詳細はCCC掲示板にて提示)
事前調査発表
- 8月集中講義日程(場所、日程等、詳細は学生課横CCC掲示板を確認のこと)
メディアプレキミンググループ分け
1日目 アイスブレイク(長久手キャンパス)
メディア技術研修(長久手キャンパス)
2日目 参加学生作品制作
3日目 現地ワークショップ1日目
4日目 現地ワークショップ2日目
- 振り返り
9月または10月

【評価方法】

出席、授業態度/参加意欲、授業をめぐるレポートなどで総合的に評価する。

【テキスト】

・「在日外国人一法の壁、心の溝」岩波新書 田中 宏(著)
・「日本の中の外国人学校」明石書店 月刊「イオ」編集部(編集)
・「メディア・ワークショップ」東京大学出版会(2008年出版予定)
・「メディア・プラクティス」セリカ書房

【参考文献・資料】

適宜指定する

コミュニティ・サービスラーニング IIA (企業のCSR活動)

小林三太郎

【授業の概要】

現代社会では積極的にCSR活動に取り組む企業が増加している。
また、企業の不祥事が相次ぐ中、CSR活動の重要性が高まっている。
本講義では、受講生が特定企業におけるCSR活動の企画立案に参加し、プレゼンテーションを行なう。学内の講義と学外での実践を通してCSR活動の重要性を習得する。

【授業の目標】

授業前半でCSR活動の基本的知識の習得を目指し、授業後半では、前半で養った知識を活かし学外で発表をする。講義と学外活動を通してプロジェクトの企画・提案を創出するプロセスを把握し、必要な能力を養うことを目標とする。

【授業計画】

- 1 ガイダンス
- 2 CSR活動とは
- 3 企業のCSR活動(事例報告)
- 4 CSRに関する調査活動
- 5 CSR活動の企画立案
- 6 プレゼンテーション
- 7 総括

【評価方法】

出席状況と授業中の態度による。

【テキスト】

必要に応じて資料を配布。

【参考文献・資料】

授業中に適宜紹介。

地域活動総合演習 IA

小林三太郎

【授業の概要】

現代社会において医療を取り巻く環境は激しく変化している。
本講では、医療制度や医療現場の問題を様々な視点から学ぶ。
また、病院施設の現場見学や老人保健施設でレクリエーションの企画・発表を行い、地域における医療機関のあるべき姿を考察する。

【授業の目標】

現在の医療に関する基本的な問題を学習する。
また、学外活動やグループワークを通して、学生の課題発見・探求能力の向上を目指す。

【授業計画】

- 1 ガイダンス
- 2 医療を取り巻く環境について
- 3 現代の医療の問題
- 4 病院見学
- 5 レクリエーションの企画・発表
- 6 グループワーク

【評価方法】

出席と授業態度の評価による。

【テキスト】

未定

【参考文献・資料】

授業の中で適宜紹介する。

地域活動総合演習 IIA

小島祥美

【授業の概要】

日本社会は急激に多民族多文化社会化が進んでいます。特に私たちが暮らす愛知県は、ブラジル、ペルーなどを中心とした中南米出身の外国人住民の占める比率が全国で最も高い地域です。このような現状から、外国人住民と共に暮らす地域づくりは、今後ますます重要な課題になると考えられます。本演習では「多様な文化や背景を持つ外国人住民との共生社会」という具体的なテーマに関する実践を通じて、地域社会に対する興味、関心、問題意識という力を養っていきます。

本演習テーマに対し、主体的かつ積極的に取り組む受講生を歓迎します。

【授業の目標】

地域に暮らす外国人コミュニティでのフィールドワーク、ボランティア活動を通じ、地域に暮らす外国人住民と共生をめざした地域づくりに必要な視点および事業企画・運営能力を養います。

【授業計画】

本演習では、まず学生一人ひとりが地域社会にある課題を発見し、課題解決策を考える力を培うことを目的とした課題探求型講義を行います。特に、「行政とまちづくり」「外国人コミュニティ」「地域住民とボランティア活動」などの多角的視点から、地域社会を社会的に見る方法を学習します。

また実際に外国人住民が多く暮らす地域へ一緒に出かけ、地域住民と外国人住民との共生社会をめざした行政やNGO/NPOなどの取り組みについてフィールドワークを行い、実践方法について学習していきます。

これらの学習を通じ、各受講生が事業企画を行い、IBの実践的な活動運営まで発展させていきます。

なお、具体的な活動運営内容は、公立学校における外国人児童生徒の学習支援、ブラジル政府認可校におけるブラジル人の子どもたちを対象にした日本語学習支援や日本文化紹介などを予定しています。

【評価方法】

出席状況、授業内のディスカッションへの参加、レポート等を総合的に判断して評価します。

【テキスト】

適宜、参考文献の紹介、参考資料やプリントを配布します。

【参考文献・資料】

新在日外国人（田中宏著、岩波新書）
日本の中の外国人学校（月刊「イオ」編集部編、明石書店）

障がい者支援ボランティア入門

石黒文字

【授業の概要】

大学で学ぶ学生の中には、視覚障害、聴覚障害、肢体障害などにより制限を受けているために、授業や学生生活においてノートテイク、手話通訳等の授業支援を必要とする人たちがいる。そこで、本授業では、これら障害のある人についての基本的な理解と初歩的な支援技術を学び、障害のある人への学生支援ボランティア活動の活性化と充実及び共に学ぶ場を作り出していくことをめざすことを目的とする。

【授業の目標】

- (1) 障害学生支援に関心をもち、障害のある人のニーズについて学ぶ。
- (2) 障害のある人への支援技術を身に付け、共に学ぶ実践を実行する。
- (3) 授業で学んだ内容を実際の支援ボランティア活動に結びつけ、共に学ぶ場を作っていく。

【授業計画】

1. 授業のガイダンス
2. 現代社会と障害のある人を取り巻く環境
3. 肢体に障害がある人の理解と支援方法
 - (1) 肢体障害者の理解
 - (2) 肢体障害者の支援方法（生活介護）
4. 視覚障害者の理解と支援方法
 - (1) 視覚障害者の理解
 - (2) 視覚障害者の支援方法（点字、移動問題、授業の解説）
5. 聴覚障害者の理解と支援方法
 - (1) 聴覚障害者の理解
 - (2) 聴覚障害者の支援方法（手話通訳・ノートテイク）
6. 障害学生支援ボランティア活動の実践
7. 愛知淑徳大学における支援のシステム
8. 共に生きる社会を目指して

【評価方法】

1. 出席を評価の中心とする。
2. ボランティアの体験レポート
3. 最終レポートの提出

【テキスト】

毎回の講師が指定する資料やレジュメがテキストとなる

地域活動総合演習 IIB

小島祥美

【授業の概要】

日本社会は急激に多民族多文化社会化が進んでいます。特に私たちが暮らす愛知県は、ブラジル、ペルーなどを中心とした中南米出身の外国人住民の占める比率が全国で最も高い地域です。このような現状から、外国人住民と共に暮らす地域づくりは、今後ますます重要な課題になると考えられます。

本演習では「多様な文化や背景を持つ外国人住民との共生社会」という具体的なテーマに関する実践を通じて、地域社会に対する興味、関心、問題意識という力を養っていきます。

本演習テーマに対し、主体的かつ積極的に取り組む受講生を歓迎します。

【授業の目標】

地域に暮らす外国人コミュニティでのフィールドワーク、ボランティア活動を通じ、地域に暮らす外国人住民と共生をめざした地域づくりに必要な視点および事業企画・運営能力を養います。

【授業計画】

本演習では、まず学生一人ひとりが地域社会にある課題を発見し、課題解決策を考える力を培うことを目的とした課題探求型講義を行います。特に、「行政とまちづくり」「外国人コミュニティ」「地域住民とボランティア活動」などの多角的視点から、地域社会を社会的に見る方法を学習します。

また実際に外国人住民が多く暮らす地域へ一緒に出かけ、地域住民と外国人住民との共生社会をめざした行政やNGO/NPOなどの取り組みについてフィールドワークを行い、実践方法について学習していきます。

これらIAの学習を通じ、実践的な活動運営を行います。なお具体的な活動運営内容は、公立学校における外国人児童生徒の学習支援、ブラジル政府認可校におけるブラジル人の子どもたちを対象にした日本語学習支援や日本文化紹介などを予定しています。

【評価方法】

出席状況、授業内のディスカッションへの参加、レポート等を総合的に判断して評価します。

【テキスト】

適宜、参考文献の紹介、参考資料やプリントを配布します。

【参考文献・資料】

新在日外国人（田中宏著、岩波新書）、日本の中の外国人学校（月刊「イオ」編集部編、明石書店）

入門ボランティア

小島祥美

【授業の概要】

1997年11月の国際連合総会において、日本の提案に基づき122カ国の共同提唱国を得て、「2001年ボランティア国際年(International Year of Volunteers)」とすることを宣言する」という決議が採択されました。1995年の阪神・淡路大震災以後、日本国内においてはボランティア活動に対する関心と理解が高まり、各地に多種多様なボランティア活動が展開されています。本講義では、ボランティア活動についての理解と認識を深め、地域での実践事例を通じ、「ボランティア活動の魅力」について学びます。なお、地域で活躍するボランティア活動実践者をゲストスピーカーとしてお招きする他、受講生全員でボランティアを体験できる場も設定する予定です。

【授業の目標】

ボランティア活動の「魅力」を学び、ボランティア活動の「楽しさ」を知り、実践活動への「参加」へ繋げることを目指します。

【授業計画】

1. オリエンテーション
2. ボランティア活動に参加することの意義を考える
3. 基本的な用語とキーワードを学ぶ
- 4～8. 地域で活躍するボランティア活動から学ぼう
- 9～11. 企業の社会貢献とは？
 - ※企業の社会貢献事業を学ぶ場として学外による活動を予定しています
12. 行政とボランティア団体とのコラボレーションとは？
13. ボランティア団体の抱える課題とは？
14. 地域にあるボランティア・市民活動推進機関とは？
15. 総括

【評価方法】

毎回出席確認を兼ねた感想文の他、授業態度、レポート課題により、総合的に評価します。

【テキスト】

適宜、参考文献の紹介、参考資料やプリントを配布します。

【参考文献・資料】

ボランティア・NPO用語事典（社会福祉法人大阪ボランティア協会編集、中央法規出版）

入門ボランティア

橋本吉広

【授業の概要】

自分自身の周りにある壁を破って、ボランティアの世界に入っていくことを「入門」と位置付けてみます。ボランティア活動の実際を紹介することで、そこにある問題を自分の力で発見し、どのような活動につなげていったらいいか、ボランティア発想を鍛える自問型授業とします。

【授業の目標】

ボランティアの現場を取り巻く状況に視点をあて、ボランティアとは何か、なぜボランティアが必要とされているかなどを考えながら、ボランティアの世界に踏み出す心構えと作法を身につけることをめざします。

【授業計画】

- 1 ようこそ ボランティアの世界へ セカンド・ハーベストの実践
- 2 生死と関わるボランティア- 国境なき医師団の活動
- 3-4 住まうこととボランティア- 高齢期の住まい・宅老所の実践
- 5-6 ワーキングプアの生活支援・ホームレスの自立支援
- 7-8 自然災害と向き合うボランティア- 災害救援活動 / 災害復興・まちづくり
- 9 ボランティアの現代 (中間まとめ)
- 10-11 自然環境と向き合うボランティア- 霞ヶ浦での自然再生 / 風力発電への取り組み
- 12 ボランティアとNPO・市民事業～ボランティアとして働く
- 13 ボランティア活動のマネジメント 資金調達の世界/ボランティア組織のガバナンス
- 14 さあボランティアの世界へ
- 15 試験

【評価方法】

授業にもとづくレポート提出を数回求め、その提出状況を評価の基礎に置きます (25%程度)。期末試験を実施し、学習の成果を確認します (75%程度)。

【テキスト】

授業毎に資料を配布します。

【参考文献・資料】

『ボランティア学を学ぶ人のために』(内海成治他編 世界思想社)

インターンシップ概論

上原 衛 小林三太郎 石田寅生

【授業の概要】

学生が在学中に自分のキャリアパスを考え、職業観や就業意識の向上を図ることを目的とする。個々の学生が最適の職業と人生を模索し、発見していく過程を理解させ、選択したキャリアと人生に必要な学業を修める過程で、インターンシップを通して人生における職業の意味を模索する方法を学ぶ。この講義は、インターンシップ研修を受講するための導入講義として位置づける。

【授業の目標】

講義を通して、自らのキャリアプランについて考え、目標を設定する。そして、その目標に向かってどのように努力していけばよいかについて理解し、その目標に向けた第一歩を踏み出すこと。

【授業計画】

1. ガイダンス (インターンシップについて、心構え等)
2. 職業と人生について
3. 各種業種について (学生各自の調査と発表も実施)
4. 日本の企業経営について
5. NPO/NGO/ボランティア活動について
6. ビジネスマナー講座
7. キャリアプランの作成
8. インターンシップ研修後の報告レポートの作成と成果報告について

【評価方法】

出席状況、課題・レポート、期末テストの成績により総合的に評価する。

【テキスト】

随時資料を配布する。

インターンシップ研修

上原 衛 小林三太郎

【授業の概要】

学生が在学中に企業や公共機関、NPOなどにおける就業経験を行うことにより、自分のキャリアパスを考え、職業観や就業意識の向上を図ることを目的とする。個々の学生が最適の職業と人生を模索し、発見していく過程を理解させ、選択したキャリアと人生に必要な学業を修める過程で、インターンシップを通して人生における職業の意味を模索する方法を学ぶ。この講義は、インターンシップ概論を修得済または同時履修中の学生のみ履修可とする。

【授業の目標】

研修を通して、自らのキャリアプランについて考え、目標を設定する。そして、その目標に向かってどのように努力していけばよいかについて理解し、その目標に向けた第一歩を踏み出すこと。

【授業計画】

- 夏期または春期に1～2週間程度の期間、企業や公共機関、NPOなどでインターンシップ研修を実施し、実社会を体験する。その後、研修報告と成果発表を行い、研修の総括を行う。
1. ガイダンス
 2. 夏期または春期に企業や公共機関、NPOなどでインターンシップ研修を受ける
 3. インターンシップ研修後の成果報告会における発表
 4. 報告レポートの作成と提出

【評価方法】

企業での実地研修状況、成果報告書の作成と発表の3つにより総合的に評価する。成績は「合」「否」により評価する。

【テキスト】

随時資料を配布する。

キャリアデザイン

小林三太郎

【授業の概要】

現代の社会情勢は大きく変化してきている。その状況下で学生が早い段階に大学で学ぶことの意義を認識しキャリア形成のために視野を拡大することが重要となる。

授業前半は社会で活躍している方々に現在までの「人生の経験談、キャリア形成について、社会人とは」について講演していただく。授業後半は毎回ディスカッションを取り入れ、入学後の初期段階から「大学で何を学ぶか」、社会で「働くとは」について考える。また、学生自らのキャリア形成を考えることを目的とする。

【授業の目標】

様々な人の人生観や経験談を参考にディスカッションを行い、自らのキャリア形成を考える機会とし、学生自身の視野を拡大することを目標とする。

【授業計画】

1. オリエンテーション
2. キャリア概論①
3. キャリア概論②
4. 人生とキャリアについて (全6回)
5. グループディスカッション (全4回)
6. 考察及びレポート

【評価方法】

出席とレポートにより評価する。

【テキスト】

配布プリント

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。